

HP Operations Manager

Java GUI オペレータガイド

ソフトウェアバージョン: **9.10**

UNIX および Linux オペレーティングシステム用



i n v e n t

製造パート番号: なし

2010年6月

© Copyright 2002-2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

法定通知

ご注意

当社は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかねます。当社は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承ください。

当社製品に適用される特殊保証条件のコピーは、地域の販売およびサービスオフィスにお問い合わせください。

Restricted Rights Legend.

Use, duplication or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c) (1) (ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.227-7013.

Hewlett-Packard Company
United States of America

Rights for non-DOD U.S. Government Departments and Agencies are as set forth in FAR 52.227-19(c)(1,2).

著作権について

©Copyright 2005-2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の商標です。

Intel®, Itanium®, Pentium® はアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションの登録商標です。

Java™ およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

Microsoft®, Windows® は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle® は、米国オラクルおよびその系列会社の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

1. 日常作業

この章では	40
この章の対象読者	40
この章の内容	40
HPOM Java GUI 概要	42
ショートカットバー	45
オブジェクトペイン	48
ノード	50
ノードレイアウトグループ	50
ノードカラー	51
メッセージグループ	52
メッセージグループの色	53
メッセージグループの構成	53
ツール	54
フィルター設定	55
URL ショートカット	58
ワークスペースペイン	59
メッセージダッシュボードワークスペース	61
サービスワークスペース	62
診断ダッシュボードワークスペース	62
修復アクションワークスペース	63
オンラインヘルプワークスペース	64
現在のワークスペースの更新	64
ブラウザペイン	68
メッセージブラウザ	70
メッセージの色	71
メッセージ	72
メッセージブラウザのフィルター処理	73
フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ	75
フィルター処理済履歴メッセージブラウザ	77
フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザ	79
統合 Web ブラウザ	80
ステータスバー	82
メニューバー	83
ツールバー	84
サービスに移動	84
ポジションコントロール	85
ポップアップメニュー	86

目次

ショートカットバーのポップアップメニュー	87
オブジェクトペインのポップアップメニュー	88
ワークスペースペインのポップアップメニュー	89
ブラウザペインのポップアップメニュー	91
取り外したウィンドウ	92
HPOM GUI 起動メッセージの作成	94
ドラッグアンドドロップ操作	95
Java GUI 内でのドラッグアンドドロップ操作	95
ソースと標準ドラッグ操作	96
ターゲットとドロップ関連のアクション	97
Java GUI と他のアプリケーションとの間のドラッグアンドドロップ操作	102
ドラッグモード	103
特殊モードが必要なケース	103
Cockpit View	106
メッセージフィルター	107
メッセージフィルターグループ	109
メッセージフィルターの要件	109
状態ゲージ	110
フリーテキスト領域	111
イメージ	111
Cockpit View の起動	112
Cockpit View 起動オプションのカスタマイズ	113
セキュリティと認証	115
ファイアウォール環境	115
障害の解決プロセス	116
オペレータ環境での障害の検出	118
環境のモニター	119
オブジェクトペインの検索	120
メッセージイベントの通知方法	121
メッセージをメッセージブラウザに表示	121
メッセージの効果的なブラウズ	122
メッセージブラウザ内のメッセージの検索	122
ブラウザのカラム表示のカスタマイズ	124
メッセージ重要度による色付け	127
ショートカットバーとオブジェクトペインの色付け	127
ブラウザペインの色付け	129

オペレータ環境での障害の調査	130
メッセージブラウザでの障害の調査	131
メッセージ属性の調査	132
メッセージ属性の変更	133
オリジナルメッセージテキストの確認	134
カスタムメッセージ属性	135
カスタムメッセージ属性の表示	136
ワークスペースペインでの障害の調査	137
メッセージダッシュボードでのメッセージの重要度表示	137
現況グラフ	138
傾向グラフ	140
サービスワークスペースを使って影響を受ける Service Navigator サービスの検索	141
診断ダッシュボードでの HP Software 製品の使用	141
メッセージ履歴の調査	142
ペンディングメッセージの調査	144
オペレータ環境での障害の解決	145
メッセージ所有権	147
所有権モード	147
所有権表示モード	148
修復アクションワークスペースでのアクション結果の評価	149
自動アクションの確認と再実行	150
自動アクションの確認	150
自動アクションの再実行	150
自動アクションの注釈の確認	151
自動受諾の設定	151
オペレータ起動アクションの起動と確認	151
オペレータ起動アクションの起動	151
オペレータ起動アクションの確認	151
オペレータ起動アクションの注釈の確認	152
オペレータ指示を読む	153
ツールの起動とカスタマイズ	154
ツールの起動	154
ツールのカスタマイズ	156
他の Java アプリケーションからの Java GUI の操作	157
HPOM 変数の追加	159
ブロードキャストコマンド	160
ターミナルアクセス	162
コマンド行ツールへのアクセス	162

目次

オペレータ環境での解決方法のドキュメント化.....	163
メッセージの注釈.....	163
注釈.....	163
注釈の追加.....	164
注釈の確認.....	165
メッセージの印刷.....	165
メッセージの受諾.....	166
受諾.....	166
自動受諾(管理者による設定).....	167
自動受諾(HPOMによる設定).....	167
受諾の確認.....	167
オペレータ環境のカスタマイズ.....	168
オペレータのパスワードの変更.....	169
デフォルト設定のロード.....	170
システムで指定されたオペレータ用デフォルト設定.....	171
HPOM 管理者指定のオペレータ用デフォルト設定.....	173
再表示周期の変更.....	177
コンソール設定の保存.....	177
Java GUI のロック & フィールドの変更.....	179
進捗状況ウィンドウのカスタマイズ.....	180
ポジションコントロールの表示/非表示.....	181
ペインとエリアの移動.....	182
ペインとエリアの表示/非表示.....	183
ショートカットバーのカスタマイズ.....	186
Web ブラウザの選択.....	186
ツールバーのカスタマイズ.....	187
ポップアップメニューのカスタマイズ.....	187
メッセージイベント通知のカスタマイズ.....	190
表示設定のカスタマイズ.....	191
一般的なフォントサイズのカスタマイズ.....	191
サービスグラフとマップのフォントサイズのカスタマイズ.....	191
HPOM 通信ステータスダイアログの非表示.....	191
メッセージブラウザフィルターの設定.....	192
メッセージブラウザフィルター設定の保存と再利用.....	195
オブジェクトペインへのメッセージブラウザフィルターの設定.....	197
メッセージブラウザフィルターにすぐにアクセス.....	197

メッセージ表示フィルターの設定	198
メッセージ表示フィルターに含まれるルールと条件	198
メッセージ表示フィルターの種類(クイック、簡単、詳細)	200
メッセージ表示フィルターの構文	205
メッセージ表示フィルターの保存	211
ブラウザペインに[メッセージブラウザ]タブを追加	213
メッセージ行全体のカラー表示	213
メッセージブラウザカラムのカスタマイズ	213
メッセージブラウザカラムの表示/非表示	215
カスタマイズしたメッセージブラウザレイアウトの保存	216
グローバルな Java GUI プロパティファイルの使用	217
セキュアな HTTPS 通信	218
HTTPS ベース Java GUI アーキテクチャ	219
セキュアな通信の確立	220
認証プロセス	221
証明書	223
認証モード	223

2. 日常作業を行う

HPOM で障害を検出する	226
モニター HPOM	227
メッセージノードを手動で表示	227
メッセージノードを自動で表示	228
オブジェクトペインの検索	228
メッセージイベント通知の表示	230
メッセージの表示	231
すべてのアクティブメッセージの表示	232
選択したメッセージの表示	232
アクティブメッセージの表示	233
履歴メッセージの表示	233
古いメッセージの表示	234
ペンディングメッセージの表示	236
HPOM で障害を調査する	238
メッセージブラウザでの障害の調査	238
メッセージをメッセージブラウザに表示	240
他のオペレータへの HPOM メッセージの送信	240
メッセージの詳細情報の確認	241
メッセージ属性の変更	242

目次

ワークスペースペインでの障害の調査	242
メッセージダッシュボードワークスペースでのメッセージの重要度の確認	243
[診断ダッシュボード] ワークスペースでのツールのモニター	243
メッセージ履歴の調査	244
履歴データベースにすぐにアクセスするには	244
詳細フィルターの指定	245
現在の表示の変更	245
ペンディングメッセージの調査	245
HPOM 障害を解決する	247
メッセージの所有	248
メッセージの所有解除	248
ペンディングメッセージのバッファ解除	249
自動アクションの確認	249
メッセージブラウザでの自動アクションの確認	250
メッセージのプロパティダイアログボックスでの自動アクションの確認	250
オペレータ起動アクションの確認	251
メッセージブラウザを使ったオペレータ起動アクションの確認	252
[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスを使ったオペレータ起動 アクションの確認	253
オペレータ指示へのアクセス	254
オペレータ割り当てツールの表示	254
ツールの起動	255
メニューバーからのツールの起動	256
オブジェクトペインからのツールの起動	257
メッセージブラウザからのツールの起動	259
ツールの起動属性のカスタマイズ	260
コマンドのブロードキャスト	263
HPOM で解決方法をドキュメント化する	264
メッセージの注釈付け	265
HPOM メッセージおよびアプリケーションの出力の印刷	266
メッセージの印刷	267
メッセージ詳細の印刷	268
アプリケーションの出力の印刷	269
[印刷] ダイアログボックスの例 (Microsoft Windows 用)	269
メッセージの受諾	270
選択したメッセージの受諾	271
表示しているすべてのメッセージの受諾	271

メッセージの受諾解除	272
情報メッセージの送信	273
HPOM のカスタマイズ	274
オペレータのパスワードの変更	276
デフォルト設定のロード	277
設定の再ロード	277
Java GUI の手動再表示	277
再表示周期のカスタマイズ	278
コンソール設定のカスタマイズ	279
Java GUI のロック & フィールドのカスタマイズ	281
進捗状況ダイアログボックスのカスタマイズ	281
移動可能ペインのカスタマイズ	282
ポジションコントロールの表示 / 非表示	283
ショートカットバーまたはオブジェクトペインの移動	283
ショートカットバーの表示 / 非表示	283
オブジェクトペインの表示 / 非表示	283
ショートカットバーのカスタマイズ	284
ショートカットバーへのオブジェクトペイン項目の追加	284
新規ショートカットの追加	284
ショートカットの変更	285
ショートカットの削除	286
ショートカットグループの追加	286
ショートカットグループの名前変更	286
ショートカットグループの削除	287
ショートカットバー上のアイコンサイズのカスタマイズ	287
ワークスペースペインのワークスペースのカスタマイズ	287
新規ワークスペースの作成	288
既存のワークスペースの変更	288
既存のワークスペースの削除	289
統合 Web ブラウザの変更	289
ポップアップメニューのカスタマイズ	290
カスタムポップアップメニューの有効化	290
カスタムポップアップメニューの無効化	291
ツールバーのカスタマイズ	292
メッセージイベントの通知方法の設定	293
フォントサイズのカスタマイズ	294
一般的なフォントサイズのカスタマイズ	294
サービスグラフとサービスマップのフォントサイズのカスタマイズ	294

目次

[HPOM 通信ステータス] ダイアログボックスのカスタマイズ	295
[HPOM 通信ステータス] ダイアログボックスの非表示	295
ウィンドウの取り外し	296
メイン Java GUI ウィンドウからのウィンドウの取り外し	296
取り外したウィンドウのメインウィンドウへの取り付け	296
取り外したウィンドウ内のメニューやツールバーの表示 / 非表示	297
メッセージブラウザ内のステータスの概要エリアの表示 / 非表示	297
メッセージブラウザ内の水平スクロールバーの表示 / 非表示	298
フィルター処理済メッセージブラウザの作成	299
メッセージブラウザの外部ノードの表示のオプション	300
ブラウザのフィルター設定を保存するには	300
フィルター処理済メッセージブラウザにアクセスするには	301
フィルター処理済メッセージブラウザの移動	303
メッセージブラウザをブラウザペインに移動するには	303
メッセージブラウザをワークスペースペインに移動するには	303
メッセージ表示フィルターの使用方法	303
メッセージブラウザのカラムに適用するクイックフィルターを作成する	304
簡単なメッセージ表示フィルターを作成する	305
詳細なメッセージ表示フィルターを作成する	307
テキスト表示を使用してメッセージ表示フィルターを作成する	310
名前付きメッセージ表示フィルターを保存する	312
保存したメッセージ表示フィルターを適用する	314
保存したメッセージ表示フィルターを編集する	315
メッセージブラウザカラムのフィルターを削除する	316
ブラウザのレイアウトを保存するには	318
フィルター処理していないメッセージブラウザの物理レイアウトを保存するには	318
フィルター処理済ブラウザの物理レイアウトを保存するには	319
フィルター処理済ブラウザのレイアウトを再ロードするには	321
ブラウザウィンドウのレイアウトを変更するには	321
表示するメッセージ数を変更するには	323
メッセージブラウザですべてのメッセージを表示するには	323
メッセージブラウザで最新メッセージだけを表示するには	323
メッセージブラウザ内のメッセージ数を変更するには	324
メッセージブラウザのカラー表示の設定をカスタマイズするには	325
セキュアな HTTPS ベース Java GUI 通信の設定	326
Java GUI クライアントに HTTPS ベース通信を設定する	327

コア機能のインストール	329
コア機能をインストールする	330
証明書の準備	331
サーバー認証モード用の証明書の準備	331
完全認証モード用の証明書の準備	332
ファイアウォールを経由する HTTPS ベース Java GUI 接続を設定する	334
ito_op コマンド行ツールを使ってプロキシサーバーを設定する	336
itoprc ファイルを使ってプロキシサーバーを設定する	336
[ログイン] ダイアログボックスでプロキシサーバーを設定する	337
Java GUI アプレット用のプロキシサーバーを設定する	338
コア機能を使ってプロキシサーバーを設定する	339

3. Service Navigator

この章では	342
HP Operations Service Navigator とは?	343
Service Navigator はどのような機能を持つか	345
影響を受けるサービスの分析	345
障害原因の分析	346
Service Navigator はどのように機能するか	348
サービス階層とは?	348
サービスのステータスとは?	351
ステータス伝達ルール	353
ステータス計算ルール	356
重み付け	358
サービス複数ステータス計算ビュー	364
サービスステータス計算ビューの設定	366
サービス グラフ/マップへのウォーターマークの設定	368
カスタマイズしたウォーターマークの表示/非表示	369
HPOM でメッセージをサービスにマップする方法	370
Service Navigator の GUI	372
サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ	373
サービスグラフ	373
サービスサブマップ	374
カスタムサービスマップ	377
サービスのラベル付け	378
サービスグラフとマップビューのカスタマイズ	380
サービスグラフおよびマップのズーム	380
サービスグラフおよびマップのクイックズーム	381

目次

デフォルトのズーム比率の設定	382
サービスグラフとマップのナビゲート	382
ナビゲーションパネルを使用したナビゲート	382
ツールバーからのナビゲート	384
サービスグラフでの選択	384
サービスグラフでのサービスの容易なスクロールと再配置	385
サービスグラフとマップのフォントサイズのカスタマイズ	386
サービスアイコンと重要度インジケータのサイズのカスタマイズ	388
サービスグラフレイアウトの保存	388
オンデマンドによるサービスのロード	389
ポップアップメニューによる階層レベルの展開表示例	391
サービスのログおよびレポート	394

4. Service Navigator で日常作業を行う

Service Navigator で障害を管理する	398
HPOM と Service Navigator で障害を検出する	400
サービスを表示する	401
オブジェクトペインでサービスを表示するには	401
カスタムマップでサービスを表示するには	401
サービス詳細を表示する	402
サービス詳細を表示するには	402
サービスに関連したメッセージを表示するには	403
複数のサービス階層からサービスを検索する	404
複数のサービス階層でサービスを検索する方法	404
HPOM と Service Navigator で障害を調査する	406
影響を受けるサービスを強調表示するには	406
障害原因を識別するには	407
影響を受けるサービスを識別するには	408
HPOM と Service Navigator で障害を解決する	409
サービスアクションを実行するには	409
サービスからツールを起動するには	411
HPOM と Service Navigator で解決方法をドキュメント化する	412
HPOM と Service Navigator をカスタマイズする	413

A. トラブルシューティング

一般的なトラブルシューティング	416
-----------------	-----

エラーメッセージのチェック.....	417
症状の分析.....	418
トラブルシューティング集.....	420
HPOM GUI が起動しない.....	421
HPOM ツールが起動しない.....	422
アクションが完了しない.....	423
正しくカラー表示されない.....	424
アプレットがワークスペースで起動しない.....	425
Service Navigator がサービスの定義を見つけられない.....	426
HTTPS Java GUI の終了時またはログオフ時にエラーメッセージが表示される ...	427

B. リファレンス

この付録では.....	430
キーボードショートカット.....	432
Java GUI のキーアクセラレータ.....	433
メニューバー項目の種類.....	435
[ファイル] メニュー.....	436
[編集] メニュー.....	439
[表示] メニュー.....	440
[アクション] メニュー.....	446
[ウィンドウ] メニュー.....	457
[ヘルプ] メニュー.....	458
ツールバーアイコンとドロップダウンリスト.....	459
ポップアップメニュー項目の種類.....	464
ツールバーのポップアップメニュー項目.....	465
ショートカットバーのポップアップメニュー項目.....	466
ショートカットバーのショートカットグループ用のポップアップメニュー.....	468
ショートカットバーのノードグループ内のポップアップメニュー.....	469
ショートカットバーのノードグループ内のサービス用ポップアップメニュー.....	470
ショートカットバーのノードグループ内のフィルター設定用ポップアップメニュー.....	472
ショートカットバーの URL ショートカットグループ内のポップアップメニュー.....	473
オブジェクトペインのポップアップメニュー項目.....	474
オブジェクトペインのグローバルオプション.....	475
オブジェクトペインのノード用ポップアップメニュー.....	477
オブジェクトペインのメッセージグループ用ポップアップメニュー.....	478
オブジェクトペインのツール用ポップアップメニュー.....	478
オブジェクトペインのサービス用ポップアップメニュー.....	479

目次

オブジェクトペインのフィルター設定用ポップアップメニュー.....	481
オブジェクトペインの URL ショートカット用ポップアップメニュー.....	484
ワークスペースペインのポップアップメニュー項目.....	485
ワークスペースタブのポップアップメニュー.....	486
ワークスペースペインのグラフ用ポップアップメニュー.....	487
ワークスペースペインのサービス用ポップアップメニュー.....	489
ワークスペースペインの URL 用ポップアップメニュー.....	492
ブラウザペインのポップアップメニュー項目.....	493
ブラウザペインのブラウザタブ用ポップアップメニュー.....	494
ブラウザペインのメッセージブラウザ用ポップアップメニュー.....	495
ブラウザペインのメッセージブラウザヘッダー用ポップアップメニュー.....	499
ブラウザペインのグラフ用ポップアップメニュー.....	502
ダイアログボックスの種類.....	504
[注釈の追加] ダイアログボックス.....	508
[新規グループの追加] ダイアログボックス.....	508
[新規 URL ショートカットの追加] ダイアログボックス.....	509
ブラウザペインのタブプロパティ.....	510
ブラウザ設定.....	511
[オペレータのパスワードの変更] ダイアログボックス.....	512
[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックス.....	513
[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスのグローバル オプション.....	513
[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスの [一般] タブ.....	514
[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスの [カスタム] タブ.....	514
[日付および時刻] ダイアログボックス.....	515
[現在の表示間隔の入力] ダイアログボックス.....	515
[データ保存期間の入力] ダイアログボックス.....	517
[ズーム間隔の入力] ダイアログボックス.....	517
[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス.....	518
[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスのグローバルオプション... ..	519
[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [一般] タブ.....	520
[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [シンボルとオブジェクト] タブ.....	522
[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [ペンディング詳細] タブ.....	523
[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [パラメーター一覧] タブ.. ..	524

[検索] ダイアログボックス	525
検索ボタン	526
基本検索オプション	527
詳細検索オプション	528
[フラグ] ダイアログボックス	529
[メッセージ表示フィルターのロード] ダイアログボックス	530
[メッセージのプロパティ] ダイアログボックス	531
[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスのグローバルオプション	533
[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [一般] タブ	534
[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [メッセージテキスト] タブ	534
[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [オリジナルメッセージ] タブ	534
[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [アクション] タブ	535
[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [指示] タブ	536
[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [注釈] タブ	536
[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [カスタム属性] タブ	537
[マップ済みサービス] タブ	537
[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックス	538
[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスのグローバルオプション	539
[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [簡単な表示] タブ	539
[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [詳細な表示] タブ	540
[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [テキスト表示] タブ	542
[注釈の変更] ダイアログボックス	542
[グループの変更] ダイアログボックス	543
[メッセージ属性の変更] ダイアログボックス	543
[ショートカットの変更] ダイアログボックス	545
[URL ショートカットの変更] ダイアログボックス	546
[表示設定] ダイアログボックス	547
[表示設定] ダイアログボックスの [一般] タブ	548
[表示設定] ダイアログボックスの [Web ブラウザ] タブ	550
[表示設定] ダイアログボックスの [イベント] タブ	551
[表示設定] ダイアログボックスの [サービス] タブ	552
[ブラウザ設定の名称変更] ダイアログボックス	555
[メッセージ表示フィルターの名称変更] ダイアログボックス	555
[ブラウザのフィルター設定の保存] ダイアログボックス	556
[メッセージ表示フィルターの保存] ダイアログボックス	556
[オペレータにメッセージを送信] ダイアログボックス	557
[サービスプロパティ] ダイアログボックス	559
[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [一般] タブ	561

目次

[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [アクション] タブ	561
[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [属性] タブ	561
[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [ステータス情報] タブ	562
[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [サービス マッピング] タブ	562
[サービスビュー] ダイアログボックス	563
[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログボックス	564
[Web ブラウザのプロパティ] ダイアログボックス	566
[ワークスペースのプロパティ] ダイアログボックス	567
[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード	569
メッセージブラウザヘッダー	572
メッセージ属性の種類	574
メッセージの色	575
メッセージフィールド	576
メッセージフラグ	581
HPOM 変数の種類	583
標準変数	583
メッセージ関連の変数	587
メッセージ関連の変数に対するパラメータ	587
メッセージに関連する変数の例	597
itopbrw ファイル	600
itopbrw ファイルの構文	601
itopbrw ファイルのパラメータ	601
ito_op 起動オプション	607
クライアント検証用の Java コンソールのバージョン	609
ito_op.bat オプション	609
タイムゾーンの指定	609
Java GUI レイアウト設定	610
クライアント検証用の Java コンソールのバージョン	610
itoprc リソースファイル	611

用語集

印刷履歴

マニュアルの印刷日およびパーツ番号はマニュアルの版を表しています。新版が印刷されると印刷日の変更されます。再印刷時に細かな改正が行われることがありますが、印刷日は変更されません。大幅な変更が行われるとマニュアルのパーツ番号が変更されます。

誤りの修正や製品の変更点を記載するために新版の発行前にマニュアルがアップデートされることがあります。更新版または最新版を確実に入手していただくためには、製品ごとのサポートサービスにご登録いただく必要があります。詳細は、**HP** 販売代理店までお問い合わせください。

初版：	2009 年 4 月
二版：	2009 年 6 月
三版：	2010 年 6 月

表記法

本書では、次の活字体の表記法が使用されています。

表 1 活字体の表記法

字体	説明	例
<i>Italic</i>	書名およびマニュアルのページ名	詳細は、『 <i>HPOM システム管理リファレンスガイド</i> 』および <i>opc(1M)</i> マンページを参照してください。
	強調	次の手順を実行する必要があります。
	コマンド入力時に使用する変数 (かぎっこ)	プロンプトで、 rlogin <username> を入力します。
	関数のパラメータ	<i>oper_name</i> パラメータは整数値を返します。
コンピュータ文字	コンピュータディスプレイのテキストおよび他の項目	次のシステムメッセージが表示されます。 Are you sure you want to remove current group?
	コマンド名	grep コマンドを使用します ...
	関数名	<i>opc_connect()</i> 関数を使用して接続します ...
	ファイルおよびディレクトリ名	<i>itooopc</i> ファイルを編集します ... <i>/opt/OV/bin/OpC/</i>
	プロセス名	<i>opcmona</i> が実行中かどうかチェックします。
コンピュータ文字、Bold、ゴシック	入力するテキスト	プロンプトで、 ls -l と入力します。

表 1 活字体の表記法（続き）

字体	説明	例
キーキャップ	キーボードキー	Return を押します。
	メニュー名の後にコロン(:)が記載されていることがあります。これは、ユーザーがそのメニューを選択した後、メニュー項目を選択することを示しています。項目の後に矢印(->)が記載されている場合、カスケードメニューが表示されます。	メニューバーから [アクション: フィルター処理 -> すべてのアクティブメッセージ] を選択します。
	ユーザーインターフェースのボタン	[OK] をクリックします。

ドキュメントの使用方法

HP Operations Manager (HPOM) では、製品を効果的に使用し、その使い方と概念を理解できるように、マニュアルとオンラインヘルプを用意しています。本項では、入手できる情報や情報の参照箇所を説明します。

電子メディアのマニュアル

すべてのマニュアルは、HPOM 製品 DVD のドキュメントディレクトリに Adobe Portable Document Format (PDF) の形式で入っています。

次の Web サイトからも全 HPOM 製品のマニュアルをダウンロードすることができます。ログイン認証が必要です。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

この Web サイトにある『*HPOM Software Release Notes (HPOM ソフトウェアリリースノート)*』の最新版を定期的に調べてください。このリリースノートは 2 ~ 3 ヶ月ごとにアップデートされ、サポート対象として追加された OS バージョンや最新のパッチなど、最新の情報が得られます。

さらに製品を限定したマニュアルも次の HPOM Web サーバーディレクトリから入手できます。

- 標準の接続

http://<management_server>:3443/ITO_DOC/<lang>/manuals/

- セキュアな接続

https://<management_server>:3444/ITO_DOC/<lang>/manuals/

<management_server>

HPOM 管理サーバーの完全なホスト名

<lang>

管理サーバーで設定されているシステム言語 (例、英語環境は C)

また、インストールの終了後は、HPOM 管理サーバーファイルシステムの次の場所から、選択した製品マニュアルを利用できます。

- HP Operations Manager:

`/opt/OV/www/htdocs/ito_doc/C/manuals`

- HP Event Correlation Services (ECS):

`/opt/OV/doc/ecs/C`

HPOM マニュアル

ここでは、HPOM (UNIX および Linux) 用の最も重要なマニュアルの概要を説明します。追加のドキュメントについては、23 ページの「電子メディアのマニュアル」のドキュメントを参照してください。25 ページの表 2 はマニュアルのリストです。対象となる読者、簡単な説明およびマニュアルの範囲と内容が記載されています。

表 2 HPOM マニュアル

マニュアル名	対象者	説明
<i>HPOM 管理サーバー インストールガイド</i>	管理者	管理サーバーに HPOM ソフトウェアをインストールし、初期設定を行う方法を説明します。このマニュアルは次の内容が記載されています。 <ul style="list-style-type: none">ソフトウェア、ハードウェアの必要条件ソフトウェアのインストール、削除手順設定のデフォルト
<i>HPOM コンセプトガイド</i>	管理者 オペレータ	HPOM を理解するために使用者を 2 つのタイプに分けて説明しています。オペレータの場合には HPOM の基本構造を理解できます。管理者の場合には、現在の環境で HPOM のセットアップと設定ができるようになります。
<i>HPOM システム管理 リファレンスガイド</i>	管理者	HPOM を管理対象ノードにインストールし、HPOM の管理とトラブルシューティングの方法を説明します。 また、HP Operations Service Navigator のインストール、構成、保守、トラブルシューティングの担当者向けの情報を提供しています。サービス管理の背景にある概念の概要も記述しています。
<i>HPOM HTTPS エージェント コンセプトと設定ガイド</i>	管理者 オペレータ	HTTPS ベース管理対象ノードの各プラットフォームについて、プラットフォーム固有の情報を提供しています。HPOM 管理対象ノードの一般的で概念的な情報が記述されています。
<i>HPOM Reporting and Database Schema (HPOM レポート生成とデータベース スキーマ)</i>	管理者	HPOM データベースから生成されるレポートの例に加え、HPOM のデータベースの表の詳細を説明しています。

表 2 HPOM マニュアル (続き)

マニュアル名	対象者	説明
<i>HPOM Java GUI オペレータ ガイド</i>	管理者 オペレータ	HPOM の Java ベースのオペレータ GUI と Service Navigator の詳細を説明しています。このマニュアルには、一般的な HPOM および Service Navigator の概念と、HPOM オペレータの作業についての詳細な情報、リファレンス、およびトラブルシューティングの情報もあります。
<i>HPOM Software Release Notes (HPOM ソフトウェアリリース ノート)</i>	管理者	新機能を一覧表示されており、次の作業に便利です。 <ul style="list-style-type: none"> • ソフトウェアの新旧バージョンの機能比較 • システムとソフトウェアの互換性 • 既知の問題の解決法
<i>HPOM Firewall Concepts and Configuration Guide (HPOM ファイアウォールと設定ガイド)</i>	管理者	HPOM ファイアウォールの概念を説明し、セキュアな環境の設定手順を解説します。
<i>HPOM Web Services Integration Guide (HPOM Web サービス統合ガイド)</i>	管理者	HPOM Web サービスの統合について説明します。
<i>HPOM Server Configuration Variables (HPOM サーバー設定 変数)</i>	管理者	HPOM 管理サーバーの設定に使用する変数の一覧とその説明です。

HPOM オンライン情報

インストールと初期設定が終了したら、HPOM 管理サーバーから次の情報がオンラインで利用できます。

表 3 HPOM オンライン情報

オンライン情報	説明
HPOM 管理者 GUI 用 オンラインヘルプ	<p>HPOM 管理者 GUI 用のオンラインヘルプは、管理者のグラフィックユーザーインターフェースに表示されている個々のページ、メニュー、オプションの状況に合わせた情報を提供します。メニューおよびメニューオプションは、作業中のデータコンテキストに応じて変化します。対応する Web ブラウザに次の URL を入力して、HPOM 管理者用ユーザーインターフェースを起動します。</p> <ul style="list-style-type: none">標準の接続 http://<HPOM_management_server>:9662セキュアな接続 https://<HPOM_management_server>:9663
HPOM Java GUI オンライン 情報	<p>HPOM の Java ベースのオペレータ GUI と Service Navigator の HTML ベースのヘルプです。このヘルプシステムには、一般的な HPOM および Service Navigator の概念と、HPOM オペレータの作業についての詳細な情報、リファレンス、およびトラブルシューティングの情報もあります。</p>
HPOM man ページ	<p>HPOM マニュアルページはコマンド行だけでなく、HTML 形式でも利用できます。HTML 形式の HPOM マニュアルページにアクセスするには、Web ブラウザに次のアドレス (URL) を入力してください。</p> <ul style="list-style-type: none">標準の接続 http://<HPOM_management_server>:3443/ITO_MANセキュアな接続 https://<HPOM_management_server>:3444/ITO_MAN <p>上記 URL の <HPOM_management_server> には、使用している HPOM 管理サーバーの FQDN (完全修飾ドメイン名) を入力してください。HPOM エージェント用のマニュアルページは、各管理対象ノードにインストールされています。</p>

HPOM オンラインヘルプ

ここでは、HP Operations Manager (HPOM) 管理者および HPOM オペレータを対象とした、Java グラフィックユーザーインターフェース (GUI) のオンラインドキュメンテーションについて説明します。

HPOM 管理者 GUI 用オンラインヘルプ

HPOM 管理者 GUI 用のオンラインヘルプは、グラフィックユーザーインターフェースに表示されている個々のページ、メニュー、オプションの状況に合わせた情報を提供します。メニューおよびメニューオプションは、作業中のデータコンテキストに応じて変化します。HPOM 管理 UI オンラインヘルプは、次のデータコンテキストに関する情報を提供します。

❑ HPOM for UNIX:

HP Operations Manager for UNIX データコンテキストで作業する際の、ユーザーインターフェースを説明します。HPOM for UNIX データコンテキストでは、HPOM for UNIX に関連するすべてのオブジェクト (ノード、ポリシー、カテゴリ、アプリケーション、ユーザー、メッセージグループなど) を管理します。

❑ Server (サーバー):

Server データコンテキストで作業する際の、ユーザーインターフェースを説明します。データサーバーコンテキストでは、ローカルまたは現在選択しているサーバー上で新しいジョブの追加、作業の管理、ログファイルの詳細のブラウズが可能です。

❑ Admin (管理):

Admin データコンテキストで作業する際の、ユーザーインターフェースを説明します。Admin データコンテキストでは、HPOM Admin UI にログインしている管理者ユーザー、HPOM Admin UI で管理しているサーバー、HPOM Admin UI で使用するライセンスの設定および管理を行います。

Admin GUI オンラインヘルプへのアクセス

HPOM 管理者 GUI (Admin UI) のオンラインヘルプにアクセスするには、次の手順を実行します。

1. 対応する Web ブラウザに次の URL を入力して、HPOM 管理者用ユーザーインターフェースを起動します。
 - 標準の接続
http://localhost:9662
 - セキュアな接続
https://localhost:9663
2. HPOM 管理者 UI にログインします。デフォルトのユーザー名およびパスワードは次のようになります。

ユーザー名	opc_adm
パスワード	OpC_adm
3. 開いた Web ブラウザで、タイトルバーのヘルプアイコンをクリックします。
4. ヘルプを必要とする専門領域 (HPOM for UNIX、Server、Admin など) に対応するリンクを選択します。
5. HPOM Admin UI で現在表示されているページのコンテキストに応じたヘルプを表示するには、ページ上部右側にあるヘルプアイコンをクリックします。

Java GUI と Service Navigator のオンラインヘルプ

Java GUI のオンラインヘルプには HP Service Navigator (Service Navigator) に関する情報が掲載されていますので、オペレータが HPOM 製品に慣れ親しんだり、使用するのに役立ちます。

HPOM Java GUI のオンラインヘルプには、次のような情報があります。

□ 作業：

大切な手順を完了するための操作を手順ごとに説明します。

□ 概念：

主要な概念と製品の基本的な特徴と機能を紹介します。

□ トラブルシューティング：

製品の使用中に発生する共通の問題に対するヒント、こつ、解決策です。

□ 索引:

必要な情報にすぐに簡単にアクセスできるトピックリストです。

Java GUI オンラインヘルプへのアクセス

Java GUI のオンラインヘルプにアクセスするには、次の手順を実行します。

1. 使用するブラウザを HPOM に設定します。
2. Java GUI を起動し、Java GUI メニューバーで [ヘルプ : 目次] を選択します。
3. 起動した Web ブラウザで、読みたいトピックを選択します。

製品概要

HP Operations 製品の Java ベースのグラフィカルユーザーインターフェース (Java GUI) には、次のコンポーネントがあります。

❑ **HP Operations Manager**

分散マルチベンダーシステムでの集中監視型障害管理製品です。

❑ **Service Navigator**

HPOM にアドオンすることにより、IT サービスに焦点を合わせて IT 環境を管理できるようになります。Service Navigator はシステムにはインストールされていない場合があります。

はじめに

HP Operations Manager および Service Navigator をご利用いただきありがとうございます。
IT 作業で本製品に慣れ親しんでご使用いただくために、次の情報がオンラインでご利用いただけます。トピックを表示するには、左側のウィンドウフレーム内からフォルダーを開いていただき、トピックのタイトルをクリックしてください。

注記 『*HPOM Java GUI オペレータガイド*』は、Adobe Acrobat Portable Document Format (PDF) でご覧いただけます。詳細は 25 ページの「HPOM マニュアル」を参照してください。

オンラインヘルプについて

オンラインヘルプには次のセクションで構成されています。

□ HPOM オペレータヘルプ

- 作業

HPOM の操作を、手順ごとに説明します。

- 概念

HPOM の重要な概念や機能を解説します。IT 管理に HPOM を使ったことがない場合は、このセクションを読んでから次に進んでください。

- リファレンス

HPOM と Service Navigator を最大限に活用するための詳細な情報です。

- トラブルシューティング

HPOM と Service Navigator の使用中に発生する共通の問題に対する解決策です。

□ Service Navigator ヘルプ

- 作業

Service Navigator の操作を、手順ごとに説明します。

- 概念

Service Navigator の重要な概念や機能を解説します。IT 管理に Service Navigator を使ったことがない場合は、このセクションを読んでから次に進んでください。

注記

Service Navigator は、標準の HPOM 製品を拡張するアドオンコンポーネントであり、お客様のシステムにはインストールできないことがあります。

オペレータガイドについて

Adobe Acrobat Portable Document Format (PDF) で、次の HPOM Web サーバーディレクトリにある『*HPOM Java GUI オペレータガイド*』をご覧ください。

http://<management_server>:3443/ITO_DOC/C/manuals/JavaOperatorGuide.pdf

http://<management_server>:3443/ITO_DOC/japanese/manuals/JavaOperatorGuide_Jpn.pdf

http://<management_server>:3443/ITO_DOC/spanish/manuals/JavaOperatorGuide_Spa.pdf

この URL で、<management_server> は、お使いの管理サーバーの完全なホスト名です。

Web ブラウザでこのアドレスを開いていただくか、オンラインヘルプの左側のパネルにある Operator's Guide (PDF) リンクをクリックしていただくと、PDF をご利用いただけます。

また、次の Web サイトからも PDF がダウンロードできます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

新機能

Java GUI for HPOM 9.xx には以下の新機能があります。

□ Java Runtime Environment に対応

最新バージョンの **Java Runtime Environment 1.6** に対応しています。対応済みの **Java Runtime Environment** の最新のリストと旧バージョンのリストは、『*HPOM Software Release Notes (HPOM ソフトウェアリリースノート)*』を参照してください。

□ オンラインによる Java GUI の同期

HPOM には、設定更新中にサーバーと **Java GUI** を同期させる機能があります。ほとんどの変更が自動的に **Java GUI** に反映されますので、設定を再ロードする必要がありません。関連する設定の変更点を **Java GUI** 上ですぐに確認することができます。

□ Cockpit View

HPOM Cockpit View は、Web ベースのインタフェースで、HPOM のモニター対象となる環境の状態を表示します。Cockpit View では、環境の状態と準備状況を迅速に把握でき、その情報を業務に役立てることができます。

Cockpit View はインジケータパネルとメッセージブラウザで構成されます。インジケータパネルにはメッセージフィルターグループが、メッセージブラウザには各フィルターのメッセージが表示されます。

□ サービスマップテーブルビュー

以前のリリースでもご利用いただけたビュー（グラフ、マップ、ツリー）に加えて、サービスマップテーブルビューが新たに導入されました。このビューはメッセージブラウザに似ており、サービスとそのプロパティが表形式でリストされます。サービスマップテーブルビューはサービスサブマップおよびカスタムマップに使用できますが、サービスグラフでは使用できません。

□ メッセージフィルターブラウザの拡張

本リリースでは次の拡張が導入されています。

- メッセージをメッセージフィルターブラウザからエクスポート、ドラッグ、印刷する際に、メッセージフィルターブラウザ内と同様にメッセージがソートされます。
- 相対時間の再計算を有効にして相対値指定フィルターを使用すると、メッセージブラウザが再表示されて新しいメッセージが表示され、時間が経過しすぎているためにフィルター条件に合致しなくなったメッセージは除外されます。この機能は、`OPCUIWWW_FILTER_RELATIVE_TIME_RECALC` サーバーパラメータを使用して管理者が有効にします。

□ Web ブラウザへの対応

組み込み Web ブラウザは Java GUI から削除されますので、ActiveX および外部ブラウザのみが使用できます。itoopec の web_browser_type に新しい値 activex が追加されました。これにより、有効な値は external および activex となります。

Windows では、ActiveX がデフォルトのブラウザです。他のオペレーティングシステムでは、外部ブラウザのみが使用可能です。XPL 変数 OPC_JGUI_INTERNBW_DISABLED の有効値は ACTIVEX と NONE です。

□ [常に最前面] オプション

[表示設定] ダイアログに、新たに [常に最前面] オプションが導入されました。このオプションを使用すると、Java UI ウィンドウ (メインおよび取り外したもの) が画面の最前面に表示されます。itoopec に stay_on_top パラメータが追加されています。デフォルト値は no です。

□ サイズのカスタマイズが可能なサービス アイコンと重要度ステータスインジケータ

大型のサービスグラフやサービスマップでサービスアイコンと重要度ステータスインジケータが重ならないように、itoopec リソースファイルの service_icon_zoom パラメータを使用してサービスアイコンと重要度ステータスインジケータのサイズをカスタマイズできるようになりました。

□ WebStart による Java GUI の起動

HPOM Java UI は WebStart で起動できます。Java UI を起動するための WebStart のリンクが HPOM のホームページに追加されています。

- 標準の接続

`http://<HPOM_management_server>:3443/ITO_OP/`

- セキュアな接続

`https://<HPOM_management_server>:3444/ITO_OP/`

□ クライアント検証用の Java コンソールのバージョン

UNIX では ito_op -version を、Windows では ito_op.bat -version を実行することにより、Java コンソールのバージョン確認が可能になりました。

□ メッセージ内のハイパーリンクに対応

Java GUI 機能が拡張され、メッセージ内の https および ftp ハイパーリンクに対応しました。

□ メモリ設定処理の改善

ito_op.bat に次の 2 種類のメモリパラメータが追加されました。

- -maxperm: Java 仮想マシンの最大永久メモリサイズを設定します。
- -maxheap: Java 仮想マシンの最大ヒープメモリサイズを設定します。

環境変数でも両パラメータを設定できます。

□ 拡張 listguis ツール

listguis では、HTTPS モードで接続している Java UI クライアントに対して、ホスト名 (ロングネーム)、IP アドレス、接続タイプ (https かソケット)、接続ポート (たとえば、ソケット接続の場合は 2531) が表示されます。

□ CMA パターンマッチ

Java GUI フィルターは、HPOM スタイルのパターンマッチによる CMA に対応しました。

□ HPOM for Windows との用語統一

一部の Java GUI 用語が HPOM for Windows の用語と統一されました。そのため、アプリケーションの代わりにツールが使用されています。

本書の構成

本書は、Java GUI で日常の作業を行うオペレータの方を対象としています。

□ 第 1 章 日常作業

HPOM の概念、機能、構造を簡単に説明します。

□ 第 2 章 日常作業を行う

HPOM の操作を、手順ごとに説明します。

□ 第 3 章 **Service Navigator**

Service Navigator の概念、機能、構造を簡単に説明します。

□ 第 4 章 **Service Navigator** で日常作業を行う

Service Navigator の操作を、手順ごとに説明します。

□ 付録 A **トラブルシューティング**

HPOM と **Service Navigator** の使用中に発生する共通の問題に対する解決策です。

□ 付録 B **リファレンス**

HPOM と **Service Navigator** を最大限に活用するための詳細な情報です。

□ **用語集**

HPOM と **Service Navigator** で使う用語の定義です。

1 日常作業

この章では

この章では HP Operations Manager (HPOM) のオペレータが行う日常作業について説明します。

この章の対象読者

この章は主に HPOM オペレータを対象としていますが、HPOM 管理者も HPOM オペレータの作業環境と障害解決のプロセスに関する知識を得るため、目を通してください。

この章の内容

この章は次のような構成になっています。

□ HPOM Java GUI 概要

- ショートカットバー
- オブジェクトペイン
- ワークスペースペイン
- ブラウザペイン
- 統合 Web ブラウザ
- メニューバー
- ツールバー
- ポジションコントロール
- ポップアップメニュー
- 取り外したウィンドウ
- Cockpit View

□ 障害の解決プロセス

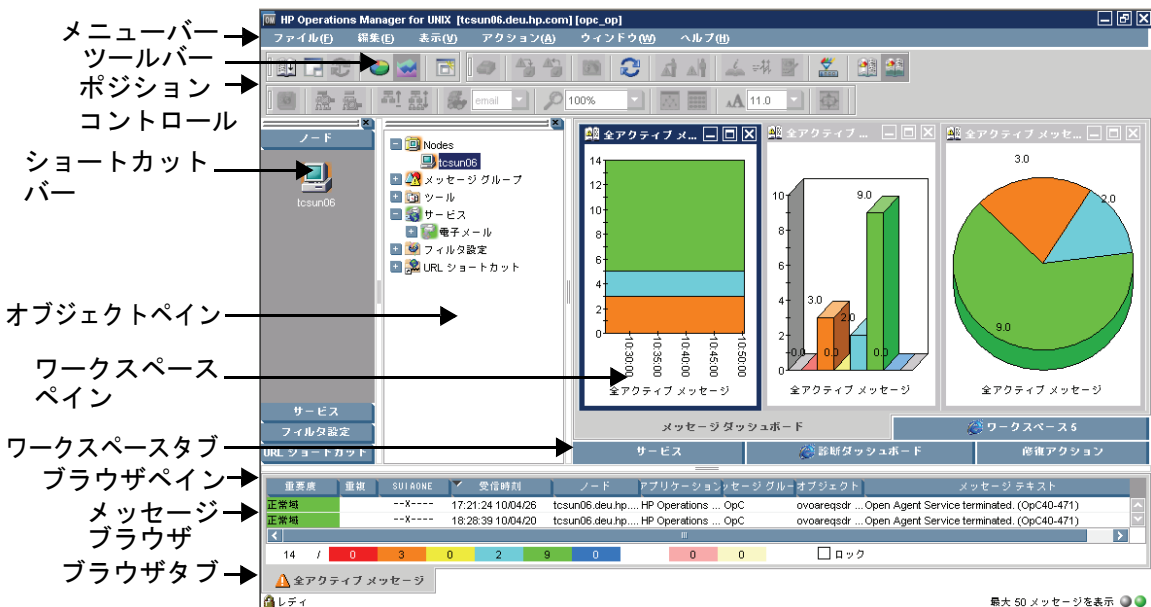
- オペレータ環境での障害の検出
- オペレータ環境での障害の調査

- オペレータ環境での障害の解決
 - オペレータ環境での解決方法のドキュメント化
- オペレータ環境のカスタマイズ

HPOM Java GUI 概要

HPOM Java GUI を起動すると、メインウィンドウが表示されます (図 1-1)。

図 1-1 HPOM Java GUI のメインウィンドウ



Java GUI のメインウィンドウは、主に 4 つの領域に分かれています。

□ ショートカットバー

左上のペインには、よく使うオブジェクトへのショートカットを作成できます。詳細は 45 ページの「ショートカットバー」を参照してください。

□ オブジェクトペイン

上部中央のペインには、管理対象環境 (managed environment) の構成が表示されます。詳細は 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

□ ワークスペースペイン

右上のペインは複数のタブで構成されていて、それぞれのタブに 1 つずつ作業場所があります。詳細は 59 ページの「ワークスペースペイン」を参照してください。

□ ブラウザペイン

下部のペインでは、最新のメッセージにすぐにアクセスできます。詳細は 68 ページの「ブラウザペイン」を参照してください。

Java GUI の上部には次のナビゲーションツールが表示されます。

□ メニューバー

画面の上端にある列です。概要は、83 ページの「メニューバー」を参照してください。

□ ツールバー

メニューバーのすぐ下にあるアイコン列です。概要は、84 ページの「ツールバー」を参照してください。

□ ポジションコントロール

ツールバーのすぐ下にある水平バーのついた細い帯です。概要は、85 ページの「ポジションコントロール」を参照してください。

デフォルトでは、ポジションコントロールは表示されません。オンとオフを切り替える方法については、181 ページの「ポジションコントロールの表示 / 非表示」を参照してください。

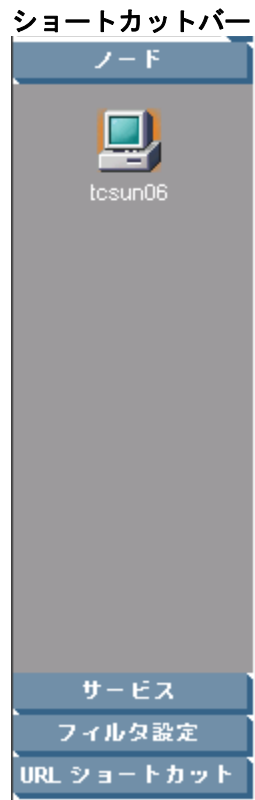
注記

Java GUI の 4 つのメイン領域で表示されるポップアップメニューの詳細は 86 ページの「ポップアップメニュー」を参照してください。

ショートカットバー

ショートカットバーは、ツールバーとポジションコントロールの下の左側にあるペインです(図 1-2)。

図 1-2



ショートカットバーからポップアップメニューを使って、オブジェクトペインから利用可能な操作を実行できます(たとえば、ツールの起動、フィルター処理済新規メッセージブラウザの表示、サービスグラフの作成など)。オブジェクトペインに表示されるオブジェクトが多数ある場合は、このクイックアクセス機能はとても便利です。

注記

ショートカットバーのポップアップメニューの詳細は 87 ページの「ショートカットバーのポップアップメニュー」を参照してください。ショートカットバーのカスタマイズ方法については、182 ページの「ペインとエリアの移動」、183 ページの「ペインとエリアの表示 / 非表示」、および 186 ページの「ショートカットバーのカスタマイズ」を参照してください。

ショートカットバー内のサービスアイコンは、テキスト情報のサービスラベルと、オブジェクトの情報が一目でわかるイメージを表示します。アイコンの状態とサービスラベルの情報は、再表示周期で更新されます。

デフォルトでは、次のショートカットグループ (グレーボタン) が作成されます。

□ ノード

ネットワーク環境内のシステム、プリンター、または他の構成要素です。詳細は 50 ページの「ノード」を参照してください。

□ サービス

Service Navigator がインストールされ設定されていると、発生した障害に関するメッセージがその障害の影響を受けたサービスにマップされます。

□ フィルター設定

メッセージフィルターの作成やアクセスをすばやく、そして簡単に行うことができます。詳細は 55 ページの「フィルター設定」を参照してください。

□ URL ショートカット

URL ツールの更新や起動ができます。詳細は 58 ページの「URL ショートカット」を参照してください。

上記以外にも、たとえば次のようなショートカットグループを追加できます。

□ メッセージグループ

特定のオペレータが担当しているメッセージグループです。詳細は 52 ページの「メッセージグループ」を参照してください。

□ ツール

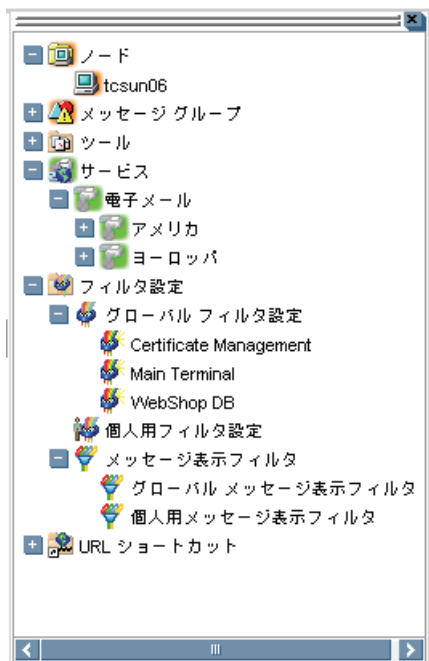
HPOM に統合されているスクリプトまたはプログラムです。詳細は 54 ページの「ツール」を参照してください。

ショートカットはすべてコンソール設定ファイルに保存されます。詳細は 177 ページの「コンソール設定の保存」を参照してください。

オブジェクトペイン

オブジェクトペインはツールバーとポジションコントロールの下にある左から 2 番目のペインです(図 1-3)。このペインにはオブジェクトツリーがあります。これは管理対象環境にある別の要素にアクセスしやすいようにデザインされた階層ツリーです。

図 1-3 オブジェクトペイン



オブジェクトツリーは次のように分岐しています。

□ ノード

ネットワーク環境内のシステム、プリンター、または他の構成要素です。詳細は 50 ページの「ノード」を参照してください。

□ メッセージグループ

特定のオペレータが担当しているメッセージグループです。詳細は 52 ページの「メッセージグループ」を参照してください。

□ ツール

HPOM に統合されているスクリプトまたはプログラムです。詳細は 54 ページの「ツール」を参照してください。

□ サービス

Service Navigator がインストールされ設定されていると、発生した障害に関するメッセージがその障害を受けたサービスにマップされます。

□ フィルター設定

メッセージフィルターの作成やアクセスをすばやく、そして簡単に行うことができます。詳細は 55 ページの「フィルター設定」を参照してください。

□ URL ショートカット

URL ツールの起動ができます。詳細は 58 ページの「URL ショートカット」を参照してください。

注記

基本または詳細検索機能 (a basic or advanced search function) を使って、オブジェクトツリー内の特定の項目を検索できます。詳細は 120 ページの「オブジェクトペインの検索」を参照してください。

ノード

オブジェクトツリーでは、[ノード]フォルダーに**特定のオペレータの管理対象ノード**が表示されます。管理対象ノードとは、ネットワーク環境内のシステム、プリンター、または他の構成要素です。図 1-4 に示すように、オブジェクトツリーの [ノード] フォルダーには、ノード、ノードの集合体（ノードレイアウトグループ）、またはオペレータが担当している外部ノードを表すアイコンがあります。**外部ノード**とは、外部イベントが HPOM に収集されるノードの範囲を示します。

図 1-4 オブジェクトツリーの [ノード] フォルダー



ノードレイアウトグループ

オブジェクトツリーでは [ノード] フォルダー内のアイコンを、ノードのフォルダーまたはノードの集合体として表示できます。たとえば、1つのビルにあるすべてのノード、または同じ目的を持つノードをすべてグループにまとめ、1つのノードレイアウトグループアイコンとして表示できます。フォルダーの横にあるプラス記号 (+) をクリックするとフォルダーが開き、レイアウトグループ内にあるノードが表示されます。

ノードカラー

ノードアイコンは、そのノードが受けとった最も重要度が高いメッセージに対応する色で表示されます。たとえばノードアイコンは、関連するノードに危険域の未受諾 (**unacknowledged**) メッセージが 1 つでもあれば赤に変わります。危険域のメッセージをすべて受諾すると、ノードアイコンは残りのメッセージの中で最も重要度が高い色に変わります。他のマップツール (たとえば **IP Map** など) のステータスは含まれていません。

フォルダーアイコンは **HPOM** の設定によって、すべての構成要素のメッセージのうち最も高い重要度に対応する色で表示されます。たとえばフォルダーアイコンが水色の場合、下の階層にステータスが**注意域**である要素が少なくとも 1 つ存在していることになります。

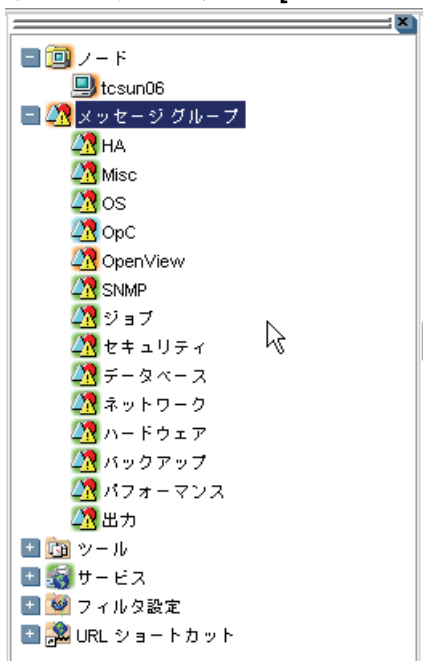
メッセージの色については、次を参照してください。

- ❑ 53 ページの「メッセージグループの色」
- ❑ 71 ページの「メッセージの色」
- ❑ 127 ページの「メッセージ重要度による色付け」
- ❑ 576 ページの「メッセージフィールド」

メッセージグループ

オブジェクトツリーの [メッセージグループ] フォルダには、オペレータが担当しているメッセージグループを表すアイコンがあります (図 1-5)。このフォルダでは各グループのステータスや、特定のグループのメッセージを確認できます。HPOM はメッセージグループを使って、類似または関連する管理対象ノードオブジェクトの管理情報を選択した名称でまとめ、ステータス情報をグループレベルで表示します。

図 1-5 オブジェクトツリーの [メッセージグループ] フォルダ



メッセージグループの色

[ノード] フォルダーと同じように、[メッセージグループ] フォルダーの各アイコンの色は、そのグループの現在のステータスを表しています。[メッセージグループ] フォルダー内のアイコンの色が変化した場合、オペレータの環境内にある管理対象ノードのステータスが変化したことを意味しています。

メッセージの色についての詳細は、次を参照してください。

- 71 ページの「メッセージの色」
- 127 ページの「メッセージ重要度による色付け」
- 576 ページの「メッセージフィールド」

メッセージグループの構成

メッセージをグループにまとめることでメッセージの管理作業が簡単になり、オペレータの業務を作業ごとに分けることができます。たとえば、あるオペレータにバックアップと出力の部分任せ、別のオペレータにネットワーク、オペレーティングシステム、セキュリティ面のメッセージ管理を任せることができます。

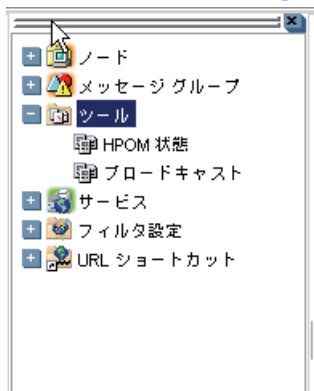
[メッセージグループ] フォルダーで、メッセージグループを選択してからフィルター処理済メッセージブラウザを開くようにすると、ブラウザ内に表示されるメッセージ数を減らすことができます。すなわち、選択したメッセージグループ内のメッセージのみが表示されます。

ツール

オブジェクトツリーの [ツール] フォルダには、HPOM に統合されているスクリプトやプログラムを示すアイコンがあります (図 1-6)。このフォルダから、統合されているツールをすべて起動できます。

図 1-6

オブジェクトツリーの [ツール] フォルダ



HPOM 管理者は、まずオペレータの環境を調べ、その環境で必要なツールを決めます。各ツールには、起動属性 (特定のオペレータの管理対象ノードリストなど) があらかじめ定義されています。

また環境内で実行されるプログラムやサービス (たとえば UNIX の `df` または `bdf` コマンド) もツールです。この場合、オペレータはシステムのディスク空き容量を管理する必要があります。十分なディスク容量を維持するためには、HPOM モニターエージェントから送信されたメッセージにตอบสนองして、`df` や `bdf` などのコントロールコマンドを送信する必要があります。

フィルター設定

オブジェクトツリーの [フィルター設定] フォルダーには、次の種類のアイコンがあります(図 1-7)。

□ メッセージブラウザフィルター

グローバルメッセージブラウザフィルターは [グローバルフィルター設定] フォルダーに、個人用メッセージブラウザフィルターは、[個人用フィルター設定] フォルダーに格納されています。

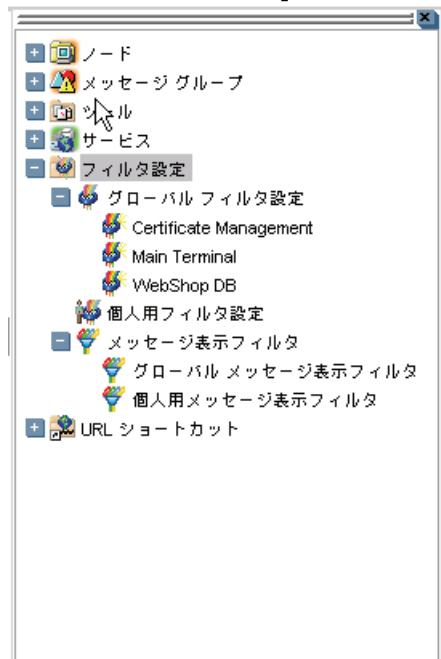
□ メッセージ表示フィルター

グローバルメッセージ表示フィルターは [グローバルメッセージ表示フィルター] フォルダーに、個人用メッセージ表示フィルターは、[個人用メッセージ表示フィルター] フォルダーに格納されています。

各種メッセージフィルターの詳細は 73 ページの「メッセージブラウザのフィルター処理」を参照してください。

図 1-7

オブジェクトツリーの [フィルター設定] フォルダー



[フィルター設定] フォルダーで、メッセージフィルターの作成やアクセスがすぐにそして簡単にできます。たとえば、メッセージグループの [パフォーマンス] エリアで起こる可能性のある障害を表示するメッセージをすべて見たい場合は、[パフォーマンス] エリア内にあるメッセージのうち重要度レベルが注意域、警戒域、重要警戒域、危険域、認識不能なものをすべて表示するフィルターを新しく作成して、新しいフィルターとして保存します。新しいフィルターを使ってメッセージを表示するには、メッセージブラウザを開いて、フィルター設定を適用します。

注記

グローバルフィルターを作成できるのは、HPOM の管理者だけです。オペレータが作成したフィルターは、個人用フィルター フォルダーのみに格納できます。

保存したフィルターにアクセスするには、次の 2 つのうちのどちらかで [フィルター設定] グループを選択します。

□ ショートカットバー

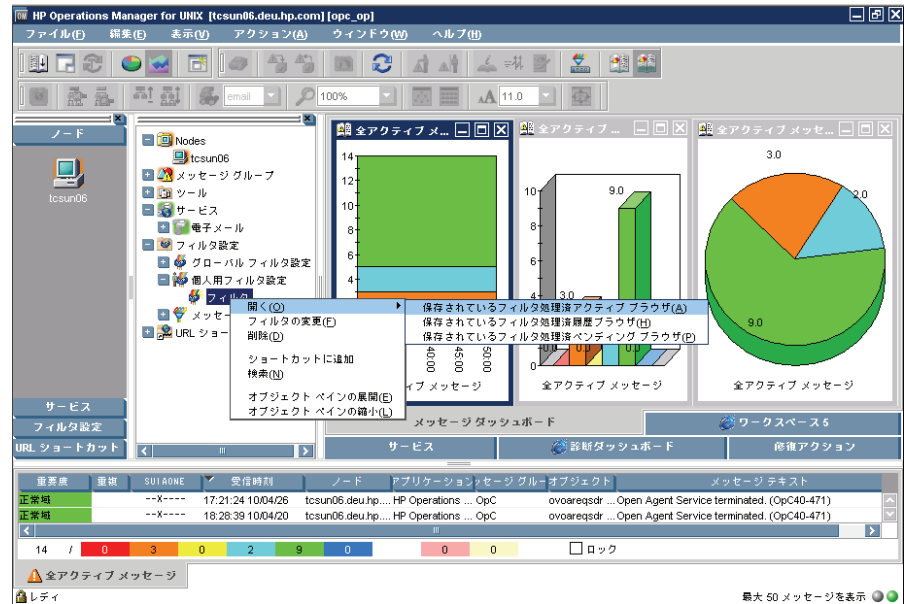
詳細は 45 ページの「ショートカットバー」を参照してください。

□ オブジェクトペイン

詳細は 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

図 1-8 は、オブジェクトペインの [フィルター設定] エリアにある個人用フィルターを表示しています。

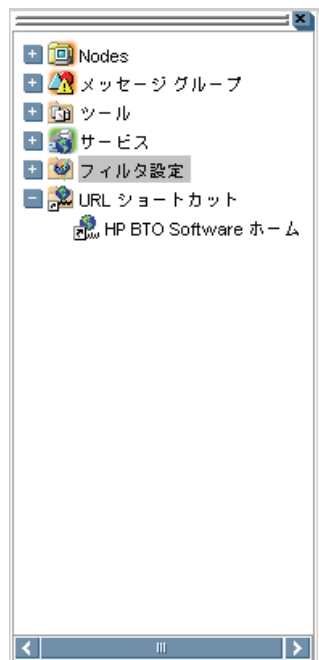
図 1-8 オブジェクトペインのフィルター設定エリアの個人用メッセージブラウザフィルター



URL ショートカット

オブジェクトツリーの [URL ショートカット] フォルダには、オペレータが定義した URL ショートカットのアイコンがあります (図 1-9)。

図 1-9 オブジェクトツリーの URL ショートカットフォルダ



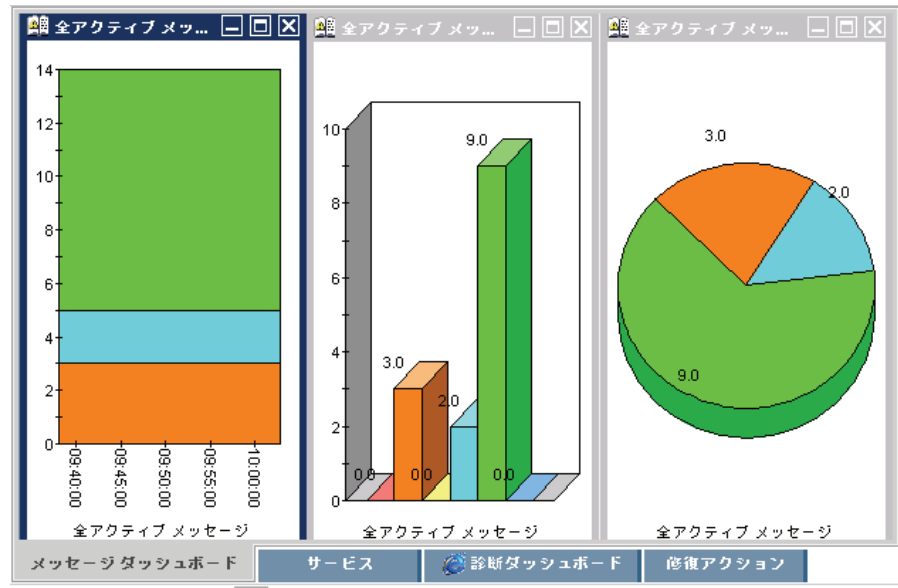
HPOM 管理者が、さまざまな URL を定義していることがあります。[URL ショートカット] フォルダを使用すると、よく使う URL に新しいショートカットを定義できます。そのショートカットは個人用コンソールセッションファイルに保存されます。

ワークスペースペイン

ワークスペースペインはツールバーの下にある左から 3 番目のペインです (図 1-10)。ワークスペースペインには複数のタブがあり、それぞれに 1 つずつワークスペースがあります。

図 1-10

ワークスペースペイン



注記

ワークスペースペインのポップアップメニューの詳細は 89 ページの「ワークスペースペインのポップアップメニュー」を参照してください。

デフォルトでは、ワークスペースインには次のタブが付いたワークスペースがあります。

□ **メッセージダッシュボード**

メッセージの重要度を 2 つの形式で表示します。詳細は 137 ページの「メッセージダッシュボードでのメッセージの重要度表示」を参照してください。

□ **サービス**

Service Navigator がインストールされ、設定済の場合だけ表示されます。詳細は 62 ページの「サービスワークスペース」を参照してください。

□ **診断ダッシュボード**

詳細は 62 ページの「診断ダッシュボードワークスペース」を参照してください。

□ **修復アクション**

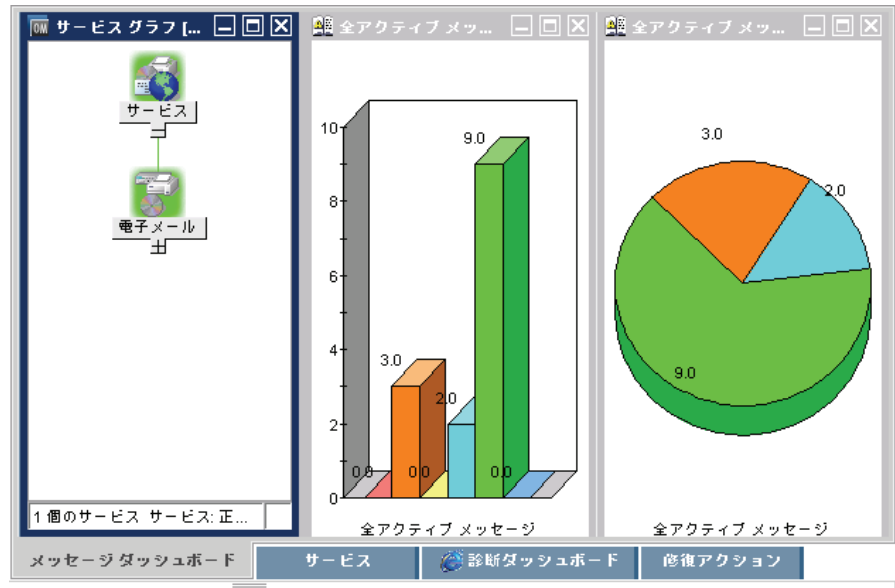
詳細は 63 ページの「修復アクションワークスペース」を参照してください。

オペレータ独自のワークスペースを定義し、それぞれに次のものを含めることができます。

- アプリケーションの出力ウィンドウ
- グラフとチャート
- メッセージブラウザ
- Web ブラウザ

図 1-11 では、ワークスペースにサービスグラフ、傾向グラフ、棒グラフが表示されています。

図 1-11 ワークスペース上のグラフ



業務を系統的に進めるために、作業ごとにワークスペースを分けて定義できます。

□ ノーマルワークスペース

メッセージブラウザ、グラフ、チャート、アプリケーションの出力、ActiveX 対応でないウェブブラウザ (non-ActiveX web browsers) を表示できます。

□ ActiveX ワークスペース

Microsoft Internet Explorer Web ブラウザのみ表示できます。

メッセージダッシュボードワークスペース

ワークスペースインの [メッセージダッシュボード] タブで、現況グラフ (current state chart) や傾向グラフ (history chart) を使ってメッセージの重要度を確認できます。詳細は 137 ページの「メッセージダッシュボードでのメッセージの重要度表示」を参照してください。

サービスワークスペース

[サービス] タブは、Service Navigator がインストールされている場合のみ表示されます。Service Navigator がインストールされている場合、[サービス] タブには使用者のサービスおよび下位サービス (subservices) の階層構造を示すサービスグラフが表示されます。このタブを使って、障害原因と影響を受けたサービスの分析ができます。Service Navigator については、Service Navigator のドキュメントを参照してください。

診断ダッシュボードワークスペース

[診断ダッシュボード] タブは、HPOM に統合する他のツールの専用になっています。

HPOM と統合できるツールとしては、次のようなものがあります。

□ Performance

HP Performance for Windows はスケーラブルな分散型ネットワークパフォーマンス管理ツールです。これは、ネットワークの動作、スタッフの効率、ネットワークの総所有コスト (TCO) を改善します。このツールには出荷時の状態ですぐ使用できる付属のレポートによる明解な傾向表示と、しきい値を設定する傾向しきい値 (trend threshold) レポートによる先を見越したキャパシティ計画の機能があります。

□ Network Path

HP Network Path によって、静的および動的ネットワークパスについての、詳細な状態とパフォーマンス情報が得られます。パスをモニターすれば、使用しているツールとプロトコルに基づいて、関連するパスを分析できるほか、重複している IP とファイアウォール環境に対応できます。

□ Internet Services

HP Internet Services を使えば、ビジネス上重要なインターネットサービス (たとえば、POP3、SMTP、HTTP、HTTPS、FTP、DNS など) を使っている企業はカスタマをサポートできるほか、カスタマ規定のサービスレベル目標値を満たし、さらに超えることもできます。

インターネットサービスでは、トレンドレポートとベースラインを使って、ビジネスに影響が出る前の段階でカスタマに警告を出すことができます。また、どのサービスコンポーネントがしきい値を超えているかを迅速に判断し、障害の根本的な原因を識別することもできます。さらに、インターネットサービスによりカスタマサービスの担当者は、サービスレベルに関する適合性についての概要と詳細レポートを通じてカスタマと共通の認識に立つことができます。

修復アクションワークスペース

[修復アクション] タブからアクションのステータスと実行結果を確認して、現在のコンピュータ環境の最新の状況を正確に把握することができます。アクションのステータスは、アクションが利用できるかどうかと現在の状態を示します。

ステータスによってアクションの次の状態がわかります。

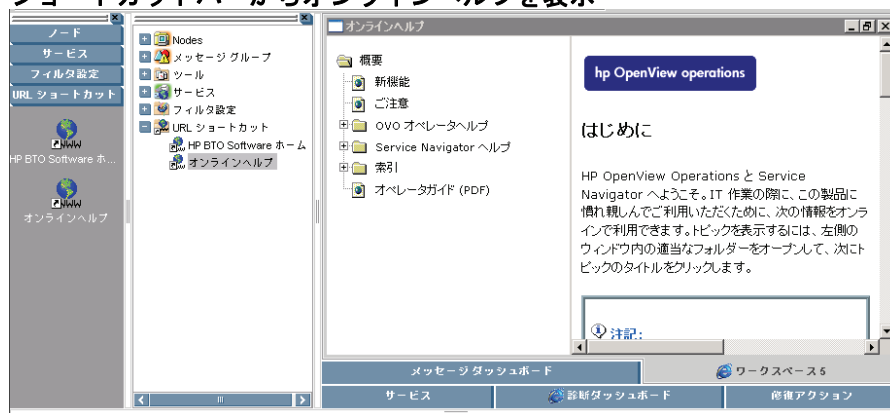
- メッセージに対して設定されているか
- まだ実行中か
- 成功したか
- 失敗したか

[修復アクション] ワークスペースでアクションのステータスを確認する方法については、149 ページの「修復アクションワークスペースでのアクション結果の評価」を参照してください。

オンラインヘルプワークスペース

[オンラインヘルプ] ワークスペースには、インストール済のツールに関するオンラインマニュアルをすべて表示できます。図 1-12 は、ショートカットバーを使って、[オンラインヘルプ] ワークスペースに HPOM のオンラインヘルプを表示する方法を示しています。

図 1-12 ショートカットバーからオンラインヘルプを表示



注記

[オンラインヘルプ] ワークスペースは、システムで指定されたオペレータ用のデフォルト設定にはありません。HP Operations 管理サーバー上で HPOM 管理者により定義することができます。詳細は 173 ページの「HPOM 管理者指定のオペレータ用デフォルト設定」を参照してください。

現在のワークスペースの更新

現在のワークスペースの更新は、メッセージ関連の変数を評価するツールにのみ適用されます。たとえば、[URL ショートカット] フォルダで、メッセージ関連の変数を含む URL を定義し、次にメッセージを選択してアプリケーションを起動します。異なるメッセージを選択して URL ツールを更新すると、メッセージ関連の変数は、現在選択されているメッセージで再度評価されます。Java GUI のブラウザペインまたはワークスペースインでは、ボタンを使って更新できます。

注記

現在のワークスペースの更新は、ワークスペースが、Microsoft Internet Explorer ActiveX コントロールをサポートしている場合に限り、有効です。

たとえば、次の URL でツールを設定できます。

`http://www.openview.hp.com/$OPC_MSG.TEXT[2]`

この例では、メッセージテキストの 2 番目の語として「products」または「solutions」が含まれるメッセージが送信されます。

図 1-13 では、最初のメッセージ「products」が選択され、URL ツールが起動されています。

図 1-13 「products」の URL ツールに更新

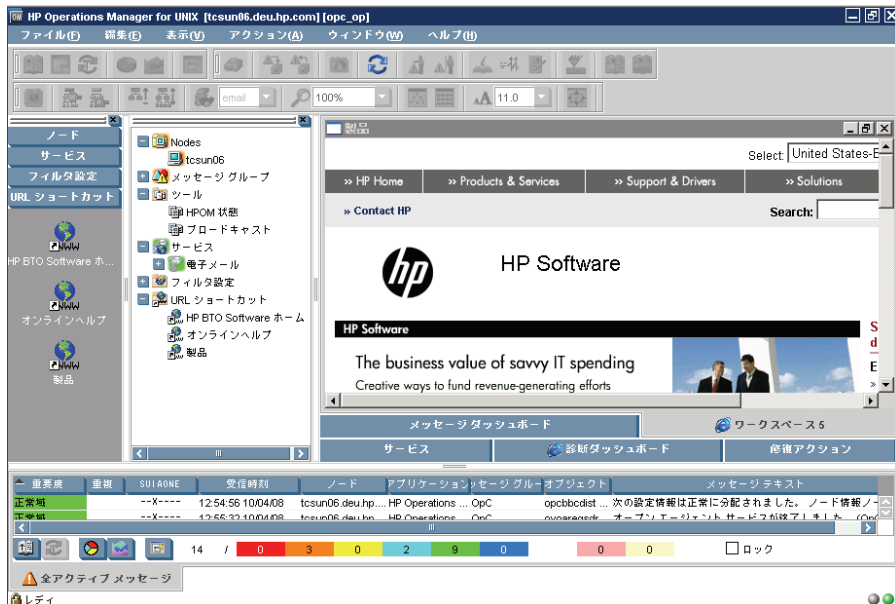
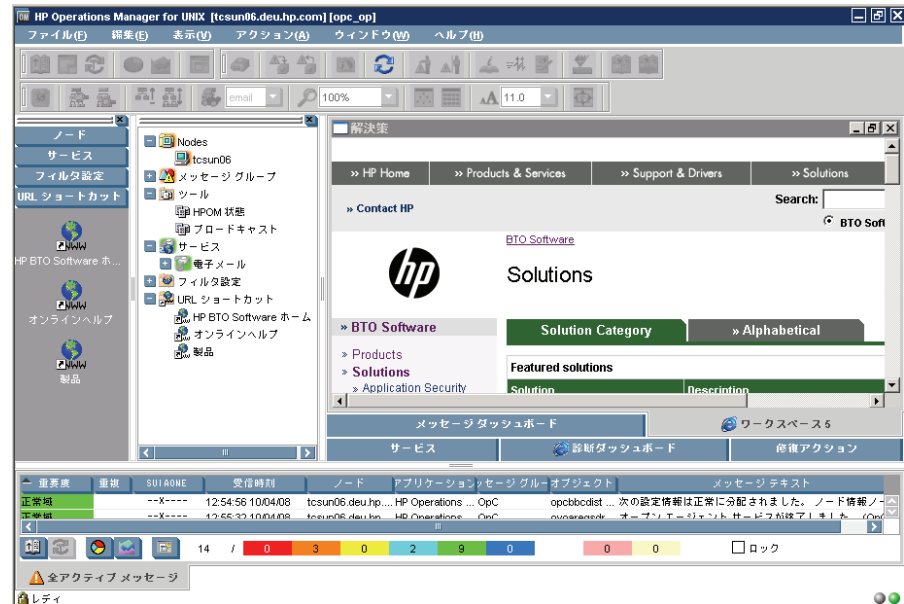


図 1-14 では、2 番目のメッセージ「solutions」が選択され、更新ボタンが押されています。URL ツールは、URL 内の新しいメッセージテキストで更新されています。

図 1-14

「solutions」の URL ツールに更新



結果としては、次のページがロードされます。

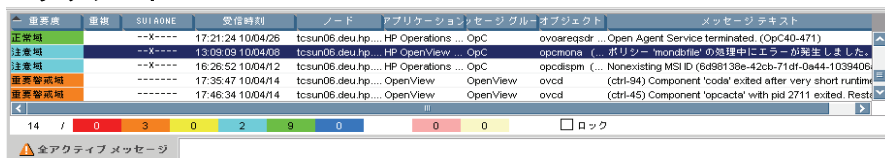
<http://www.openview.hp.com/solutions>

ブラウザペイン

ブラウザペインは Java GUI の一番下にあるペインです (図 1-15)。

図 1-15

ブラウザペイン



重要度	重複	SUITABONE	受信時刻	ノード	アプリケーション	メッセージ	グループ	オブジェクト	メッセージテキスト
正常	--X----		17:21:24 10/04/08	tcsun06.deu.hp...	HP Operations ...	OpC	ovosreqsdr	...	Open Agent Service terminated. (OpC40-471)
注意	--X----		13:09:09 10/04/08	tcsun06.deu.hp...	HP OpenView ...	OpC	opcmoma	...	ポリシー 'mondifile' の処理中にエラーが発生しました。
注意	--X----		16:26:52 10/04/12	tcsun06.deu.hp...	HP Operations ...	OpC	opcdspm	...	Nonexisting MSI ID (6d98138e-42cb-71df-0a44-1039406)
重要	-----		17:35:47 10/04/14	tcsun06.deu.hp...	OpenView	OpenView	ovcd	...	(ctrl-94) Component 'codas' exited after very short runtime.
重要	-----		17:48:34 10/04/14	tcsun06.deu.hp...	OpenView	OpenView	ovcd	...	(ctrl-45) Component 'opcactx' with pid 2711 exited. Restr...

ブラウザペインには複数のタブがあり、それぞれに 1 つずつメッセージブラウザがあります。各タブ名の前には、そのメッセージブラウザ内で最も重要度が高いメッセージを示すアイコンが表示されます。各タブのプロパティ (名前、説明) を変更したり、対応するメッセージブラウザごとタブを完全に削除できます。

注記

ブラウザペインの重要度の色分けについては、576 ページの「メッセージフィールド」を参照してください。ブラウザペインのポップアップメニューの詳細は 91 ページの「ブラウザペインのポップアップメニュー」を参照してください。

ブラウザペインから、最新のメッセージにすばやくアクセスできます。タブ上にある重要度アイコンによって、ブラウザペイン内のメッセージの重要度が容易にわかります。また、別のメッセージブラウザに切り替えることもできます。

デフォルトでは Java GUI を起動すると、[全アクティブメッセージ] というメッセージブラウザがブラウザペイン上に表示されます。ツールバーの左端のボタンを押すことにより、ブラウザをブラウザペインとワークスペースペインの間で切り替えさせることができます。たとえば、メッセージブラウザの 1 つをワークスペースペイン上に移動させ、そこで作業を続けることができます。またメッセージブラウザを新しく作成し、それをブラウザペインに移動させれば、重要なメッセージにいつでもアクセスできます。

ブラウザペインは、デフォルトで表示されます。メニューバーで [表示 : ブラウザペイン] を選択解除すると非表示にできます。このオプションをもう一度選択すれば、ブラウザペインを表示できます。

図 1-16 は、ブラウザペイン内の 3 つのメッセージブラウザ (タブで表示) を示しています。

図 1-16 ブラウザペイン内の 3 つのメッセージブラウザ

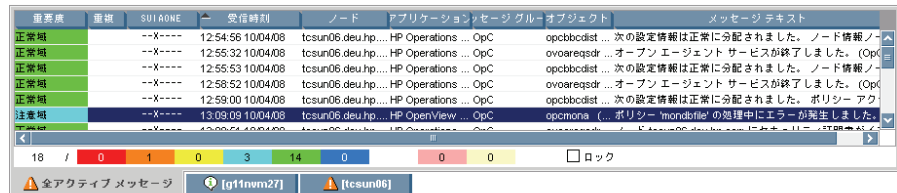
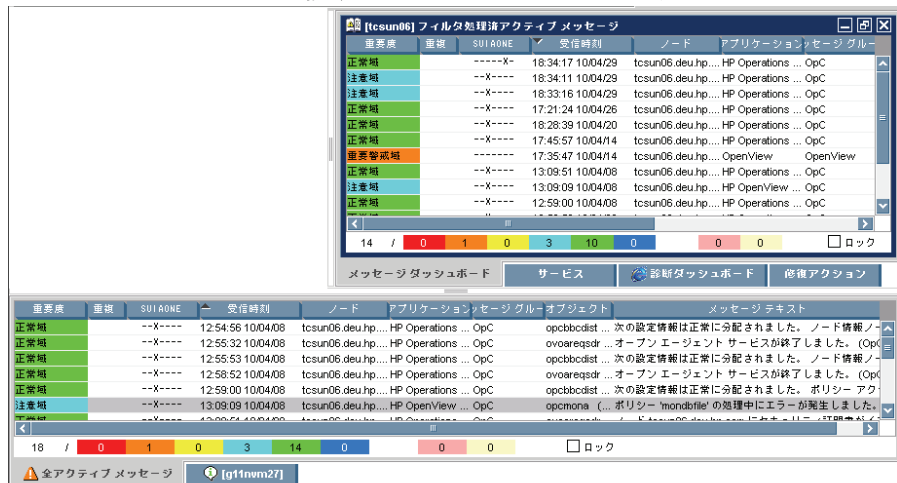


図 1-17 では、ブラウザペインにあったメッセージブラウザの 1 つをワークスペースペインに移動させています。

図 1-17 ワークスペースペインに移動した 1 つのメッセージブラウザ



メッセージブラウザ

HPOM はメッセージブラウザにメッセージを表示して、管理対象環境の情報を伝えます。メッセージは、管理対象環境にあるノード上で発生したイベント（たとえば、ステータスの変化やしきい値違反 (**threshold violation**) など）を示しています。これはノード上で実行されているエージェントが発行します。

アクティブメッセージブラウザ (図 1-18) は、オペレータ固有の GUI クライアントです。つまりオペレータの担当範囲で受信したすべてのアクティブメッセージが、オペレータ専用に表示されます。HPOM はオペレータに割り当てられたメッセージグループで管理対象ノードからのメッセージを集め、GUI クライアントに送ります。

注記

メッセージブラウザには、GIF イメージ、JPEG イメージ、およびハイパーリンクとしての URL も表示できます。イメージと URL は、**重要度**カラム、**フラグ**カラム、および日時に関連するカラム以外なら、どのフィールド内にも表示できます。ハイパーリンクとして表示するためには、すべての URL テキストは `http://` で始まっている必要があります。

メッセージブラウザ内にイメージを表示できるのは、HPOM 管理者があらかじめ設定している場合だけです。

図 1-18 アクティブメッセージブラウザ

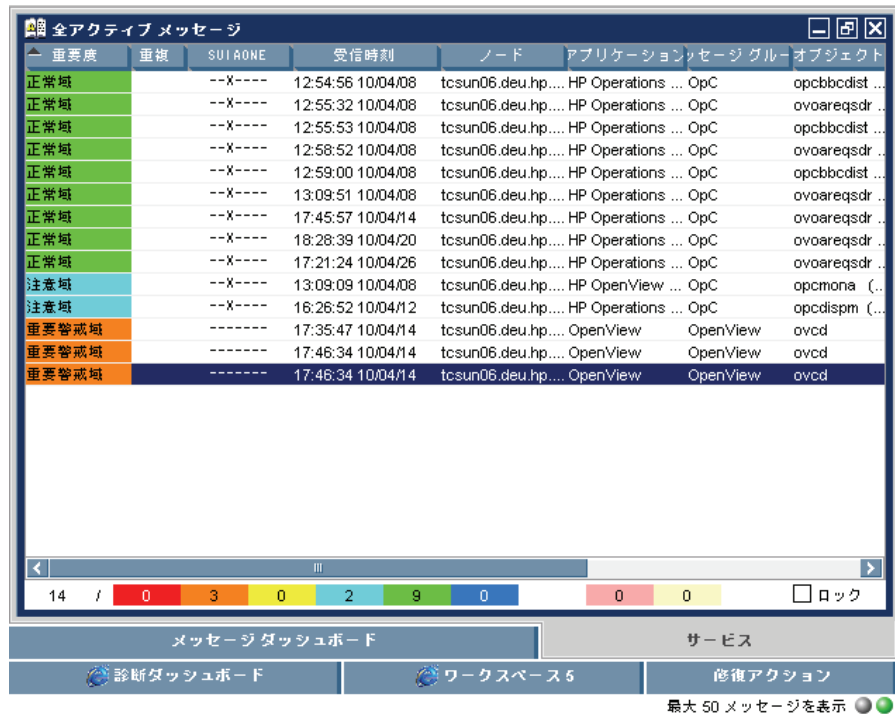
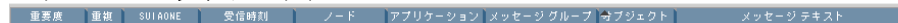


図 1-19 に、メッセージブラウザのメッセージヘッダーを示します。

図 1-19 メッセージブラウザヘッダー



属性はメッセージブラウザに表示され、メッセージの値は各属性のタイトルの下に表示されます。これは障害の解決に役立つ追加情報となります。

メッセージの色

メッセージの管理や確認、障害解決にはメッセージブラウザを使います。受信したメッセージはすでに設定されている属性とステータス情報で表示されます。[ノード]フォルダーおよび[メッセージグループ]フォルダーと同様に、メッセージブラウザ内のメッセージのステータスはカラー表示されます。このステータスは[重要度]列に表示され、赤は重要度が最も高い(危険域)メッセージを表します。

メッセージの重要度を一目で識別するために、ブラウザでメッセージ行全体をカラー表示するように HPOM を設定することもできます。詳細は 325 ページの「メッセージブラウザのカラー表示の設定をカスタマイズするには」を参照してください。

ブラウザペインの各タブには、そのメッセージブラウザ内で最も重要度が高いメッセージを示すアイコンが表示されており、メッセージの重要度がわかりやすくなっています。たとえば最危険メッセージが [正常域] の場合、タブには [正常域] を示すアイコンが表示されます。現在選択されているブラウザペインのタブは図 1-20 に示すように、他のタブとは異なる色で表示されています。

図 1-20 [ブラウザペイン] タブの最危険カラー

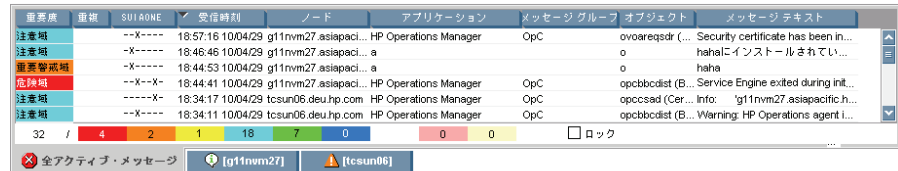
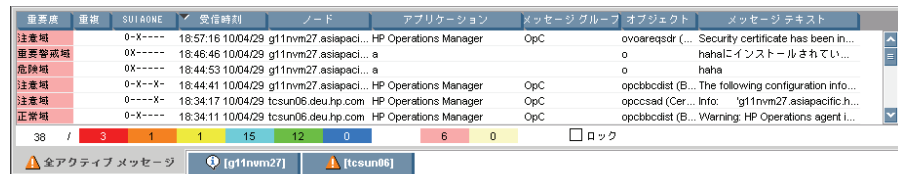


図 1-21 は、重要度が危険域および重要警戒域のメッセージを、フィルター処理済履歴メッセージブラウザ内で受諾解除 (unacknowledged) した後のカラーの変化を示しています。

図 1-21 メッセージ受諾解除後のカラーの変化



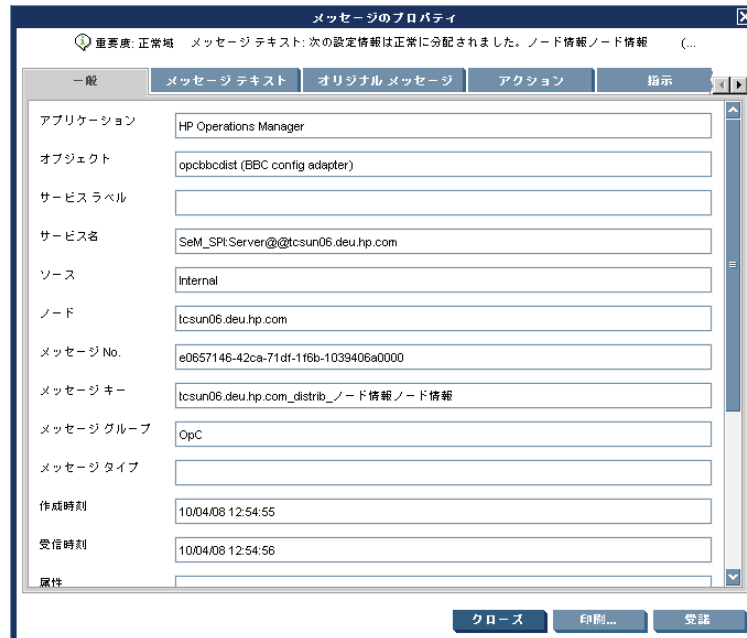
メッセージ

オペレータはメッセージに関する詳細を見てから、そのメッセージの原因となったイベントを解決するオペレータ起動アクションを実行できます。HPOM が自動アクションを実行する場合があります。アクションは必要に応じていつでも再実行したり、実行を停止できます。メッセージの印刷、メッセージレポートの作成もできます。また、HPOM には注釈 (annotation) 機能があるため、オペレータは自分が実行したアクションの記録を残したり、以前実行したアクションの詳細を確認することもできます。アクションが終了したメッセージはメッセージブラウザで受諾 (acknowledge) できます。

ブラウザに表示されるメッセージをダブルクリックすると、[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます (図 1-22)。

図 1-22

[メッセージのプロパティ] ウィンドウ



このウィンドウには選択したメッセージの詳細が表示され、いくつかの操作を実行できます。ただし、[メッセージのプロパティ] ウィンドウに表示される情報と実行できる操作には、そのウィンドウがどのブラウザ (アクティブ、ペンディング、履歴) から開かれたかによって変わります。

たとえば、[バッファ解除時刻] フィールドは、[メッセージのプロパティ] ウィンドウがペンディングメッセージブラウザから開かれた場合のみ表示されます。

メッセージブラウザのフィルター処理

アクティブメッセージブラウザには、デフォルトでは、ユーザーの担当範囲の最新 50 件のメッセージが表示されます。このデフォルト値を変更すれば、表示されるメッセージの数を調整できます。さらに、メッセージフィルターを適用して、フィルターに一致するメッセージのみを表示させることもできます。

HPOM では、メッセージフィルターは次の 2 種類に大別されます。


□ メッセージブラウザフィルター

メッセージブラウザフィルターは、データベースからメッセージを読み取ってメッセージブラウザに表示するための 1 つ以上の条件から構成されています。メッセージブラウザのフィルター機能により、フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ、フィルター処理済履歴メッセージブラウザ、またはフィルター処理済ペンディングメッセージブラウザを作成することができます。ブラウザのタイトルバー表示に「**フィルター処理済**」という文字列が含まれている場合、そのブラウザにはフィルターがすでに適用されています。大かっこで囲まれている部分 (76 ページの図 1-23 では [Oracle]) がフィルターの名前です。

メッセージブラウザフィルターは、管理サーバーで処理されます。これにより、Java GUI クライアントと管理サーバー間でやり取りされるメッセージ数が少なくなり、ネットワークトラフィックが軽減されます。ただし、フィルター処理を実行する管理サーバーのワークロードが大きくなる可能性もあります。

□ メッセージ表示フィルター

メッセージ表示フィルターを使うと、メッセージを一時的に隠すことができます。このフィルターは、ロード済みのメッセージからどのメッセージを既存のメッセージブラウザに表示するかを指定する条件とルールで構成されています。ロード済みのメッセージには、メッセージブラウザフィルターによって第 1 段階のフィルター処理が適用されていることがあります。その場合、メッセージ表示フィルターは、第 2 段階のフィルター処理として適用されます。

メッセージ表示フィルターアイコン  がメッセージブラウザ自身およびメッセージブラウザヘッダーに表示されている場合、そのメッセージブラウザには、すでにメッセージ表示フィルターが適用されています。76 ページの図 1-23 は、フィルター処理済アクティブメッセージブラウザの例です。この例では、[アプリケーション] メッセージブラウザカラムと [オブジェクト] メッセージブラウザカラムにメッセージ表示フィルターが適用されています。

メッセージ表示フィルターの処理は、Java GUI クライアントで実行されます。その結果、管理サーバーからメッセージを追加送信する必要がないため、メッセージブラウザフィルターより高速に処理されます。

注記

すべての履歴メッセージを表示する履歴メッセージブラウザに、メッセージ表示フィルターを最初に適用する場合は、フィルターの適用前にすべての履歴メッセージをデータベースから取り込む必要があるため、管理サーバーのメモリー使用量が大きくなる可能性があります。履歴メッセージブラウザについての詳細は 77 ページの「フィルター処理済履歴メッセージブラウザ」を参照してください。アクティブメッセージブラウザ、またはペンディングメッセージブラウザにメッセージ表示フィルターを適用する場合には、この問題は発生しません。

フィルターは保存して、必要になったときに再利用することができます。管理者は、すべてのオペレータが利用できるグローバルフィルターを作成できます。オペレータが作成した個人用フィルターは、そのオペレータ専用です。

フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ

フィルター処理済アクティブメッセージブラウザには、担当するメッセージにメッセージブラウザフィルターを適用した結果が表示されます。

フィルター処理済アクティブメッセージブラウザを使って、アクティブメッセージブラウザと同じように、選択したメッセージに対して作業できます。フィルター処理済アクティブメッセージブラウザは、アクティブブラウザに表示されるメッセージをカスタム表示するものです。アクティブメッセージブラウザの場合には、管理対象ノードとメッセージグループに属するすべてのメッセージが表示されますが、フィルター処理済アクティブメッセージブラウザには、表示させたいメッセージのみが表示されます。

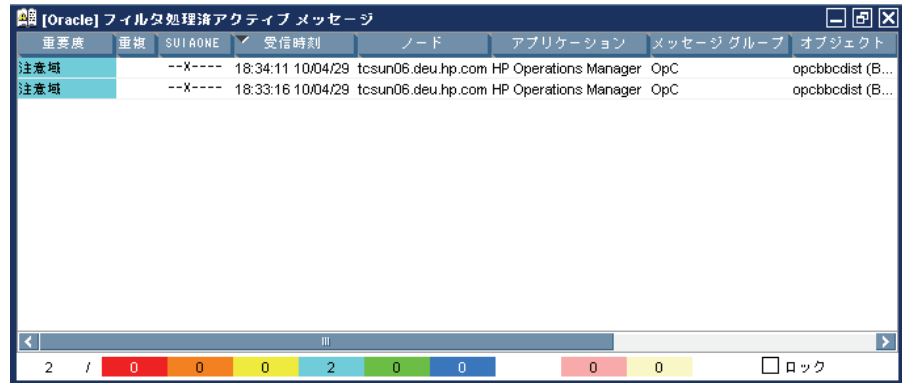
注記

アクティブメッセージブラウザにロードするメッセージの最大数を制限することができます。そのためには、[一般] タブの [表示設定] ウィンドウで設定します。詳細は 547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」を参照してください。

図 1-23 は、メッセージ表示フィルターを適用したフィルター処理済アクティブメッセージブラウザの例です。

図 1-23

フィルター処理済アクティブメッセージブラウザのアクティブメッセージ



フィルター処理済アクティブメッセージブラウザでは、最も重要度の高いメッセージだけを表示するように設定できるので、すぐに対応が必要なメッセージに注意を集中できます。

□ 特定のメッセージの選択

フィルター処理済メッセージブラウザに表示するメッセージを、メッセージブラウザ内で選択できます。

□ メッセージブラウザフィルターの定義

担当するメッセージのサブセットだけを表示するように、メッセージブラウザフィルターを設定できます。

□ メッセージ表示フィルターの定義

表示済みメッセージのサブセットだけを表示するように、メッセージ表示フィルターを設定できます。

フィルター処理済アクティブメッセージブラウザでは、アクティブメッセージブラウザと同じ機能を使うことができます(たとえば、メッセージを生成したノード上でオペレータ起動アクションを実行したり、ツールを起動することなど)。

注記

メッセージブラウザのカスタマイズ方法は、213 ページの「メッセージブラウザカラムのカスタマイズ」を参照してください。

フィルター処理済履歴メッセージブラウザ

メッセージは受諾されると、アクティブメッセージブラウザから削除されて履歴データベースに入ります。フィルター処理済履歴メッセージブラウザは、現在担当しているメッセージグループのすべての受諾メッセージを表示します。

フィルター処理済履歴メッセージブラウザを使うと、これらのメッセージを表示して受諾解除できます。以前にどのように障害を解決したか調べたいときには、受諾メッセージを見ると便利です。

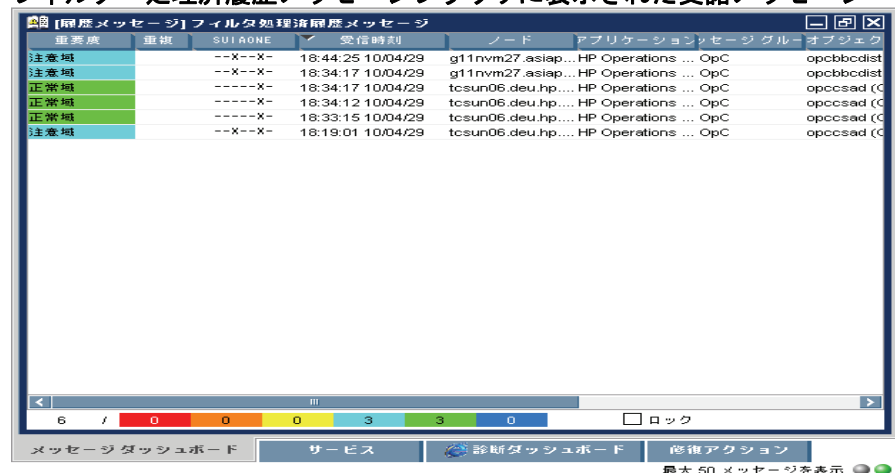
履歴メッセージは、キャッシュからではなくデータベースからダウンロードされるので、フィルター処理済履歴メッセージブラウザを開くのに時間がかかることがあります。ダウンロード中は、Java GUI を他の作業に使うことができません。履歴メッセージのダウンロード中に Java GUI にアクセスする必要がある場合は、ダウンロードをキャンセルし、必要な履歴メッセージをよりの確に検出できるようにメッセージブラウザフィルターの条件を変更することができます。

また、履歴メッセージブラウザに表示されるメッセージの最大数も制限できます。

図 1-24 は、フィルター処理済履歴メッセージブラウザに表示された受諾メッセージを示しています。

図 1-24

フィルター処理済履歴メッセージブラウザに表示された受諾メッセージ



注記

選択したメッセージに新しい履歴フィルターを作成することができます。新しい履歴フィルターを作成するためのメニュー項目には、以下のいずれかの方法でアクセスできます。

- 選択したメッセージ上で右クリック (ポップアップメニュー)
 - メニューバーから [アクション: メッセージ] を選択
-

フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザ

フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザは、他のフィルター処理済ブラウザと同じように起動できます。フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザには、定義した**サービス時間**外に届いたためにバッファされたメッセージが表示されます。

ペンディングメッセージを操作したい場合は、まずそのメッセージに対して**バッファ解除 (unbuffer)**する必要があります。バッファ解除されたメッセージは、ペンディングメッセージブラウザからアクティブメッセージブラウザに移動し、通常の作業ができるようになります。フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザにあるメッセージに対しては、実行できるアクションが限られており、メッセージの保存や印刷、バッファ解除や受諾などしか行うことができません。ペンディングメッセージを受諾し、それに対して注釈の追加と変更ができます。

注意

ただし、メッセージに関する操作はアクティブメッセージブラウザでのみ行うことをお勧めします。

フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザに、次の 2 つの理由のどちらかにより、メッセージが 1 つもないことがあります。

□ サービス時間内

サービス時間内で作業中に、すべてのメッセージがアクティブメッセージブラウザに入っている。

□ サービス時間外

サービス時間外に到着したメッセージをバッファするように、HPOM の管理者が HPOM に設定をしていなかった。

注記

フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザ内のメッセージの重要度レベルは、[ノード] フォルダーおよび [メッセージグループ] フォルダーなどのステータスの伝達に影響しません。

統合 Web ブラウザ

バックグラウンドで外部 Web ブラウザを実行する代わりに、HPOM Java GUI で好きな Web ブラウザを実行できます。そうすれば 1 つの統合インタフェース内で、イントラネットサイトへのアクセス、ビジネスに関連した情報のインターネット検索、HPOM メッセージブラウザの閲覧ができます。統合 Web ブラウザは、HPOM Java GUI のワークスペースペインに表示されます。

Web ブラウザの表示設定は、[表示設定] ダイアログボックスの [Web ブラウザ] タブで行います (図 1-25)。

図 1-25

[表示設定] ウィンドウの [Web ブラウザ] タブ



次のブラウザが選択できます。

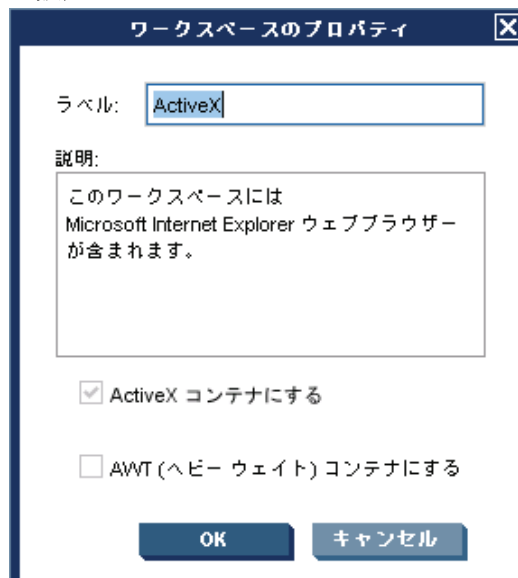
□ 外部 Web ブラウザ

Microsoft Internet Explorer や Mozilla Firefox のような外部の Web ブラウザにアクセスできます。

□ ActiveX コントロール

[ワークスペースのプロパティ] ウィンドウで [ActiveX] タブを作成 (図 1-26 を参照) すれば、Microsoft Internet Explorer の ActiveX コントロールにアクセスできます。[ActiveX] タブを作成するときは、[ActiveX コンテナにする] チェックボックスが選択されているかどうかを確認してください。

図 1-26 [ワークスペースのプロパティ] ウィンドウでの ActiveX ワークスペースの設定



メニューバー

メニューバーは、Java GUI の上端にある帯状のバーで、プルダウンメニューを表示します(図 1-28)。これらのメニューを使って、Java GUI で操作ができます。

図 1-28

メニューバー



ツールバー

ツールバーはメニューバーのすぐ下にあり、アイコンが並んでいます (図 1-29)。ツールバーから、オブジェクトペイン、ワークスペースペイン、ブラウザペインにあるオブジェクトに対して操作を選択できます。

図 1-29

ツールバー



ツールバーは次のコンポーネントに分かれています。

- メッセージブラウザツールバー
- メッセージツールバー
- サービスツールバー

これらのコンポーネントは、並べ変えたり隠すことができます。詳細は 292 ページの「ツールバーのカスタマイズ」を参照してください。

サービスに移動

[サービスに移動] ドロップダウンリストは、サービスツールバーの一部です。このドロップダウンリストには、現在 Java GUI キャッシュ内にあるサービスがすべて含まれており、選択したサービスグラフ内に表示できます。[サービスに移動] ドロップダウンリストは、サービスグラフ内だけで移動する場合に使用できます。

このリストでサービスを選択し、[サービスに移動] ツールバーボタンをクリックすると、そのサービスはサービスグラフの中央に表示されます。他のサービスはその周囲に配置されます。

注記

[サービスに移動] ドロップダウンリストは、ツールバー以外からは使用できません。

ポジションコントロール

ポジションコントロールはツールバーのすぐ下にあり、水平バーがついた細い帯です(図 1-30)。このバーを使って、ショートカットバーやオブジェクトペインを水平方向に移動できます。

図 1-30

ポジションコントロール



デフォルトでは、ポジションコントロールは表示されません。表示するには、メニューバーで [表示 : ポジションコントロール] を選択します。また、表示されているポジションコントロールを非表示にするには、メニューバーで [表示 : ポジションコントロール] の選択を解除します。

ポップアップメニュー

HPOM では、Java GUI の主なエリアでポップアップメニューが表示されます。

□ ショートカットバー

ショートカットバーのポップアップメニューの概要は、87 ページの「ショートカットバーのポップアップメニュー」を参照してください。

ショートカットバーそのものの概要は、45 ページの「ショートカットバー」を参照してください。

□ オブジェクトペイン

オブジェクトペインのポップアップメニューの概要は、88 ページの「オブジェクトペインのポップアップメニュー」を参照してください。

オブジェクトペインそのものの概要は、48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

□ ワークスペースペイン

ワークスペースペインのポップアップメニューの概要は、89 ページの「ワークスペースペインのポップアップメニュー」を参照してください。

ワークスペースペインそのものの概要は、59 ページの「ワークスペースペイン」を参照してください。

□ ブラウザペイン

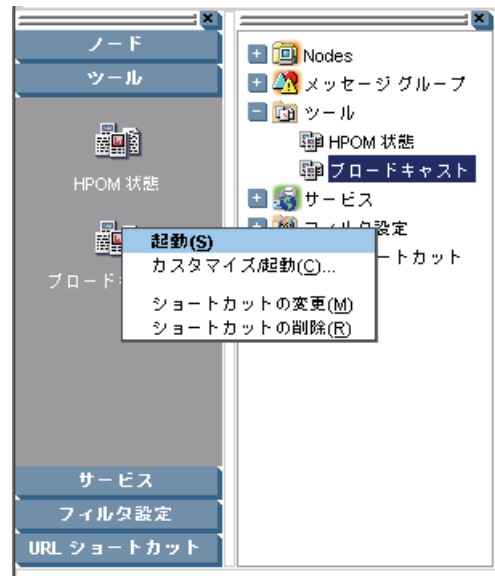
ブラウザペインのポップアップメニューの概要は、91 ページの「ブラウザペインのポップアップメニュー」を参照してください。

ブラウザペインそのものの概要は、68 ページの「ブラウザペイン」を参照してください。

ショートカットバーのポップアップメニュー

図 1-31 は、ショートカットバーで選択したツール用のポップアップメニューです。このメニューにアクセスするには、ショートカットバー上のアイテムを右クリックします。

図 1-31 ショートカットバーで選択したツールのポップアップメニュー



注記

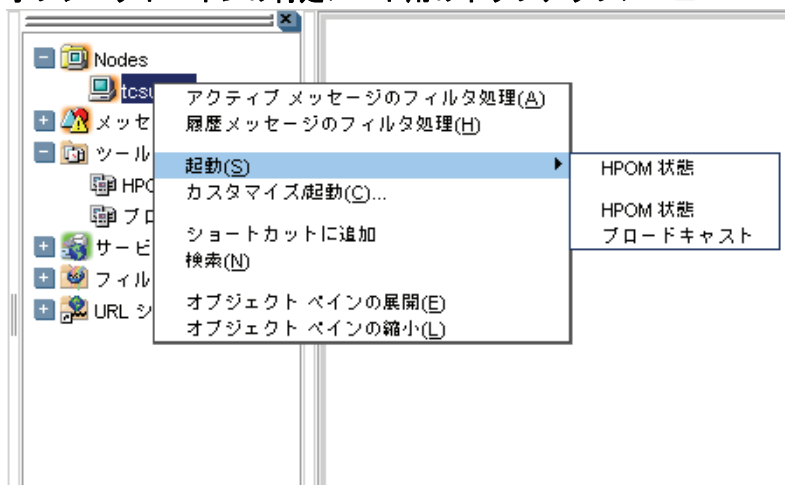
ショートカットバーについては、45 ページの「ショートカットバー」を参照してください。

オブジェクトペインのポップアップメニュー

オブジェクトペインのポップアップメニューは、選択しているオブジェクトに応じて異なります。たとえば、サービスのポップアップメニューは、ノードのポップアップメニューとは別のメニューです。

図 1-32 は、オブジェクトペインのポップアップメニューから定義済みのレポートを作成する方法を示しています。このメニューにアクセスするには、オブジェクトペインのアイテムを右クリックします。

図 1-32 オブジェクトペインの特定ノード用のポップアップメニュー



注記

オブジェクトペインについては、48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

ワークスペースペインのポップアップメニュー

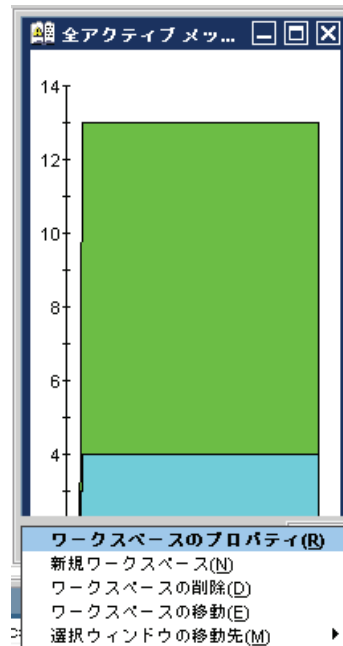
ワークスペースペインには2種類のポップアップメニューがあります。

□ タブメニュー

このメニューにアクセスするには、ワークスペースペインの一番下にあるタブを右クリックします(図 1-33)。

図 1-33

ワークスペースペインのタブ上のポップアップメニュー



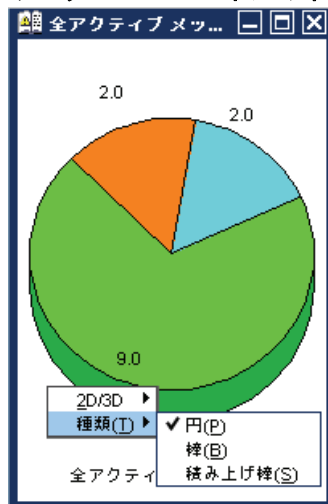
日常作業
ポップアップメニュー

□ ワークスペースメニュー

このメニューにアクセスするには、ワークスペースペインのワークスペース部分を右クリックします (90 ページの図 1-34)。

図 1-34

ワークスペースペインのポップアップメニュー



ブラウザペインのポップアップメニュー

図 1-35 は、ブラウザペインでツールを起動するときのポップアップメニュー（操作内容に合わせて変わる）を示しています。このメニューにアクセスするには、ブラウザペインのメッセージを右クリックします。

図 1-35 メッセージブラウザのポップアップメニューからツールを起動する



注記

ブラウザペインについては、68 ページの「ブラウザペイン」を参照してください。

取り外したウィンドウ

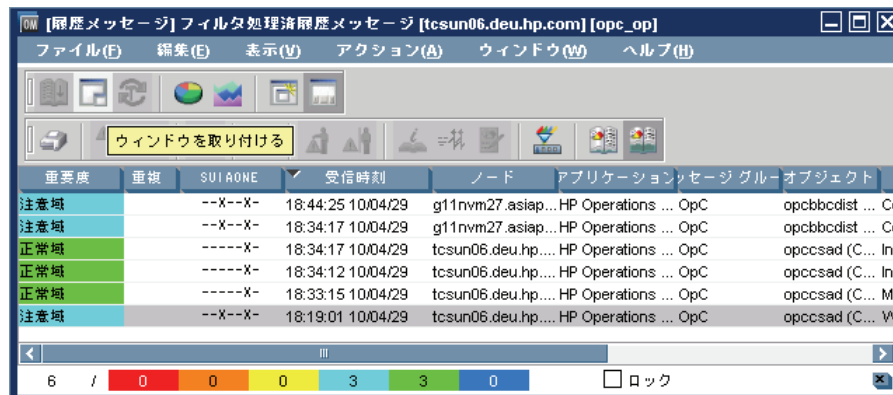
取り外したウィンドウとは、Java GUI のメインウィンドウから切り離されたウィンドウで、独立して移動できます。ウィンドウを取り外すと、たとえば別のモニターの画面内までウィンドウを広げるなどコンピュータ画面領域を有効活用する、またはコンピュータで他のことをしながらもウィンドウの内容をモニターするなど役に立ちます。

取り外すことができるウィンドウは、メッセージブラウザ、サービスグラフ、サービスサブマップ、カスタムサービスマップの 4 種類です。ウィンドウを取り外すには、そのウィンドウを選択し、メインツールバーの **[ウィンドウを取り外す]** アイコンをクリックします。取り外したウィンドウは HPOM によって画面中央に配置され、ウィンドウ内にメニューとツールバーが追加されます。

図 1-36 は、取り外したメッセージブラウザを示しています。取り外したウィンドウをメインウィンドウに再度取り付けるには、取り付けるウィンドウを選択し、そのウィンドウのツールバーにある **[ウィンドウを取り付ける]** アイコンをクリックします。

図 1-36

取り外したメッセージブラウザ



取り外したウィンドウとその設定、および位置情報は、コンソールセッション設定の一部として保存されるため、Java GUI セッションを次回開始する際には、取り外された状態で元通りに復元されます。

取り外したウィンドウで、次のウィンドウコンポーネントを一時的に非表示にすると、情報の表示領域をさらに広げることができます。

- メニューバーとツールバー
- メッセージブラウザのステータスの概要エリア
- メッセージブラウザの水平スクロールバー

ヒント

取り外したウィンドウとメインウィンドウに表示されているメッセージやサービスに対する操作を行うには、**CTRL** キーを使用して、両方のウィンドウ内で複数のオブジェクトを選択します。

HPOM GUI 起動メッセージの作成

NIST 800-37 標準によれば、起動時にアプリケーション(ツール)の使用
方法と限界について示すことになっています。これは、ツールの起動前に
警告メッセージを表示して行います。

この HPOM GUI 起動メッセージに独自のテキストを含めることができま
す。また、このメッセージを表示することも、しないこともできます。

重要

HPOM GUI 起動メッセージのカスタマイズ、編集、または変更は、root
ユーザー以外はできません。

HPOM GUI 起動メッセージが有効になっている場合は、ログオンウィ
ンドウの表示後にそのメッセージが表示されます。このメッセージ内の契約
に合意が得られた場合、HPOM が起動します。合意が得られなかった場合
は、直ちにログオンシーケンスは停止します。

HPOM GUI 起動メッセージが無効になっている場合は、ログオンウィ
ンドウを表示して直ちに HPOM が起動します。

HPOM GUI 起動メッセージ作成の詳細と、考慮しておくべき前提条件は、
『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

ドラッグアンドドロップ操作

ドラッグアンドドロップ操作を使うと、Java GUI での作業が簡単になります。Java GUI では、次のドラッグアンドドロップ操作ができます。

- Java GUI 内でのドラッグアンドドロップ操作
- Java GUI と他のアプリケーションとの間のドラッグアンドドロップ操作

注記

Java GUI のドラッグ操作には、ドラッグ対象に応じて 2 通りの方法があります。ドラッグモードの詳細は 103 ページの「ドラッグモード」を参照してください。

Java GUI 内でのドラッグアンドドロップ操作

次の 2 つのカテゴリ (ソースとターゲット) のコンセプトに従って、ドラッグアンドドロップ操作ができます。

- ソース

Java GUI エリアで、そこからオブジェクトをドラッグできる。

- ターゲット

Java GUI エリアで、そこにドラッグしたオブジェクトをドロップできる。

96 ページの表 1-1 に、ドラッグアンドドロップ操作が可能なソースとターゲットを示します。ドラッグアンドドロップ操作が可能なソースとターゲットのペアでは、この操作に関連した基本的なアクションがあります。そのアクションについては、96 ページの「ソースと標準ドラッグ操作」と 97 ページの「ターゲットとドロップ関連のアクション」を参照してください。

表 1-1 サポートしているドラッグアンドドロップ操作

ターゲット ソース	ショート カットバー	ワーク スペース ペイン	ワーク スペース タブ	オブジェクト ペイン	フィルター ウィンドウ
オブジェクト ペイン	✓	✓	✓	N/A	✓
ショート カットバー	✓	✓	✓	N/A	✓
ワーク スペースタブ	N/A	N/A	✓	N/A	N/A
クライアント ウィンドウ	N/A	N/A	✓	✓	N/A
サービス グラフ	✓	✓	✓	N/A	✓

ソースと標準ドラッグ操作

オブジェクトをそこからドラッグできる Java GUI エリアはすべて、ソースとして示されます。

注記

ソースからドラッグされたオブジェクトは、どのターゲットでも同じように表示されるわけではありません。どのように表示されるかは、ソースとターゲットのペアに関連するアクションによって変わります。ドラッグアンドドロップ操作の結果の詳細は 97 ページの「ターゲットとドロップ関連のアクション」を参照してください。

オブジェクトのドラッグを始めると、カーソルは操作の現状に応じて変換し、そのオブジェクトをターゲットにドロップ可能かどうかを示します。

ただし、標準のドラッグ操作が使えない場合があります。詳細は 103 ページの「特殊モードが必要なケース」を参照してください。

注記

複数のオブジェクトをソースからターゲットに同時にドラッグすることができます。

ターゲットとドロップ関連のアクション

ドラッグしたオブジェクトをドロップできる Java GUI エリアはすべて、ターゲットとして示されます。オブジェクトのドロップは、次の各表に示すアクションと関連付けられています。以降に、各ターゲットに対して可能なソースとアクションを示します。

注記

オブジェクトのドロップと関連付けられたアクションは、ほとんどがポップアップメニューおよび特定のターゲットエリアのメニューからも利用できます。

□ ショートカットバー

表 1-2 ショートカットバーへのドロップアクション

ソース	ドロップするオブジェクト	関連アクション
オブジェクトペイン	すべて	オブジェクトをショートカットとしてショートカットバーに追加する。
ショートカットバー	すべて	ショートカットをショートカットバー内で移動する。
サービスグラフ	サービス	サービスに対して新しいショートカットを作成し、ショートカットバーに追加する。

他にも、以下のようなショートカットバー内のオブジェクトをドロップできるエリアがあります。

- ショートカットペイン

ショートカットペイン内 (2 つのショートカットの間は除く) にドロップされたオブジェクトは、ショートカットペインの最後にショートカットとして追加されます。

- ショートカットペインで、2つのショートカット間

2つのショートカット間にドロップされたオブジェクトは、「挿入ライン」で示す位置にショートカットとして挿入されます。

- ショートカットグループボタン

オブジェクトをショートカットグループボタンにドロップすると、ショートカットグループが開きます。ドロップされたオブジェクトは、ショートカットグループの最後にショートカットとして追加されます。

ショートカットグループボタンの上にマウスを置くと、ショートカットグループが開きます。この機能は、オブジェクトのドロップ先となる適切なショートカットグループを選択するのに便利です。

- スクロールボタン

マウスをスクロールボタンの上に持っていくと、そのスクロールボタンに応じて上または下にスクロールします。この機能は、ショートカットバーに多数のショートカットがある場合、オブジェクトをドロップすべき位置を選択するのに便利です。

注記

ドラッグアンドドロップ操作で、ショートカットバー内のショートカットを並べ直すことができます。

□ ワークスペースペイン

表 1-3 ワークスペースへのドロップアクション

ソース	ドロップする オブジェクト	関連アクション
オブジェクト ペインと ショートカット バー	ノード	ワークスペースに、フィル ター処理済アクティブブラウザ を開く。
	ノードグループ	
	メッセージ グループ	
	フィルター	
	ルートサービス	サービスグラフを開く。
	サービス	
	ツール	ツールを起動してワーク スペースに開く。
	URL ショート カット	ワークスペースに Web ブラウ ザを開く。
ブラウザペイン タブ		メッセージブラウザをブラウ ザペインからワークスペース ペインに移動する。
サービスグラフ		サービスグラフをワークス ペースに開く。

□ ワークスペースタブ

表 1-4 ワークスペースタブへのドロップアクション

ソース	ドロップする オブジェクト	関連アクション
ワークスペース タブ		ソースとターゲットタブを切 り替える。

表 1-4 ワークスペースタブへのドロップアクション (続き)

ソース	ドロップする オブジェクト	関連アクション
クライアント ウィンドウ	すべて	クライアントウィンドウを現 在位置からターゲットのワー クスペースに移動する。

マウスをワークスペースタブの上に置くと、対応するワークスペースが開きます。この機能は、適切なワークスペースを選択して、そこにオブジェクトをドロップするのに便利です。

選択していないワークスペースタブにオブジェクトをドロップすると、そのタブが選択され、オブジェクトをドロップしたことで作成されるクライアントウィンドウを含むワークスペースが開きます。

注記

ワークスペースタブのポップアップメニューから [ワークスペースの移動] オプションを使えば、ワークスペースの位置を変更することができます。

□ ブラウザペイン

表 1-5 ブラウザペインへのドロップアクション

ソース	ドロップする オブジェクト	関連アクション
オブジェクト ペインと ショート カットバー	ノード	ブラウザペインに、フィルター処理済 アクティブブラウザを開く。
	ノード グループ	
	メッセージ グループ	
	フィルター	
クライアント ウィンドウ	メッセージ ブラウザ	メッセージブラウザをワークス ペーからブラウザペインに移動する。

注記

ブラウザペインにオブジェクトをドロップすると、直接メッセージブラウザを開くことができます。

□ オブジェクトペイン

表 1-6 オブジェクトペインへのドロップアクション

ソース	ドロップするオブジェクト	関連アクション
クライアントウィンドウ	メッセージブラウザ	メッセージブラウザの新しい個人用フィルターを作成し、オブジェクトペインに追加する。

□ フィルターウィンドウ

表 1-7 フィルターウィンドウへのドロップアクション

ソース	ドロップするオブジェクト	関連アクション
オブジェクトペインとショートカットバー	ノード	[シンボルとオブジェクト] タブのリストにノード名を追加する。
	ノードグループ	
	メッセージグループ	[シンボルとオブジェクト] タブのリストにメッセージグループ名を追加する。
	ルートサービス	[シンボルとオブジェクト] タブのリストにサービス名を追加する。
	サービス	
フィルター	オブジェクトペイン項目のフィルター設定プロパティをすべてウィンドウにコピーする。	
サービスグラフ		[シンボルとオブジェクト] タブのリストにサービス名を追加する。

Java GUI と他のアプリケーションとの間のドラッグアンドドロップ操作

Java GUI メッセージブラウザを、システムで実行されている他のアプリケーションにドラッグアンドドロップできます。

注記

他のアプリケーションのデータを Java GUI メッセージブラウザに転送することはできません。

図 1-37 は、メッセージブラウザのテキストを Microsoft Excel 形式で示したものです。

図 1-37 メッセージブラウザのテキスト (Microsoft Excel 形式)

A	B	C	D	E	F	G	H	
1	重要度 重複	SUJAONE	受信時刻	ノード	アプリケーション	メッセージ グループ	オブジェクト	メッセージ テキスト
2	Warning	--X----	19:18:16 04/09/07	bl 000	HP OpenView Operations	OpC	opomona (Monitor Agent)	モニタ 'distrib_mon' の
3	Normal	-----	19:09:40 04/09/07	bl 000	/usr/sbin/cron(k1 M) Clock Daemon	Job	17293	'at' を使用して root が
4	Major	--X----	19:08:35 04/09/07	bl 000	OpC Test	OpC	test	Second message
5	Normal	--X----	19:09:44 04/09/07	bl 000	HP OpenView Operations	OpC	ovoareqsd (Request Sender)	ノード bl 000 にセキュ
6	Normal	--X----	17:43:25 04/09/07	bl 000	HP OpenView Operations	OpC	opcbcdist (BBC config adapter)	次の設定情報は正常!
7	Warning	--X----	19:08:42 04/09/07	bl 000	SNMPTraps	SNMP	bl 000	ノード Down ケーパビ
8	Normal	--X----	19:08:35 04/09/07	bl 000	OpC Startup	OpC	Mgmt. Sv.	First message
9	Normal	--X----	19:08:07 04/09/07	bl 000	HP OpenView Operations	OpC	opcbcdist (BBC config adapter)	次の設定情報は正常!
10	Major	--X----	12:06:13 04/09/08	bl 000	SNMPTraps	SNMP	bl 000	ERROR: マスター・エー
11	Critical	--X--X-	12:12:06 04/09/08	bl 000	HP OpenView Operations	OpC	ovoareqsd (Request Sender)	Event/Action RPC se
12	Normal	--X----	18:50:32 04/09/07	bl 000	HP OpenView Operations	OpC	opcbcdist (BBC config adapter)	次の設定情報は正常!

E メールやその他のドキュメントに添付できるように、データをファイルに保存するには、Java GUI の [ファイル] メニューから [エクスポート] を選択します。

ドラッグモード

ドラッグアンドドロップ操作には、次のドラッグモードがあります。

□ 通常モード

標準的なドラッグ操作です。詳細は 96 ページの「ソースと標準ドラッグ操作」を参照してください。

□ 特殊ドラッグモード

標準的なドラッグ操作が使えない場合の、特殊なモードです。このような特殊例については、103 ページの「特殊モードが必要なケース」を参照してください。

特殊ドラッグモードにするには次の手順を実行します。

1. ドラッグ操作を行うクライアントウィンドウを選択します。
2. カーソルをクライアントウィンドウ内に置き、**CTRL+D** を押します。

このモードがオンになると、カーソルは「矢印」から「手」に変わり、標準的なドラッグ操作と同じ動作が行えます。

次のいずれかの操作を実行すると、特殊ドラッグモードから自動的に通常ドラッグモードに替わります。

- ドロップ操作の実行
- 特殊モードでドラッグを行ったクライアントウィンドウの外側にマウスを移動

もう一度 **CTRL+D** を押しても通常モードに戻ることができます。

特殊モードが必要なケース

次のものをドラッグするときは、特殊ドラッグモードを使用する必要があります。

□ クライアントウィンドウ

クライアントウィンドウは、ワークスペース (**ActiveX Web** ブラウザを除く) で開けるすべてのウィンドウが該当します。

クライアントウィンドウは、次のいずれかのタイプになります。

- アプリケーションの出力パネル
- メッセージブラウザチャート

- メッセージブラウザ
- サービスグラフ (影響を受けるサービスのグラフとサービスの障害原因グラフを含む)
- サービスサブマップとカスタムサービスマップ

クライアントウィンドウをワークスペース内でのみ移動する場合、標準ドラッグ操作を使用します。ワークスペースの外に移動するには、特殊ドラッグモードを呼び出す必要があります。特殊ドラッグモードの呼び出しは、103 ページの「ドラッグモード」を参照してください。

オブジェクトをウィンドウ内にドラッグすると、ドラッグアンドドロップ操作が開始されます。

□ サービスグラフとマップ内のサービス

サービスをサービスグラフまたはマップ内でのみ移動する場合、標準ドラッグ操作を使用します。サービスをサービスグラフまたはマップ外にドロップするには、特殊ドラッグモードを呼び出す必要があります。特殊ドラッグモードの呼び出しは、103 ページの「ドラッグモード」を参照してください。

注記

ドロップ操作は、選択したターゲットの位置によって異なります。可能なソースとターゲットのペアは、95 ページの「Java GUI 内でのドラッグアンドドロップ操作」を参照してください。

ドラッグ操作では次のことが可能です。

- *選択したサービスのドラッグ*

サービスを複数選択していた場合、そのうち 1 つをドラッグすると、選択されているすべてのサービスがターゲット位置に移動します。
- *選択していないサービスのドラッグ*

選択していないサービスをドラッグすると、一部に選択されているサービスがあっても、選択されていないサービスだけがターゲット位置に移動します。

注記

サービスの周りのエリアをドラッグした場合、サービスグラフまたはマップ全体がターゲット位置に、他のクライアントウィンドウの場合と同様に、移動します。

Cockpit View

HPOM Cockpit View は、Web ベースのインタフェースで、HPOM のモニター対象となる環境の状態を表示します。Cockpit View では、環境の状態と準備状況を迅速に把握でき、その情報を業務に役立てることができます。

Cockpit View は次の 2 つのメインパーツで構成されます。

- インジケータパネル

Cockpit View 上部の色付きのバーとゲージは、メッセージフィルターおよびメッセージフィルターのグループの状態を示します。これは、フィルター条件に一致するメッセージの状態に基づいています。

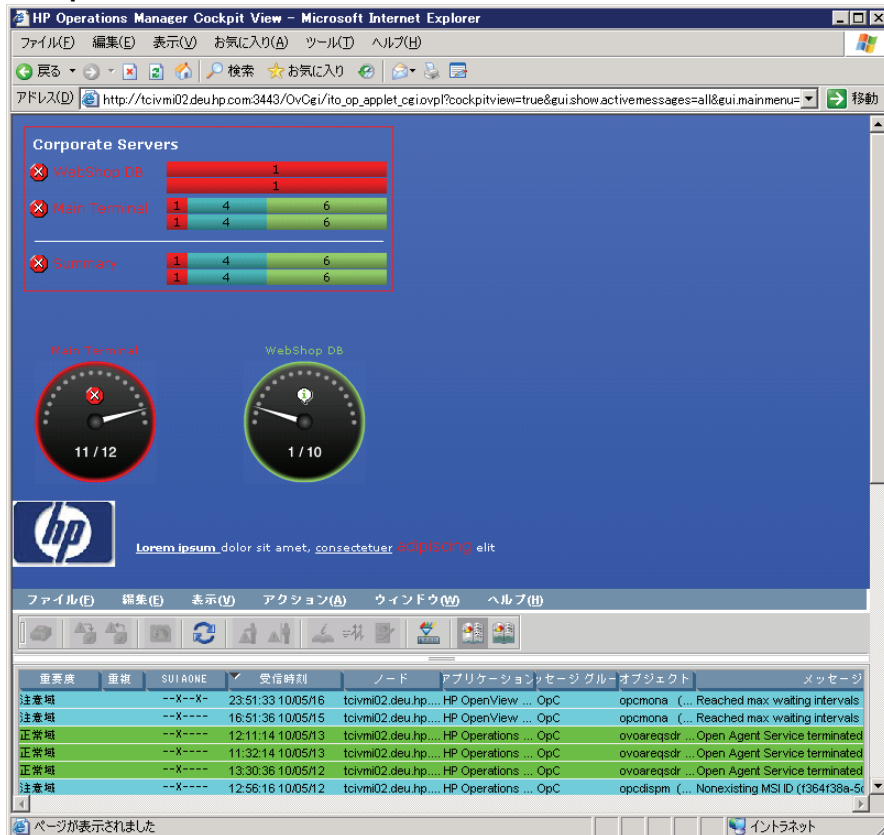
- メッセージブラウザ

Cockpit View の下部に Java GUI メッセージブラウザが表示されます。必要に応じて、メニューバーとツールバーも表示できます。

107 ページの図 1-38 は、Cockpit View の例です。

図 1-38

Cockpit View



メッセージフィルター

メッセージフィルターのステータスを表示するために、Cockpit View には次の要素が用意されています。

- アイコン

アイコンはメッセージフィルターの現在のステータスを表します。

- **名前、ラベル、背景**

メッセージフィルターのテキスト領域の名前、ラベル、背景は、メッセージフィルターの現在のステータスによって色付けすることができます。

- **メッセージバー**

上のメッセージバーには、重要度ごとの総メッセージ数が表示されます。下のメッセージバーには、重要度ごとの非所有メッセージ数が表示されます。

ハイフン (-) は、**Java GUI** がまだメッセージをロード中であり、フィルター条件が評価中であることを示します。また、指定したファイル名が存在しない場合にもハイフンが表示されます。バーに **0** メッセージと表示された場合は、現在フィルターの条件に一致するメッセージがないことを意味します。

指定したメッセージバーの幅が狭すぎると、メッセージバーが一部しか表示されなかったり、隠れてしまったりするので、一部の情報が隠れてしまいます。省略されたメッセージバーのツールチップを表示させると、すべての情報を確認できます。

ヒント

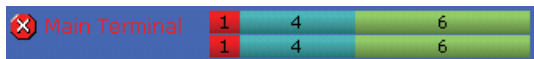
各要素に対して、ビューからの表示 / 非表示の設定が可能です。

メッセージフィルターのステータスは、最も重要度の高い非所有のメッセージと同じになります。

108 ページの図 1-39 では、75 の危険域メッセージがあるために、メッセージフィルター **Main Terminal** のステータスが危険域となっていることを表しています。

図 1-39

メッセージフィルター



✖ Main Terminal	1	4	6
	1	4	6

フィルター条件に一致するメッセージを表示するには、メッセージフィルターをクリックします。新しいメッセージブラウザタブが開き、メッセージが表示されます。

メッセージフィルターグループ

複数のメッセージフィルターをメッセージフィルターグループにまとめることができます。メッセージフィルターと同様に、メッセージフィルターグループにもアイコン、名前、ラベル、背景カラー、重要度ごとのメッセージ数を示すメッセージバーを表示できます (109 ページの図 1-40)。

図 1-40

メッセージフィルターグループ

Corporate Servers			
✖ WebShop DB			1
			1
✖ Main Terminal	1	4	6
	1	4	6
✖ Summary	1	4	6
	1	4	6

各メッセージフィルターグループに対して、アクティブメッセージ、ペンディングメッセージ、履歴メッセージ用のフィルターを表示するよう選択できます。

オプションとして、各メッセージフィルターグループで、グループの現在のステータスを示すステータスの件数表示を設定できます。メッセージフィルターグループは、フィルターの条件に一致するメッセージの総数を基にして、含まれるすべてのメッセージフィルターのメッセージを集計し、ステータスを計算します。

グループの件数表示をクリックすると、新しいメッセージブラウザタブが開き、メッセージフィルターグループのメンバーであるメッセージフィルターの条件に一致するすべてのメッセージが表示されます。

メッセージフィルターの要件

Cockpit View で使用するメッセージフィルターを Java GUI で設定する前に、フィルターが次の Cockpit View の要件を満たすことを確認してください。

- グローバルメッセージフィルター

Java GUI では、グローバルおよび個人用メッセージフィルターを定義できます。Cockpit View でメッセージフィルターを使用する場合、フィルターはグローバルタイプに設定する必要があります。グローバルフィルターの設定は管理者が行います。

- 名前付きメッセージフィルター

Cockpit View にメッセージフィルターを挿入するには、フィルターには HPOM 環境全体において一意の名前を付ける必要があります。

ヒント

Cockpit View でそれぞれの名前の付いたメッセージフィルターを表示するにはラベルを使用します。

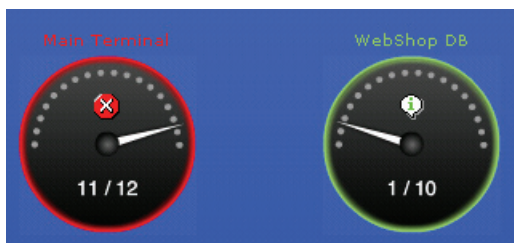
メッセージフィルターの設定の詳細は 55 ページの「フィルター設定」を参照してください。

状態ゲージ

状態ゲージでもメッセージフィルターを表示できます。状態ゲージにはアイコン、名前、ラベル、背景カラー、および最大値に関するメッセージ数を示すインジケータを表示できます (110 ページの図 1-41 を参照)。

図 1-41

状態ゲージ



各状態ゲージに対して、アクティブメッセージ、ペンディングメッセージ、履歴メッセージ用のフィルターを表示するよう選択できます。

状態ゲージでは、フィルターの条件に一致するメッセージ数が簡単にわかるようになっています。一連のしきい値とメッセージ数を比較し、それに応じて現在のステータスを計算します。

状態ゲージの設定では、方向、最大値、および基準となるしきい値を定義できます。状態ゲージは正の方向または負の方向のいずれかになります。正の方向とは、低い値の方が高い値よりも重要度が高くなっていることを表します。参照値は最大値（最良値）です。負の方向を選択した場合は、高い値の方が低い値よりも重要度が高くなっていることを表します。

しきい値は基準となるセグメントを定義します。しきい値を超過すると状態ゲージのステータスが変化します。

状態ゲージをクリックすると新しいメッセージブラウザタブが開き、該当するメッセージフィルターのメッセージが表示されます。

フリーテキスト領域

フリーテキスト領域とは **Cockpit View** 内にあるセクションで、入力するテキストが一行表示されます (111 ページの図 1-42 を参照)。テキスト行の内容、位置および形式を選択できます。

図 1-42

フリーテキスト領域



Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit

注記

フリーテキスト領域は静的であり、ステータス情報は表示されません。フリーテキスト領域では、テキストを選択できますが、クリックすることはできません。

イメージ

Cockpit View では自由にイメージを配置できます (111 ページの図 1-43 を参照)。イメージ、サイズおよび配置位置を選択できます。

図 1-43

イメージ



Cockpit View の起動

Cockpit View の設定手順については、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

Cockpit View を起動する手順は次のとおりです。

1. サポートしている Web ブラウザで、次の URL を入力します。

- 標準の接続

```
http://<management_server>:3443/OvCgi/ \
ito_op_applet.cgi.ovpl?cockpitview=true&view=<layout>
```

- セキュアな接続

```
https://<management_server>:3444/OvCgi/ \
ito_op_applet.cgi.ovpl?cockpitview=true&view=<layout>
```

<management_server> は、お使いの管理サーバーのホスト名に置き換えます。<layout> は、レイアウト設定ファイル名に置き換えます。(.xml ファイル拡張子は不要です。)

ヒント

次の URL では、HP の提供する Cockpit View のサンプルが起動します。

- 標準の接続

```
http://<management_server>:3443/OvCgi/ \
ito_op_applet.cgi.ovpl?cockpitview=true
```

- セキュアな接続

```
https://<management_server>:3444/OvCgi/ \
ito_op_applet.cgi.ovpl?cockpitview=true
```

2. オプション。Cockpit View の起動オプションをカスタマイズします。

説明は 113 ページの「Cockpit View 起動オプションのカスタマイズ」を参照してください。

注記

Cockpit View を起動すると、Java GUI クライアントが自動的に起動し、Cockpit View 内のアプレットとして実行されます。Java GUI の認証設定によっては、ユーザー名とパスワードが必要になる場合があります。詳細は 115 ページの「セキュリティと認証」を参照してください。

Cockpit View 起動オプションのカスタマイズ

起動オプションを使用すると、Cockpit View の初期設定をカスタマイズできます。

たとえば、次の設定が可能です。

- 再表示周期
- 表示されているアクティブおよび履歴メッセージの数
- メインメニューバーおよびツールバーの表示

Cockpit View の初期起動をカスタマイズするには、起動 URL のクエリパートに表 1-8 にリストされているオプションを追加します。

表 1-8 Cockpit View 起動オプション

オプション	説明	デフォルト
<code>gui.show.activemessages</code>	Java GUI がメッセージブラウザに表示しているアクティブメッセージの最大数。使用可能な値は <code>all</code> または整数 (1 ~ 20 億 -1)。	すべて
<code>gui.show.historymessages</code>	Java GUI がメッセージブラウザに表示している履歴メッセージの最大数。使用可能な値は <code>all</code> または整数 (1 ~ 20 億 -1)。	すべて
<code>gui.coloredmessagelines</code>	メッセージブラウザで、メッセージ行全体をカラー表示するか、重要度カラムだけカラー表示するか。使用可能な値は <code>true</code> または <code>false</code> 、 <code>yes</code> または <code>no</code> 、および <code>on</code> または <code>off</code> 。	<code>true</code>

表 1-8 Cockpit View 起動オプション (続き)

オプション	説明	デフォルト
gui.refresh	メッセージブラウザが再表示されるまでの周期 (秒)。使用可能は値は 5 ~ 86399。	15
gui.mainmenu	メニューバーを表示するかどうか。使用可能は値は true または false。	false
gui.toolbar.msgbrw	メッセージブラウザツールバーを表示するかどうか。使用可能は値は true または false。	false
gui.toolbar.msg	メッセージツールバーを表示するかどうか。使用可能は値は true または false。	false
gui.toolbar.svc	サービスツールバーを表示するかどうか。使用可能は値は true または false。	false

オプションは、アンパサンド記号 (&) で区切られた、名前と値のペアのリストとして渡されます。

- 標準の接続

```
http://<management_server>:3443/OvCgi/ito_op_applet CGI.  
ovpl?cockpitview=true&view=<layout>  
&<option>=<value>&<option>=<value>...
```

- セキュアな接続

```
https://<management_server>:3444/OvCgi/ito_op_applet CGI  
.ovpl?cockpitview=true&view=<layout>  
&<option>=<value>&<option>=<value>...
```

例:

```
http://managementserver.hp.com:3443/OvCgi/ito_op_applet CGI.  
ovpl?cockpitview=true&view=MyLayout  
&gui.refresh=15&gui.show.ActiveMessages=100
```

```
&gui.show.HistoryMessage=200&gui.ColoredMessageLines=true  
&gui.mainmenu=true&gui.toolbar.msgbrw=false  
&gui.toolbar.msg=true&gui.toolbar.svc=true
```

セキュリティと認証

Cockpit View は Java GUI のセキュリティおよび認証プロセスを使用します。

Java GUI のセキュリティ設定に応じて、Cockpit View にアクセスする前に次のいずれかの操作を実行する必要があります。

- HPOM サーバー証明書を受け入れます。
- [ログイン] ダイアログボックスに情報を入力します。

ファイアウォール環境

Cockpit View クライアントと管理サーバーの間にファイアウォールがある場合は、次のいずれかの操作を実行できます。

- Java GUI が直接管理サーバーにアクセスできるようにファイアウォールを設定します。
- 管理サーバーとのすべての通信に Java GUI がプロキシサーバーを使用するように設定します。

Java GUI のセキュリティ設定についての詳細は 218 ページの「セキュアな HTTPS 通信」を参照してください。

障害の解決プロセス

HPOM の障害の解決プロセスは次の手順で行われます。

1. 障害の検出

HPOM を使うと、メッセージブラウザとオブジェクトペイン内で障害が自動的に検出されるので、メッセージとノードステータスを調査してただちに障害管理作業に入ることができます。HPOM は障害の発生時点とその発生場所を正確に通知します。

詳細は 118 ページの「オペレータ環境での障害の検出」を参照してください。

2. 障害の調査

管理対象の環境で発生した障害は、通常、メッセージブラウザにメッセージで通知されます。メッセージには障害の発生場所、原因、解決策が示されています。

詳細は 130 ページの「オペレータ環境での障害の調査」を参照してください。

3. 障害の解決

障害通知を受け、その原因を調査した後、障害解決のために次のようなツールを利用できます。ただし、これらのツールは HPOM 管理者によって設定され、オペレータに割り当てられている必要があります。

- ツール
- 自動アクション
- ブロードキャストコマンド
- オペレータ起動アクション
- オペレータ指示
- ターミナルアクセス

詳細は 145 ページの「オペレータ環境での障害の解決」を参照してください。

4. 解決方法のドキュメント化

メッセージについて作業が完了したら、作業内容をドキュメント化し、メッセージをアクティブメッセージブラウザ、フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ、またはフィルター処理済ペンディングメッセージブラウザから削除します。これを行うには、メッセージ注釈を使って障害を解決した方法を記録し、その後メッセージを受諾して現在のワークエリアから削除し、履歴データベースに保存します。

詳細は **163** ページの「オペレータ環境での解決方法のドキュメント化」を参照してください。

オペレータ環境での障害の検出

HPOM を使えば、メッセージブラウザとオブジェクトペインの [ノード] フォルダーおよび [メッセージグループ] フォルダーで自動的に障害が検出されるので、メッセージとノードステータスを調査してただちに障害管理作業に入ることができます。HPOM は障害の発生とその発生場所を正確に通知します。

このセクションにより、HPOM が障害をどのように通知するかがわかります。

□ 環境のモニター

HPOM はメッセージを生成したノードを強調表示しますが、その方法を説明します。

□ オブジェクトペインの検索

検索機能を使ってノードを検索する方法を説明します。

□ メッセージイベントの通知方法

メッセージイベント通知の処理方法を説明します。

□ メッセージをメッセージブラウザに表示

メッセージブラウザでメッセージを表示する方法を説明します。

□ メッセージの効果的なブラウズ

メッセージブラウザを使って、障害を報告しているメッセージを識別する方法を説明します。

□ メッセージ重要度による色付け

HPOM は障害の重要度を色で表示しますが、その方法を説明します。

環境のモニター

HPOM の管理対象環境をモニターするためには、メッセージノードの表示、オブジェクトペインの検索、およびメッセージイベント通知への応答が利用できます。

□ メッセージノードを手動で表示

ショートカットバーとオブジェクトペインで、メッセージノードを手動でアクセスして表示できます。詳細は 227 ページの「メッセージノードを手動で表示」を参照してください。

□ メッセージノードを自動で表示

検出している障害に対応するメッセージノードを、自動でアクセスして表示できます。詳細は 228 ページの「メッセージノードを自動で表示」を参照してください。

□ オブジェクトペインを検索

基本検索機能または詳細検索機能を使って、オブジェクトツリー内の特定の項目を検索できます。詳細は 120 ページの「オブジェクトペインの検索」を参照してください。

□ メッセージイベント通知を表示

検出している障害に対応するメッセージを、自動でアクセスして表示できます。詳細は 121 ページの「メッセージイベントの通知方法」を参照してください。

オブジェクトペインの検索

基本検索機能または [検索] ウィンドウの詳細検索機能を使って、オブジェクトツリー内の特定の項目を検索できます。

注記

検索機能の使い方は、228 ページの「オブジェクトペインの検索」を参照してください。

基本検索 (図 1-44) では、オブジェクトツリー全体を検索できます。

図 1-44 オブジェクトツリーの基本検索

詳細検索 (図 1-45) では、オブジェクトツリーの中で選択したセクションを検索できます。

図 1-45 オブジェクトツリーの詳細検索

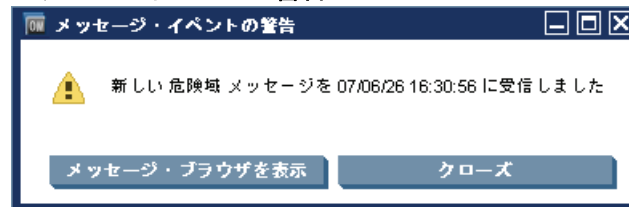
いずれの場合でも、検索は選択したアイテムからではなくオブジェクトツリーの先頭から行われます。

メッセージイベントの通知方法

メッセージイベント通知により、常に新しい重要度の高いメッセージを受信できます。この通知は、同時に多数のウィンドウを開いていたり、重要度の低いメッセージが多数送られてくる場合などに特に便利です。図 1-46 は、メッセージイベントの警告を示しています。

図 1-46

メッセージイベントの警告



メッセージイベント通知のウィンドウが表示された時の操作については、230 ページの「メッセージイベント通知の表示」を参照してください。メッセージイベント通知をカスタマイズする方法については、190 ページの「メッセージイベント通知のカスタマイズ」を参照してください。

メッセージをメッセージブラウザに表示

HPOM GUI を起動すると、ブラウザペインにメッセージブラウザが開き、割り当てられたノードからのすべてのアクティブなメッセージのうち最新の 50 件が自動的に表示されます。すべてのメッセージが表示されるように、表示するメッセージの数を変更できます。メッセージブラウザに表示されるメッセージの範囲をさらに絞るには、フィルター処理済メッセージブラウザを開き、選択したメッセージブラウザフィルターに一致するメッセージのみを表示します。また、メッセージ表示フィルターを定義して特定のメッセージをすぐに取り出すこともできます。

メッセージブラウザをロックすると、メッセージブラウザで新しいメッセージを受信しても、そのメッセージブラウザには現在作業中の古いメッセージを表示したままにできます。

メッセージブラウザにメッセージの、すべて、選択したもの、フィルター処理したもの、または古いもの、を表示する方法については、231 ページの「メッセージの表示」を参照してください。

メッセージの効果的なブラウズ

メッセージブラウザから次の情報が得られます。

- 障害はなにか
- 障害の深刻度
- 障害修復には、どの組み込みアクションを使うべきか

メッセージをブラウズする場合、着目すべき重要な情報をすばやく検索しながら、着信メッセージ用のメッセージブラウザを検索します。的確な検索方法を設定することによって、メッセージの管理作業を簡単に効果的に行うことができます。検索方法を設定するには、まず各自の環境で最も重要なメッセージを調べておきます。

このセクションでは、次のことを行う方法について説明します。

□ メッセージブラウザ内のメッセージの検索

優先順位 (priorities) と方針 (policies) を決めて、メッセージブラウザ内のメッセージを検索します。またメッセージがブラウザに表示された時点で、それぞれを読むこともできます。

□ ブラウザのカラム表示のカスタマイズ

各自の検索方法に適したメッセージ属性 (HPOM 管理者が設定) を選択できます。

メッセージブラウザ内のメッセージの検索

メッセージ検索では、たとえば次の優先順位と方針で、メッセージブラウザにあるメッセージを検索できます。

重要度

障害を表すメッセージを検索するには、重要度フラグを使います。重要度レベルはカラーによって分類されているので、すぐに検索できます。

アクション

オペレータ起動アクションを実行する必要があるメッセージを検索できます。

失敗

自動アクションまたはオペレータ起動アクションが正しく実行されなかったことを示すメッセージを検索できます(アクションの再実行を行うような障害に対して)。

プロシージャ

アクションの設定はないが、障害回避/回復のためにオペレータからの応答が必要なメッセージを検索できます。

所有権

所有しているメッセージを検索できます。

カスタムメッセージ属性

管理者が選択した特定の属性(顧客名、サービスレベル契約など)を持つメッセージを検索できます。

メッセージブラウザにメッセージが表示された時点で、それぞれを読むこともできます。メッセージの検索には、環境により別の方法を使う必要があることもあります。

それぞれの重要度、または所有権ごとのメッセージ総数は、それぞれのカラーバーに表示されます。

重要度と所有権のカラーバー、およびメッセージの表示にどのフィルターを使ったかが表示されます(図 1-47)。

図 1-47

メッセージ数と所有権の確認

重要度	重症	SUI CODE	受信時刻	ノード	アプリケーション	メッセージグループ	オブジェクト	メッセージテキスト
正常	--X----	12:54:56 10/04/08	tcsun06.deu.hp...	HP Operations Ma...	OpC	opcbcdist	...	次の設定情報は正常に分配されました。ノ...
正常	--X----	12:55:32 10/04/08	tcsun06.deu.hp...	HP Operations Ma...	OpC	ovoaareqsdr	...	オープンエージェントサービスが終了しま...
正常	--X----	12:55:53 10/04/08	tcsun06.deu.hp...	HP Operations Ma...	OpC	opcbcdist	...	次の設定情報は正常に分配されました。ノ...
正常	--X----	12:58:52 10/04/08	tcsun06.deu.hp...	HP Operations Ma...	OpC	ovoaareqsdr	...	オープンエージェントサービスが終了しま...
正常	--X----	12:59:00 10/04/08	tcsun06.deu.hp...	HP Operations Ma...	OpC	opcbcdist	...	次の設定情報は正常に分配されました。ボ...
注意	--X----	13:09:09 10/04/08	tcsun06.deu.hp...	HP OpenView Op...	OpC	opcmone	(...)	ポリシー 'mondrite' の処理中にエラーが起...

13 / 0 2 0 2 5 0 0 0

全アクティブメッセージ

ロック

最大 50 メッセージを表示

注記

所有権表示モードは、カラーがメッセージ所有権を示すのに使われるかどうか、さらに所有権状態カラーバーがメッセージブラウザに表示されるかどうかを決定します。所有権表示モードの詳細は 147 ページの「メッセージ所有権」を参照してください。

メッセージブラウザのメッセージバッファの下にあるカラーバーをチェックすると、各重要度レベルに関連するメッセージの数や、自分自身または別のオペレータによって所有またはマーク付けされたメッセージの数が確認できます。

注記

メッセージの重要度を示すカラーの詳細は 71 ページの「メッセージの色」を参照してください。

ノードステータスを検索方針 (scanning policy) の最優先度とする場合、メッセージブラウザと一緒にオブジェクトツリーの [ノード] フォルダーを使います。HPOM の設定によっては、オブジェクトツリーの各ノードアイコンのカラーは、ノードで発行された最も重要度の高いメッセージを反映したカラーに変化します。このカラーは、メッセージブラウザの重要度カラムで使われるカラーと対応しています。たとえばノードアイコンが赤 (危険域) に変化したことに気づいた場合、メッセージブラウザを検索して危険域フラグのあるメッセージを見つけ出します。

2 種類の読み取り専用メッセージがあります。S フラグは次のように設定されています。

- **N:** 通知メッセージ (これらのメッセージは受諾、受諾解除および注釈の追加が可能)
- **R:** メッセージはオペレータレベルで読み取り専用 (これらのメッセージは操作不可)

ブラウザのカラム表示のカスタマイズ

[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ウィンドウを使うと、自分の検索方法 (scanning policy) に適したメッセージ属性 (HPOM 管理者が設定) を選択できます。[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ウィンドウでは、メッセージブラウザから重要度と所有権のカラムを削除することはできません。

[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ウィンドウには 2 つのタブがあります。

一般

デフォルトのメッセージ属性から選択できます (125 ページの図 1-48)。

□ カスタム

HPOM 管理者によってすでに設定されているカスタムメッセージ属性を選択できます (126 ページの図 1-49)。カスタムメッセージ属性の概要は、135 ページの「カスタムメッセージ属性」を参照してください。

図 1-48 は、[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ウィンドウの [一般] タブを示しています。

図 1-48

[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ウィンドウの [一般] タブ

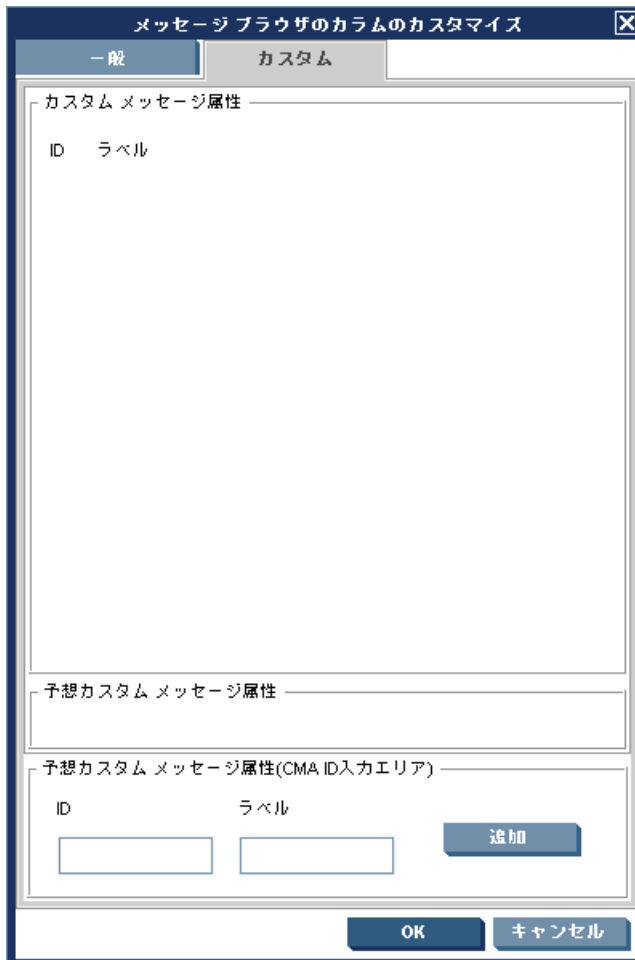
The screenshot shows a dialog box titled "メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ" (Message Browser Column Customization) with two tabs: "一般" (General) and "カスタム" (Custom). The "一般" tab is selected. The dialog contains a list of attributes with checkboxes and input fields for labels.

ID	ラベル
<input checked="" type="checkbox"/> アプリケーション	アプリケーション
<input checked="" type="checkbox"/> オブジェクト	オブジェクト
<input type="checkbox"/> サービスラベル	サービスラベル
<input type="checkbox"/> サービス名	サービス名
<input type="checkbox"/> ソース	ソース
<input checked="" type="checkbox"/> ノード	ノード
<input type="checkbox"/> バッファ解除時刻	バッファ解除時刻
<input checked="" type="checkbox"/> フラグ	SUIAONE
<input type="checkbox"/> メッセージ No.	メッセージ No.
<input type="checkbox"/> メッセージ キー	メッセージ キー
<input checked="" type="checkbox"/> メッセージ グループ	メッセージ グループ
<input type="checkbox"/> メッセージ タイプ	メッセージ タイプ
<input checked="" type="checkbox"/> メッセージ テキスト	メッセージ テキスト
<input type="checkbox"/> 作成時刻	作成時刻

Buttons: OK, キャンセル

図 1-49 は、[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ウィンドウの [カスタム] タブを示しています。

図 1-49 [メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ウィンドウの [カスタム] タブ



メッセージ重要度による色付け

最も重要度の高いメッセージにより、次の Java GUI コンテナの色が決まります。

□ ショートカットバー

ショートカットバーの色付けの詳細は 127 ページの「ショートカットバーとオブジェクトペインの色付け」を参照してください。

ショートカットバーそのものの概要は、45 ページの「ショートカットバー」を参照してください。

□ オブジェクトペイン

オブジェクトペインの色付けの詳細は 127 ページの「ショートカットバーとオブジェクトペインの色付け」を参照してください。

オブジェクトペインそのものの概要は、48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

□ ブラウザペイン

ブラウザペインの色付けの詳細は 129 ページの「ブラウザペインの色付け」を参照してください。

ブラウザペインそのものの概要は、68 ページの「ブラウザペイン」を参照してください。

ショートカットバーとオブジェクトペインの色付け

ショートカットバー (128 ページの図 1-50 を参照) とオブジェクトペイン (129 ページの図 1-51 を参照) では、次の要素は最も重要度の高いメッセージの色で表示されます。

□ ノード

□ メッセージグループ

□ サービス (Service Navigator がインストール済の場合)

最危険メッセージのステータスが [正常域] の場合、それを含む要素は緑色になります。たとえば、ショートカットバーとオブジェクトペインにあるノードに [正常域] のメッセージしかなければ、そのノードは緑色になります。そして [危険域] メッセージを受信すると、ノードのカラーが赤に変わり、このノードに起こった重大な障害を解決しなければならぬことを示します。

図 1-50 ショートカットバーのノードの色付け

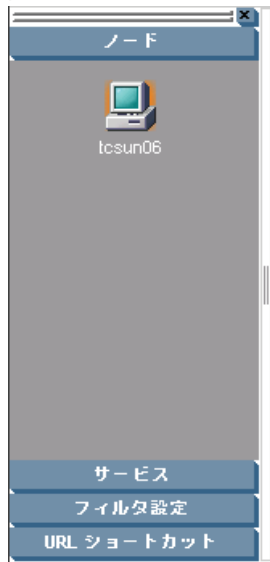


図 1-51 オブジェクトペインの色付け



ブラウザペインの色付け

ブラウザペインのタブには、そのメッセージブラウザ内で最も重要度が高いメッセージを示すアイコンが表示されています。それよりも重要度の高いメッセージがメッセージブラウザに到着すると、タブのアイコンも新しい重要度のメッセージを示すアイコンに変わります。たとえば、メッセージブラウザに [正常域] メッセージしかない場合は、タブには [正常域] を示すアイコンが表示されます。[危険域] メッセージを受信すると、タブのアイコンは [危険域] を示すアイコンに変化し、そのノードに起こった危険域の障害を解決しなければならないことを示します。

注記

ブラウザペインの色付けの詳細は 71 ページの「メッセージの色」を参照してください。

オペレータ環境での障害の調査

管理対象の環境で発生した障害は、通常、メッセージブラウザにメッセージで通知されます。メッセージには障害の発生場所、原因、解決策が示されています。ただし、すべてのメッセージが障害を意味しているわけではありません。たとえば、ユーザーログオンメッセージは、単にユーザーがシステムにログオンしたことを示しています。

このセクションにより、HPOM が障害をどのように通知するかがわかります。

□ メッセージブラウザでの障害の調査

ワークスペースペインまたはブラウザペインにあるメッセージを確認して、メッセージの基本情報を得る方法を説明します。また、[メッセージのプロパティ] ウィンドウを確認して、メッセージに関する詳細な情報を得る方法についても説明します。

□ メッセージ属性の調査

メッセージの詳細情報にアクセスする方法と、メッセージ属性から得られる情報について説明します。

□ メッセージ属性の変更

メッセージをより価値のあるものにするための、メッセージ属性の変更方法について説明します。

□ オリジナルメッセージテキストの確認

オリジナルのフィルター処理がされていないメッセージテキストの表示方法について説明します。

□ HPOM 変数の追加

アプリケーション (ツール) で使用できるメッセージ属性、カスタムメッセージ属性について説明します。

□ カスタムメッセージ属性

カスタムメッセージ属性とは何か、またそれらの確認方法について説明します。

- **メッセージダッシュボードでのメッセージの重要度表示**

メッセージの重要度を 2 通りの形式のいずれかで表示する方法について説明します。
- **サービスワークスペースを使って影響を受ける Service Navigator サービスの検索**

Service Navigator により、影響を受けるサービスを識別できます。その方法を説明します。
- **診断ダッシュボードでの HP Software 製品の使用**

統合製品を使って、障害を識別する方法について説明します。
- **メッセージ履歴の調査**

メッセージ履歴を障害の解決に役立てる方法について説明します。
- **ペンディングメッセージの調査**

どのような場合にペンディングメッセージで作業するのかについて説明します。

メッセージブラウザでの障害の調査

メッセージブラウザでは、次に示す方法によって障害を調査できます。

- **基本情報**

メッセージに関する基本的な情報を得るには、ワークスペースペインまたはブラウザペインでメッセージを確認します。最も重要な情報のみが表示されます。詳細は 240 ページの「メッセージをメッセージブラウザに表示」を参照してください。

メッセージに表示される情報はオペレータ側で変更できるほか、他のオペレータや HPOM の管理者に転送 (forward) できます。詳細は 240 ページの「他のオペレータへの HPOM メッセージの送信」を参照してください。
- **詳細情報**

[メッセージのプロパティ] ウィンドウには、メッセージに関する詳細な情報が表示されます。メッセージに関する情報は、指示、注釈、設定したアクションなど、すべて表示できます。詳細は 241 ページの「メッセージの詳細情報の確認」を参照してください。

メッセージ属性の調査

メッセージブラウザで重要な情報は、受信したメッセージです。メッセージバッファの各行には、1つのメッセージとその属性が表示されます。メッセージテキストを読むだけでなく、属性を読み取って理解することも大切です。

メッセージをダブルクリックすると [メッセージのプロパティ] ウィンドウが開きます。[メッセージのプロパティ] ウィンドウには、メッセージ属性を含むメッセージの詳細情報がすべて表示されます (73 ページの図 1-22 を参照)。

このウィンドウから、メッセージブラウザに示されている障害解決アクションを実行できます。たとえば、オペレータ起動アクションの実行、指示や注釈の表示、メッセージの受諾などです。さらにこのウィンドウからメッセージを印刷できます。

[変更...] ボタンはメッセージの属性を変更する権限を与えられている場合にのみ表示されます。

メッセージ属性の変更

[メッセージ属性の変更] ウィンドウでは、メッセージの重要度とメッセージテキストを変更できます(図 1-52)。

図 1-52 [メッセージ属性の変更] ウィンドウ



メッセージの重要度を変更する場合にこのウィンドウを使用します。

[メッセージ属性の変更] ダイアログボックスでは、オリジナルのメッセージテキストは変更されず、HPOM が表示するメッセージテキストのみが変更されます。変更はすべて自動注釈によって記録されます。

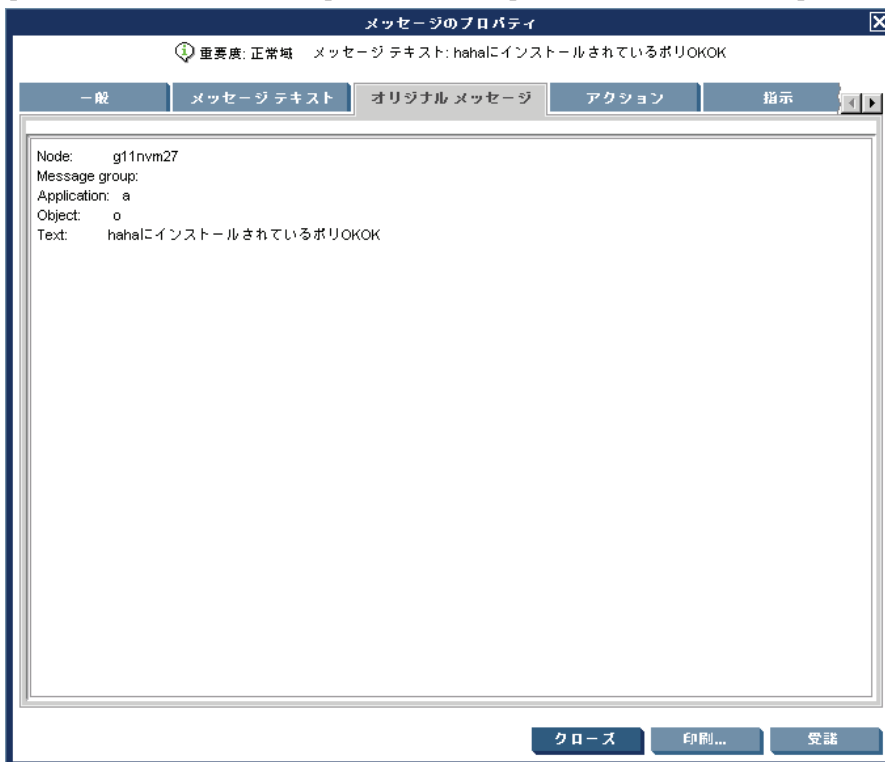
オリジナルメッセージテキストの確認

デフォルトのフィルター処理されていないメッセージテキストの表示は、[メッセージのプロパティ] ウィンドウのメッセージテキストが役に立たないときに便利です。

図 1-53 は、[メッセージのプロパティ] ウィンドウの [オリジナルメッセージ] タブの例を示しています。

図 1-53

[メッセージのプロパティ] ウィンドウの [オリジナルメッセージ] タブ



注記

メッセージにオリジナルのメッセージテキストがない場合は、[オリジナルメッセージ] タブに何も表示されません。

カスタムメッセージ属性

カスタムメッセージ属性は、HPOM 管理者が定義するメッセージ属性です。管理者が役に立つと思った情報を定義できます。一般的なカスタムメッセージ属性には、カスタム名である [Customer] やサービスレベル契約である [SLA] などがあります。

HPOM では、次のウィンドウでカスタムメッセージ属性を確認できます。

□ メッセージブラウザ (オプション)

カスタムメッセージ属性は、[メッセージブラウザ] ウィンドウに追加カラムとして表示されます。詳細は 136 ページの「カスタムメッセージ属性の表示」を参照してください。

□ メッセージのプロパティ (デフォルト)

[カスタム属性] タブに、現在利用できるカスタムメッセージ属性が表示されます。

カスタムメッセージ属性にしたがって、ブラウザ内のメッセージをソートできます。カスタムメッセージ属性に基づいて、フィルター処理済ブラウザを開くことができます。

注記

カスタムメッセージ属性をメッセージ関連の変数として使い、ツールの起動、オペレータ起動アクション、およびメッセージイベントの通知に利用することもできます。カスタムメッセージ属性は起動パラメータとして使われます。メッセージ関連の変数については、159 ページの「HPOM 変数の追加」を参照してください。

カスタムメッセージ属性の表示

カスタムメッセージ属性をメッセージブラウザに表示するように設定すると、追加カラムとして表示されます(図 1-54)。

図 1-54

メッセージブラウザに追加されたカスタムメッセージ属性のカラム

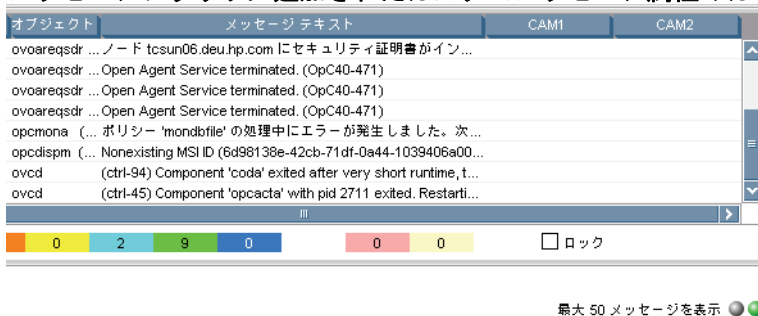
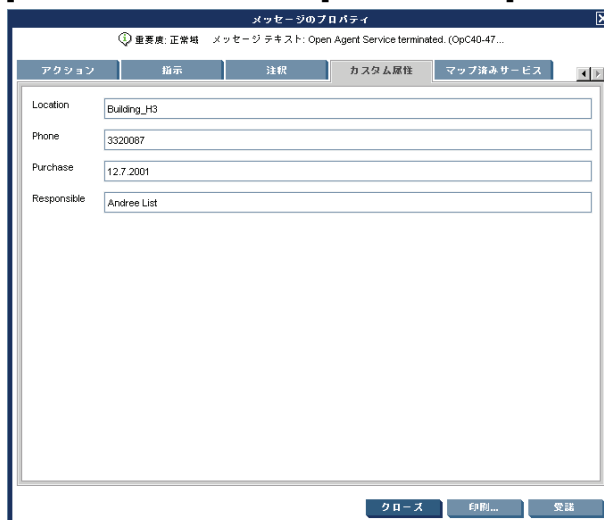


図 1-55 には、[メッセージのプロパティ] ウィンドウの [カスタム属性] タブに、利用可能なカスタムメッセージ属性が表示されています。

図 1-55

[メッセージのプロパティ] ウィンドウの [カスタム属性] タブ



ワークスペースペインでの障害の調査

ワークスペースペインを使い、次のようにして障害を調査できます。

❑ メッセージダッシュボード

メッセージの重要度を [メッセージダッシュボード] ワークスペースで確認できます。詳細は 137 ページの「メッセージダッシュボードでのメッセージの重要度表示」を参照してください。

❑ サービス

Service Navigator がシステムにインストールされ設定されていると、ワークスペースペインに [サービス] タブが表示されます。この [サービス] タブで、影響を受けるサービスを分析できます。

❑ 診断ダッシュボード

[診断ダッシュボード] を使用して、HPOM に統合された他のアプリケーション (ツール) にアクセスできます。これらのツールを使えば、障害をさらに診断できます。詳細は 141 ページの「診断ダッシュボードでの HP Software 製品の使用」を参照してください。

メッセージダッシュボードでのメッセージの重要度表示

ワークスペースペインの [メッセージダッシュボード] タブには、メッセージの重要度が次の 2 つの形式のいずれかで表示されます。

❑ 現況グラフ

現在選択しているメッセージブラウザ内の全メッセージの重要度を表示します。

詳細は 138 ページの「現況グラフ」を参照してください。

❑ 傾向グラフ

現在選択しているメッセージブラウザ内の全メッセージについて、重要度の変化を時系列に表示します。

詳細は 140 ページの「傾向グラフ」を参照してください。

ツールバーで、[現況グラフ表示に切り替える] と [傾向グラフ表示に切り替える] アイコンを使うと、2 つのチャートが切り替えられます。また、メッセージブラウザ、現況グラフ、傾向グラフから、オリジナルのブラウザと同じフィルターを持つ新しいメッセージブラウザを開くこともできます。

たとえば、アクティブメッセージブラウザを現況グラフに切り替えて、現在のメッセージの重要度をおおまかに把握することができます。次に新しいメッセージブラウザを開いて、メッセージを円グラフと比較できます。また、履歴メッセージブラウザでメッセージを分析することもできます。最後に、傾向グラフに切り替えれば、特定の日時に大量の危険域メッセージが到着していたが、障害を解決した後では危険域のメッセージが到着しなくなったことがわかります。

現況グラフ

現況グラフは、現在選択されているメッセージブラウザのすべてのメッセージに関する重要度を表示します。メッセージは重要度で分類され、色付けされて表示されます。グラフは、円グラフまたは棒グラフで、2次元(2D)または3次元(3D)形式で表示されます。

図 1-56 では、現況グラフを2次元(2D)の棒グラフで表示し、特定の重要度を持つメッセージの数を示しています。

図 1-56

現況グラフを棒グラフで表示

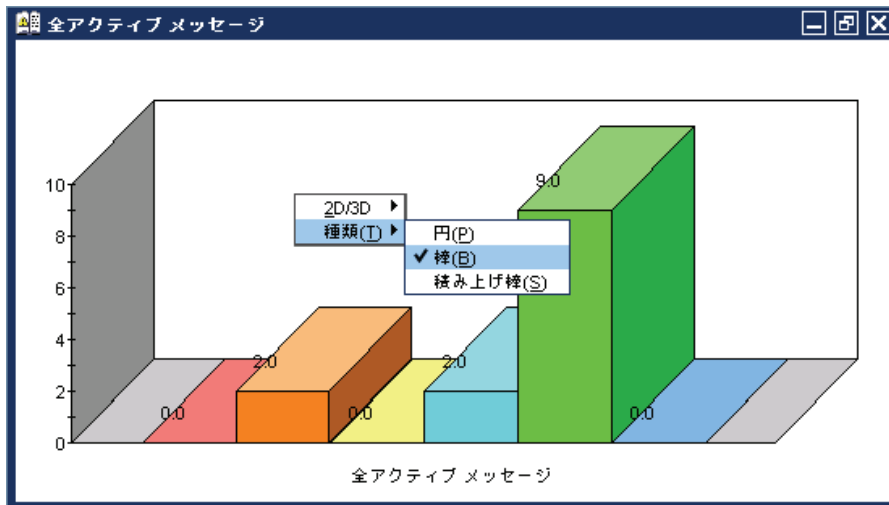
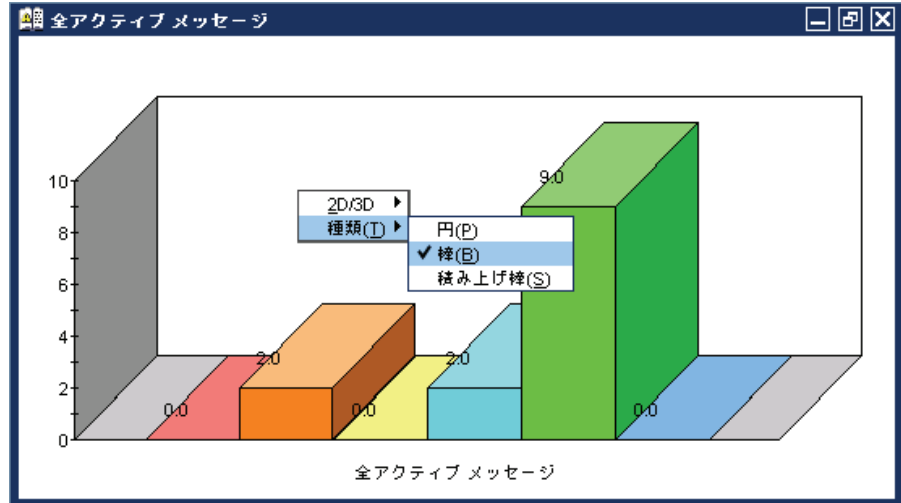


図 1-57 は、すべてのアクティブメッセージの現況グラフを、ポップアップメニューから 2 次元 (2D) の円グラフ表示にしたものです。

図 1-57

現況グラフを円グラフで表示

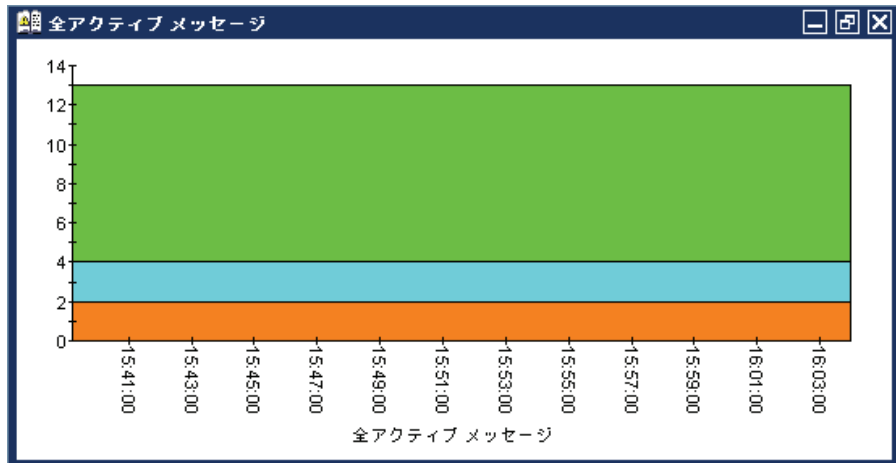


傾向グラフ

傾向グラフは、図 1-58 に示すように、現在選択されているメッセージブラウザのすべてのメッセージについて、重要度の時間変化を表示します。

図 1-58

重要度の時間変化を表示する傾向グラフ



メッセージは、最初のメッセージから最新のメッセージまで、重要度と時間間隔でグループ化されます。グループは線でつながれ、対応する重要度の色で表示されます。

傾向グラフの表示には次の 3 つの形式があり、傾向グラフのポップアップメニューから選択できます。

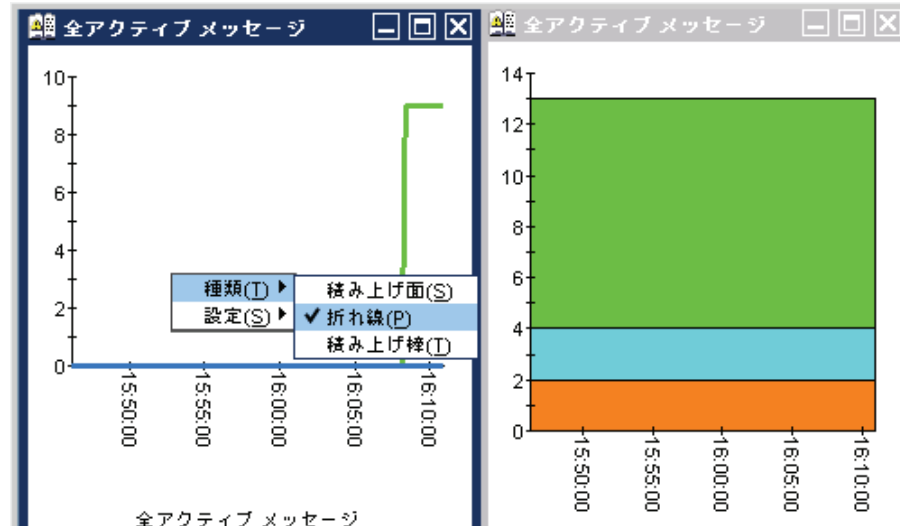
- 積み上げ面
- 折れ線
- 積み上げ棒

この 3 種類はすべて 2 次元 (2D) 形式でのみ表示されます。

図 1-59 には、2つの傾向グラフと対応するポップアップメニューを示します。

図 1-59

2つの傾向グラフと対応するポップアップメニュー



サービスワークスペースを使って影響を受ける Service Navigator サービスの検索

Service Navigator がシステムにインストールされ設定されていると、ワークスペースペインに [サービス] タブが表示されます。この [サービス] タブで、影響を受けるサービスを分析できます。

診断ダッシュボードでの HP Software 製品の使用

HPOM の上部に追加の HP Software ツールがインストールされることがあります。追加アプリケーションをインストールして設定すると、ワークスペースペインの [診断ダッシュボード] タブからそれらのアプリケーションにアクセスできます。詳細は 62 ページの「診断ダッシュボードワークスペース」を参照してください。これらのツールを使って障害を調査する方法は、それぞれのツールのドキュメントを参照してください。

メッセージ履歴の調査

77 ページの図 1-24 に示すように、フィルター処理済履歴メッセージブラウザには、**受諾**メッセージがすべて表示されます。受諾メッセージとは、作業を終了したメッセージや HPOM が履歴データベースに送ったメッセージのことです。

注記

フィルター処理済履歴メッセージブラウザについては、77 ページの「フィルター処理済履歴メッセージブラウザ」を参照してください。メッセージの受諾と自動受諾については、163 ページの「オペレータ環境での解決方法のドキュメント化」を参照してください。

フィルター処理済履歴メッセージブラウザは、障害を解決するためのリソースとして使います。たとえば、メッセージに対してアクションを実行する方法がわからない場合、同じまたは類似するメッセージが発生したときの履歴データを調べます。以前障害を解決した方法（多くの場合、メッセージの注釈として保存されています）を調べれば、現在の障害の解決策を考えることができます。HPOM 管理者は、どのメッセージがよく発生するかを調べるためにレポートを作成していることがあります。この場合、自動アクション、オペレータ起動アクション、または指示テキストを、メッセージを生成している障害の解決に利用できます。

[メッセージのフィルター処理] ウィンドウを使って一連のメッセージブラウザフィルターを定義し、フィルター処理済履歴メッセージブラウザを開くことができます(図 1-60 を参照)。

図 1-60 [メッセージのフィルター処理] ウィンドウ



注記

デフォルトでは、膨大な数のメッセージが入っている履歴メッセージブラウザを間違っって開かないように、[時間で] チェックボックスが選択されています。

必要な情報が正しく表示されるようにフィルター処理済履歴メッセージブラウザを設定したら、[ブラウザのフィルター設定の保存] ウィンドウを使って設定を再利用のため保存できます。これにより、設定したときの手順を繰り返さなくても、同じまたはよく似た情報を後で見ることができます。

[ブラウザのフィルター設定の保存] と [ブラウザ設定] ウィンドウの詳細は 213 ページの「メッセージブラウザカラムのカスタマイズ」を参照してください。

ペンディングメッセージの調査

フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザには、定義した**サービス時間**外に HP Operations 管理サーバーに届いたメッセージがすべて表示されます。メッセージは定義したバッファ解除時間になるまで、管理サーバー上に残ります。

ペンディングメッセージに対して次の処理を行うことができます。

□ 受諾

メッセージはフィルター処理済履歴メッセージブラウザに移動します。

□ バッファ解除 (手動または自動)

メッセージはアクティブメッセージブラウザに移動します。

注記

フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザの詳細は **79** ページの「フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザ」を参照してください。

オペレータ環境での障害の解決

障害通知を受け、その原因を調査した後、障害解決のために次のようなツールを利用できます。ただし、これらのツールは HPOM 管理者によって設定され、オペレータに割り当てられている必要があります。

- ツール
- 自動アクション
- ブロードキャストコマンド
- オペレータ起動アクション
- オペレータ指示
- ターミナルアクセス

このセクションにより、HPOM が障害をどのように解決するのかがわかります。

□ メッセージ所有権

メッセージ所有権が、メッセージ操作に与える影響について説明します。

□ 修復アクションワークスペースでのアクション結果の評価

自動アクションの結果を評価する場所と方法について説明します。

□ 自動アクションの確認と再実行

自動アクションの特性と再実行のタイミングについて説明します。

□ オペレータ起動アクションの起動と確認

オペレータ起動アクションの使い方について説明します。

□ オペレータ指示を読む

オペレータ指示の読み方とそれに従う方法について説明します。

□ ツールの起動とカスタマイズ

ツールの起動方法とカスタマイズ方法について説明します。

□ **他の Java アプリケーションからの Java GUI の操作**

Java GUI の一部の機能を他の Java アプリケーションからリモートで使用方法を説明します。

□ **HPOM 変数の追加**

アプリケーション呼出で HPOM 変数を使う方法について説明します。

□ **ブロードキャストコマンド**

複数のノードにコマンドをブロードキャストする方法について説明します。

□ **ターミナルアクセス**

仮想ターミナルで作業する方法について説明します。

注記

このセクションで説明する操作の中には、関連するメッセージの所有者だけが利用できるものもあります。メッセージ所有権については、147 ページの「メッセージ所有権」を参照してください。

メッセージ所有権

所有権 (ownership) が障害解決時の操作に与える影響を理解しておくことは重要です。HPOM 管理者は HPOM で選択できる所有権モードのうちの 1 つを選択し、所有権に対する方針を決めます。

所有権モード

HPOM には、デフォルトで次のようなメッセージ**所有権モード**があります。

□ オプション

オペレータは明示的にメッセージを所有します。メッセージの所有者は、メッセージに対して読み込み / 書き込みアクセスできます。

HPOM 管理者を除くその他のオペレータは、メッセージブラウザにこのメッセージが表示されている場合でもアクセスが制限されます。

このモードでは、メッセージの所有者だけが次のことを実行できます。

- メッセージに関連するオペレータ起動アクションの起動 / 停止
- メッセージに関連する自動またはオペレータ起動アクションの停止 / 再実行
- メッセージの受諾
- メッセージの受諾解除

□ 強制 (デフォルトモード)

メッセージに対して操作を行うときに、オペレータが明示的に所有していない (**unowned**) メッセージを所有するか、自動的にメッセージを所有するかどちらかを選択できます。

このモードでは次のことを実行すると、オペレータは自動的にメッセージを所有します。

- メッセージに関連するオペレータ起動アクションの起動 / 停止
- メッセージに関連する自動またはオペレータ起動アクションの停止 / 再実行
- メッセージの受諾解除

□ 情報

所有権の概念はマーク付け (marking) とマーク解除 (unmarking) の概念に置き換えられます。**マーク付け**メッセージは、オペレータがメッセージに注目したことを示します。メッセージのマーク付けはただの情報であり、オプションまたは強制モードのようにメッセージの所有権を制限したり変更したりするものではありません。オペレータは自分でマーク付けしたものを解除できます。HPOM 管理者はどのマークでも解除できます。

所有権表示モード

所有権表示モードにより、ステータス伝達 (status propagation) に影響するメッセージを所有するかマーク付けするかを決めます。

HPOM には、次の**所有権表示モード**があります。

□ ステータス伝達なし (デフォルトの表示モード)

メッセージが所有またはマーク付けされると、メッセージの重要度を示す色が変わり、メッセージブラウザの所有状態カラム (s) にフラグが表示されます。メッセージブラウザの所有状態カラーバーは、所有メッセージの新しい数を反映するようになります。所有またはマーク付けされたメッセージのステータスは、オブジェクトペインの [ノード] と [メッセージグループ] フォルダーのステータス伝達では無視されます。

たとえば、ある管理対象ノードに関連する [危険域] メッセージの唯一の所有権をあるオペレータが与えられた場合、[危険域] メッセージが関連する管理対象ノードは [危険域] を示す色 (デフォルトでは赤) ではなく、同じ管理対象ノードに関連するメッセージブラウザの中で重要度レベルの高い未所有の、次のメッセージのステータスが表示されます。

□ ステータス伝達

所有されているかどうかにかかわらず、すべてのメッセージのステータスは、他のサブマップウィンドウにある関連シンボルのステータスを決めるために使われます。このため上のような例では、1つの危険域のメッセージが関連する管理対象ノードは、メッセージが所有された後でも [危険域] を示す色 (デフォルトでは赤) となります。この表示モードでは、メッセージが所有されていることを示すのは、メッセージブラウザの所有状態カラムのフラグだけです。

修復アクションワークスペースでのアクション結果の評価

現在のコンピュータ環境を最適に維持するためには、アクションのステータスと結果を知る必要があります。アクションの**ステータス**は、アクションが利用可能かどうかと現在の実行状態で定義されます。

ステータスによってアクションの次の状態がわかります。

- メッセージに対して設定されているか
- まだ実行中か
- 成功したか
- 失敗したか

障害調査の最初に、アクションが利用可能かどうかを確認します。自動またはオペレータ起動アクションのどちらが利用可能なのか調べるには、メッセージブラウザと [メッセージのプロパティ] ウィンドウを使います。アクションの利用可能状況と実行状態は、メッセージブラウザの [フラグ] フィールドの下に表示されます。

修復アクション (**corrective actions**) は必ずしも成功するとは限らないので、障害を解決する上ではアクションの結果を評価することが不可欠です。修復アクションが必ず障害を解決するとは限りません。

次のガイドラインを使って、アクション結果をチェックします。

□ 注釈の確認

メッセージの注釈 (**annotation**) を確認します。設定されている場合、HPOM はアクションの `stdout` と `stderr` の出力を、自動アクションとオペレータ起動アクションの注釈として自動的に作成します。

□ オブジェクトステータスの確認

[ブロードキャスト] ツールを使ってスクリプトまたはコマンドをブロードキャストし、オブジェクトのステータスを確認し、[ブロードキャスト出力] ウィンドウで結果を確認できます。

自動アクションの確認と再実行

HPOM 管理者はメッセージに対して自動アクションを設定できます。このアクションはイベントが検出されるとすぐに自動的に開始されます。

自動アクションの確認

メッセージの自動アクションを確認するには、メッセージブラウザのステータスカラムをチェックするか、[メッセージのプロパティ] ウィンドウを開きます。詳細は 70 ページの「メッセージブラウザ」および 132 ページの「メッセージ属性の調査」を参照してください。

自動アクションが完了した後、その結果を見て障害が修復されたかどうかを確認できます。HPOM 管理者がメッセージに注釈を設定していれば、これを読むことによって自動アクションの結果を確認できます。stdout と stderr アクションへの出力がメッセージとともに注釈として記録されています。まだ障害が残っていたり、自動アクションが成功しなかった場合はアクションを再実行できます。

自動アクションの再実行

次のいずれかを行うことで、自動アクションを再実行できます。

□ メニューバー

メッセージブラウザでメッセージを選択し、メニューバーから [アクション: メッセージ -> アクションの起動 / 停止 -> 自動アクションの再起動] を選択します。

□ ポップアップメニュー

メッセージブラウザのメッセージを右クリックし、表示されるポップアップメニューから [アクションの起動 / 停止 -> 自動アクションの再起動] を選択します。

自動アクションの注釈の確認

HPOM 管理者は注釈を確認してアクションの効果を評価し、追加または別の自動アクションを設定するかどうか決めます。メッセージの注釈の作成については、163 ページの「メッセージの注釈」を参照してください。

自動受諾の設定

HPOM 管理者は、正しく実行された自動アクションを自動受諾するように設定することもできます。このように設定すると、自動アクションの正常終了後、そのアクションに対応するメッセージが自動的に履歴データベースへ移動します。

オペレータ起動アクションの起動と確認

HPOM 管理者は、自動アクションが適さないメッセージに対してオペレータ起動アクションを設定します。たとえば、CPU を過度に使うアクションやプログラムは、まずシステムの負荷要因や要件を評価してからアクションを開始しなくてはなりません。この種のアクションでは、オペレータが介入して制御する必要があります。

オペレータ起動アクションの起動

次のいずれかから、オペレータ起動アクションを起動します。

□ メニューバー

メッセージブラウザでメッセージを選択し、メニューバーから [アクション : メッセージ -> アクションの起動 / 停止 -> オペレータ起動アクションの起動] を選択します。

□ ポップアップメニュー

メッセージブラウザのメッセージを右クリックし、表示されるポップアップメニューから [アクションの起動 / 停止 -> オペレータ起動アクションの起動] を選択します。

オペレータ起動アクションの確認

メッセージのオペレータ起動アクションを確認するには、メッセージブラウザのステータスカラムをチェックするか、[メッセージのプロパティ] ウィンドウを開きます。詳細は 132 ページの「メッセージ属性の調査」を参照してください。

オペレータ起動アクションが完了した後、結果を調べて障害が修復されたかどうか確認できます。HPOM 管理者がメッセージに注釈を設定していれば、オペレータ起動アクションの結果を確認できます。stdout と stderr アクションへの出力がメッセージとともに注釈として記録されています。障害がまだ残っていたり、オペレータ起動アクションが成功しなかった場合は、アクションを再実行できます。

オペレータ起動アクションの注釈の確認

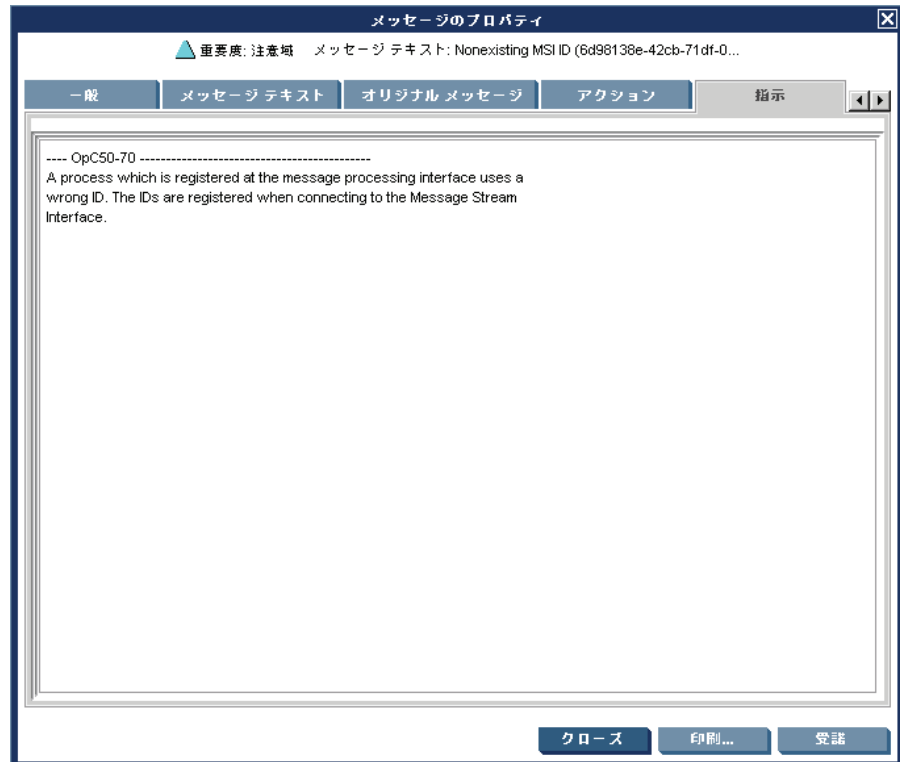
HPOM 管理者は注釈を見てオペレータ起動アクションの効果を評価し、追加または別のオペレータ起動アクションを設定すべきかどうかを決めます。

オペレータ指示を読む

図 1-61 に示すように HPOM 管理者は、オペレータが障害を解決しやすいようにメッセージに指示 (instruction) を書くことができます。

図 1-61

障害解決の指示



一般には、オペレータは次のことを指示します。

□ 自動アクションの説明

自動アクションについて説明します。詳細は 150 ページの「自動アクションの確認と再実行」を参照してください。

□ オペレータ起動アクションの説明

オペレータ起動アクションを起動する方法について説明します。詳細は 151 ページの「オペレータ起動アクションの起動と確認」を参照してください。

□ 手順の説明

障害の解決に必要な手動の操作があれば説明します(たとえば、「ツール X を起動する」)。

メッセージブラウザの属性カラム E には、メッセージに指示があれば X と表示されています。

HPOM 管理者は、指示インターフェースを使って外部ツールを呼び出し、メッセージを表示させることもできます。このメッセージを見る方法は、HPOM 管理者が使った外部ツールにより異なります。ツールはそれ自身のウィンドウまたは Java GUI のウィンドウのどちらかかを使っています。

ツールの起動とカスタマイズ

アプリケーション(ツール)とは HPOM に統合されているスクリプトまたはプログラムです。HPOM 管理者は、まずオペレータの環境を調べ、その環境に必要なツールを決めます。各ツールには、起動属性(特定のオペレータの管理対象ノードリストなど)があらかじめ定義されています。

また、環境内で実行されるプログラムやサービス(たとえば、UNIX の lp プリントスプーラプログラムなど)もアプリケーションです。この場合、オペレータは lp スプーラとその周辺装置のステータスの制御が必要になる場合があります。印刷サービスを管理するには、lp スプーラで生成されたメッセージに対して、enable などの制御コマンドを送ります。オペレータが自分の環境内のプログラムを制御するということは、正しいコマンドとユーザーログオン機能を使用できるということです。

ツールの起動

オペレータは、自動またはオペレータ起動アクションが失敗した場合や、アクションが設定されていないメッセージに対し、ツールを起動できます。

障害を解決するためにツールを起動するときは、その前にそのイベントとメッセージについて全体を理解しておく必要があります。

注記

cmd.exe や telnet などの非グラフィカルインタフェースのツールを、Java GUI のローカルツールとして起動するには、HPOM システム管理者が Java GUI オペレータのデフォルトを割り当てるときに起動パラメータを正しく設定しておく必要があります。詳細は、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

ツールは次の 3 つの場所から起動できます。

□ **ショートカットバー**

ショートカットバーのノード、ツール、サービスからツールを起動できます。

□ **オブジェクトペイン**

オブジェクトペインのノード、ツール、サービスからツールを起動できます。

□ **メッセージブラウザ**

メッセージブラウザ内のメッセージのポップアップメニューからツールを起動できます。

注記

Service Navigator がインストールされていれば、ツールはサービスからも起動できます。特定サービス用のツールだけでなく、HPOM で利用可能な一般的なツールからも起動できます。

ツールのカスタマイズ

HPOM 管理者がパーミッションを正しく設定していれば、[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードを使って、ツールの起動属性を変更できます (図 1-62)。

図 1-62

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード (ステップ 2/3)

ツール起動 - カスタマイズウィザード (ステップ 2/3)

HPOM 状態

ステップ 2/3: ツールを実行するノードを選択してください

追加ノード:

選択に追加

選択したノード:

tcsun06.deu.hp.com

選択の取込み

削除

デフォルトの取込み

< 戻る(B) 次へ(H) > 完了(F) キャンセル(C)

たとえば、ツールを起動するノード、ユーザー名または追加の呼出パラメータを変更できます。ただし、アプリケーション呼出そのものを変更することはできません。メッセージ変数を使って、パラメータとしてメッセージの一部をアプリケーション呼出に渡す方法については、159 ページの「HPOM 変数の追加」を参照してください。

他の Java アプリケーションからの Java GUI の操作

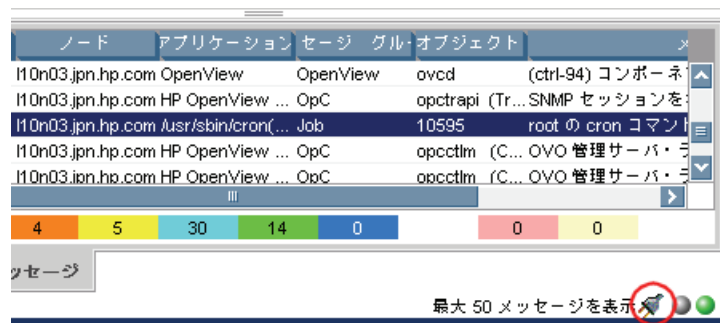
Java GUI の機能の中には、Java GUI Remote API を使って他の Java アプリケーションからリモートで制御できるものがあります。次のアプリケーションから、この機能をリモートで制御できます。

- ローカルホストの Java GUI とは別に動作している独立のアプリケーション
- Java GUI のワークスペースで、統合アドオンコンポーネントとして動作している Java アプレット

HPOM サービス、または他の Java またはアプリケーションにマップされたノードがある場合、Java GUI Remote API を使用すると便利です。他の Java アプリケーションから特定の設定をリモートで操作できるので、問題の原因になっている要素を直接 Java GUI で検索しなくても、問題を特定し解決することができます。

Java GUI Remote API を有効にすると、Java GUI にアイコン (図 1-63 参照) が追加されます。

図 1-63 Java GUI Remote API 機能の有効を示す Java GUI のアイコン



使用可能な Remote API の詳細は、Web ブラウザで次の URL に行き、「Java GUI Remote API Specification」を参照してください。

- 標準の接続

http://<management_server>:3443/ITO_DOC/C/manuals/APIdoc

- セキュアな接続

`https://<management_server>:3444/ITO_DOC/C/manuals/APIdoc`

この例で、`<management_server>` は、お使いの管理サーバーの完全なホスト名です。

HPOM 変数の追加

カスタムメッセージ属性を含むすべてのメッセージ属性は、アプリケーション（ツール）で使える変数であり、ツールの起動時に値としてやりとりされます。たとえば、特定の属性に依存するツールを作成できます。その場合、その属性はパラメータとしてツールに渡されます。

図 1-64 は、[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードでパラメータとして HPOM 変数を追加する方法を示しています。

図 1-64

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード (ステップ 3/3)

ツール起動 - カスタマイズ ウィザード (ステップ 3/3)

ブロードキャスト

ステップ 3/3: ツール実行に必要な情報を追加してください

コマンド: /opt/OV/bin/OpC/call_sqlplus.sh sel_msg

追加パラメータ: 2483507e-cfb0-71ds-02bb-0f887e320000

ユーザー名: opc_op

パスワード:

表示方法: 出力専用

[完了] をクリックするとカスタマイズしたツールが実行されます

< 戻る(B) 次へ(H) > 完了(F) キャンセル(C)

ブロードキャストコマンド

コマンドをブロードキャストすれば、修復アクションを複数のノードで同時に実行できます。ブロードキャストしたいコマンドを指定し、コマンドを実行したい環境内でノードを選択します。この機能を使って障害を調査することもできます(たとえば、すべての指定ノードに `ps -ef` コマンドを発行し、現在実行中のプロセス数をチェックする)。

[ブロードキャスト] ツールを起動すると必ずウィザードが起動します。

注記

[ブロードキャスト] ツールは、デフォルトでは使えません。HPOM 管理者が特別に割り当てる必要があります。

コマンドのブロードキャストでは、コマンドを一回指定するだけで複数のノードに送信できます。そのため、全体に対するタスクをすばやく、しかも簡単に実行できます。HPOM ではブロードキャストするコマンド長は制限していないため、対象システムでサポートしているコマンド長を超えた場合は、対象システムでコマンドが切り捨てられます。

図 1-65 はブロードキャストコマンドのウィザードの最終手順を示しています。

図 1-65

ブロードキャストコマンドのウィザードの最終手順

ツール起動 - カスタマイズウィザード (ステップ 3/3)

ブロードキャスト

ステップ 3/3: ツール実行に必要な情報を追加してください

コマンド:

追加パラメータ:

ユーザー名:

パスワード:

表示方法: 出力専用

[完了] をクリックするとカスタマイズしたツールが実行されます

< 戻る(B) 次へ(H) > 完了(F) キャンセル(C)

現在のセッションのコマンドを検索するには、[コマンド]の矢印をクリックして選択します(図 1-65 を参照)。

ブロードキャストコマンドの出力は、アプリケーションの出力として[修復アクション]ワークスペースに表示されます。

ターミナルアクセス

障害の発生したノードで仮想ターミナル(ウィンドウ)を開くと、直接そのノードに対して作業できます。このウィンドウを使って障害の調査、コマンドやスクリプトの発行、ツールの起動などができます。

注記

仮想ターミナルツールはデフォルトでは利用できません。HPOM の管理者が手動で設定する必要があります。

仮想ターミナルを使って環境内の多数の管理対象ノードにアクセスできます。HPOM 管理者がデフォルトのユーザー名とパスワードを設定しているため、情報を入力する必要はありません。コマンドを発行したり、ステータスを確認したいノード上で仮想ターミナルツールを起動します。これにより、ターミナルウィンドウが [修復アクション] ワークスペースに開きます。このウィンドウを使って、コマンドを発行したり、ステータスを確認します。自分の Java GUI から環境内のどのノードにもアクセスでき、タスクや制御の実行、修復アクションの起動ができます。

コマンド行ツールへのアクセス

コマンド行ログインモードにするには、次の手順を実行します。

1. ログオン画面で、[コマンド行ログイン] を選択します。ログオン画面が消え、コンソールプロンプトが表示されます。
2. ユーザー ID とパスワードを尋ねられますので入力します。

コマンド行ログインモードはデスクトップセッションではありません。システムがコマンド行ログインモードになると、デスクトップは中断されます。ログオンする場合は、[ログインマネージャ] ではなく、オペレーティングシステムの機能を利用します。X サーバーは実行されていないので、ウィンドウは使用しません。

注記

一部の設定 (X ターミナルなど) にはコマンド行ログインモードオプションがありません。dtlogin で root を起動した場合、コマンド行ログインモードは使用できません。

コマンド行ログインモードを終了するには、コマンド行プロンプトから **exit** と入力します。

オペレータ環境での解決方法のドキュメント化

メッセージに対する作業の完了後、その作業内容をドキュメント化し、アクティブメッセージブラウザ、フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ、またはフィルター処理済ペンディングメッセージブラウザからメッセージを削除します。これを行うには、メッセージ注釈を使って障害を解決した方法を記録し、その後メッセージを受諾して現在のワークエリアから削除し、履歴データベースに保存します。

解決策をドキュメント化する方法の説明は以下のとおりです。

□ メッセージの注釈

メッセージに簡単な要約を付け加える方法を説明します。

□ メッセージの印刷

メッセージ、メッセージの詳細、アプリケーションの出力の印刷方法について説明します。

□ メッセージの受諾

アクティブメッセージブラウザ、フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ、フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザからメッセージを削除し、履歴データベースに保存する方法を説明します。

メッセージの注釈

メッセージに注釈 (annotation) を付けるのは、ビジネス契約書に簡単な覚え書きを添えるのと同じことです。メッセージの注釈は重要点を簡単に要約したもので、次に同じメッセージを受信したときに参考にします。

注釈

メッセージの注釈には、一般的に次の情報を入れます。

- 障害を解決するために実行したアクション
- アクションを実行したユーザー名
- 実行したアクションのステータス情報 (stdout、stderr)
- アクションの開始時刻と終了時刻

- アクション前の情報とアクション後の情報
- 変更したメッセージ属性
- 検索された重複メッセージ

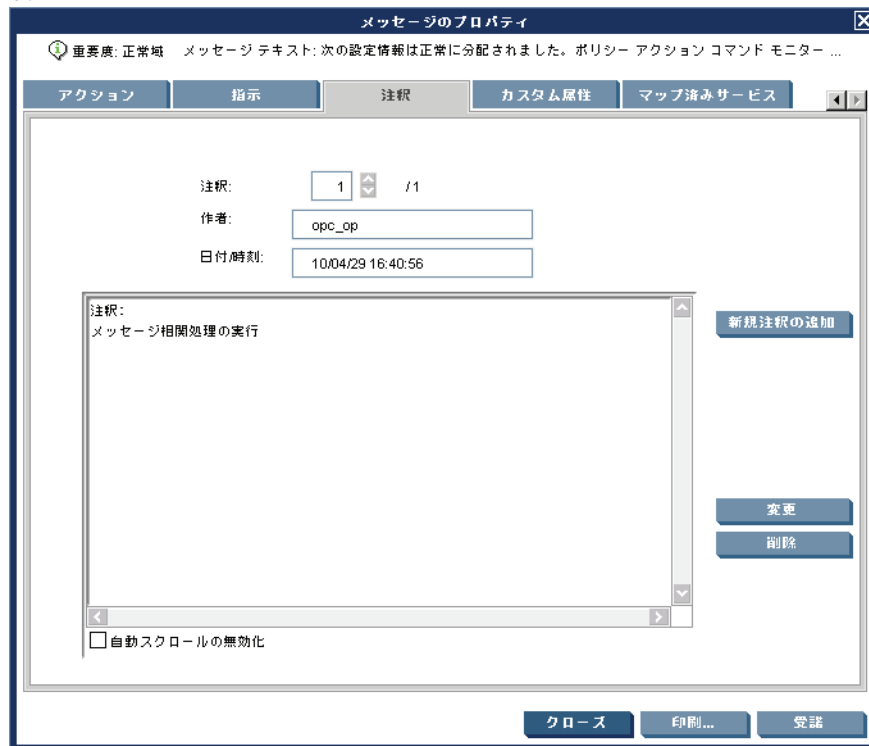
注釈の追加

注釈には障害解決時に苦労したこと、口頭または文書で受け取った指示、障害の影響を受けたユーザーやグループとのやりとりなども記録できます。たとえば交替の時間が来てはまだ障害が解決していないような場合に、同僚へ注釈メッセージを残すことができます。

[メッセージのプロパティ] ウィンドウの [注釈] タブには、1つのメッセージに関連する注釈がすべて含まれています (図 1-66)。

図 1-66

新しい注釈の追加



注釈の確認

覚え書きと同じように、メッセージ注釈は障害解決時のリソースとなります。メッセージ注釈を確認すれば、障害を解決するために前回実行したアクションの記録を見つけることができます。たとえば、以前のアクションの終了値と現在のアクションの終了値を比較したり、提案されているアクションに関連する注意や警告を確認できます。自分の注釈を加えたり、必要ではなくなった、または修正された注釈を削除することもできます。

HPOM の管理者は、メッセージ注釈をイベントの記録（障害解決のテクニック、解決にかかった時間やリソースなど）として使えます。また指示テキスト作成する場合や、メッセージ用のアクションを設定する場合の参考にもなります。

メッセージの印刷

HPOM では次のものを印刷できます。

- メッセージ
- メッセージ詳細
- アプリケーションの出力

メッセージの受諾

メッセージの受諾 (acknowledge) は、支払後の請求書をファイルに保存することと同じです。請求書の支払が済んだことを確認したり、今後の請求書と比較するための参考としてそのトランザクションのコピーを残しておくはずですが、メッセージに対する作業が終了したら、今後参照できるようにそのメッセージをデスクトップから「削除」し、ファイルに「保存」しておきます。

受諾

一般的に次のような場合にメッセージを受諾します。

❑ 障害の解決

メッセージに対して作業が終了し、関連する障害がすべて解決したとき

❑ メッセージの重複

メッセージブラウザに、同じイベントについて記述しているメッセージが別にあるとき

❑ 不要なメッセージ

そのメッセージが不要になったとき (たとえば、メッセージの重要度が低く、アクションが不要なとき)

メッセージを受諾すると、メッセージはアクティブメッセージブラウザ、フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ、またはフィルター処理済ペンディングメッセージブラウザから履歴データベースに移動します。また関連するメッセージグループとノードのステータスは、残りのメッセージのうちの最も高い重要度に対応して変化します。

注記

メッセージを受諾しても障害は解決されません。メッセージを受諾する前に修復アクションの結果を調べ、障害が解決されているかどうかを確認する必要があります。詳細は 145 ページの「オペレータ環境での障害の解決」を参照してください。

自動受諾 (管理者による設定)

HPOM 管理者は、自動アクションにもオペレータ起動アクションにも自動受諾を設定できます。メッセージの自動アクションと自動受諾が正常終了すると、そのメッセージは履歴データベースに直接送信されます。メッセージはオペレータの介入なしにメッセージブラウザから削除されます。フィルター処理済履歴メッセージブラウザから、自動受諾されたメッセージを確認できます。

自動受諾 (HPOM による設定)

HPOM では、次のような場合に前後のメッセージをリンクさせておけば、先のメッセージが次のメッセージにより自動受諾されます。

❑ 障害の悪化

次のメッセージで先の障害の悪化がレポートされている (たとえば、ディスク空き容量がさらに減少した場合など)。

❑ 障害の解決

先の障害が解決した (たとえば、ツールを再度起動できるようになった場合など)。

受諾の確認

受諾メッセージは履歴データベースに保存されます。これは、フィルター処理済履歴メッセージブラウザから確認できます。詳細は 142 ページの「メッセージ履歴の調査」を参照してください。

また、受諾メッセージを受諾解除すれば、アクティブメッセージブラウザに戻すことができます。メッセージを受諾解除した後は、そのメッセージに対して作業を続けることができます。

オペレータ環境のカスタマイズ

HPOM の環境を次のようにカスタマイズできます。

□ Java GUI のカスタマイズ

- オペレータのパスワードの変更
- デフォルト設定のロード
- 再表示周期の変更
- コンソール設定の保存
- Java GUI のロック & フィールドの変更
- ポジションコントロールの表示 / 非表示
- ペインとエリアの移動
- ペインとエリアの表示 / 非表示
- ショートカットバーのカスタマイズ
- Web ブラウザの選択
- ポップアップメニューのカスタマイズ
- ツールバーのカスタマイズ
- メッセージイベント通知のカスタマイズ
- 表示設定のカスタマイズ

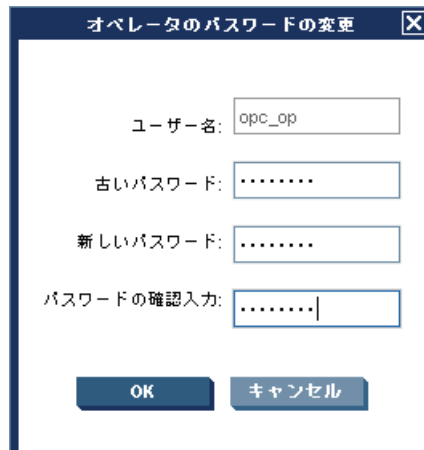
□ メッセージブラウザのカスタマイズ

- メッセージブラウザフィルターの設定
- メッセージ表示フィルターの設定
- ブラウザペインに [メッセージブラウザ] タブを追加
- メッセージ行全体のカラー表示
- メッセージブラウザカラムのカスタマイズ
- メッセージブラウザ カラムの表示 / 非表示
- カスタマイズしたメッセージブラウザレイアウトの保存

オペレータのパスワードの変更

HPOM では [オペレータのパスワードの変更] ウィンドウでログオンパスワードを変更できます (図 1-67)。

図 1-67 [オペレータのパスワードの変更] ウィンドウ



The screenshot shows a dialog box titled "オペレータのパスワードの変更" (Operator Password Change). It has a close button (X) in the top right corner. The dialog contains the following fields and buttons:

- ユーザー名: opc_op
- 古いパスワード: [masked]
- 新しいパスワード: [masked]
- パスワードの確認入力: [masked]
- OK button
- キャンセル button

このウィンドウは、メニューバーの [ファイル : パスワードの変更] からアクセスします。情報が管理サーバーに送られデータベースが更新されると、パスワード変更を確認するシステムメッセージを受け取ります。

注記

変更できるのは、現在ログオンしているオペレータのパスワードだけです。

デフォルトユーザーとして最初にログオンしたら、セキュリティ上の理由からデフォルトパスワードを変更する必要があります。パスワードは後で変更できますが、デフォルトに戻すことはできません。

デフォルト設定のロード

Java GUI は、標準的なデフォルト設定が行われた状態でお手元に届きます。このデフォルト設定の変更は、通常、HPOM 管理者が行います。したがって、オペレータが初めて HPOM Java GUI にログオンするときは、HPOM 管理者が設定したデフォルト設定になっています。

オペレータは、次のいずれかまたは両方を行うことができます。

□ コンソールセッションの設定の保存

Java GUI をカスタマイズする場合（ショートカットバーへの URL ショートカットの追加、ペインやエリアの移動、フィルター処理済みメッセージブラウザの追加、ウィンドウの取り外しなど）、メニューバーから [ファイル：コンソールセッションの設定の保存] を選択して、これらの変更を保存できます。次に Java GUI にログインしたとき、HPOM 管理者が行った最初のデフォルト設定よりも、この変更が優先されていることが確認できます。Java GUI のカスタマイズと変更の保存は、何度でもできます。

□ デフォルト設定の再ロード

Java GUI をカスタマイズする際に大きな間違いがあれば（ブラウザペインを間違っって削除したなど）、メニューバーから [ファイル：デフォルト設定の再ロード] を選択して、HPOM 管理者が設定したデフォルト設定を復元できます。

注意

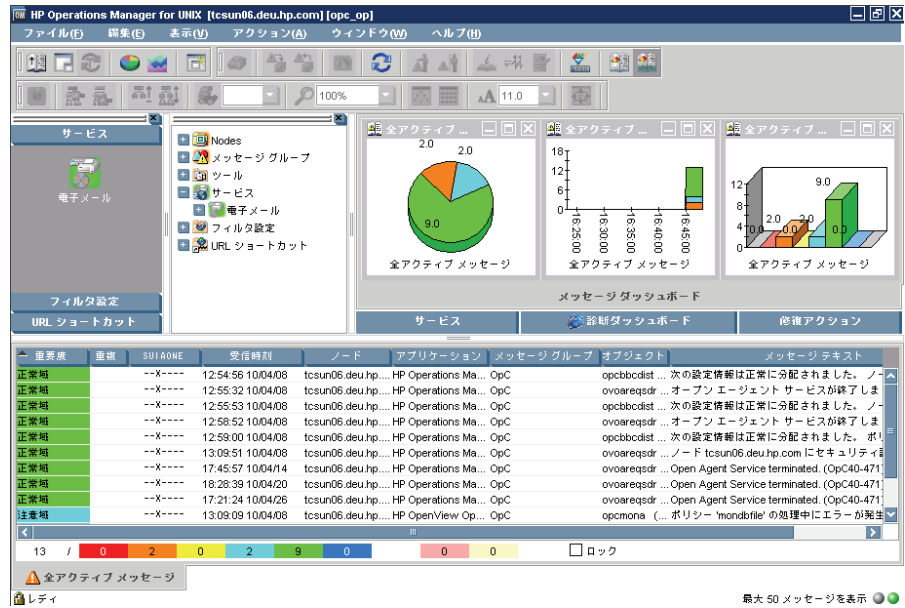
デフォルト設定を再ロードすると、Java GUI を変更して [ファイル：コンソールセッションの設定の保存] で保存した変更はすべて失われます。すなわち、HPOM 管理者が行った最初のデフォルト設定で上書きされます。

システムで指定されたオペレータ用デフォルト設定

図 1-68 には、システムから割り当てられたオペレータ用のデフォルト設定を示します。

図 1-68

システムから指定されたオペレータ用デフォルト設定



Java GUI には、オペレータ用に次のシステムデフォルトがあります。

□ 移動可能ペイン

メインウィンドウには移動可能な 4 つのペインが表示されます。

- ショートカットバー (上部左)
- オブジェクトペイン (上部中央)
- ワークスペースペイン (上部右)
- ブラウザペイン (下部)

デフォルトでは、ペインは移動できません。

□ ショートカットバー

ショートカットバーには、メニューアイテムとして次のショートカットグループが表示されます。

- ノード

すべての第一レベルノードへのショートカット

- サービス (利用可能なサービスがある場合)

すべての第一レベルのサービスへのショートカット

- フィルター設定 (デフォルトでは設定値なし)

管理者によるグローバルフィルターの設定と、オペレータによる個人用フィルターの設定へのショートカット

- *URL* ショートカット

HP BTO Software のホームページ (下記の URL) へのショートカットを含みます。

<http://welcome.hp.com/country/us/en/prodserv/software.html>

□ ワークスペースペイン

ワークスペースペインには、次のような **ActiveX** 対応でない (**non-ActiveX**) ワークスペースがあります。これらはワークスペースペインのタブとして左から以下の順で並んでいます。

1. メッセージダッシュボード (デフォルトのワークスペース)

[メッセージダッシュボード] ワークスペースでは、すべてのアクティブメッセージに対して、次の 3 つのタイプのメッセージブラウザが横に並んで開きます。

- 傾向グラフ (積み上げ面)
- 棒グラフ (3D)
- 円グラフ (3D)

詳細は 61 ページの「メッセージダッシュボードワークスペース」を参照してください。

2. サービス (利用可能なサービスがある場合)

[サービス] ワークスペースには、すべての第一レベルサービスのサービスグラフが開きます。詳細は 62 ページの「サービスワークスペース」を参照してください。

3. 診断ダッシュボード

[診断ダッシュボード] ワークスペースには、HPOM に統合されている他のツールが表示されます。詳細は 62 ページの「診断ダッシュボードワークスペース」を参照してください。

4. 修復アクション

[修復アクション] ワークスペースでは、アクションのステータスと実行結果を確認することによって、現在のコンピュータ環境を最適に維持できます。詳細は 63 ページの「修復アクションワークスペース」を参照してください。

□ ブラウザペイン

ブラウザペインでメッセージブラウザを開くと、オペレータが担当するすべてのアクティブメッセージのうち最新 50 件が表示されます。詳細は 68 ページの「ブラウザペイン」を参照してください。

HPOM 管理者指定のオペレータ用デフォルト設定

HPOM 管理者は、2 つのアプリケーショングループを持つ Java GUI のオペレータエリアに対して、デフォルトの起動様式を定義することができます。

□ ショートカット

HPOM 管理者は、アプリケーショングループを新しく作成できます。これはショートカットバーの最後に 1 つずつ追加されます。このアプリケーショングループにはどんな種類のツールでも組み込むことができます。ショートカットバーには、ショートカットアプリケーショングループと同じツリー構造で追加されます (表 1-9)。

図 1-69 は、[オンラインヘルプ] ショートカットグループと [HPOM Java GUI] ショートカットの例を示します。いずれも、管理サーバーの HPOM システム管理者がデフォルトとしてショートカットバーに追加したものです。64 ページの図 1-12 は、HPOM Java GUI ウィンドウ内に表示されたこの例を示しています。

図 1-69

HPOM システム管理者が割り当てたオンラインヘルプショートカット



□ ワークスペース

HPOM 管理者はアプリケーショングループを新しく作成できます。これはワークスペースペインのデフォルトのワークスペースの後ろに 1 つずつ追加されます。このアプリケーショングループにはどんな種類のツールでも組み込むことができます。[ワークスペース] アプリケーショングループの 2 番目のレベルにあるすべてのツールが順に、以前に作成されたワークスペースペインのワークスペース内で起動します。ワークスペース内の開いている各ツールは、縦方向に並べて配置されます。

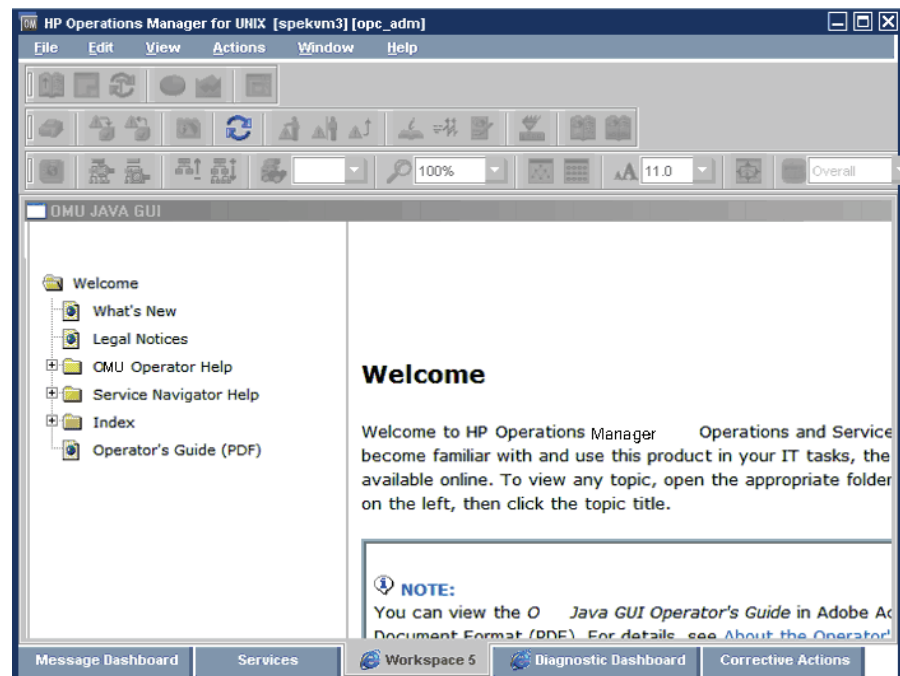
ワークスペースのデフォルトのコンテナタイプは *ActiveX* 対応ではないため、デフォルトのワークスペースで **Microsoft Internet Explorer** を Web ブラウザとして使うことはできません。Internet Explorer を使用するには、コンテナタイプとして *ActiveX* コンテナを指定して新しいワークスペースを作成する必要があります。

重複を避けるために、HPOM は追加しようとしているレベルにすでに存在している項目は追加しません。HPOM 管理者がツール用のショートカットとワークスペースを新しく作成すると、[ショートカット] と [ワークスペース] にあるツールはオブジェクトペインの他のツールと同じように機能します。ツールは必ず現在選択されているワークスペースで起動されます。

図 1-70 は、Java GUI オンラインヘルプの導入ページを表示している [オンラインヘルプ] ワークスペースの例を示しています。64 ページの図 1-12 は、HPOM Java GUI ウィンドウ内に表示されたこの例を示しています。

図 1-70

HPOM システム管理者が割り当てたオンラインヘルプワークスペース



オペレータのデフォルトを設定するために、アプリケーショングループとツールを管理サーバーに作成する方法は、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

注記

HPOM 管理者は、一連のショートカットまたはワークスペースを個々のオペレータ、オペレータのグループ、またはすべてのオペレータに割り当てることができます。

再表示周期の変更

メニューバーの [表示 : 再表示] を選択すれば、ノードステータス、メッセージグループステータス、ブラウザステータスの件数表示 (browser status summary line)、メッセージブラウザのすべてのメッセージ、サービスステータス、これらすべてを更新できます。デフォルトでは、Java GUI は事前に設定された 30 秒間隔で自動的に再表示します。必要なら、メニューバーから [編集 : 表示設定] を選択し、この周期を [表示設定] ウィンドウで変更できます。ただし、再表示周期 (refresh interval) を大きくしすぎると、ステータスが変更されてもすぐに通知を受けられない可能性があります。

注記

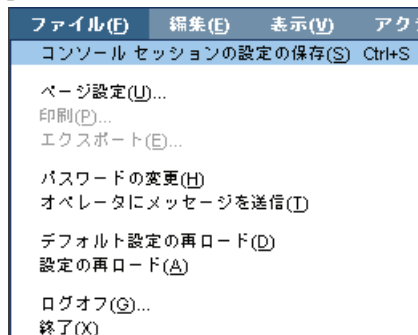
HPOM の管理者がオペレータの担当や管理対象ノード、またはツールの設定を更新すると、Java GUI が自動で設定を変更します。設定変更後に Java GUI に同期させるためのアクションは必要ありません。

コンソール設定の保存

Java GUI セッションに対して行ったカスタマイズを保存するには、メニューバーの [ファイル : コンソールセッションの設定の保存] を選択します (図 1-71)。

図 1-71

[コンソールセッションの設定の保存] メニュー項目



次に **Java GUI** を起動したときには、**Java GUI** に保存されている設定を読み込み、再保存します。たとえば **URL** ショートカットをいくつかショートカットバーに追加したり、ショートカットバーとワークスペースペインの位置を逆にしたり、フィルター処理されたメッセージブラウザをいくつかブラウザペインに追加したとします。この変更を保存しておけば、次回 **Java GUI** にログオンしたときにこの設定で表示されます。

次のコンソールセッション設定を保存できます。

❑ **ポジションコントロール**

移動可能エリアの位置と表示 / 非表示

❑ **ショートカットバー**

- ボタンとショートカットの位置と表示 / 非表示
- **URL** ショートカットの名前と場所

❑ **ワークスペースペイン**

- ワークスペースの名前、説明、位置など
- 開いているメッセージブラウザのフィルター、スタイル、位置
- 開いている **URL** ツールの位置
- 開いているサービスグラフの位置
- **Web** ブラウザとプロキシの設定

❑ **ブラウザペイン**

タブの名前、説明、位置など

❑ **メッセージブラウザツールバー**

ツールバー、ワークスペース、およびブラウザペイン内での表示 / 非表示

❑ **フィルター処理済メッセージブラウザ**

メッセージブラウザに適用されたメッセージブラウザフィルター

❑ **取り外したウィンドウ**

取り外したウィンドウの位置と設定

注記

グローバルモードを有効にすると、コンソール設定を保存できないことがあります。詳細は 217 ページの「グローバルな Java GUI プロパティファイルの使用」を参照してください。

HPOM コンソール設定セッションは

HP_OV_consoleSettings_mgmtServerName_operator という名前のバイナリファイルに格納され、システムの以下の場所にローカル保存されます。

❑ Windows 2000、2003、および Windows XP

C:\Documents and Settings*<user>*

❑ Solaris

/export/home/*<user>*

❑ 他のプラットフォーム

/home/*<user>*

注記

HPOM では、HP_OV_consoleSettings_mgmtServerName_operator コンソール設定ファイル名に IP アドレスは使用できません。

Java GUI のルック & フィールの変更

メニューバーの [編集：表示設定] を選択して、Java GUI のルック & フィールを変更できます。

[表示設定] ウィンドウから、次のルック & フィールオプションの 1 つを選択できます。

- ❑ Metal
- ❑ HP One Voice (デフォルト)
- ❑ Windows (Windows でのみ利用可能)
- ❑ Aqua (Mac OS でのみ利用可能)

[表示設定] ウィンドウの各オプションの説明は、547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」を参照してください。

進捗状況ウィンドウのカスタマイズ

進捗状況ウィンドウに表示されるイメージを変更するには、使用するイメージに `customImg.gif` という名前を付けてホームディレクトリに格納します。

図 1-72 は、進捗状況ウィンドウで示しています。進捗状況ウィンドウは、処理時間が長い作業を **HPOM** で実行する場合に表示されます。

図 1-72

進捗状況ウィンドウ



カスタムイメージのサイズは、**HPOM** によって進捗状況ウィンドウに合わせて変更されます。

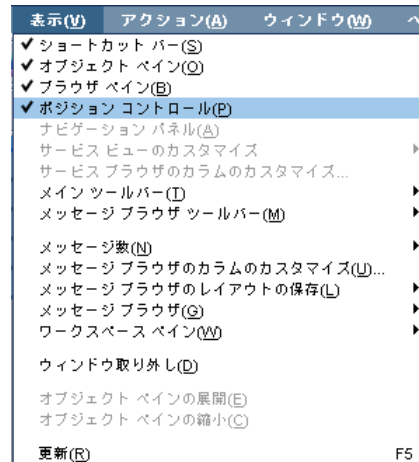
ポジションコントロールの表示 / 非表示

ポジションコントロールはツールバーのすぐ下にある水平バーの細い帯で、これによりショートカットバーやオブジェクトペインを水平に移動できます。ポジションコントロールが不要なら、メニューバーで [表示 : ポジションコントロール] の選択を解除します。同じように、非表示になっているポジションコントロールを再表示するには、メニューバーで [表示 : ポジションコントロール] を選択します。

図 1-73 は、メニューバーでポジションコントロールを表示する方法を示しています。

図 1-73

ポジションコントロールの表示



ペインとエリアの移動

ポジションコントロールを使用して、図 1-74 に示すようにショートカットバーやオブジェクトペインを水平に移動できます。

図 1-74 オブジェクトペインの移動：移動前

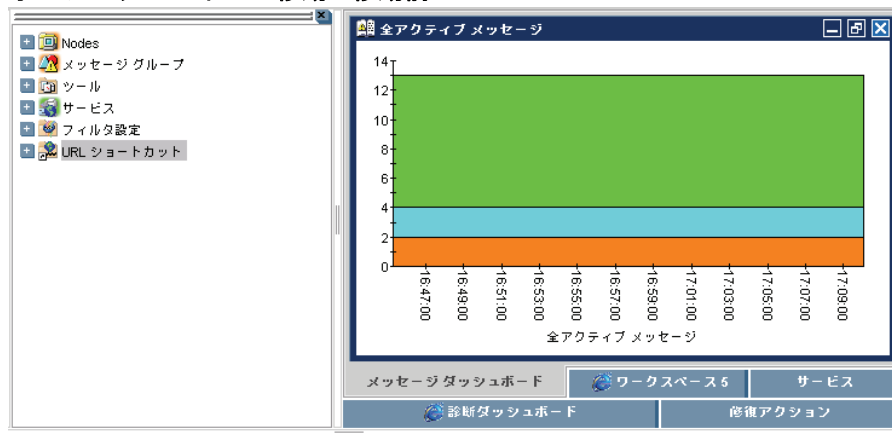
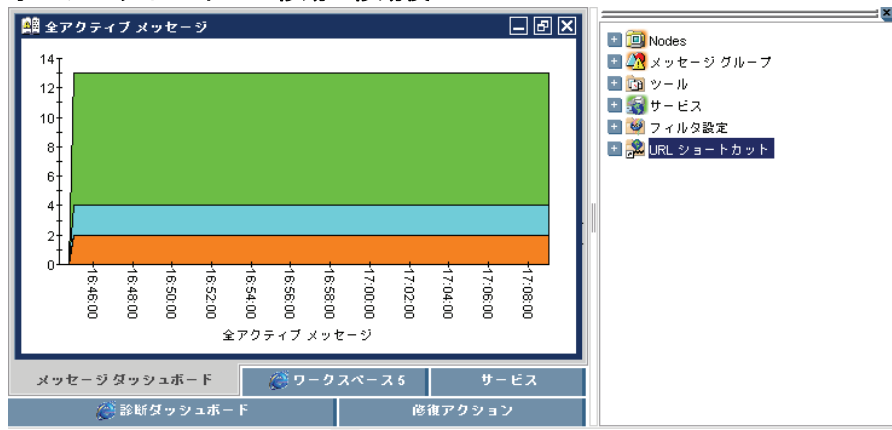


図 1-75 では、ワークスペースペインの右側にオブジェクトペインが移動しています。

図 1-75 オブジェクトペインの移動：移動後



ペインとエリアの表示 / 非表示

HPOM は Java GUI の次のものを表示または非表示にできます。

- ショートカットバー
- オブジェクトペイン
- ブラウザペイン

ブラウザペインは、ブラウザペイン内のメッセージブラウザをすべて削除すれば非表示にできます。ワークスペースペインは非表示にはできません。

図 1-76 はメニューバーで [表示 : ショートカットバー] を選択して、ショートカットバーを表示する方法を示しています。

図 1-76

ショートカットバーとオブジェクトペインの表示

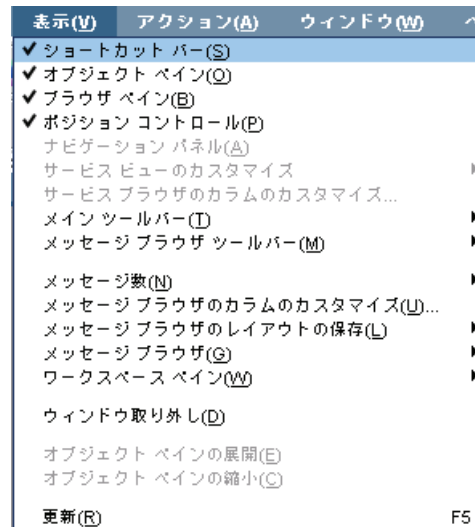


図 1-77 はメニューバーで [表示 : ショートカットバー] の選択を解除して、ショートカットバーを非表示にする方法を示しています。

図 1-77

ショートカットバーの非表示

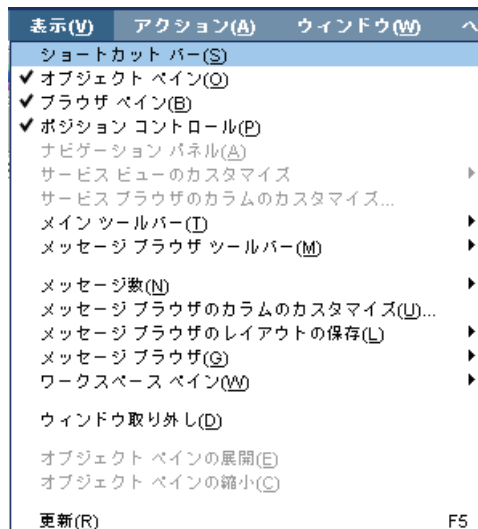
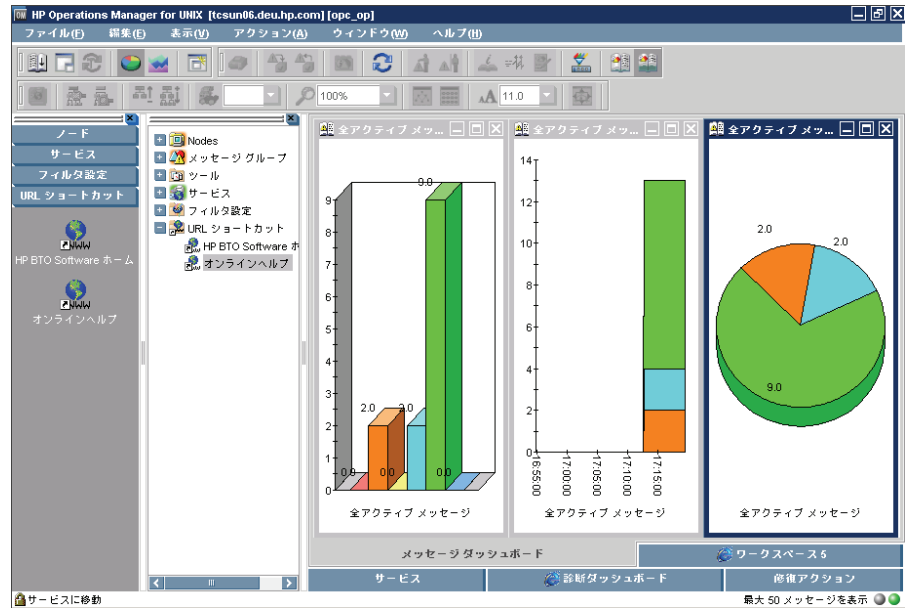


図 1-78 は、ブラウザペイン内のすべてのブラウザタブのポップアップメニューから [クローズ] を選択した後の HPOM GUI です。

図 1-78 ブラウザペインの非表示



ショートカットバーのカスタマイズ

ショートカットバーを次のようにカスタマイズできます。

□ ショートカットバーのオン/オフの切り替え

メニューバーの [表示] メニューで、ショートカットバーのオン、オフを切り替えます。

□ オブジェクトペイン項目の追加

オブジェクトペインのポップアップメニューから [ショートカットの追加] を選択し、選択したオブジェクトペイン項目をショートカットバーに追加します。

□ ショートカットグループのカスタマイズ

ショートカットバーのポップアップメニューで、ショートカットグループの追加、名称変更または削除ができます

□ ショートカットのカスタマイズ

ショートカットバーのポップアップメニューで、ショートカットの名称変更または削除ができます。

□ アイコンサイズのカスタマイズ

[表示設定] ウィンドウの [一般] タブで、ショートカットバーに表示されるアイコンのサイズをカスタマイズします。

ショートカットの起動やカスタマイズは、ショートカットアイコンを右クリックし、ポップアップメニューから項目を選択して行います。

Web ブラウザの選択

バックグラウンドで外部 Web ブラウザを実行する代わりに、HPOM Java GUI で好きな Web ブラウザを実行できます。そうすれば 1 つの統合インタフェース内で、イントラネットサイトへのアクセス、ビジネスに関連した情報のインターネット検索、メッセージブラウザの閲覧ができます。統合 Web ブラウザは、HPOM Java GUI のワークスペースペインに表示されます。

Web ブラウザの選択の詳細は 80 ページの「統合 Web ブラウザ」を参照してください。

ツールバーのカスタマイズ

ツールバーコンポーネントは、デフォルトではすべて表示されますが、非表示にも表示にもできます。ツールバーコンポーネントの詳細は 84 ページの「ツールバー」を参照してください。

フローティングツールバーを作成して、ツールバーコンポーネントを再配置させたり、ドックツールバー内でこれらのコンポーネントを移動させたりすることができます。

具体的な操作方法は、292 ページの「ツールバーのカスタマイズ」を参照してください。

ポップアップメニューのカスタマイズ

メッセージブラウザでメッセージを選択していれば、そのメッセージに関連するツールだけに着目したくなります。しかし、多数の無関係なツールのためポップアップメニューが使いにくくなることがあります。

HPOM を使用すると、ポップアップメニューに表示されるツールの数を制限できます。[**ツールのカスタムセット**] を使用すると、ポップアップメニューの項目を、現在選択されているメッセージに関連するツールの項目に限定します。関連するツールは、アプリケーション呼び出しの \$OPC_MSG 文字列で定義されます。現在選択されている \$OPC_MSG 文字列にツールがない場合は、ポップアップメニューにはツールが含まれなくなります。

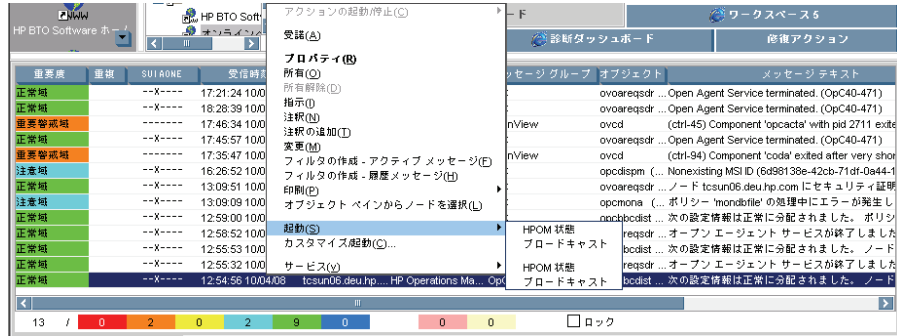
カスタムのポップアップメニューを有効にするには、図 1-79 に示すように、[表示設定] ウィンドウの [一般] タブから [ツールのカスタムセット] を選択します。同じように、この機能をオフにするには、そのチェックボックスの選択を解除します。

図 1-79 ツールのカスタムセットに関する表示設定チェックボックス



図 1-80 は、ツールのカスタムセットに関するポップアップメニューを示します。強調表示されたツールは、メッセージ関連の変数を使っているので、選択したメッセージ上にポップアップメニューが表示されています。

図 1-80 ツールのカスタムセットに関するポップアップメニュー



メッセージイベント通知のカスタマイズ

[表示設定] ウィンドウの [イベント] タブ (図 1-81) を使って、メッセージイベント通知のオン/オフの切り替え、ローカルツール (警告音を生成するアプリケーションなど) の起動、および通知用の重要度しきい値 (threshold) のリセットができます。

図 1-81

[表示設定] ウィンドウのメッセージイベント通知設定



メッセージイベント通知の概要は、121 ページの「メッセージイベントの通知方法」を参照してください。

表示設定のカスタマイズ

一般的なフォントサイズのカスタマイズ

Java GUI の [編集: 表示設定] ウィンドウの [一般] タブで一般的なフォントサイズを設定できます。

サービスグラフとマップのフォントサイズのカスタマイズ

Java GUI の [編集: 表示設定] ウィンドウの [サービス] タブにある [サービスグラフのフォントサイズ] ドロップダウンリストで、サービスグラフおよびマップのフォントサイズのデフォルト値を設定できます。

新たにサービスグラフまたはマップを開くたびにこの値が使用されます。

重要

サービスグラフとマップのフォントサイズのカスタマイズの詳細は 294 ページの「サービスグラフとサービスマップのフォントサイズのカスタマイズ」を参照してください。

HPOM 通信ステータスダイアログの非表示

Java GUI の [編集: 表示設定] ウィンドウの [一般] タブにある [通信ステータスの表示 ダイアログ] チェックボックスを選択することで、[HPOM 通信ステータス] ダイアログの表示/非表示が可能です。または、`itoooprc` ファイルで設定します (433 ページの「Java GUI のキーアクセラレータ」を参照)。

多数のクライアントが同時に同じユーザー名を使用してログインする環境でこの機能を無効にする場合には、このダイアログを選択解除します。クライアントの 1 人が Java GUI 設定を再ロードしても、[HPOM 通信ステータス] は、

- このオプションを有効にしているクライアントでのみ表示されます。
- 自分の環境でこのオプションを無効に設定している他の残りのクライアントが作業を邪魔されることはありません。

[表示設定] ウィンドウの [一般] タブの各オプションの説明は、548 ページの「[表示設定] ダイアログボックスの [一般] タブ」を参照してください。

メッセージブラウザフィルターの設定

メッセージブラウザフィルターを適用したメッセージブラウザには、オペレータが選択した基準に従ってフィルター処理されたメッセージを表示できます。たとえば、重要度レベルが [注意域] または [危険域] のメッセージを表示したい場合は、他の重要度レベルのメッセージをすべて管理サーバーからロードしないように設定できます。

メッセージ表示フィルターを設定して、特定のメッセージのみをメッセージブラウザに表示することもできます。メッセージ表示フィルターは、メッセージブラウザフィルターがすでに適用されているブラウザに対して 2 段階目のフィルターとして適用されます。メッセージ表示フィルターの詳細は 198 ページの「メッセージ表示フィルターの設定」を参照してください。

[メッセージのフィルター処理] ウィンドウでメッセージブラウザフィルターを新しく追加したり、既存のフィルターを変更できます (図 1-82)。

図 1-82

[メッセージのフィルター処理] ウィンドウ

[メッセージのフィルター処理] ウィンドウを開くには、メニューバーから [アクション: フィルター処理 -> <フィルターの種類>] を選択します。

[メッセージのフィルター処理] ウィンドウには、次のオプションがあります。

□ [時間で] フィルター

[時間で] フィルターは、指定日または指定時間帯に到着したメッセージだけを確認したい場合にとっても便利です。この設定は日時を指定するか、ブラウザが保有している時間に対する相対値を指定します。

相対時間の再計算を有効にして相対値指定フィルターを使用すると、指定した時間間隔で相対値指定フィルターが実行されます。アクティブメッセージブラウザが再表示されて新しいメッセージが表示され、時間が経過しすぎていてフィルター条件には合致しなくなったメッセージは除外されます。この機能は、`OPCUIWWW_FILTER_RELATIVE_TIME_RECALC` サーバーパラメータを使用して管理者が有効にします。詳細は、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

注記

タイムゾーン設定が HP Operations 管理サーバーとは異なるシステムで Java GUI を実行している場合には、Java GUI に表示されるタイムスタンプは、HP Operations 管理サーバーではなく、ローカルシステム（すなわち、Java GUI を実行中のシステム）のものが使われます。

□ [所有状態で] フィルター

[所有状態で] フィルターは自分が所有しているメッセージを見るために使います。[所有状態で] フィルターから、管理者がメッセージの所有者の特定はできません。

□ [メッセージの文字列で] フィルターおよび [パターンで] フィルター

メッセージの文字列によるフィルター ([メッセージの文字列で] フィルターおよび [パターンで] フィルター) は、指定のテキストパターンと一致するメッセージを調べるときだけ使用します。[メッセージフィルター] ダイアログボックスには、次のようにフィルターパターンを指定します。

- [一般] タブの [メッセージの文字列で] フィールドで
- [シンボルとオブジェクト] タブの [名前] フィールドで (オブジェクトのタイプは CMA に設定し、[パターンで] を選択)

[名前] フィールドのパターンの構文は、[メッセージの文字列で] フィールドと同じです。同じ制限が適用されます。

- 制御文字

[メッセージの文字列で] フィールドに、かぎカッコ (<>) や角かっこ ([]) などの制御文字を使う場合は、それらの文字の前に必ず円記号 (\) を付けてください。円記号を付けないと、次のエラーメッセージが表示されます。

「パターン "[message]" に構文エラーがあります。(OpC20-235)」

- 最大254文字

メッセージテキストパターンは最大 254 文字です。

図 1-83 は、[シンボルとオブジェクト] タブの例です。OS<*>![Linux]> パターンは、os_name タイプのカスタムメッセージ属性でメッセージをフィルター処理します。カスタムメッセージ属性の値には、Linux を除くすべてのオペレーティングシステムを指定できます。

図 1-83

カスタムメッセージ属性の値パターン



メッセージブラウザフィルター設定の保存と再利用

一度メッセージブラウザフィルターを設定すれば、次の操作を行うことができます。

□ フィルターの適用

フィルターを適用します(名前を付けた後)。フィルター処理済メッセージブラウザを開くと、見たいメッセージだけが表示されます。[メッセージのフィルター処理]ウィンドウは開いたままです。そのフィルターが要求を満たしていれば、それを保存することにより後で再利用できます。

□ フィルター設定の保存

[メッセージのフィルター処理]ウィンドウを使うと、フィルター設定を再利用するために保存できます(196 ページの図 1-84)。これにより、設定したときの手順を繰り返さなくても、同じまたはよく似た情報を後で見ることができます。

□ フィルター設定の再利用

[ブラウザ設定]ウィンドウを使って、既存の設定リストから選択します。これは自分のニーズに合わせて変更したり名前を変えることができます(196 ページの図 1-85)。これらの設定は、ホームセッションやブラウザレイアウトとは無関係です。[ブラウザ設定]ウィンドウにアクセスするには、メニューバーから[アクション: フィルター処理 -> 保存されたブラウザ設定の使用]を選択するか、オブジェクトペインから利用したい保存済フィルターを選択します。

注記

[ブラウザのフィルター設定の保存]ウィンドウと[ブラウザ設定]ウィンドウは、それらが開かれたウィンドウの設定を保存または変更するためのみ使えます。さらにどちらのウィンドウも、それぞれの親ブラウザのウィンドウが閉じられると、自動的に閉じられます。

[ブラウザ設定]ウィンドウを使って、保存したフィルターを選択できます。フィルター処理済新規アクティブメッセージブラウザ、フィルター処理済履歴メッセージブラウザ、フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザを使うには、まずリストボックスで好きな設定を選択します。

図 1-84 は [ブラウザのフィルター設定の保存] ウィンドウです。

図 1-84 [ブラウザのフィルター設定の保存] ウィンドウ

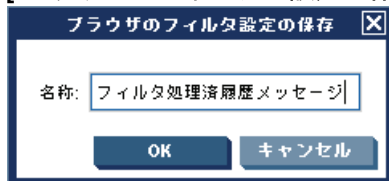


図 1-85 は、[ブラウザ設定] ウィンドウです。

図 1-85 [ブラウザ設定] ウィンドウ



オブジェクトペインへのメッセージブラウザフィルターの保存

HPOM では、オブジェクトペインに保存されているフィルターにアクセスできます。たとえば、[パフォーマンス] エリアで起こりうる障害を表示するメッセージをすべて見たい場合は、重要度レベルが注意域、警戒域、重要警戒域、危険域のメッセージや、認識不能なメッセージすべてを表示するフィルターをメッセージグループの [パフォーマンス] に新しく作成して、新しいフィルターとして保存します。後でそのフィルターを使ってメッセージを見たい場合は、オブジェクトペインからそのフィルターを選択し、フィルター処理済メッセージブラウザを開きます。

オブジェクトペインにフィルターを保存する方法については、300 ページの「ブラウザのフィルター設定を保存するには」を参照してください。

メッセージブラウザフィルターにすぐにアクセス

HPOM では、メッセージブラウザフィルターにすぐにそして簡単にアクセスできます。

フィルター処理済メッセージブラウザにアクセスするには、次のいずれかのポップアップメニューから [フィルター設定] グループを選択します。

□ ショートカットバー

詳細は 87 ページの「ショートカットバーのポップアップメニュー」を参照してください。

□ オブジェクトペイン

詳細は 88 ページの「オブジェクトペインのポップアップメニュー」を参照してください。

メッセージ表示フィルターの設定

メッセージ表示フィルターを使うと、メッセージを一時的に隠すことができます。このフィルターは、ロード済みのメッセージからどのメッセージを既存のメッセージブラウザに表示するかを指定する条件とルールで構成されています。ロード済みのメッセージには、メッセージブラウザフィルターによって第1段階のフィルター処理が適用されていることがあります。その場合、メッセージ表示フィルターは、第2段階のフィルター処理として適用されます。

ここでは、次の内容を説明します。

- メッセージ表示フィルターに含まれるルールと条件
- メッセージ表示フィルターの種類（クイック、簡単、詳細）
- メッセージ表示フィルターの構文
- メッセージ表示フィルターの保存

メッセージ表示フィルターに含まれるルールと条件

メッセージ表示フィルターは、ルールと条件から構成されています。

□ ルール

メッセージ表示フィルターを構成するルールには、1つ以上の条件を含めることができます。ルールとは、複数の条件とルール間の関係の定義であり、条件とルールを論理 AND または論理 OR で組み合わせます。NOT 演算子を使用して、これらの関係の否定を定義することもできます。さらに、ルールをネストさせ、複雑なフィルターを作成することも可能です。

□ 条件

条件とは、フィルターの検索パターンを定義したものです。個々の条件は、メッセージブラウザ内のいずれか1つのカラムと演算子、および検索する値から構成されています。

- メッセージブラウザのカラム

フィルターの適用対象となるメッセージブラウザのカラム
(例: [アプリケーション] カラム、[受信時刻] カラム)

- 演算子

equals (==)、begins (BEGINS) などの演算子。多彩な演算子が使用可能で、条件を柔軟に定義できます。

利用できる演算子の種類は、選択したメッセージブラウザのカラムに左右されます。たとえば、数値データを含むカラムには、begins 演算子は使用できません。使用可能な演算子については、208 ページの「メッセージ表示フィルターの演算子:」を参照してください。

- 値

jacko.deu.hp.com などの値。値は次のいずれかの方法で指定します。

- 直接入力する。
- 利用可能なメッセージのリストから値を選択する。
- あらかじめ定義された値（**管理サーバー**）、（**本日**）など）を選択する（これらの値は、常にかっこで囲まれています）。
209 ページの「メッセージ表示フィルター用にあらかじめ定義されている値:」も参照してください。

次のワイルドカード文字を equals (==) 演算子と組み合わせて使用すれば、複数の文字列に一致する値を定義することもできます。

- 疑問符

疑問符 (?) は任意の 1 文字と一致します。

- アスタリスク

アスタリスク (*) は 1 文字以上の任意の文字列と一致します。

ヒント

疑問符 (?) やアスタリスク (*), または円記号 (\) を検索する場合は、これらの文字の直前に円記号 (\) を付けます。メッセージ表示フィルターをテキスト形式で記述する際に、空白文字を含む値は二重引用符 (") で囲みます。

メッセージ表示フィルターで使用される構文の詳細については、205 ページの「メッセージ表示フィルターの構文」を参照してください。

メッセージ表示フィルターの種類 (クイック、簡単、詳細)

HPOM では、次の 3 種類のメッセージ表示フィルターを使用できます。

□ クイックメッセージ表示フィルター

200 ページの「クイックメッセージ表示フィルター:」を参照してください。

□ 簡単なメッセージ表示フィルター

201 ページの「簡単なメッセージ表示フィルター:」を参照してください。

□ 詳細なメッセージ表示フィルター

204 ページの「詳細なメッセージ表示フィルター:」を参照してください。

クイックメッセージ表示フィルター: メッセージブラウザのカラムヘッダーのポップアップメニューを使用してフィルターにアクセスし、絞り込む値を選択するとそのカラムで指定された値と一致するメッセージのみが表示されます。

図 1-86 のポップアップメニューには、[SNMPTraps] と [alarmgen] という 2 つのツールのエントリが含まれています。これは、この 2 つのツールで生成されたメッセージのみがブラウザに表示されているためです。[SNMPTraps] を選択すると、メッセージブラウザの表示が更新され、SNMPTraps ツールで生成されたメッセージのみが表示されます。さらに [alarmgen] を選択すると、alarmgen ツールで生成されたメッセージも、ブラウザに表示されるようになります。

1 つのカラムを対象として複数の値を選択すると、それらの値のいずれかに一致する (論理 OR 関係の) メッセージが表示されます。クイックフィルターをメッセージブラウザ内の複数のカラムに適用した場合は、条件のすべてに一致する (論理 AND 関係の) メッセージのみが表示されます。クイックメッセージ表示フィルターに含まれる演算子は、常に equals です。

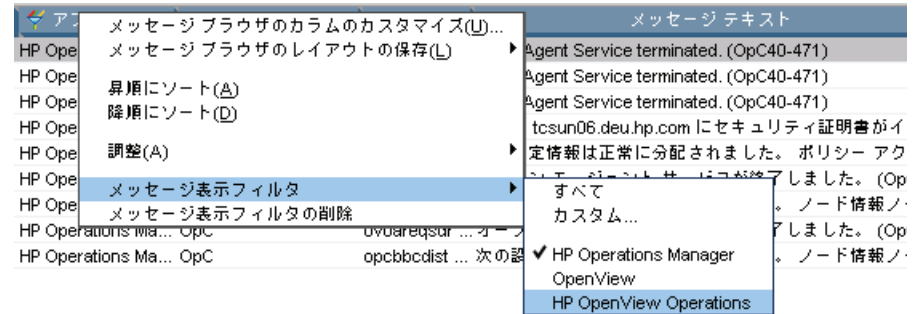
次に、テキスト形式で記述されたクイックフィルターの一例を示します。

```
"Application" == "SNMPTraps"  
OR "Application" == "alarmgen"
```


このフィルターは、SNMPTraps ツールまたは alarmgen ツールで生成されたメッセージを抽出します。2つの条件が OR ルールで結合されています。2つの条件は、どちらもメッセージブラウザのカラム ([アプリケーション]) と演算子(==)、および値 (SNMPTraps または alarmgen) から構成されています。

図 1-86

メッセージ表示フィルターのポップアップメニュー



簡単なメッセージ表示フィルター：簡単なメッセージ表示フィルターは、クイックメッセージ表示フィルターに似ていますが、定義の方法が異なっており、より柔軟に定義できます。

簡単なメッセージ表示フィルターには、次の特徴があります。

□ 簡単なメッセージ表示フィルターのルール

簡単なメッセージ表示フィルターでは、メッセージブラウザ内の同じカラムに適用される条件は OR ルールで、異なるカラムに適用される条件は AND ルールで、それぞれ結合されます。簡単なフィルターのルールに含まれる AND 演算子と OR 演算子は変更できません。

ただし、NOT 演算子を使用して、簡単なメッセージ表示フィルター内のルールの否定を定義することは可能です。

□ 簡単なメッセージ表示フィルターの条件に含まれる演算子

簡単なメッセージ表示フィルターに使用する演算子は、利用可能なすべての演算子から選択できます(クイックメッセージ表示フィルターの場合は equals 演算子のみ)。

□ 簡単なメッセージ表示フィルターの設定

簡単なメッセージ表示フィルターを定義するには、図 1-87 に示すように、[メッセージ表示フィルター] ウィンドウの [簡単な表示] タブを使用します。

次に、テキスト形式で記述された簡単なフィルターの一例を示します。

```
NOT "Object" CONTAINS "opc"  
AND (  
    "Application" == "alarmgen"  
OR "Application" == "SNMPTraps"  
)
```

このフィルターは、文字列「opc」を含むオブジェクトに関連付けられていないメッセージのうち、ツール SNMPTraps または alarmgen により生成されたメッセージを抽出します。

このフィルターには、次の 3 つのルールが含まれています。

- 最初のルールは否定ルールです。このルールには、メッセージの [オブジェクト] カラムと CONTAINS 演算子を使用する条件が含まれています。
- 2 番目は AND ルールです。このルールにより、最初のルールと 3 番目のネストしたルールが結合されます。

- 3番目のルールは、2つの条件を OR 演算子で結合しています。2つの条件は、どちらもメッセージブラウザのカラム ([ツール]) と演算子 (==)、および値 (SNMPTraps または alarmgen) から構成されています。

図 1-87 [メッセージ表示フィルター] ウィンドウの [簡単な表示] タブ



詳細なメッセージ表示フィルター： 詳細なメッセージ表示フィルターは、他の 2 つのメッセージ表示フィルター（クイック / 簡単）を上回る、最大限の柔軟性を発揮します。不正な構文は許容されませんが、それを除けばいっさいの制約なしに、必要に応じて任意の条件とルールを設定できます。フィルターの構文の詳細は 205 ページの「メッセージ表示フィルターの構文」を参照してください。

図 1-88 は、詳細なメッセージ表示フィルターの設定に使用する [メッセージ表示フィルター] ウィンドウの [詳細な表示] タブを示しています。この図では、1 つの条件が選択されています。ルールを選択すると、ウィンドウ下部の表示内容が変わり、選択したルールの論理演算子を変更したり、ルールの否定を定義することが可能になります。

次に、テキスト形式で記述された詳細なフィルターの一例を示します。

```
NOT "Object" CONTAINS "opc"
AND (
  "Application" == "alarmgen"
  OR NOT "Severity" < "Minor"
  OR (
    "Time Received" == "TODAY"
    AND "Application" == "SNMPTraps"
  )
)
```

このフィルターは、文字列「opc」を含むオブジェクトに関連付けられていないメッセージのうち、次のいずれか 1 つの条件に該当するメッセージを抽出します。

- ❑ alarmgen ツールにより生成された。
- ❑ メッセージの重要度が警戒域以上（警戒域、重要警戒域、危険域）である。

- SNMPTraps ツールにより生成され、現在の日付の 00:00:00 ~ 23:59:59 の間に受信された。

図 1-88

[メッセージ表示フィルター] ウィンドウの [詳細な表示] タブ



ヒント

[テキスト表示] タブでは、テキスト形式で記述することにより、他のタブのフィールドやボタンを使用することなくメッセージ表示フィルターを定義できます。

メッセージ表示フィルターの構文

メッセージ表示フィルターの構文ルールは次のとおりです。

```
filter := rule;
rule := NOT rule | (rule) | rule logical rule |
        criterion;
logical := AND | OR;
criterion:= COLUMN_NAME operator VALUE;
operator := == | > | >= | < | <= | BEGINS | ENDS | CONTAINS;
```

次に、複雑なメッセージ表示フィルターの一例を示します。

```
"Severity" >= "Minor"
AND "Flags" == "O--FX-E"
AND NOT "Message Text" BEGINS "Memory"
AND (
  "Time Received" == "TODAY"
  OR "Node" CONTAINS "hp.com"
)
```

このフィルターは、次のすべての条件を満たすメッセージを抽出します。

- ❑ 重要度が警戒域以上（警戒域、重要警戒域、または危険域）である。
- ❑ ユーザー自身が所有しており、自動アクションに失敗しており、オペレータ起動アクションが可能なメッセージ。非該当メッセージ、指示、および注釈のステータスは未定義。
- ❑ メッセージテキストの冒頭が「Memory」ではない。
- ❑ 本日受信されたか、hp.com ネットワーク上のノードから送信されたメッセージである。

メッセージ表示フィルターの例は、200 ページの「メッセージ表示フィルターの種類（クイック、簡単、詳細）」でも、いくつか紹介されています。

メッセージ表示フィルターの構文に使用される各パラメータについて、次に説明します。

filter

filter は、1 つのルール (rule) です。

rule

rule は、NOT 演算子で否定できます。

rule は、かっこ ("()") で囲むことができます。かっこで囲むことにより、評価の優先順位を定義できます。デフォルトでは、AND 演算子が OR 演算子より優先されます。

2 つ以上のルール (rule) は 1 つの論理演算子 (logical) で結合できます。

rule には、条件 (criterion) を 1 つ含めることができます。

logical

logical は論理演算子で、AND と OR が使用できます。

criterion

条件 (criterion) は、カラムの名前 (COLUMN_NAME) と演算子 (operator)、および値 (VALUE) から構成されます。

COLUMN_NAME

メッセージ属性 ID キーまたはメッセージカラム ID キーです。

operator

メッセージ表示フィルターの条件に使用できる演算子については、209 ページの表 1-9 を参照してください。

VALUE

メッセージ表示フィルターでサポートされる文字列。次の値が使用できます。

- *空白文字を含む値*

空白文字を含む値は二重引用符 (“”) で囲みます。

- *定義済みの値*

ノードや時間関係の値があらかじめ定義されています。具体的な値については、209 ページの「メッセージ表示フィルター用にあらかじめ定義されている値:」を参照してください。

- *[重要度] カラムの値*

メッセージの重要度を表す値として Unknown、Normal、Warning、Minor、Major、および Critical が予約語になっています。これらの予約語では、大文字と小文字は区別されません。

- *重複カラムの数*

正の整数とゼロ (0) だけが許容されます。

- *[フラグ] カラム*

7つの文字(フラグごとに1文字)を指定します。
指定できる値は次のとおりです。

フラグ	有効値
1(状態)	? - O M X R N
2(非該当メッセージ)	? - X
3(指示)	? - X
4(自動アクション)	? - X S F R
5(オペレータ起動アクション)	? - X S F R
6(注釈)	? - X

疑問符(?)は任意の値に該当します。ハイフン(-)は、該当するフラグが設定されないことを示します。

- [日付]カラムと[時刻]カラムの値

日付と時刻の形式は、Java GUI クライアントシステムのロケール設定に依存します。

メッセージ表示フィルターの演算子: メッセージ表示フィルターでは、2種類の演算子を使用します。

□ 条件用の演算子

条件に使用できる演算子は、メッセージブラウザの対象カラムに表示されるデータの種類の左右されます。すなわち、数値データを表示するカラム用の演算子と、文字列データを表示するカラム用の演算子があります。

利用可能な演算子を表 1-9 に示します。

表 1-9 条件用の演算子

データの種類	演算子	キーワード
文字列データのみ	begins with	BEGINS
	ends with	ENDS
	contains	CONTAINS
数値 / 文字列データ	equals	==
	greater than	>
	greater than or equals	>=
	less than	<
	less than or equals	<=

□ ルール用の演算子

ルールには次の演算子を使用できます。

- AND

論理 AND (論理積)

- OR

論理 OR (論理和)

- NOT

NOT 演算子を使用すると、ルールの否定を定義できます。たとえば、特定の文字で開始されないメッセージを探す場合は、NOT "<COLUMN_NAME>" BEGINS "<VALUE>" を使用するか、[メッセージ表示フィルター] ウィンドウで [NOT] チェックボックスを選択します。

メッセージ表示フィルター用にあらかじめ定義されている値：いくつかの値がメッセージ表示フィルター用にあらかじめ定義されており、これらの値を使用することによって、フィルターの柔軟性を高め、再利用しやすくなります。定義済みの値は、常にリストの先頭に表示され、しかもかっこ ("()") に囲まれているため容易に識別できます。

日時の値は相対値であり、Java GUI クライアントシステムによって、システムに設定されているロケールと時間帯に基づいて時刻の値に変換されます。したがって、複数のユーザーが同じメッセージ表示フィルターを適用しても、各ユーザーの所在地が異なれば、適用結果は異なる場合があります。

定義済みの日時の値に使用できる演算子は、equals (==) だけです。

表 1-10 に、メッセージ表示フィルターに使用できる定義済みの値を示します。

表 1-10 **メッセージ表示フィルター用にあらかじめ定義されている値**

	定義済みの値	説明
ノードの値	(管理サーバー)	管理サーバーシステムの完全なドメイン名 (FQDN)
日時の値	(本日)	現在の日付の 00:00:00 ~ 23:59:59 までの間
	(前日)	前日の 00:00:00 ~ 23:59:59 の間
	(今週)	現在の週の開始日の 00:00:00 から終了日の 23:59:59 までの間
	(前週)	先週の開始日の 00:00:00 から終了日の 23:59:59 までの間
	(今月)	現在の月の開始日の 00:00:00 から終了日の 23:59:59 までの間
	(前月)	先月の開始日の 00:00:00 から終了日の 23:59:59 までの間

メッセージ表示フィルターの保存

メッセージ表示フィルターは、次の方法で保存できます。

□ コンソールセッションの設定

コンソールの設定を保存すると、メッセージブラウザに適用済みのメッセージ表示フィルターもすべて保存されます。**Java GUI** の次の起動時には、保存したメッセージ表示フィルターが自動的にメッセージブラウザに適用されます。

コンソール設定を保存するには、メニューバーから [**ファイル：コンソールセッションの設定の保存**] を選択します。

□ メッセージブラウザのレイアウト

カスタマイズしたメッセージブラウザのレイアウトを保存すると、そのブラウザに適用されているメッセージ表示フィルターも `itoopbrw` ファイルに保存されます。レイアウトを保存したブラウザを次回開くときに、保存したメッセージ表示フィルターが自動的にブラウザに適用されます。

メッセージブラウザのレイアウトを保存するには、メニューバーから [**表示：メッセージブラウザのレイアウトの保存**] を選択します。

□ 名前付きメッセージ表示フィルター

同じメッセージ表示フィルターを、今後の **Java GUI** セッションでも繰り返し使用する場合は、そのフィルターに名前を付けて保存します。名前付きメッセージ表示フィルターは、コンソール設定やブラウザレイアウトとは別に保存されるため、必要になったときにロードしてメッセージブラウザに適用できます。

HPOM の名前付きメッセージ表示フィルターには、グローバルなフィルターと個人用フィルターがあります。

● グローバルメッセージ表示フィルター

グローバルメッセージ表示フィルターは、**HPOM** の管理者により、管理サーバーに保存されます。オペレータは、グローバルなフィルターをロードして個人的な用途に使用できますが、グローバルなフィルターを作成したり、保存することはできません。

- 個人用メッセージ表示フィルター

個人用メッセージ表示フィルターは、それを作成したオペレータ専用です。このフィルターも管理サーバーシステムに保存されますが、ユーザー別に格納されます。

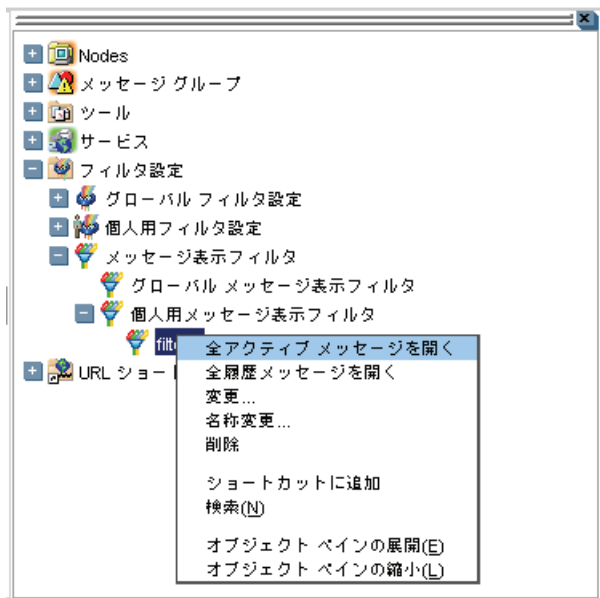
名前付きメッセージ表示フィルターにアクセスし、適用するには、そのフィルターを [メッセージ表示フィルター] ウィンドウにロードするか、**図 1-89** に示すようにオブジェクトペインでフィルターを選択します。

注記

現在のリリースでは、オブジェクトペインを使用して、名前付きメッセージ表示フィルターを履歴メッセージブラウザまたはペンディングメッセージブラウザに適用することはできません。

図 1-89

オブジェクトペインでの名前付きメッセージ表示フィルター



ブラウザペインに [メッセージブラウザ] タブを追加

フィルター処理済メッセージブラウザを開くと、自動的にワークスペースペインに表示されます。フィルター処理済メッセージブラウザをワークスペースペインからブラウザペインに移動するには、ツールバーボタン [**ブラウザペインにメッセージブラウザをおく**] (詳細は 459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照) をクリックします。ブラウザがブラウザペインに移動した後に同じボタンをクリックすると、そのブラウザをワークスペースペインに戻すことができます。

69 ページの図 1-17 は、ブラウザペインからワークスペースペインにブラウザを移動する方法を示しています。

メッセージ行全体のカラー表示

デフォルトモードとカラーモードとを切り替えるには、メニューバーから [編集: 表示設定...] を選択し、[表示設定] ウィンドウの [一般] タブで [カラー行] チェックボックスを選択または選択解除し、[OK] をクリックします。

表示設定は Java GUI が起動しているコンピュータに保存されます。また、そのクライアント上で起動しているすべての Java GUI に保存されます。別のクライアントで Java GUI を起動した場合は、そのクライアントに以前保存された設定が使われます。必要であれば、そのクライアントの設定も変更できます。

メッセージブラウザカラムのカスタマイズ

HPOM では、ブラウザカラムの物理的なレイアウトを変更できます。

□ カラムサイズの変更

カラムの枠を左または右にドラッグしてサイズを変えます。

□ カラムの並べ替え

カラムのラベルをドラッグしてカラムを並べ替えます。

□ カラムの表示 / 非表示

メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ウィンドウで、どのメッセージ属性を表示または非表示にするか選択し、カラムの表示 / 非表示を切り替えます。詳細は 215 ページの「メッセージブラウザカラムの表示 / 非表示」を参照してください。

□ カラムラベルのカスタマイズ

メッセージブラウザのカラムのラベルを変更するには、[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ウィンドウで新しいラベルを指定します。詳細は 513 ページの「[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックス」を参照してください。

□ カラムの内容の調整

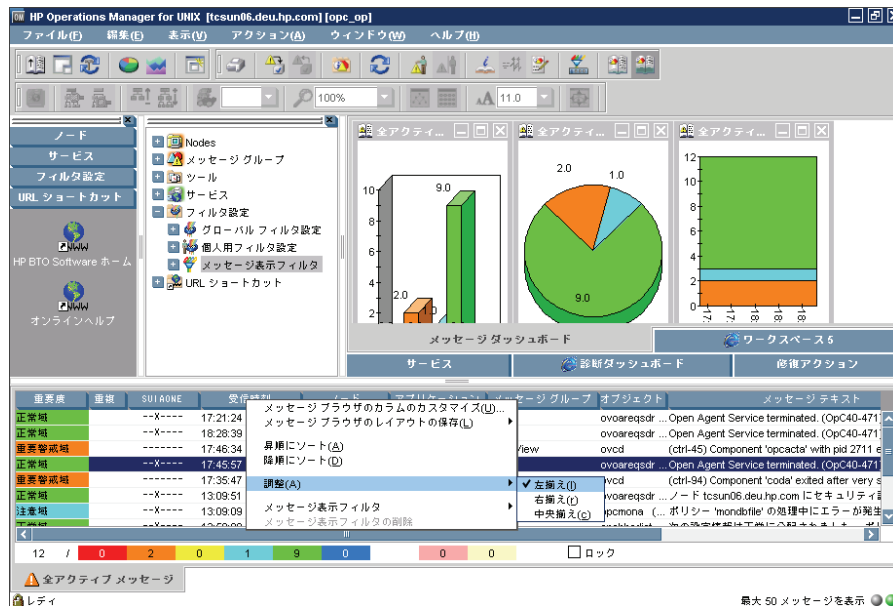
オープンしているメッセージブラウザ内のメッセージカラムのヘッダーでポップアップメニューを使って、カラム内容の位置を調整することができます。調整には、[左揃え]、[右揃え]、[中央揃え]のいずれかを指定できます。214 ページの図 1-90 を参照してください。

[表示] メニューの [メッセージブラウザのレイアウトの保存] を使って、この設定を今後のために保存できます。

メッセージブラウザのレイアウトを保存する方法は、216 ページの「カスタマイズしたメッセージブラウザレイアウトの保存」を参照してください。

図 1-90

メッセージブラウザを使ったブラウザのレイアウトのカスタマイズ



メッセージブラウザ カラムの表示 / 非表示

HPOM では、メッセージブラウザのすべての利用可能なメッセージ属性の一部だけを表示するように設定できます。これはカスタムメッセージ属性にも適用されます。この設定は [メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ウィンドウで行います。

このウィンドウにアクセスするには、Java GUI の [表示] メニューから [メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] を選択するか、メッセージブラウザヘッダーを右クリックしてポップアップメニューの [メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] を選択します。

[ブラウザのカラムのカスタマイズ] ウィンドウには 2 つのタブがあります。

□ [一般] タブ

一般的なメッセージ属性のリストです。125 ページの図 1-48 は、[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ウィンドウの [一般] タブで、デフォルトのカラムが表示されています。ここで選択した項目は、ラベルまたは ID (ラベルに入力していない場合) とともに、現在選択しているメッセージブラウザに表示されます。

□ [カスタム] タブ

カスタマイズしたメッセージ属性です。126 ページの図 1-49 は [メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ウィンドウの [カスタム] タブで、カスタムメッセージ属性をカラムとして表示します。

[カスタム] タブには 3 つのセクションがあります。

- *カスタムメッセージ属性*
データベースにすでに定義されている属性です。
- *予想カスタムメッセージ属性*
今後必要になると予想される属性です。
- *予想カスタムメッセージ属性 (入力エリア)*
新規オペレータ定義の属性です。

これらのタブのいずれかを使って、現在のメッセージブラウザのメッセージ属性を表示するように設定できます。[OK] をクリックすると、この設定が現在の (アクティブな) メッセージブラウザにのみ適用されます。

カスタマイズしたメッセージブラウザレイアウトの保存

開いているメッセージブラウザに対するブラウザレイアウトを保存するには、ブラウザの種類ごとに [メッセージブラウザのレイアウトの保存] オプションを設定します。

□ フィルター処理済ブラウザ

フィルター処理済メッセージブラウザとフィルター名を対応させます。保存したレイアウトは、名前の一致するメッセージブラウザだけに適用されます。他の名前のメッセージブラウザには適用できません。

□ デフォルトとして保存

デフォルトのメッセージブラウザは、タイプごとにレイアウトが保存されます。

- フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ
- フィルター処理済履歴メッセージブラウザ
- フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザ

グローバルな Java GUI プロパティファイルの使用

Java GUI をカスタマイズする場合、変更は、ホームディレクトリにあるプロパティファイルに保存されます。次回に Java GUI を起動すると、プロパティファイルが評価され、カスタマイズした設定がロードされます。カスタマイズした内容は、次のプロパティファイルに保存されます。

□ コンソール設定

コンソール設定への変更は、
HP_OV_consoleSettings_<server_name>_<user> ファイルに保存されます。177 ページの「コンソール設定の保存」も参照してください。

□ [表示設定] ウィンドウ

[表示設定] ウィンドウでの変更は、Java GUI リソースファイル itooprc に保存されます。

□ ブラウザ設定

メッセージブラウザへの変更は、ブラウザ設定ファイル itoopbrw に保存されます。

管理者は、グローバルモードを Java GUI クライアントに対して設定することができます。その設定により、ローカルのプロパティファイルを無効にしてグローバル設定を優先させることができます。グローバルプロパティファイルは、管理者の制御下にある共有の場所に保存されます。

グローバルモードを有効にすると、新しくカスタマイズした内容を保存できません。その場合、グローバルモードが有効になっていることを示すメッセージが表示されます。この後でローカル設定を保存したり、使ったりできるのは、管理者と許可されたオペレータだけです。

共有の場所でグローバルプロパティファイルを変更すると、Java GUI の再起動を要請するメッセージが HPOM によって表示されます。

グローバルプロパティファイルの有効化の詳細は、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

セキュアな HTTPS 通信

この項では、HTTPS ベースの Java GUI を設定して、Java GUI と管理サーバー間でセキュアな通信を行う方法を説明します。

以下の項目で構成されます。

□ アーキテクチャ

HTTPS ベース Java GUI の基礎となる概念やアーキテクチャを説明します。詳細は 219 ページの「HTTPS ベース Java GUI アーキテクチャ」を参照してください。

□ セキュアな通信の確立

セキュアな通信を確立するプロセスを説明します。220 ページの「セキュアな通信の確立」を参照してください。

□ 証明書

証明書モードと認証モードを説明します。詳細は 223 ページの「証明書」を参照してください。

HTTPS ベース Java GUI と HP Operations 管理サーバー間のセキュアな通信の設定についての詳細は 326 ページの「セキュアな HTTPS ベース Java GUI 通信の設定」を参照してください。

Java GUI クライアントと HP Operations 管理サーバー間の非セキュアな通信を無効にし、HTTPS ベース Java GUI をインストールして有効にする方法は、『*HPOM 管理サーバーインストールガイド*』に詳しく説明されています。

HTTPS ベース Java GUI アーキテクチャ

HPOM 8 に付属している標準の Java GUI は、管理サーバーへのセキュアなリンクは提供しません。この機能は、HTTPS ベースの Java GUI で提供されます。HTTPS ベース Java GUI は、HP Operations 管理サーバーとの通信に、セキュアソケットレイヤー (SSL) 暗号化方式を利用する HTTPS プロトコルを使います。SSL 暗号化方式は、コア機能コンポーネントを利用します。

HTTPS プロトコルは、アプリケーション (ツール) のための番人であり、着信した通信リクエストがセキュアなデータ交換のために信頼して良いものかどうかを判断します。セキュアな通信を確立する方法については、220 ページの「セキュアな通信の確立」を参照してください。

HTTPS の機能は、ネットワークセキュリティのための 3 つの必要条件を備えています。

- 機密性
- データ整合性
- 認証

ユーザーが HTTPS ベース Java GUI にログオンすると、クライアントと管理サーバーの間に、証明書による認証方式に基づいた HTTPS プロトコルを使う通信が開始されます。証明書についての詳細は 223 ページの「証明書」を参照してください。

HTTPS ベースの通信の実装によって、Service Navigator のリクエストもセキュアになります。HTTPS プロトコルは、HPOM Java ベースのオペレータクライアントと HP Operations 管理サーバー間に、セキュアなリンクを確立します。

セキュアな通信の確立

セキュアな通信が確立されるプロセスは、以下のとおりです。

Java GUI クライアントは `opcuihttps` プロセスに接続します。このプロセスは、HTTPS プロトコルを使い、Java GUI クライアントと HP Operations 管理サーバーの間のプロキシの役割を果たします。

`opcuihttps` を設定する方法、ファイアウォールを経由する HTTPS ベースの Java GUI の接続を設定する方法、HTTPS ベース Java GUI に関連するパラメータのリストについては、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

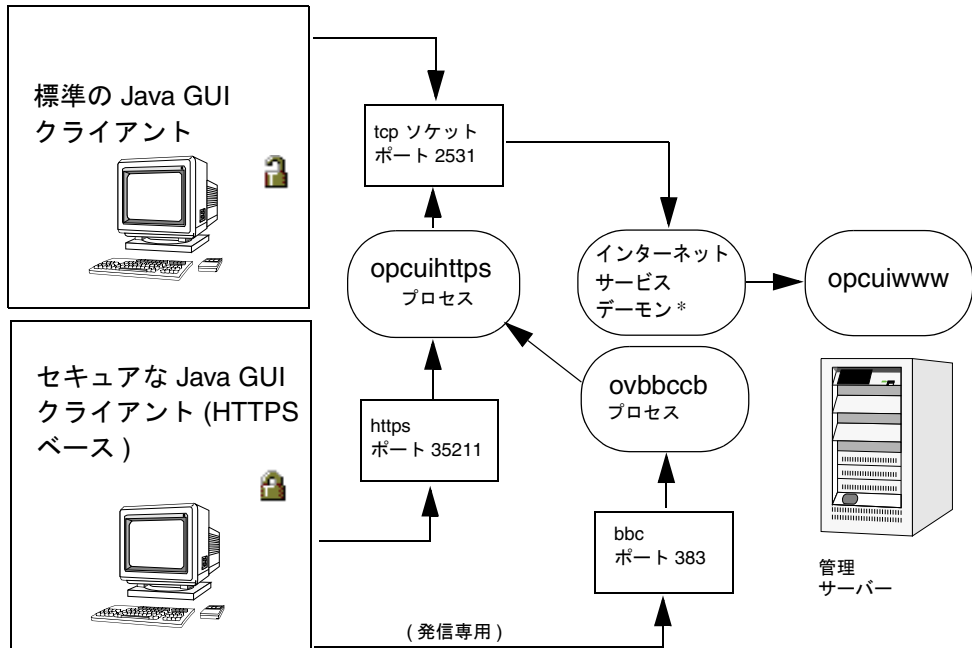
Java GUI は、ポート 35211 上のセキュアな HTTPS プロトコルを使って `opcuihttps` プロセスと通信します。発信専用変数として、BBC ポート 383 を利用して `opcuihttps` に接続できます (接続方法については、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照)。次に `opcuihttps` プロセスは、ソケット通信を使って、`https` リクエストを標準の Java GUI ポート (2531) にリダイレクトします。すべての転送された HTTPS リクエストは、他の非セキュアな Java GUI クライアントからのリクエストと同様に、`inetd` (UNIX) および `xinetd` (Linux) プロセスによって処理されます。

`opcuihttps` プロセスは、HP Operations 管理サーバーからの応答も処理し、HTTPS プロトコルを使って Java GUI に中継します。

このようにして、Java GUI と HP Operations 管理サーバー間の通信は、セキュアなデータ交換用として信頼できる通信になります。

221 ページの図 1-91 に、クライアント/サーバー間の通信を示しています。

図 1-91 クライアント/サーバー間の通信



* inetd (UNIX) および xinetd (Linux)

認証プロセス

セキュアな通信を確立させる認証プロセスは、以下の 4 つの手順で構成されます。

1. オペレータのログオン

オペレータはログオン時にユーザー名とパスワードを入力します。

ログオンを有効にするために HTTPS ベース Java GUI に証明書をインストールしておく必要はありません。詳細は 223 ページの「証明書」を参照してください。

2. 証明書の生成

Java GUI が初めて管理サーバーにアクセスしたときに、サーバー証明書が作成されます。

管理サーバーは自らを認証するために、証明書を Java GUI クライアントに送信します。

注記

サーバー証明書を今後のセッションでも使うことを選択した場合には、サーバー証明書はローカルの証明ストアに保存されます。この証明書は、Java GUI と管理サーバー間のその後の接続でも使われます。

3. クライアントがサーバーを識別

クライアントは管理サーバーから受け取った証明書に基づいて、管理サーバーを識別します。

完全認証モードを使っている場合には、クライアントはクライアント証明書を使って自らを認証する必要があります。このようにして、高度なレベルのセキュリティが達成されます。認証モードについての詳細は 223 ページの「証明書」を参照してください。

4. 通信チャネルが開く

認証が成功すると、通信チャネルが開きます。

注記

Java GUI と HP Operations 管理サーバー間の HTTPS ベース通信の確立に失敗した場合には、セキュアではない通信タイプを使うよう促されます。[キャンセル]を押すと、ログオンウィンドウが表示されます。

ito_op 起動スクリプトの https_only パラメータに **yes** を設定している場合には、セキュアではない通信タイプを使うよう促されることはありません。HTTPS ベース通信の起動パラメータの詳細は 327 ページの「Java GUI クライアントに HTTPS ベース通信を設定する」を参照してください。

221 ページの図 1-91 には、選択した通信タイプに応じて何が表示されるかを示しています。

□ HTTPS ベース通信

HTTPS ベース Java GUI 通信を使っている場合は、ログオンウィンドウとステータスバーに閉じた南京錠のアイコンが表示されます。

□ 標準の通信

標準の Java GUI 通信を使っている場合は、GUI に開いた南京錠のアイコンが表示されます。

証明書

HTTPS ベース Java GUI では、クライアントとサーバー間で電子証明書を交換し、認証することによって、ネットワークセキュリティを実現しています。証明書は、公開鍵を保証する手段であり、送信者のユーザー名と公開鍵を暗号化形式で保持しています。

証明書は、証明書を発行した信頼できる認証局 (CA) の秘密鍵を使って署名されています。CA は、証明書に自らの公開鍵を追加し、受取人が確認できるようにします。

認証モード

以下の認証モードで SSL 暗号化方式が使われます。

□ サーバー認証モード

デフォルトの認証モードであり、サーバー証明書だけが必要です。匿名の Java GUI クライアントから HP Operations 管理サーバーに接続することができます。

□ 完全認証モード

完全認証モードでは、クライアントシステムにクライアント証明書をインストールしておく必要があります。

それぞれの認証モードで証明書を用意する方法については、331 ページの「証明書の準備」を参照してください。

2 日常作業を行う

HPOM で障害を検出する

HPOM は管理対象環境 (managed environment) で発生した障害と潜在している障害を検出します。

このセクションでは次の操作について説明します。

□ モニター HPOM

HPOM 管理対象環境をモニターする手段として、メッセージノードの表示、オブジェクトツリーの検索、およびメッセージイベント通知への応答を行うことができます。

□ メッセージの表示

HPOM GUI を起動すると、ブラウザペインにメッセージブラウザが開き、割り当てられているノードからのアクティブなメッセージがすべて自動的に表示されます。

注記

HPOM の障害解決プロセスの概要は 116 ページの「障害の解決プロセス」を参照してください。

モニター HPOM

HPOM 管理対象環境をモニターする手段として、メッセージノードの表示、オブジェクトツリーの検索、およびメッセージイベント通知への応答を行うことができます。

□ メッセージノードを手動で表示

ショートカットバーとオブジェクトペインで、メッセージノードを手動でアクセスして表示できます。詳細は 227 ページの「メッセージノードを手動で表示」を参照してください。

□ メッセージノードを自動で表示

検出している障害に対応するメッセージノードを、自動でアクセスして表示できます。詳細は 228 ページの「メッセージノードを自動で表示」を参照してください。

□ オブジェクトペインを検索

基本検索機能または詳細検索機能を使って、オブジェクトツリー内の特定の項目を検索できます。詳細は 228 ページの「オブジェクトペインの検索」を参照してください。

□ メッセージイベント通知を表示

検出している障害に対応するメッセージを、自動でアクセスして表示できます。詳細は 230 ページの「メッセージイベント通知の表示」を参照してください。

メッセージノードを手動で表示

管理対象環境 (managed environment) では、ノードは次の 2 つの場所で階層的に表示されます。

□ ショートカットバー

ショートカットバーにノードを表示するには、[ノード] バーをクリックします。ショートカットバーの概要は 45 ページの「ショートカットバー」を参照してください。ショートカットバー内のノードの表示画像は 128 ページの図 1-50 を参照してください。

□ オブジェクトペイン

オブジェクトペインにノードを表示するには、[ノード]アイコン(または[ノードレイアウトグループ]アイコン)の横にあるプラス記号(+)
をクリックします。オブジェクトペインの概要は 48 ページの「オブ
ジェクトペイン」を参照してください。オブジェクトツリー内のノ
ードの表示画像は、50 ページの図 1-4 を参照してください。

メッセージノードを自動で表示

障害を検出すると、オブジェクトペイン内で影響を受けるノードを自動的
に強調表示できます。

メッセージノードに自動的にアクセスするには次のようにします。

1. 調査したメッセージをメッセージブラウザ内で選択します。詳細は
70 ページの「メッセージブラウザ」を参照してください。
2. 選択したメッセージを右クリックし、ポップアップメニューから[オブ
ジェクトペインから関連ノードを選択]を選択します。

[オブジェクトペインから関連ノードを選択]を右クリックすると、オブジェク
トペイン内のノードが強調表示されます。その後、該当するノードでツール
を起動できます。

オブジェクトペインの検索

基本検索 (basic search) または詳細検索 (advanced search) の機能を使っ
て、オブジェクトツリー内の特定の項目を検索できます。検索機能の概要
は 120 ページの「オブジェクトペインの検索」を参照してください。

オブジェクトペイン内で特定の項目を検索する手順は次のとおりです。

1. メニューバーから [編集: 検索] を選択します。
2. [検索] ダイアログボックスで検索条件を入力します。

[検索] ダイアログボックスの詳細は 525 ページの「[検索] ダイアロ
グボックス」を参照してください。

注記

オプションとして、完全一致、大文字小文字の区別、またはその両方の検索が可能です。検索条件に一致する項目が見つかったら、その項目はオブジェクトペイン内で強調表示されます。オブジェクトツリーが縮小表示されていて項目が見えない場合は、ツリーが展開表示され、項目がオブジェクトペインの表示可能エリアにスクロールされます。普通の状態では、オブジェクトツリーの一番上から検索が始まります。ただし、すでに項目が強調表示された状態で検索を開始した場合は、その選択された項目から検索されます。

3. **[次を検索]** をクリックします。

基本検索では、オブジェクトペイン全体を検索できます。

メッセージイベント通知の表示

メッセージイベント通知により、常に新しい重要度の高いメッセージを受信できます。この通知は、同時に多くのウィンドウを開いていたり、重要度の低いメッセージがたくさん入ってきた場合などに特に便利です。メッセージイベント通知の概要は 121 ページの「メッセージイベントの通知方法」を参照してください。

[メッセージイベント通知] ダイアログボックスが表示されたときに、次のいずれかのオプションを選択できます。

□ メッセージブラウザを表示

関連するメッセージブラウザを開き、重要度の高いメッセージを表示します。メッセージが複数のメッセージブラウザに関連付けられている場合（複数のメッセージブラウザが同じフィルターを使っている場合など）でも、表示されるメッセージブラウザは 1 つだけです。

□ 閉じる

[メッセージイベント通知] ダイアログボックスを閉じます。

注記

[表示設定] ダイアログボックスを使って、メッセージイベント通知のオン/オフの切り替えや、通知用の重要度しきい値をリセットできます。メッセージイベント通知を設定する方法については、293 ページの「メッセージイベントの通知方法の設定」を参照してください。[表示設定] ダイアログボックスの詳細は 547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」を参照してください。

メッセージの表示

HPOM GUI を起動すると、ブラウザペインにメッセージブラウザが開き、割り当てられているノードからの最新の 50 件のアクティブなメッセージがすべて自動的に表示されます。

注記

メッセージブラウザの概要については、70 ページの「メッセージブラウザ」を参照してください。ブラウザペインの概要は 68 ページの「ブラウザペイン」を参照してください。

表示されるメッセージの最大数を変更して、すべてのメッセージが表示されるようにすることもできます。詳細は 323 ページの「表示するメッセージ数を変更するには」を参照してください。表示するメッセージ数はデフォルトで 50 ですが、必要に応じてこれを変更できます。

選択した表示フィルターに一致したメッセージだけを表示するフィルター処理済メッセージブラウザを使うと、メッセージブラウザに表示されるメッセージをより絞り込むことができます。詳細は 233 ページの「アクティブメッセージの表示」を参照してください。

ヒント

すぐに特定のメッセージだけを抽出してメッセージブラウザに表示するには、メッセージ表示フィルターを使います。メッセージ表示フィルターを使うと、メッセージを一時的に隠すことができます。メッセージ表示フィルターの使用方法については、303 ページの「メッセージ表示フィルターの使用方法」を参照してください。

このセクションでは次の操作について説明します。

- すべてのアクティブメッセージの表示
- 選択したメッセージの表示
- アクティブメッセージの表示
- 履歴メッセージの表示
- ペンディングメッセージの表示
- ペンディングメッセージの表示

すべてのアクティブメッセージの表示

すべてのメッセージを表示するには、メニューバーから [**アクション: フィルター処理 -> 全アクティブメッセージ**] を選択します。

ワークスペースペイン内でメッセージブラウザが開き、すべてのアクティブメッセージがその中に表示されます。

注記

メッセージブラウザをワークスペースペインからブラウザペインに移動するには、ツールバーで [**ブラウザペインにメッセージブラウザをおく**] ボタンをクリックします。詳細は 459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照してください。

選択したメッセージの表示

選択したメッセージだけを表示するメッセージブラウザを開くことができます(たとえば、特定のノードやメッセージグループのメッセージに集中したい場合など)。

注記

選択したメッセージを表示すれば、フィルター処理済メッセージブラウザを簡単に開くことができます。他のフィルターでフィルター処理済メッセージブラウザを開く方法については、233 ページの「アクティブメッセージの表示」を参照してください。

選択したメッセージを表示するには、次の手順に従ってください。

1. オブジェクトペインで任意のノード、メッセージグループ、またはサービスを右クリックします。

オブジェクトペインの概要は 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

ポップアップメニューが開きます。

2. ポップアップメニューで、次の項目から 1 つを選択します。

- **アクティブメッセージのフィルター処理**
- **履歴メッセージのフィルター処理**

選択したノード、メッセージグループ、またはサービスが生成したメッセージだけを表示するメッセージブラウザが、ワークスペースペインに開きます。ポップアップメニューでどのオプションを選択したかによって、メッセージブラウザはアクティブメッセージか履歴メッセージのどちらかを表示します。

ワークスペースペインの概要は 59 ページの「ワークスペースペイン」を参照してください。

アクティブメッセージの表示

メッセージブラウザの設定を保存すれば、同じフィルターを必要に応じて再利用できます。

注記

アクティブメッセージを表示するとき、他のフィルターでメッセージブラウザを開くことができます。フィルター処理済メッセージブラウザを簡単に開く方法については、232 ページの「選択したメッセージの表示」を参照してください。

フィルター処理済アクティブメッセージを表示するには、次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **[アクション: フィルター処理 -> フィルター処理済新規アクティブブラウザ]** を選択します。
2. **[メッセージのフィルター処理]** ダイアログボックスで、適用したいフィルターの名前を入力します。
[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの各オプションについては 518 ページの「**[メッセージのフィルター処理]** ダイアログボックス」を参照してください。
3. 適用したいフィルターを選択します。
4. **[OK]** をクリックします。

フィルター処理済新規アクティブブラウザが開き、選択した基準に一致したメッセージだけが表示されます。

履歴メッセージの表示

フィルター処理済履歴メッセージを表示するには、次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **[アクション: フィルター処理 -> フィルター処理済新規履歴ブラウザ]** を選択します。
2. **[メッセージのフィルター処理]** ダイアログボックスで、適用したいフィルターの名前を入力します。
[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの各オプションについては 518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。
3. 適用したいフィルターを選択します。
4. **[OK]** をクリックします。

フィルター処理済新規履歴メッセージブラウザが開き、選択した基準に一致するメッセージだけが表示されます。

注記

選択したメッセージに新しい履歴フィルターを作成することができます。新しい履歴フィルターを作成するためのメニュー項目には、以下のいずれかの方法でアクセスできます。

- 選択したメッセージ上で右クリックする (ポップアップメニュー)
- メニューバーから **[アクション: メッセージ]** を選択する

古いメッセージの表示

新しいメッセージを受信すると、現在表示中のメッセージがメッセージブラウザ内に表示されなくなることがあります。

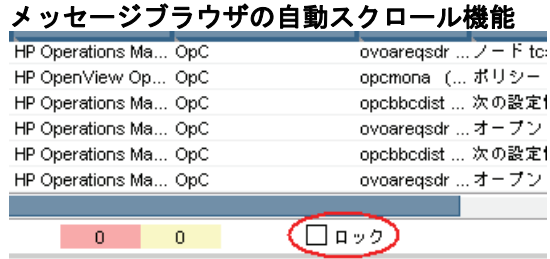
新しいメッセージを受信しても、メッセージブラウザ内に現在表示されているメッセージを表示したままにするには、図 2-1 のようにメッセージブラウザの下部にある **[ロック]** チェックボックスをクリックしてメッセージブラウザをロックします。

ロックされたメッセージブラウザには、すでに表示してあるメッセージの変更箇所が表示されます。しかし、受諾メッセージおよびロックの設定後に着信したメッセージは表示されません。

スクロールスライダーを移動させるとメッセージブラウザのロックが解除されます。ソートの変更、カラムヘッダーのクリック、キーを用いたメッセージブラウザ内部のスクロールではロックは解除されないため、メッセージブラウザがロックされていても、メッセージを移動することができます。

また、ロックされたメッセージブラウザのステータスバーに情報が表示され、ステータスを確認することができます。

図 2-1



ペンディングメッセージの表示

フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザを使って、定義したサービス時間外に HP Operations 管理サーバーに到着したメッセージの確認や、管理をします。フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザの概要は 79 ページの「フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザ」を参照してください。

フィルター処理済またはフィルター処理していないペンディングメッセージを表示するには、次の手順に従います。

1. メニューバーから [アクション: フィルター処理 -> フィルター処理済新規ペンディングブラウザ] を選択します。

2. [メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスで、すべてのペンディングメッセージ、または指定したペンディングメッセージを選択します。

- すべてのペンディングメッセージ

すべてのペンディングメッセージを見るには [OK] をクリックします。

- 指定したペンディングメッセージ

指定したペンディングメッセージのみを表示するには、次のタブを使います。

- 一般

[一般] タブでは、特定の時間内に受信したメッセージ、選択したグループが所有しているメッセージ、メッセージブラウザで選択したメッセージ、選択した基準に一致しないメッセージ、選択した重要度のメッセージ、および指定した文字列パターンに一致するメッセージを選択できます。

- シンボルとオブジェクト

[シンボルとオブジェクト] タブでは、メッセージブラウザまたはオブジェクトペインで選択したシンボルとオブジェクトを選択できます。

- ペンディング詳細

[ペンディング詳細] タブでは、バッファ期限切れのメッセージと、特定の時間内に受信したメッセージを選択できます。

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス内の各オプションについては 518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。

3. **[OK]** をクリックします。

フィルター処理済新規ペンディングメッセージブラウザが開き、選択した基準に一致するメッセージだけが表示されます。

注記

ペンディングメッセージブラウザのメッセージは読むことしか許可されていません。ペンディングメッセージを直接履歴データベースに移動したい場合は、それを受諾します。ペンディングメッセージで作業したい場合は、まずそれをバッファ解除し、メッセージブラウザに移動させます。

HPOM で障害を調査する

HPOM が管理対象環境 (managed environment) で障害を検出した場合、その障害を調査する必要があります。このセクションでは、メッセージブラウザまたは [メッセージのプロパティ] ダイアログボックスを使って、障害についてより多くの情報を入手する方法を説明します。この情報とはたとえば、いつ障害が発生したか、どのノードで障害が発生したか、障害はどのくらい深刻か、その障害を解決するために事前に設定されたアクションがあるかどうかなどです。履歴データベースも同じような障害が過去にどのようにして解決されたかを調査するためのリソースとなります。

このセクションでは次の操作について説明します。

- ❑ メッセージブラウザでの障害の調査
- ❑ メッセージ属性の変更
- ❑ ワークスペースペインでの障害の調査
- ❑ メッセージ履歴の調査
- ❑ ペンディングメッセージの調査

メッセージブラウザでの障害の調査

メッセージブラウザでは、次に示す方法によって障害を調査できます。

❑ 基本情報

メッセージに関する基本的な情報を得るには、ワークスペースペインまたはブラウザペインで、メッセージを確認します。最も重要な情報のみが表示されます。詳細は 240 ページの「メッセージをメッセージブラウザに表示」を参照してください。

メッセージに表示される情報はオペレータ側で変更できるほか、他のオペレータや HPOM の管理者に転送 (forward) できます。詳細は 240 ページの「他のオペレータへの HPOM メッセージの送信」を参照してください。

□ 詳細情報

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスではメッセージに関する詳細な情報を確認できます。このダイアログボックスで、指示 (**instruction**)、注釈 (**annotation**)、設定済みのアクションなど、メッセージに関するすべての情報を得ることができます。詳細は 241 ページの「メッセージの詳細情報の確認」を参照してください。

メッセージをメッセージブラウザに表示

メッセージブラウザのヘッダーには、デフォルトではメッセージの最も重要な属性が表示されます。メッセージブラウザとそのヘッダーの概要は 70 ページの「メッセージブラウザ」を参照してください。また、メッセージブラウザのヘッダーのデフォルト要素については 572 ページの「メッセージブラウザヘッダー」を参照してください。

メッセージブラウザに表示される情報は、必要に応じて次の方法で変更できます。

□ メッセージのソート

メッセージの日時または属性 (カスタムメッセージ属性を含む) を基準として、メッセージをソートできます。詳細は 321 ページの「ブラウザウィンドウのレイアウトを変更するには」を参照してください。

□ カラムサイズの変更

メッセージブラウザのカラムのサイズを変更できます。詳細は 321 ページの「ブラウザウィンドウのレイアウトを変更するには」を参照してください。

□ 属性の変更

メッセージの属性を変更できます。詳細は 242 ページの「メッセージ属性の変更」を参照してください。またメッセージ属性の詳細は 576 ページの「メッセージフィールド」を参照してください。

□ メッセージブラウザの固定

新しいメッセージの受信時に、現在表示中の古いメッセージが表示されたままになるようにメッセージブラウザを固定することができます。詳細は 234 ページの「古いメッセージの表示」を参照してください。

他のオペレータへの HPOM メッセージの送信

メッセージブラウザのメッセージをクリップボードにコピーして、テキストファイルにペーストできます。これはメッセージの基本情報を別のオペレータや HPOM 管理者に送信したいときに便利です。

メッセージを送る手順は次のとおりです。

1. メッセージブラウザで、メッセージを選択します。
2. メニューバーで [編集: クリップボードにコピー] を選択します。
3. E メールメッセージの本文にそのテキストをペーストし、別のオペレータまたは HPOM 管理者に送信します。

メッセージの詳細情報の確認

メッセージの詳細情報を確認する手順は次のとおりです。

1. [メッセージのプロパティ] ダイアログボックスを開きます。

ブラウザペインで次のいずれかの操作を実行します。

- メッセージをダブルクリックします。
- メッセージを選択し、メニューバーで **[アクション:メッセージ->プロパティ]** を選択します。
- メッセージを右クリックし、表示されるポップアップメニューを使います。
- メッセージを選択し、ツールバーの **[プロパティの表示]** をクリックします。詳細は 459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照してください。

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

2. このダイアログボックスに含まれるタブの一部を次に示します。

- **オリジナルメッセージ**
メッセージ自体に関する詳しい情報を得られる場合があります。
- **指示**
障害の解決方法に関する情報を得られる場合があります。

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスのオプションの詳細は 531 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

3. 必要に応じて **[印刷...]** をクリックし、[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの内容を印刷します。

印刷用のダイアログボックスが開き、各種オプションを設定できます。

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの内容を印刷する方法の詳細は 266 ページの「HPOM メッセージおよびアプリケーションの出力の印刷」を参照してください。

メッセージ属性の変更

メッセージの属性を必要に応じて変更すると便利です。たとえば、メッセージの重要度やメッセージテキストを変更できます。

注記

HPOM の管理者から十分な権限が与えられている場合のみ、メッセージ属性を変更できます。

メッセージの属性を変更する手順は次のとおりです。

1. メッセージブラウザで、属性を変更したいメッセージを選択します。
2. そのメッセージを右クリックし、ポップアップメニューから **[変更]** を選択します。
[メッセージ属性の変更] ダイアログボックスが表示されます。
3. メッセージの重要度やメッセージテキストを変更します。
4. **[OK]** をクリックします。

変更内容は、選択しているメッセージにすぐに反映されます。属性を変更したオペレータは、当該メッセージの所有者になります。

ワークスペースインでの障害の調査

ワークスペースインを使い、次のようにして障害を調査できます。

□ メッセージダッシュボード

[メッセージダッシュボード] ワークスペースで、メッセージの重要度を表示できます。詳細は 243 ページの「メッセージダッシュボード ワークスペースでのメッセージの重要度の確認」を参照してください。

□ 診断ダッシュボード

HPOM に統合されている他の HP Software アプリケーション (ツール) を [診断ダッシュボード] ワークスペースでモニターできます。詳細は 243 ページの「[診断ダッシュボード] ワークスペースでのツールのモニター」を参照してください。

メッセージダッシュボードワークスペースでのメッセージの重要度の確認

ワークスペースペインの [メッセージダッシュボード] ワークスペースでは、メッセージの重要度を確認できます。

メッセージの重要度は、次のいずれかの形式で表示できます。

□ 現況グラフ

現在選択しているメッセージブラウザ内の全メッセージの重要度を表示します。詳細は 138 ページの「現況グラフ」を参照してください。

□ 傾向グラフ

現在選択しているメッセージブラウザ内の全メッセージについて、重要度の変化を時系列に表示します。詳細は 140 ページの「傾向グラフ」を参照してください。

ツールバーで、[現況グラフ表示に切り替える] と [傾向グラフ表示に切り替える] アイコンを使うと、2 つのチャートが切り替えられます (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照)。また、メッセージブラウザ、現況グラフ、傾向グラフから、オリジナルのブラウザと同じフィルターを持つ新しいメッセージブラウザを開くこともできます。

[メッセージダッシュボード] ワークスペースの概要は 61 ページの「メッセージダッシュボードワークスペース」を参照してください。

[診断ダッシュボード] ワークスペースでのツールのモニター

[診断ダッシュボード] ワークスペースでは、HPOM に統合されている他の HP Software ツールをモニターできます。

HPOM と統合できるツールとしては、次のようなものがあります。

- Performance (HP Performance for Windows)
- Network Neighbor View
- Network Path
- Internet Services

障害の調査に役立つアプリケーション (ツール) の詳細は、それぞれのアプリケーションの付属マニュアルを参照してください。

[診断ダッシュボード] ワークスペースの概要は 62 ページの「診断ダッシュボードワークスペース」を参照してください。

メッセージ履歴の調査

履歴データベースにはすべての受諾メッセージ (acknowledged messages)、つまり作業を完了したすべてのメッセージがあります。これは、以前にどのような手段で障害を解決したか調べたいときに便利です。フィルター処理済履歴メッセージブラウザを開き、表示されたメッセージを調べて履歴データベースにアクセスします。

フィルター処理済履歴メッセージブラウザの概要は 77 ページの「フィルター処理済履歴メッセージブラウザ」を参照してください。

このセクションでは次の操作について説明します。

- 履歴データベースにすぐにアクセスするには
- 詳細フィルターの指定
- 現在の表示の変更

履歴メッセージは、キャッシュからではなくデータベースからダウンロードされるので、フィルター処理済履歴メッセージブラウザを開くのに時間がかかることがあります。ダウンロード中は、Java GUI を他の作業に使うことができません。履歴メッセージのダウンロード中に Java GUI にアクセスする必要がある場合は、ダウンロードをキャンセルし、必要な履歴メッセージをよりの確に検出できるようにメッセージブラウザフィルターの条件を変更することができます。

また、履歴メッセージブラウザに表示されるメッセージの最大数も制限できます。

履歴データベースにすぐにアクセスするには

次の手順に従えば、履歴データベースに速やかにアクセスできます。

1. オブジェクトペインで任意のノード、メッセージグループ、またはサービスを選択します。

オブジェクトペインの概要は 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

2. フィルター処理済履歴メッセージブラウザを開きます。

選択したメッセージを右クリックし、ポップアップメニューから [履歴メッセージのフィルター処理] を選択します。

フィルター処理済履歴メッセージブラウザが開き、選択したノード、メッセージグループ、またはサービスの受諾メッセージだけが表示されます。デフォルトでは、同じ日に発行されたメッセージだけが表示されます。他の日に発行されたメッセージを見たい場合は、詳細フィルターを指定する必要があります。

詳細フィルターの指定

詳細フィルターを指定するには、次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **[アクション: フィルター処理 -> フィルター処理済新規履歴ブラウザ]** を選択します。

2. [メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスで、適用したいフィルターを選択します。

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス内の各オプションについては 518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。

3. **[OK]** をクリックします。

フィルター処理済履歴メッセージブラウザが開き、選択した基準に一致するメッセージだけが表示されます (77 ページの「フィルター処理済履歴メッセージブラウザ」を参照)。

現在の表示の変更

現在の表示を変更するには、次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **[アクション: フィルター処理 -> フィルターの変更]** を選択します。

2. [メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスで、詳しい基準を指定します。

必要であればいくつでも、フィルター処理済メッセージブラウザを開くことができます。

ペンディングメッセージの調査

フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザは、サービス時間外に HP Operations 管理サーバーに到着したメッセージをすべて表示します。メッセージは定義したバッファ解除時間になるまで、管理サーバー上に残ります。

日常作業を行う HPOM で障害を調査する

ペンディングメッセージに対して次の処理ができます。

□ 受諾

メッセージはフィルター処理済履歴メッセージブラウザに移動します。メッセージの受諾方法は 270 ページの「メッセージの受諾」を参照してください。

□ バッファ解除(手動または自動)

メッセージはアクティブメッセージブラウザに移動します。メッセージのバッファ解除方法は 249 ページの「ペンディングメッセージのバッファ解除」を参照してください。

フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザの詳細は 79 ページの「フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザ」を参照してください。

HPOM 障害を解決する

障害を調査した後、管理対象環境の障害を解決する必要があります。
このセクションでは次の操作について説明します。

- メッセージの所有
- メッセージの所有解除
- ペンディングメッセージのバッファ解除
- 自動アクションの確認
- オペレータ起動アクションの確認
- オペレータ指示へのアクセス
- オペレータ割り当てツールの表示
- ツールの起動
- ツールの起動属性のカスタマイズ
- コマンドのブロードキャスト

メッセージの所有

メッセージを所有 (own) することで、オペレータがメッセージを読み終え、関連したアクションを実行したいということを他のオペレータに示します。メッセージの所有者 (ownership) のみがメッセージに関連したアクションを実行できます。ただしメッセージを所有していないオペレータも、そのメッセージを読むことはできます。

メッセージブラウザの所有権のカラーバーには、所有しているメッセージ数がオペレータごとに表示されます。

メッセージを所有する手順は次のとおりです。

1. ワークスペースペインで、操作対象のメッセージを選択します (59 ページの「ワークスペースペイン」を参照)。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - ツールバーで [**選択したオブジェクトの所有**] ボタンをクリックします (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照)。
 - 選択したメッセージを右クリックし、ポップアップメニューから [**所有**] を選択します。
 - メニューバーで [**アクション: メッセージ -> 所有**] を選択します。

メッセージの所有解除

メッセージを解除 (disown) することで、そのメッセージに対して作業が完了したことを示します。メッセージの所有を解除できるのは、そのメッセージの所有者と HPOM の管理者だけです。

メッセージの所有を解除する手順は次のとおりです。

1. ワークスペースペインで、作業が完了したメッセージを選択します (59 ページの「ワークスペースペイン」を参照)。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - ツールバーの [**選択したオブジェクトの所有解除**] ボタンをクリックします (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照)。

- 選択したメッセージを右クリックし、ポップアップメニューから [所有解除] を選択します。
- メニューバーで [アクション: メッセージ -> 所有解除] を選択します。

ペンディングメッセージのバッファ解除

ペンディングメッセージで作業を開始する前に、まずバッファ解除しておく必要があります。

ペンディングメッセージをバッファ解除するには、次の手順に従ってください。

1. フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザを開き、バッファ解除したいメッセージを選択します。

詳細は 236 ページの「ペンディングメッセージの表示」を参照してください。

2. 次のいずれかの操作を行います。

- 選択したメッセージを右クリックし、ポップアップメニューから [バッファ解除] を選択します。
- メニューバーで [アクション: メッセージ -> バッファ解除] を選択します。

3. ペンディングメッセージがメッセージブラウザに移動します。

これで他のアクティブなメッセージと同じように、そのメッセージに対して作業を行うことができます。

自動アクションの確認

障害のなかには、事前に設定されたアクションを使用して HPOM によって自動的に解決されるものもあります。メッセージが自動アクションに関連付けられていれば、メッセージブラウザの [フラグ] フィールドの [A] カラムに値が入っています。

メッセージブラウザか [メッセージのプロパティ] ダイアログボックスのいずれかを使用することにより、メッセージに対して自動アクションが設定されているかどうか、また設定されていれば、アクションが正常終了したかどうかを確認できます。

このセクションでは次の操作について説明します。

- メッセージブラウザでの自動アクションの確認
- メッセージのプロパティダイアログボックスでの自動アクションの確認

メッセージブラウザでの自動アクションの確認

メッセージに対するアクションを確認するには、次の手順に従ってください。

1. メッセージブラウザの [フラグ] (SUIAONE) フィールドをチェックします。
2. [A] カラムで、次の値を探します。
 - このメッセージには自動アクションは設定されていません。
 - S 自動アクションを完了しました。
 - F 自動アクションは失敗しました。
 - R 自動アクションを実行中です。

メッセージのプロパティダイアログボックスでの自動アクションの確認

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスでアクションを確認するには、次の手順に従ってください。

1. [メッセージのプロパティ] ダイアログボックスにアクセスし、ブラウザペインで次のいずれかの操作を実行します。
 - メッセージをダブルクリックします。
 - メッセージを選択し、メニューバーで [アクション:メッセージ->プロパティ] を選択します。
 - メッセージを右クリックし、表示されるポップアップメニューを使います。
 - メッセージを選択し、ツールバーの [プロパティの表示] ボタンをクリックします (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照)。
2. [メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [アクション] タブをクリックします。
3. アクションタイプが [自動] のアクションを確認します。

4. [ステータス] フィールドを確認します。

[ステータス] フィールドが [成功] であれば、自動アクションは正常終了しています。[ステータス] フィールドは、自動アクションが現在実行中であることを示す場合もあります。必要であれば、アクションの実行を停止できます。

5. [メッセージのプロパティ] ダイアログボックスで [注釈] タブをクリックします。

[注釈] タブは、次のいずれかの方法でも表示できます。

- メッセージを選択し、ツールバーの [メッセージ注釈の表示] ボタンをクリックします (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照)。
- メッセージを右クリックし、表示されるポップアップメニューを使います。
- メッセージを選択し、メニューバーから [アクション: メッセージ->注釈] を選択します。

アクションに関連する注釈がある場合は、その注釈が表示されます。

6. 注釈の内容をチェックし、アクション結果の詳細を確認します。

オペレータ起動アクションの確認

オペレータ起動アクションは、解決策を実行する前に障害を検証したい場合に使います。メッセージに関連するオペレータ起動アクションがある場合、メッセージブラウザの [フラグ] フィールドの [O] カラムに値が入っています。

メッセージブラウザか [メッセージのプロパティ] ダイアログボックスのいずれかを使用することにより、メッセージに対してオペレータ起動アクションが設定されているかどうか、また設定されていれば、アクションが正常終了したかどうかを確認できます。

このセクションでは次の操作について説明します。

- メッセージブラウザを使ったオペレータ起動アクションの確認
- [メッセージのプロパティ] ダイアログボックスを使ったオペレータ起動アクションの確認

メッセージブラウザを使ったオペレータ起動アクションの確認

メッセージに対するオペレータ起動アクションを確認するには、次の手順に従ってください。

1. メッセージブラウザの [フラグ] (UIAONE) フィールドをチェックします。
2. [O] カラムで、次の値を探します。
 - このメッセージにはオペレータ起動アクションは設定されていません。
 - X メッセージに対してオペレータ起動アクションが設定されています。
 - S オペレータ起動アクションを完了しました。
 - F オペレータ起動アクションは失敗しました。
 - R オペレータ起動アクションを実行中です。

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスを使ったオペレータ起動 アクションの確認

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスを使ってオペレータ起動アクションを確認するには、次の手順に従ってください。

1. [メッセージのプロパティ] ダイアログボックスにアクセスし、ブラウザペインで次のいずれかの操作を実行します。
 - メッセージをダブルクリックします。
 - メッセージを選択し、メニューバーで **[アクション:メッセージ->プロパティ]** を選択します。
 - メッセージを右クリックし、表示されるポップアップメニューを使います。
 - メッセージを選択し、ツールバーの **[プロパティ]** ボタンをクリックします (84 ページの「ツールバー」を参照)。
2. [メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの **[アクション]** タブをクリックします。
3. アクションのタイプに **[オペレータ起動]** があるかどうかチェックします。
4. コマンドを確認し、そのアクションを実行しても良いかどうかを判断します。
5. 設定されたアクションが適切であると判断したら、**[起動]** をクリックしてアクションを起動します。

次のいずれかを行ってアクションを起動することもできます。

- メッセージを選択し、ツールバーの **[アクション起動]** ボタンをクリックします (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照)。
- メッセージを右クリックし、ポップアップメニューから **[アクションの起動/停止->オペレータ起動アクションの起動]** を選択します。
- メッセージを選択し、メニューバーで **[アクション:メッセージ->アクションの起動/停止]** を選択します。

注記

アクションを間違えて実行してしまった場合、またはアクションが保留中のように思われる場合には、それを停止することもできます。

6. アクションの出力の注釈（設定されていれば）を確認します。
必要に応じて何回でもオペレータ起動アクションを実行できます。

オペレータ指示へのアクセス

メッセージブラウザの属性カラム [I] に、X という値が入っているメッセージがある場合があります。

この指示を読むには、次のようにします。

1. メッセージブラウザで、そのメッセージを右クリックします。
2. ポップアップメニューで [プロパティ] をクリックします。
3. [指示] タブをクリックして指示を調べます。

オペレータ割り当てツールの表示

オペレータに割り当てられたすべてのアプリケーションを表示するには、次のいずれかを行います。

- メニューバーで次のいずれかの項目を選択します。

- [アクション: 起動]
- [アクション: カスタマイズ/ 起動 ...]

255 ページの図 2-2 は、オペレータに割り当てられたすべてのアクションを、[アクション] メニューから表示しています。

- オブジェクトペインで次のいずれかの操作を実行します。

- [ツール] フォルダーでツールをダブルクリックします。
- [ツール] フォルダーでツールを右クリックし、表示されるポップアップメニューから次のいずれかの項目を選択します。
 - [起動]
 - [カスタマイズ/ 起動 ...]

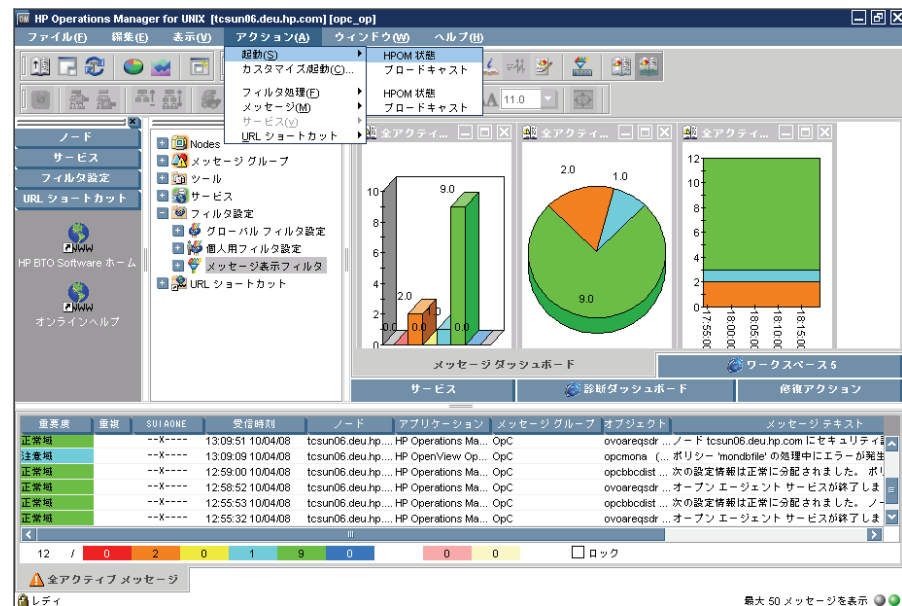
オブジェクトペインで表示されるポップアップメニュー内の各オプションについては 474 ページの「オブジェクトペインのポップアップメニュー項目」を参照してください。

注記

[表示設定] ダイアログボックスで [ツールのカスタムセット] オプションを選択している場合は、ポップアップメニューに表示される利用可能なアプリケーション数は、[アクション] メニューに表示されるアプリケーション数より少なくなります。[表示設定] ダイアログボックスの詳細は 547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」を参照してください。

図 2-2

アクションメニューからオペレータに割り当てられたすべてのアクションを表示



ツールの起動

HPOM からツールを起動することによって、失敗した自動アクションまたはオペレータ起動アクションを修復したり、アクションが設定されていないメッセージを処理できます。ツールは管理サーバー、設定ノード、または選択したノードで起動されます。

注記

オペレータに割り当てられたすべてのツールが、メニューバーの [アクション: 起動] と [ツール: カスタマイズ/ 起動 ...] ウィザードに表示されます。

ツールを起動するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ❑ [起動] メニューを使用して、ツールを直接、カスタマイズなしで起動します。

255 ページの図 2-2 は、オペレータに割り当てられたすべてのアクションを、[アクション] メニューから表示しています。

- ❑ [ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードを通じて、ツールを起動します。このウィザードでは、ツール呼出へのパラメータの追加など、ツールのカスタマイズを行うことができます。

詳細は 260 ページの「ツールの起動属性のカスタマイズ」を参照してください。[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードのオプションについては 569 ページの「[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード」を参照してください。

このセクションでは次の操作について説明します。

- ❑ メニューバーからのツールの起動
- ❑ オブジェクトペインからのツールの起動
- ❑ メッセージブラウザからのツールの起動

メニューバーからのツールの起動

メニューバーからツールを起動するには、次の手順に従ってください。

1. ショートカットバーまたはオブジェクトペインで、ツールを起動したい管理対象ノードを 1 つまたは複数選択します。

注記

ノードを選択するときには、検索機能を利用できます。検索機能の使い方は 228 ページの「オブジェクトペインの検索」を参照してください。検索機能の概要は 120 ページの「オブジェクトペインの検索」を参照してください。[検索] ダイアログボックスの詳細は 525 ページの「[検索] ダイアログボックス」を参照してください。

2. [アクション]メニューで、次のいずれかの項目を選択します。

- **起動 -> < ツール >**

ツールをカスタマイズせずに起動します。

255 ページの図 2-2 は、オペレータに割り当てられたすべてのアクションを、[アクション]メニューから表示しています。

- **カスタマイズ/起動...**

[ツール起動 - カスタマイズ]ウィザードを通じて、ツールを起動します。このウィザードでは、ツール呼出へのパラメータの追加など、ツールのカスタマイズを行うことができます。

詳細は 260 ページの「ツールの起動属性のカスタマイズ」を参照してください。

[アクション]メニューの詳細は 446 ページの「[アクション]メニュー」を参照してください。

3. 起動したいツールを選択します。

注記

出力はすべて、新しいワークスペースペインウィンドウに表示されます。この出力は印刷もできます。

詳細は 266 ページの「HPOM メッセージおよびアプリケーションの出力の印刷」を参照してください。

オブジェクトペインからのツールの起動

オブジェクトペインからツールを起動するには、次の手順に従ってください。

1. メニューバーまたはオブジェクトペインで、ツールを起動したい管理対象ノードを 1 つまたは複数選択します。
2. 選択したノードを右クリックします。

利用可能なアプリケーショングループとツールを表示したポップアップメニューが表示されます。

このポップアップメニューの詳細は 474 ページの「オブジェクトペインのポップアップメニュー項目」を参照してください。

3. ポップアップメニューから、次のいずれかの項目を選択します。

- **起動 -> < ツール >**

ツールをカスタマイズせずに起動します。

255 ページの図 2-2 は、オペレータに割り当てられたすべてのアクションを、[アクション]メニューから表示しています。

[表示設定]ダイアログボックスの[一般]タブで、[ツールのカスタムセット]チェックボックスを選択すれば、ポップアップメニューに表示されるツールを絞り込むことができます。[ツールのカスタムセット]チェックボックスを選択している場合、ノードに対応するツールを HPOM が自動選別します。たとえば UNIX 関連のノードを選択している場合には、Microsoft Windows 関連のツールは表示されなくなります。

詳細は 187 ページの「ポップアップメニューのカスタマイズ」と 547 ページの「[表示設定]ダイアログボックス」を参照してください。

- **カスタマイズ/起動...**

[ツール起動 - カスタマイズ]ウィザードを通じて、ツールを起動します。このウィザードでは、ツール呼出へのパラメータの追加など、ツールのカスタマイズを行うことができます。

詳細は 260 ページの「ツールの起動属性のカスタマイズ」を参照してください。

注記

出力はすべて、新しいワークスペースペインウィンドウに表示されます。この出力は印刷もできます。

詳細は 266 ページの「HPOM メッセージおよびアプリケーションの出力の印刷」を参照してください。

メッセージブラウザからのツールの起動

HPOM では、メッセージブラウザのポップアップメニューからノード上のツールを起動できます (189 ページの図 1-80 を参照)。たとえば、危険域のメッセージイベントが、ノード abc.hp.com からメッセージテキスト「Error writing on disk. Disk might be full.」とともに届いた場合、このノードのディスク容量をすぐに調査しなければいけません。ノードのディスク容量を調査するには、メッセージを選択し、ポップアップメニューから [ディスク容量] ツールを起動するだけです。これでツールは abc.hp.com ノード上で起動されます。

メッセージブラウザ内で複数のメッセージからツールを起動すると、選択しているすべてのメッセージからノード属性がツールに取り込まれます。同じノード属性が複数のメッセージに設定されている場合でも、そのノード属性が使われるのは一度だけです。したがって、起動したツールが、1 つのノードに繰り返し実行されることはありません。

メッセージブラウザからツールを起動するには、次の手順に従ってください。

1. メッセージブラウザでアプリケーションを起動したいメッセージを右クリックします。
2. ポップアップメニューから、次のいずれかの項目を選択します。

- **起動 -> < ツール >**

ツールをカスタマイズせずに起動します。

255 ページの図 2-2 は、オペレータに割り当てられたすべてのアクションを、[アクション] メニューから表示しています。

[表示設定] ダイアログボックスの [一般] タブで、[ツールのカスタムセット] チェックボックスを選択すれば、ポップアップメニューに表示されるツールを絞り込むことができます。[ツールのカスタムセット] チェックボックスを選択している場合、ノードに対応するツールを HPOM が自動選別します。たとえば UNIX 関連のノードを選択している場合には、Windows 関連のツールは表示されなくなります。

詳細は 187 ページの「ポップアップメニューのカスタマイズ」と 547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」を参照してください。

- **カスタマイズ/起動...**

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードを通じて、ツールを起動します。このウィザードでは、ツール呼出へのパラメータの追加など、ツールのカスタマイズを行うことができます。

詳細は 260 ページの「ツールの起動属性のカスタマイズ」を参照してください。

ツールの起動属性のカスタマイズ

HPOM では、[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードを使って、事前に設定されたツールの起動属性（たとえば、パラメータ、ユーザー名、パスワードなど）の変更や、ツールを起動したいノードの指定ができます（159 ページの図 1-64 を参照）。

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードのオプションについては 569 ページの「[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード」を参照してください。

ツールの起動属性をカスタマイズするには、次の手順に従ってください。

1. オブジェクトペインで、ツールを起動したい 1 つまたは複数の管理対象ノードを選択します。

オブジェクトペインの概要は 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

2. ツールを選択するには、**CTRL** を押しながらオブジェクトペインのツールをクリックします。

この操作の結果、管理対象ノードとツールの両方がオブジェクトペイン内で選択された状態になります。

3. [ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードを開くには、次のいずれかの操作を実行します。

- メニューバーから、[アクション: カスタマイズ/起動...] を選択。
- ノードを右クリックし、ポップアップメニューから [カスタマイズ/起動...] を選択。

[ツール起動 - カスタマイズ ウィザード (ステップ 1/3)] には、ツールメニューツリーと次の 4 つのボタンが表示されます。

- [**<戻る**]
- [**次へ>**]
- [**完了>**]
- [**キャンセル**]

注記

ツールの起動のカスタマイズには、ツールにより 2 つまたは 3 つの手順があります。[**<戻る**] と [**次へ>**] ボタンを使って、これらの手順間を戻ったり進んだりできます。

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードのオプションについては 569 ページの「[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード」を参照してください。

4. ツールをカスタマイズするには、次の手順に従ってください。
 - a. [ステップ 1/3] のツールツリーから、実行したいツールを選択し、[**次へ>**] をクリックします。
 - b. ツールを実行したい 1 つまたは複数のノードを選択します。

ノードリストのコンボボックスが表示されます。このリストには、選択したノードを追加できます。

- c. 実行したいコマンドを指定します。

必要に応じてコマンド実行用の追加パラメータ、ユーザー名、パスワードを入れます。

コマンドでノード名またはメッセージ ID をオプションとして使用できる場合は、[コマンド] フィールドにノード名を指定します (例、`-nodes $OPC_NODES`)。

次の変数が使用できます。

- `$OPC_NODES`

ツール実行時に選択したすべての通常のノードの名前を返します。名前はスペースで区切られます。ノードは登録ノードに入っていないなくてもかまいません。

- \$OPC_MSG_NODES

現在選択しているメッセージの生成原因となったイベントが発生したすべてのノードの名前を返します。名前はスペースで区切られます。ノードは登録ノードに入っていないにもかかわらず、複数のブラウザで同じメッセージが選択されている場合、重複するものは無視されます。最上位のメッセージブラウザで現在選択されているメッセージのノードだけが返されます。

- \$OPC_EXT_NODES

ツールの実行時に選択されているすべての外部ノードのノードパターンを返します。名前はスペースで区切られます。

- \$OPC_MSGIDS_ACT

アクティブメッセージブラウザおよび任意のメッセージブラウザで現在選択されているメッセージのメッセージ ID (UUID) を返します。複数のブラウザで同じメッセージが選択されている場合、重複するものは無視されます。

- \$OPC_MSGIDS_HIST

履歴メッセージブラウザで現在選択されているメッセージのメッセージ ID (UUID) を返します。

- \$OPC_MSGIDS_PEND

ペンディングメッセージブラウザで現在選択されているメッセージのメッセージ ID (UUID) を返します。

- \$OPC_ENV(env variable)

HPOM を起動したユーザーの環境変数の値を返します (PATH、NLS_LANG、EDITOR、SHELL、HOME、TERM など)。

- \$OPC_USER

現在、ノードにログオンしている HPOM ユーザー名を返します。

重要

\$AGENT_USER 変数は使用しないでください。この変数をツールの起動属性として設定できるのは、HPOM システム管理者だけです。詳細は『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

5. **[完了>]** をクリックして [ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードを終了し、ツールを起動します。

コマンドのブロードキャスト

修復アクションを実行するために、1つまたは複数の指定した管理対象ノードに対してコマンドをブロードキャストできます。また障害を調査するためにコマンドをブロードキャストすることもできます(たとえば `ps -ef` コマンドをすべての指定ノードに発行して、現在のプロセス数をチェックするなど)。

注記

ブロードキャストコマンドを実行できるのは、HPOM の管理者によって使用できるように設定されているオペレータだけです。

コマンドをブロードキャストするには、次の手順に従ってください。

1. コマンドをブロードキャストしたい1つまたは複数の管理対象ノードを選択します。
2. コマンドをブロードキャストしたい1つまたは複数の管理対象ノードを右クリックし、ポップアップメニューから **[起動 -> ブロードキャスト]** を選択します。

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードが、ステップ 1/3 の **[ブロードキャスト]** が選択された状態で表示されます。

ウィザードのオプションについては 569 ページの「[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード」を参照してください。

3. **[次へ>]** をクリックします。
4. ステップ 2/3 で、正しいノードが指定してあるか確認します。
この時点で、ノードの修正または追加するノードの入力を行います。
5. **[次へ>]** をクリックします。
6. ステップ 3/3 で、ブロードキャストコマンドと追加のパラメータを入力します。

7. **[完了]** をクリックします。

出力はすべて、新しいワークスペースペインウィンドウに表示されます。

HPOM で解決方法をドキュメント化する

HPOM 障害解決モデルの最終ステップは、障害の解決方法のドキュメント化です。これは今後の障害管理を促進させます。このステップにより、メッセージの指示を変更したり、解決済みの障害を受諾して、メッセージブラウザから履歴データベースに移すことができます。

このセクションでは次の操作について説明します。

- メッセージの注釈付け
- HPOM メッセージおよびアプリケーションの出力の印刷
- メッセージの受諾

メッセージの注釈付け

メッセージでの作業が完了したら、注釈を追加して障害解決の過程をドキュメント化します。

メッセージに注釈を付けるには、次の手順に従ってください。

1. メッセージブラウザ内で、注釈を付けたいメッセージを選択します。
メッセージブラウザの概要については、70 ページの「メッセージブラウザ」を参照してください。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - [アクション]メニューから[メッセージ->注釈の追加]を選択します。
 - 注釈を付けたいメッセージを右クリックし、ポップアップメニューから[注釈の追加]を選択します。
 - まず、ツールバー (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照) の[メッセージ注釈の表示] ボタンをクリックします。次に、[メッセージプロパティ] ダイアログボックスの[注釈] タブで[新規注釈の追加] をクリックします。
[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスのオプションの詳細は 531 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。
[注釈の追加] ダイアログボックスが開きます。
[注釈] ダイアログボックスの詳細は 508 ページの「[注釈の追加] ダイアログボックス」を参照してください。
3. [注釈の追加] ダイアログボックスで、注釈のテキストを入力します。
4. [OK] をクリックします。
これで、メッセージに注釈が追加されます。

注記

[メッセージ注釈] ダイアログボックスを開くと、メッセージに関連したすべての注釈を読むことができます。上向き矢印をクリックすると次の注釈へと進み、下向き矢印をクリックすると前の注釈へ戻ります。注釈を変更、または削除することもできます。

HPOM メッセージおよびアプリケーションの出力の印刷

HPOM では次のものを印刷できます。

□ メッセージ

メッセージの印刷方法については 267 ページの「メッセージの印刷」を参照してください。

□ メッセージ詳細

メッセージ詳細の印刷方法については 268 ページの「メッセージ詳細の印刷」を参照してください。

□ アプリケーションの出力

アプリケーションの出力の印刷方法については 269 ページの「アプリケーションの出力の印刷」を参照してください。

ダイアログボックスの印刷の例として 269 ページの「[印刷] ダイアログボックスの例 (Microsoft Windows 用)」を参照してください。

印刷は **Java Runtime** のデフォルトのフォント **Monospace** (等幅系)、フォントサイズは **10** です。長すぎる行は折り返されます。

メッセージの印刷

メッセージを印刷するには、次の手順に従ってください。

1. 必要であれば、メニューバーから **[ファイル: ページ設定 ...]** を選択し、ページ設定を変更します。

新しい設定内容は現在のセッションでのみ保持されます。

2. ブラウザでメッセージを選択します。

3. 次のいずれかの操作を行います。

- ツールバーで **[印刷]** ボタン (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照) をクリックします。

選択したメッセージ (詳細なし) はデフォルトのプリンターに直接出力されます。

- メニューバーで次のいずれかの項目を選択します。

- **[ファイル: 印刷 ...]**

- **[アクション: メッセージ -> 印刷 -> 選択メッセージ ...]**

- **[アクション: メッセージ -> 印刷 -> ブラウザの全メッセージ ...]**

[印刷] ダイアログボックス (図 2-3 を参照) が開き、詳細オプションを指定できます。

- メッセージブラウザで選択したメッセージを右クリックし、ポップアップメニューから次のいずれかを選択します。

- **[印刷 -> 選択メッセージ ...]**

- **[印刷 -> ブラウザの全メッセージ ...]**

[印刷] ダイアログボックス (図 2-3 を参照) が開き、詳細オプションを指定できます。

メッセージ詳細の印刷

メッセージ詳細を印刷するには、次の手順に従ってください。

1. 必要であれば、メニューバーから [**ファイル: ページ設定 ...**] を選択し、ページ設定を変更します。

新しい設定内容は現在のセッションでのみ保持されます。

2. 次のいずれかの操作を行います。

- メッセージブラウザでメッセージをダブルクリックし、[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [印刷 ...] をクリックします。
- メッセージブラウザでメッセージを選択し、メニューバーから [**アクション: メッセージ -> 印刷**] を選択し、次のいずれかを選択します。
 - [**選択メッセージ ...**]
 - [**ブラウザの全メッセージ ...**]
 - [**選択メッセージの詳細 ...**]
 - [**ブラウザの全メッセージの詳細 ...**]
- メッセージブラウザで選択したメッセージを右クリックし、ポップアップメニューから次のいずれかを選択します。
 - [**印刷 -> 選択メッセージ ...**]
 - [**印刷 -> ブラウザの全メッセージ ...**]
 - [**印刷 -> 選択メッセージの詳細 ...**]
 - [**印刷 -> ブラウザの全メッセージの詳細 ...**]

[印刷] ダイアログボックス (図 2-3 を参照) が開き、詳細オプションを指定できます。

アプリケーションの出力の印刷

1. 必要であれば、メニューバーから [**ファイル** : ページ設定 ...] を選択し、ページ設定を変更します。

新しい設定内容は現在のセッションでのみ保持されます。

2. アプリケーションの出力ウィンドウをクリックし、アクティブであることを確認してください。

3. 次のいずれかの操作を行います。

- メニューバーから [**ファイル** : 印刷 ...] を選択します。

[印刷] ダイアログボックス (図 2-3 を参照) が開き、詳細オプションを指定できます。

- ツールバーで [印刷] ボタン (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照) をクリックします。

アプリケーションの出力はデフォルトのプリンターに直接出力されます。

[印刷] ダイアログボックスの例 (Microsoft Windows 用)

図 2-3 は、デフォルトの Java Runtime の印刷ダイアログボックスです。ダイアログボックスは、インストールされている Java Runtime のバージョンによって変わります。

図 2-3

Java Runtime の印刷ダイアログボックス



メッセージの受諾

メッセージを解決したら、メッセージブラウザからそれを受諾 (acknowledge) し、履歴データベースに移動できます。後で再度メッセージに対して作業を行いたい場合は、それを受諾解除 (unacknowledge) します。

注記

HPOM 管理者は、自動アクションにもオペレータ起動アクションにも自動受諾を設定できます。自動アクションと自動受諾によってメッセージに対するアクションが正常終了すると、メッセージは直接履歴データベースに送信されます。メッセージはわざわざ処理しなくても、メッセージブラウザウィンドウから削除されます。

同様に HPOM がメッセージ間に関係を確立していれば、連続するメッセージを使ってメッセージを自動的に受諾できます。関係の例としては、次のメッセージで先の障害の悪化がレポートされている (たとえば、ディスク空き容量がさらに減少した場合など) などが挙げられます。また、先の障害が解決した (たとえば、ツールを再度起動できるようになった場合など) といった関係もあります。

このセクションでは次の操作について説明します。

- 選択したメッセージの受諾
- 表示しているすべてのメッセージの受諾
- メッセージの受諾解除

注記

デフォルトでは、Java GUI がメッセージの受諾、受諾解除、所有、および所有解除を行います。共通のメッセージ API を使って、1 つずつメッセージを受諾します。複数のメッセージを一度に受諾すると、Java GUI とシステム全体のパフォーマンスが低下することがあります。

選択したメッセージの受諾

選択したメッセージを受諾するには、次の手順に従ってください。

1. メッセージブラウザで、1 つ以上の受諾したいメッセージを選択します。
メッセージブラウザの概要については、70 ページの「メッセージブラウザ」を参照してください。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - メニューバーから [**アクション: メッセージ -> 受諾**] を選択します。
 - ツールバーで [**選択したオブジェクトの受諾**] ボタン (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照) をクリックします。
 - メッセージブラウザで選択したメッセージを右クリックし、ポップアップメニューから [**受諾**] を選択します。

表示しているすべてのメッセージの受諾

オペレータは、自分が担当しているすべてのメッセージを受諾できます。ノードに関するすべてのメッセージの処理が完了すると、それらのメッセージはメッセージブラウザ内ですべて受諾できます。つまり、フィルター処理済メッセージブラウザを開いて、ノードに関するすべてのメッセージを表示し、これらをメニューバーを使ってすべて受諾します。

現在表示しているすべてのメッセージ (たとえば、特定のノードに関する) を受諾する手順は次のとおりです。

1. オブジェクトペインで、作業を行ったノードを選択します。
2. 選択したノードを右クリックし、ポップアップメニューから [**アクティブメッセージのフィルター処理**] を選択します。
そのノードに関連した [**アクティブメッセージのフィルター処理**] ブラウザが開きます。
3. 次のいずれかの操作を行います。
 - メニューバーから [**アクション: メッセージ -> 全表示メッセージの受諾**] を選択します。

- フィルター処理済メッセージブラウザ内でメッセージをすべて選択します。その後、ツールバーの **[選択したオブジェクトの受諾]** ボタン (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照) をクリックします。
- フィルター処理済メッセージブラウザ内でメッセージをすべて選択します。メッセージブラウザで選択したメッセージを右クリックし、ポップアップメニューから **[受諾]** を選択します。

すべてのメッセージが履歴データベースに移動します。

メッセージの受諾解除

一度受諾したメッセージに対しても、受諾を解除すれば再び処理を実行できます。

メッセージの受諾を解除する手順は次のとおりです。

1. フィルター処理済履歴メッセージブラウザを開きます。
2. 受諾解除したいメッセージを選択します。
3. ツールバーで **[選択したオブジェクトの受諾解除]** ボタン (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照) をクリックします。また、次のいずれかでも実行可能です。
 - メニューバーから **[アクション: メッセージ -> 受諾解除]** を選択します。
 - ツールバーの **[選択したオブジェクトの受諾解除]** ボタン (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照) をクリックします。
 - メッセージブラウザで選択したメッセージを右クリックし、ポップアップメニューから **[受諾解除]** を選択します。

これによりメッセージはアクティブメッセージブラウザに戻り、そのメッセージに対して作業ができるようになります。

情報メッセージの送信

他の HPOM ユーザーにメッセージを送信して、突発的なシステムエラーを通知したり、停止予定を再通知したりすると、便利な場合があります。同様に、HPOM 管理者がメッセージをオペレータに送信して、現在の設定を再ロードするように依頼することもできます。

他のユーザーからメッセージを受信すると、HPOM 通信ステータスのダイアログボックスが開き、メッセージテキストが表示されます。

メッセージを他のユーザーに送信するには、次の操作を行います。

1. メニューバーの **[ファイル: オペレータにメッセージを送信]** を選択します。
[オペレータにメッセージを送信] ダイアログボックスが開きます。
2. [メッセージ] の下に送信するメッセージのテキストを入力します。
3. メッセージの受信者を選択します。
 - **[全オペレータに送信]** を選択すると、現在ログイン中のすべてのユーザーにメッセージが送信されます。
 - **[送信先オペレータを指定]** を選択すると、指定したユーザーだけにメッセージが送信されます。複数のユーザーを指定する場合は、HPOM ユーザー名をコンマ (,) で区切って入力します。
4. **[OK]** をクリックします。

指定した HPOM ユーザーにメッセージが送信され、ダイアログボックスが閉じます。

opcwall コマンド行ツールを使ってメッセージを他の HPOM ユーザーに送信することもできます。詳細は *opcwall(1)* マニュアルを参照してください。

HPOM のカスタマイズ

このセクションでは次の操作について説明します。

□ Java GUI のカスタマイズ

- オペレータのパスワードの変更
- デフォルト設定のロード
- 設定の再ロード
- Java GUI の手動再表示
- 再表示周期のカスタマイズ
- コンソール設定のカスタマイズ
- Java GUI のロック & フィールドのカスタマイズ
- 進捗状況ダイアログボックスのカスタマイズ
- 移動可能ペインのカスタマイズ
- ショートカットバーのカスタマイズ
- ワークスペースペインのワークスペースのカスタマイズ
- 統合 Web ブラウザの変更
- ポップアップメニューのカスタマイズ
- ツールバーのカスタマイズ
- メッセージイベントの通知方法の設定
- フォントサイズのカスタマイズ
- ウィンドウの取り外し

□ メッセージブラウザのカスタマイズ

- フィルター処理済メッセージブラウザの作成
- ブラウザのフィルター設定を保存するには
- フィルター処理済メッセージブラウザにアクセスするには
- フィルター処理済メッセージブラウザの移動
- メッセージ表示フィルターの使用方法
- ブラウザのレイアウトを保存するには
- ブラウザウィンドウのレイアウトを変更するには
- 表示するメッセージ数を変更するには
- メッセージブラウザのカラー表示の設定をカスタマイズするには
- メッセージブラウザのカラー表示の設定をカスタマイズするには

オペレータのパスワードの変更

HPOM のオペレータは、自分のパスワードを必要に応じて何度でも変更できます。

重要

デフォルトユーザーとして最初にログオンしたら、セキュリティ上の理由からデフォルトパスワードを変更する必要があります。もう一度後で変更する機会がありますが、パスワードをデフォルトに戻すことはできません。

注記

オペレータが変更できるのは自分のパスワードだけです。他のオペレータのパスワードは変更できません。パスワードを変更した場合は、そのパスワードをさらに変更しない限り、HPOM のそれ以降のセッションでその新しいパスワードを使うことになります。

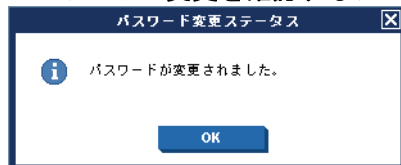
オペレータのパスワードを変更するには、次の手順に従ってください。

1. メニューバーから [**ファイル: パスワードの変更**] を選択します。
2. [古いパスワード] の下に現在のパスワードを入力します。
3. [新しいパスワード] の下に新しいパスワードを入力します。
4. [パスワードの確認入力] の下に新しいパスワードをもう一度入力します。

パスワードの変更を確認するシステムメッセージが表示されます (図 2-4 を参照)。

図 2-4

パスワードの変更を確認するシステムメッセージ



デフォルト設定のロード

HPOM Java GUI に最初にログオンすると、Java GUI はデフォルトの設定で表示されます。HPOM 管理者は、すべてのオペレータのデフォルト設定を全体的に変更できます。オペレータは、[**デフォルト設定の再ロード**] アクションで最新のデフォルト設定を受け取ることができます。

HPOM または HPOM システム管理者が指定した最新のデフォルト設定をロードするには、メニューバーから、[**ファイル: デフォルト設定の再ロード**] を選択します。

設定の再ロード

HPOM の管理者がオペレータの担当や管理対象ノード、またはツールの設定を更新すると、Java GUI が自動で設定を変更します。設定変更後に Java GUI に同期させるためのアクションは必要ありません。

しかしながら、一部の設定の更新(フィルター定義の変更や[**自動サービス再ロード**] オプションを無効にしたサービスの変更など)の場合は、HP Operations 管理サーバーから新しい設定を再ロードする必要があります。Java GUI からログアウトする必要はありません。

設定を再ロードするには、メニューバーから [**ファイル: 設定の再ロード**] を選択します。

メッセージブラウザを手動で再表示することもできます。詳細は 277 ページの「Java GUI の手動再表示」を参照してください。

Java GUI の手動再表示

Java GUI は、ノードステータス、メッセージグループステータス、サービスステータス、ブラウザステータスの概要行、メッセージブラウザ内の全メッセージ、これらすべてをあらかじめ設定された間隔で自動的に再表示します。これらの情報は手動でも再表示できます。

メッセージブラウザを手動で再表示するには、次のいずれかを行います。

- メニューバーから [**表示: 再表示**] を選択します。
- ツールバーで、[**再表示**] ボタンをクリックします。

再表示されるメッセージの数は、ツールバーから [全メッセージの表示] アイコンと [最新メッセージの表示] アイコンのどちらを選んだかによって変わります。ツールバーのアイコンについては 459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照してください。

現在のセッションに対するブラウザの再表示周期を変更する方法は 278 ページの「再表示周期のカスタマイズ」を参照してください。ツールバーのアイコンについては 459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照してください。

再表示周期のカスタマイズ

ブラウザを再表示すると、ノードステータス、メッセージグループステータス、ブラウザステータスの件数表示 (browser status summary line)、ブラウザ内のすべてのメッセージおよびサービスステータスが更新されます (574 ページの「メッセージ属性」を参照)。HPOM Java GUI は事前に設定された周期で自動的に再表示します。この周期はデフォルトでは 30 秒です。

再表示周期 (refresh interval) をカスタマイズするには、次の手順に従ってください。

1. メニューから、[編集: 表示設定] を選択します。

[表示設定] ダイアログボックスの各オプションについては 547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」を参照してください。

2. [一般] タブの [再表示周期] フィールドに再表示周期を入力します。時間と分、および秒を連結した形式 (hh:mm:ss) で入力してください。

注意

再表示周期を 24:00:00 など大きくし過ぎると、ステータスが変更されてもすぐに通知を受けられない可能性があります。

3. [OK] をクリックします。

再表示周期は最新のメッセージやサービスステータスを取り出すためだけに使うものです。相対値指定フィルターがオンになっているとブラウザは更新されません。

注記

HPOM の管理者がオペレータの担当や管理対象ノード、またはツールの設定を更新すると、**Java GUI** が自動で設定を変更します。設定変更後に **Java GUI** に同期させるためのアクションは必要ありません。

コンソール設定のカスタマイズ

HPOM ではコンソール設定のカスタマイズおよび保存が可能です。次回に **Java GUI** を起動すると、保存された設定が **Java GUI** に読み込まれ、復元されます。

注記

グローバルモードを有効にすると、コンソール設定を保存できないことがあります。

詳細は 217 ページの「グローバルな **Java GUI** プロパティファイルの使用」を参照してください。

コンソール設定をカスタマイズするには、次の手順に従ってください。

1. コンソールに次の変更のうちのいくつかを行います。

- **ポジションコントロール**

移動可能なペインの位置を変更したり、オン/オフを切り替えます。

説明は 282 ページの「移動可能ペインのカスタマイズ」を参照してください。

- **ショートカットバー**

ショートカットバーで次のものを変更します。

- ボタンのオン/オフを切り替えたり、ショートカットを追加します。
- **URL** ショートカットの名前や場所を追加、変更、または削除します。

説明は 284 ページの「ショートカットバーのカスタマイズ」を参照してください。

- ワークスペースペイン

ワークスペースペインで次のものを変更します。

- タブ名、説明などを追加、変更、削除します。
- メッセージブラウザ、サービスグラフ、および Web ブラウザを追加、変更、削除します。

説明は 287 ページの「ワークスペースペインのワークスペースのカスタマイズ」を参照してください。

- ブラウザペイン

タブ名、説明などを追加、変更、削除します。

説明は 321 ページの「ブラウザウィンドウのレイアウトを変更するには」を参照してください。

- メッセージブラウザツールバー

メインツールバー、ワークスペースペイン、およびブラウザペインで、メッセージブラウザツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。

説明は 292 ページの「ツールバーのカスタマイズ」を参照してください。

- フィルター処理済メッセージブラウザ

メッセージブラウザにメッセージブラウザフィルターを適用します。

説明は 303 ページの「メッセージ表示フィルターの使用方法」を参照してください。

- 取り外したウィンドウ

Java GUI で次の内容を変更します。

- ウィンドウを取り外します。
- 取り外したウィンドウのサイズと位置を変更します。

取り外したウィンドウでの表示スペースを広げます。

- 取り外したウィンドウでツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。
- 取り外したウィンドウで水平スクロールバーの表示 / 非表示を切り替えます。

- 取り外したウィンドウでステータス要約エリアの表示 / 非表示を切り替えます。

説明は 296 ページの「ウィンドウの取り外し」を参照してください。

2. メニューバーから、[**ファイル：コンソールセッションの設定の保存**] を選択します。

Java GUI のルック & フィールのカスタマイズ

HPOM Java GUI と Service Navigator GUI のルック & フィールをカスタマイズするには、次の手順に従ってください。

1. メニューバーから [**編集：表示設定**] を選択します。

[表示設定] ダイアログボックスの各オプションについては 547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」を参照してください。

2. [一般] タブの [ルック & フィール] プルダウンメニューで次のスタイルのいずれかを選択します。

- Metal
- Motif
- HP One Voice (デフォルト)
- Windows (Windows でのみ利用可能)
- Aqua (Mac OS でのみ利用可能)

3. [OK] をクリックします。

進捗状況ダイアログボックスのカスタマイズ

処理時間が長い作業を HPOM で実行する場合、木こりのイメージを含む進捗状況ダイアログボックスが表示されます。

ダイアログボックス内に表示するイメージを変更するには、次の操作を行います。

1. 表示する GIF 形式のイメージを用意し、customImg.gif という名前を付けます。

2. customImg.gif をホームディレクトリに置きます。

ホームディレクトリは、次の場所にあります。

- *Windows 2003、XP*

C:\Documents and Settings*<user>*

- *Solaris*

/export/home/<user>

- *他のプラットフォーム*

/home/<user>

3. Java GUI を再起動します。

注記

カスタムイメージのサイズは、HPOM によって進捗状況ダイアログボックスに合わせて変更されます。

移動可能ペインのカスタマイズ

移動可能ペインには次のインタフェース要素が含まれます。

□ ポジションコントロール

ポジションコントロールの概要は 85 ページの「ポジションコントロール」を参照してください。

□ ショートカットバー

ショートカットバーの概要は 45 ページの「ショートカットバー」を参照してください。

□ オブジェクトペイン

オブジェクトペインの概要は 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

□ ワークスペースペイン

ワークスペースペインの概要は 59 ページの「ワークスペースペイン」を参照してください。

このセクションでは次の操作について説明します。

- ポジションコントロールの表示 / 非表示
- ショートカットバーまたはオブジェクトペインの移動
- ショートカットバーの表示 / 非表示
- オブジェクトペインの表示 / 非表示

ポジションコントロールの表示 / 非表示

ポジションコントロールはツールバーのすぐ下にある水平バーの細い帯で、これによりショートカットバーやオブジェクトペインを水平に移動できます。

オブジェクトペインを表示 / 非表示にするには、次の方法を実行します。

- ポジションコントロールを表示するには、メニューバーで **[表示: ポジションコントロール]** を選択します。
- ポジションコントロールを非表示にするには、メニューバーで **[表示: ポジションコントロール]** の選択を解除します。

ショートカットバーまたはオブジェクトペインの移動

ショートカットバーやオブジェクトペインを水平方向に移動するには、ペインのすぐ上にある水平バーの細い帯をドラッグし、必要な場所にドロップします。

ショートカットバーの表示 / 非表示

ショートカットバーを表示 / 非表示にするには、次のいずれかを行います。

- ショートカットバーを表示するには、メニューバーで **[表示: ショートカットバー]** を選択します。
- ショートカットバーを非表示にするには、メニューバーで **[表示: ショートカットバー]** の選択を解除します。

オブジェクトペインの表示 / 非表示

オブジェクトペインを表示 / 非表示にするには、次のいずれかを行います。

- オブジェクトペインを表示するには、メニューバーで **[表示: オブジェクトペイン]** を選択します。

- ❑ オブジェクトペインを非表示にするには、メニューバーで **[表示:オブジェクトペイン]** の選択を解除します。

ショートカットバーのカスタマイズ

オブジェクトペイン項目をショートカットバーに追加し、ショートカットとショートカットグループをカスタマイズできます。

ショートカットバーの概要は 45 ページの「ショートカットバー」を参照してください。

このセクションでは次の操作について説明します。

- ❑ ショートカットバーへのオブジェクトペイン項目の追加
- ❑ 新規ショートカットの追加
- ❑ ショートカットの変更
- ❑ ショートカットの削除
- ❑ ショートカットグループの追加
- ❑ ショートカットグループの名前変更
- ❑ ショートカットグループの削除
- ❑ ショートカットバー上のアイコンサイズのカスタマイズ

ショートカットバーへのオブジェクトペイン項目の追加

選択したオブジェクトペイン項目をショートカットバーに追加するには、次のようにします。

1. オブジェクトペインで、ショートカットバーに追加したい項目を選択します。
2. オブジェクトペインで選択した項目を右クリックし、ポップアップメニューを表示します。
3. ポップアップメニューから **[ショートカットの追加]** を選択します。
選択した項目がショートカットバーに表示されます。

新規ショートカットの追加

ショートカットバーに新規ショートカットを追加するには、次の手順に従ってください。

1. 新規ショートカットを追加したい場所の、すぐ上のショートカットを右クリックします。

注記

新規ショートカットが現在選択しているショートカットのすぐ下に追加されます。

2. ポップアップメニューから、[**新規 URL ショートカットの追加 ...**] を選択します。
[**新規 URL ショートカットの追加**] ダイアログボックスが表示されます。
[**新規 URL ショートカットの追加**] ダイアログボックスの詳細は 509 ページの「[**新規 URL ショートカットの追加**] ダイアログボックス」を参照してください。
3. テキスト入力フィールドから、次のものを追加します。
 - ショートカットグループラベル
 - URL (URL ショートカットのみ)
4. [**OK**] をクリックします。

ショートカットの変更

ショートカットバーのショートカットを変更するには、次の手順に従ってください。

1. 名前を変更したいショートカットを右クリックします。
2. ポップアップメニューから [**ショートカットの変更**] を選択します。
[**ショートカットの変更**] ダイアログボックスが表示されます。
[**ショートカットの変更**] ダイアログボックスの詳細は 545 ページの「[**ショートカットの変更**] ダイアログボックス」を参照してください。
3. テキスト入力フィールドから、次のいずれか一方 (または両方) を変更します。
 - ラベル
 - URL (URL ショートカットのみ)
4. [**OK**] をクリックします。

ショートカットの削除

ショートカットバーのショートカットを削除するには、次の手順に従ってください。

1. 削除したいショートカットを右クリックします。
2. ポップアップメニューから **[ショートカットの削除]** を選択します。

ショートカットグループの追加

ショートカットバーにショートカットグループを追加するには、次の手順に従ってください。

1. 新規ショートカットグループを追加したい場所の、すぐ上のショートカットグループを選択して右クリックします。

注記

新規グループが現在選択しているショートカットグループのすぐ下に追加されます。

2. ポップアップメニューから **[新規グループの追加]** を選択します。

[新規グループの追加] ダイアログボックスが表示されます。[新規グループの追加] ダイアログボックスのオプションについては 508 ページの「[新規グループの追加] ダイアログボックス」を参照してください。

3. テキストフィールドに新しいショートカットグループのラベルを入力します。
4. **[OK]** をクリックします。

ショートカットグループの名前変更

ショートカットバー内のショートカットグループ名を変更するには次のようにします。

1. 名前を変更したいショートカットグループを右クリックします。
2. ポップアップメニューから **[現在のグループの変更]** を選択します。

[グループの変更] ダイアログボックスが表示されます。

3. [ラベルを入力してください:] フィールドに、ショートカットグループの新しい名前を入力します。

4. **[OK]** をクリックします。

ショートカットグループの削除

ショートカットバーのショートカットグループを削除するには、次の手順に従ってください。

1. 削除したいショートカットグループを右クリックします。
2. ポップアップメニューから **[現在のグループの削除]** を選択します。

削除の確認を求められます。

[現在のグループを削除してもよいですか?]

3. **[OK]** をクリックします。

ショートカットバー上のアイコンサイズのカスタマイズ

ショートカットバー上に表示されるアイコンのサイズを変更する手順は次のとおりです。

1. **[表示設定]** ダイアログボックスの **[一般]** タブを開きます。

[表示設定] ダイアログボックスの詳細は 547 ページの **「[表示設定] ダイアログボックス」** を参照してください。

2. **[ショートカットバーに表示するアイコンのサイズ]** フィールドに、新しいアイコンサイズを入力します。

デフォルトのサイズは **32** ピクセルです。

3. **[OK]** をクリックします。

ショートカットバー上のアイコンのサイズが、指定したサイズに変更されます。

ワークスペースペインのワークスペースのカスタマイズ

ワークスペースペインでは、ワークスペースを定義できます。各ワークスペースには、メッセージブラウザ、アプリケーションの出力、サービスグラフ、**Web** ブラウザがあります。ワークスペースを新しく作成し名前を変更したり、既存のワークスペースに説明を加えたり削除したりできます。

注記

ノーマルワークスペースには、ActiveX コントロールを含むことができません。ActiveX コントロールを使うためには、ActiveX コントロール専用のワークスペースを別途作成する必要があります。

このセクションでは次の操作について説明します。

- 新規ワークスペースの作成
- 既存のワークスペースの変更
- 既存のワークスペースの削除

新規ワークスペースの作成

ワークスペースペインに新しいワークスペースを作成するには、次の手順に従ってください。

1. ワークスペースペインの空白部分を右クリックします。

このとき、ワークスペースタブを表示したい場所のすぐ右側をクリックしているかを確認してください。

2. ポップアップメニューで **[新規ワークスペース]** を選択します。
3. **[ワークスペースのプロパティ]** ダイアログボックスで、ワークスペースタブに表示したい名前、ワークスペースの説明およびそのワークスペースが **ActiveX** コントロール用かどうかを入力します。

[ワークスペースのプロパティ] ダイアログボックスのオプションについては 567 ページの「**[ワークスペースのプロパティ]** ダイアログボックス」を参照してください。なお、ここでは **Abstract Window Toolkit (AWT)** コンテナのオプションについても説明しています。

ワークスペースペインの **ActiveX** コントロールの概要は 80 ページの「**統合 Web ブラウザ**」を参照してください。

既存のワークスペースの変更

ワークスペースペインで既存のワークスペースを変更するには、次のようにします。

1. ワークスペースペインで変更したいタブを右クリックします。
2. ポップアップメニューで **[ワークスペースのプロパティ]** を選択します。

3. [ワークスペースのプロパティ] ダイアログボックスで、ワークスペースのラベルや説明を編集します。

[ワークスペースのプロパティ] ダイアログボックスのオプションについては 567 ページの「[ワークスペースのプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。なお、ここでは **Abstract Window Toolkit (AWT)** コンテナのオプションについても説明しています。

既存のワークスペースの削除

ワークスペースペインで既存のワークスペースを削除するには、次のようにします。

1. ワークスペースペインから削除したいタブを右クリックします。
2. ポップアップメニューで **[ワークスペースの削除]** を選択します。

確認ボックスに次のテキストが表示されます。

[ワークスペースを削除してもよいですか?]

3. **[はい]** をクリックし、削除を確定します。

統合 Web ブラウザの変更

デフォルトでは、HPOM はワークスペースペインに **Web** ブラウザを組み込んでいます。このデフォルトを好きな **Web** ブラウザに変更できます。

統合 **Web** ブラウザを変更するには、次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **[編集: 表示設定 ...]** を選択します。
[表示設定] ダイアログボックスが表示されます。
2. [表示設定] ダイアログボックスで **[Web ブラウザ]** タブをクリックします。

注記

ActiveX コントロール用に変更したい場合は、まずワークスペースペインに **ActiveX** コンテナを作る必要があります。

詳細は 288 ページの「新規ワークスペースの作成」を参照してください。

3. [Web ブラウザ] タブで次のオプションのいずれかを選択します。

- 外部 Web ブラウザを使う

[表示 ...] をクリックし、コンピュータにインストールされている外部 Web ブラウザ (たとえば Mozilla) を選択します。

- ActiveX Internet Explorer コントロールを使う

このオプションを選択するには、ActiveX コンテナとなるワークスペースをすでに作成している必要があります。

詳細は 288 ページの「新規ワークスペースの作成」を参照してください。

注記

[ActiveX Internet Explorer コントロール] オプションは、Windows のみで有効です。

[表示設定] ダイアログボックスの [Web ブラウザ] タブの各オプションについては 550 ページの「[表示設定] ダイアログボックスの [Web ブラウザ] タブ」を参照してください。

4. [OK] をクリックします。

注記

変更を有効にするには、コンソール設定を保存する必要があります。詳細は 279 ページの「コンソール設定のカスタマイズ」を参照してください。

ポップアップメニューのカスタマイズ

HPOM を使用すると、ポップアップメニューに表示されるツールの数を制限できます。[ツールのカスタムセット] を使用すると、ポップアップメニューの項目を、現在選択されているメッセージに関連する項目に限定します。関連するツールは、アプリケーション呼び出しの \$OPC_MSG 文字列で定義されます。現在選択されている \$OPC_MSG 文字列にツールがない場合は、ポップアップメニューにはツールが含まれなくなります。

カスタムポップアップメニューの有効化

カスタムポップアップメニューを有効にするには、次のようにします。

1. メニューバーから [編集: 表示設定 ...] を選択します。
2. [表示設定] ダイアログボックスの [一般] タブで [ツールのカスタムセット] チェックボックスを選択します。

カスタムポップアップメニューの無効化

カスタムポップアップメニューを無効にするには、次のようにします。

1. メニューバーから [編集: 表示設定 ...] を選択します。
2. [表示設定] ダイアログボックスの [一般] タブで [ツールのカスタムセット] チェックボックスを選択解除します。

ツールバーのカスタマイズ

次のようにツールバーをカスタマイズできます。

□ ツールバーコンポーネントの表示 / 非表示

デフォルトでは、ツールバーのコンポーネントはすべて表示されます。[表示:メインツールバー]メニュー、またはツールバーのポップアップメニューでオプションを非選択にすることによって、任意のコンポーネントを非表示にすることができます。任意のコンポーネントを表示に戻すには、これらのオプションを再度選択します。

ツールバーとそのコンポーネントについては 84 ページの「ツールバー」を参照してください。

□ ツールバーコンポーネントの再配置

次の方法を使えば、ツールバーを再配置できます。

- フローティングツールバーを作成する

任意のコンポーネントからフローティングツールバーを作成できます。それには、ツールバーの左側にある縦線をマウスで示し、それをタスクバーから画面上の任意の位置 (Java GUI ウィンドウの外でもよい) にドラッグします。ただし、フローティングツールバーのコンポーネントをタスクバーに戻したときは、自動的に一番後ろのツールバーコンポーネントになります。

- コンポーネントをドックツールバー内で移動する

ツールバーのコンポーネントをタスクバー上の別位置に移動できます。それには、ツールバーの左側にある縦線をマウスで示し、それを左または右にドラッグします。

メッセージイベントの通知方法の設定

[表示設定] ダイアログボックスを使って、メッセージイベント通知のオン/オフの切り替えや、通知用の重要度しきい値をリセットできます。

メッセージイベント通知の概要は 121 ページの「メッセージイベントの通知方法」を参照してください。また、メッセージイベント通知への応答方法については 230 ページの「メッセージイベント通知の表示」を参照してください。

メッセージイベント通知を設定する手順は次のとおりです。

1. メニューバーから **[編集: 表示設定 ...]** を選択します。
2. [表示設定] ダイアログボックスで **[イベント]** タブをクリックします。
3. [イベント] タブで、メッセージイベント通知の設定に変更を加えます。

[表示設定] ダイアログボックスの [イベント] タブで設定できる各オプションについては 551 ページの「[表示設定] ダイアログボックスの [イベント] タブ」を参照してください。

4. **[OK]** をクリックします。

注記

今後使うときのためにメッセージイベント通知設定を保存するには、メニューバーから **[ファイル: コンソールセッションの設定の保存]** を選択します。

フォントサイズのカスタマイズ

フォントサイズのカスタマイズでは、一般的なフォントサイズ、またはサービスグラフおよびサービスマップのフォントサイズのいずれかをカスタマイズできます。

一般的なフォントサイズのカスタマイズ

Java GUI で一般的なフォントサイズを設定する手順は次のとおりです。

1. メニューバーから **[編集: 表示設定 ...]** を選択します。
2. [表示設定] ウィンドウの [一般] タブで、[アプリケーションフォントサイズ] テキストフィールドに値を指定します。
3. **[OK]** をクリックします。

変更は直ちに有効になります。

[表示設定] ダイアログボックスの [一般] タブの各オプションについては 548 ページの「[表示設定] ダイアログボックスの [一般] タブ」を参照してください。

サービスグラフとサービスマップのフォントサイズのカスタマイズ

Java GUI でフォントサイズを設定する手順は次のとおりです。

1. メニューバーから **[編集: 表示設定 ...]** を選択します。
2. [表示設定] ウィンドウの [サービス] タブで、[サービスグラフのフォントサイズ] ドロップダウンリストから値を指定します。
3. **[OK]** をクリックします。

変更は直ちに有効になります。

[表示設定] ダイアログボックスの [一般] タブの各オプションについては 548 ページの「[表示設定] ダイアログボックスの [一般] タブ」を参照してください。

[HPOM 通信ステータス] ダイアログボックスのカスタマイズ

Java GUI クライアントで、共有の場所にあるグローバルプロパティファイルへの変更をチェックします。変更が検出されると、[HPOM 通信ステータス] ダイアログボックスにメッセージが表示され、オペレータに変更が通知され、Java GUI の再起動を要求されます。

[通信ステータスの表示] ダイアログオプションを使用すると、[HPOM 通信ステータス] ダイアログの表示/非表示を設定することができます。このオプションはデフォルトで選択されています。

[HPOM 通信ステータス] ダイアログボックスの非表示

[HPOM 通信ステータス] ダイアログボックスを非表示にするには、次の操作を行います。

1. メニューバーから [編集: 表示設定 ...] を選択します。
2. [表示設定] ダイアログボックスの [一般] タブで [通信ステータスの表示] チェックボックスを選択解除します。

多数のクライアントが同時に同じユーザー名を使用してログインする環境でこの機能を無効にする場合には、このオプションを選択解除します。クライアントの 1 人が Java GUI 設定を再ロードしても、[HPOM 通信ステータス] ダイアログボックスが表示されるのはこのオプションを有効にしているクライアントだけであり、このオプションを無効に設定している他の残りのクライアントが作業を邪魔されることはありません。

HPOM では、`itooopc` リソースファイルを作成し、`show_comm_status_dlg` パラメータオプションを追加することで、このオプションを手動で設定することができます。詳細は表 B-4 「itooopc のオプションとパラメータ」を参照してください。

ウィンドウの取り外し

HPOM では、Java GUI のメインウィンドウから個々のウィンドウを取り外し、別のモニターの画面内など、メインウィンドウの外部まで移動することができます。取り外すことができるのは、メッセージブラウザ、サービスグラフ、サービスサブマップ、およびカスタムサービスマップです。

ウィンドウの取り外しの詳細については 92 ページの「取り外したウィンドウ」を参照してください。

メイン Java GUI ウィンドウからのウィンドウの取り外し

Java GUI のメインウィンドウからウィンドウを 1 つ取り外すには、次の手順に従います。

1. 取り外すウィンドウを選択します。
2. メインメニューバーから **[表示: ウィンドウ取り外し]** を選択するか、メインツールバーの **[ウィンドウを取り外す]** アイコンをクリックします。

取り外されたウィンドウが HPOM によって画面中央に配置され、ウィンドウ内にメニューとツールバーが追加されます。

取り外したウィンドウのメインウィンドウへの取り付け

取り外したウィンドウを Java GUI のメインウィンドウに取り付けられた状態に戻すには、次の手順に従います。

1. ウィンドウを取り付けるワークスペースを選択します。
2. 取り外したウィンドウを選択します。
3. 取り外したウィンドウのメニューバーから **[表示: ウィンドウ取り付け]** を選択するか、そのウィンドウのツールバーの **[ウィンドウを取り付ける]** アイコンをクリックします。

取り外したウィンドウが、HPOM によって選択したワークスペースに取り付けられ、ウィンドウからメニューとツールバーが削除されます。

取り外したウィンドウで、次のウィンドウコンポーネントを一時的に非表示にすると、情報の表示領域をさらに広げることができます。

- ❑ 取り外したウィンドウのメニューやツールバー
- ❑ 取り外したメッセージブラウザ内のステータスの概要エリア
- ❑ 取り外したメッセージブラウザ内の水平スクロールバー

取り外したウィンドウ内のメニューやツールバーの表示 / 非表示

取り外したウィンドウ内のメニューやツールバーを非表示にするには、次の手順に従います。

1. 取り外したウィンドウで、ツールバーの背景を右クリックします。
ツールバーポップアップメニューが開きます。
2. ポップアップメニューで、非表示にするウィンドウコンポーネントを選択します。
選択したウィンドウコンポーネントが、取り外したウィンドウで表示されなくなります。

非表示にしたコンポーネントを再表示するには、ツールバーのポップアップメニューから、そのコンポーネントを選択します。

メッセージブラウザ内のステータスの概要エリアの表示 / 非表示

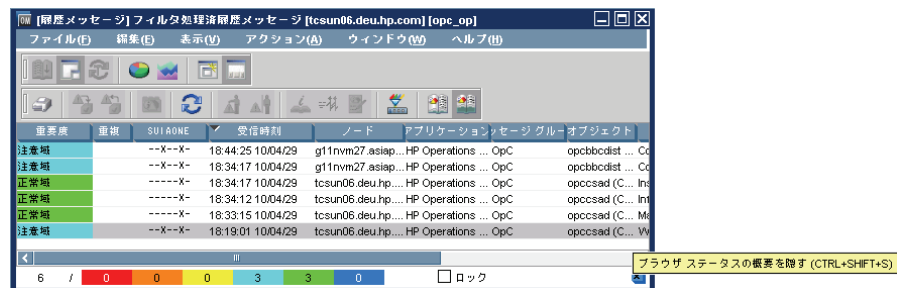
メッセージブラウザ内のステータスの概要エリアの表示 / 非表示を切り替えるには、次の手順に従います。

- 取り外したメッセージブラウザ内のステータスの概要エリアを非表示にするには、ブラウザ右下の隅にある [**ブラウザステータスの概要を隠す**] アイコンをクリックするか、**CTRL+SHIFT+S** を押します。

メッセージブラウザのステータスの概要エリアが表示されなくなります。

- 非表示にした概要エリアを再表示するには、**CTRL+SHIFT+S** をもう一度押します。

図 2-5 取り外したメッセージブラウザのステータスの概要エリアを非表示にする



メッセージブラウザ内の水平スクロールバーの表示 / 非表示

メッセージブラウザ内の水平スクロールバーの表示 / 非表示を切り替えるには、次の手順に従います。

- 取り外したメッセージブラウザ内の水平スクロールバーを非表示にするには、メッセージブラウザのツールバーの [水平スクロールバーを隠す] アイコンをクリックするか、**CTRL+SHIFT+H** を押します。

メッセージブラウザの水平スクロールバーが表示されなくなります。

- スクロールバーを再表示するには、ツールバーの同じアイコンをもう一度クリックするか、**CTRL+SHIFT+H** をもう一度押します。

フィルター処理済メッセージブラウザの作成

HPOM ではオペレータ独自のフィルター処理済アクティブ、履歴、およびペンディングメッセージブラウザを作成できます。フィルターは保存、再利用できます。

フィルター処理済メッセージブラウザを作成するには、2つの方法のうち1つを選択できます。

□ 新規フィルターの作成

新規フィルターは、次のいずれかの方法で作成できます。

- **メニューバーから**

メニューバーで [アクション：フィルター処理] を選択し、さらに次のいずれか1つの項目を選択します。

- フィルター処理済新規アクティブブラウザ
- フィルター処理済新規履歴ブラウザ
- フィルター処理済新規ペンディングブラウザ

続いて、[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスで新しいフィルターを定義します。

詳細は 192 ページの「メッセージブラウザフィルターの設定」を参照してください。[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスのオプションについては 518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。

- **ポップアップメニューから**

オブジェクトツリーの [個人用フィルター設定] を右クリックし、表示されるポップアップメニューから [新規フィルターの追加] を選択します。続いて、[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスで新しいフィルターを定義します。

このオプションはオペレータのみが使用できます。管理者が実行できるのは、[グローバルフィルター設定] での新規フィルターの追加のみです。

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスのオプションについては 518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。

□ 既存フィルターの再利用

[アクション：フィルター処理 -> 保存されたブラウザ設定の使用] から既存フィルターを選択し、必要であればフィルターの名前を変更したり、フィルターを更新します。

詳細は 321 ページの「フィルター処理済ブラウザのレイアウトを再ロードするには」を参照してください。

メッセージブラウザの外部ノードの表示のオプション

Java GUI でブラウザフィルターを作成する場合、外部ノードの表示に次のオプションが使用できます。

- 一般に、外部ノードをフィルタ処理するには、接頭辞 OPC: を使用します。
- IP アドレスのパターンマッチにより外部ノードをフィルタ処理するには、接頭辞 OPC:EA を使用します。
- IP 名のパターンマッチにより外部ノードをフィルタ処理するには、接頭辞 OPC:EN を使用します。
- IP アドレスのパターンマッチのない外部ノードをフィルタ処理するには、接頭辞 OPC:EO を使用します。

ブラウザのフィルター設定を保存するには

複数の HPOM セッション間で同じフィルター処理済アクティブ、履歴、またはペンディングメッセージブラウザを使う場合、今後も使えるようにブラウザのフィルター設定を保存できます。これにより、HPOM GUI を起動するたびに同じフィルター処理済ブラウザを再作成する手間が省けます。

注意

ブラウザのフィルター設定の保存は、メッセージの表示に使うフィルターだけを保存し、ブラウザカラムのレイアウトは保存しません。メッセージブラウザのサイズとレイアウトを保存したい場合は 318 ページの「ブラウザのレイアウトを保存するには」を参照してください。

ブラウザのフィルター設定を保存するには、次の手順に従ってください。

1. メニューバーから [アクション：フィルター処理] を選択し、次のいずれかを選びます。

- フィルター処理済新規アクティブブラウザ
- フィルター処理済新規履歴ブラウザ
- フィルター処理済新規ペンディングブラウザ

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスが表示されます。

2. [メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスで、フィルターを作成します。

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスのオプションについては 518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。

3. [保存 ...] をクリックします。

[ブラウザのフィルター設定の保存] ダイアログボックスが表示されます。

4. [ブラウザのフィルター設定の保存] ダイアログボックスに、フィルターの名前を入力します。

再度このフィルターを使うときに簡単に識別できるように、できるだけわかりやすい名前を入力します。

[ブラウザのフィルター設定の保存] ダイアログボックスのオプションについては 556 ページの「[ブラウザのフィルター設定の保存] ダイアログボックス」を参照してください。

5. [OK] をクリックします。

これでブラウザ設定が保存されます。

注記

オペレータが利用できるブラウザ設定は、HPOM 管理者も保存できることに注意してください。これらのブラウザ設定はグローバルで、すべての HPOM オペレータが使うことができます。

フィルター処理済メッセージブラウザにアクセスするには

フィルター処理済メッセージブラウザを保存しておけば、それらにすぐにしかも簡単にアクセスできます。

フィルター処理済メッセージブラウザにアクセスするには、次のいずれかにある [フィルター設定] グループを選択します。

日常作業を行う HPOM のカスタマイズ

□ ショートカットバー

詳細は 87 ページの「ショートカットバーのポップアップメニュー」を参照してください。

□ オブジェクトペイン

詳細は 88 ページの「オブジェクトペインのポップアップメニュー」を参照してください。

フィルター処理済メッセージブラウザの移動

フィルター処理済メッセージブラウザを開くと、自動的にワークスペースペインに表示されます。フィルター処理済メッセージブラウザをワークスペースペインからブラウザペインに移動できます。また、その逆もできます。

メッセージブラウザをブラウザペインに移動するには

フィルター処理済メッセージブラウザをワークスペースペインからブラウザペインに移動するには、次のようにします。

1. 移動したいフィルター処理済メッセージブラウザを選択します。
2. ツールバー (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照) 内で、[ブラウザペインにメッセージブラウザをおく] をクリックします。

メッセージブラウザをワークスペースペインに移動するには

フィルター処理済メッセージブラウザをブラウザペインからワークスペースペインに移動するには、次のようにします。

1. 移動したいフィルター処理済メッセージブラウザを選択します。
2. ツールバー内で、[ワークスペースペインにメッセージブラウザをおく] をクリックします。

メッセージ表示フィルターの使用方法

メッセージ表示フィルターを使用すると、メッセージブラウザにフィルターの条件とルールを適用し、特定のメッセージのみをブラウザに表示させることができます。ブラウザには、フィルターに一致するメッセージのみが表示されます。

このセクションでは次の操作について説明します。

- メッセージブラウザのカラムに適用するクイックフィルターを作成する
- 簡単なメッセージ表示フィルターを作成する
- 詳細なメッセージ表示フィルターを作成する
- テキスト表示を使用してメッセージ表示フィルターを作成する
- 名前付きメッセージ表示フィルターを保存する

- 保存したメッセージ表示フィルターを適用する
- 保存したメッセージ表示フィルターを編集する
- メッセージブラウザカラムのフィルターを削除する


メッセージブラウザのカラムに適用するクイックフィルターを作成する

メッセージブラウザのヘッダーでポップアップメニューを使用すると、メッセージブラウザのメッセージを容易かつ速やかに絞り込み、それらのメッセージのみを対象とした操作を実行することができます。クイックフィルターの詳細については 200 ページの「クイックメッセージ表示フィルター:」も参照してください。

メッセージブラウザのカラムにクイックフィルターを適用する手順

1. フィルターを適用するメッセージブラウザのカラムのラベルを右クリックします。
ポップアップメニューが開きます。
2. [メッセージ表示フィルター] を選択し、さらにフィルターとして使用するカラムの値を選択します。

たとえば、SNMPTraps ツールで生成されたメッセージのみを表示するには、[アプリケーション] カラムのラベルで右クリックし、表示されるポップアップメニューから [メッセージ表示フィルター: SNMPTraps] を選択します。

メッセージ表示フィルターに一致するメッセージのみが、メッセージブラウザに表示されます。さらに、メッセージ表示フィルターアイコンが、 カラムラベルとフィルター処理されたメッセージブラウザに表示されます。

注記

選択したカラムに非常に多くの値がある場合や、値が長すぎる場合、Java GUI はポップアップメニューに表示できる数または長さの値だけを表示します。この処理は通常、[メッセージテキスト] カラムを選択した場合に実行されます。ポップアップメニューにカラムの値がいったい表示されないで、[カスタム] が選択されている場合、カラムには簡単なメッセージ表示フィルターまたは詳細なメッセージ表示フィルターが適用されています。フィルターの適用状態を変更するには、[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスを使用する必要があります。

メッセージ表示フィルターを適用するたびに、ブラウザ内のメッセージ表示は更新されます。日付と時刻関連のカラムを選択した場合は、設定されている再表示周期による更新も行われます。

メッセージ表示フィルターの除去方法の詳細は 316 ページの「メッセージブラウザカラムのフィルターを削除する」を参照してください。

簡単なメッセージ表示フィルターを作成する

簡単なメッセージ表示フィルターを作成するには、[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [簡単な表示] タブを使用します。このタイプのフィルターの詳細については 201 ページの「簡単なメッセージ表示フィルター:」を参照してください。

簡単なメッセージ表示フィルターの作成手順

1. フィルターを適用するメッセージブラウザを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。

- メニューバー

メニューバーから [アクション: フィルター処理 -> メッセージ表示フィルター ...] を選択します。

- ポップアップメニュー

メッセージブラウザのヘッダーを右クリックし、ポップアップメニューから [メッセージ表示フィルター: カスタム ...] を選択します。

- ツールバー


メインツールバーの [メッセージ表示フィルターのダイアログボックスを開く] アイコンをクリックします。

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスが、[簡単な表示] タブを選択した状態で開きます。選択したブラウザにメッセージ表示フィルターが設定されていない場合、このタブには何も表示されません。


[詳細な表示] タブが表示される場合は、詳細なメッセージ表示フィルターが適用されています。[簡単な表示] タブに切り替えるには、最初に既存の詳細なフィルターを除去する必要があります。

3. [追加] をクリックします。

空の条件がタブに追加され、ダイアログボックス下半分の表示内容が、選択用の表示に更新されます。

4. フィルターの対象となるカラムの名前を選択するか、直接入力します。
項目名のリストには、利用可能なすべての既存カラムの名前（カスタムメッセージ属性の名前も含む）が含まれています。
5. オプション: 条件の否定を定義する場合は、[NOT] を選択します。
たとえば、[NOT] と equals 演算子を選択すると、選択した値に一致しないメッセージのみを表示する条件が作成されます。
6. 演算子を選択します。
演算子は、選択したメッセージブラウザのカラムの内容により異なります。数値または文字列データに対応した適切な演算子が表示されます。208 ページの「メッセージ表示フィルターの演算子:」も参照してください。
7. 検索する値を指定します。
適切な値を直接入力するか、利用可能なメッセージのリストから選択するか、あるいは定義済みの値（(管理サーバー)、(本日)など）を選択します。209 ページの「メッセージ表示フィルター用にあらかじめ定義されている値:」も参照してください。
equals 演算子を選択した場合は、疑問符(?)とアスタリスク(*)のワイルドカード文字も使用できます。疑問符は任意の1文字と一致します。アスタリスクは1文字以上の任意の文字列と一致します。
8. オプション: 時間関係のカラムと [フラグ] カラムでは、 ボタンをクリックすると表示されるダイアログボックスを使用して、適切な値を容易に入力できます。
9. タブ内のフィルターの情報が更新されない場合は、ここで **Enter** を押します。
10. オプション: 条件をさらに作成する場合は、[追加] をクリックし、表示されている条件に必要な変更を加えます。
11. フィルターを適用します。
 - ダイアログボックスを閉じずにフィルターを適用するには、[適用] をクリックします。
 - フィルターを適用してダイアログボックスを閉じるには、[OK] をクリックします。

フィルターに構文上の誤りが含まれる場合は、問題点を説明するメッセージが表示されます。構文ルールについての説明は 205 ページの「メッセージ表示フィルターの構文」を参照してください。

メッセージ表示フィルターに一致するメッセージのみが、メッセージブラウザに表示されます。さらに、メッセージ表示フィルターアイコン  が、カラムラベルとフィルター処理されたメッセージブラウザに表示されます。

メッセージ表示フィルターを適用するたびに、ブラウザ内のメッセージ表示は更新されます。日付と時刻関連のカラムを選択した場合は、設定されている再表示周期による更新も行われます。

詳細なメッセージ表示フィルターを作成する

詳細なメッセージ表示フィルターを作成するには、[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [詳細な表示] タブを使用します。このタイプのフィルターの詳細については 204 ページの「詳細なメッセージ表示フィルター:」を参照してください。

詳細なフィルターが定義されていると、[詳細な表示] タブを [簡単な表示] タブに切り替えることはできません。詳細なフィルターの複雑な構成は、[詳細な表示] タブや [テキスト表示] タブでのみ表示できます。

詳細なメッセージ表示フィルターの作成手順

1. フィルターを適用するメッセージブラウザを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - メニューバー
メニューバーから [アクション: フィルター処理 -> メッセージ表示フィルター ...] を選択します。
 - ポップアップメニュー
メッセージブラウザのヘッダーを右クリックし、ポップアップメニューから [メッセージ表示フィルター: カスタム ...] を選択します。
 - ツールバー
メインツールバーの [メッセージ表示フィルターのダイアログボックスを開く] アイコンをクリックします。

[**メッセージ表示フィルター**] ダイアログボックスが開きます。ブラウザにメッセージ表示フィルターが設定されていない場合、[**簡単な表示**] タブが表示されます。[**詳細な表示**] タブをクリックし、[**詳細な表示**] タブを開きます。

[**詳細な表示**] タブが表示される場合は、メッセージブラウザに、詳細なメッセージ表示フィルターがすでに適用されています。その場合は、適用済みのフィルターを除去して新規フィルターを作成するか、適用済みのフィルターに変更を加えます。

3. 次の手順で条件を作成します。

a. [**新規条件**] をクリックします。

空の条件がタブに追加されます。ダイアログボックスの下半分が、選択用の表示に変わります。

b. フィルターの対象となる **カラム** の名前を選択するか、直接入力します。

項目名のリストには、利用可能なすべての既存カラムの名前 (カスタムメッセージ属性の名前も含む) が含まれています。

c. **オプション**: 条件の否定を定義する場合は、[**NOT**] を選択します。

たとえば、[**NOT**] と equals 演算子を選択すると、選択した値に一致しないメッセージのみを表示する条件が作成されます。


d. 演算子を選択します。

演算子は、選択したメッセージブラウザのカラムの内容により異なります。数値または文字列データに対応した適切な演算子が表示されます。208 ページの「メッセージ表示フィルターの演算子:」も参照してください。

e. 検索する **値** を指定します。

適切な値を直接入力するか、利用可能なメッセージのリストから選択するか、あるいは定義済みの値 ((**管理サーバー**)、(**本日**) など) を選択します。209 ページの「メッセージ表示フィルター用にあらかじめ定義されている値:」も参照してください。

equals 演算子を選択した場合は、疑問符 (?) とアスタリスク (*) のワイルドカード文字も使用できます。疑問符は任意の 1 文字と一致します。アスタリスクは 1 文字以上の任意の文字列と一致します。

- f. オプション: 時間関係のカラムと [フラグ] カラムでは、 ボタンをクリックすると表示されるダイアログボックスを使用して、適切な値を容易に入力できます。
 - g. タブ内のフィルターの情報が更新されない場合は、ここで **Enter** を押します。
 - h. さらに条件を追加する場合は、[新規条件] をもう一度クリックし、追加する条件に応じて既存設定を変更します。
2 つ目の条件を追加した場合、その条件は **AND** ルールで最初の条件と結合されるため、両方の条件を共に満たすメッセージが抽出されます。
4. 次の手順に従ってルールを作成します。
- a. [新規ルール] をクリックします。
空のルールがタブに追加され、ダイアログボックスの下半分の表示が、ルールを設定できる内容に変わります。
 - b. ルールの演算子を選択します。選択できる演算子は、AND と OR のどちらかです。
 - c. オプション: ルールの否定を定義する場合は、[NOT] を選択します。
たとえば、[NOT] と AND 演算子を選択すると、設定した条件のいずれにも一致しないメッセージのみを表示するルールが作成されます。
 - d. タブ内のフィルターの情報が更新されない場合は、ここで **Enter** を押します。
 - e. 必要な条件をルールに追加します。


ヒント

ルールは、2 つ以上の条件またはルールを選択し、[新規ルール] をクリックする方法でも作成できます。選択した項目は、新しいルールのメンバーになります。選択する項目は、すべて同じ親ルールに直接に属している必要があります。この条件を満たさないと、それらの項目をメンバーとする新規ルールは作成できません。

-
- 5. オプション: 条件とルールがネストされる順序を変更するには、[上に移動] と [下に移動] を使用します。
 - 6. フィルターを適用します。

- ダイアログボックスを閉じずにフィルターを適用するには、[適用] をクリックします。
- フィルターを適用してダイアログボックスを閉じるには、[OK] をクリックします。

フィルターに構文上の誤りが含まれる場合は、問題点を説明するエラーメッセージが表示されます。構文ルールについての説明は 205 ページの「メッセージ表示フィルターの構文」を参照してください。

メッセージ表示フィルターに一致するメッセージのみが、メッセージブラウザに表示されます。さらに、メッセージ表示フィルターアイコン  が、カラムラベルとフィルター処理されたメッセージブラウザに表示されます。

メッセージ表示フィルターを適用するたびに、ブラウザ内のメッセージ表示は更新されます。日付と時刻関連のカラムを選択した場合は、設定されている再表示周期による更新も行われます。

テキスト表示を使用してメッセージ表示フィルターを作成する

メッセージ表示フィルターは、テキスト形式で記述して作成することもできます。この方法をとる場合は、[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [テキスト表示] タブを使用します。

注記

空白文字を含むカラム名や値は、二重引用符 (“”) で囲みます。

[テキスト表示] タブでメッセージ表示フィルターを作成する手順

1. 205 ページの「メッセージ表示フィルターの構文」に目を通し、メッセージ表示フィルターの構文をしっかりと理解します。
2. フィルターを適用するメッセージブラウザを選択します。
3. 次のいずれかの操作を行います。
 - メニューバー
メニューバーから [アクション: フィルター処理 -> メッセージ表示フィルター...] を選択します。

- ポップアップメニュー

メッセージブラウザのヘッダーを右クリックし、ポップアップメニューから [メッセージ表示フィルター：カスタム...] を選択します。

- ツールバー

メインツールバーの [メッセージ表示フィルターのダイアログボックスを開く] アイコンをクリックします。

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスが開きます。

4. [テキスト表示] をクリックし、[テキスト表示] タブを開きます。

5. 編集可能なテキストエリア内にカーソルを置き、フィルター定義を入力します。


6. フィルター定義の入力後、[チェック] をクリックして構文上の誤りがないことを確認します。

構文チェックの結果を知らせる情報メッセージが表示されます。エラーが検出されている場合は、フィルターを訂正して構文チェックを再実行します。

7. フィルターを適用します。

- ダイアログボックスを閉じずにフィルターを適用するには、[適用] をクリックします。
- フィルターを適用してダイアログボックスを閉じるには、[OK] をクリックします。

フィルターに構文上の誤りが含まれる場合は、問題点を説明するメッセージが表示されます。

メッセージ表示フィルターに一致するメッセージのみが、メッセージブラウザに表示されます。さらに、メッセージ表示フィルターアイコン  が、カラムラベルとフィルター処理されたメッセージブラウザに表示されます。

メッセージ表示フィルターを適用するたびに、ブラウザ内のメッセージ表示は更新されます。日付と時刻関連のカラムを選択した場合は、設定されている再表示周期による更新も行われます。

名前付きメッセージ表示フィルターを保存する

メッセージ表示フィルターは、コンソールセッション設定やカスタマイズしたブラウザレイアウトの一部として保存することができます。Java GUI を次回起動する際、またはレイアウトを保存したブラウザを開く際には、保存されたメッセージ表示フィルターが自動的にブラウザに適用されます。

メッセージ表示フィルターは、次に説明する方法によって、コンソール設定やブラウザレイアウトとは別に保存することもできます。この方法で保存したメッセージ表示フィルターは、オブジェクトツリーの [フィルター設定] フォルダー内に表示されます。211 ページの「メッセージ表示フィルターの保存」も参照してください。

メッセージ表示フィルターに名前を付けて保存する手順

1. フィルターを適用するメッセージブラウザを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。

- メニューバー

メニューバーから [アクション: フィルター処理 -> メッセージ表示フィルター...] を選択します。

- ポップアップメニュー

メッセージブラウザのヘッダーを右クリックし、ポップアップメニューから [メッセージ表示フィルター: カスタム...] を選択します。

- ツールバー

メインツールバーの [メッセージ表示フィルターのダイアログボックスを開く] アイコンをクリックします。

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスが開きます。選択したブラウザにメッセージ表示フィルターがすでに適用されている場合は、そのフィルターが [メッセージ表示フィルター] ダイアログボックス内に表示されます。

3. オプション: [メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスが空の場合は、ここでメッセージ表示フィルターを作成します。

詳細については 305 ページの「簡単なメッセージ表示フィルターを作成する」および 307 ページの「詳細なメッセージ表示フィルターを作成する」を参照してください。

4. [保存 ...] をクリックします。
[メッセージ表示フィルターの保存] ダイアログボックスが表示されます。
5. フィルターの種類として [グローバル] または [パーソナル] を選択します。
[グローバル] オプションを選択できるのは、HPOM の管理者だけです。オペレータはオペレータ専用のフィルターを保存することができません。
6. メッセージ表示フィルターを識別するための名前を、[名称] フィールドに入力します。
フィルター名に使用できるのは英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9) とアンダースコア記号 (_) だけです。名前の長さは 254 文字以内です。
7. [OK] をクリックしてフィルターを保存し、[メッセージ表示フィルターの保存] ダイアログボックスを閉じます。
8. [メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスで、[OK] をクリックしてフィルターを適用し、このダイアログボックスを閉じます。

保存したフィルターを適用する方法と、ロードして変更を加える方法については 314 ページの「保存したメッセージ表示フィルターを適用する」および 315 ページの「保存したメッセージ表示フィルターを編集する」を参照してください。

保存したメッセージ表示フィルターを適用する

保存したメッセージ表示フィルターは、特定のブラウザや、[全アクティブメッセージ] ブラウザに適用することができます。

保存したメッセージ表示フィルターを特定のブラウザに適用する手順

1. フィルターを適用するメッセージブラウザを選択します。
2. 保存したメッセージ表示フィルターを [メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスにロードし、[適用] をクリックします。

保存したメッセージ表示フィルターのロード方法については 315 ページの「保存したメッセージ表示フィルターを編集する」を参照してください。

保存したメッセージ表示フィルターを [全アクティブメッセージ] ブラウザに適用する手順

1. オブジェクトツリーの [フィルター設定] フォルダー内で、保存済みのメッセージ表示フィルターを 1 つ選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - ポップアップメニューから [すべてのアクティブメッセージ] を選択します。
 - 選択したフィルターをダブルクリックします。
 - 選択したフィルターをワークスペース内またはブラウザペイン内までドラッグします。

[全アクティブメッセージ] ブラウザが開き、適用したメッセージ表示フィルターと一致するすべてのアクティブメッセージが表示されます。

保存したメッセージ表示フィルターを編集する

保存したメッセージ表示フィルターは、[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスにロードすることにより再利用できます。

また、保存したメッセージ表示フィルターをオブジェクトペインで選択し、ポップアップメニューから [変更...] を選択すれば、保存したフィルターを編集することができます。その場合、フィルターは [メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスで編集して保存できますが、編集したフィルターをブラウザに適用することはできません。このフィルターには、ブラウザのコンテキストが含まれていません。

注意

保存したメッセージ表示フィルターを [メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスにロードすると、そのフィルターによって、それまでリストされていたフィルターが置き換えられます。

メッセージ表示フィルターのロード手順

1. フィルターを適用するメッセージブラウザを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - メニューバー
メニューバーから [アクション: フィルター処理 -> メッセージ表示フィルター...] を選択します。
 - ポップアップメニュー
メッセージブラウザのヘッダーを右クリックし、ポップアップメニューから [メッセージ表示フィルター: カスタム...] を選択します。
 - ツールバー
メインツールバーの [メッセージ表示フィルターのダイアログボックスを開く] アイコンをクリックします。
[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスが開きます。
3. [ロード...] をクリックします。
[メッセージ表示フィルターのロード] ダイアログボックスが開きます。

4. ロードする保存済みメッセージ表示フィルターを選択します。
5. [メッセージ表示フィルターのロード] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。
[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックス内に、それまでリストされていたフィルターの代わりに、選択したフィルターが表示されます。
6. ロードしたメッセージ表示フィルターに、必要な変更を加えます。

注記

オペレータはグローバルフィルター、個人用フィルターのどちらもロードできますが、保存できるのは個人用フィルターのみです。管理者はグローバルフィルターのみをロードおよび保存できます。


7. [OK] をクリックしてロードしたフィルターを適用し、[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスを閉じます。

メッセージブラウザカラムのフィルターを削除する

メッセージ表示フィルター処理を中止するには、フィルターが適用されているブラウザのカラムからフィルター条件を削除するか、フィルター全体をブラウザから削除します。

メッセージブラウザカラムから 1 つの条件を削除する手順


1. 条件を削除するメッセージブラウザのカラムのラベルを右クリックします。
ポップアップメニューが開きます。
2. [メッセージ表示フィルター] のポップアップメニューで、条件の選択を解除します。

選択したメッセージブラウザのカラムから、その条件が削除されます。同じカラムに他のフィルター条件が残っている場合、カラムのラベルに表示されているメッセージ表示フィルターアイコン  は消去されません。

フィルター条件が他のメッセージブラウザのカラムに適用されていると、残りの条件と一致するメッセージのみがブラウザに表示されます。

メッセージブラウザのカラムからすべての条件を削除する手順


1. フィルターを削除するメッセージブラウザのカラムのラベルを右クリックします。
ポップアップメニューが開きます。
2. [メッセージ表示フィルター：すべて] を選択します。

選択したメッセージブラウザのカラムから、すべてのフィルター条件が削除され、メッセージ表示フィルターアイコン  がカラムのラベルから消去されます。

フィルター条件が他のメッセージブラウザのカラムに適用されていると、残りの条件と一致するメッセージのみがブラウザに表示されます。

メッセージ表示フィルター全体をメッセージブラウザから削除する手順

1. メッセージ表示フィルターを削除するメッセージブラウザを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - メニューバーから [アクション：フィルター処理 -> メッセージ表示フィルターの削除] を選択します。
 - メッセージブラウザのヘッダーを右クリックし、ポップアップメニューから [メッセージ表示フィルターの削除] を選択します。

メッセージブラウザに表示されるように設定された全メッセージが表示され、メッセージ表示フィルターアイコン  がメッセージブラウザから消去されます。

注記

メッセージブラウザからメッセージ表示フィルターを削除しても、保存済みのメッセージ表示フィルターは削除されません。

ブラウザのレイアウトを保存するには

HPOM セッション中にブラウザのサイズを変更したりカラムをカスタマイズした場合、今後使うときのためにブラウザのレイアウトを保存できます。ブラウザのレイアウトを保存しておけば、HPOM GUI を起動するごとにメッセージブラウザのサイズ、ソート順、カラム幅などを変更する手間が省けます。

注記

ブラウザのフィルターに対して行った変更は、別に保存する必要があります。詳細は 300 ページの「ブラウザのフィルター設定を保存するには」を参照してください。

このセクションでは次の操作について説明します。

- フィルター処理していないメッセージブラウザの物理レイアウトを保存するには
- フィルター処理済ブラウザの物理レイアウトを保存するには
- フィルター処理済ブラウザのレイアウトを再ロードするには

フィルター処理していないメッセージブラウザの物理レイアウトを保存するには

フィルター処理していないメッセージブラウザの物理的なレイアウトを保存するには、次の手順に従ってください。

1. 必要に応じてメッセージブラウザのサイズ、ソート順、カラム幅、カラムラベルなどを変更します。
説明は 321 ページの「ブラウザウィンドウのレイアウトを変更するには」を参照してください。
2. 必要に応じてメッセージ表示フィルターを適用します。
説明は 303 ページの「メッセージ表示フィルターの使用方法」を参照してください。
3. レイアウトを保存したいブラウザがアクティブであることを確認します。
4. メニューバーで、[表示：メッセージブラウザのレイアウトの保存 -> デフォルトとして保存]を選択し、次から 1 つを選択します。

- **アクティブ**

現在のブラウザを、デフォルトのアクティブメッセージブラウザとして保存します。

- **履歴**

現在のレイアウトを、フィルター処理済履歴メッセージブラウザのデフォルトとして保存します。

- **ペンディング**

現在のブラウザのレイアウトを、フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザのデフォルトとして保存します。

HPOM はホームディレクトリにある `itooopbrw` ファイルにレイアウトを保存します。

このファイルは通常は次のディレクトリに保存されます。

- *Windows 2003、XP*

`C:\Documents and Settings\`

- *Solaris*

`/export/home/<user>`

- *他のプラットフォーム*

`/home/<user>`

フィルター処理済ブラウザの物理レイアウトを保存するには

フィルター処理済ブラウザの物理的レイアウトを保存するには、次の手順に従います。

1. 保存してあるメッセージブラウザフィルター設定を使って、ブラウザを開きます。

注記

まだ保存していない場合は、メッセージブラウザフィルターを定義して保存します。それから新しく保存したフィルター設定を使って、ブラウザを開きます。メッセージブラウザのフィルターを定義する方法については 299 ページの「フィルター処理済メッセージブラウザの作成」を参照してください。

2. 必要に応じてメッセージブラウザのサイズ、ソート順、カラム幅、カラムラベルなどを変更します。

説明は 321 ページの「ブラウザウィンドウのレイアウトを変更するには」を参照してください。

3. 必要に応じてメッセージ表示フィルターを適用します。

説明は 303 ページの「メッセージ表示フィルターの使用方法」を参照してください。

4. レイアウトを保存したいブラウザがアクティブであることを確認します。

5. [表示: メッセージブラウザのレイアウトの保存 -> フィルター名で保存] を選択します。

HPOM はホームディレクトリにある `itooopbrw` ファイルにレイアウトを保存します。

このファイルは通常は次のディレクトリに保存されます。

- *Windows 2003、XP*

`C:\Documents and Settings\`

- *他のプラットフォーム*

`/home/<user>`

新しいレイアウトは次回 GUI を起動したときに設定ファイルから読み込まれ、それ以降のセッションでデフォルトのレイアウトとして使われます。

フィルター処理済ブラウザのレイアウトを再ロードするには

以前に保存したブラウザのレイアウトをフィルター名を使って再ロードするには、次のようにします。

[アクション：フィルター処理 -> 保存されたブラウザ設定の使用] を選択します。

ブラウザウィンドウのレイアウトを変更するには

ブラウザウィンドウのレイアウトを、メッセージを探しやすいように要望に合わせて変更できます。

□ 属性カラムの変更

属性カラムを移動したり、カラムの境界線を左右にドラッグしてサイズを変更したりできます。カラムを非表示にすることもできます。

□ ブラウザのカラムの順序変更

カラムのラベルをドラッグして、ブラウザ内のカラムの順序を変えることができます。

□ メッセージのソート

カラムのラベルをクリックすることにより、メッセージを属性別にソートできます。カラムのラベルに矢印が表示され、その属性でメッセージがソートされたことを示します。

数値を含むメッセージフィールドもソートできるようになりました。数値としては、整数、浮動小数点数、科学的表記法を使うことができます。メッセージフィールドの値の例は、次のとおりです。

- 982374 (整数)
- 123.045 (浮動小数点数)
- 10e-2 (科学的表記法)

数値を含むブラウザカラムのソート例については 214 ページの図 1-90 を参照してください。

□ カラムの内容の調整

メッセージブラウザ内のメッセージブラウザヘッダーでポップアップメニューを使って、カラムの内容を調整することができます。調整には、左揃え、右揃え、中央揃えのいずれかが指定できます。235 ページの図 2-1 を参照してください。

□ カラムのカスタマイズ

メッセージブラウザカラムを表示または非表示にできます。また、カスタマイズしたいメッセージブラウザを選択し、メニューバーから [表示: メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ...] を選択すれば、そのラベルを変更できます。または、メッセージブラウザヘッダーを右クリックし、ポップアップメニューの [メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ...] を選択します。詳細は 513 ページの「[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックス」を参照してください。

注記

ブラウザウィンドウのレイアウト変更は、今後の使用のために新しいレイアウトとして保存しない限り、現在のセッションにおいてだけ有効なので注意してください。ブラウザのレイアウトを保存する方法については 318 ページの「ブラウザのレイアウトを保存するには」を参照してください。

表示するメッセージ数を変更するには

アクティブメッセージブラウザまたは履歴メッセージブラウザでは、すべてのメッセージまたは最新のメッセージだけを表示できます。

このセクションでは次の操作について説明します。

- メッセージブラウザですべてのメッセージを表示するには
- メッセージブラウザで最新メッセージだけを表示するには
- メッセージブラウザ内のメッセージ数を変更するには

注記

次の手順は現在のセッションだけで有効なので注意してください。

メッセージブラウザですべてのメッセージを表示するには

アクティブメッセージブラウザまたは履歴メッセージブラウザですべてのメッセージを表示するには、次のいずれかを行います。

□ ツールバー

ツールバーで **[全メッセージの表示]** アイコン (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照) をクリックします。

□ メニューバー

メニューバーから **[表示 : メッセージ数 -> 全メッセージ]** を選択します。

メッセージブラウザで最新メッセージだけを表示するには

メッセージブラウザで最新メッセージだけを表示するには、次のいずれかを行います。

□ ツールバー

ツールバーで **[最新メッセージの表示]** アイコン (459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照) をクリックします。

□ メニューバー

メニューバーから **[表示 : メッセージ数 -> 最新メッセージ]** を選択します。

[最新メッセージ] に表示されるメッセージ数は、デフォルトでは 50 です。

メッセージブラウザ内のメッセージ数を変更するには

アクティブメッセージブラウザまたは履歴メッセージブラウザでは、メニューバーで [最新メッセージ] を選択すると最新メッセージのみが表示され、[全メッセージ] を選択するとすべてのメッセージが表示されます。詳細は 440 ページの「[表示] メニュー」を参照してください。[最新メッセージ] を選択した場合には、一度に表示されるメッセージ数を変更できません。

アクティブメッセージブラウザまたは履歴メッセージブラウザに表示されるメッセージ数を変更するには、次の手順に従ってください。

1. メニューバーから [編集：表示設定] を選択します。

[表示設定] ダイアログボックスの各オプションについては 547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」を参照してください。

2. [一般] タブで、アクティブメッセージブラウザまたは履歴メッセージブラウザに表示するメッセージ数を入力します。

- アクティブメッセージブラウザの場合は、[最新のメッセージ数] に入力
- 履歴メッセージブラウザの場合は、[最新の履歴メッセージ数] に入力

3. [OK] をクリックします。

メッセージブラウザのカラー表示の設定をカスタマイズするには

HPOM では、通常はメッセージブラウザの**重要度カラム**だけがカラー表示されていますが、メッセージ行全体をメッセージの重要度別にカラー表示するように **HPOM** を設定できます。メッセージの重要度が目でわかるということは **HPOM** の実行環境では特に大切なことであり、この機能はそのためにとっても便利です。**[表示設定]** ウィンドウの**[カラー行]** チェックボックスにチェックを入れるだけでこのように変更できます。

メッセージブラウザのカラー表示の設定をカスタマイズするには、次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **[編集：表示設定]** を選択します。

[表示設定] ダイアログボックスの各オプションについては **547** ページの「**[表示設定]** ダイアログボックス」を参照してください。

2. **[一般]** タブで、**[カラー行]** チェックボックスを選択または選択解除します。

このチェックボックスは、デフォルトでは選択されていません。

3. **[OK]** をクリックします。

注記

表示設定は **Java GUI** が起動しているコンピュータに保存され、クライアント上で起動中のすべての **Java GUI** に適用されます。**Java GUI** を別のクライアント上で起動した場合は、そのクライアントの設定が使われます。

セキュアな HTTPS ベース Java GUI 通信の設定

本項では、HTTPS ベース Java GUI と HPOM 管理サーバー間にセキュアな通信を設定する方法について説明します。以下の項目で構成されます。

□ 起動スクリプトパラメータ

起動スクリプト `ito_op(ito_op.bat)` 内の、HTTPS ベース Java GUI に関するパラメータについて説明します。詳細は 327 ページの「Java GUI クライアントに HTTPS ベース通信を設定する」を参照してください。

□ コア機能

セキュアな通信を確立する過程でコア機能が担う役割の概要を説明し、それをインストールする方法を説明します。詳細は 329 ページの「コア機能のインストール」を参照してください。

□ 証明書

サーバー認証モード用と完全認証モード用の各証明書を用意する方法について説明します。詳細は 331 ページの「証明書の準備」を参照してください。

□ ファイアウォール

HPOM 管理サーバーと Java GUI クライアントの間に、プロキシサーバーを経由して接続を設定する方法について説明します。詳細は 334 ページの「ファイアウォールを経由する HTTPS ベース Java GUI 接続を設定する」を参照してください。

HTTPS ベース Java GUI の基礎となっている概念とアーキテクチャについての詳細は 219 ページの「HTTPS ベース Java GUI アーキテクチャ」を参照してください。

Java GUI クライアントに HTTPS ベース通信を設定する

Java GUI と管理サーバーの間に HTTPS ベースの通信を設定するには、Java GUI の起動スクリプト `ito_op` (Windows では `ito_op.bat`) に、表 2-1 で説明するパラメータを設定する必要があります。

表 2-1 に、HTTPS ベースの通信タイプを設定するための起動オプションを示します。

表 2-1 HTTPS プロトコルを設定するための起動スクリプトのオプション

オプション	書式	デフォルト	説明
<code>https</code>	<code>yes no</code>	<code>yes</code>	起動時に HTTPS ベースの通信タイプが使われるように設定します。 <code>no</code> に設定すると、セキュアではない標準の通信が使われます。
<code>lcore_defaults</code>	<code>yes no</code>	<code>no</code>	このオプションは、完全 SSL 認証を設定するために必要です。 <code>yes</code> に設定すると、デフォルトのコア機能のディレクトリが使われます。
<code>https_only</code>	<code>yes no</code>	<code>no</code>	<code>yes</code> に設定すると、標準のソケット通信への通信フォールバックが無効になります。
<code>https_port</code>	<code><number></code>	<code>35211</code>	<code>opcuihttps</code> がリスンするポートです (標準の Java GUI では、ポート <code>2531</code> が使われます)。

注記

コマンド行で `ito_op` (Windows では `ito_op.bat`) を使って Java GUI を起動するときには、`https` パラメータしか指定できません。その他のすべての起動パラメータは `ito_op` (Windows では `ito_op.bat`) スクリプトの Java GUI 起動コマンドを記述している行の最後に、またはユーザーのホームディレクトリにある設定ファイル `itoopec` に追加します。

重要

HPOM 管理サーバーでグローバル設定モードを使って設定ファイル `itoooprc` に指定した起動パラメータは、HPOM Java GUI の起動時には無視されます。ローカルで設定した起動パラメータだけが適用されます。グローバル設定モードについては、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

`opcuihttps` を設定する方法と、HTTPS ベース Java GUI に関連するパラメータのリストについては、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

HPOM 管理サーバーと Java GUI クライアントの間に、プロキシサーバーを経由して接続を設定する方法については 327 ページの「Java GUI クライアントに HTTPS ベース通信を設定する」を参照してください。

セキュアな通信を確立するプロセスについては 220 ページの「セキュアな通信の確立」を参照してください。

コア機能のインストール

完全認証モードを設定することを選択したが、Java GUI クライアントには Operations HTTPS エージェントがインストールされていない場合は、クライアントシステム側にコア機能が必要となります。

コア機能を使用すると、HPOM 管理サーバーと Java GUI クライアントの間で確立させた接続を介して、プロキシサーバーを設定することもできます。ただし、コア機能がインストールされていなくても、プロキシサーバーの設定は可能です。詳細は 334 ページの「ファイアウォールを経由する HTTPS ベース Java GUI 接続を設定する」を参照してください。

注記

Java GUI クライアントと HPOM 管理サーバー間の非セキュアな通信を無効にし、HTTPS ベース Java GUI をインストールして有効にする方法は、『*HPOM 管理サーバーインストールガイド*』に詳しく説明されています。

コア機能をインストールする

1. 次のパッケージを、

HPOvXpl

HPOvBbc

HPOvSecCo

HPOvSecCC

次の場所にある **HPOM** 管理サーバーのベンダーツリーから

```
/var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/vendor/\
<VENDOR>/<FAMILY>/<OS>/<HPOM_VERSION>/RPC_BBC
```

Java GUI クライアントシステムにコピーします。

たとえば、**Windows XP** の場合には、これらのパッケージは次の場所にあります。

```
/var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/vendor/ms/x86/\
winnt/08.52.006/RPC_BBC/
```

2. パッケージをインストールします。たとえば、**Windows XP** では以下のパッケージです。

HPOvXpl.msi

HPOvBbc.msi

HPOvSecCo.msi

HPOvSecCC.msi

証明書の準備

本項では、以下の認証モード用の証明書を準備する方法について説明します。

□ サーバー認証モード

331 ページの「サーバー認証モード用の証明書の準備」を参照してください。

□ 完全認証モード

332 ページの「完全認証モード用の証明書の準備」を参照してください。

証明書と認証モードについての詳細は 223 ページの「証明書」を参照してください。

サーバー認証モード用の証明書の準備

HTTPS ベース Java GUI を使うために証明書をインストールしておく必要はありません。Java GUI は、HPOM 管理サーバーに匿名で接続するからです。

初めて HPOM 管理サーバーに接続したときに、証明書が生成され、公開鍵と共に、ローカルの証明ストアに保存されます。その後証明書は認証のプロセスで、opcuihttps サーバーによって使われます。

ローカルの証明ストアに証明書があるかないかに応じて、以下のシナリオが考えられます。

□ 証明書がすでにクライアントに保存されている場合

通知なしに、Java GUI と HPOM 管理サーバー間の通信が確立されます。

□ 証明書がクライアントにない場合

[HPOM サーバー証明書] ダイアログウィンドウが表示されます。このダイアログウィンドウから、HPOM サーバー証明書を受け入れるかどうか尋ねられます。以下の選択が可能です。

- **[はい]** を選択した場合には、今回のセッションのためだけに HPOM サーバー証明書を受け入れます。次回のログインでは、この証明書を受け入れるかどうか再び尋ねられます。

- [**いいえ**] を選択した場合には、HPOM 管理サーバーとの接続がキャンセルされます。新しく表示されるログインウィンドウで、別の HPOM 管理サーバーを選択するか、またはログイン手順をキャンセルするかのいずれかを選択できます。
- [**常に**] を選択した場合には、今回と将来のすべての Java GUI セッションで HPOM サーバー証明書が使われます。

完全認証モード用の証明書の準備

完全認証モード用の証明書を準備するには、以下の手順を実行する必要があります。

1. `opcuihttps` プロセスを設定して、完全認証モードを有効にします。そのためには、次のコマンドを実行して、`opcuihttps` プロセスを再起動します。

```
ovconfchg -ovrg server -ns opc.opcuihttps -set  
SSL_CLIENT_VERIFICATION_MODE RequireCertificate
```

`opcuihttps` のパラメータ設定の詳細については、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

2. クライアントシステムにクライアント証明書があることを確認します。
Java GUI クライアントシステムに **Operations HTTPS** エージェントがインストールしてある場合には、その HPOM クライアント証明書を認証に使うことができます。インストールしていない場合には、クライアント証明書を手作業でインストールする必要があります。クライアント証明書を手作業でインストールする方法は **333** ページの「クライアント証明書を手作業でインストールする :」を参照してください。
3. Java GUI の起動パラメータ `lcore_defaults` を **yes** に設定して、Java GUI がデフォルトのコア機能を使うことができますようにします。Java GUI クライアントに HPOM エージェントをインストールしていれば、コア機能も一緒にインストールされています。インストールしていない場合には、追加でインストールする必要があります。詳細は **329** ページの「コア機能のインストール」を参照してください。

クライアント証明書を手作業でインストールする： クライアントシステムにクライアント証明書を手作業でインストールするには、以下の手順を実行します。

1. Java GUI クライアントシステムにコア機能がインストールされていない場合は、インストールします。コア機能のインストールについては 329 ページの「コア機能のインストール」を参照してください。
2. Java GUI クライアントシステムで、次のコマンドを使って、クライアントコア ID を作成します。

```
ovcoreid
```

3. HPOM 管理サーバーで、次のコマンドを実行して、新しい証明書を作成し、この証明書に公開鍵を関連付けて、ファイルに格納します。

```
ovcm -issue -file <filename> -name <system_name> \  
-pass <passphrase> -coreid <client_coreid>
```

ここで <system_name> は HPOM 管理サーバーホスト名、<passphrase> はパスワード、<client_coreid> は ID、<filename> は証明書を保存するファイル名になります。

4. 証明書を格納したファイルを、ftp サービスなどを使って、クライアントシステムに転送します。
5. 次のコマンドを使って、クライアントシステムに証明書をインストールします。

```
ovcert -importcert -file <filename> -pass <passphrase>
```

ファイアウォールを経由する HTTPS ベース Java GUI 接続を設定する

HTTPS ベース Java GUI と HPOM 管理サーバーをファイアウォール経由で通信させる場合、HTTPS ベース Java GUI が HPOM 管理サーバーに直接アクセスするようにファイアウォールを設定することも、HTTPS ベース Java GUI が HPOM 管理サーバーとのすべての通信にプロキシサーバーを使うように設定することもできます。管理サーバーで `opcuihttps` プロセスがリスンするデフォルトのポートは `35211` です (標準の Java GUI はポート `3521` を使います)。

HTTPS ベース Java GUI のプロキシサーバーを指定するには、いくつかの方法があります。

□ コア機能の使用

コア機能を使ってプロキシサーバーを設定する

□ コア機能のインストールなし

`ito_op` コマンド行ツールを使ってプロキシサーバーを設定する

`itoopec` ファイルを使ってプロキシサーバーを設定する

[ログイン] ダイアログボックスでプロキシサーバーを設定する

Java GUI アプレット用のプロキシサーバーを設定する

どの方法でも次の構文を使ってプロキシサーバー `<proxy_config>` を設定します。

```
<proxy>:<port>+(<a>)-(<b>);<proxy2>:<port2>+(<a>)-(<b>);...
```

`<proxy>` プロキシサーバーの完全なホスト名

`<port>` プロキシサーバーを実行中のポート

`<a>` このプロキシサーバーを使用するホスト名をコンマやセミコロンで区切ってリスト指定します。たとえば、接続先の HPOM 管理サーバーの名前などを指定します。

`` このプロキシサーバーを使用しないホスト名をコンマやセミコロンで区切ってリスト指定します。たとえば、接続を許可しない HPOM 管理サーバーの名前などを指定します。

`<a>` と `` では、最初に一致したプロキシが使われます。

例 : `web-proxy:8088-(*.hp.com)+(*.deu.hp.com;*)`

この例では、`*.hp.com` に一致するホスト (`www.hp.com` など) 以外のすべてのサーバー (*) のポート `8088` でプロキシ `web-proxy` が使われます。ホスト名が `*.deu.hp.com` に一致した場合 (`merlin.deu.hp.com` など) もこのプロキシサーバーが使われます。

ホスト名の代わりに IP アドレス (`15.*.*.*` など) を使うこともできます。ドットの数を正しく指定してください。

デフォルトでは、この文字列は空です (プロキシサーバーは指定されていません)。

ito_op コマンド行ツールを使ってプロキシサーバーを設定する

ito_op (ito_op.bat) コマンド行ツールでプロキシサーバーを指定するには、bbc.http:proxy パラメータを入力します。

```
ito_op ... -bbc.http:proxy <proxy_config>
```

たとえば、ポート 8088 で実行中の proxy.hp.com プロキシサーバーを経由する、barney.hp.com HPOM 管理サーバーへの接続を有効にするには、次のように入力します。

```
ito_op -bbc.http:proxy proxy.hp.com:8088+(barney.hp.com)
```

<proxy_config> の詳細は 334 ページの「ファイアウォールを経由する HTTPS ベース Java GUI 接続を設定する」を参照してください。

itoprnc ファイルを使ってプロキシサーバーを設定する

itoprnc ファイルに bbc.http:proxy <proxy_config> パラメータを設定することもできます。itoprnc ファイルは、ユーザーのホームディレクトリに格納されています。

たとえば、ポート 8088 で実行中の proxy.hp.com プロキシサーバーを経由する、barney.hp.com HPOM 管理サーバーへの接続を有効にするには、itoprnc ファイルに次の行を追加します。

```
bbc.http:proxy proxy.hp.com:8088+(barney.hp.com)
```

<proxy_config> の詳細は 334 ページの「ファイアウォールを経由する HTTPS ベース Java GUI 接続を設定する」を参照してください。

使用可能なオプションの詳細は 611 ページの「itoprnc リソースファイル」を参照してください。

[ログイン] ダイアログボックスでプロキシサーバーを設定する

HTTPS 通信を使うように Java GUI を設定した場合、[ログイン] ダイアログボックスに、プロキシサーバーを選択するための別のフィールドが表示されます。この [プロキシ] フィールドでは、次のオプションを選択できます。

□ 新規追加

[新規追加] を選択して、[ログイン] ダイアログボックスの [プロキシ] フィールドに新しいプロキシサーバーを入力します。この値は、ローカルの `itooopproxy` 設定ファイルに保存されます。プロキシ設定構文の詳細は 334 ページの「ファイアウォールを経由する HTTPS ベース Java GUI 接続を設定する」を参照してください。

たとえば、ポート 8088 で実行中の `proxy.hp.com` プロキシサーバーを経由する、`barney.hp.com` HPOM 管理サーバーへの接続を有効にするには、次のように入力します。

`proxy.hp.com:8088+(barney.hp.com)`

□ なし

この接続にプロキシサーバーを使わない場合は、[なし] を選択します。

□ デフォルト

`ito_op` コマンド行ツールまたは `ito_op_applet.html` アプレットファイルを使ってすでにプロキシサーバーを指定してある場合は、[デフォルト] を選択します。

□ `<proxy_server>`

HPOM 管理サーバーとの接続に使う定義済みの `<proxy_server>` を選択します。

[ログイン] ダイアログボックスでプロキシサーバーを選択すると、その後の HPOM 管理サーバーへの接続にこのプロキシサーバーがデフォルトで使われます。デフォルトのプロキシサーバー設定は、ローカルの `itooopproxy` 設定ファイルに保存されます。

Java GUI に直接アクセスした場合、[ログイン] ダイアログボックスは表示されず、デフォルトのプロキシサーバーが使われます。

Java GUI アプレット用のプロキシサーバーを設定する

アプレットとして実行されている HTTPS ベース Java GUI にプロキシを設定する場合は、管理サーバーで次の手順を実行します。

1. 次のファイルを編集します。

```
/opt/OV/www/htdocs/ito_op/ito_op_applet.html
```

次の行でプロキシ定義を設定します。

```
<PARAM NAME = bbc.http:PROXY VALUE = "proxy_config" >
```

<proxy_config> の詳細は 334 ページの「ファイアウォールを経由する HTTPS ベース Java GUI 接続を設定する」を参照してください。

2. HTTPS ベース Java GUI アプレットを再起動します。

たとえば、ポート 8088 で実行中の proxy.hp.com プロキシサーバーを経由する、barney.hp.com HPOM 管理サーバーへの接続を有効にするには、次のように入力します。

```
<PARAM NAME = bbc.http:PROXY VALUE = "proxy.hp.com:8088+(barney.hp.com)" >
```

コア機能を使ってプロキシサーバーを設定する

コア機能を使ってプロキシサーバーを設定するには、次の操作を行います。

1. コア機能をインストールします。

詳細は 329 ページの「コア機能のインストール」を参照してください。

注記

Java GUI クライアントシステムに HP Operations HTTPS エージェントが存在する場合、コア機能をインストールする必要はありません。コア機能は HPOM エージェントとともにインストールされます。

2. HTTPS ベース Java GUI システムでコア機能を設定します。

- a. 次のように `ovconfchg` コマンドを使って名前空間 `bbc.http` に `PROXY` パラメータを設定します。

```
ovconfchg -ns bbc.http -set PROXY <proxy_config>
```

<proxy_config> の詳細は 334 ページの「ファイアウォールを経由する HTTPS ベース Java GUI 接続を設定する」を参照してください。

たとえば、ポート 8088 で実行中の `proxy.hp.com` プロキシサーバーを経由する、`barney.hp.com` HPOM 管理サーバーへの接続を有効にするには、次のように入力します。

```
ovconfchg -ns bbc.http -set PROXY  
proxy.hp.com:8088+(barney.hp.com)
```

詳細については `ovconfchg(1)` マニュアルページも参照してください。

- b. 起動スクリプト `ito_op(ito_op.bat)` の Java GUI のパラメータ `lcore_defaults` を **yes** に設定します。

日常作業を行う

セキュアな HTTPS ベース Java GUI 通信の設定

3 Service Navigator

この章では

このセクションでは **Service Navigator** とは何か、またどのように機能するかを説明します。

注記

本製品を問題なくデプロイおよび操作するには、基本的な概念の理解が不可欠です。これは特に、ステータス伝達と計算ルールに関するものです。

本書は、知識豊富なシステムおよびネットワーク管理者を対象としており、**HP Operations Manager** の使用経験があることを想定しています。

HP Operations Service Navigator とは？

HP Operations Service Navigator は、HP Operations Manager Java ベースのオペレータ用 GUI の追加コンポーネントです。これを用いると、IT サービスに焦点を合わせて IT 環境を管理できるようになります。

HP Operations Manager では、IT 環境のネットワーク、システムおよびアプリケーションに発生する障害を検出、解決、防止できますが、Service Navigator を使うと、もう一步踏み込むことができます。Service Navigator では、HPOM の発見した障害をユーザーの担当している IT サービスにマップします。ユーザーは、複雑な IT 環境内の 1 つの要素に集中するのではなく、担当する IT サービスに焦点を合わせることで IT 環境を管理できるのです。

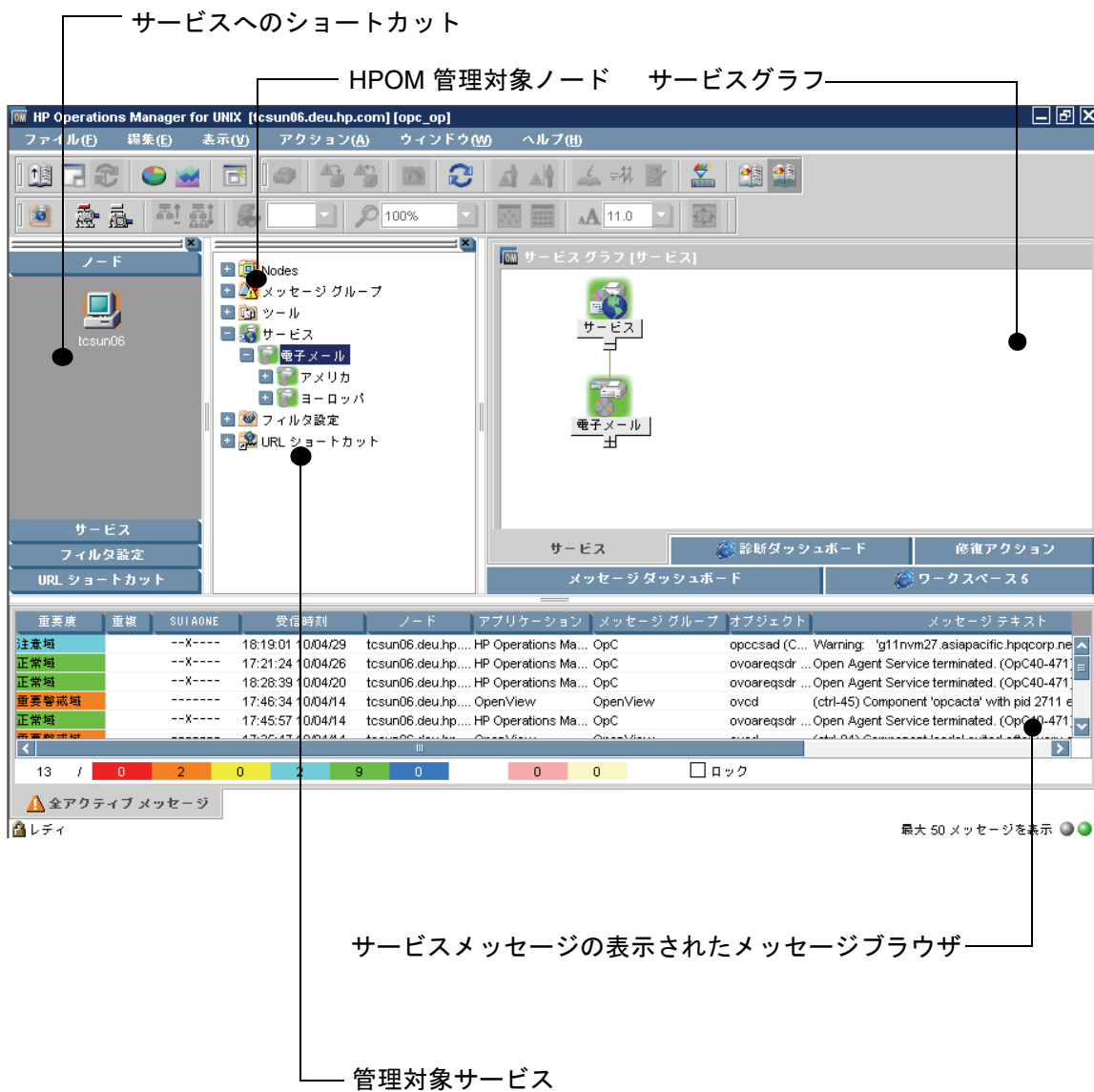
Service Navigator は HPOM に基づいており、HPOM のモニター機能、メッセージ機能、およびアクション機能を利用します。HPOM の管理下にあるオブジェクトに障害が発生すると、この障害に関するメッセージを生成し、関連するエリアを担当しているユーザーに送信します。Service Navigator をインストールし設定済みである場合には、障害の影響を受けるサービスにメッセージをマップし、そのサービスを担当するユーザーに送信します。

障害の重要度ステータスに応じてサービスの重要度ステータスも変わるので、ユーザーは障害状態にあるサービスを簡単に識別できます。サービス関連の障害を解決するために、HPOM は障害解決機能をさらに拡張し、サービス固有の分析とアクションを行えるようにしました。

設定を有効にした場合、Service Navigator では、ステータスの変化がすべてデータベースに記録されますので、サービスの利用可能状況に関するレポートの作成が可能となります。

344 ページの図 3-1 は、Service Navigator のメインウィンドウです。通常の HPOM 管理対象ノードおよびメッセージグループの他に、左側のスコープペインには管理対象サービスが表示されます。右側の内容領域は 2 つのセクションに分かれています。上のセクションにはサービス階層がグラフィカルに表示されます。ここでは各サービスがアイコンで表されます。下のセクションには標準の HPOM メッセージブラウザが表示されます。このブラウザはサービスに関連するメッセージのみを表示するように設定されています。

図 3-1 Service Navigator の GUI



Service Navigator はどのような機能を持つか

Service Navigator を利用すると、サービスに影響を与える重大な障害のほとんどを、サービスのパフォーマンスが悪化する前に特定し、解決することができます。

Service Navigator による障害処理には、次の 2 つの方法があります。

- メッセージブラウザに受信したメッセージを監視する従来の方法。影響を受けるサービスが強調表示され、影響を受けたサービスの検索による分析を実行して、他に影響を受けるサービスを検出します。
- サービス中心のトップダウンアプローチを行います。つまり、サービスグラフを開いて表示されたサービスのステータスを監視し、サービスのステータスが変更されたら、障害原因の分析を実施して障害の原因が存在する場所を検出します。

影響を受けるサービスの分析

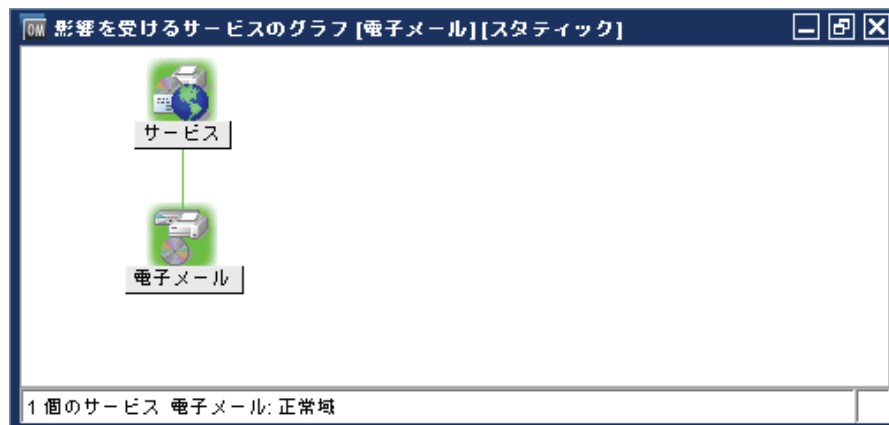
障害原因の分析では、ステータスの変更の原因となったサービスまで、サービス階層を掘り下げていきますが、影響を受けるサービスの検索による分析の場合は、サービス階層を上向きに検索し、ステータスの変更で影響を受ける他のサービスをすべて表示するという異なる方法で実施します。影響の特性は、設定済みのステータス伝達と計算ルールを考慮して判別されます。これにより、オペレータの作業の優先順位が決まります。たとえば、最も影響をおよぼす障害、業務サービスおよび多数のユーザーに重大な影響を与え、最初に解決すべき障害を特定することができます。影響を受けるサービスの検索による分析を使用すると、重要な業務サービスが影響を受けるかどうかを特定できます。

346 ページの図 3-2 では、下位サービス [更新] の重要度が**重要警戒域**となり、[キューの表示] および [プロセス] サービスが影響を受けています。両サービスとも、[更新] に関係する障害の影響を受けています。サービス影響グラフは、障害原因グラフ同様に静的なために更新されませんが、サービスのステータスはそのステータスが生成された時点で表示されます。

影響分析はメッセージに対しても使用できます。ブラウザからメッセージを選択して、[影響を受けるサービスを検索] をクリックします。スコープペインのサービスツリーでは、影響を受けるサービスが強調表示されます。

影響分析ではマイナスの影響のみが考慮されます。つまり「良い」ステータスから「悪い」ステータス、たとえば重要警戒域から危険域へのステータス変更が考慮され、危険域から重要警戒域は考慮されないので注意してください。これは、影響グラフが必ずしも最高位レベルのサービスを表示するわけではなく、最後に影響を受けた場所で停止することを意味します。

図 3-2 影響を受けるサービスの検索による分析



障害原因の分析

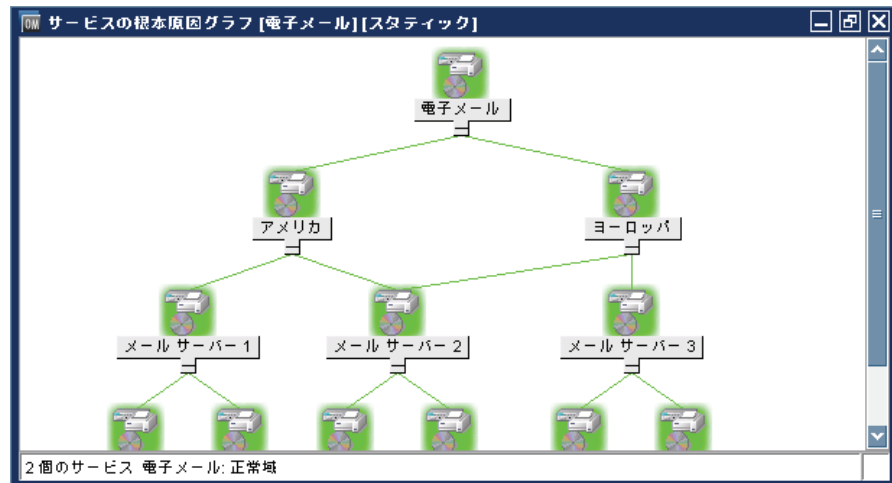
多くの階層レベルを持つサービス階層では、サービスの持つ重要度のステータスの原因を判断するのが難しい場合があります（危険域に変わったのは、危険域のメッセージが原因か、危険域の下位サービスが原因か、それとも影響を受けた下位サービスが複数あるためか、など）。

Service Navigator は障害原因の分析を実施することで、こういった疑問に対応します。対象となるサービスのアイコンを強調表示して、[障害原因を検索]を選択またはクリックします。その後新規ウィンドウが開き、選択したサービスとそのステータスに影響を与えている他のすべての下位サービスが表示されます。

障害原因の分析ではトップダウンの調査を行います。障害の原因がある階層レベルで停止します。停止したレベルの下にもさらに分岐やレベルが存在する場合がありますが、それらのレベルのサービスが障害の原因となっていないければ表示されませんので注意してください。

障害原因グラフの例は 347 ページの図 3-3 を参照してください。障害原因グラフは静的なために更新されませんが、サービスのステータスはそのステータスが生成された時点で表示されます。

図 3-3 障害原因の検索による分析



Service Navigator はどのように機能するか

Service Navigator では、サービスを階層構造にして扱います。Service Navigator を使うと、IT 環境内のサービスに関連した管理対象オブジェクト間の相互関係と依存関係を反映した階層を構築できます。

次のセクションでは、サービス階層の概念とサービスが下位サービスに論理的に関係する方法について説明します。351 ページの「サービスのステータスとは？」では、ステータス重要度に関するサービスと下位サービスの関係の動的な側面を説明します。

サービス階層とは？

サービス階層は、準備するサービスの論理的な組織であり、各上位レベルの対象は、すぐ下のレベルよりも広範またはより一般的なサービス領域となります。

階層内のサービス間の関係には、次の 2 つのタイプがあります。

□ 専有

サービスの専有とは、サービスが他のサービスの一部となり、その中で定義されていることを表します。専有されるサービスは、そのサービスを専有するサービスがない場合は作成できません。1 つのサービスは複数の下位サービスを専有することができます。

□ 共有

あるサービスが他のサービスで専有されているが、同時に別のサービスでも使われたり、参照されている関係です。共有されるサービスは、共有する側のサービスがなくても作成することができます。共有する側のサービスは共有されるサービスに依存します。

ステータス伝達および計算の目的では、サービスが他のサービスに専有されているか、または他のサービスで共有されているかどうかは重要ではありません。ただし、サービスの定義を行えるのは 1 回だけですが、共有や専有は複数回行えますので注意してください。

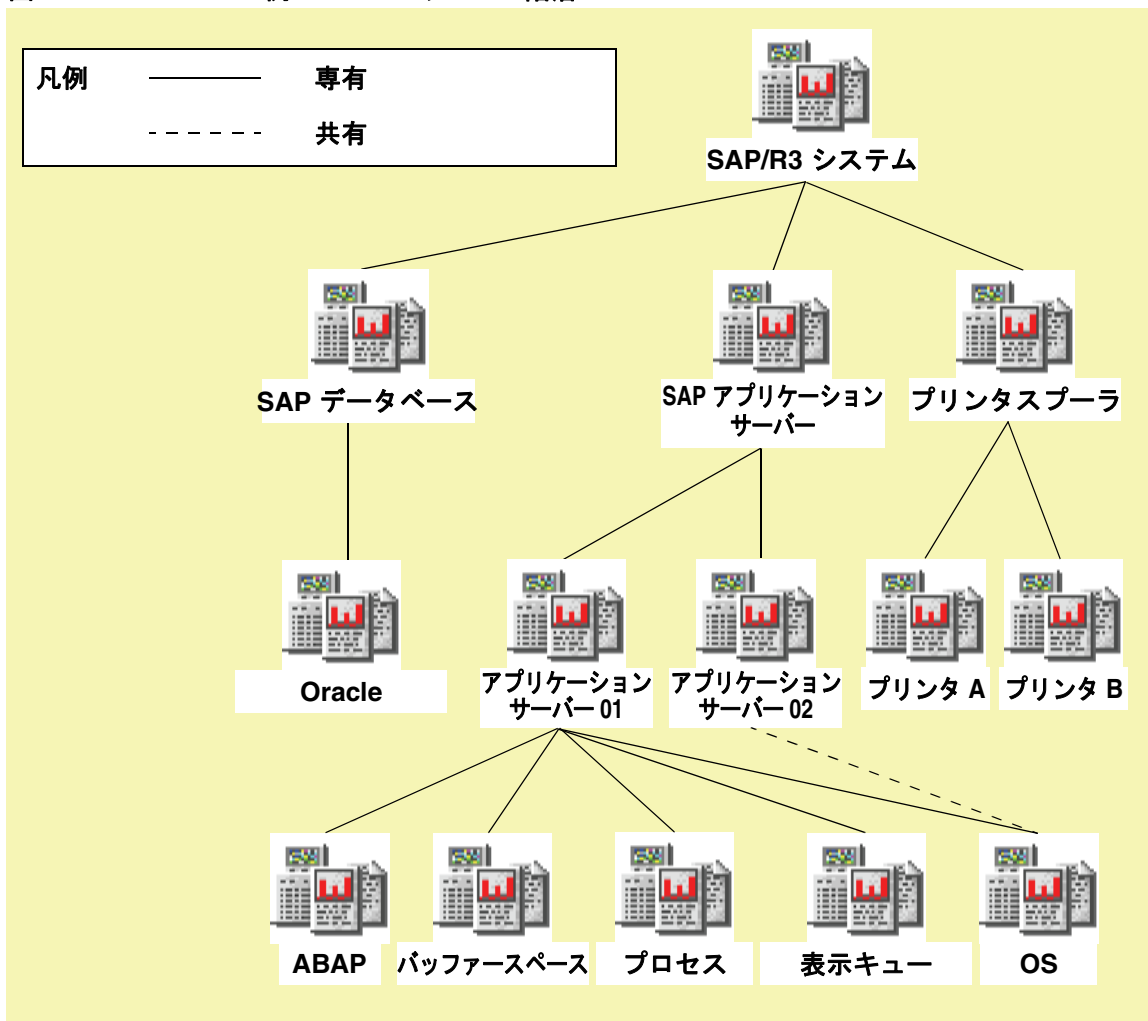
Service Navigator で設定できる階層レベルは最大で 256 です。

SAP/R3 システムのサービス階層の例は 350 ページの図 3-4 を参照してください。SAP/R3 サービスには、SAP データベースサーバーやアプリケーションサーバーのコンポーネント、プリンタスプーラが含まれます。各下位サービスはさらに多くの要素に分割されます。下位サービスとその要素が SAP/R3 サービス階層を構築します。サービス間の関係 (アプリケーションサーバー 02 とその下位サービスの関係を除く) は専有タイプです。アプリケーションサーバー 02 は、アプリケーションサーバー 01 に専有されている下位サービスを共有しています。

Service Navigator はどのように機能するか

HPOM ではサービスが他の下位サービスを共有できるため、サービス階層ごとに個別の下位サービスを設定する必要はありません。たとえば、SAP/R3 アプリケーションサーバー上でオペレーティングシステムを監視するといった一般的なサービスを設定しておけば、SAP/R3 アプリケーションサーバーの監視を担当する他のサービス階層で共有できます。

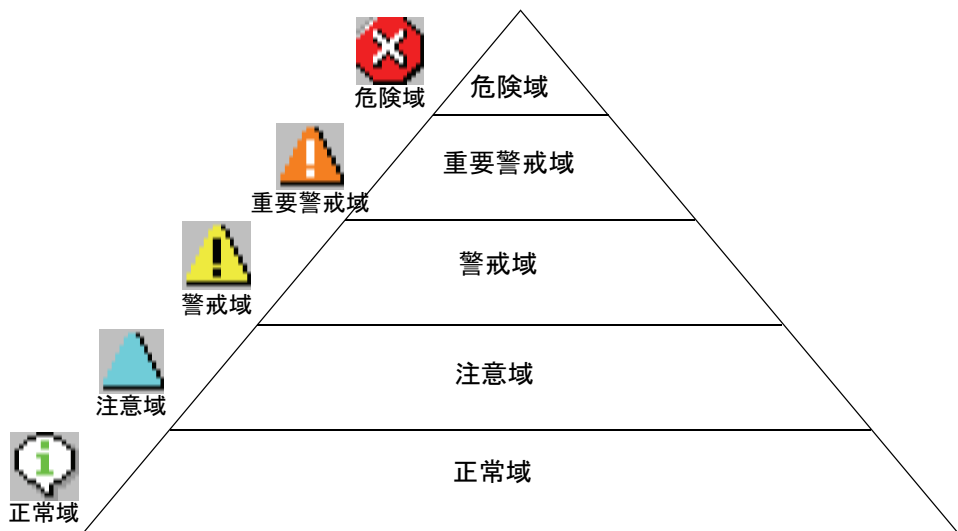
図 3-4 例：SAP/R3 サービス階層



サービスのステータスとは？

サービスのステータスとは、サービスの現在の運用ステータスです。ステータスは色付きで表示され、それぞれの色が現在の状態の重要度を表します。たとえば、赤色は危険域の障害状況を意味します。HPOM の重要度のステータスモデルを図解した図 3-5 も参照してください。

図 3-5 HPOM における重要度のピラミッド



サービスは複数の下位サービスを専有または共有し、各下位サービスも他の下位サービスを専有または共有するため、サービスの重要度のステータスはそのサービスをターゲットとするメッセージの重要度のステータスだけでなく、すぐ下のサービスの重要度のステータスを基に決定および計算する必要があります。

これは、ステータス伝達と計算ルールに基づいて実行されます。これらのルールでは下位サービスに対するサービスの関係を定義し、他のサービスのそれぞれの重要度のステータスをどのように解釈するかを決めます。ステータスルールは、サービス設定ファイルで定義されます。詳細は、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

Service Navigator はどのように機能するか

たとえば、あるサービスが 2 つの下位サービスを専有し、一方の重要度ステータスが危険域、もう一方が正常域であるとします。サービスはこれらの重要度をそのまま解釈します。危険域の方が正常域よりも深刻であるため、自身の重要度のステータスは危険域に設定します。

しかし、**Service Navigator** では、サービスによる他の重要度のステータスの解釈方法についてはより柔軟性が高くなっています。たとえば、ある下位サービスがもう一方の下位サービスよりも重要性が低い場合、その下位サービスでの障害はもう一方の下位サービスにおける障害よりもサービスに与える影響が小さくなります。このような場合、一方の下位サービスの重要度のステータスを低くし、もう一方の下位サービスの重要度のステータスを高くしておけば便利です。これは、サービスと下位サービスの間に異なる**ステータス伝達ルール**を適用することで定義します。

353 ページの「ステータス伝達ルール」も参照してください。

また、**ステータス計算ルール**では、ステータス伝達ルールを適用した後の下位サービスの重要度のステータスからサービス自身の重要度のステータスを計算する方法を定義します。上記の例では、下位サービスの 1 つが危険域であるために、サービス自身の重要度ステータスも危険域と設定しました。これは、ステータス計算ルール**最危険**の適用になります。ただし、356 ページの「ステータス計算ルール」に説明があるように、他のルールを定義することもできます。

また、ステータス計算の目的で**重み係数**を追加すれば、あるサービスの重要性を別のサービスよりも高く設定することができます。詳細は 358 ページの「重み付け」のセクションを参照してください。

ステータス伝達ルール

ステータス伝達ルールでは、サービス側における下位サービスの重要度の判断方法を定義します。2つのサービス間の関係は、次のいずれかになります。

増加：より重要な下位サービス、つまり、その重要度のステータスが1つ上のサービスに対して同じ階層レベルにある他の下位サービスよりも大きな影響を持つと考えられる場合、その重要度のステータスを1レベル引き上げます。

たとえば、下位サービスの重要度のステータスが警戒域で、ステータス伝達が増加と定義されている場合、その重要度のステータスは警戒域から重要警戒域に引き上げられます。

変更なし：下位サービスの重要度ステータスは変更されずに伝達されます。デフォルトの設定です。

たとえば、下位サービスの重要度ステータスが正常域であれば、サービス側でも正常域と解釈します。

減少：重要度の低い下位サービス、つまりその重要度のステータスが1つ上のサービスに対して同じ階層レベルにある他の下位サービスよりも大きな影響を持つと考えられる場合、その重要度のステータスを1レベル引き下げます。

たとえば、下位サービスの重要度のステータスが危険域で、ステータス伝達が減少と定義されている場合、その重要度のステータスは危険域から重要警戒域に引き下げられます。

無視：下位サービスの重要度ステータスはサービスに影響を与えません。伝達が発生しません。

指定：下位サービスの重要度を特定の重要度に設定します。新しい重要度のステータスは、元のステータスよりも高いもの、または低いものに設定可能です。

たとえば、下位サービスの重要度を常に危険域に設定しておくこともできます。

選択したステータス伝達ルールによるサービスのステータスへの影響については 355 ページの図 3-6 を参照してください。この例では、下位サービス ABAP およびバッファースペースは、下位サービスプロセスおよびキュー表示よりも重要度が高いと解釈されています。つまり、前者の重要度ステータスは高くなり、後者の重要度ステータスは低くなっています。サービスアプリケーションサーバーには、修正後の正しい実際の状況が表示されています。

ステータス伝達ルールは、次の 2 つの方法で設定可能です。

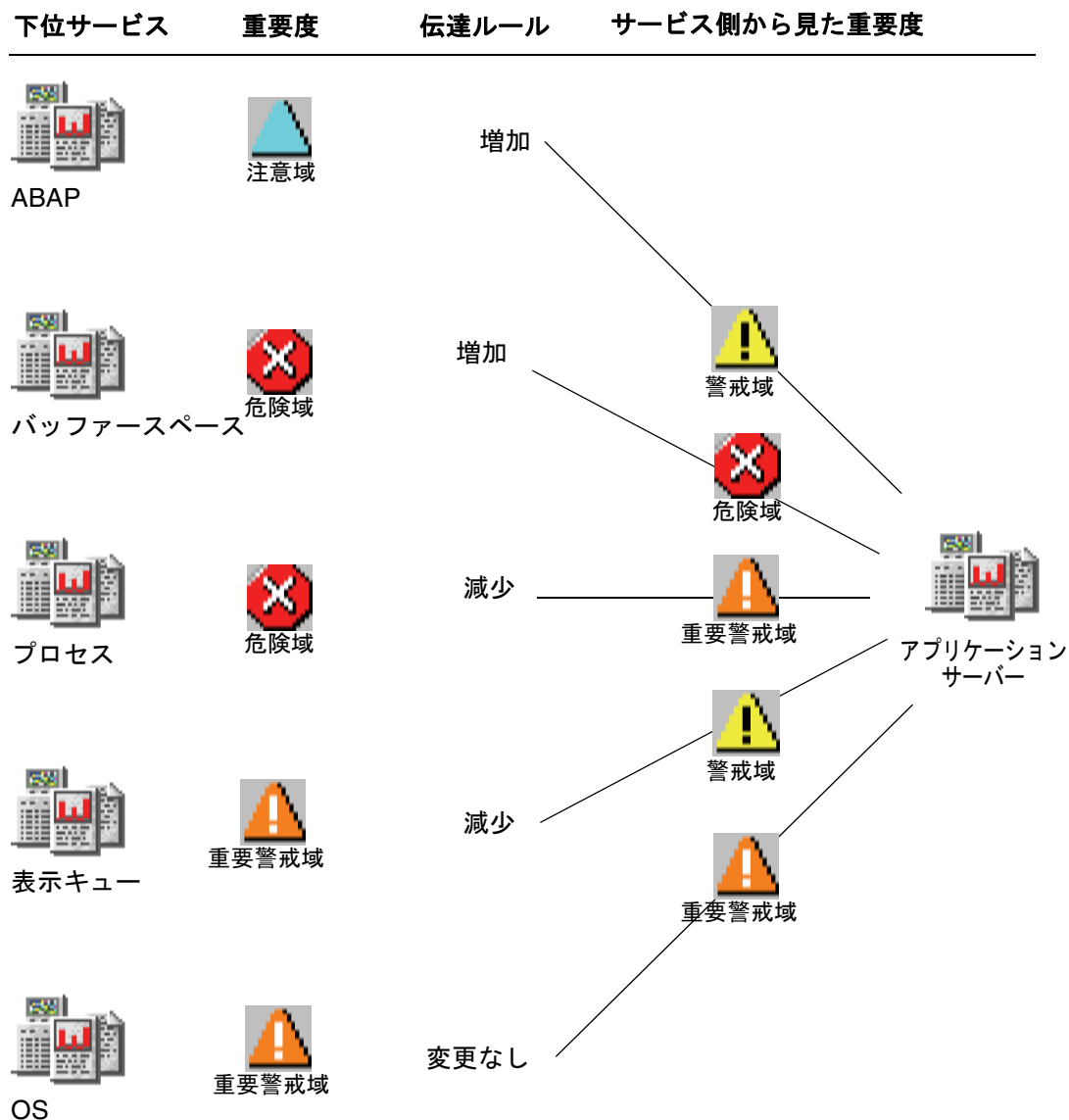
□ **デフォルト伝達属性**

たとえば、下位サービスの重要度は常に増加させるというように、デフォルト伝達属性を適用します。

□ **重要度ごとの伝達属性**

重要度ごとの伝達属性が適用されます。たとえば、正常域の重要度は常に無視し、注意域の重要度を常に増加させるというように、下位サービスの重要度に応じて、特定の伝達ルールが適用されます。

図 3-6 例：ステータス伝達ルール



ステータス計算ルール

ステータス計算ルールでは、下位サービスおよびサービスを直接ターゲットとしたメッセージの重要度に基づいたサービスの重要度を計算するための公式を定義します。計算ルールでは、サービス間の関係の動きをモデル化します。たとえば、計算ルールを選択すれば、サービスの重要度の決定要因（下位サービスの最も高い重要度か、下位サービスの重要度の最高平均か）を設定できます。

考え方としては、しきい値を設定し、そのしきい値を超過したらサービスのステータスが変更されるということになります。サービス側では、最初にしきい値を超過した下位サービスまたはメッセージのステータスが採用されます。

次のステータス計算ルールが使用できます。

最危険：サービス側では、下位サービスの最も高い重要度のステータスが採用されます。絶対しきい値は **0** に設定されています（これは単一しきい値ルールの特殊なケースです）。

最危険ルールは最悪のシナリオをモデル化します。つまり、下位サービスの最も高い重要度が「採用」されます。

単一しきい値：しきい値を頻繁に超過する下位サービスの最も高い重要度がサービスの重要度となります（これは、同一のしきい値をすべての重要度に対して定義する、複数しきい値ルールの特殊なケースです）。

単一しきい値ルールでは、すべての下位サービス最高平均が計算され、これがサービスの重要度に採用されます。

複数しきい値：単一しきい値と同じ考え方ですが、正常域を除く各重要度に対して個々にしきい値を設定できます。

注記

1つの重要度に対して複数のしきい値を指定することはできません。複数のしきい値を指定すると、最後に指定したしきい値のみが有効となります。






たとえば、複数しきい値ルールでは、少数の重大な障害の重要度を、重要度の低い多数の障害よりも高く設定できます。

しきい値は絶対値またはパーセントで定義できます。サービス設定ファイルに相対的なしきい値を指定する際に使用するパーセンテージの形式については、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

しきい値と比較する値を計算する際には、下位サービスの重要度とそれよりも低い重要度が重視されます。たとえば、下位サービスの重要度ステータスが危険域であれば、重要警戒域、警戒域、注意域および正常域も重視されます。351 ページの図 3-5 も参照してください。

表 3-1 には、図 3-6 の各下位サービスおよび各メッセージの重要度の計算方法が詳述されています。最初のカラムにはすべての下位サービスとメッセージが一覧表示してあります。次のカラムは、サービス側で解釈された各下位サービスの重要度のステータスを表します。これは、前のセクションで説明のあったステータス伝達ルールによって決まります。残りのカラムでは下位サービスの重要度との比較を行います。一致する場合は **1** が、一致しない場合は **0** を入力します。一致する下位サービスのより低い重要度についても、それぞれ **1** を入力します。

表 3-1 例：ステータス計算シナリオ

下位サービス	サービスアプリケーションサーバーで解釈された重要度	 危険域	 重要警戒域	 警戒域	 注意域	 正常域
ABAP	警戒域	0	0	1	1	1
バッファースペース	危険域	1	1	1	1	1
プロセス	重要警戒域	0	1	1	1	1
表示キュー	警戒域	0	0	1	1	1
OS	重要警戒域	0	1	1	1	1
アプリケーションサーバーをターゲットとするメッセージ：重要度 警戒域 ^a		0	0	1	1	1
	合計	1 (16%)	3 (50%)	6 (100%)	6 (100%)	6 (100%)

- a. サービスを直接ターゲットとするメッセージはエンティティであると見なされます。つまり、最も高い重要度を持つメッセージはサービスに影響を与えます。

例では、サービスアプリケーションサーバーは、下位サービス ABAP の重要度を警戒域と解釈します。ABAP の元の重要度は注意域ですが、関係は増加と定義されています。したがって、正常域のステータスは警戒域に引き上げられます(図 3-6 も参照)。警戒域と警戒域が一致するカラムには **1** を入力し、後続のより低い重要度、この場合は注意域と正常域にも **1** を入力します。

すべての下位サービスに以上の作業を実行したら、各カラムを計算し、重要度ごとに合計します。

ステータス計算ルールおよび選択したしきい値に応じて、サービスアプリケーションサーバー側で重要度を変更されます。たとえば、次のいずれかが設定されているような場合です。

- ❑ 最危険: サービス側では、下位サービスおよびメッセージの中で最も高い重要度(危険域)が採用されるため、サービスは危険域に変更されます。
- ❑ 単一しきい値 50%: サービス側では、最初にしきい値の 50% を超過した重要度が採用されるため、サービスは重要警戒域に変更されます。このケースでは、重要度の重要警戒域が 50% となっているため、最初にしきい値の 50% を超過した重要度となります。
- ❑ 複数しきい値:
 - 危険域のしきい値は 15%
 - 重要警戒域のしきい値は 50%
 - 警戒域のしきい値は 60%
 - 注意域のしきい値は 70%

最初に超過したしきい値が 15% であるため(危険域)、サービス側は危険域に変更されます。

正常域は最も低い重要度であるために、正常域のしきい値を指定する必要はありません。

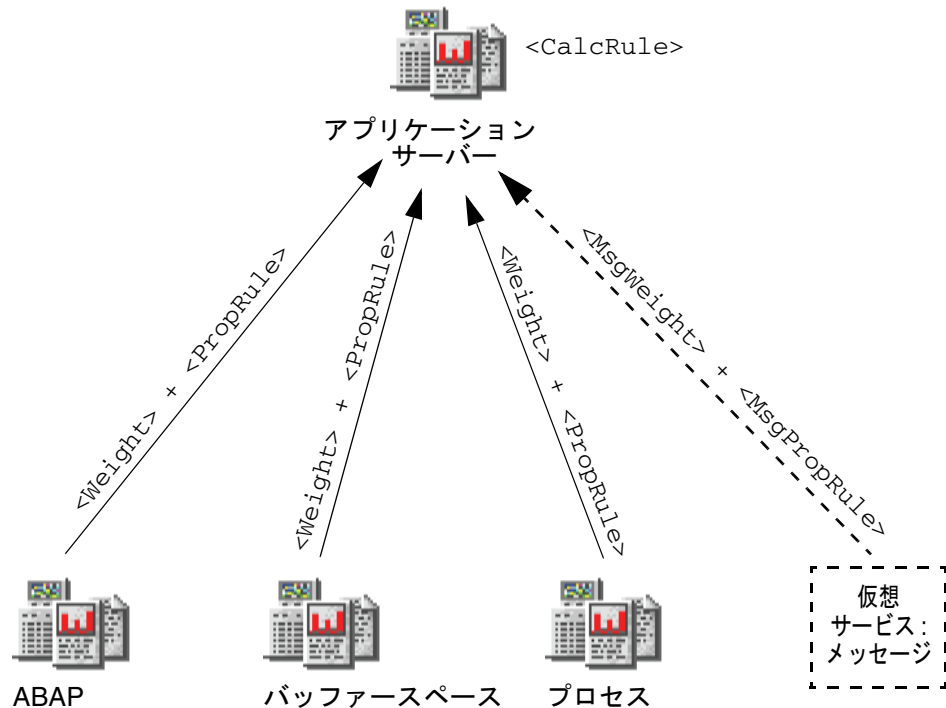
重み付け

重み付けを利用すれば、下位サービスに係数を関連付けることができます。重み付けを行うには、サービス設定ファイルにサービスを定義する際に、<Weight> タグを指定します。この下位サービスは他のすべての下位サービスよりも重み付けされ、その結果、重み係数なしでステータス計算される下位サービスとは異なります。<Weight> は、**10** 進数で設定できます。

また、サービスを直接ターゲットとするメッセージにも重み係数を追加できます。タグは `<MsgWeight>` で、サービス設定ファイルにサービスを定義する際に指定します。`<MsgWeight>` は、10 進数で設定できます。360 ページの図 3-7 は、サービスを直接ターゲットとするメッセージがどのようにサービスのステータスに影響を与えるかを解説しています。これらのメッセージは、「仮想メッセージサービス」と表示される場合もあります。

また、360 ページの図 3-7 は、`<Weight>` (または `<MsgWeight>`) と `<PropRule>` (または `<MsgPropRule>`) の両方を考慮したサービスの計算ルールを表しています。

図 3-7 仮想メッセージサービス



たとえば、下位サービス OS の重みを 1 (すべての下位サービスのデフォルト) ではなく 2 と定義すると、サービスのステータスが計算される際に OS により重み付けされます。ただし、重みは絶対値ではなく、すべての下位サービスとメッセージの割合として考えられます。**Service Navigator** では、次の公式を使用して係数を計算します。

$$\text{重み係数} = \frac{\text{下位サービス / メッセージの比}}{\text{すべての下位サービス / メッセージの係数の合計}}$$

次の例では、OS には係数 2 が、他のすべての下位サービスにはデフォルトの係数 1 が付与されています。また、サービスを直接ターゲットとするメッセージはメッセージ係数 2 で重み付けされています。すべての係数の合計は 8 です。よって、上記の公式に従うと、ABAP の重み係数は $1/8 = 0.125$ 、OS の重み係数は $2/8 = 0.25$ となります。メッセージの重み係数は $2/8 = 0.25$ です。表 3-1 も参照してください。






表 3-2 例：重み係数の計算

下位サービス	重み	係数
ABAP	1	0.125
バッファースペース	1	0.125
プロセス	1	0.125
表示キュー	1	0.125
OS	2	0.25
メッセージ	2	0.25
合計	8	1

Service Navigator はどのように機能するか

サービスのステータスの計算では各重要度が係数で乗算され、次のような結果になります。表 3-3 を参照してください。

表 3-3 例：係数により修正したステータス計算

下位サービス	サービスアプリケーションサーバーで解釈された重要度	係数による乗算	 危険域	 重要警戒域	 警戒域	 注意域	 正常域
ABAP	警戒域	0.125	0	0	0.125	0.125	0.125
バッファースペース	危険域	0.125	0.125	0.125	0.125	0.125	0.125
プロセス	重要警戒域	0.125	0	0.125	0.125	0.125	0.125
表示キュー	警戒域	0.125	0	0	0.125	0.125	0.125
OS	重要警戒域	0.25	0	0.25	0.25	0.25	0.25
アプリケーションサーバーをターゲットとするメッセージ：重要度 警戒域 ^a		0.25	0	0	0.25	0.25	0.25
合計		1	0.125 (12%)	0.50 (50%)	1 (100%)	1 (100%)	1 (100%)

- a. サービスを直接ターゲットとするメッセージはエンティティであると見なされます。つまり、最も高い重要度を持つメッセージはサービスに影響を与えます。

357 ページの表 3-1 の結果と比較してみると、重み付けされた下位サービス OS と重み付けされたメッセージが全体のステータス計算に影響をおよぼしていることがわかります。次のいずれかが設定されているような場合です。

- 最危険：サービス側では、下位サービスの中で最も高い重要度（危険域）が採用されるため、サービスは危険域に変更されます。

ただ、下位サービスとメッセージの中で危険域が依然として最も高い重要度であるため、重み係数のない例（355 ページの「例：ステータス伝達ルール」）との差異は生じません。

- 単一しきい値 50%：サービス側では、最初にしきい値の 50% を超過した重要度が採用されるため、サービスは重要警戒域に変更されます。このケースでは、重要度の重要警戒域が 50% となっているため、最初にしきい値の 50% を超過した重要度となります。

しきい値を最初に超過したのが重要警戒域であるため、重み係数のない例（355 ページの「例：ステータス伝達ルール」）と変わりません。

- 複数しきい値：

- 危険域のしきい値は 15%
- 重要警戒域のしきい値は 50%
- 警戒域のしきい値は 60%
- 注意域のしきい値は 70%

最初に超過したしきい値が 50% であるため（重要警戒域）、サービス側は重要警戒域に変更されます。本例が、重み係数のない例（355 ページの「例：ステータス伝達ルール」）と異なる点は、しきい値を超過したのが危険域ではなく重要警戒域である点です。そのため、サービスが採用する重要度は危険域ではなく重要警戒域となります。

正常域は最も低い重要度であるために、正常域のしきい値を指定する必要はありません。

サービス複数ステータス計算ビュー

サービスステータスは、356 ページの「ステータス計算ルール」に説明があるように、サービスの重要度を計算する公式の結果です。サービスの重要度は、サービスとサービスをターゲットとするメッセージの間の関係に依存します。ただし、サービスをターゲットとするメッセージの所有権に基づくステータスもサービスに反映されます。

次の 2 つのステータス計算ビューでは、表示されるサービスのモニターや作業が可能です。

□ Overall

アクティブメッセージブラウザ内のすべてのメッセージに基づくサービスステータス計算ビュー

□ Operational

アクティブメッセージブラウザ内のすべての所有されていないメッセージに基づくサービスステータス計算ビュー

これら 2 つのビューの違いは次のようになります。たとえば、**危険域**の重要度を持つメッセージがサービスをターゲットしていると、色は赤になります。よって、サービス階層の上位にあるすべてのサービスの色は、設定された伝達ルールに従って変化します。

Overall ステータス計算ビューには、ターゲットとするメッセージの所有権ステータスに関係なく、同様の方式でサービスが表示されます。この例では、これらのサービスの色は赤になります。また、オブジェクトペイン、サービスグラフまたはマップ、ショートカットバーでも同様の表示となり、これらのサービスを含むノードも赤色になります。

メッセージの所有権を持っている場合は、サービスの重要度はメッセージを受諾するまで変更されません。

ステータス計算ビューが Operational に設定され、かつメッセージの所有権を持っている場合は、ターゲットとなるサービスとすべての従属サービスの重要度は、メッセージが到着する前の重要度に戻ります。

サービス複数ステータス計算ビューのメリットは、サービスをターゲットとするメッセージが受諾された際の（つまり、障害が解決された際の）サービス階層のロックを把握できることです。

これは、図 3-8 にあるように、特に両方のビューで同時にサービスをモニターしている場合に大変便利です。

図 3-8 サービスステータス計算ビュー

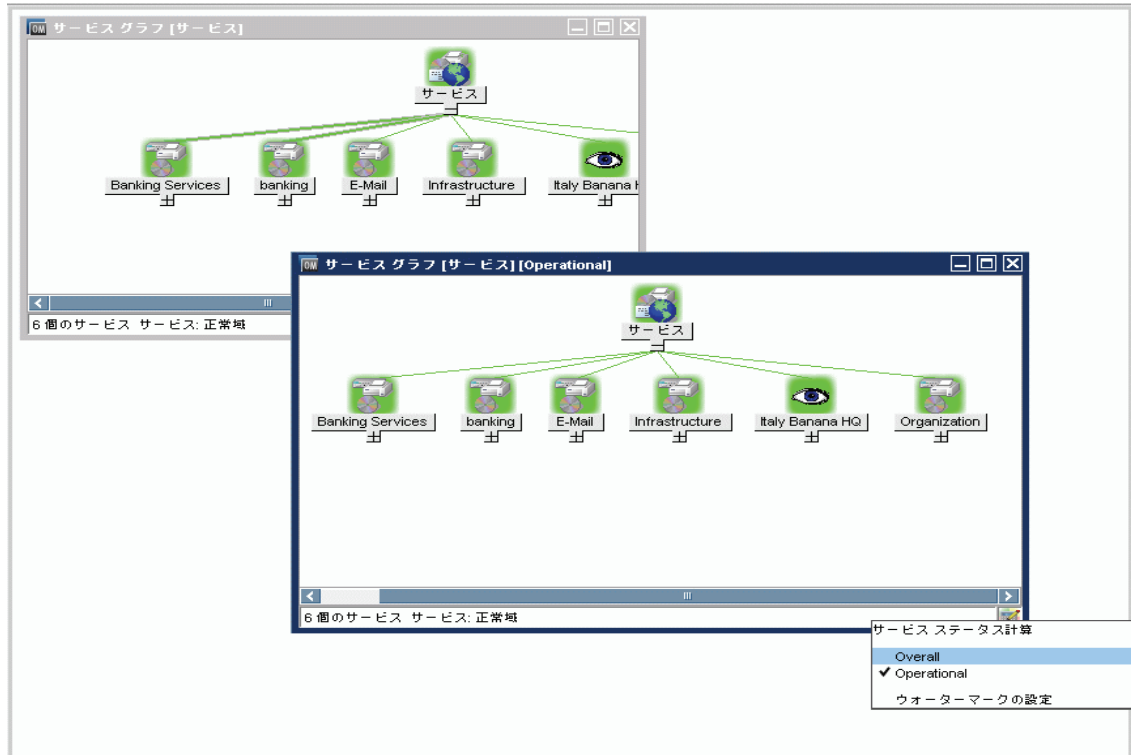


図 3-8 には、Overall と Operational の両方のステータス計算ビューが表示されています。Operational ステータス計算ビューを表すサービスグラフには、現在表示されているビューがウィンドウのタイトルバーに明示されます。さらに、右下隅には、現在設定されているビューが Operational であることを示すアイコンが表示されます。

注記

Java GUI を使用しなくても、サービス複数ステータス計算の変化をモニターできます。サードパーティ製のクライアントにステータスの変更を統合できます。詳細は、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

サービスステータス計算ビューの設定

サービスステータス計算ビューは、次の方法で設定します。

❑ **ovconfchg** 設定ファイルで (デフォルトビューの有効化と設定)

サービスステータス計算ビューの有効化および設定は、**HPOM** 管理者が **ovconfchg** 設定ファイルで行います。また **HPOM** 管理者はグローバルデフォルト計算ビューを指定します。これは **Service Navigator** を起動させるたびに表示されるビューです。サービスステータス計算ビューの名前を変更することもできます。詳細は、『**HPOM** システム管理リファレンスガイド』を参照してください。

❑ **[表示設定] ダイアログボックス**で (デフォルトビューの設定)

ステータス計算ビューの設定は **HPOM** 管理者が行いますが、すべての設定を受け入れる必要はありません。**ovconfchg** 設定ファイルで複数のビューが有効化されていれば、自らのカスタムステータス計算ビューを設定できます。設定を行うには、**[表示設定] ダイアログ**の**[サービス]**タブでステータス計算ビューを選択します。**[表示設定] ダイアログボックス**の詳細は **547** ページの「**[表示設定] ダイアログボックス**」を参照してください。

❑ **[計算] ツールバーのドロップダウンリスト**から (現在アクティブなサービスグラフまたはマップのみ)

ツールバーリストを使用して設定するサービスステータス計算ビューは、現在アクティブなサービスグラフまたはマップ内で表示されますが、オブジェクトペインまたはショートカットバー内のデフォルトの計算ビューは変更されません。アクティブなサービスグラフまたはマップがない場合、**[計算] ドロップダウンリスト**は使用できません。

[計算] ドロップダウンリストの詳細は **459** ページの「**ツールバーアイコンとドロップダウンリスト**」を参照してください。

重要

Java GUI を再起動するとサービスグラフおよびマップに対するこれらの変更は失われ、デフォルトのステータス計算ビューにリセットされます。

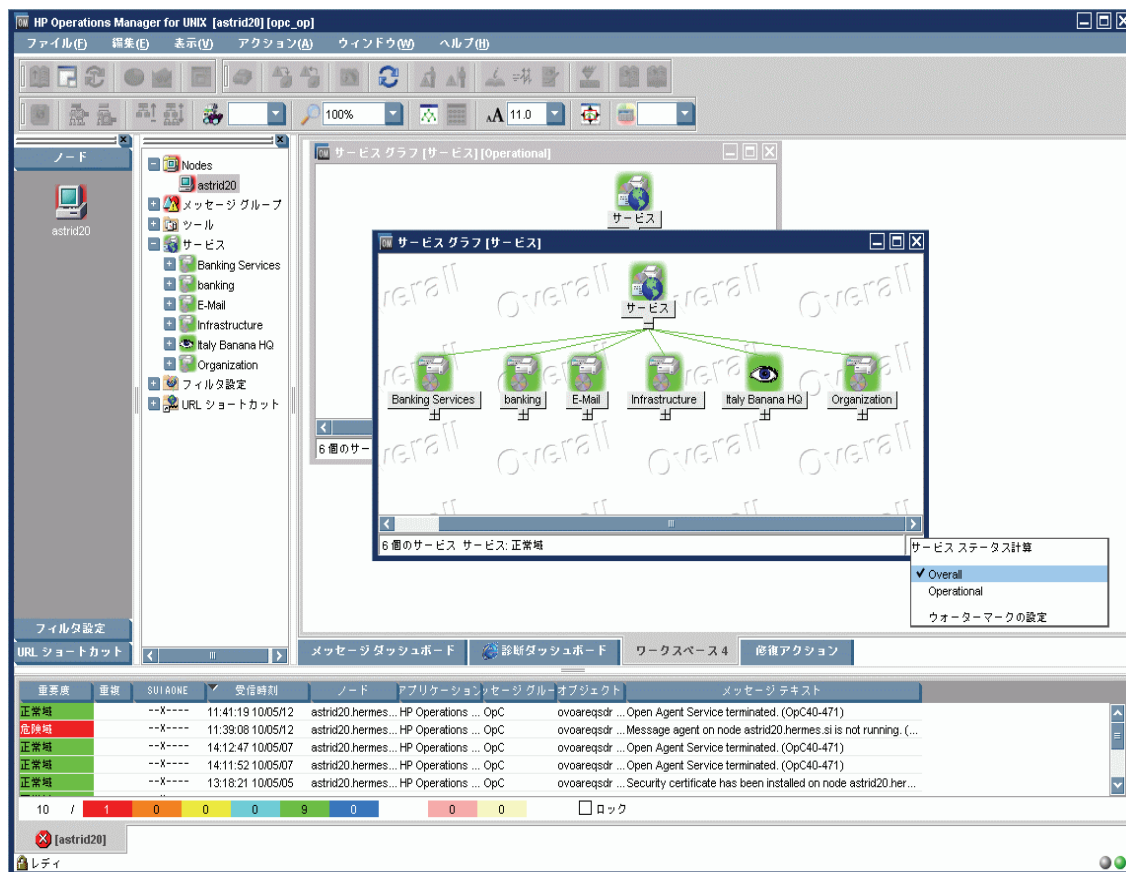
- サービスグラフまたはマップのポップアップメニューから（現在アクティブなサービスグラフまたはマップのみ）

ツールバーの [計算] ドロップダウンリストの代替りとなるもので、サービスツールバーが非表示の際に使用できます。サービスグラフまたはマップのポップアップメニューを使用して設定されるサービスステータス計算ビューは、現在アクティブなサービスグラフまたはマップ内で表示されますが、オブジェクトペイン内のデフォルトの計算ビューは変更されません。[計算] ドロップダウンリストと同様に、Java GUI の再起動時にデフォルト計算ビューにリセットされます。

サービス グラフ/マップへのウォーターマークの設定

2つのサービスステータス計算ビューを簡単に識別できるように、任意のステータス計算ビュー用のサービスグラフまたはマップにウォーターマークを設定することができます。ウォーターマークとは、サービスグラフまたはサービスマップの背景に表示されるテキストのことです。図 3-9 は、Overall ステータス計算ビューのカスタムウォーターマークの例です。

図 3-9 Overall ステータス計算ビューのウォーターマーク



[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログボックスでは、任意の計算ビューのウォーターマークの有効化およびカスタマイズが可能です。ダイアログボックスには次のいずれかの方法でアクセスします。

□ [表示設定] ダイアログボックスから

[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログボックスを開くには、[表示設定] ダイアログボックスの [サービス] タブにある [詳細] ボタンをクリックします。[表示設定] および [ウォーターマークの詳細設定] ダイアログボックスの詳細は 547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」および 564 ページの「[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログボックス」を参照してください。

□ サービスグラフまたはマップのポップアップメニューから

[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログを開くには、[サービスステータス計算] ポップアップメニューから [ウォーターマークの設定] オプションを選択します。ポップアップメニューはサービスグラフまたはサービスマップの下部右隅を右クリックしてアクセスします。[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログボックスの詳細は 564 ページの「[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログボックス」を参照してください。

カスタマイズしたウォーターマークの表示 / 非表示

サービスグラフおよびサービスマップにカスタマイズ済みの 1 つまたは複数のウォーターマークを表示 / 非表示するには、[表示設定] ダイアログボックスの [サービス] タブにある [サービス グラフとマップにウォーターマークを表示する] オプションを使用します。

[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログボックスで、少なくとも 1 つのステータス計算ビューに対してウォーターマークを有効にすると、このチェックボックスは自動的に選択されます。また、[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログで、両方のステータス計算ビューに対してウォーターマークを無効にすると、[サービス グラフとマップにウォーターマークを表示する] チェックボックスは、自動的に選択解除されます。

[表示設定] および [ウォーターマークの詳細設定] ダイアログボックスの詳細は 547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」および 564 ページの「[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログボックス」を参照してください。

HPOM でメッセージをサービスにマップする方法

HPOM は、イベントの結果または管理対象ノード上のステータス変更に対して、メッセージを生成します。イベントが事前に定義されたフィルター (HPOM メッセージ条件) に一致する場合、メッセージを生成して形式を整え、担当ユーザーに送信します。イベントがフィルターに一致しない場合は、イベントを無視します。

メッセージに属性を付加すると、フォーマット処理を行います。属性とは、たとえば、イベントを発生させたノードまたはアプリケーション、影響を受けたオブジェクト、メッセージのメッセージグループなどです。

Service Navigator では、管理者は追加属性として**サービス名**をメッセージに付加できます。管理対象オブジェクトにイベントが発生し、このイベントがフィルターの基準に一致する場合は、**HPOM** はメッセージを生成し、このメッセージに属性としてサービス名を付加します。そしてメッセージのサービス名を階層にあるサービス名と比較します。メッセージのサービス名が階層のサービス名と一致する場合、メッセージはサービスに割り当てられたユーザーの **GUI** に送信されます。

サービスとサービスメッセージの比較は、メッセージを生成するノード上または管理サーバー上で行うことができます。これは、**HPOM** 管理者がどのようにシステムを設定しているかによります。

メッセージをサービスにマップする場合、最初に障害が何なのか、次にどのサービスが影響を受けるかを考慮してからサービス名を設定する必要があります。

サービス名は、`opcmsg(1)` パラメータを使用しても設定できます。

例:

```
/opt/OV/bin/OpC/opcmsg application=appl \  
object=obj msg_text=msg_text service_id=service_id
```

詳細は *opcmsg(1)* マンページを参照してください。

サービスへの名前の付与は、サービスを設定ファイルに定義する際に行います。サービス名は各サービスに一意のものとしします。そうすることで **HPOM** 側でサービスを識別し、該当のサービスにメッセージをマップできるようになります。サービス名は **HPOM** 変数を含むことができ、**HPOM** のパターンマッチングメカニズムを利用できます。

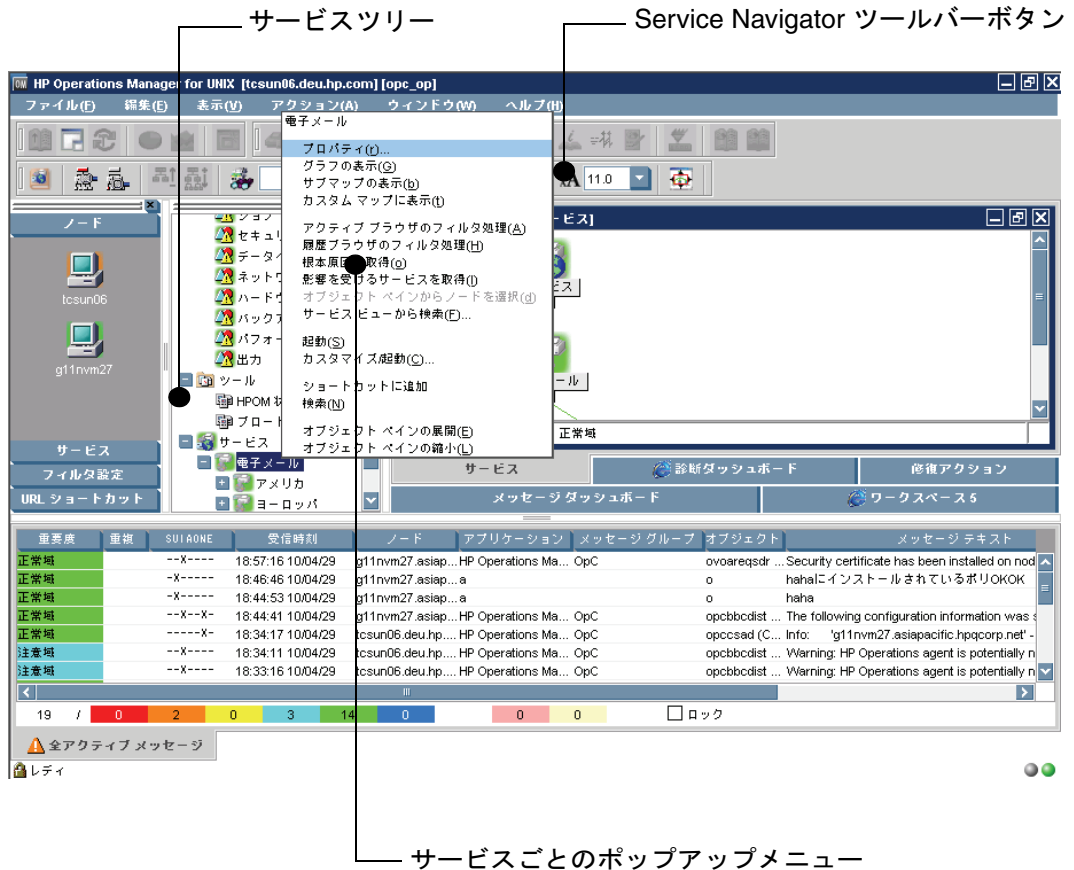
これは、**HPOM** のポリシーを最大限一般的なものにしておけるので便利です。特に、サービス名にマッチする変数を使用することで、**1** つのポリシーを用いるだけで複数のサービスにマッチさせることができます。

Service Navigator の GUI

Service Navigator GUI を起動すると、HPOM Java ベースの GUI が拡張され、次のものも表示されるようになります。

- ❑ 左のスコープペインにあるサービスツリー
- ❑ 追加のツールバーボタン
- ❑ メニューバーおよびポップアップメニューの追加オプション

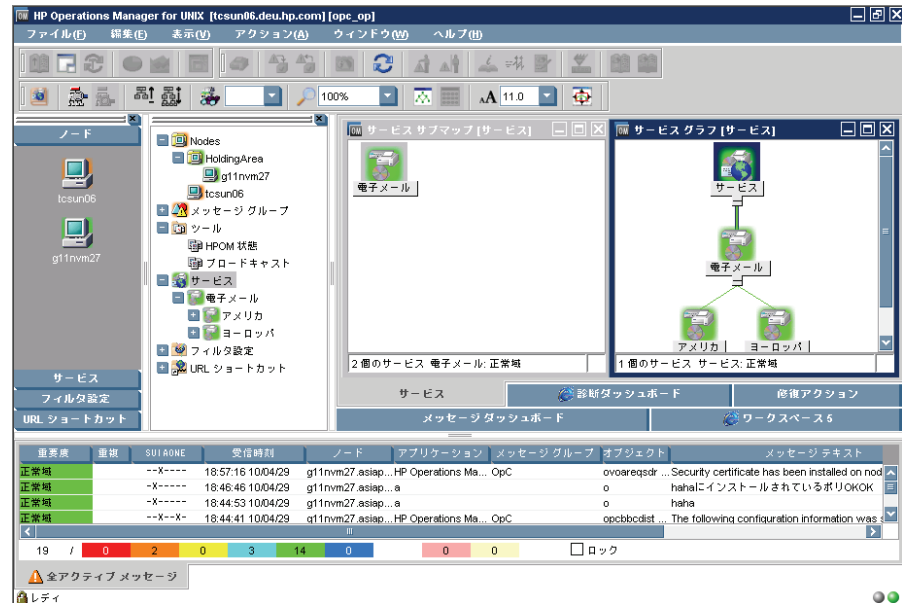
図 3-10 Service Navigator GUI



サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ

図 3-11 には、Service Navigator GUI のサービスサブマップとサービスグラフを表示しています。

図 3-11 Service Navigator のサービスサブマップとサービスグラフ

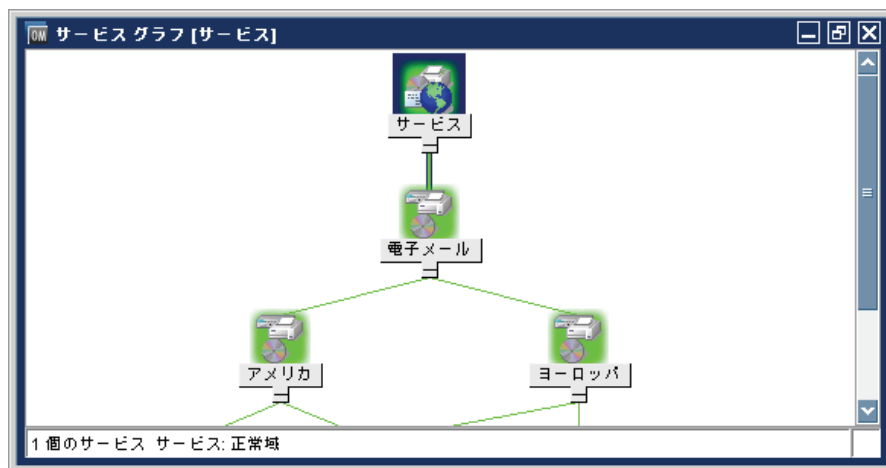


サービスグラフ

Service Navigator では、サービスの簡単な階層ビューが GUI のスコープペインのサービスツリーに表示されます。また、この情報はサービスグラフの内容領域で図を用いて表示されます。これらはサービスおよびその下位サービスの階層をグラフィカルに表したものです。サービスグラフは動的であり、表示されたサービスの重要度が変わるたびに更新されます。階層を展開表示するには、アイコンラベルの下のプラス記号 (+) をクリックします。縮小表示するには、マイナス記号 (-) をクリックします。

1 つまたは複数のサービスを選択し、右クリックして表示されるポップアップメニューから操作を適用できます。図 3-12 はサービスグラフの例です。

図 3-12 サービスグラフ



ヒント

サービス階層の展開 / 縮小表示は、サービスグラフのサービスアイコンをダブルクリックすることでもできます。ただし、サービスのサブマップが背景イメージ付きで表示されるように定義されている場合は、サブマップが表示されます。

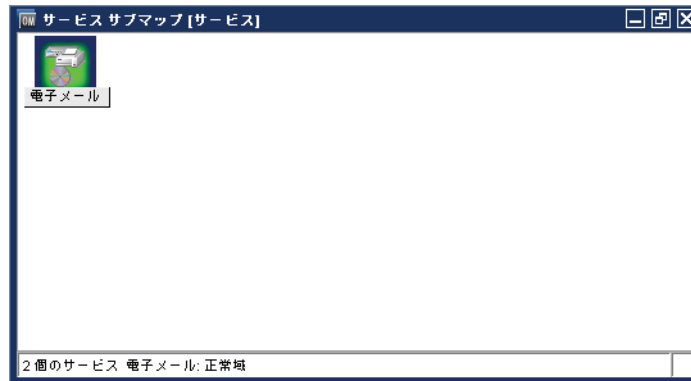
サービスサブマップ

サービスサブマップとは、選択したサービスの下位サービスをグラフィカルに表示したものです。階層情報は表示されません。サービスサブマップは、階層関係を重要視せず、親サービス内の下位サービスのステータスを明示する場合に便利です。図 3-13 はサービスサブマップの例です。

現在のサービスサブマップの下位サービスサブマップにアクセスするには、サービスアイコンをダブルクリックします。

図 3-13

サービスサブマップ



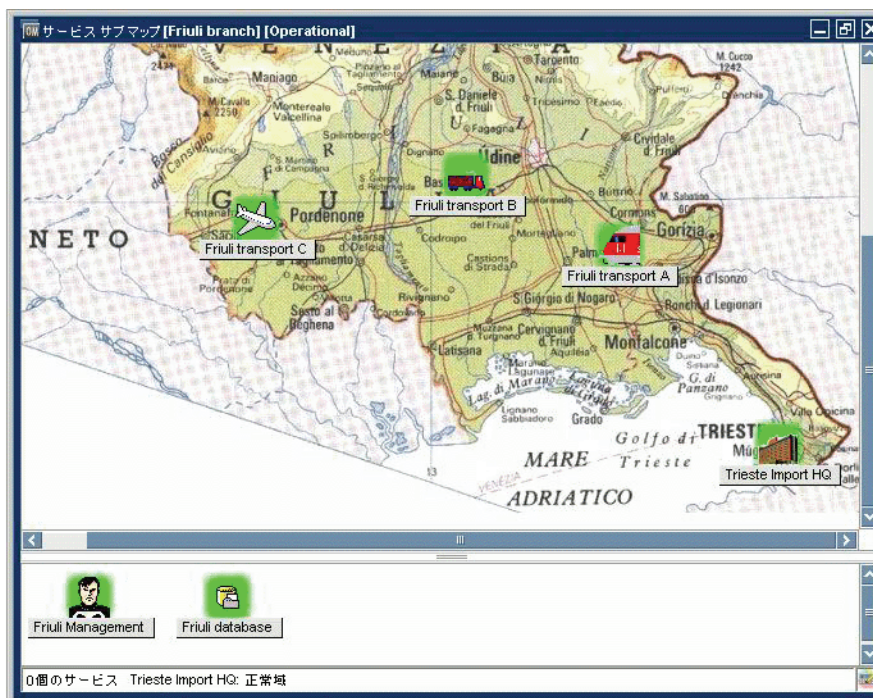
サービスサブマップの拡張

サービスサブマップは、ネットワーク構成図や国の地図などの別のバックグラウンドイメージを使って拡張できます。また、下位サービスのアイコン表示位置をバックグラウンドイメージ上に定義して、管理対象サービスの全体像を明確にすることもできます。たとえば、サービスアイコンを国の地図上に配置します。

位置情報を与えられていないサービスに対しては、サービスをカスタマイズした [サービスサブマップ] ウィンドウを 2 つのペインに水平分割することもできます。この場合アイコンは、下段のペインに表示されます。

図 3-14 は、Friuli 支店のサービスサブマップとサービスグラフを表示しています。Friuli 支店サービスには複数の下位サービスがあり、サブマップの背景に配置されています。また他の位置情報のない下位サービスは下のペインに配置されています。

図 3-14 拡張サービスサブマップ



注記

Java GUI のこれらのオプションは、HPOM 管理者によって設定されている場合のみ使用できます。

サービスサブマップのカスタマイズに関する詳細は、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

カスタムサービスマップ

カスタムサービスマップとは、サービスをグラフィカルに表示したものです。サービス階層内の複数のサービスを選択し、カスタムサービスマップ内に表示できます。カスタムサービスマップは、最も重要な最上位のサービスの概要を保存したり、IT センターの大型画面に表示する場合に大変便利です。

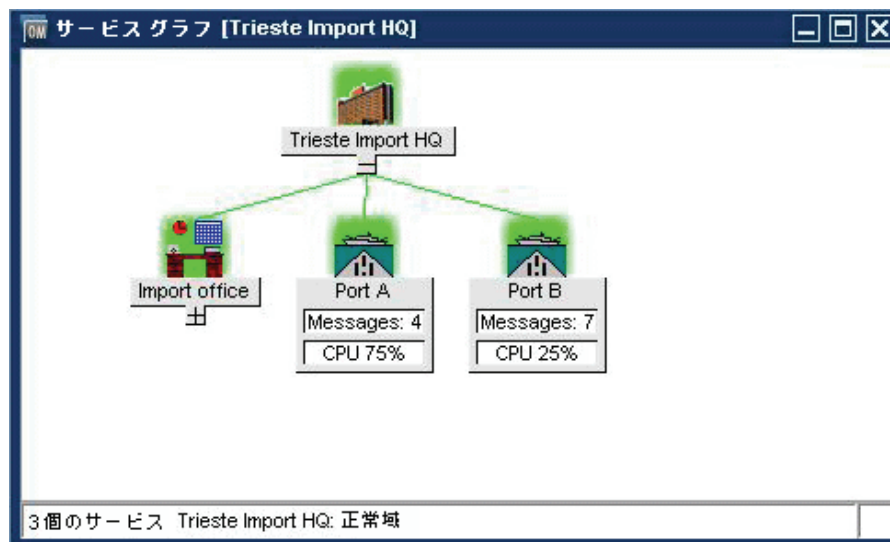
サービスのラベル付け

サービスアイコンはすべて、ラベルを使って識別します。ショートカットバー、サービスグラフ、サービスサブマップ、およびカスタムサービスマップのラベルは、アイコンの下に表示されます。またテキストラベルやイメージラベルも、サービスアイコンによって表示させることができます。実際にはディスプレイに表示できるスペースは限られているので、アイコンに使用されたラベルの数は有限です。

また別のラベルを使って、サービスを監視するときの重要な情報も表示できます。たとえば、サービスを提供しているシステムのCPU負荷を、数値および一目でわかる棒グラフで表示できます。図 3-15 はサービスアイコンにラベルを適用する例です。

ラベル付けには、GUI が認識する一連の予約サービス属性名が使用されます。詳細は、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

図 3-15 サービスのラベル付け



注記

Java GUI のこれらのオプションは、HPOM 管理者によって設定されている場合のみ使用できます。

予約サービス属性を使用してサービスのラベル付けを行う場合、次の 2 つの方法があります。

□ **サービス設定ファイル**

サービス設定ファイルの一部として。これらのラベルの値は **Service Navigator** 起動時に取得され、セッション実行中には変更したり削除したりできません。

□ **動的に**

また、メッセージの使用時に、ラベルのテキストまたはイメージを自動的に更新して、最新の情報を動的に表示することもできます。再表示レートはメッセージブラウザの再表示設定によって決まります。

詳細は、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

サービスグラフとマップビューのカスタマイズ

多数のサービスグラフとマップで作業する場合、特にサイズが大きい場合に、特定のサービスへのアクセスが困難になったり、グラフまたはマップを使った簡単なナビゲートができなくなることがあります。

Service Navigator のサービスグラフとマップビューをカスタマイズすることにより、サービスの全体像に焦点をあてることができ、その操作も容易になります。

これは **Service Navigator** の次の機能を使って実現できます。

- ❑ サービスグラフおよびマップのズームイン
- ❑ サービスグラフとマップのナビゲート
- ❑ サービスグラフでのサービスの容易なスクロールと再配置
- ❑ サービスグラフでの選択
- ❑ サービスグラフとマップのフォントサイズのカスタマイズ

注記

ズームおよびナビゲートは、サービスグラフ ([**サービスの障害原因グラフ**] および [**影響を受けるサービスのグラフ**] を含む) およびサービスマップで使用可能です。サービスの容易なスクロールと再配置、選択はサービスグラフでのみ使用可能です。

サービスグラフおよびマップのズームイン

次のズームコマンドによる手動および自動ズームを使用すれば、サービスグラフおよびマップのサイズを設定できます。

- ❑ サービスグラフおよびマップのクイックズームイン
- ❑ デフォルトのズーム比率の設定

サービスグラフおよびマップのクイックズーム

次の手順を実行すれば、サービスグラフやマップを直ちに拡大したり縮小できます。

□ ツールバーの [ズーム] ドロップダウンリストの使用

ツールバーの [ズーム] ドロップダウンリストで、既定の倍率 (パーセント単位、5% ~ 100%) の中から値を選択します。

ツールバーの [ズーム] ドロップダウンリストでは、その他にも次の 2 つのズームオプションが使用できます。

- 一致

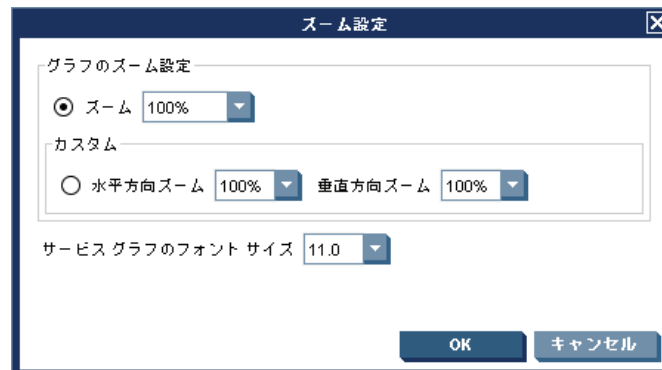
一致ではサービスグラフまたはマップ全体がズームされ、現在のウィンドウサイズと同じサイズになります。

- カスタム

カスタムでは、[ズーム設定ダイアログ] ウィンドウが開くので、図 3-16 のように全体のズーム比率、水平および垂直のズーム比率を指定します。

図 3-16

[ズーム設定] ウィンドウ



□ [ズーム設定] ポップメニューの使用

[ズーム] ツールバードロップダウンリストで使用できるオプションは、[ズーム設定] ポップアップメニューからも使用できます。

[ズーム設定] ポップメニューを表示するには、[サービスグラフ] または [サービスサブマップ] ウィンドウの空 (何もない) 領域を右クリックします。

デフォルトのズーム比率の設定

[表示設定] ダイアログボックスの [サービス] タブでは、新しいサービスグラフや新しいマップを開くたびに使用するズーム比率を設定できます。

[表示設定] ダイアログボックスの各オプションについては 547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」を参照してください。

サービスグラフとマップのナビゲート

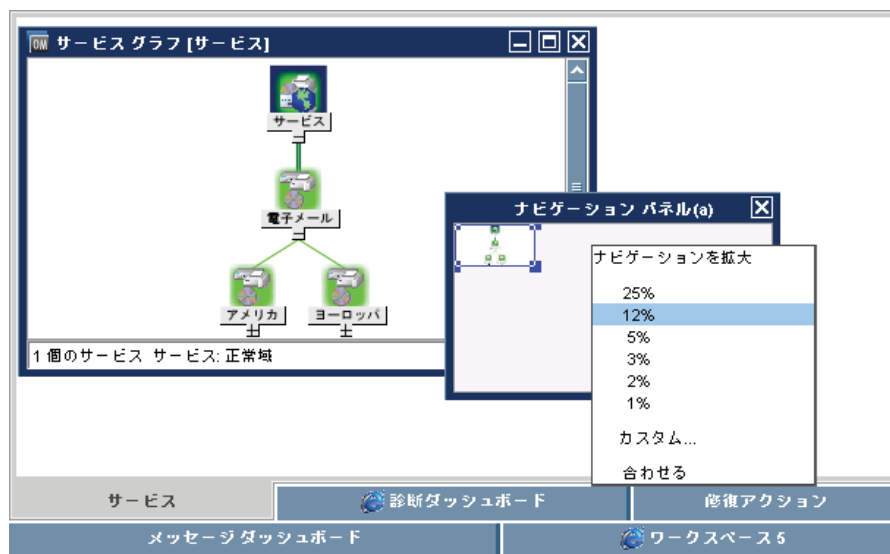
ナビゲーションパネルを使用したナビゲート

[ナビゲーションパネル] はサイズ変更が可能です。これを使うと、サービスグラフまたはマップを簡単にナビゲートできるので、サービスの概要をよく把握することができます。

図 3-17 は、Service Navigator ワークスペースの [ナビゲーションパネル] および [サービスグラフ] ウィンドウを示しています。

図 3-17

サービスグラフとナビゲーションパネル



[ナビゲーションパネル] のビューボックスは、[サービスグラフ] ウィンドウに表示されるサービスグラフの領域の境界を表します。

注記

1 つのペインの [ナビゲーションパネル] が他のペインに影響することはありません。地図表示のあるサービスサブマップのように 2 つの水平ペインに分割されたサービスサブマップでナビゲートする場合は、各ペインの [ナビゲーションパネル] を使用してペインのナビゲートを行います。

2 つのサービスマップ (サブマップ) が表示されている場合は、ナビゲートしたいサービスマップ (サブマップ) のタイトルバーをクリックすることで、目的の [ナビゲーションパネル] に切り替えられます。

現在のワークスペースにサービスグラフまたはマップ全体が表示されていないときは、ビューボックスを [ナビゲーションパネル] にドラッグすることで、[ナビゲーションパネル] で他の領域を表示できます。

また、[サービスグラフ] または [サービスサブマップ] ウィンドウに表示するサービスグラフまたはマップのサイズの拡大や縮小も可能です。それには、[ナビゲーションパネル] のビューボックスのサイズを手動で変更します。

また、図 3-17 にあるように [ナビゲーションを拡大] ポップアップメニューを使用すると、[ナビゲーションパネル] のサイズを拡大したり縮小できます。

注記

[ナビゲーションパネル] を使用すると、[影響を受けるサービスのグラフ] および [サービスの障害原因グラフ] ウィンドウによるナビゲートが可能になります。

[ナビゲーションパネル] は、次のいずれかの方法で表示 / 非表示できます。

- メニューバーから [表示 -> ナビゲーションパネル] を選択
- ツールバーから [ナビゲーションパネルの表示 / 非表示] を選択

ツールバーからのナビゲート

[サービスに移動] ドロップダウンリストは、ツールバーリストからのみ使用できます。このドロップダウンリストはサービスツールバーコンポーネントの一部です。このリストには、現在 **Java GUI** キャッシュ内にあるサービスがすべて含まれており、選択したサービスグラフ内に表示できます。

注記

[サービスに移動] ドロップダウンリストは、サービスグラフから移動する場合にのみ使用できます。

サービスを選択し、サービスツールバーから **[移動]** ボタンをクリックすると、そのサービスがサービスグラフの中央に表示されます。こうすれば、サービスグラフから簡単にナビゲートできます。

注記

[編集 -> 表示設定] ダイアログボックスの **[オンデマンドサービスロードを使用]** オプションが有効になっている場合は、管理サーバーから現在取得しているサービスの名前のみが [サービスに移動] ドロップダウンリストに表示されます。

サービスグラフでの選択

多数のサービスアイコンおよび接続ラインのある大きなサービスグラフでは、サービスアイコン間の関係性の判別が難しくなることがあります。

サービスアイコンを簡単に区別し、それらの関係を判別するには、次の操作を行います。

□ サービスアイコンの選択

サービスアイコンを選択すると、386 ページの図 3-18 のように、影響を受けるサービスへのすべての接続ラインが強調表示されます。

CTRL キーまたはマウス (投げ縄選択) を使用すると、複数のサービスアイコンの選択も可能になります。

□ 接続ラインの強調表示

サービスアイコン間の接続ラインを強調表示することで、その関係を判別することができます。

注記

サービスアイコンおよび接続ラインの選択は、アクティブな [サービスグラフ] ウィンドウでのみ可能です。[サービスグラフ] ウィンドウが非アクティブになると、選択されていたものの強調表示が終了します。

サービスグラフでのサービスの容易なスクロールと再配置

次の機能を用いるとサービスグラフでの作業が容易になります。

□ 容易なスクロール

マウスでサービスグラフをドラッグすることにより、スクロールバーを使わずにサービスグラフ全体をスクロールできます。マウスを [サービスグラフ] ウィンドウの外側に移動させても、引き続きドラッグできます。

□ サービスアイコンの再配置

ドラッグアンドドロップを使用すれば、サービスアイコンおよび接続ラインを再配置できます。複数のサービスアイコンが選択されている場合は、それらのアイコンをサービスグラフ領域に同時に移動できます。

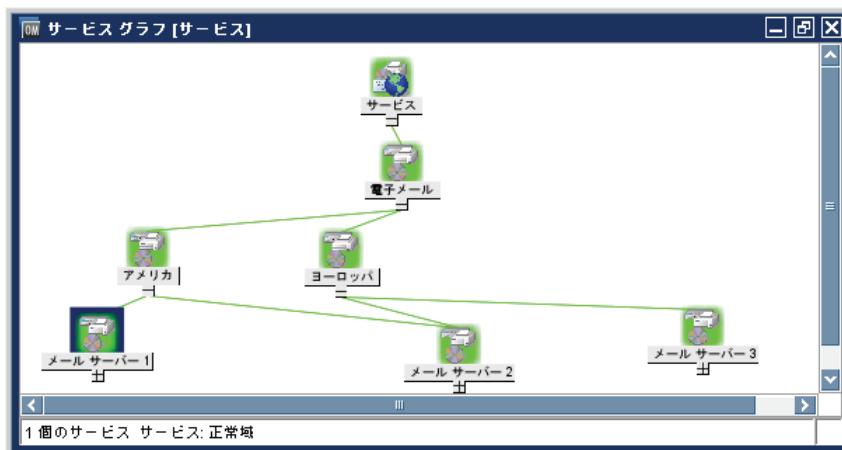
カスタマイズされたサービスレイアウトと自動サービスレイアウトは切り替え可能です。自動サービスレイアウトは、サービスアイコンの位置の元の (デフォルトの) 状態を前提としています。サービスアイコンの位置を変更すると、レイアウトはカスタマイズされたレイアウトに切り替わります。自動サービスレイアウトに戻すと、アイコンの位置は前の (デフォルトの) 位置に戻ります。このレイアウトに新たに追加したすべての変更は、新しいカスタマイズレイアウトに反映され、以前に追加した変更は、コンソールセッション設定ファイルに保存していない場合は失われます。

サービスアイコンのスクロールと再配置が容易なので、特定のサービスに所属する接続をより簡単に判別できるだけでなく、サービスグラフの構成をカスタマイズできます。386 ページの図 3-18 に表示されているのは、再配置されたインターネットサービスアイコンです。

注記

サービスアイコンはサービスグラフとマップの外側に移動できます。また、サービスグラフとマップはワークスペースペインの外側に移動できます。Java GUI でのドラッグアンドドロップ操作の詳細は 95 ページの「ドラッグアンドドロップ操作」を参照してください。

図 3-18

サービスアイコンの再配置**注記**

展開/縮小など、サービスグラフの構造に対して何らかの変更を行うと、サービスアイコンがデフォルトの位置に復元されます。

サービスグラフとマップのフォントサイズのカスタマイズ

サービスグラフおよびマップのフォントサイズは、次のいずれかの方法でカスタマイズできます。

□ ツールバーの [フォントサイズ] ドロップダウンリストの使用

[フォントサイズ] ツールバードロップダウンリストにある値を選択して、現在アクティブなグラフまたはマップのフォントサイズを変更します。

□ **[ズーム設定] ダイアログボックスの値の指定**

[ズーム設定] ダイアログボックスで値を指定して現在アクティブなグラフまたはマップのフォントサイズを変更します。

注記

また、[ズーム設定] ダイアログボックスでは、381 ページの図 3-16 のように、全体のズーム比率、水平および垂直のズーム比率を設定できます。

[ズーム] ツールバードドロップダウンリストから [カスタム] オプションを選択すると、[ズーム設定] ダイアログボックスが開きます。このオプションは、[サービスグラフ] か [サービスサブマップ] ウィンドウの [ズーム設定] ポップアップメニューからも選択できます。[ズーム設定] ダイアログボックスの詳細は 381 ページの「サービスグラフおよびマップのクイックズーム」を参照してください。

□ **[表示設定] ダイアログボックスでデフォルト値を設定**

[表示設定] ダイアログボックスの [サービス] タブでは、新しいサービスグラフや新しいマップを開くたびに使用するフォントサイズを設定できます。

[表示設定] ダイアログボックスの各オプションの説明は 547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」を参照してください。

注記

一般フォントサイズも指定できます。これは、サービスグラフとマップ以外のすべての Java GUI コンポーネントに適用されます。詳細は 294 ページの「一般的なフォントサイズのカスタマイズ」を参照してください。

サービスアイコンと重要度インジケータのサイズのカスタマイズ

大きなサービスグラフやマップでサービスアイコンと重要度インジケータが重ならないように、`itoprc` リソースファイルの `service_icon_zoom` パラメータを使用してサービスアイコンと重要度インジケータのサイズをカスタマイズできます。デフォルト値は 100 (%) です。これは、これらのアイコンとインジケータの元のサイズを表し、1 から 100 の値を設定できます。`service_icon_zoom` パラメータは、`ito_op_applet.html` にも適用されます。

ショートカットバー内のアイコンサイズのカスタマイズの詳細は 287 ページの「ショートカットバー上のアイコンサイズのカスタマイズ」を参照してください。`itoprc` リソースファイルのパラメータリストは 611 ページの「`itoprc` リソースファイル」を参照してください。

サービスグラフィックレイアウトの保存

オペレータのサービスの配置ごとにサービスグラフィックレイアウトを保存できます。障害原因および影響の静的サービスグラフのレイアウトは除きます。保存される情報には、サービスの位置、サービスの拡張ステータスが含まれます。

レイアウトには、自動レイアウト（デフォルトのレイアウト）とカスタムレイアウトの 2 種類があります。切り替えボタンを使用すれば、現在選択しているサービスグラフの自動レイアウトとカスタムレイアウトを切り替えられます。オンにすればカスタムレイアウト、オフにすれば自動レイアウトが有効となります。

オンデマンドによるサービスのロード

オンデマンドでサービスをロードすると、サービス階層のレベル数を指定できます。このレベル数は、サービスツリー全体から検索するのではなく管理サーバーから検索します。

これは ISDN や PSTN などの低速接続回線の環境、または大規模サービス構成の環境で特に好都合です。また必要な構成情報のみをロードすることができるため、Java GUI の起動に要する時間を削減するとともに、Java GUI 全体の負荷を減少させることもできます。

サービス階層のレベル検索とは、管理サーバーから Java GUI にサービス情報を転送することです。検索されたサービス情報は、Java GUI のキャッシュに保存されます。

ただし、Java GUI のキャッシュに保存されているすべてのサービス情報が、即座に表示されるわけではありません。次のように表示されます。

- Java GUI の起動時、デフォルトでは、検索対象として指定した階層レベルの数にかかわらず、最高位レベルのサービスおよびその下位のサービス (レベル 1) がサービスツリーやサービスグラフに表示されます。しかしながら、サービスを以前の Java GUI セッションでのコンソール設定情報に保存した場合には、保存された設定情報が表示されます。
- Java GUI の起動後は、次のいずれかの方法で検索したレベルをサービス階層に表示できます。
 - 最後に表示された階層レベルのサービスアイコンを展開表示します。この操作により、グラフまたはオブジェクトペインにその次のレベルが表示されます。
 - ツールバーにある [サービスグラフレベルの展開表示] アイコンを使用します。選択されたサービスのその次のレベルが展開表示されます。このアイコンを使ってサービスを展開表示できるのは、サービスグラフの場合だけです。
 - サービスグラフやオブジェクトペインで、選択されたサービスのポップアップメニューを使ってサービスを展開表示します。このようにして、2 つ以上のレベルを一度に展開表示できます。これについては 391 ページの「ポップアップメニューによる階層レベルの展開表示例」に説明されています。

サービスの階層レベルは、Java GUI の起動時およびそれ以降のユーザー要求発生ごとに検索されます。

ユーザーの要求は、展開表示中のサービスなどのその時点では Java GUI に存在しない、特定のサービスに対する要求すべてです。たとえば、サービスは、選択したサービスのポップアップメニューの [サービスグラフを展開表示する] オプションを使って展開表示できます。

ユーザー要求が発生するたびに、指定したレベル数の検索が管理サーバーのサービス階層で行われます。しかしながら、指定したレベル数を超過して検索が行われる特別なケースもあります。次のケースがこれに該当します。

- 管理サーバーで検索が行われていない、サービス名の付いたメッセージが着信する。メッセージのポップアップメニューで、[オブジェクトペインから関連サービスを選択] を選択した場合、このサービスは、ルートサービスのパス上にある行方不明のすべてのサービスを含めて、管理サーバーから検索されます。
- コンソール設定情報に保存されているサービスも、ルートサービスのパス上にある行方不明のすべてのサービスを含めて、Java GUI の起動時に管理サーバーから検索されます。

オンデマンドによるサービスのロードは、デフォルトで有効になっています。この機能を無効にしたり、Java GUI の [表示設定] ダイアログの [サービス] タブの設定情報を変更できます。[サービス] タブで行った変更はすべて、itoopec ファイルに自動的に保存され直ちに有効になります。

注記

現在 Java GUI を使用中のオペレータに対して、サービスが割り当てられていない場合には、[サービス] タブがグレー表示されて、アクセスはできなくなります。

Java GUI の [表示設定] ダイアログの [サービス] タブの詳細は 552 ページの「[表示設定] ダイアログボックスの [サービス] タブ」を参照してください。

オンデマンドによるサービスのロードを無効にすると、設定情報を再ロード中の [HPOM 通信ステータス] ウィンドウからその通知があります。これは Java GUI が管理サーバーからサービスツリー全体を検索するためです。このオプションを再び有効にすると、設定情報はすでに Java GUI にあるので再ロードされません。

設定情報の再ロードの詳細は 277 ページの「設定の再ロード」を参照してください。

サービス階層のレベル数以外に、次の情報も設定できます。

- ❑ 管理サーバーで変更が発生したときの、サービス設定情報の自動再ロード

この機能が有効になっていると、サーバーツリーやサービスグラフには、管理サーバーの最新設定情報が必ず反映されます。自動再ロードが完了しても、サービスグラフおよびオブジェクトペインのレイアウトは、そのまま保持されます。

- ❑ サービスグラフやオブジェクトペインに表示されているサービスが、GUI キャッシュに保持される可能性は、高いかまたは少ないかのどちらかです。検索されたそれ以外のサービスはすべて、キャッシュから削除されます。すでにキャッシュには保存されていないサービスを次回要求するときには、サービスを管理サーバーから再ロードする必要があります。

こうすることで、性能を維持しながら **Java GUI** のメモリー消費量を削減できます。

これらの設定情報に関する詳細は 552 ページの「[表示設定] ダイアログボックスの [サービス] タブ」を参照してください。

ポップアップメニューによる階層レベルの展開表示例

次の例は、選択されたサービスのポップアップメニューを使って、一度に 2 つ以上の階層レベルを展開表示する方法を示します。

図 3-19 の番号 1 のサービスグラフは、選択された E-mail サービスとその下位サービスである America および Europe を示しています。Europe サービスは、1 階層だけ展開表示されています。

E-mail サービスのポップアップメニューから [サービスグラフを展開表示する] を選択した場合、[ツリー / グラフの展開表示] ダイアログが表示されます。このダイアログボックスで、次のどちらかの項目を選択すると展開表示できます。

□ **OK**

サービスツリーやサービスグラフの一部のみ、つまり管理サーバーから検索されている部分を展開表示します。

□ **すべて展開表示**

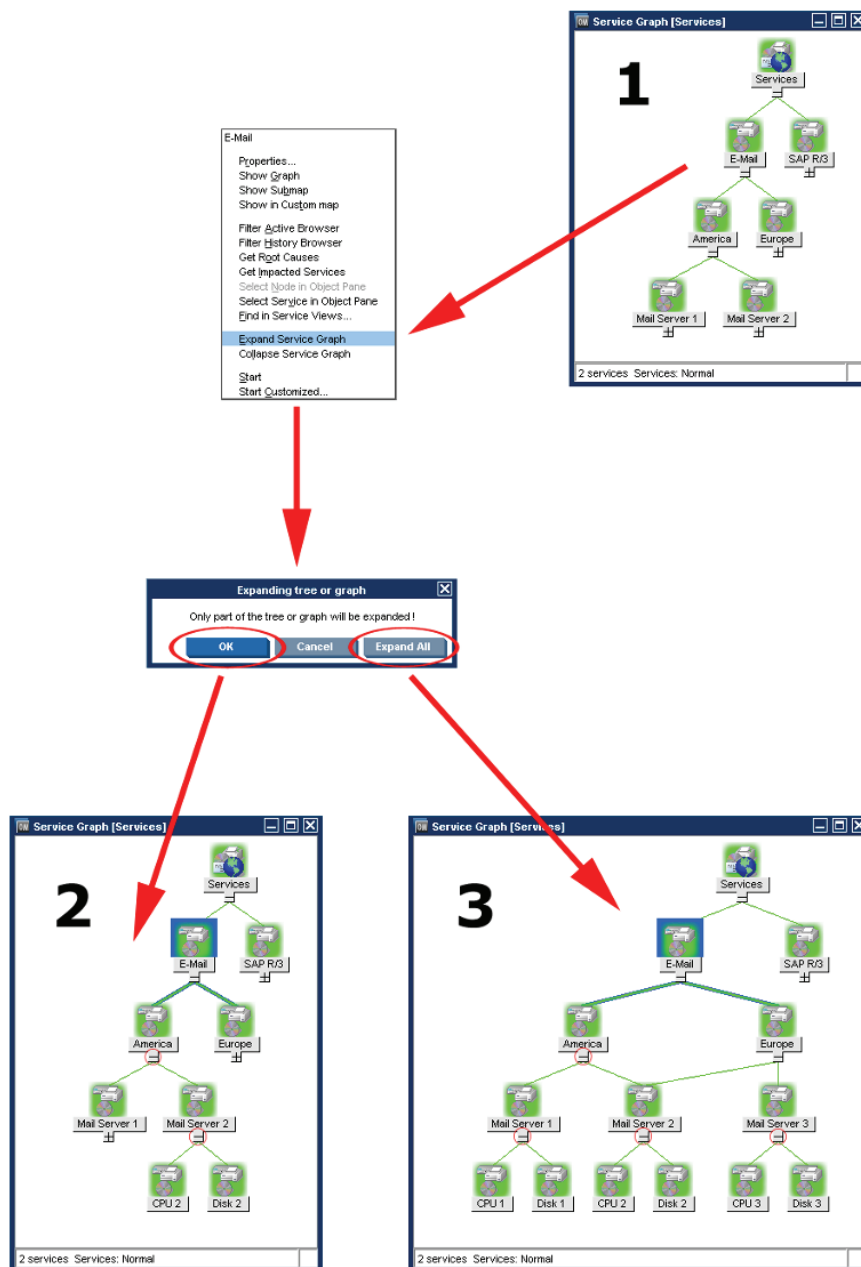
選択されたサービスの下位サービスを、サービスツリーやサービスグラフにすべて展開表示します。

番号 2 のサービスグラフにはその一部が展開表示されていて、Europe サービスが展開表示されたときに、どのサービスが管理サーバーから検索されたかわかります。

番号 3 のサービスグラフは、E-mail サービスの下位サービスをすべて示しています。

管理サーバーからサービスを検索しているときに、Java GUI ステータスバーのインジケータの色が変化して、サービスが転送されていることがわかります。詳細は 82 ページの「ステータスバー」を参照してください。

図 3-19 オンデマンドによるサービスのロードを使用時のサービスグラフの展開表示



サービスのログおよびレポート

IT 管理における重要な側面として、サービス配信パフォーマンスに関するレポートの生成機能があります。

設定しておく、サービスの重要度が変更されるたびに、**Service Navigator** が **HPOM** データベースにログエントリを作成します。レポートでは、**HPOM** データベースからログを取得し、グラフィカルまたは統計的な形式で情報を表示します。独自のレポートを設計して生成したり、**HP Reporter** にあるサービスレポートを使用することもできます。

サービスレポートでは、現在のサービスのステータスに関するレポートから、履歴統計データに基づく傾向に関するレポートまで、広範なレポートを作成できます。**Reporter** には、次の **Service Navigator** レポートがあります。

□ サービスの利用可能状況

このレポートには、サービスの各ステータスの持続期間が表示されます。各ステータスが円グラフで表示されます (単位は %)。また、棒グラフも表示できます。レポートは、**HPOM** データベースのすべての統計ログを利用します。

□ サービスごとのメッセージ傾向

このレポートは、一定時間における各サービスで受信したメッセージ数を表示します。これは、**HPOM** データベース内にある、サービスに影響を与えるすべてのアクティブおよび履歴メッセージを利用します。このレポートではサービスごとに折れ線グラフが表示されます。

□ サービスごとの最多アクティブメッセージ

このレポートは、重要度ごとに分類した、アクティブメッセージで最も数の多い 3 つのサービスを表示します。このレポートは、**HPOM** データベース内にあるすべてのアクティブメッセージを利用し、棒グラフで表示します。

これらのレポートの詳細は **HP Reporter** のマニュアルを参照してください。HPOM データベースの内容、独自のレポートの設計および生成方法については、『*HPOM Reporting and Database Schema*』を参照してください。

Service Navigator コマンド行ツールを利用すれば、サービスのログを簡単に有効化（無効化）できます。コマンド行ツールでは、**HPOM** データベースからのサービスデータのダウンロード、またはデータベースへのサービスデータのアップロードも可能です。これは、データベースの保守の際に便利です。詳細は、『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

HPOM Developer's Toolkit には、サービスの現在のステータスを取得したり、サービスのステータスの変更を記録するための **Service Navigator** 用 **API** が用意されています。詳細は、『*HPOM Application Integration Guide*』を参照してください。

サービスログファイルにはログを有効化したサービスがリスト化されます。このファイルは次の場所にあります。

```
/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/opcsvcm/loggings
```

注記

このファイルは、絶対に直接編集しないでください。

Service Navigator

サービスのログおよびレポート

4 Service Navigator で日常作業を行う

Service Navigator で障害を管理する

Service Navigator では、環境内の管理対象オブジェクトのモニターの他に、サービスのモニターもできます。その結果、自分が担当しているサービスのステータスに集中し、その重要度レベルの変化をすべて見るができます。

注記

HPOM の障害解決プロセスの概要は 112 ページの「障害の解決プロセス」を参照してください。

一般に、HPOM の論理的障害解決モデルは Service Navigator にも適用されています。

□ 障害の検出

自分の管理対象サービスに影響を与える管理対象オブジェクトの 1 つに障害が発生すると、メッセージブラウザに障害を通知するメッセージが表示されます。サービスの重要度ステータスも新規状況を反映して変更されます。詳細は 400 ページの「HPOM と Service Navigator で障害を検出する」を参照してください。

□ 障害の調査

フィルター処理済メッセージブラウザを使って、サービスに影響を与える障害の発生原因を見つけることができます。さらに、[**障害原因を検索**] と [**影響を受けるサービスを検索**] で分析して、障害の原因がどこにあり、他にどのサービスが影響を受けるかを知ることができます。詳細は 406 ページの「HPOM と Service Navigator で障害を調査する」を参照してください。

□ 障害の解決

HPOM には、障害解決を支援するツールがたくさんあります。たとえば、自動アクションまたはオペレータ起動アクション、オペレータ指示、およびツールなどです。さらに、HPOM 管理者はサービス固有のアクションを設定できます。詳細は 409 ページの「HPOM と Service Navigator で障害を解決する」を参照してください。

□ 解決方法のドキュメント化

各メッセージに関連付けられた指示 (**instruction**) と注釈 (**annotation**) を使って、障害管理プロセスをドキュメント化します。指示と注釈は次に障害が発生したときの参考になり、役立ちます。詳細は 412 ページの「HPOM と Service Navigator で解決方法をドキュメント化する」を参照してください。

障害を解決し、解決策をドキュメント化した後、最初に障害を報告したメッセージを受諾 (**acknowledge**) します。メッセージを受諾すると、メッセージはアクティブメッセージブラウザから、履歴データベースに移動します。フィルター処理済履歴メッセージブラウザを開くと、再度そのメッセージにアクセスできます。

HPOM と Service Navigator で障害を検出する

HPOM と Service Navigator を使うと、管理対象環境 (managed environment) にある障害および潜在的な障害を検出できます。

Service Navigator を使って管理対象環境にある障害を検出する方法は、次のとおりです。

- ❑ 401 ページの「サービスを表示する」
- ❑ 402 ページの「サービス詳細を表示する」
- ❑ 403 ページの「サービスに関連したメッセージを表示するには」
- ❑ 404 ページの「複数のサービス階層からサービスを検索する」

HPOM を使って管理対象環境にある障害を検出する方法は、次のとおりです。

- ❑ 227 ページの「メッセージノードを手動で表示」
- ❑ 231 ページの「メッセージの表示」
- ❑ 277 ページの「Java GUI の手動再表示」
- ❑ 277 ページの「設定の再ロード」

注記

HPOM の障害解決プロセスの概要は 112 ページの「障害の解決プロセス」を参照してください。

サービスを表示する

管理対象環境にあるサービスは、オブジェクトペインに階層的に表示されます。自分が担当しているサービスに影響を与える障害が管理対象オブジェクトのどこかで発生すると、サービスの重要度ステータスが新しい状況を反映したものに更新されます。

下位サービス (subservices) の重要度の 1 つが変わったり、直接サービスに影響するメッセージが到着したりすると、そのサービスの重要度が変わります。このような場合、サービスの下位サービスは重要度を変更せずに、親サービスだけが新しいステータスを適用します。

オブジェクトペインでサービスを表示するには

オブジェクトペインでサービスを表示する方法は、次の 2 つです。

□ オブジェクトツリーの展開表示

オブジェクトペインで次のいずれかの操作を実行します。

- [サービス] アイコンをダブルクリックします。
- プラスアイコン (+) をクリックします。

□ オブジェクトツリーの縮小表示

オブジェクトペインで、マイナスアイコン (-) をクリックします。

カスタムマップでサービスを表示するには

カスタムサービスマップでサービスを表示するには、次の手順に従ってください。

1. オブジェクトペインの [サービス] タブで、モニターしたいサービスを右クリックします。
2. ポップアップメニューから [カスタムマップに表示] を選択します。

新しいクライアントウィンドウが開き、選択したサービスの下位サービスがサービスサブマップに表示されます。

注記

HPOM 管理者が設定した場合、カスタムサービスマップのアイコンでもテキスト情報やイメージ付きのダイナミックなラベルを表示できます。この情報を一見すると、特定のサービスの詳細情報が得られます。

サービス詳細を表示する

サービスの一般設定に関する詳細な情報があると便利です。[サービスプロパティ] ダイアログボックスには、サービスの現在の設定についての詳細があります。

サービス詳細を表示するには

サービス詳細を表示するには、次の手順に従ってください。

1. オブジェクトペインで、詳細を見たいサービスを右クリックします。
2. ポップアップメニューから [プロパティ] を選択します。

[サービスプロパティ] ダイアログボックスが開きます (図 4-1)。

[サービスプロパティ] ダイアログボックスの詳細は 559 ページの「[サービスプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

3. サービス詳細を確認したら、[OK] をクリックします。

図 4-1

[サービスプロパティ] ダイアログボックス



The screenshot shows a dialog box titled "サービスプロパティ [電子メール]" (Service Properties [Email]). It has three tabs: "属性" (Properties), "ステータス情報" (Status Information), and "サービスマッピング" (Service Mapping). The "属性" tab is active, showing a "一般" (General) sub-tab. On the left, there is a status indicator "正常域" (Normal Domain) with a green icon. The main area contains several fields for configuration:

属性	ステータス情報	サービスマッピング
一般		アクション
名称		email
ラベル		電子メール
タイトル		
オリジナル ID		
アイコンのパス		:s/images/configitem.32.gif
詳細		
ノード名		

At the bottom of the dialog is a "クローズ" (Close) button.

サービスに関連したメッセージを表示するには

標準の HPOM メッセージブラウザは、担当している管理対象オブジェクトで生成されたメッセージをすべて表示します。特定のサービスに関連したメッセージだけを表示したい場合は、対応するフィルターを使って、フィルター処理済メッセージブラウザを開きます。

サービスに関連したメッセージを表示するには、次の手順に従ってください。

1. オブジェクトペインで、影響を受けるサービスを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - 選択したメッセージを右クリックしてポップアップメニューを開き、次のどちらかを選択します。
 - アクティブブラウザのフィルター処理
 - 履歴ブラウザのフィルター処理
 - メニューバーから [アクション：フィルター処理 -> フィルター処理済新規アクティブブラウザ] を選択し、次に [メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスからフィルターを選択します (139 ページの図 1-60)。

このダイアログボックスのオプションについては 518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。

複数のサービス階層からサービスを検索する

注記

この項は、HPOM 管理者が HP Operations Service Configuration for Service Navigator を使って、サービスを設定する場合のみ関係します。Service Configuration は、Service Navigator のサービス階層を設定するためのグラフィカルユーザー インタフェースです。

Service Configuration では、サービスは複数の親サービスを持つことができます。これは、Java GUI では、同一のサービスで種々のステータスや関連するアクションが発生するたびに、同一のサービスを複数のサービス階層に表示できるということです。

サービスが 1 回発生してステータスが変化しても、それ以外で発生したすべてのステータスも変化するとは限りません。しかしながら、他のサービスに影響を与えていないことを確認するために、サービスが含まれているすべての階層を識別することはよい経験になります。発生した同一のサービスはすべて同じ ID (オリジナル ID) を共有するので、発生したサービスをすべて Java GUI で識別することは容易です。

複数のサービス階層でサービスを検索する方法

複数のサービス階層でサービスを検索するには、次の手順を実行します。

1. オブジェクトペインで、検索する別のサービスと同一のオリジナル ID を持っているサービスを右クリックします。
2. ポップアップメニューから [サービスビューから検索] を選択します。

図 4-1 のような [サービスビュー] ダイアログボックスが開きます。サービス カラムには、検索を開始したときのサービスと同一のオリジナル ID を持っているサービスがすべて表示されます。ルートサービス カラムには、識別済みのサービスを含むサービス階層ごとのルートサービスが表示されます。

3. 識別済みのサービスを選択してから、[グラフの表示] をクリックします。選択されたサービスが強調表示されて、サービスグラフが開きます。

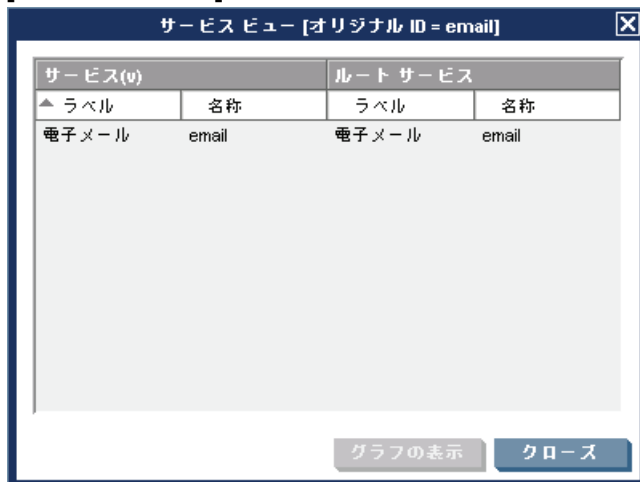
ヒント

サービスをダブルクリックしてもサービスグラフを開くことができません。

4. 検索作業が済んだら、[クローズ] をクリックして [サービスビュー] ダイアログボックスを閉じます。

図 4-2

[サービスビュー] ダイアログボックス



HPOM と Service Navigator で障害を調査する

HPOM で管理対象環境 (managed environment) に障害を検出した後は、その障害を調査する必要があります。このセクションでは、メッセージブラウザヘッダーまたは [メッセージのプロパティ] ダイアログボックスを使って、障害の詳細を調べる方法を説明します。障害の詳細には、どのノードでいつ発生したか、障害の重要度はどのくらいか、その障害の解決策として事前に設定されたアクションがあるかどうかの情報がります。履歴データベースも同じような障害が過去にどのようにして解決されたかを調査するためのリソースとなります。

Service Navigator を使って管理対象環境の障害を調査する方法は、次のとおりです。

- 406 ページの「影響を受けるサービスを強調表示するには」
- 407 ページの「障害原因を識別するには」
- 408 ページの「影響を受けるサービスを識別するには」

HPOM を使って管理対象環境の障害を調査する方法は、次のとおりです。

- 238 ページの「メッセージブラウザでの障害の調査」
- 241 ページの「メッセージの詳細情報の確認」
- 244 ページの「メッセージ履歴の調査」
- 228 ページの「メッセージノードを自動で表示」

注記

HPOM の障害解決プロセスの概要は 112 ページの「障害の解決プロセス」を参照してください。

影響を受けるサービスを強調表示するには

障害を調査した後、影響を受けているサービスをオブジェクトペインで簡単に強調表示 (highlight) できます。

影響を受けたサービスをすぐに強調表示するには、次の手順に従ってください。

1. メッセージブラウザで、調査したいメッセージを右クリックします。
2. ポップアップメニューから、[オブジェクトペインから関連サービスを選択]を選択します。

HPOM はオブジェクトペインにあるサービスを強調表示します。これで、[障害原因を検索]または[影響を受けるサービスを検索]で詳細な分析を開始し、障害をさらに調査できます。詳細は 407 ページの「障害原因を識別するには」と 408 ページの「影響を受けるサービスを識別するには」を参照してください。

障害原因を識別するには

サービスの重要度を変えた原因がサービス自体なのか、1 つまたは複数の下位サービスなのかを判断する作業は大変です。Service Navigator の障害原因分析ツールを使うと、重要度の変更の原因となったサービスをすぐに見つけることができます。

障害原因を識別するには、次の手順に従ってください。

1. オブジェクトペインで、重要度変更の原因となったサービスを選択します。
2. サービスを右クリックし、ポップアップメニューから [障害原因を検索] を選択します。

新しいクライアントウィンドウが開き、そのサービスの [サービスの障害原因グラフ] が表示されます。これでステータス変更の原因となった下位サービスを識別できます。

影響を受けるサービスを識別するには

親サービスに含まれる下位サービスは、別のサービスでも使うことができます。その結果、重要度の変更は、直接の親サービスだけでなく、その下位サービスを使っている他のサービスすべてに影響します。重要度の変更によって影響を受ける他のサービスをすぐに見つけるために、**Service Navigator** は影響を受けるサービスすべてを [影響を受けるサービスのグラフ] で表示します。

注記

障害の影響を受けないサービスは、選択した親サービスの下位サービスであっても [影響を受けるサービスのグラフ] には表示されません。

ただし、[影響を受けるサービスのグラフ] には、そのオペレータの割り当て分以外に、影響を受ける親サービスが表示されることがあります。これは、影響分析が、サービス割り当てに関係なく、サービス階層全体に対して行われるためです。

影響を受けるサービスを識別するには、次の手順に従ってください。

1. オブジェクトペインで、サービスを右クリックします。
2. ポップアップメニューから、[影響を受けるサービスを検索] を選択します。

新規クライアントウィンドウが開き、サービスに対する [影響を受けるサービスのグラフ] が表示されます。選択したサービスとその障害の影響を受けるすべてのサービスが、グラフにアイコン表示されます。

HPOM と Service Navigator で障害を解決する

障害を調査した後は、管理対象環境の障害を解決する必要があります。

Service Navigator を使って管理対象環境の障害を解決する方法は、次のとおりです。

- ❑ 409 ページの「サービスアクションを実行するには」
- ❑ 411 ページの「サービスからツールを起動するには」

HPOM を使って管理対象環境の障害を解決する方法は、次のとおりです。

- ❑ 249 ページの「ペンディングメッセージのバッファ解除」
- ❑ 242 ページの「メッセージ属性の変更」
- ❑ 248 ページの「メッセージの所有」
- ❑ 249 ページの「自動アクションの確認」
- ❑ 251 ページの「オペレータ起動アクションの確認」
- ❑ 254 ページの「オペレータ割り当てツールの表示」
- ❑ 255 ページの「ツールの起動」
- ❑ 260 ページの「ツールの起動属性のカスタマイズ」
- ❑ 263 ページの「コマンドのブロードキャスト」

注記

HPOM の障害解決プロセスの概要は 112 ページの「障害の解決プロセス」を参照してください。

サービスアクションを実行するには

サービス詳細を表示すると、サービスに対してアクションを設定しているかどうかを確認できます。

サービスアクションを実行するには、次の手順に従ってください。

1. オブジェクトペインで、サービスを右クリックします。

Service Navigator で日常作業を行う

HPOM と Service Navigator で障害を解決する

2. ポップアップメニューから [**起動**] を選択し、実行したいサービスアクションを選びます。

サービスアクションのタイプが **Web** アプリケーションかコマンドかによって、アクション出力の表示方法が決まります。

- **Web** アプリケーションを起動すると、**Web** ブラウザが開きます。
- コマンドを実行すると、新しいワークスペースペインウィンドウに出力が表示されます。

サービスからツールを起動するには

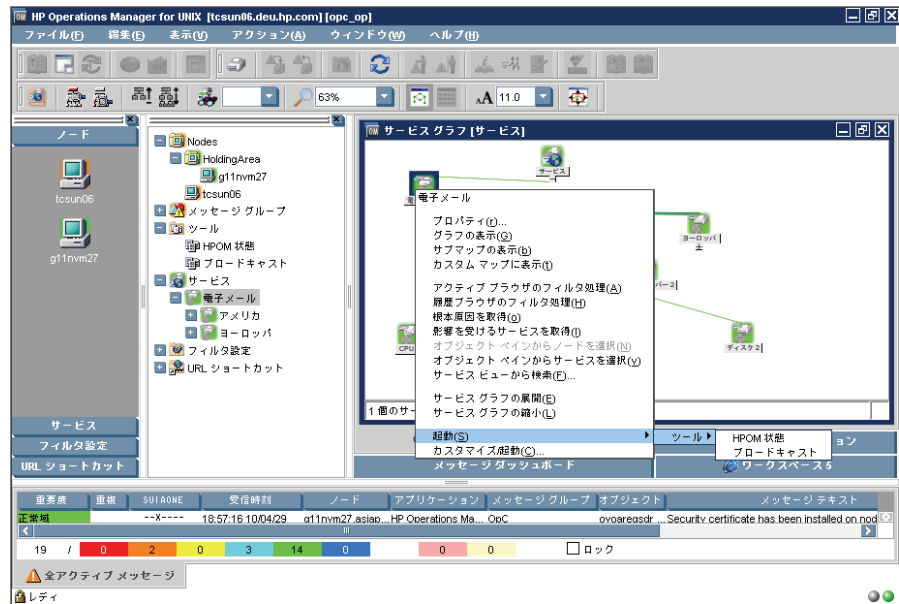
サービスからツールを起動するには、次の手順に従ってください。

1. オブジェクトペインの [サービス] タブで、サービスまたは下位サービスを右クリックします。
2. ポップアップメニューから、起動したいツールを選択します (図 4-3)。

図の中で赤いボックスに囲まれているのがサービスツールです。

図 4-3

ポップアップメニューのサービスからツールを起動する



注記

通常のツールを [サービス] メニューから起動することもできます。たとえば、サービスツリーを表示すると同時に、管理サーバー上でバックグラウンド作業をすぐに実行できます。

HPOM と Service Navigator で解決方法をドキュメント化する

HPOM 障害解決モデルの最後のステップでは、解決方法をドキュメント化します。これは今後の障害管理に役立ちます。解決方法をドキュメント化するには、まずメッセージの指示を変更します。次にメッセージを受諾 (acknowledging) することによって、解決した障害をメッセージブラウザから履歴データベースに移動します。

HPOM を使って管理対象環境の障害を解決する方法は、次のとおりです。

- ❑ 265 ページの「メッセージの注釈付け」
- ❑ 266 ページの「HPOM メッセージおよびアプリケーションの出力の印刷」
- ❑ 270 ページの「メッセージの受諾」

注記

HPOM の障害解決プロセスの概要は 112 ページの「障害の解決プロセス」を参照してください。

HPOM と Service Navigator をカスタマイズする

HPOM と Service Navigator をカスタマイズして、IT 作業を合理化できます。

管理対象環境をカスタマイズする方法は、次のとおりです。

- ❑ 276 ページの「オペレータのパスワードの変更」
- ❑ 277 ページの「デフォルト設定のロード」
- ❑ 279 ページの「コンソール設定のカスタマイズ」
- ❑ 282 ページの「移動可能ペインのカスタマイズ」
- ❑ 284 ページの「ショートカットバーのカスタマイズ」
- ❑ 287 ページの「ワークスペースペインのワークスペースのカスタマイズ」
- ❑ 289 ページの「統合 Web ブラウザの変更」
- ❑ 292 ページの「ツールバーのカスタマイズ」
- ❑ 299 ページの「フィルター処理済メッセージブラウザの作成」
- ❑ 300 ページの「ブラウザのフィルター設定を保存するには」
- ❑ 318 ページの「ブラウザのレイアウトを保存するには」
- ❑ 321 ページの「ブラウザウィンドウのレイアウトを変更するには」
- ❑ 323 ページの「表示するメッセージ数を変更するには」
- ❑ 278 ページの「再表示周期のカスタマイズ」
- ❑ 281 ページの「Java GUI のロック & フィールドのカスタマイズ」
- ❑ 325 ページの「メッセージブラウザのカラー表示の設定をカスタマイズするには」
- ❑ 294 ページの「フォントサイズのカスタマイズ」
- ❑ 281 ページの「進捗状況ダイアログボックスのカスタマイズ」

Service Navigator で日常作業を行う
HPOM と Service Navigator をカスタマイズする

A トラブルシューティング

一般的なトラブルシューティング

一般に、HPOM で障害が発生した場合は、エラーメッセージを確認し、障害に関連する症状をすべてメモしてください。

❑ エラーメッセージのチェック

エラーダイアログボックス、MS-DOS ウィンドウ、ターミナルウィンドウ、エラーログファイルで、エラーメッセージをチェックします。

❑ 症状の分析

障害の現象、範囲、状況、持続期間を分析します。

注記

特定のトラブルシューティングの手順については 420 ページの「トラブルシューティング集」を参照してください。

エラーメッセージのチェック

障害が発生した場合は、次のエラーメッセージをチェックします。

❑ エラーダイアログボックス

エラーが発生すると、エラーダイアログボックスがポップアップ表示されます。

❑ MS-DOS またはターミナルウィンドウ

MS-DOS またはターミナルウィンドウが GUI の起動に使われます。

❑ エラーログファイル

管理サーバー上のエラーログファイル

`/var/opt/OV/log/OpC/mgmt.sv`

その他のサポートしているエージェントのプラットフォームについては、HPOM 管理者にエラーログファイルの場所を尋ねてください。

症状の分析

障害が発生した場合は、関連する症状をすべてメモしておきます。

1. 現象

実際に何が起こりましたか。

現象を書き留めてください。

- エラーメッセージを受け取りましたか。
- ユーザーインターフェースはハングまたはクラッシュしましたか。
- 接続エラー (**communication error**) を受け取りましたか。

2. 範囲

何が影響を受けましたか。

その障害によってどのコンポーネントが影響を受けたかを判断します。

- GUI の障害か、サーバーの障害かを識別します。
- 障害がサーバーに関連すると思われる場合は、別の GUI クライアントで障害を再現できるか試し、クライアント固有の障害かどうか判断します。

3. 状況

何が変更されましたか。

管理対象環境または製品の設定に変更がなかったかどうかを判断します。

- ハードウェア
- ソフトウェア
- ファイル
- セキュリティ
- ネームサービス
- ルーティング
- 使用率

4. 期間

いつ障害が発生しましたか。

発生時間のパターンを判断します（パターンがある場合）。

- どのくらいの期間その障害が継続したか。
- どのくらいの頻度で障害が発生したか。
- 障害は継続的か断続的か。
 - *継続的*
常に異常が発生するという意味です。
 - *断続的*
ときどき異常が発生するという意味です。

トラブルシューティング集

このセクションではよくある障害の解決策を説明します。

❑ HPOM GUI が起動しない

MS-DOS ターミナルウィンドウでエラーメッセージを受け取った場合の対処方法を説明します。

❑ HPOM ツールが起動しない

HPOM に設定済のツールが管理ノード上で起動しなくなった場合の対処方法を説明します。

❑ アクションが完了しない

自動アクション、オペレータ起動アクション、またはスケジュールされたアクションがハングして終了しなくなった場合の対処方法を説明します。

❑ 正しくカラー表示されない

ウィンドウに一色しか表示されない、または色の輪郭しか表示されなくなった場合の対処方法を説明します。

❑ アプレットがワークスペースで起動しない

Java2 アプレットがワークスペースで起動しない場合の対処方法を説明します。

❑ Service Navigator がサービスの定義を見つけられない

Service Navigator がサービスの定義を見つけられない場合の対処方法を説明します。

❑ HTTPS Java GUI の終了時またはログオフ時にエラーメッセージが表示される

HTTPS ベース Java GUI を終了させたとき、またはログオフしたときに、エラーメッセージが表示された場合の対処方法を説明します。

注記

一般的なトラブルシューティングの解決方法については 416 ページの「一般的なトラブルシューティング」を参照してください。

HPOM GUI が起動しない

ログインしようとしてエラーメッセージを受け取った場合には、管理サーバーにアクセスできるかどうか、HPOM サーバープロセスが管理サーバー上で作動しているかどうかを確認します。

障害

ログイン情報を入力すると、エラーボックスに次のメッセージが表示されます。

```
Management server is not running.
```

解決策

以下を行ってください。

1. HPOM 管理サーバーにアクセスできるかどうか確認します。

MS-DOS ターミナルウィンドウから ping コマンドを試します。

```
ping <HPOM_management_server>
```

2. HPOM サーバープロセスが管理サーバー上で実行されているかどうか確認します。

サーバープロセスのステータスを確認するように、HPOM 管理者に依頼します。

HPOM ツールが起動しない

管理対象ノードの HPOM ツールを起動できない場合は、HPOM のデフォルトのツール起動設定を適用するか、カスタマイズした起動オプションを使ってください。

障害 A

ツールをアップグレードしたため、コマンドパス、アクセスのセキュリティまたは他の何かが変更されました。

解決策 A

必要に応じて、HPOM のデフォルトのツール起動を適用します。

障害 B

デフォルトのツール起動用のユーザーパスワードが変更されました。

解決策 B

カスタマイズしたツール起動オプションを使います。詳細は、260 ページの「ツールの起動属性のカスタマイズ」を参照してください。

障害 C

cmd.exe や telnet などの、非グラフィカルインタフェースのツールを起動しても実行していないように見えます。

解決策 C

ツールにグラフィカルインタフェースがないので、実行中であっても目に見えません。このようなツールの起動は、HPOM システム管理者によって Java GUI オペレータのデフォルトの割り当て時に正しく設定されていることが必要です。詳細は、『HPOM システム管理リファレンスガイド』を参照してください。

アクションが完了しない

自動アクション、オペレータ起動アクション、またはスケジュールされたアクションがハングして終了しない場合は、特定のプロセスを強制終了させ、関連するテンプレート条件、スクリプトまたはコマンドを変更します。

障害

自動アクション、オペレータ起動アクションまたはスケジュール済のアクションがハングし、プログラムエラーやユーザー入力待ちなどの原因で終了しません。

解決策

以下を行ってください。

1. ps コマンドを実行し、実行中のままになっているプロセス ID を調べます。
2. プロセス ID を指定して kill コマンドを実行します。
3. 障害の再発を防ぐために、次のどちらかを行ってください。
 - 関連するテンプレート条件を変更します。
 - スクリプトまたはコマンドを修正します。

正しくカラー表示されない

ウィンドウは開くが、一色だけまたは色の輪郭しか表示されない場合は、別のカラースキームを選択し、HPOM を再起動します。

障害

システムのカラースキームの背景色と前景色が同じか、前景と背景との間の色のコントラストが十分ではありません。この障害は他のプラットフォームよりも UNIX システムでよく起こります(たとえば、HP-UX の NorthernSky と Mustard のカラースキームでこの障害が生じます)。

解決策

以下を行ってください。

1. ウィンドウマネージャで別のカラースキームを選択します。
2. HPOM を再起動します。

アプレットがワークスペースで起動しない

ワークスペースで、Java2 アプレットを起動する Web ページにアクセスする場合、Java ベース GUI 自身もアプレットとして起動している必要があります。

障害

ワークスペースで、Java2 アプレットを起動する Web ページを起動すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Attachment to a running Virtual Machine failed
```

解決策

Java GUI 自身もアプレットとして起動している必要があります。以下を行ってください。

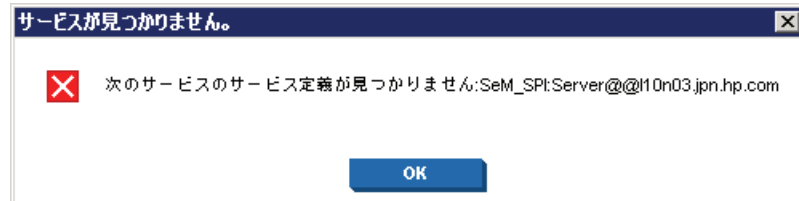
1. 現在の GUI セッションを終了します。
2. [スタート : プログラム -> HP OpenView Operations for UNIX -> JAVA Console Plugin] で、Java GUI を起動します。

Service Navigator がサービスの定義を見つけられない

Service Configuration for Service Navigator により、メッセージは複数のサービスをターゲットにできます。サービスに関連するメッセージの操作（たとえば、選択したメッセージからサービスグラフを開く）は、複数のサービスに影響があります。したがって、あるサービスが、オペレータの担当範囲マトリックスにない場合、次のメッセージが表示されます。

図 A-1

サービスが見つかりません



障害

次の操作をすると、エラーメッセージ「サービスが見つかりません」が表示されます。

- オブジェクトペインから関連サービスを選択
- グラフの表示
- サブマップの表示
- 影響を受けるサービスを検索

解決策

オペレータがアクセスしようとしているサービスは、オペレータの担当範囲ではありません。したがって、表示されません。

HTTPS Java GUI の終了時またはログオフ時に エラーメッセージが表示される

障害

HTTPS Java GUI の終了時またはログオフ時に、次のようなエラーメッセージが表示される。

```
ERROR MSG, 7:42:47 AM, com.hp.ov.it.comm.OvEmbHttpClient:  
https status - InternalServerError:text/html,  
Message = HTTP/1.1 500 Internal Server Error  
Date: Wed, 11 May 2005 05:41:57 GMT  
Transfer-Encoding: chunked  
Server: BBC 05.20.010; opcuihttps 01.00.000  
senderid: e6979118-aca1-750b-1f6a-de6eb9cfe391  
Cache-Control: no-cache  
Content-Type: text/html
```

解決策

このメッセージは無視して構いません。

トラブルシューティング
トラブルシューティング集

B リファレンス

この付録では

この付録には、次の詳細な参考資料があります。

□ キーボードショートカット

メニューバーとポップアップメニューのコマンドを、マウスを使わずにキーボードで入力する方法を説明します。

□ メニューバー項目

メニューバーの項目を説明します。メニューバーの概要は 83 ページの「メニューバー」を参照してください。

□ ツールバーアイコンとドロップダウンリスト

ツールバーのアイコンについて説明します。ツールバーの概要については、84 ページの「ツールバー」を参照してください。

□ ポップアップメニュー項目

Java GUI のポップアップメニュー項目を説明します。Java GUI の概要は 42 ページの「HPOM Java GUI 概要」を参照してください。

□ ダイアログボックス

Java GUI のダイアログボックスで使用できるオプションを説明します。

□ [ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード

ツールの事前に設定された起動属性の変更方法を説明します。

□ メッセージブラウザヘッダー

メッセージブラウザのヘッダーで使用できるデフォルトの要素を説明します。

□ メッセージ関連の変数

HPOM メッセージで使用されるメッセージ関連の拡張変数のパラメータを説明します。メッセージ関連の拡張変数の概要は 159 ページの「HPOM 変数の追加」を参照してください。

□ HPOM 変数

HPOM で使用したり外部プログラムに渡す変数を説明します。

□ **itooibrw** ファイル

itooibrw ファイルで、メッセージブラウザレイアウトをカスタマイズして保存する方法を説明します。メッセージブラウザのカスタマイズの概要は 321 ページの「ブラウザウィンドウのレイアウトを変更するには」と 318 ページの「ブラウザのレイアウトを保存するには」を参照してください。

□ **ito_op** 起動オプション

ito_op 起動スクリプトで **JAVA GUI** を起動した場合に、**JAVA GUI** が評価する起動オプションについて説明します。

□ **itooirc** リソースファイル

オペレータの表示設定を保存する itooirc ファイルに追加できるオプションについて説明します。

キーボードショートカット

Java GUI では、マウスを使わずにキーボードからもコマンドを入力できます。

Java GUI には、2 種類のキーボードショートカットがあります。

□ キーアクセラレータ

キーアクセラレータを使うと、メニューを開かずに各機能に直接アクセスできます。キーアクセラレータは、Java GUI で最も一般的に実行される作業に対して設定されています。たとえば、コンソールセッション設定を保存するためのキーアクセラレータは、**CTRL+S** です。

Java GUI のキーアクセラレータのリストについては、**433** ページの「Java GUI のキーアクセラレータ」を参照してください。

□ キーニーモニック

メニューを表示してキーニーモニックを使うと、キー操作でメニュー項目にジャンプできます。キーニーモニックは、ほぼすべてのメニューコマンドで使用できます。メニューバーとポップアップメニューではコマンドのキーニーモニックが異なります。

- メニューバー

ALT キーを押しながら、実行するメニューに対応する下線付き文字のキーを押します。たとえば、[**ファイル** : **コンソールセッションの設定の保存**] を選択するには、**ALT** キーを押しながら、**F** キー、**S** キーの順に押します (**ALT+FS**)。

メニューバーで使えるオプションとキーニーモニックについては、**435** ページの「メニューバー項目」を参照してください。

- ポップアップメニュー

ポップアップメニューを表示するには、項目を右クリックで選択するか、項目を選択して **SHIFT+F10** キーを押します。たとえば、特定のノードでフィルター処理済アクティブメッセージブラウザを作成する場合、ノードを右クリックして **A** キーを押します。または、そのノードをクリックし、**SHIFT** キーを押しながら **F10** キーを押して **A** キーを押します (**SHIFT+F10+A**)。

ポップアップメニューで使用可能なオプションとキーニーモニックについては、**464** ページの「ポップアップメニュー項目」を参照してください。

Java GUI のキーアクセラレータ

表 B-1 に Java GUI で使うキーアクセラレータを示します。

表 B-1 Java GUI のキーアクセラレータ

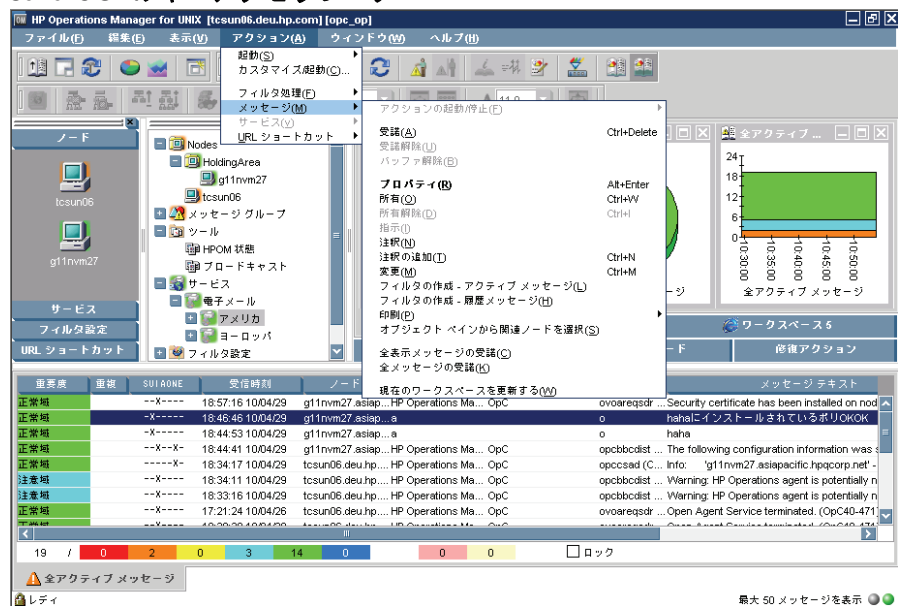
キーアクセラレータ	動作
ALT+ENTER	選択された 1 つのメッセージまたは選択された複数のサービスに対して [プロパティ] ダイアログボックスを表示
CTRL+ プラス記号 (+)、または CTRL+ マイナス記号 (-)	すべてのグラフとカスタムマップをズームイン / ズームアウト
CTRL+F6 または CTRL+SHIFT+F6	次 / 前の内部ウィンドウに移動
CTRL+DEL	選択したメッセージの受諾
CTRL+SHIFT+S	取り外したメッセージブラウザのみ。取り外したブラウザのステータスの概要エリアの表示と非表示を切り替えます。
CTRL+SHIFT+H	取り外したメッセージブラウザのみ。取り外したブラウザの水平スクロールバーの表示と非表示を切り替えます。
CTRL+TAB または CTRL+SHIFT+TAB	次 / 前のワークスペースタブに移動
CTRL+C	メッセージのコピー
CTRL+F	オブジェクトペインでオブジェクトを検索
CTRL+I	選択したメッセージの所有解除
CTRL+M	選択したメッセージの変更
CTRL+N	選択したメッセージに注釈を追加
CTRL+P	選択したメッセージの印刷
CTRL+S	コンソールセッション設定の保存
CTRL+U	新しい URL ショートカットの追加
CTRL+V	メッセージのペースト。メッセージのフィールドはタブで区切られます。この処理によって、Excel のスプレッドシートで各メッセージが個別のカラムに配置されるので、メッセージを整理しやすくなります。
CTRL+W	選択したメッセージの所有

表 B-1 Java GUI のキーアクセラレータ (続き)

キーアクセラレータ	動作
DEL	メッセージの受諾 ([確認] ダイアログボックス付き)
F1	Java GUI オンラインドキュメントの内容を表示
F5	Java GUI のオブジェクトのステータスを更新
F6 または SHIFT+F6	次 / 前のエリアペインに移動

Java GUI のキーアクセラレータのメニュー内での表示については、434 ページの図 B-1 を参照してください。

図 B-1 Java GUI のキーアクセラレータ



メニューバー項目

このセクションでは、メニューバーで使用できるメニュー項目を説明します。

□ **[ファイル]メニュー**

436 ページの「[ファイル]メニュー」を参照してください。

□ **[編集]メニュー**

439 ページの「[編集]メニュー」を参照してください。

□ **[表示]メニュー**

440 ページの「[表示]メニュー」を参照してください。

□ **[アクション]メニュー**

446 ページの「[アクション]メニュー」を参照してください。

□ **[ウィンドウ]メニュー**

457 ページの「[ウィンドウ]メニュー」を参照してください。

□ **[ヘルプ]メニュー**

458 ページの「[ヘルプ]メニュー」を参照してください。

メニューバーの概要は 83 ページの「メニューバー」を参照してください。

注記

Service Navigator をインストールしている場合、**[アクション]メニュー**から追加のメニューバーオプションが使用できます。

[ファイル]メニュー

メニューバーの [ファイル] メニュー (**ALT+F**) には、次の項目があります。

コンソールセッションの設定の保存 (**ALT+FS**)

[表示設定] ダイアログボックスで行った変更だけでなく、ツールバー、ポジションコントロール、ショートカットバー、オブジェクトペインおよびブラウザペインに対して行ったカスタマイズをすべて保存します。詳細は 274 ページの「**HPOM** のカスタマイズ」と 547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」を参照してください。**Java GUI** を次に起動したときに、保存した設定が読み込まれ復元されます。

ページ設定 ... (**ALT+FU**)

プリンターの表示設定を行えます。

印刷 ... (**Alt+FP**)

アクティブペインを印刷します。**Java Runtime** の印刷ダイアログボックスから、プリンター、印刷表示設定、ファイルに出力するかどうか、印刷するページ番号、印刷部数、両面印刷などを選択できます。詳細は 266 ページの「**HPOM** メッセージおよびアプリケーションの出力の印刷」を参照してください。

エクスポート ... (**ALT+FE**)

任意の形式のファイル (テキストファイルなど) に 1 つ以上の選択されたメッセージを保存します。詳細は 102 ページの「**Java GUI** と他のアプリケーションとの間のドラッグアンドドロップ操作」を参照してください。

パスワードの変更 (**ALT+FH**)

[オペレータのパスワードを変更] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスのオプションについては 512 ページの「[オペレータのパスワードの変更] ダイアログボックス」を参照してください。

オペレータにメッセージを送信 (ALT+FT)

[オペレータにメッセージを送信] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスのオプションについては 557 ページの「[オペレータにメッセージを送信] ダイアログボックス」を参照してください。

デフォルト設定の再ロード (ALT+FD)

ツールバー、ポジションコントロール、ショートカットバー、オブジェクトペイン、ワークスペースペイン、ブラウザペインに関して管理者が指定したデフォルトの表示設定と、管理者が [表示設定] ダイアログボックスで行った変更を再ロードします。

注意

このオプションは、個人の表示設定を上書きします。これは復元できません。

これらのデフォルトを変更する方法は、274 ページの「HPOM のカスタマイズ」および 547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」を参照してください。この表示設定のいずれかを変更した場合は、メニューバーの [ファイル：コンソールセッションの設定の保存] で保存する必要があります。詳細は 436 ページの「[ファイル] メニュー」を参照してください。Java GUI を次に起動したときに、保存した設定が読み込まれ復元されます。

設定の再ロード (ALT+FA)

HPOM 管理者が Java GUI に割り当てたノード、メッセージグループ、サービス (Service Navigator がインストールされている場合) などの設定データを再ロードします。

ログオフ ... (ALT+FG)

Java GUI からログアウトします。ログアウトする前に警告ボックスが表示され、この後のセッションに備えてコンソールセッションの変更を保存するか確認します。

終了 (ALT+FX)

Java GUI を終了します。現在のセッションでコンソールに対して変更を行うと、**Java GUI** をシャットダウンする前に、その変更を今後のセッションで使えるように保存しておくかどうか尋ねる警告ボックスが表示されます。

[編集]メニュー

メニューバーの [編集] メニュー (**ALT+E**) には、次の項目があります。

クリップボードにコピー (**ALT+EC**)

選択したテキストをシステムのクリップボードにコピーします。

検索 ... (**ALT+EF**)

項目名を入力して、オブジェクトツリーにある指定した項目を検索できます。オプションとして、完全一致、大文字小文字の区別、またはその両方を選択できます。検索条件に一致する項目が見つかったら、その項目はオブジェクトペイン内で強調表示されます。オブジェクトツリーが縮小表示されていて項目が見えない場合は、ツリーが展開表示され、項目がオブジェクトペインの表示可能エリアにスクロールされます。検索は、選択された項目ではなく、オブジェクトツリーの 1 番上から開始します。検索機能の概要は 120 ページの「オブジェクトペインの検索」を参照してください。[検索] ダイアログボックスの詳細は 525 ページの「[検索] ダイアログボックス」を参照してください。

表示設定 ... (**ALT+EP**)

[表示設定] ダイアログボックスを開きます。[表示設定] ダイアログボックスの詳細は 547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」を参照してください。

[表示]メニュー

メニューバーの [表示] メニュー (**ALT+V**) には、次の項目があります。

ショートカットバー (**ALT+VS**)

ショートカットバーの表示と非表示を切り替えます。メニュー項目を選択している場合は、ショートカットバーが使用できます。選択していない場合は、ショートカットバーは使用できません。ショートカットバーの概要は 45 ページの「ショートカットバー」を参照してください。

オブジェクトペイン (**ALT+VO**)

オブジェクトペインの表示と非表示を切り替えます。メニュー項目を選択している場合は、オブジェクトペインが使用できます。選択していない場合は、オブジェクトペインは使用できません。オブジェクトコントロールの概要は 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

ブラウザペイン (**ALT+VB**)

ブラウザペインの表示と非表示を切り替えます。メニュー項目を選択している場合は、ブラウザペインが使用できます。選択していない場合は、ブラウザペインは使用できません。ブラウザペインの概要は 68 ページの「ブラウザペイン」を参照してください。

ポジションコントロール (**ALT+VP**)

ポジションコントロールの表示と非表示を切り替えます。メニュー項目を選択している場合は、**Java GUI** でポジションコントロールが使用できます。選択していない場合は、ポジションコントロールは使用できません。ポジションコントロールの概要は 85 ページの「ポジションコントロール」を参照してください。

ナビゲーションパネル (ALT+VA)

ナビゲーションパネルの表示と非表示を切り替えます。メニュー項目を選択している場合は、ナビゲーションパネルが使用できます。選択していない場合は、ナビゲーションパネルは使用できません。

ナビゲーションパネルには、ツールバーからもアクセスできます。ツールバーとドロップダウンリストの詳細は 459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照してください。

サービスグラフとマップのナビゲートについては、382 ページの「サービスグラフとマップのナビゲート」を参照してください。

メインツールバー (ALT+VT) (または、取り外しウィンドウのツールバー (ALT+VT))

ツールバーコンポーネントの表示と非表示を切り替えます。これらのコンポーネントに属するアイコンについては、459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照してください。

メッセージブラウザツールバー (ALT+VTB)

チェックされている場合は、このツールバーコンポーネントに属するアイコンはすべてツールバーに表示されます。

メッセージツールバー (ALT+VTM)

チェックされている場合は、このツールバーコンポーネントに属するアイコンはすべてツールバーに表示されます。

サービスツールバー (ALT+VTS)

チェックされている場合は、このツールバーコンポーネントに属するアイコンはすべてツールバーに表示されます。

メッセージブラウザアイコン (ALT+VM)

以下の場所の、メッセージブラウザアイコンの表示と非表示を切り替えます。ツールバーアイコンについては、[459 ページ](#)の「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照してください。

メインのツールバーに表示 (ALT+VMM)

チェックすると、アイコンがツールバーに表示されます。

ワークスペースに表示 (ALT+VMW)

チェックすると、アイコンがワークスペースペインの各メッセージブラウザに表示されます。

ブラウザペインに表示 (ALT+VMB)

チェックすると、ブラウザペインのメッセージブラウザにアイコンが表示されます。

ブラウザステータスの概要 (ALT+VS)

取り外したメッセージブラウザのみ。取り外したブラウザのステータスの概要エリアの表示と非表示を切り替えます。取り外したウィンドウの概要は [92 ページ](#)の「取り外したウィンドウ」を参照してください。

水平スクロールバー (ALT+VH)

取り外したメッセージブラウザのみ。取り外したブラウザの水平スクロールバーの表示と非表示を切り替えます。取り外したウィンドウの概要は [92 ページ](#)の「取り外したウィンドウ」を参照してください。

メッセージ数 (ALT+VN)

アクティブメッセージブラウザでメッセージを表示する方法を、[2](#)つの方法から選ぶことができます。

注意

全メッセージを表示すると、大量のメッセージが割り当てられている場合に問題を引き起こすことがあります。同様に、表示するメッセージを 50 個だけにしたために、危険域のメッセージが表示されず問題を引き起こす場合もあります。これらの問題を防ぐには、メッセージを重要度でソートします (321 ページの「ブラウザウィンドウのレイアウトを変更するには」を参照)。また、特定の要望に合わせて、メッセージフィルターを作成する方法もあります。299 ページの「フィルター処理済メッセージブラウザの作成」を参照)。

最新メッセージ (ALT+VNL)

デフォルトで、アクティブメッセージブラウザに 50 個の最新メッセージを表示します。表示するメッセージ数の変更方法は、323 ページの「表示するメッセージ数を変更するには」を参照してください。

全メッセージ (ALT+VNA)

アクティブメッセージブラウザに、現在、自分に割り当てられているすべてのメッセージを表示します。

メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ (ALT+VU)

[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスが開き、表示するメッセージブラウザのカラムやカラムラベルのテキストを指定できます。また、カスタムメッセージ属性も追加できます。[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスのオプションについては、513 ページの「[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックス」を参照してください。カスタムメッセージ属性の概要は 135 ページの「カスタムメッセージ属性」を参照してください。

メッセージブラウザのレイアウトの保存 (ALT+VL)

新しいブラウザレイアウトを次のいずれかで保存します。

デフォルトとして保存 (ALT+VLD)

新規ブラウザレイアウト (表示順、表示幅、ソート順、カラムの選択) をアクティブ (ALT+VLDA)、履歴 (ALT+VLDH)、またはペンディング (ALT+VLDP) メッセージブラウザの新規デフォルトとして保存します。

フィルター名で保存 (ALT+VLF)

現在選択している (最も前面にある) フィルター処理済メッセージブラウザに対して、新しいブラウザレイアウト (表示順、幅、ソート順、およびカラム選択) を保存します。

メッセージブラウザ (ALT+VG)

以下のブラウザペインポップアップメニュー項目とツールバーメニュー項目にアクセスします。項目の詳細は 493 ページの「ブラウザペインのポップアップメニュー項目」と 459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照してください。

グラフの表示 (ALT+VGS)

493 ページの「ブラウザペインのポップアップメニュー項目」および
459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照してください。

ブラウザペインのタブプロパティ (ALT+VGP)

494 ページの「ブラウザペインのブラウザタブ用ポップアップメニュー」の「プロパティ」を参照してください。

ブラウザペインタブのクローズ (ALT+VGL)

494 ページの「ブラウザペインのブラウザタブ用ポップアップメニュー」の「クローズ」を参照してください。

現況グラフ (ALT+VGC)

459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」の「現況グラフ表示に切り替える」を参照してください。

傾向グラフ (ALT+VGH)

459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」の「傾向グラフ表示に切り替える」を参照してください。

ブラウザペインにメッセージブラウザをおく (ALT+VGB)

459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照してください。

ワークスペースペインにメッセージブラウザをおく (ALT+VGB)

459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照してください。

ワークスペースペイン (ALT+VT)

次のワークスペースペインのポップアップメニュー項目にアクセスします。オプションについては、485 ページの「ワークスペースペインのポップアップメニュー項目」を参照してください。

- ワークスペースのプロパティ (ALT+VTW)
- ワークスペースの削除 (ALT+VTD)
- 新規ワークスペース (ALT+VTN)
- 選択ウィンドウの移動先 (ALT+VTM)

ウィンドウを取り外す (ALT+VD)

選択したウィンドウをメインの **Java GUI** ウィンドウから取り外し、画面中央に配置します。取り外したウィンドウの概要は **92** ページの「取り外したウィンドウ」を参照してください。

ウィンドウを取り付ける (ALT+VC)

取り外したメッセージブラウザのみ。現在選択しているワークスペースに、取り外したウィンドウを取り付けます。取り外したウィンドウの概要は **92** ページの「取り外したウィンドウ」を参照してください。

オブジェクトペインを展開表示する (ALT+VE)

オブジェクトツリーで選択した項目のすべての分岐を展開表示します。オブジェクトツリーの分岐の横にあるプラス記号 (+) をクリックすることと同じです。オブジェクトツリーの概要は **48** ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

オブジェクトペインを縮小表示する (ALT+VC)

オブジェクトツリーで選択した項目のすべての分岐を縮小表示します。オブジェクトツリーの分岐の横にあるマイナス記号 (-) をクリックすることと同じです。オブジェクトツリーの概要は **48** ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

再表示 (ALT+VR)

ノード、メッセージグループ、メッセージグラフおよびサービス (**Service Navigator** をインストールしている場合) のステータスを再表示します。

[アクション]メニュー

注記

Service Navigator をインストールしている場合、[アクション]メニューから追加のメニューバーオプションが使用できます。

メニューバーの [アクション] メニュー (ALT+A) には、次の項目があります。

起動 (ALT+AS)

HPOM 管理者が割り当てたツールを起動できるようにします。

カスタマイズ / 起動 ... (ALT+AC)

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードを開きます。ウィザードのオプションについては、569 ページの「[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード」を参照してください。

フィルター処理 (ALT+AF)

必要に合わせて、フィルター処理したメッセージブラウザの作成と変更ができます。

フィルター処理済新規アクティブブラウザ ... (ALT+AFA)

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスを開き、新しいフィルター処理済新規アクティブメッセージブラウザを作成できます。[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスのオプションについては、518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。フィルター処理済アクティブメッセージブラウザの概要は 75 ページの「フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ」を参照してください。

フィルター処理済新規履歴ブラウザ ... (ALT+AFH)

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスを開き、新しいフィルター処理済新規履歴メッセージブラウザを作成できます。[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスのオプションについては、518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を

参照してください。フィルター処理済履歴メッセージブラウザの概要は 77 ページの「フィルター処理済履歴メッセージブラウザ」を参照してください。

フィルター処理済新規ペンディングブラウザ ... (ALT+AFP)

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスを開き、フィルター処理済新規ペンディングメッセージブラウザを作成できます。[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスのオプションについては、518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザの概要は 79 ページの「フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザ」を参照してください。

全アクティブメッセージ (ALT+AFL)

デフォルトでは、50 個の最新メッセージを表示するブラウザを開きます。表示するメッセージ数の変更方法は、323 ページの「表示するメッセージ数を変更するには」を参照してください。

フィルターの変更 ... (ALT+AFM)

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスを開き、選択したフィルター処理済メッセージブラウザの定義を編集できます。[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスのオプションについては、518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。

選択したフィルター処理済ブラウザのコピー (ALT+AFN)

ツールバーの [同じフィルターを使って新しいメッセージブラウザウィンドウを開く] アイコンと同じ動作です。詳細は 459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照してください。

フィルターの削除 (ALT+AFR)

選択したフィルター処理済メッセージブラウザの定義を削除します。

フィルター処理済ブラウザのクローズ (ALT+AFC)

選択したフィルター処理済メッセージブラウザを閉じます。

ブラウザ設定の保存 ... (ALT+AFS)

フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ、フィルター処理済履歴メッセージブラウザ、フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザのウィンドウの設定を保存します。今後、同じ設定作業を繰り返さなくても、同じまたは同様の情報を見ることができます。

保存されたブラウザ設定の使用 ... (ALT+AFU)

ブラウザフィルターを再使用できます。

メッセージ表示フィルター... (ALT+AFO)

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスが開き、メッセージ表示フィルターを作成、保存、およびロードできます。

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスのオプションについては、538 ページの「[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックス」を参照してください。メッセージ表示フィルターの概要は 198 ページの「メッセージ表示フィルターの設定」を参照してください。

メッセージ表示フィルターの削除 (ALT+AFE)

メッセージブラウザでメッセージ表示フィルターを削除します。

メッセージ表示フィルターの削除については、316 ページの「メッセージブラウザカラムのフィルターを削除する」を参照してください。

メッセージ (ALT+AM)

アクションの停止と起動、メッセージの受諾解除、メッセージのバッファ解除、メッセージのプロパティの変更、メッセージの所有と所有解除などをできるようにします。

アクションの起動 / 停止 (ALT+AMF)

[メッセージブラウザ] で選択したメッセージに関連したアクションを起動または停止します。

次のいずれかを選択します。

- オペレータ起動アクションの起動 (ALT+AMFP)
- 自動アクションの再起動 (ALT+AMFR)
- オペレータ起動アクションの停止 (ALT+AMFO)
- 自動アクションの停止 (ALT+AMFA)

受諾 (ALT+AMA)

選択したメッセージをアクティブメッセージブラウザから履歴データベースに戻します。詳細は 271 ページの「選択したメッセージの受諾」を参照してください。

受諾解除 (ALT+AMU)

選択したメッセージを履歴データベースからアクティブメッセージブラウザに戻します。詳細は 272 ページの「メッセージの受諾解除」を参照してください。

バッファ解除 (ALT+AMB)

選択したメッセージをペンディングメッセージブラウザからアクティブメッセージブラウザに移動します。詳細は 249 ページの「ペンディングメッセージのバッファ解除」を参照してください。

プロパティ (ALT+AMR)

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスのオプションについては 531 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

所有 (ALT+AMO)

選択したメッセージを所有します。詳細は 248 ページの「メッセージの所有」を参照してください。

所有解除 (ALT+AMD)

選択したメッセージを所有解除します。詳細は 248 ページの「メッセージの所有解除」を参照してください。

指示 (ALT+AMI)

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [指示] タブを開きます。このタブの詳細は 536 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [指示] タブ」を参照してください。

注釈 (ALT+AMN)

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [注釈] タブを開きます。このタブの詳細は 536 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [注釈] タブ」を参照してください。

変更 (ALT+AMM)

[メッセージ属性の変更] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスのオプションについては 543 ページの「[メッセージ属性の変更] ダイアログボックス」を参照してください。

フィルターの作成 - アクティブメッセージ (ALT+AML)

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスを開きます。メッセージに関連するフィールドがすでに選択されています(たとえば、[重要度で] チェックボックスで重要度が選択されています)。[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスを使って、不要な項目を選択解除できます。このダイアログボックスのオプションについては 518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。

印刷 (ALT+AMP)

選択したメッセージ (ALT+AMPS)、メッセージブラウザのすべてのメッセージ (ALT+AMPA)、選択したメッセージの詳細 (ALT+AMPD)、またはメッセージブラウザのすべてのメッセージの詳細 (ALT+AMPE) を印刷できるようにします。印刷ダイアログボックスから、プリンター、プリント表示設定、ファイルに印刷するかどうか、印刷するページ番号、印刷部数、両面印刷するかどうかなどを選択できます。詳細は 266 ページの「HPOM メッセージおよびアプリケーションの出力の印刷」を参照してください。

オブジェクトペインから関連ノードを選択 (ALT+AMS)

選択したメッセージを生成したノードを、オブジェクトペインで強調表示します。たくさんのノードがあり、特定のメッセージに関連するノードの位置をすぐに探したいときに便利です。オブジェクトツリーの概要は 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

全表示メッセージの受諾 (ALT+AMC)

選択したメッセージブラウザで全メッセージを受諾します。詳細は 270 ページの「メッセージの受諾」を参照してください。

全メッセージの受諾 (ALT+AMK)

すべてのメッセージブラウザの全メッセージを受諾します。

現在のワークスペースを更新する (ALT+AMW)

選択したメッセージに対応する URL ツールを更新します。

ワークスペースが、Microsoft Internet Explorer ActiveX コントロールをサポートしている場合に限り、有効です。

サービス (ALT+AV)

HP Operations Service Navigator を使用している場合は、HPOM [アクション] メニューの [サービス] サブメニューで次の追加項目を利用できます。この項目は、標準の HPOM 製品に付属のメニューバー項目を補足します。

プロパティ... (ALT+AVR)

[サービスプロパティ] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスの概要は 559 ページの「[サービスプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

グラフの表示 (ALT+AVG)

選択したサービスのサービスグラフを開きます。詳細は 373 ページの「サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ」を参照してください。

サブマップの表示 (ALT+AVB)

選択したサービスの下位サービスのサブマップを開きます。詳細は 373 ページの「サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ」を参照してください。

カスタムマップに表示 (ALT+AVT)

選択したサービスのカスタムサービスマップを表示します。詳細は 373 ページの「サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ」を参照してください。

アクティブブラウザのフィルター処理 (ALT+AVA)

選択したサービスに関連するフィルター処理済アクティブメッセージを含むメッセージブラウザを開きます。フィルター処理済アクティブメッセージブラウザの概要は 75 ページの「フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ」を参照してください。

履歴ブラウザのフィルター処理 (ALT+AVH)

選択したサービスに関連するフィルター処理済履歴メッセージを含むメッセージブラウザを開きます。フィルター処理済履歴メッセージブラウザの概要は 77 ページの「フィルター処理済履歴メッセージブラウザ」を参照してください。

障害原因を検索 (ALT+AVO)

選択したサービスに対する障害原因グラフを開きます。障害原因の詳細は 407 ページの「障害原因を識別するには」を参照してください。

影響を受けるサービスを検索 (ALT+AVI)

選択したサービスに対して影響を受けるサービスのグラフを開きます。影響を受けるサービスの詳細は 408 ページの「影響を受けるサービスを識別するには」を参照してください。

オブジェクトペインから関連ノードを選択 (ALT+AVN)

オブジェクトペインで選択したノードを強調表示します。オブジェクトペインの概要は 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

オブジェクトペインから関連サービスを選択 (ALT+AVV)

オブジェクトペインで選択したサービスを強調表示します。オブジェクトペインの概要は 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

サービスビューから検索 (SHIFT+F10+VVF)

[サービスビュー] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスの概要は 563 ページの「[サービスビュー] ダイアログボックス」を参照してください。

サービスグラフレベルの縮小表示 (ALT+AVL)

サービスグラフのサービスツリーを 1 レベル縮小表示します。ツリーの開いた分岐すべての横にあるマイナス記号 (-) をクリックすることと同じです。

サービスグラフレベルの展開表示 (ALT+AVE)

サービスグラフのサービスツリーを 1 レベル縮小表示します。ツリーの閉じた分岐すべての横にあるプラス記号 (+) をクリックすることと同じです。

起動 (ALT+AVS)

HPOM 管理者が割り当てたツールを起動できるようにします。

カスタマイズ / 起動 ... (ALT+AVC)

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードを開きます。ウィザードのオプションについては、569 ページの「[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード」を参照してください。

URL ショートカット (ALT+AU)

URL ショートカットの追加、起動、削除、変更をできるようにします。詳細は 466 ページの「ショートカットバーのポップアップメニュー項目」を参照してください。

[ウィンドウ]メニュー

メニューバーの [ウィンドウ] メニュー (**ALT+W**) には、次の項目があります。

次のウィンドウ (**ALT+WN**)

ワークスペースペインの中で選択を次のウィンドウに移動します。

前のウィンドウ (**ALT+WP**)

ワークスペースペインの中で選択を前のウィンドウに移動します。

重ねて表示 (**ALT+WC**)

[ワークスペースペイン] ウィンドウをトランプのように重ねて表示します。

上下に並べて表示 (**ALT+WH**)

ウィンドウを上下に並べます。

左右に並べて表示 (**ALT+WV**)

ウィンドウを左右に並べます。

ウィンドウがメインの **Java GUI** ウィンドウから切り離されている場合は、[ウィンドウ]メニューにウィンドウタイトルのリストが表示されることがあります。このリストの項目を選択すると、取り外したウィンドウが画面の前面に表示されます。

[ヘルプ] メニュー

メニューバーの [ヘルプ] メニュー (**ALT+H**) には、次の項目があります。

目次 (**ALT+HC**)

HPOM オンラインドキュメントの目次を表示します。初めて選択するときは、使用する **Web** ブラウザのパスを指定するよう要求されます。

ホームページ (**ALT+HH**)

HP Operations Support にリンクします。

<http://support.openview.hp.com/support.jsp?FromPROD=ito>

バージョン情報 (**ALT+HA**)

インストールされている **HPOM** のバージョン情報を表示します。

ツールバーアイコンとドロップダウンリスト

以下に、各コンポーネントのツールバーに含まれるアイコンを、コンポーネント別に示します。

□ メッセージブラウザツールバー

メッセージブラウザツールバーコンポーネントには次のツールバーアイコンがあります。



ブラウザペインにメッセージブラウザをおく
メッセージブラウザをブラウザペインに移動します。



ワークスペースペインにメッセージブラウザをおく
メッセージブラウザをワークスペースペインに移動します。



ウィンドウを取り外す
選択したウィンドウをメインの Java GUI ウィンドウから取り外して、画面中央に配置します。



現在のワークスペースを更新する
現在のワークスペースを更新します。ワークスペースが、Microsoft Internet Explorer ActiveX コントロールをサポートしている場合に限り、有効です。



現況グラフ表示に切り替える
表示を現況グラフ表示に切り替えます。



傾向グラフ表示に切り替える
表示を傾向グラフに切り替えます。



同じフィルターを使って新しいメッセージブラウザウィンドウを開く
同じフィルターを使って新しいメッセージブラウザウィンドウを開きます。



水平スクロールバーの表示と非表示を切り替える
取り外したメッセージブラウザのみ。取り外したブラウザの水平スクロールバーの表示と非表示を切り替えます。

□ メッセージツールバー

メッセージツールバーコンポーネントには次のツールバーアイコンがあります。

**印刷**

現在のウィンドウを印刷します。

**選択したオブジェクトの受諾**

選択したメッセージを受諾します。

**選択したオブジェクトの受諾解除**

選択したメッセージを受諾解除します。

**プロパティの表示**

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスを開きます (531 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックス」を参照)。

**メッセージブラウザの再表示**

Java GUI を再表示します。メニューバーの [表示 : 再表示] の選択と同じです (440 ページの「[表示] メニュー」を参照)。

**選択したオブジェクトの所有**

選択したオブジェクトを所有します。

**選択したオブジェクトの所有解除**

選択したオブジェクトを所有解除します。

**メッセージ指示の表示**

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスで [指示] タブを開きます (536 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [指示] タブ」を参照)。

**アクション起動**

選択したメッセージに対応するオペレータ起動アクションを起動します。

**メッセージ注釈の表示**

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスで [注釈] タブを開きます (536 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [注釈] タブ」を参照)。



メッセージ表示フィルターのダイアログボックスを開く

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスを開きます (538 ページの「[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックス」を参照)。



全メッセージの表示

[最新メッセージの表示] と切り替えて、メッセージブラウザにすべてのメッセージを表示します。



最新メッセージの表示

[全メッセージの表示] と切り替えて、メッセージブラウザに最新の 50 メッセージを表示します。

□ サービスツールバーコンポーネント

サービスツールバーコンポーネントには次のツールバーアイコンがあります。



サービスプロパティの表示

[サービスプロパティ] ダイアログボックスを開きません (559 ページの「[サービスプロパティ] ダイアログボックス」を参照)。



障害原因サービスの表示

問題の原因となったサービスを表示します。



影響を受けるサービスの表示

その問題から影響を受けるサービスを表示します。



サービスグラフレベルの縮小表示

オブジェクトツリー内のサービスレベルとワークスペースペイン内のサービスグラフを縮小表示します。



サービスグラフレベルの縮小表示

オブジェクトツリー内のサービスレベルとワークスペースペイン内のサービスグラフを展開表示します。



ナビゲーションパネルの表示 / 非表示

サイズ変更が可能なナビゲーションパネルを開きます。これを使うと、サービスグラフまたはマップを簡単にナビゲートできるので、サービスの概要をよく把握することができます。ナビゲーションパネルを使ったナビゲート方法の詳細は 382 ページの「ナビゲーションパネルを使用したナビゲート」を参照してください。



サービスグラフィレイアウトのカスタマイズ

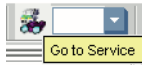
カスタマイズされたサービスレイアウトと自動サービスレイアウトを切り替えます。



別ビューへの切り替え

マップビューとテーブルビューを切り替えます。

サービスツールバーコンポーネントには、次のドロップダウンリストもあります。



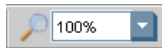
【サービスに移動】ドロップダウンリスト

現在 **Java GUI** キャッシュに入っているサービスのリストです。サービスを選択すると、そのサービスはサービスグラフまたはマップの中央に表示され、隣接するサービスがその周りに表示されます。

注記

【サービスに移動】ドロップダウンリストは、ツールバーリストからのみ使用できます。

詳細は **84** ページの「サービスに移動」を参照してください。



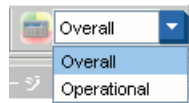
【ズーム】ドロップダウンリスト

既定のズーム倍率（パーセント単位、**5%** ～ **100%**）が入っています。サービスグラフとマップのズーム倍率の詳細は **381** ページの「サービスグラフおよびマップのクイックズーム」を参照してください。



【フォントサイズ】ドロップダウンリスト

サービスグラフとマップに対する、既定のフォントサイズ値が入っています。サービスグラフとマップのフォントサイズ変更の詳細は **191** ページの「サービスグラフとマップのフォントサイズのカスタマイズ」を参照してください。



【ステータス計算】ドロップダウンリスト

サービスのステータス計算ビューとして2つのビュー (Overall と Operational) が用意されています。ただし、これらのビューを設定できるのは、現在アクティブになっているサービスグラフとサービスマップだけです。サービスステータスの計算の詳細は 364 ページの「サービス複数ステータス計算ビュー」を参照してください。

注記

ツールバーの概要は 84 ページの「ツールバー」を参照してください。

ポップアップメニュー項目

このセクションでは、Java GUI の 5 つの主なエリアの各ポップアップメニューを説明します。

□ ツールバー

ツールバーの各エリアにあるポップアップメニューの詳細は 465 ページの「ツールバーのポップアップメニュー項目」を参照してください。

□ ショートカットバー

ワークスペースペインの各エリアにあるポップアップメニューの詳細は 466 ページの「ショートカットバーのポップアップメニュー項目」を参照してください。

□ オブジェクトペイン

ワークスペースペインの各エリアにあるポップアップメニューの詳細は 474 ページの「オブジェクトペインのポップアップメニュー項目」を参照してください。

□ ワークスペースペイン

ワークスペースペインの各エリアにあるポップアップメニューの詳細は 485 ページの「ワークスペースペインのポップアップメニュー項目」を参照してください。

□ ブラウザペイン

ワークスペースペインの各エリアにあるポップアップメニューの詳細は 493 ページの「ブラウザペインのポップアップメニュー項目」を参照してください。

ポップアップメニューの概要は 86 ページの「ポップアップメニュー」を参照してください。

注記

Service Navigator をインストールしている場合、[サービス] のポップアップメニュー項目がショートカットバーとワークスペースペインで使用できます。

ツールバーのポップアップメニュー項目

ツールバーのポップアップメニューには、ツールバーコンポーネントのリストが表示されます。コンポーネントを選択すると、メインツールバーのコンポーネントの表示と非表示を切り替えることができます。これらのコンポーネントに属するアイコンについては [459](#) ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照してください。

ツールバーのポップアップメニューには、次のオプションがあります。

メッセージブラウザツールバー (右クリック +B)

チェックされている場合は、このツールバーコンポーネントに属するアイコンはすべてツールバーに表示されます。

メッセージツールバー (右クリック +M)

チェックされている場合は、このツールバーコンポーネントに属するアイコンはすべてツールバーに表示されます。

サービスツールバー (右クリック +S)

チェックされている場合は、このツールバーコンポーネントに属するアイコンはすべてツールバーに表示されます。

ショートカットバーのポップアップメニュー項目

ショートカットバーのポップアップメニュー項目は、選択したオブジェクトの種類に依存します。たとえば、ノードから利用できるポップアップメニュー項目は、URL ショートカットから利用できるポップアップメニュー項目とは異なります。

このセクションでは、ショートカットバーの各エリアにあるポップアップメニューを説明します。

□ ショートカットグループ

各ショートカットグループのポップアップメニューの詳細は 468 ページの「ショートカットバーのショートカットグループ用のポップアップメニュー」を参照してください。

□ ノード

[ノード] エリアのポップアップメニューの詳細は 469 ページの「ショートカットバーのノードグループ内のポップアップメニュー」を参照してください。

□ サービス

Service Navigator をインストールしている場合に表示される [サービス] エリアのポップアップメニューの詳細は 470 ページの「ショートカットバーのノードグループ内のサービス用ポップアップメニュー」を参照してください。

□ フィルター設定

[フィルター設定] エリアのポップアップメニューの詳細は 472 ページの「ショートカットバーのノードグループ内のフィルター設定用ポップアップメニュー」を参照してください。

□ URL ショートカット

[URL ショートカット] エリアのポップアップメニューの詳細は 473 ページの「ショートカットバーの URL ショートカットグループ内のポップアップメニュー」を参照してください。

ショートカットバーのポップアップメニューの概要は 87 ページの「ショートカットバーのポップアップメニュー」を参照してください。ショートカットバーの概要は 45 ページの「ショートカットバー」を参照してください。

注記

Service Navigator をインストールしている場合、[サービス]のポップアップメニュー項目がショートカットバーとワークスペースペインで使用できません。

ショートカットバーのショートカットグループ用のポップアップメニュー

ショートカットバーの各ショートカットグループ (灰色のバー) のポップアップメニューには、次の項目があります。

新規 URL ショートカットの追加 ... (右クリック +U)

[新規 URL ショートカットの追加] ダイアログボックスを開きます。[新規 URL ショートカットの追加] ダイアログボックスの詳細は 509 ページの「[新規 URL ショートカットの追加] ダイアログボックス」を参照してください。

現在のグループの変更 (右クリック +M)

[グループの変更] ダイアログボックスを開きます。**グループの変更** ダイアログボックスの詳細は 543 ページの「[グループの変更] ダイアログボックス」を参照してください。

現在のグループの削除 (右クリック +R)

選択したショートカットグループを削除します。

新規グループの追加 ... (右クリック +A)

新規ショートカットグループを追加します。ショートカットグループのラベルを入力するテキストフィールドをもつダイアログボックスが表示されます。

新規グループは、ポップアップメニューを開く前に選択したショートカットグループのすぐ後に配置されます。

ショートカットバーのノードグループ内のポップアップメニュー

ショートカットバーの[ノード]エリアで表示されるポップアップメニューには、次の項目があります。

アクティブメッセージのフィルター処理 (右クリック +A)

選択したノードに対してフィルター処理済のアクティブメッセージブラウザを開きます。フィルター処理済アクティブメッセージブラウザの概要は 75 ページの「フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ」を参照してください。

履歴メッセージのフィルター処理 (右クリック +H)

選択したノードに対するフィルター処理済の履歴メッセージブラウザを開きます。フィルター処理済履歴メッセージブラウザの概要は 77 ページの「フィルター処理済履歴メッセージブラウザ」を参照してください。

起動 (右クリック +S)

選択したノードに対して使用できるツールを選択し、起動できます。

カスタマイズ / 起動 ... (右クリック +C)

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードを起動します。詳細は 569 ページの「[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード」を参照してください。

ショートカットの変更 (右クリック +M)

[ショートカットの変更] ダイアログボックスを開きます。[ショートカットの変更] ダイアログボックスの詳細は 545 ページの「[ショートカットの変更] ダイアログボックス」を参照してください。

ショートカットの削除 (右クリック +R)

ショートカットバーから選択したショートカットを削除します。

ショートカットバーのノードグループ内のサービス用ポップアップメニュー

HP Operations Service Navigator を使っている場合は、次の追加項目をショートカットバーの [サービス] ポップアップメニューで使用できます。この項目は、標準の HPOM 製品に付属のポップアップメニュー項目を補足します。

プロパティ... (右クリック +R)

[サービスプロパティ] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスの概要は 559 ページの「[サービスプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

グラフの表示 (右クリック +G)

選択したサービスのサービスグラフを開きます。詳細は 373 ページの「サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ」を参照してください。

サブマップの表示 (右クリック +B)

選択したサービスの下位サービスのサブマップを開きます。詳細は 373 ページの「サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ」を参照してください。

カスタムマップに表示 (右クリック +M)

選択したサービスのカスタムサービスマップを表示します。詳細は 373 ページの「サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ」を参照してください。

アクティブブラウザのフィルター処理 (サービスの上で右クリック +A)

選択したサービスに関連するフィルター処理済アクティブメッセージを含むメッセージブラウザを開きます。フィルター処理済アクティブメッセージブラウザの概要は 75 ページの「フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ」を参照してください。

履歴ブラウザのフィルター処理 (右クリック +H)

選択したサービスに関連するフィルター処理済履歴メッセージを含むメッセージブラウザを開きます。フィルター処理済履歴メッセージブラウザの概要は 77 ページの「フィルター処理済履歴メッセージブラウザ」を参照してください。

障害原因を検索 (右クリック +O)

選択したサービスに対する障害原因グラフを開きます。障害原因の詳細は 407 ページの「障害原因を識別するには」を参照してください。

影響を受けるサービスを検索 (右クリック +I)

選択したサービスに対して影響を受けるサービスのグラフを開きます。影響を受けるサービスの詳細は 408 ページの「影響を受けるサービスを識別するには」を参照してください。

オブジェクトペインから関連ノードを選択 (右クリック +N)

オブジェクトペインで選択したノードを強調表示します。オブジェクトツリーの概要は 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

サービスビューから検索 (右クリック +F)

[サービスビュー] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスの概要は 563 ページの「[サービスビュー] ダイアログボックス」を参照してください。

起動 (右クリック +S)

選択したノードに対して使用できるツールを選択し、起動できます。

カスタマイズ / 起動 ... (右クリック +C)

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードを起動します。詳細は 569 ページの「[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード」を参照してください。

ショートカットの変更 (右クリック +M)

[ショートカットの変更] ダイアログボックスを開きます。詳細は 545 ページの「[ショートカットの変更] ダイアログボックス」を参照してください。

ショートカットの削除 (右クリック +R)

選択したショートカットを、ショートカットバーから削除しますが、オブジェクトペインからは削除しません。

ショートカットバーのノードグループ内のフィルター設定用ポップアップメニュー

[個人用フィルター設定] (HPOM オペレータ用) または [グローバルフィルター設定] (HPOM 管理者用) が選択されている場合、ショートカットバーの [フィルター設定] エリアのポップアップメニューには、次の項目があります。

新規フィルターの追加 (右クリック +F)

この項目は、[個人用フィルター設定] のオペレータまたは [グローバルフィルター設定] の管理者のみが使用できます。[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスを開き、新規フィルターを作成できます。このダイアログボックスの概要は 518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。

ショートカットの変更 (右クリック +M)

[ショートカットの変更] ダイアログボックスを開きます。詳細は 545 ページの「[ショートカットの変更] ダイアログボックス」を参照してください。

ショートカットの削除 (右クリック +R)

ショートカットバーから選択したショートカットを削除します。

特定のフィルター項目が選択されている場合、ショートカットバーの [フィルター設定] エリアで表示されるポップアップメニューには、次の項目があります。

開く (右クリック +O)

保存されたフィルター処理済アクティブ (右クリック +OA)、履歴 (右クリック +OH)、ペンディング (右クリック +OP) メッセージブラウザのいずれかを開きます。

フィルターの変更 (右クリック +F)

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスが開き、選択したフィルターを変更できます。詳細は 518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。

削除 (右クリック +D)

ショートカットバーから選択したショートカットを削除します。

ショートカットの変更 (右クリック +M)

[**ショートカットの変更**] ダイアログボックスを開きます。詳細は 545 ページの「[ショートカットの変更] ダイアログボックス」を参照してください。

ショートカットの削除 (右クリック +R)

ショートカットバーから選択したショートカットを削除します。

ショートカットバーの URL ショートカットグループ内のポップアップメニュー

[URL ショートカット] グループが選択されている場合、ショートカットグループのポップアップメニューが表示されます。詳細は 468 ページの「ショートカットバーのショートカットグループ用のポップアップメニュー」を参照してください。

特定の URL ショートカットが選択されている場合、ショートカットバーの [URL ショートカット] エリアで表示されるポップアップメニューには次の項目があります。

URL の起動 (右クリック +S)

選択したショートカットのツールを起動します。

URL ショートカットの削除 (右クリック +D)

選択したショートカットを、ショートカットバーとオブジェクトペインから削除します。

URL ショートカットの変更 (右クリック +M)

[URL ショートカットの変更] ダイアログボックスを開きます。詳細は 546 ページの「[URL ショートカットの変更] ダイアログボックス」を参照してください。

URL ショートカットの削除 (右クリック +R)

選択したショートカットを、ショートカットバーから削除しますが、オブジェクトペインからは削除しません。

オブジェクトペインのポップアップメニュー項目

このセクションでは、オブジェクトペインの各エリアにあるポップアップメニューを説明します。

□ グローバルオプション

オブジェクトペインのすべてのポップアップメニューで使用できる項目の詳細は 475 ページの「オブジェクトペインのグローバルオプション」を参照してください。

□ ノード

[ノード] エリアのポップアップメニューの詳細は 477 ページの「オブジェクトペインのノード用ポップアップメニュー」を参照してください。

□ メッセージグループ

[メッセージグループ] エリアのポップアップメニューの詳細は 478 ページの「オブジェクトペインのメッセージグループ用ポップアップメニュー」を参照してください。

□ ツール

[ツール] エリアのポップアップメニューの詳細は 478 ページの「オブジェクトペインのツール用ポップアップメニュー」を参照してください。

□ サービス

Service Navigator をインストールしている場合に表示される [サービス] エリアのポップアップメニューの詳細は 479 ページの「オブジェクトペインのサービス用ポップアップメニュー」を参照してください。

□ フィルター設定

[フィルター設定] エリアのポップアップメニューの詳細は 481 ページの「オブジェクトペインのフィルター設定用ポップアップメニュー」を参照してください。

□ URL ショートカット

[URL ショートカット] エリアのポップアップメニューの詳細は 484 ページの「オブジェクトペインの URL ショートカット用ポップアップメニュー」を参照してください。

オブジェクトペインのポップアップメニューの概要は 88 ページの「オブジェクトペインのポップアップメニュー」を参照してください。オブジェクトペインについては 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

注記

Service Navigator をインストールしている場合、[サービス] のポップアップメニュー項目がショートカットバーとワークスペースペインで使用できます。

オブジェクトペインのグローバルオプション

オブジェクトペインのポップアップメニューすべてに、次の項目があります。

ショートカットの追加 (SHIFT+F10+U)

選択した項目をショートカットバーに追加します。

検索 (SHIFT+F10+N)

項目名を入力して、オブジェクトツリーにある指定した項目を検索できます。オプションとして、完全一致、大文字小文字の区別、またはその両方を選択できます。検索条件に一致する項目が見つかったら、その項目はオブジェクトペイン内で強調表示されます。オブジェクトツリーが縮小表示されていて項目が見えない場合は、ツリーが展開表示され、項目がオブジェクトペインの表示可能エリアにスクロールされます。検索は、選択された項目ではなく、オブジェクトツリーの 1 番上から開始します。検索機能の概要は 120 ページの「オブジェクトペインの検索」を参照してください。[検索] ダイアログボックスの詳細は 525 ページの「[検索] ダイアログボックス」を参照してください。

オブジェクトペインを展開表示する (SHIFT+F10+E)

オブジェクトツリーのすべての分岐を展開表示します。オブジェクトツリーの分岐の横にあるプラス記号 (+) をクリックすることと同じです。オブジェクトツリーの概要は 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

オブジェクトペインを縮小表示する (SHIFT+F10+L)

オブジェクトツリーのすべての分岐を縮小表示します。オブジェクトツリーの分岐の横にあるマイナス記号 (-) をクリックすることと同じです。オブジェクトツリーの概要は 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

オブジェクトペインのノード用ポップアップメニュー

オブジェクトペインの [ノード] エリアのポップアップメニューには、次の項目があります。

アクティブメッセージのフィルター処理 (SHIFT+F10+A)

選択したノードで、フィルター処理済アクティブメッセージブラウザを開きます。フィルター処理済アクティブメッセージブラウザの概要は 75 ページの「フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ」を参照してください。

履歴メッセージのフィルター処理 (SHIFT+F10+H)

選択したノードで、フィルター処理済履歴メッセージブラウザを開きます。フィルター処理済履歴メッセージブラウザの概要は 77 ページの「フィルター処理済履歴メッセージブラウザ」を参照してください。

起動 (SHIFT+F10+S)

選択したノードのツールを起動します。

カスタマイズ / 起動 ... (SHIFT+F10+C)

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードを起動します。詳細は 569 ページの「[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード」を参照してください。

注記

オブジェクトペインのすべてのポップアップメニューで使用できる項目については 475 ページの「オブジェクトペインのグローバルオプション」を参照してください。

オブジェクトペインのメッセージグループ用ポップアップメニュー

オブジェクトペインの [メッセージグループ] エリアのポップアップメニューには、次の項目があります。

アクティブメッセージのフィルター処理 (SHIFT+F10+A)

選択したノードで、フィルター処理済アクティブメッセージブラウザを開きます。フィルター処理済アクティブメッセージブラウザの概要は 75 ページの「フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ」を参照してください。

履歴メッセージのフィルター処理 (SHIFT+F10+H)

選択したノードで、フィルター処理済履歴メッセージブラウザを開きます。フィルター処理済履歴メッセージブラウザの概要は 77 ページの「フィルター処理済履歴メッセージブラウザ」を参照してください。

注記

オブジェクトペインのすべてのポップアップメニューで使用できる項目については 475 ページの「オブジェクトペインのグローバルオプション」を参照してください。

オブジェクトペインのツール用ポップアップメニュー

オブジェクトペインの [ツール] エリアのポップアップメニューには、次の項目があります。

起動 (SHIFT+F10+S)

ツールが選択されていれば、そのツールを起動します。

カスタマイズ / 起動 ... (SHIFT+F10+C)

ツールが選択されていれば、[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードを開始します。詳細は 569 ページの「[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード」を参照してください。

注記

オブジェクトペインのすべてのポップアップメニューで使用できる項目については 475 ページの「オブジェクトペインのグローバルオプション」を参照してください。

オブジェクトペインのサービス用ポップアップメニュー

HP Operations Service Navigator を使っている場合は、次の追加項目をオブジェクトペインの [サービス] ポップアップメニューで使用できます。この項目は、HPOM のポップアップメニュー項目を補足します。

プロパティ... (SHIFT+F10+R)

[サービスプロパティ] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスの概要は 559 ページの「[サービスプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

グラフの表示 (SHIFT+F10+G)

選択したサービスのサービスグラフを開きます。詳細は 373 ページの「サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ」を参照してください。

サブマップの表示 (SHIFT+F10+B)

選択したサービスの下位サービスのサブマップを開きます。詳細は 373 ページの「サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ」を参照してください。

カスタムマップに表示 (SHIFT+F10+T)

選択したサービスのカスタムサービスマップを表示します。詳細は 373 ページの「サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ」を参照してください。

アクティブブラウザのフィルター処理 (SHIFT+F10+A)

選択したサービスに関連するフィルター処理済アクティブメッセージを含むメッセージブラウザを開きます。フィルター処理済アクティブメッセージブラウザの概要は 75 ページの「フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ」を参照してください。

履歴ブラウザのフィルター処理 (SHIFT+F10+H)

選択したサービスに関連するフィルター処理済履歴メッセージを含むメッセージブラウザを開きます。フィルター処理済履歴メッセージブラウザの概要は 77 ページの「フィルター処理済履歴メッセージブラウザ」を参照してください。

障害原因を検索 (SHIFT+F10+O)

選択したサービスに対する障害原因グラフを開きます。障害原因の詳細は 407 ページの「障害原因を識別するには」を参照してください。

影響を受けるサービスを検索 (SHIFT+F10+I)

選択したサービスに対して影響を受けるサービスのグラフを開きます。影響を受けるサービスの詳細は 408 ページの「影響を受けるサービスを識別するには」を参照してください。

オブジェクトペインから関連ノードを選択 (SHIFT+F10+D)

オブジェクトペインで選択したノードを強調表示します。

サービスビューから検索 (SHIFT+F10+VF)

[サービスビュー] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスの概要は 563 ページの「[サービスビュー] ダイアログボックス」を参照してください。

起動 (SHIFT+F10+S)

選択したツールを起動します。

カスタマイズ / 起動 ... (SHIFT+F10+C)

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードを起動します。詳細は 569 ページの「[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード」を参照してください。

注記

オブジェクトペインのすべてのポップアップメニューで使用できる項目については 475 ページの「オブジェクトペインのグローバルオプション」を参照してください。

オブジェクトペインのフィルター設定用ポップアップメニュー

オブジェクトペインの [フィルター設定] エリアのオプションは、現在の選択によって異なります。

フィルター設定のグローバルおよび個人用フィルター設定用ポップアップメニュー

注記

オブジェクトペインのすべてのポップアップメニューで使用できる項目については 475 ページの「オブジェクトペインのグローバルオプション」を参照してください。

□ グローバルフィルター設定と個人用フィルター設定用ポップアップメニュー

[個人用フィルター設定] (HPOM オペレータ用) または [グローバルフィルター設定] (HPOM 管理者用) が選択されている場合、オブジェクトペインの [フィルター設定] エリアのポップアップメニューには、次の項目が表示されます。

新規フィルターの追加 (SHIFT+F10+F)

この項目は、[個人用フィルター設定] のオペレータまたは [グローバルフィルター設定] の管理者のみが使用できます。[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスを開き、新規フィルターを作成できます。このダイアログボックスの概要は 518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。

グローバルまたは個人用フィルターを保存すると、そのフィルターは [フィルター設定] グループのサブグループとして自動的に使用できるようになります。

□ 保存済のグローバル/個人用フィルター用ポップアップメニュー

特定のフィルター項目が選択されている場合、オブジェクトペインの [フィルター設定] エリアで表示されるポップアップメニューには、次の項目があります。

開く (SHIFT+F10+O)

保存されたフィルター処理済メッセージブラウザを表示します (アクティブメッセージブラウザ - **SHIFT+F10+OA**、履歴メッセージブラウザ - **SHIFT+F10+OH**、またはペンディングメッセージブラウザ - **SHIFT+F10+OP**)。

フィルターの変更 (SHIFT+F10+F)

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスが開き、選択したフィルターを変更できます。詳細は 518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。

削除 (SHIFT+F10+D)

選択したメッセージブラウザフィルターを HPOM から削除します。

フィルター設定のメッセージ表示フィルター用ポップアップメニュー

注記

オブジェクトペインのすべてのポップアップメニューで使用できる項目については 475 ページの「オブジェクトペインのグローバルオプション」を参照してください。

□ グローバル/個人用メッセージ表示フィルター用ポップアップメニュー

[個人用メッセージ表示フィルター] (HPOM オペレータ用) または [グローバルメッセージ表示フィルター] (HPOM 管理者用) が選択されている場合、オブジェクトペインの [メッセージ表示フィルター] エリアのポップアップメニューに次のオプションが表示されます。

新規フィルターの追加 (SHIFT+F10+D)

この項目は、[個人用メッセージ表示フィルター] のオペレータまたは [グローバルメッセージ表示フィルター] の管理者のみが使用できます。[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスが開き、新しいメッセージ表示フィルターを作成できます。

このダイアログボックスの概要は 538 ページの「[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックス」を参照してください。

グローバルメッセージ表示フィルター (HPOM 管理者のみ) または個人用メッセージ表示フィルター (HPOM オペレータのみ) を保存すると、これらのフィルターは、[メッセージ表示フィルター] グループのサブグループとして自動的に使えるようになります。

□ **保存済のグローバル/個人用メッセージ表示フィルター用ポップアップメニュー**

特定のフィルター項目が選択されている場合、オブジェクトペインの [メッセージ表示フィルター] エリアで表示されるポップアップメニューには、次の項目があります。

すべてのアクティブメッセージ (SHIFT+F10+O)

選択したメッセージ表示フィルターを全アクティブメッセージのブラウザに適用して表示します。この処理では、ロードするメッセージの数によっては時間がかかることがあります。

変更 (SHIFT+F10+F)

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスが開き、選択したメッセージ表示フィルターを変更できます。詳細は 538 ページの「[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックス」を参照してください。

名称変更 (SHIFT+F10+R)

[メッセージ表示フィルターの名称変更] ダイアログボックスが開き、選択したメッセージ表示フィルターの新規名称を入力できます。詳細は 555 ページの「[メッセージ表示フィルターの名称変更] ダイアログボックス」を参照してください。

削除 (SHIFT+F10+D)

選択したメッセージ表示フィルターを HPOM から削除します。

オブジェクトペインの URL ショートカット用ポップアップメニュー

[URL ショートカット] グループが選択されている場合、オブジェクトペインの [URL ショートカット] エリアには次のポップアップメニューが表示されます。

新規 URL ショートカットの追加 ... (右クリック +U)

[新規 URL ショートカットの追加] ダイアログボックスを開きます。詳細は 509 ページの「[新規 URL ショートカットの追加] ダイアログボックス」を参照してください。

注記

オブジェクトペインのすべてのポップアップメニューで使用できる項目については 475 ページの「オブジェクトペインのグローバルオプション」を参照してください。

特定の URL ショートカットが選択されている場合、オブジェクトペインの [URL ショートカット] エリアで表示されるポップアップメニューには次の項目があります。

URL の起動 (右クリック +S)

選択したショートカットのツールを起動します。

URL ショートカットの削除 (右クリック +D)

選択したショートカットを、ショートカットバーとオブジェクトペインから削除します。

URL ショートカットの変更 (右クリック +M)

[URL ショートカットの変更] ダイアログボックスを開きます。詳細は 546 ページの「[URL ショートカットの変更] ダイアログボックス」を参照してください。

ワークスペースペインのポップアップメニュー項目

このセクションでは、ワークスペースペインの各エリアにあるポップアップメニューを説明します。

□ 全ワークスペースタブ

ワークスペースペインの各タブのポップアップメニューの詳細は 486 ページの「ワークスペースタブのポップアップメニュー」を参照してください。

□ グラフ

ワークスペースペインの、現況グラフと傾向グラフのポップアップメニュー。詳細は 487 ページの「ワークスペースペインのグラフ用ポップアップメニュー」を参照してください。

□ サービス

Service Navigator をインストールしている場合に表示される [サービス] ワークスペースのポップアップメニューの詳細は 489 ページの「ワークスペースペインのサービス用ポップアップメニュー」を参照してください。

□ URL

ワークスペースペインの内部 Web ブラウザの Web ページで表示されるポップアップメニューの詳細は 492 ページの「ワークスペースペインの URL 用ポップアップメニュー」を参照してください。

ワークスペースペインのポップアップメニューの概要は 89 ページの「ワークスペースペインのポップアップメニュー」を参照してください。
[ワークスペースペイン] については、59 ページの「ワークスペースペイン」を参照してください。

注記

Service Navigator をインストールしている場合、[サービス] のポップアップメニュー項目がショートカットバーとワークスペースペインで使用できます。

ワークスペースタブのポップアップメニュー

ワークスペースペインの各タブには、次の項目をもつポップアップメニューがあります。

ワークスペースのプロパティ (SHIFT+F10+R)

[ワークスペースのプロパティ] ダイアログボックスを開き、現在のワークスペースの名前と詳細を変更できます。詳細は 567 ページの「[ワークスペースのプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

新規ワークスペース (SHIFT+F10+N)

[ワークスペースのプロパティ] ダイアログボックスを開き、現在のワークスペースのすぐ右に新規ワークスペースを作成できます。詳細は 567 ページの「[ワークスペースのプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

ワークスペースの削除 (SHIFT+F10+D)

現在のワークスペースを削除します。削除を確認するダイアログボックスが表示されます。このオプションは、最初のワークスペースペインでは使用できません (デフォルトでは、[メッセージダッシュボード] ワークスペース)。

選択ウィンドウの移動先 (SHIFT+F10+M)

選択フレーム (ウィンドウ) を [メッセージダッシュボード]、[サービス]、または [修復アクション] に移動できます。このオプションは、最初のワークスペースペインでは使用できません (デフォルトでは、[メッセージダッシュボード] ワークスペース)。

ワークスペースペインのグラフ用ポップアップメニュー

ワークスペースペインの*現況*グラフのポップアップメニューには、次の項目があります。

2D/3D

選択したグラフを **2次元**または **3次元**形式で表示できます。

種類

選択したグラフを、**円**グラフ、**棒**グラフ、**積み上げ棒**グラフで表示できます。

ワークスペースペインの*傾向*グラフのポップアップメニューには、次の項目があります。

2D/3D

選択したグラフを **2次元**または **3次元**形式で表示できます。

種類

選択したグラフを、**円**グラフ、**棒**グラフ、**積み上げ棒**グラフで表示できます。

設定

選択したグラフに対して次のパラメータを設定できます。

データ保存期間

[**データ保存期間の入力**] ダイアログボックスを開き、グラフに対して、日、時間、分、秒の形式 (ddd:hh:mm:ss) でデータ保存期間を入力できます。詳細は **517** ページの「[**データ保存期間の入力**] ダイアログボックス」を参照してください。

現在の傾向グラフ

[現在の表示間隔の入力] ダイアログボックスを開き、グラフに対する間隔を日、時間、分、秒の形式 (ddd:hh:mm:ss) で入力できます。詳細は 515 ページの「[現在の表示間隔の入力] ダイアログボックス」を参照してください。

ズーム間隔

[ズーム間隔の入力] ダイアログボックスを開き、グラフに対する日付と時間の範囲を入力します。詳細は 517 ページの「[ズーム間隔の入力] ダイアログボックス」を参照してください。

ワークスペースペインのサービス用ポップアップメニュー

HP Operations Service Navigator を使っている場合は、[サービス] ワークスペースの空白のエリアを右クリックすると、ワークスペーススタブのポップアップメニューが表示されます。このポップアップメニューについては 486 ページの「ワークスペーススタブのポップアップメニュー」を参照してください。

[サービス] ワークスペースの項目を右クリックすると、次のポップアップメニューが表示されます。この項目は、HPOM のポップアップメニュー項目を補足します。

プロパティ... (右クリック +R)

[サービスプロパティ] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスの概要は 559 ページの「[サービスプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

グラフの表示 (右クリック +G)

選択したサービスのサービスグラフを開きます。詳細は 373 ページの「サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ」を参照してください。

サブマップの表示 (右クリック +B)

選択したサービスの下位サービスのサブマップを開きます。詳細は 373 ページの「サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ」を参照してください。

カスタムマップに表示 (右クリック +T)

選択したサービスのカスタムサービスマップを表示します。詳細は 373 ページの「サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ」を参照してください。

アクティブブラウザのフィルター処理 (右クリック +A)

選択したサービスに関連するフィルター処理済アクティブメッセージを含むメッセージブラウザを開きます。フィルター処理済アクティブメッセージブラウザの概要は 75 ページの「フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ」を参照してください。

履歴ブラウザのフィルター処理 (右クリック +H)

選択したサービスに関連するフィルター処理済履歴メッセージを含むメッセージブラウザを開きます。フィルター処理済履歴メッセージブラウザの概要は 77 ページの「フィルター処理済履歴メッセージブラウザ」を参照してください。

障害原因を検索 (右クリック +O)

選択したサービスに対する障害原因グラフを開きます。障害原因の詳細は 407 ページの「障害原因を識別するには」を参照してください。

影響を受けるサービスを検索 (右クリック +I)

選択したサービスに対して影響を受けるサービスのグラフを開きます。影響を受けるサービスの詳細は 408 ページの「影響を受けるサービスを識別するには」を参照してください。

オブジェクトペインから関連ノードを選択 (右クリック +N)

サービスで定義したオブジェクトペインのノードを強調表示します。たくさんのノードがあって、特定のサービスに関連するノードの場所を探す場合にとっても便利です。オブジェクトツリーの概要は 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

オブジェクトペインから関連サービスを選択 (右クリック +V)

オブジェクトペインのサービスを強調表示します。たくさんのサービスがあって、選択したサービスの場所を探す場合にとっても便利です。

サービスビューから検索 (右クリック +F)

[サービスビュー] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスの概要は 563 ページの「[サービスビュー] ダイアログボックス」を参照してください。

サービスグラフの展開表示 (右クリック +E)

サービスツリーを 1 レベル展開表示します。ツリーの閉じた分岐すべての横にあるプラス記号 (+) をクリックすることと同じです。

サービスグラフの縮小表示 (右クリック +L)

サービスツリーを **1** レベル縮小表示します。ツリーの開いた分岐すべての横にあるマイナス記号 (-) をクリックすることと同じです。

起動 (右クリック +S)

選択したショートカットのツールを起動します。

カスタマイズ / 起動 ... (右クリック +C)

[**ツール起動 - カスタマイズ**] ウィザードを起動します。
詳細は **569** ページの「[**ツール起動 - カスタマイズ**] ウィザード」を参照してください。

ワークスペースペインの URL 用ポップアップメニュー

ワークスペースペインの内部 Web ブラウザの Web ページで表示されるポップアップメニューには、次の項目があります。

戻る

Web ブラウザと同じように、前に表示したページに移動します。

進む

Web ブラウザと同じように、次のページに移動します。

このページを保存 . . .

現在のページをコンピュータのローカルディレクトリに保存します。

更新

Web ブラウザと同じように、現在のページを最新の状態に更新します。

プロパティ

[Web ブラウザのプロパティ] ダイアログボックスを開き、現在のワークスペースの名前と詳細を変更できます。詳細は 566 ページの「[Web ブラウザのプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

注記

ActiveX ワークスペースで、Microsoft Internet Explorer を使って開いた Web ページのポップアップメニューには、Internet Explorer の項目が入ります。

ブラウザペインのポップアップメニュー項目

このセクションでは、ブラウザペインの各エリアの主なポップアップメニューを説明します。

□ ブラウザタブ

ブラウザペインの各タブのポップアップメニューの詳細は 494 ページの「ブラウザペインのブラウザタブ用ポップアップメニュー」を参照してください。デフォルトでは、最初に [アクティブメッセージ] タブがブラウザペインに表示されます。

□ メッセージブラウザ

ブラウザペインの各メッセージブラウザのポップアップメニューの詳細は 495 ページの「ブラウザペインのメッセージブラウザ用ポップアップメニュー」を参照してください。このメニューは、ワークスペースペインの各メッセージブラウザでも使用できます。ワークスペースペインのポップアップメニュー項目については 485 ページの「ワークスペースペインのポップアップメニュー項目」を参照してください。

□ メッセージブラウザヘッダー

ブラウザペインのメッセージブラウザの各カラムヘッダー用ポップアップメニュー。詳細は 499 ページの「ブラウザペインのメッセージブラウザヘッダー用ポップアップメニュー」を参照してください。このメニューは、ワークスペースペインの各メッセージブラウザでも使用できます。ワークスペースペインのポップアップメニュー項目については 485 ページの「ワークスペースペインのポップアップメニュー項目」を参照してください。

□ グラフ

ワークスペースペインの、現況グラフと傾向グラフのポップアップメニュー。詳細は 502 ページの「ブラウザペインのグラフ用ポップアップメニュー」を参照してください。

注記

ブラウザペインのポップアップメニューの概要は 91 ページの「ブラウザペインのポップアップメニュー」を参照してください。ブラウザペインについては 68 ページの「ブラウザペイン」を参照してください。

ブラウザペインのブラウザタブ用ポップアップメニュー

ブラウザペインの各タブには、次の項目をもつポップアップメニューがあります。

プロパティ (SHIFT+F10+R)

[ブラウザペインのタブプロパティ] ダイアログボックスを開き、現在のブラウザのタブの名前と詳細を変更できます。詳細は 510 ページの「ブラウザペインのタブプロパティ」を参照してください。

クローズ

ブラウザペインの選択したタブを削除します。

注意

削除の確認は行いません。この項目を選択するとすぐにタブが削除されます。

ブラウザペインのメッセージブラウザ用ポップアップメニュー

ブラウザペインのポップアップメニューには、次の項目があります。

アクションの起動 / 停止 (SHIFT+F10+C)

選択したメッセージに対して次のアクションを起動または停止できます。

- オペレータ起動アクションの起動 (SHIFT+F10+CP)
- 自動アクションの再起動 (SHIFT+F10+CR)
- オペレータ起動アクションの停止 (SHIFT+F10+CO)
- 自動アクションの停止 (SHIFT+F10+CA)

受諾 (SHIFT+F10+A)

選択したメッセージを受諾します。詳細は 270 ページの「メッセージの受諾」を参照してください。

プロパティ (SHIFT+F10+R)

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスのオプションについては 531 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

所有 (SHIFT+F10+O)

選択したメッセージを所有します。詳細は 248 ページの「メッセージの所有」を参照してください。

所有解除 (SHIFT+F10+D)

選択したメッセージを所有解除します。詳細は 248 ページの「メッセージの所有解除」を参照してください。

指示 (SHIFT+F10+I)

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [指示] タブを開きます。このタブの詳細は 536 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [指示] タブ」を参照してください。

注釈 (SHIFT+F10+N)

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [注釈] タブを開きます。このタブの詳細は 536 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [注釈] タブ」を参照してください。

変更 (SHIFT+F10+M)

[注釈の変更] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスのオプションについては 543 ページの「[グループの変更] ダイアログボックス」を参照してください。

フィルターの作成 - アクティブメッセージ (SHIFT+F10+F)

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスのオプションについては 518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。

注記

この項目はメッセージフィルターを作成する場合に便利です。フィルターに対して事前に設定したフィールドを変更できます (たとえば、[メッセージの文字列で] フィールドにフィルターのパターンを入力できます)。

印刷 (SHIFT+F10+P)

選択されたメッセージ、メッセージブラウザのすべてのメッセージ、選択したメッセージの詳細、またはメッセージブラウザのすべてのメッセージの詳細を印刷できるようにします。Java Runtime の印刷ダイアログボックスから、プリンター、印刷表示設定、ファイルに出力するかどうか、印刷するページ番号、印刷部数、両面印刷などを選択できます。詳細は 266 ページの「HPOM メッセージおよびアプリケーションの出力の印刷」を参照してください。

オブジェクトペインから関連ノードを選択 (SHIFT+F10+L)

オブジェクトツリーで、選択したメッセージを生成したノードを強調表示します。たくさんのノードがあり、特定のメッセージに関連するノードの位置をすぐに探したいときに便利です。オブジェクトツリーの概要は 68 ページの「ブラウザペイン」を参照してください。

起動 (SHIFT+F10+S)

選択したツールを起動します。

カスタマイズ / 起動 ... (SHIFT+F10+C)

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードを開きます。このウィザードの詳細は 569 ページの「[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード」を参照してください。

サービス (SHIFT+F10+V)

Service Navigator をインストールしている場合は、次のレポートのいずれかを生成できます。

オブジェクトペインから関連サービスを選択 (SHIFT+F10+VV)

関連するサービスをオブジェクトペインで強調表示します。オブジェクトツリーの概要は 48 ページの「オブジェクトペイン」を参照してください。

グラフの表示 (SHIFT+F10+VG)

選択した 1 つ以上のサービスのサービスグラフを開きます。詳細は 373 ページの「サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ」を参照してください。

サブマップの表示 (SHIFT+F10+VB)

選択した 1 つ以上のサービスの下位サービスのサブマップを開きます。詳細は 373 ページの「サービスグラフ、サブマップ、カスタムサービスマップ」を参照してください。

影響を受けるサービスを検索 (SHIFT+F10+VF)

選択した 1 つ以上のサービスに対して影響を受けるサービスのグラフを開きます。影響を受けるサービスの詳細は 408 ページの「影響を受けるサービスを識別するには」を参照してください。

サービスビューから検索 (SHIFT+F10+VF)

[サービスビュー] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスの概要は 563 ページの「[サービスビュー] ダイアログボックス」を参照してください。

ブラウザペインのメッセージブラウザヘッダー用ポップアップメニュー

メッセージブラウザヘッダーのポップアップメニューには、次の項目があります。

メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ... (右クリック +U)

[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスが開き、表示するメッセージブラウザのカラムやカラムラベルのテキストを指定できます。また、カスタムメッセージ属性も追加できます。[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスのオプションについては 513 ページの「[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックス」を参照してください。カスタムメッセージ属性の概要は 135 ページの「カスタムメッセージ属性」を参照してください。

メッセージブラウザのレイアウトの保存 (右クリック +L)

新しいブラウザレイアウトを次のいずれかで保存します。

デフォルトとして保存 (右クリック +LD)

デフォルトの各種メッセージブラウザ (アクティブ - 右クリック +LDA)、履歴 - 右クリック +LDH)、ペンディング - 右クリック +LDP) に対して、新しいブラウザレイアウト (表示順、幅、ソート順、およびカラム選択) を保存します。

フィルター名で保存 (右クリック +LF)

現在選択している (最も前面にある) フィルター処理済メッセージブラウザに対して、新しいブラウザレイアウト (表示順、幅、ソート順、およびカラム選択) を保存します。

昇順にソート (右クリック +A)

選択したメッセージブラウザカラムについて、メッセージを昇順でソートします。

降順にソート (右クリック +D)

選択したメッセージブラウザカラムについて、メッセージを降順でソートします。

調整 (右クリック +A)

選択したメッセージブラウザカラムの内容を次のいずれかの方法で配置します。

左揃え (右クリック +AL)

選択したメッセージブラウザカラムの内容を左に合わせて配置します。

右揃え (右クリック +AR)

選択したメッセージブラウザカラムの内容を右に合わせて配置します。

中央揃え (右クリック +AC)

選択したメッセージブラウザカラムの内容を中央に合わせて配置します。

メッセージ表示フィルター... (右クリック +O)

次のオプションがあります。

すべて (右クリック +OA)

選択したメッセージブラウザカラムからフィルター条件を削除します。

カスタム... (右クリック +OC)

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスが開き、メッセージ表示フィルターを作成、保存、およびロードできます。

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスのオプションについては 538 ページの「[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックス」を参照してください。メッセージ表示フィルターの概要は 198 ページの「メッセージ表示フィルターの設定」を参照してください。

<column_value>

選択したメッセージブラウザカラムに
クイックメッセージ表示フィルターを
適用します。選択した値に一致する
メッセージだけが表示されます。

メッセージ表示フィルターの削除 (右クリック +R)

メッセージブラウザからメッセージ表示フィルターを削除します。

メッセージ表示フィルターの削除については **316** ページの「メッセージブラウザカラムのフィルターを削除する」を参照してください。

ブラウザペインのグラフ用ポップアップメニュー

ブラウザペインでは、ツールバーのボタンの選択と選択解除によって、表示を3種類に切り替えることができます。

□ メッセージブラウザ

ツールバーで [現況グラフ表示に切り替える] と [傾向グラフ表示に切り替える] がどちらも選択されていないことを確認してください。

□ 現況グラフ

ツールバーで [現況グラフ表示に切り替える] を選択します。

□ 傾向グラフ

ツールバーで [傾向グラフ表示に切り替える] をクリックします。

ツールバーアイコンについては 459 ページの「ツールバーアイコンとドロップダウンリスト」を参照してください。

ブラウザペインの現況グラフのポップアップメニューには、次の項目があります。

2D/3D

選択したグラフを2次元または3次元形式で表示できます。

種類

選択したグラフを、円グラフ、棒グラフ、積み上げ棒グラフで表示できます。

ブラウザペインの傾向グラフのポップアップメニューには、次の項目があります。

種類

選択したグラフを、円グラフ、棒グラフ、積み上げ棒グラフで表示できます。

設定

選択したグラフに対して次のパラメータを設定できます。

データ保存期間

[データ保存期間の入力] ダイアログボックスを開き、グラフに対して、日、時間、分、秒の形式 (ddd:hh:mm:ss) でデータ保存期間を入力できます。詳細は 517 ページの「[データ保存期間の入力] ダイアログボックス」を参照してください。

現在の傾向グラフ

[現在の表示間隔の入力] ダイアログボックスを開き、グラフに対する間隔を日、時間、分、秒の形式 (ddd:hh:mm:ss) で入力できます。詳細は 515 ページの「[現在の表示間隔の入力] ダイアログボックス」を参照してください。

ズーム間隔

[ズーム間隔の入力] ダイアログボックスを開き、グラフに対する日付と時間の範囲を入力します。詳細は 517 ページの「[ズーム間隔の入力] ダイアログボックス」を参照してください。

ダイアログボックス

このセクションでは、Java GUI 全体のダイアログボックスのオプションを説明します。

❑ 注釈の追加

508 ページの「[注釈の追加] ダイアログボックス」を参照してください。

❑ 新規グループの追加

508 ページの「[新規グループの追加] ダイアログボックス」を参照してください。

❑ 新規 URL ショートカットの追加

509 ページの「[新規 URL ショートカットの追加] ダイアログボックス」を参照してください。

❑ ブラウザペインのタブプロパティ

510 ページの「ブラウザペインのタブプロパティ」を参照してください。

❑ ブラウザ設定

511 ページの「ブラウザ設定」を参照してください。

❑ オペレータのパスワードの変更

512 ページの「[オペレータのパスワードの変更] ダイアログボックス」を参照してください。

❑ メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ

513 ページの「[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックス」を参照してください。

❑ 日付および時刻

515 ページの「[日付および時刻] ダイアログボックス」を参照してください。

- **現在の表示間隔の入力**

515 ページの「[現在の表示間隔の入力]ダイアログボックス」を参照してください。
- **データ保存期間の入力**

517 ページの「[データ保存期間の入力]ダイアログボックス」を参照してください。
- **ズーム間隔の入力**

517 ページの「[ズーム間隔の入力]ダイアログボックス」を参照してください。
- **メッセージのフィルター処理**

518 ページの「[メッセージのフィルター処理]ダイアログボックス」を参照してください。
- **検索**

525 ページの「[検索]ダイアログボックス」を参照してください。
- **フラグ**

529 ページの「[フラグ]ダイアログボックス」を参照してください。
- **メッセージ表示フィルターのロード**

530 ページの「[メッセージ表示フィルターのロード]ダイアログボックス」を参照してください。
- **メッセージのプロパティ**

531 ページの「[メッセージのプロパティ]ダイアログボックス」を参照してください。
- **メッセージ表示フィルター**

538 ページの「[メッセージ表示フィルター]ダイアログボックス」を参照してください。
- **注釈の変更**

542 ページの「[注釈の変更]ダイアログボックス」を参照してください。

□ **グループの変更**

543 ページの「[グループの変更] ダイアログボックス」を参照してください。

□ **メッセージ属性の変更**

543 ページの「[メッセージ属性の変更] ダイアログボックス」を参照してください。

□ **ショートカットの変更**

545 ページの「[ショートカットの変更] ダイアログボックス」を参照してください。

□ **URL ショートカットの変更**

546 ページの「[URL ショートカットの変更] ダイアログボックス」を参照してください。

□ **表示設定**

547 ページの「[表示設定] ダイアログボックス」を参照してください。

□ **ブラウザ設定の名称変更**

555 ページの「[ブラウザ設定の名称変更] ダイアログボックス」を参照してください。

□ **メッセージ表示フィルターの名称変更**

555 ページの「[メッセージ表示フィルターの名称変更] ダイアログボックス」を参照してください。

□ **ブラウザのフィルター設定を保存**

556 ページの「[ブラウザのフィルター設定の保存] ダイアログボックス」を参照してください。

□ **メッセージ表示フィルターを保存**

556 ページの「[メッセージ表示フィルターの保存] ダイアログボックス」を参照してください。

□ **オペレータにメッセージを送信**

557 ページの「[オペレータにメッセージを送信] ダイアログボックス」を参照してください。

- サービスプロパティ
559 ページの「[サービスプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。
- サービスビュー
563 ページの「[サービスビュー] ダイアログボックス」を参照してください。
- ウォーターマークの詳細設定
564 ページの「[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログボックス」を参照してください。
- Web ブラウザのプロパティ
566 ページの「[Web ブラウザのプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。
- ワークスペースのプロパティ
567 ページの「[ワークスペースのプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

注記

Service Navigator をインストールしている場合、[サービスプロパティ] ダイアログボックスが HPOM で使用できます。詳細は 559 ページの「[サービスプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

[注釈の追加] ダイアログボックス

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [注釈] タブで [新規注釈の追加] ボタンをクリックすると、[注釈の追加] ダイアログボックスが開きます。[注釈の追加] ダイアログボックスからは、新規注釈用のテキストを入力できます。[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの詳細は 531 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

[注釈の追加] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

[OK]

新規注釈を保存します。

[キャンセル]

新規注釈を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[新規グループの追加] ダイアログボックス

ショートカットバーを右クリックし、ポップアップメニューから [新規グループの追加] を選択すると、[新規グループの追加] ダイアログボックスが開きます。詳細は 286 ページの「ショートカットグループの追加」を参照してください。

[新規グループの追加] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

新規グループのラベルを入力してください

新規ショートカットグループのラベルです。

[OK]

新規ショートカットグループを追加し、ダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

新規ショートカットグループを追加せずにダイアログボックスを閉じます。

[新規 URL ショートカットの追加] ダイアログボックス

ショートカットバーでショートカットグループを右クリックし、次にポップアップメニューの [新規 URL ショートカットの追加] を選択すると、[新規 URL ショートカットの追加] ダイアログボックスが開きます。詳細は 284 ページの「新規ショートカットの追加」を参照してください。

[新規 URL ショートカットの追加] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

ID

新しいショートカット用にシステムが生成した ID。

URL

URL ショートカットの場所を追加します。このフィールドではメッセージに関連する変数を使用できます。メッセージに関連する変数については 587 ページの「メッセージ関連の変数」を参照してください。

ラベル

新しいショートカットにラベルを追加します。

[OK]

新しいショートカットを追加して、ダイアログボックスをクローズします。

[キャンセル]

新しいショートカットを追加せずに、ダイアログボックスをクローズします。

ブラウザペインのタブプロパティ

ブラウザペインでタブを右クリックし、ポップアップメニューから [プロパティ] を選択すると、[ブラウザペインのタブプロパティ] ダイアログボックスが開きます。詳細は 494 ページの「ブラウザペインのブラウザタブ用ポップアップメニュー」を参照してください。

[ブラウザペインのタブプロパティ] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

ラベル

ブラウザペインの選択したタブのラベルです。

説明

ブラウザペインの選択したタブの説明です。

[OK]

変更を保存してダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

ブラウザ設定

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスで [保存したブラウザ設定を使用...] をクリックするか、またはメインメニューから [アクション: フィルター処理 -> 保存されたブラウザ設定の使用...] を選択すると、[ブラウザ設定] ダイアログボックスが開きます。詳細は 518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。

[ブラウザ設定] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

種類

2 種類のフィルターの中の 1 つを表示します。

グローバル

管理者が定義したフィルターです。

パーソナル

現在のオペレータが定義したフィルターです。

名前

既存のフィルター名です。

[名称変更]

新規フィルターに対する変更を保存します。[ブラウザ設定の名称変更] ダイアログボックスで新規フィルターの名前を入力します。詳細は 555 ページの「[ブラウザ設定の名称変更] ダイアログボックス」を参照してください。

[削除]

既存のフィルターを削除します。

[OK]

変更を保存してダイアログボックスを閉じます。

[適用]

変更を保存しますが、ダイアログボックスは開いたままです。メニューバーではなく [メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスから [ブラウザ設定] ダイアログボックスを開いた場合、このボタンは使用できません。

[クローズ]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[オペレータのパスワードの変更] ダイアログボックス

メニューバーから [ファイル : パスワードの変更] を選択すると、[オペレータのパスワードの変更] ダイアログボックスが開きます。

[オペレータのパスワードの変更] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

ユーザー名

現在の HPOM オペレータのパスワードです。

古いパスワード

現在の HPOM オペレータのパスワードです。

新しいパスワード

今後、使用したいパスワードです。

パスワードの確認入力

新しいパスワードを確認のために再入力します。

[OK]

変更を保存してダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックス

メニューバーから [表示 : メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ ...] を選択した場合、またはカスタマイズするブラウザを選択してポップアップメニューの [メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ ...] を選択した場合に、[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスが開きます。[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスでは、メッセージブラウザのカラムの表示 / 非表示の設定やラベルの変更を行うことができます。このダイアログボックスでの変更は、メッセージブラウザと [メッセージのプロパティ] ダイアログボックスに表示される内容に影響します。

注記

一般的なメッセージ属性の詳細は 576 ページの「メッセージフィールド」を参照してください。

「メッセージのプロパティ」ダイアログボックスのオプションの詳細は 531 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

□ 一般

詳細は 514 ページの「[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスの [一般] タブ」を参照してください。

□ カスタム

詳細は 514 ページの「[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスの [カスタム] タブ」を参照してください。

[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスのグローバルオプション

[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスには、次のボタンがあります。

[OK]

変更を保存してダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスの [一般] タブ

[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスの [一般] タブを使うと、メッセージブラウザで使用できるフィールドを決めることができます。カラムをチェックしている場合は、そのカラムがメッセージブラウザで使用できます。必要に応じて、カラムのラベルを変更できます。このタブの詳細は 576 ページの「メッセージフィールド」を参照してください。

[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスの [カスタム] タブ

[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスの [カスタム] タブには、次のオプションがあります。

カスタムメッセージ属性

利用可能なカスタムメッセージ属性 (サーバー側のテンプレートで定義) の、どのフィールドをメッセージブラウザで使用できるかを決めます。必要に応じて、カラムのラベルを変更できます。

予想カスタムメッセージ属性

予想カスタムメッセージ属性 (入力エリア) に入力されたカスタム属性を表示します。

予想カスタムメッセージ属性 (入力エリア)

予想カスタムメッセージ属性を追加します。

ID

属性 ID のテキスト入力フィールドです。


ラベル

属性ラベルのテキスト入力フィールドです。

[追加]

予想カスタムメッセージ属性にカスタム属性を追加します。

[日付および時刻] ダイアログボックス

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスで日付や時刻に関するカラムを選択して、 をクリックすると、[日付および時刻] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスは、日時に関するカラムのフィルター条件を作成する場合に便利です。

[日付および時刻] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

時刻

時刻。形式は、Java GUI クライアントシステムで選択されている地域設定に準じます。

日付

日付。形式は、Java GUI クライアントシステムで選択されている地域設定に準じます。

[OK]

変更を保存してダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[現在の表示間隔の入力] ダイアログボックス

ワークスペースペインの傾向グラフのポップアップメニューで [設定 : 現在の傾向グラフ] を選択すると、[現在の表示間隔の入力] ダイアログボックスが開きます。詳細は 487 ページの「ワークスペースペインのグラフ用ポップアップメニュー」を参照してください。

[現在の表示間隔の入力] ダイアログボックスには次のオプションがあります。

リファレンス ダイアログボックス

間隔

現在のグラフを表示するために使う時間間隔です。
日、時間、分、秒を入力します (ddd:hh:mm:ss)。

[OK]

変更を保存してダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[データ保存期間の入力] ダイアログボックス

ワークスペースペインの傾向グラフのポップアップメニューで [設定 -> データ保存期間] を選択すると、[データ保存期間の入力] ダイアログボックスが開きます。詳細は 487 ページの「ワークスペースペインのグラフ用ポップアップメニュー」を参照してください。

[データ保存期間の入力] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

期間

グラフに使うデータの保存期間です。日、時間、分、秒を入力します (ddd:hh:mm:ss)。

[OK]

変更を保存してダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[ズーム間隔の入力] ダイアログボックス

ワークスペースペインの傾向グラフのポップアップメニューで [設定 -> ズーム間隔] を選択すると、[ズーム間隔の入力] ダイアログボックスが開きます。詳細は 487 ページの「ワークスペースペインのグラフ用ポップアップメニュー」を参照してください。

[ズーム間隔の入力] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

開始

グラフの開始時間 (hh:mm:ss) と日付 (yyyy/mm/dd) です。

終了

終了時間 (hh:mm:ss) と日付 (yyyy/mm/dd) です。

[OK]

変更を保存してダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスでは、ワークスペースペインとブラウザペインのフィルター処理済メッセージブラウザを作成、変更、再利用できます。

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

□ 一般

詳細は 520 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [一般] タブ」を参照してください。

□ シンボルとオブジェクト

詳細は 522 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [シンボルとオブジェクト] タブ」を参照してください。

□ ペンディング詳細

詳細は 523 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [ペンディング詳細] タブ」を参照してください。

□ パラメーター一覧

詳細は 524 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [パラメーター一覧] タブ」を参照してください。

注記

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスのどのタブにもあるオプションがあります。詳細は 519 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスのグローバルオプション」を参照してください。

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスにアクセスする方法は、以下を参照してください。

- 233 ページの「アクティブメッセージの表示」
- 233 ページの「履歴メッセージの表示」
- 236 ページの「ペンディングメッセージの表示」
- 300 ページの「ブラウザのフィルター設定を保存するには」

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスのグローバルオプション

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスのどのタブにも、次のオプションがあります。

フィルター名

[メッセージブラウザ] ウィンドウに表示する名前を、
[ブラウザペイン] タブ、またはオブジェクトペインと
ショートカットバーの [フィルター設定] エリアで設定し
ます。

[OK]

変更を保存してダイアログボックスを閉じます。

[適用]

変更を保存しますが、ダイアログボックスは開いたまま
です。

[リセット]

ダイアログボックスの内容をクリアします。

[クローズ]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[保存...]

新規フィルターに対する変更を保存します。[ブラウザの
フィルター設定の保存] ダイアログボックスを開き、新規
フィルター名を入力します。詳細は 556 ページの「[ブ
ブラウザのフィルター設定の保存] ダイアログボックス」
を参照してください。

[保存した設定を使用]

既存のフィルターからフィルターオプションにアクセス
します。[ブラウザ設定] ダイアログボックスを開き、既
存のフィルターを選択できます。詳細は 511 ページの
「ブラウザ設定」を参照してください。

注記

オブジェクトペインの [個人用フィルター設定] エリアでフィルターをすでに保存している場合は、オブジェクトペインのそのポップアップメニューからは [メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスがオープンされ、[OK]、[適用]、[保存した設定を使用] ボタンは選択できません。

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [一般] タブ

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [一般] タブには、次のオプションがあります。

時間で

ある時間内に受信したメッセージだけを表示します。
日時指定または相対値指定ができます。

日時指定

開始時間と終了時間 (hh:mm:ss) と
日付 (yy/mm/dd) です。

相対値指定

プラス (+) またはマイナス (-) 文字
を、日付の d、時間の h、分の m と組
み合わせて定義します。たとえば -1d
は昨日、+15m は 15 分後、0d は現在
を意味します。

注記

タイムゾーン設定が HPOM 管理サーバーとは異なるシステムで HPOM Java GUI を実行している場合には、Java GUI に表示されるタイムスタンプは、HPOM 管理サーバーではなく、ローカルシステム (すなわち、Java GUI を実行中のシステム) のものが使われます。609 ページの「ito_op.bat オプション」も参照してください。

所有状態で

アクティブメッセージフィルターだけです。選択したグループが所有するメッセージを表示します。

次の所有状態を組み合わせで選択できます。

- 非所有
- 自己所有
- 他者所有

選択メッセージを表示

アクティブメッセージフィルターだけです。メッセージブラウザで選択したメッセージだけが表示されます。メニューバーの [アクション: フィルター処理] からダイアログボックスをオープンした場合、このチェックボックスは使えません。

非該当メッセージを表示

非該当 (不一致) フラグがあるメッセージだけを表示します。表示されるメッセージは設定されたメッセージ条件のいずれにも合致しないメッセージです。

重要度で

選択した重要度レベルでメッセージを表示します。
どの組み合わせの重要度レベルでも選択できます。

- 認識不能
- 正常域
- 注意域
- 警戒域
- 重要警戒域
- 危険域

メッセージの文字列で

指定した文字列に一致するメッセージだけを表示します。

- 制御文字

[メッセージの文字列で] フィールドにフィルターパターンを指定するときに、かぎカッコ (<>) や角カッコ ([]) などの制御文字を使う場合は、それらの文字の前に必ず円記号 (¥) を付けてください。円記号を付けないと、次のエラーメッセージが表示されます。

「パターン "[message]" に構文エラーがあります。
(OpC20-235)」

- 最大 254 文字

メッセージテキストパターンは最大 254 文字です。

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [シンボルとオブジェクト] タブ

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [シンボルとオブジェクト] タブには、次のオプションがあります。

シンボルとオブジェクトで

メッセージブラウザまたはオブジェクトペインで選択したシンボルとオブジェクトを表示します。シンボルまたはオブジェクトを追加する前に、このチェックボックスを選択します。

最初のコンボボックスには、次の項目があります。

- ノード
- ツール
- メッセージグループ
- オブジェクト
- サービス
- CMA

2 番目のコンボボックスには、利用可能なカスタムメッセージ属性がすべて含まれます。

パターンで

選択すると、カスタムメッセージ属性にテキストパターンを使用できます。

名前

[名前] フィールドのパターンの構文は、[メッセージの文字列で] フィールドと同じです。同じ制限が適用されます。

[選択シンボルの取込み]

オブジェクトペインに、選択したシンボルのタイプ、名前、ラベルを表示します。

[削除]

[タイプ]、[名前]、[ラベル] で選択したタイプ、名前、ラベルを削除します。

[追加]

コンボボックスで選択したタイプとテキストフィールドに入力した名前を追加します。

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [ペンディング詳細] タブ

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [ペンディング詳細] タブは、ペンディングメッセージフィルターだけに適用されます。[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスにアクセスする方法は 236 ページの「ペンディングメッセージの表示」を参照してください。

[ペンディング詳細] タブには、次のオプションがあります。

バッファ期限切れのメッセージ

バッファ期限切れのバッファのメッセージを表示します。

バッファ解除時間で

ある時間内に受信したメッセージだけを表示します。日時指定または相対値指定ができます。

日時指定

開始時間と終了時間 (hh:mm:ss) と日付 (yy/mm/dd) です。

相対値指定

プラス (+) またはマイナス (-) 文字を、日付の d、時間の h、分の m と組み合わせて定義します。たとえば -1d は昨日、+15m は 15 分後、0d は現在を意味します。

[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [パラメーター一覧] タブ

[パラメーター一覧] タブには、次の [メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスのタブで選択したパラメータすべてが一覧表示されています。

□ 一般

詳細は 520 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [一般] タブ」を参照してください。

□ シンボルとオブジェクト

詳細は 522 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [シンボルとオブジェクト] タブ」を参照してください。

□ ペンディング詳細 (ペンディングメッセージのフィルターのみ)

詳細は 523 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスの [ペンディング詳細] タブ」を参照してください。

[検索] ダイアログボックス

メニューバーから [編集 : 検索 ...] を選択すると、[検索] ダイアログボックスが開きます。[検索] ダイアログボックスを使うと、オブジェクトペインの中で項目を検索できます。

[検索] ダイアログボックスには、次のエリアがあります。

□ 検索ボタン

詳細は 526 ページの「検索ボタン」を参照してください。

□ 基本検索オプション

詳細は 527 ページの「基本検索オプション」を参照してください。

□ 詳細検索オプション

詳細は 528 ページの「詳細検索オプション」を参照してください。

検索機能の概要は 120 ページの「オブジェクトペインの検索」を参照してください。検索機能の使い方は 228 ページの「オブジェクトペインの検索」を参照してください。

検索ボタン

[検索] ダイアログボックスには、次のボタンがあります。

[次を検索]

[検索する文字列] フィールドまたは選択リストで入力または選択したキーワードを検索します。基本検索でも詳細検索でも、選択した項目ではなくオブジェクトツリーの先頭から、検索を開始します。詳細は 527 ページの「基本検索オプション」と 528 ページの「詳細検索オプション」を参照してください。

[キャンセル]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[詳細検索 >>]

ダイアログボックスの詳細検索エリアを開きます。詳細検索オプションについては 528 ページの「詳細検索オプション」を参照してください。

[詳細検索 <<]

ダイアログボックスの詳細検索エリアを閉じます。基本検索オプションについては 527 ページの「基本検索オプション」を参照してください。

基本検索オプション

注記

[検索] ダイアログボックスでは、選択した項目ではなくオブジェクトツリーの先頭から、検索を開始します。一致が見つからない場合、「**検索文字列が見つかりません!**」というメッセージの警告ダイアログボックスが表示されます。一致したものが見つかった場合、**[次を検索]**をクリックすると続けて検索します。オブジェクトツリーの最後まで検索し、一致する項目がなくなると、「**検索を終了します!**」というメッセージが表示されます。

[検索] ダイアログボックスの基本検索エリアには、次のオプションがあります。

検索する文字列

検索するキーワードを入力または選択できます。

完全に一致する単語だけを検索する

チェックすると、入力したキーワードに完全に一致する項目だけを検索します。たとえば検索する単語全体が abc の場合、ツール ab を無視します。

大文字と小文字を区別する

チェックすると、キーワードの大文字小文字までまったく同じ項目だけを検索します。たとえばサーバー abc.hp.com を検索した場合、ノード名 Abc を無視します。

詳細検索オプション

注記

[検索] ダイアログボックスでは、選択した項目ではなくオブジェクトツリーの先頭から、検索を開始します。一致が見つからない場合、「**検索文字列が見つかりません!**」というメッセージの警告ダイアログボックスが表示されます。一致したものが見つかった場合、**[次を検索]**をクリックすると続けて検索します。オブジェクトツリーの最後まで検索し、一致する項目がなくなると、「**検索を終了します!**」というメッセージが表示されます。

[検索] ダイアログボックスの詳細検索エリアには、次のチェックボックスがあります。

ノード

チェックすると、オブジェクトペインでノードを検索します。

メッセージグループ

チェックすると、オブジェクトペインでメッセージグループを検索します。

ツール

チェックすると、オブジェクトペインでツールを検索します。

サービス

Service Navigator をインストールしている場合だけ利用できます。チェックすると、オブジェクトペインでサービスを検索します。

フィルター設定


チェックすると、オブジェクトペインでフィルター設定を検索します。

URL ショートカット

チェックすると、オブジェクトペインで **URL** ショートカットを検索します。

上記のオプションを組み合わせで使用できます。

[フラグ] ダイアログボックス

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスで、項目に [Flags] を選択して  をクリックすると、[フラグ] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスは、[Flags] カラムのフィルター条件を作成する場合に便利です。メッセージフラグについては 581 ページの「メッセージフラグ」を参照してください。

疑問符 (?) は任意の値を示します。ハイフン (-) はフラグがオンになっていないことを示します。

[フラグ] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

状態

メッセージの現在の所有権のステータス。値は、? - O M X R N です。

非該当メッセージ

HPOM によってフィルターに該当しないメッセージとして分類されたメッセージに関する情報。値は、? - X です。

指示

指示の有無。値は、? - X です。

自動アクション

自動アクションの有無と現在のステータス。値は、? - X S F R です。

オペレータ起動アクション

オペレータ起動アクションの有無と現在のステータス。値は、? - X S F R です。

注釈

注釈の有無。値は、? - X です。

[OK]

変更を保存してダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[メッセージ表示フィルターのロード] ダイアログボックス

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [ロード] をクリックすると、[メッセージ表示フィルターのロード] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスは、保存済のメッセージ表示フィルターを [メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスにロードする場合に便利です。

[メッセージ表示フィルターのロード] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

フィルター

メッセージ表示フィルターのリスト。名前でソートされています。

グローバル

フィルターが HPOM 管理者によって定義されていることを示します。グローバルフィルターはすべてのユーザーが使用できます。

パーソナル

フィルターが HPOM オペレータによって個人用に定義されていることを示します。個人用フィルターはオペレータのみが使用可能であり、管理者はこのフィルターをロードできません。

[名称変更 ...]

[メッセージ表示フィルターの名称変更] ダイアログボックスを表示します。詳細は 555 ページの「[メッセージ表示フィルターの名称変更] ダイアログボックス」を参照してください。

[削除]

選択した保存済メッセージ表示フィルターを HPOM から削除します。

[OK]

変更を保存してダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックス

メッセージを右クリックしてポップアップメニューから [プロパティ] を選択すると、[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスには、メッセージの詳細がすべて表示されます。

注記

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックス内のメッセージ、指示、および注釈のテキスト項目でも、URL をハイパーリンク付きで表示することができます。

URL テキストがハイパーリンクとして表示されるには、"http://" で始まっている必要があります。

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

□ 一般

詳細は 534 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [一般] タブ」を参照してください。

□ メッセージテキスト

詳細は 534 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [メッセージテキスト] タブ」を参照してください。

□ オリジナルメッセージ

詳細は 534 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [オリジナルメッセージ] タブ」を参照してください。

□ アクション

詳細は 535 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [アクション] タブ」を参照してください。

□ 指示

詳細は 536 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [指示] タブ」を参照してください。

□ 注釈

詳細は 536 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [注釈] タブ」を参照してください。

リファレンス ダイアログボックス

□ カスタム属性

詳細は 537 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [カスタム属性] タブ」を参照してください。

□ マップ済みサービス

詳細は 537 ページの「[マップ済みサービス] タブ」を参照してください。

注記

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスのどのタブにもあるフィールドとボタンがあります。詳細は 533 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスのグローバルオプション」を参照してください。

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの概要は、次のセクションを参考にしてください。

- 72 ページの「メッセージ」
- 132 ページの「メッセージ属性の調査」
- 133 ページの「メッセージ属性の変更」

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスのグローバルオプション

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスのどのタブにも、次のフィールドがあります。

重要度

メッセージの重要度を示します。

- 認識不能
- 正常域
- 注意域
- 警戒域
- 重要警戒域
- 危険域

メッセージテキスト

メッセージの最初の数文字。

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスのどのタブにも、次のボタンがあります。

[クローズ]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[印刷]

選択されたメッセージの内容を印刷します。

[受諾]

選択したメッセージを受諾します。

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [一般] タブ

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [一般] タブには、メッセージブラウザに表示されるフィールドがあります。このタブの詳細は 576 ページの「メッセージフィールド」を参照してください。

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [メッセージテキスト] タブ

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [メッセージテキスト] タブには、現在のメッセージのテキストがあります。このテキストは、必要に応じて [メッセージ属性の変更] ダイアログボックスで変更できます。詳細は 543 ページの「[メッセージ属性の変更] ダイアログボックス」を参照してください。

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [オリジナルメッセージ] タブ

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [オリジナルメッセージ] タブには、メッセージのオリジナルのテキストがあり、参照用に保管されています。

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [アクション] タブ

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [アクション] タブには、メッセージに対して設定された自動アクションとオペレータ起動アクションが表示され、アクションを起動できます。自動注釈と受諾は、外部通知とトラブルチケット設定と同じように示されます。

[アクション] タブには、次のフィールドとボタンがあります。

タイプ

アクションのタイプです(たとえば、**自動アクション**なし、**オペレータアクション**なし、**通知**、または**トラブルチケット**)。

ステータス

アクションのステータスです(たとえば、**成功**または**はいえ**)。

ノード

アクションを起動するノードです。

コマンド

アクションの起動に使う文字コマンドです。

注釈

アクションに関連付けられたメッセージに注釈があるかどうかを示します(たとえば、**はい**または**はいえ**)。

受諾

アクションに関連付けられたメッセージが受諾されたかどうかを示します(たとえば、**はい**または**はいえ**)。

オペレータ起動アクション

[起動]

選択したメッセージに関連付けられたオペレータ起動アクションを起動します。

[停止]

選択したメッセージに関連付けられたオペレータ起動アクションを停止します。

自動アクション

[再起動]

選択したメッセージに関連付けられた自動アクションを再起動します。

[停止]

選択したメッセージに関連付けられた自動アクションを停止します。

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [指示] タブ

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [指示] タブには、障害解決を支援する管理者からの指示が表示されます。HPOM が生成し、メッセージブラウザに表示されるメッセージのほとんどには、要求に応じて利用できる指示があります。

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [注釈] タブ

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [注釈] タブでは、メッセージに注釈を付けることができます。タブから、新規注釈を追加したり、既存の注釈を変更したり、現在の注釈を削除したりできます。

[注釈] タブには、次のフィールドとボタンがあります。

注釈

注釈の数です (たとえば 1/2)。上矢印をクリックすると次の注釈へ移動します。下矢印をクリックすると前の注釈へ移動します。

作者

現在の注釈を書いたオペレータです。

日付 / 時刻

現在の注釈が書かれた日時です。

[新規注釈の追加]

[注釈の追加] ダイアログボックスにアクセスし、ここで新規注釈を入力できます。詳細は 508 ページの「[注釈の追加] ダイアログボックス」を参照してください。

[変更]

[注釈の変更] ダイアログボックスにアクセスし、現在の注釈を編集できます。詳細は 543 ページの「[グループの変更] ダイアログボックス」を参照してください。

[削除]

現在の注釈を削除します。

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [カスタム属性] タブ

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [カスタム属性] タブには、選択したメッセージに対して利用できるカスタムメッセージ属性 (サーバー側のテンプレートで定義) が表示されます。詳細は 135 ページの「カスタムメッセージ属性」を参照してください。

[マップ済みサービス] タブ

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [マップ済みサービス] タブは、選択されたメッセージがターゲットとするサービスをリストします。リストされるサービスは、直接影響を受けるサービスであって、ステータス伝播により間接的に影響を受けるものは含まれないことに注意してください。

サービスラベル

オブジェクトペインに表示されているサービスのラベルに同じ

サービス名

HPOM システム管理者が指定したサービスの名前

このタブは、HPOM システム管理者が **Service Configuration for Service Navigator** を使って **Service Navigator** を設定する場合にだけ有効です。

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックス

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスは、次の方法で表示できます。

- ❑ **メッセージブラウザヘッダーのポップアップメニュー**
メッセージブラウザヘッダーのポップアップメニューで [メッセージ表示フィルター : カスタム] を選択します。
- ❑ **オブジェクトペインのフィルター設定用ポップアップメニュー**
オブジェクトペインのフィルター設定グループのポップアップメニューで [新規フィルターの追加] または [変更] を選択します。
- ❑ **メインメニュー**
メインメニューで [アクション : フィルター処理 -> メッセージ表示フィルター] を選択します。
- ❑ **ツールバーアイコン**



[メッセージ表示フィルターのダイアログボックスを開く] ツールバーアイコンをクリックします。

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスでは、メッセージ表示フィルターを作成、保存、およびロードできます。[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスを閉じると、現在のメッセージブラウザにフィルターが適用されます。メッセージ表示フィルターを使うと、特定のメッセージのサブセットに焦点を当てるように、メッセージを一時的に隠すことができます。

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- ❑ **簡単な表示**
詳細は 539 ページの「[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [簡単な表示] タブ」を参照してください。
- ❑ **詳細な表示**
詳細は 540 ページの「[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [詳細な表示] タブ」を参照してください。
- ❑ **テキスト表示**
詳細は 542 ページの「[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [テキスト表示] タブ」を参照してください。

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスのグローバルオプション

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの各タブには、次のボタンがあります。

[OK]

メッセージ表示フィルターを適用し、ダイアログボックスを閉じます。

[適用]

メッセージ表示フィルターを適用しますが、ダイアログボックスを開いたままにします。

[キャンセル]

メッセージ表示フィルターを適用せずにダイアログボックスを閉じます。

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [簡単な表示] タブ

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [簡単な表示] タブには、次のオプションがあります。

[ロード...]

[メッセージ表示フィルターのロード] ダイアログボックスを表示します。詳細は 530 ページの「[メッセージ表示フィルターのロード] ダイアログボックス」を参照してください。

[保存...]

[メッセージ表示フィルターの保存] ダイアログボックスを表示します。詳細は 556 ページの「[メッセージ表示フィルターの保存] ダイアログボックス」を参照してください。

[追加]

条件リストに条件を追加します。新しい条件は、リストの末尾に追加されます。

[削除]

選択した条件を条件リストから削除します。

リファレンス ダイアログボックス

項目

フィルター処理するメッセージブラウザカラムの名前。

NOT

否定条件にします。

演算子

値に適用する演算子を指定します。

値

検出する値やパターン。



指定したカラムに応じて、[日付および時刻] ダイアログボックスまたは [フラグ] ダイアログボックスを表示します。詳細は 515 ページの「[日付および時刻] ダイアログボックス」と 529 ページの「[フラグ] ダイアログボックス」を参照してください。

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [詳細な表示] タブ

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [詳細な表示] タブには、次のオプションがあります。

[ロード ...]

[メッセージ表示フィルターのロード] ダイアログボックスを表示します。詳細は 530 ページの「[メッセージ表示フィルターのロード] ダイアログボックス」を参照してください。

[保存 ...]

[メッセージ表示フィルターの保存] ダイアログボックスを表示します。詳細は 556 ページの「[メッセージ表示フィルターの保存] ダイアログボックス」を参照してください。

[新規条件]

新しい条件をフィルターに追加します。

[削除]

条件またはルールをフィルターから削除します。ルールを削除すると、ルールの要素も削除されます。

[新規ルール]

フィルターに新しいルールを追加します。

[ルールを削除]

フィルターからルールを削除します。ルールに要素が含まれている場合、それらの要素は、1 つ上のレベルに繰り上げられます。

[上に移動]

選択した条件や規則を 1 つ上のレベルに移動します。

[下に移動]

選択した条件や規則を 1 つ下のレベルに移動します。

[条件] を選択した場合、[**メッセージ表示フィルター**] ダイアログボックスの下半分には、次のオプションが表示されます。

項目

フィルター処理するメッセージブラウザカラムの名前。

NOT

選択した場合は、否定条件になります。

演算子

値に適用する演算子を指定します。

値

検出する値やパターン。



指定したカラムに応じて、[**日付および時刻**] ダイアログボックスまたは [**フラグ**] ダイアログボックスを表示します。詳細は 515 ページの「[**日付および時刻**] ダイアログボックス」と 529 ページの「[**フラグ**] ダイアログボックス」を参照してください。

[ルール] を選択した場合、[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの下半分には、次のオプションが表示されます。

演算子

論理 AND または論理 OR。

NOT

否定ルールにします。

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [テキスト表示] タブ

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスの [テキスト表示] タブには、次のオプションがあります。

メッセージ表示フィルター定義の編集

編集可能なテキスト領域。メッセージ表示フィルターの定義をテキスト形式で入力できます。

メッセージ表示フィルターで使用する構文は 211 ページの「メッセージ表示フィルターの保存」を参照してください。

[チェック]

フィルターを検証し、エラーとなる可能性があるものをレポートします。

[注釈の変更] ダイアログボックス

[注釈の変更] ダイアログボックスは、[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの [注釈] タブで [変更] ボタンをクリックすると開きます。[注釈の変更] ダイアログボックスでは、現在の注釈を編集できます。[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスの詳細は 531 ページの「[メッセージのプロパティ] ダイアログボックス」を参照してください。

[注釈の変更] ダイアログボックスには、次のフィールドとボタンがあります。

[OK]

編集した注釈を保存します。

[キャンセル]

編集した注釈を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[グループの変更] ダイアログボックス

[グループの変更] ダイアログボックスは、ショートカットグループのポップアップメニューで [現在のグループの変更] をクリックすると開きます。[グループの変更] ダイアログボックスでは、ショートカットグループの現在のラベルを編集できます。

[グループの変更] ダイアログボックスには、次のフィールドとボタンがあります。

ラベルを入力してください：

ショートカットバーのショートカットグループに表示される名前です。

[OK]

編集した名前を保存します。

[キャンセル]

編集した名前を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[メッセージ属性の変更] ダイアログボックス

[メッセージ属性の変更] ダイアログボックスは、メッセージを右クリックして、次にポップアップメニューから [変更] を選択すると開きます。

[メッセージ属性の変更] ダイアログボックスでは、重要度とメッセージのテキストを変更できます。詳細は 133 ページの「メッセージ属性の変更」を参照してください。

[メッセージ属性の変更] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

ノード

メッセージに関連付けられたノードです。

アプリケーション

メッセージに関連付けられたツールです。

メッセージ No.

メッセージに関連付けられたメッセージ番号です。

管理サーバーでの受信時刻

管理サーバーでメッセージが受信された時刻です。

重要度

メッセージに対して次の重要度の中から 1 つを選択できます。

- 変更なし
- 認識不能
- 正常域
- 注意域
- 警戒域
- 重要警戒域
- 危険域

メッセージテキスト

メッセージのテキストを編集できるテキストフィールドです。

[OK]

メッセージ属性に対する変更を保存します。

[キャンセル]

ショートカットを変更せずにダイアログボックスを閉じます。

[ショートカットの変更] ダイアログボックス

ショートカットバーの URL ショートカットグループに入っていないショートカットを右クリックして、ポップアップメニューから [ショートカットの変更] を選択すると、[ショートカットの変更] ダイアログボックスが開きます。詳細は 285 ページの「ショートカットの変更」を参照してください。

[ショートカットの変更] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

ID

新しいショートカット用にシステムが生成した ID。

ラベル

ショートカットのラベルを編集できます。

[OK]

ショートカットを変更し、ダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

ショートカットを変更せずにダイアログボックスを閉じます。

[URL ショートカットの変更] ダイアログボックス

ショートカットバーの URL ショートカットグループに入っているショートカットを右クリックして、ポップアップメニューから [URL ショートカットの変更] を選択すると、[URL ショートカットの変更] ダイアログボックスが開きます。詳細は 285 ページの「ショートカットの変更」を参照してください。

[URL ショートカットの変更] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

ID

新しいショートカット用にシステムが生成した ID。

URL

URL ショートカットの場所を編集できます。

ラベル

ショートカットのラベルを編集できます。

[OK]

ショートカットを変更し、ダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

ショートカットを変更せずにダイアログボックスを閉じます。

[表示設定] ダイアログボックス

メニューバーから [編集 : 表示設定 ...] を選択すると、[表示設定] ダイアログボックスが開きます。[表示設定] ダイアログボックスでは、Java GUI をカスタマイズできます。

[表示設定] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

□ 一般

詳細は 548 ページの「[表示設定] ダイアログボックスの [一般] タブ」を参照してください。

[一般] タブのイメージは 188 ページの図 1-79 を参照してください。

□ Web ブラウザ

詳細は 550 ページの「[表示設定] ダイアログボックスの [Web ブラウザ] タブ」を参照してください。

[Web ブラウザ] タブのイメージは 80 ページの図 1-25 を参照してください。

□ イベント

詳細は 551 ページの「[表示設定] ダイアログボックスの [イベント] タブ」を参照してください。

□ サービス

詳細は 552 ページの「[表示設定] ダイアログボックスの [サービス] タブ」を参照してください。

[表示設定] ダイアログボックスの使い方は、次の手順を参照してください。

- 287 ページの「ショートカットバー上のアイコンサイズのカスタマイズ」
- 289 ページの「統合 Web ブラウザの変更」
- 323 ページの「表示するメッセージ数を変更するには」
- 278 ページの「再表示周期のカスタマイズ」
- 281 ページの「Java GUI のルック & フィールのカスタマイズ」
- 325 ページの「メッセージブラウザのカラー表示の設定をカスタマイズするには」

- 293 ページの「メッセージイベントの通知方法の設定」
- 294 ページの「フォントサイズのカスタマイズ」

[表示設定] ダイアログボックスの [一般] タブ

[表示設定] ダイアログボックスの [一般] タブには、次のオプションがあります。

再表示周期

Java GUI が自動的に再表示する周期 (hh:mm:ss) を入力します。デフォルトは 00:00:30 です。

最新のメッセージ数

メッセージブラウザに表示するアクティブメッセージの数を入力します。デフォルトは 50 メッセージです。

最新のメッセージ数 (履歴メッセージ)

メッセージブラウザに表示する履歴メッセージの数を入力します。デフォルトは 50 メッセージです。

Display

X ツールの表示がエクスポートされるホスト名。

ルック & フィール

種々のインタフェーススタイルから選択できます。

- Metal
- Motif
- HP One Voice (デフォルト)
- Windows (Windows 上でのみ)
- Aqua (Mac OS 上でのみ)

カラー行

メッセージブラウザのメッセージ行に、メッセージの重要度に応じた色を付けるチェックボックス。

アプリケーションフォントサイズ

一般フォントサイズを指定(ポイント単位)できます。これは、サービスグラフとマップ以外のすべての **Java GUI** コンポーネントに適用されます。デフォルト値は 11 です。

常に最前面

メインおよび取り外したウィンドウが画面の最前面に表示されます。

ショートカットバーに表示するアイコンのサイズ

アイコンのサイズ(ピクセル)を決めます。デフォルトは 32 です。

通信ステータスダイアログの表示

[HPOM 通信ステータス] ダイアログの表示/非表示を設定します(デフォルトでは表示)。

ヘルプの URL

HPOM オンラインドキュメントの場所を変更できます。

所有メッセージを重要度でソートする

所有メッセージを重要度でソートします。

ヘルプページに常に外部 Web ブラウザを使う

(未定。Oliver に確認。機能せず、バグ番号)ヘルプのトピックの表示に別の Web ブラウザを設定することができます。

ツールのカスタムセット

選択したメッセージに関連するツールだけを、ポップアップメニューに表示するようにします。

フィルター処理済履歴メッセージの期間

フィルター処理された履歴メッセージがロードされる期間を設定できます。

[表示設定] ダイアログボックスの [Web ブラウザ] タブ

[表示設定] ダイアログボックスの [Web ブラウザ] タブには、次のオプションがあります。

外部 Web ブラウザを使う

ワークスペースペインの **ActiveX** 対応でないタブで、**Java GUI** の外部にある **Web ブラウザ** を選択する。ワークスペースペインの **ActiveX** タブで、**Microsoft Internet Explorer** のアクティブコントロールを選択します。[表示] をクリックすると、マシンの外部 **Web ブラウザ** の位置を調べます。

ActiveX Internet Explorer コントロールを使う

Microsoft Internet Explorer の **ActiveX** コントロールを選択します。ワークスペースペインの **ActiveX** タブでだけ、このコントロールをアクティブにできます。

[表示設定] ダイアログボックスの [イベント] タブ

[表示設定] ダイアログボックスの [イベント] タブには、次のオプションがあります。

メッセージイベントの通知方法

警告ダイアログを表示する

メッセージイベントが発生すると、警告ダイアログボックスを表示します。

ローカルアプリケーションを起動する

ローカルツールを起動します。このアプリケーションを選択するには、[参照...] をクリックし、次に、コンピュータにインストールされたツールを選択します。

メッセージの重要度が

のとき

リストボックスから、次の重要度を選択できます。

- 認識不能
- 正常域
- 注意域
- 警戒域
- 重要警戒域
- 危険域

最初のメッセージ受信時のみ起動する

選択した重要度と同じかそれ以上の重要度を持つ最初のメッセージに対してだけ、通知イベントを送信します。

メッセージ受信の都度起動する

選択した重要度と同じかそれ以上の重要度を持つ新規メッセージを受信するたびに、通知イベントを送信します。

[表示設定] ダイアログボックスの [サービス] タブ

[表示設定] ダイアログボックスの [サービス] タブには次のオプションがあります。

オンデマンドサービスロードを使用

オンデマンドサービスロードを使用

Java GUI の起動時またはその後のユーザー要求に従って、管理サーバーから取得されるサービス階層のレベル数を指定できます。サービス階層のレベル数をテキストフィールド内に指定します。**Service Navigator** では、最大 **256** の階層をサポートしているので、この範囲内で階層のレベル数を指定します。デフォルト値は **1** です。

自動サービス再ロード

デフォルトでは有効になっています。管理サーバーに変更が生じたとき、サービス設定の自動再ロードを有効または無効にします。

スマートキャッシュ再ロードを使用

Java GUI で、現在使用されているサービスだけを保存できます。スマートキャッシュ再ロードを呼び出す時間間隔を、テキストフィールドに指定します。デフォルト値は **30** 分です。

設定変更時に通知ダイアログを表示

設定変更の発生の都度、通知ダイアログによる通知が必要かどうかを指定できます。これは、[オンデマンドサービスロードを使用] オプションが有効になっている場合にだけ指定可能です。それ以外の場合には、このオプションは常に有効で、グレー表示されていて指定することはできません。

メッセージにサービスラベルを表示

メッセージのサービスのラベルをメッセージブラウザに表示します。[オンデマンドサービスロードを使用]機能を使用する際に **Java UI** にサービスラベルがロードされていない場合は、カラムにテキストが表示されません。

グラフのズーム設定

ズーム

サービスグラフまたはマップのズーム倍率を、既定の倍率(パーセント単位、5% ~ 100%)の中から選択して指定できます。

カスタム

サービスグラフまたはマップの水平方向または垂直方向のズーム倍率を、既定の倍率(パーセント単位、5% ~ 100%)の中から選択して指定できます。

サービスグラフのフォントサイズ

サービスグラフまたはマップのフォントサイズを指定(ポイント単位)できます。デフォルト値は **11** です。

デフォルトのサービスステータス計算

管理者の設定を使用

HPOM 管理者が設定したデフォルトのサービスステータス計算ビューを指定することができます。このオプションを選択した場合、オブジェクトペインと、表示するすべてのサービスグラフおよびサービスマップに、この計算ビューが自動的に適用されます。

カスタム設定を使用

HPOM 管理者が設定した値にかかわらず、デフォルトのサービスステータス計算ビューを使うときに設定します。このオプションを設定した場合、オブジェクトペインと、表示するすべてのサービスグラフおよびサービスマップに、この計算ビューが自動的に適用されます。

サービスグラフとマップにウォーターマークを表示する

このチェックボックスを選択することによって、設定したステータス計算ビューのサービスグラフおよびサービスマップのウォーターマークを有効にできます。

[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログで、少なくとも 1 つのステータス計算ビューに対してウォーターマークを有効にすると、このチェックボックスは自動的に選択されます。また、**[ウォーターマークの詳細設定]** ダイアログで、両方のステータス計算ビューに対してウォーターマークを無効にすると、**[サービス グラフとマップにウォーターマークを表示する]** チェックボックスは、自動的に選択解除されます。

[詳細]

すべてのステータス計算ビューに対して、サービスグラフおよびサービスマップのウォーターマークを有効にしてカスタマイズできる **[ウォーターマークの詳細設定]** ダイアログボックスが表示されます。

[ブラウザ設定の名称変更] ダイアログボックス

[ブラウザ設定の名称変更] ダイアログボックスは、[ブラウザ設定] ダイアログボックスの [名称変更] を選択すると開きます。詳細は 511 ページの「ブラウザ設定」を参照してください。

[ブラウザ設定の名称変更] ダイアログボックスには、次の属性があります。

名称

既存フィルターの新規名称。

[OK]

[名称] フィールドで入力した新規名称で、既存のフィルターを保存します。

[キャンセル]

フィルター名の変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[メッセージ表示フィルターの名称変更] ダイアログボックス

[メッセージ表示フィルターの名称変更] ダイアログボックスは、[メッセージ表示フィルターの保存] ダイアログボックスまたは [メッセージ表示フィルターのロード] ダイアログボックスの [名称変更] を選択すると開きます。このダイアログボックスを使って、保存済メッセージ表示フィルターに新しい名前を指定できます。

[メッセージ表示フィルターの名称変更] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

メッセージ表示フィルターの名称変更

メッセージ表示フィルターの新規名称。

[OK]

変更を保存してダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[ブラウザのフィルター設定の保存] ダイアログボックス

[ブラウザのフィルター設定の保存] ダイアログボックスは、[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックスで [保存...] をクリックすると開きます。詳細は 518 ページの「[メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス」を参照してください。

[ブラウザのフィルター設定の保存] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

名称

既存フィルターの新規名称。

[OK]

[名称] フィールドで入力した新規名称で、既存のフィルターを保存します。

[キャンセル]

フィルター名の変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[メッセージ表示フィルターの保存] ダイアログボックス

[メッセージ表示フィルター] ダイアログボックスで [保存] をクリックすると、[メッセージ表示フィルターの保存] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでメッセージ表示フィルターに名前を付けて保存すると、その後で再度利用できます。

[メッセージ表示フィルターの保存] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

フィルター

現在保存されているメッセージ表示フィルターのリスト。名前ですべてソートされています。

グローバル

フィルターが HPOM 管理者によって定義されていることを示します。グローバルフィルターは、すべてのユーザーが使用できますが、変更および保存できるのは HPOM 管理者だけです。

パーソナル

フィルターが HPOM オペレータによって個人用に定義されていることを示します。オペレータが保存できるのは個人用フィルターのみです。また、管理者は個人用フィルターを保存できません。

[名称変更 ...]

[**メッセージ表示フィルターの名称変更**] ダイアログボックスを表示します。詳細は 555 ページの「[**メッセージ表示フィルターの名称変更**] ダイアログボックス」を参照してください。

[削除]

選択した保存済メッセージ表示フィルターを HPOM から削除します。

名称

メッセージ表示フィルターの名称。

[OK]

変更を保存してダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[オペレータにメッセージを送信] ダイアログボックス

メニューバーの [**ファイル : オペレータにメッセージを送信 ...**] ダイアログボックスをクリックすると、[**オペレータにメッセージを送信**] ダイアログボックスが表示されます。

[**オペレータにメッセージを送信**] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

メッセージ

ユーザーに送信するテキストを指定するテキストボックス。

全オペレータに送信

デフォルトではこのオプションが選択されています。現在ログオン中のすべてのユーザーにメッセージを送信します。

送信先オペレータを指定

選択したユーザーだけにメッセージを送信します。送信先のオペレータの **HPOM** ユーザー名を入力します。複数のユーザーに送信する場合は、ユーザー名をコンマで区切ります。

[OK]

メッセージを送信してダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

メッセージを送信せずにダイアログボックスを閉じます。

[サービスプロパティ] ダイアログボックス

HP Operations Service Navigator をインストールしている場合、メニューバーから [アクション : サービス -> プロパティ...] を選択すると、[サービスプロパティ] ダイアログボックスを開くことができます。ショートカットバーかオブジェクトペインのサービス項目、またはワークスペースペインのサービスグラフを右クリックし、次にポップアップメニューの [プロパティ] をクリックしても開きます。

注記

[サービスプロパティ] ダイアログボックスのフィールドは、HPOM 管理者がサービス設定ファイルで値を定義していない場合は、空欄になります。標準の HPOM メニューバー項目は 435 ページの「メニューバー項目」を参照してください。

[サービスプロパティ] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

□ 一般

詳細は 561 ページの「[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [一般] タブ」を参照してください。

□ アクション

詳細は 561 ページの「[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [アクション] タブ」を参照してください。

□ 属性

詳細は 561 ページの「[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [属性] タブ」を参照してください。

□ ステータス情報

詳細は 562 ページの「[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [ステータス情報] タブ」を参照してください。

□ サービス マッピング

詳細は 562 ページの「[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [サービス マッピング] タブ」を参照してください。

リファレンス ダイアログボックス

[サービスプロパティ] ダイアログボックスのすべてのタブには、次のボタンがあります。

[クローズ]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [一般] タブ

[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [一般] タブには、次のオプションがあります。

重要度

サービスの現在の重要度ステータスです。

名前

管理者のサービス設定ファイルで定義された一意のサービス名です。

ラベル

オブジェクトペインに表示されているサービスのラベルに同じ

タイトル

ワークスペースペインの中のサービスのクライアントウィンドウのタイトルです。

オリジナル ID

HP Operations Service Configuration for Service Navigator により割り当てられたサービスの ID です。

詳細

サービスの詳細な説明です。

ノード名

サービスが付加されているノードです。サービスアクションは指定したノードで実行されます。

[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [アクション] タブ

[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [アクション] タブには、選択したサービスまたは下位サービスに割り当てられたアクションが表示されます。

[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [属性] タブ

[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [属性] タブには、選択したサービスに割り当てられた属性を表示します。サービスの属性は管理者が定義し、サービスに関する追加情報を伝えるのに使用できます。

バックグラウンドイメージをサービスサブマップに適用したり、バックグラウンドに下位サービスのアイコンを配置したり、サービスアイコンに補足的なラベルを追加するには、予約属性を使用します。予約サービス属性の詳細は『*HPOM システム管理リファレンスガイド*』を参照してください。

[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [ステータス情報] タブ

[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [ステータス情報] タブには、次のオプションがあります。

パラメータ

サービスのパラメータです。たとえばサービスに対する下位サービスの数です。

値

パラメータの現在の値です。たとえば 3 です。

ステータス計算名

有効になっている現在のサービスステータス計算ビューです。たとえば Overall です。

重要度

有効になっている各計算ビューの現在のサービスステータスです。

[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [サービス マッピング] タブ

[サービスプロパティ] ダイアログボックスの [サービス マッピング] タブは、メッセージ内のサービス名のリストを表示します。あるメッセージの“サービス名”属性が、このリスト内の文字列または [一般] タブのサービス名と一致すると、そのメッセージのターゲットはこのサービスになります。1つのメッセージは、複数のサービスをターゲットにすることができます。

[サービスビュー] ダイアログボックス

HP Operations Service Navigator をインストールしている場合、メニューバーから [アクション : サービス -> サービスビューから検索 ...] を選択して、[サービスビュー] ダイアログボックスを開くことができます。または、ショートカットバーまたはオブジェクトペイン内のサービス項目、またはワークスペースペインのサービスグラフを右クリックして、ポップアップメニューから [サービスビューから検索] を選択することもできます。このダイアログボックスの使い方は 404 ページの「複数のサービス階層からサービスを検索する」を参照してください。

注記

[サービスビュー] ダイアログボックスを使用できるのは、システム管理者が HP Operations Service Configuration for Service Navigator を使ってサービスを設定している場合だけです。

[サービスビュー] ダイアログボックスには、次のカラムがあります。

サービス

同じオリジナル ID (ダイアログボックスのタイトルバー内に表示される) を持つサービスをリストします。各サービスは、ラベルと名前付きでリストされます。

ルートサービス

同一のサービスを含む、各サービスビューのルートサービスをリストします。各ルートサービスは、ラベルと名前付きでリストされます。

[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログボックス

[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログボックスは、次のいずれかの操作を行なったときに表示されます。

- [編集 -> 表示設定] ダイアログボックスの [サービス] タブにある [詳細] ボタンをクリックしたとき
- [サービスステータス計算] ポップアップメニューの [ウォーターマークの設定] オプションを選択したとき。ポップアップメニューはサービスグラフまたはサービスマップの下部右隅を右クリックしてアクセスします。

[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

有効にする

このチェックボックスを選択することによって、設定したステータス計算ビューのサービスグラフまたはサービスマップのウォーターマークを有効にできます。チェックボックスの上にあるドロップダウンリストから、ウォーターマークを設定する対象のステータス計算ビューを選択します。

設定

- | | |
|----------------|---|
| テキスト | サービスグラフの背景やサービスマップの背景に表示させるテキストを指定するテキストボックス。このテキストボックスを空白のままにすると、ウォーターマークが設定されるステータス計算ビューの名前が表示されます。HPOM 管理サーバーのステータス計算ビューの名前を変更するとウォーターマークのテキストも変更されます。 |
| フォントサイズ | ウォーターマークとして表示するように設定したテキストのサイズを設定します。有効な値は 1 ~ 128 です。 |

輝度	0% ~ 100% のパーセントで指定し、ウォーターマークの輝度を設定します。該当するテキストボックスに値を入力するか、またはスライダーコントロールを使って輝度を設定できます。
角度	-90 度 ~ +90 度の範囲で指定し、ウォーターマークの表示角度を設定します。該当するテキストボックスに値を入力するか、またはスライダーコントロールを使って角度を設定できます。

[ウォーターマークの詳細設定] ダイアログボックスには、次のボタンがあります。

[OK]

設定値を適用してダイアログボックスを閉じます。

[プレビュー]

サービスグラフやサービスマップの設定値を一時的に適用した結果を表示します。

[キャンセル]

設定値を変更しないでダイアログボックスを閉じます。

[Web ブラウザのプロパティ] ダイアログボックス

ワークスペースペインの内部 Web ブラウザで Web ページを右クリックし、次にポップアップメニューの [プロパティ] を選択すると、[Web ブラウザのプロパティ] ダイアログボックスが開きます。[Web ブラウザのプロパティ] ダイアログボックスは、設定した Web ブラウザの種類 (Microsoft Internet Explorer、Mozilla など) によって異なります。Internet Explorer を使う場合、Internet Explorer の [プロパティ] ダイアログボックスになります。

内部 Web ブラウザを使用する場合、[Web ブラウザのプロパティ] ダイアログには次のオプションがあります。

ページタイトル

現在の Web ページのタイトル。

プロトコル

使用する転送プロトコル (例: HTTP)。

種類

ソースドキュメントの種類 (例: HTML または JavaScript)。

URL アドレス

ドキュメントのアドレス。

[OK]

ダイアログボックスを閉じます。

[ワークスペースのプロパティ] ダイアログボックス

[ワークスペースのプロパティ] ダイアログボックスは、ワークスペースペインの下端を右クリックし、ポップアップメニューで [ワークスペースのプロパティ] を選択すると開きます。詳細は 287 ページの「ワークスペースペインのワークスペースのカスタマイズ」を参照してください。

[ワークスペースのプロパティ] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

ラベル

[ワークスペース] タブに表示するワークスペースペインの名前を入力します。

説明

ワークスペースペインの簡単な説明を入力します。

ActiveX コンテナにする

ワークスペースが **ActiveX** コントロールかどうかを示します。ワークスペースペインの **ActiveX** コントロールの概要は 80 ページの「統合 Web ブラウザ」を参照してください。

注記

このオプションは **Windows** システムでだけ使用できます。

AWT (ヘビーウェイト) コンテナにする

内部 **Web** ブラウザでアプレットを実行中に、ワークスペースペインを **Swing** から **AWT** に切り替えます。**AWT** を使用すると、アプレットは内部 **Web** ブラウザの外では実行されなくなります。

注記

AWT を切り替えると、ワークスペースペイン間の移動中にフラッシュが起きるなど、副作用が生じることがあります。

リファレンス ダイアログボックス

[OK]

変更を追加してダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル]

変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザード

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードで、ツール（たとえばパラメータ、ユーザー名、パスワード）に対して定義済みの起動属性を変更したり、ツールを起動するノードを指定したりできます。

注記

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードの使い方は 260 ページの「ツールの起動属性のカスタマイズ」を参照してください。

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードには、次のボタンがあります。

[< 戻る]

前のステップに戻ります。

[次へ >]

次のステップに進みます。

[完了]

ウィザードをクローズしてツールを起動します。

[キャンセル]

ツールを起動せずにウィザードを閉じます。

[ツール起動 - カスタマイズ] ウィザードには 3 つのステップがあり、それぞれにオプションがあります。

1. ステップ 1/3: ツールを選択してください

ツールメニューツリーが表示されるので、実行したいツールを選びます。

2. ステップ 2/3: ツールを実行するノードを選択してください

次のフィールドがあります。

追加ノード

オブジェクトペインに表示されないノードも含めて、追加ノード名を入力できます。

[選択に追加]

[追加ノード] フィールドに入力したノードを、ノードリストのコンボボックスに追加します。

選択したノード

オブジェクトペインからノードを選択できます。

[選択の取込み]

オブジェクトペインまたはメッセージブラウザで強調表示したノードをノードリストのコンボボックスに追加します。

[削除]

ノードリストのコンボボックスで強調表示されているノードを削除します。

[デフォルトの取込み]

現在のノード選択を、ウィザードの開始時に選択したノードに保存します。

3. ステップ 3/3: ツール実行に必要な情報を追加してください

次のフィールドがあります。

コマンド

コマンドを入力します。

追加パラメータ

コマンドに追加するパラメータを入力します。

ユーザー名

デフォルトでは、ユーザー名は設定されたユーザーです。

パスワード

必要に応じて、ツールを実行するユーザーのパスワードを入力します。

表示方法

ツール出力の表示方法を示す読み込み専用フィールドです。

- 出力なし
- 出力専用
- 入力 / 出力

メッセージブラウザヘッダー

障害を解決するための補足情報として、メッセージブラウザのメッセージヘッダーに、メッセージの性質が属性を要約した形式で記載されます。

注記

メッセージブラウザの概要は 70 ページの「メッセージブラウザ」を参照してください。

メッセージブラウザで障害を調査する方法は 238 ページの「メッセージブラウザでの障害の調査」を参照してください。

メッセージブラウザのカラムをカスタマイズする方法は 321 ページの「ブラウザウィンドウのレイアウトを変更するには」および 513 ページの「[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックス」を参照してください。

メッセージブラウザヘッダーには、デフォルトでは次の要素があります。

重要度

メッセージは障害の重要度によって色付けされています (574 ページの「メッセージ属性」を参照)。

重複

除外された重複メッセージの数を表示します。

SUIAONE

メッセージに対してヘルプ指示、自動アクションおよびオペレータ起動アクションがあるかどうかを示します。詳細は 574 ページの「メッセージ属性」を参照してください。

受信時刻

障害の発生した日付と時刻です。

ノード

障害が発生したノードです。

ツール

そのメッセージに関連するアプリケーションです。

メッセージグループ

イベントが発生した管理環境(たとえばオペレーティングシステム)内の主なエリアです。

オブジェクト

メッセージが関連付けられているオブジェクトです(たとえばディスクやメモリー)。

メッセージテキスト

メッセージを生成したイベントの簡単な説明です。

メッセージ属性

このセクションでは、次のメッセージ属性とフラグを説明します。

□ メッセージの色

メッセージに記述された障害の重要度を示す色です。詳細は 575 ページの「メッセージの色」を参照してください。

□ メッセージフィールド

メッセージブラウザのメッセージヘッダーに要約されている属性です。詳細は 576 ページの「メッセージフィールド」を参照してください。

□ メッセージフラグ


メッセージに関連付けられている指示、自動アクション、オペレータ起動アクションの情報です。詳細は 581 ページの「メッセージフラグ」を参照してください。

メッセージの色

追加情報を提供して障害解決を支援するために、メッセージには障害の重要度を示す色が付けられています。たとえばカラー表示によって、**正常域**と**注意域**のメッセージが生成されたことがわかります。**注意域**は、サービスに影響を与える潜在的または将来起こりうる障害があることを示します。

HPOM では、各メッセージの重要度に応じて、**メッセージブラウザ**の行全体に色を付けることも、逆に**[重要度]**カラムにだけ色を付けることもできます。色の表示設定を変更するには、**[編集]**メニューの**[表示設定]**を選択して、**[一般]**タブをクリックします。必要に応じて**[カラー行]**チェックボックスの選択を切り替えます。

表 B-2 重要度レベル

重要度	アイコン	説明
危険域		サービスまたはノードに影響を与える障害です。すぐに修復アクションを行う必要があります。
重要警戒域		重要度の高い障害です。オブジェクトの通常の使用に支障があります。
警戒域		比較的重要度の低い障害です。オブジェクトの通常の使用には支障がありません。
注意域		サービスに影響を与える潜在的または将来起こりうる障害です。診断を実施し、障害を修復してください。
正常域		期待通りのメッセージ出力です。処理の開始や終了またはステータス情報です。
認識不能		メッセージを生成したイベントの管理ノードで実行されているポリシーに重要度レベルが定義されていません。

メッセージフィールド

障害を解決するための補足情報として、メッセージブラウザのメッセージヘッダーに、メッセージの性質が属性を要約した形式で記載されます。これらのフィールドは、選択したメッセージに対する [メッセージのプロパティ] ダイアログボックスでも使用できます。

注記

メッセージブラウザの概要は 70 ページの「メッセージブラウザ」を参照してください。メッセージフラグについては 581 ページの「メッセージフラグ」を参照してください。

メッセージフィールドをカスタマイズするには、[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックスを使用します。詳細は 321 ページの「ブラウザウィンドウのレイアウトを変更するには」と 513 ページの「[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックス」を参照してください。

注記

CTRL+C と **CTRL+V** コマンドを使ってメッセージをコピーすると、メッセージフィールドがタブで区切られます。この処理によって、Excel のスプレッドシートで各メッセージが個別のカラムに配置されるので、メッセージを整理しやすくなります。

HPOM メッセージには、次のようなフィールドがあります。

受諾者

メッセージを受諾したオペレータの名前。メッセージが自動またはオペレータ起動アクションで受諾されている場合、このフィールドには OpC が表示されています。

デフォルトのカラムラベル：受諾者

ツール

選択したメッセージに関連付けられたツール名。

デフォルトのカラムラベル：ツール

重複

「重複数」を参照してください。

フラグ

メッセージに対するフラグ。詳細は 581 ページの「メッセージフラグ」を参照してください。

デフォルトのカラムラベル：SUIAONE

転送マネージャ

他の管理サーバーに転送されるデータを渡すマネージャ。

デフォルトのカラムラベル：使用不可

メッセージグループ

選択したメッセージが所属するメッセージグループ。

デフォルトのカラムラベル：メッセージグループ

メッセージキー

選択したメッセージに関連付けられたキー。

デフォルトのカラムラベル：メッセージキー

メッセージ No.

選択したメッセージの、一意に定まる ID 番号。この番号は、オープン HPOM API を用いてプログラミングアクセスを行う場合に便利です。

デフォルトのカラムラベル：メッセージ No.

メッセージテキスト

選択したメッセージのテキスト全文。

デフォルトのカラムラベル：メッセージテキスト

メッセージタイプ

HPOM メッセージを管理可能なサブグループに分割する際に使用する属性。メッセージタイプは、HPOM 管理者が定義します。

デフォルトのカラムラベル：メッセージタイプ

メッセージグループ

「メッセージグループ」を参照してください。

重複

重複して抑制されているメッセージの数。

デフォルトのカラムラベル: **重複**

ノード

選択したメッセージを発行する管理対象ノード。HPOM管理者がメッセージの条件を改訂している場合、これはオリジナルのノードでも異なるノードでもかまいません。

デフォルトのカラムラベル: **ノード**

オブジェクト

イベントの原因になったオブジェクト、イベントを検出したオブジェクト、またはイベントの影響を受けるオブジェクト。

デフォルトのカラムラベル: **オブジェクト**

所有者

選択したメッセージの現在の所有者。

デフォルトのカラムラベル: **所有者**

サービス名

メッセージに関連付けられたサービスの名称。

デフォルトのカラムラベル: **サービス名**

サービスラベル

メッセージに関連付けられたサービスのラベル。

デフォルトのカラムラベル: **サービスラベル**

ソース

選択したメッセージのもとになるツールの一部。たとえば、メッセージのソースには、ログファイル名、コンソール、SNMPトラップ、しきい値モニターがあります。

デフォルトのカラムラベル: **ソース**

SUIAONE

「フラグ」を参照してください。

受諾時刻

メッセージを受諾した日付と時刻。メッセージは、受諾した後、アクティブメッセージブラウザからフィルター処理済履歴メッセージブラウザに移動されます。

デフォルトのカラムラベル：受諾時刻

作成時刻

選択したメッセージが管理対象ノードで作成された日付と時刻。

デフォルトのカラムラベル：作成時刻

最終受信時刻

最新の重複メッセージを管理サーバーで受信した日付と時刻。

デフォルトのカラムラベル：最終受信時刻

所有時刻

選択したメッセージの所有者が所有権を得た日付と時刻。

デフォルトのカラムラベル：所有時刻

受信時刻

選択したメッセージを管理サーバーで受信した日付と時刻。

デフォルトのカラムラベル：受信時刻

バッファ解除時刻

メッセージをバッファ解除する（フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザからアクティブメッセージブラウザに移動する）日付と時刻。デフォルトでは、この時刻はメッセージに関連付けられたサービスの、サービス時間として定義された次の期間の開始時刻になります。ただし、バッファ解除メニュー項目を使うと、メッセージをいつでもバッファ解除できます。

デフォルトのカラムラベル：バッファ解除時刻

注記

タイムゾーン設定が HP Operations 管理サーバーとは異なるシステムで HPOM Java GUI を実行している場合には、Java GUI に表示されるタイムスタンプは、HP Operations 管理サーバーではなく、ローカルシステム (すなわち、Java GUI を実行中のシステム) のものが使われます。
609 ページの「ito_op.bat オプション」も参照してください。

メッセージフラグ

メッセージフラグには、メッセージに用意されている指示、自動アクション、オペレータ起動アクションについての情報があります。

注記

メッセージ属性の詳細は [576](#) ページの「メッセージフィールド」を参照してください。

HPOM メッセージには、次のフラグがあります。

S	所有	
	-	所有者はいません。
	O	メッセージブラウザのユーザーが所有しています。
	X	メッセージブラウザのユーザー以外が所有しています。
	N	通知メッセージです。
U	非該当 (不一致) メッセージ	
	-	非該当ではありません。
	X	非該当。メッセージソースで定義したどのフィルターにも一致しません。
I	指示	
	-	利用できる指示がありません。
	X	指示を利用できます。
A	自動アクション	
	-	自動アクションは設定されていません。
	R	自動アクションを実行中です。
	F	自動アクションに失敗しました。
	S	自動アクションを完了しました。

リファレンス メッセージ属性

S	オペレータ起動アクション
-	オペレータ起動アクションが設定されていません。
R	オペレータ起動アクションを実行中です。
F	オペレータ起動アクションに失敗しました。
S	オペレータ起動アクションを完了しました。
N	注釈
-	利用できる注釈はありません。
X	注釈を利用できます。

HPOM 変数

このセクションでは、次のメッセージ変数を説明します。

□ 標準変数

ほとんどのブロードキャストおよびツールのテキスト入力フィールドで使用できる変数です。詳細は 583 ページの「標準変数」を参照してください。

□ メッセージ関連の変数

OPC_MSG で始まる変数です。詳細は 587 ページの「メッセージ関連の変数」を参照してください。

標準変数

これらの変数は、Java ベースのオペレータ GUI で起動されたツールでのみ使用できます。

`$OPC_CUSTOM[name]`

カスタムメッセージ属性名の値を返します。たとえば、`$OPC_CUSTOM[device]` 変数は、Lan という値を返します。

`$OPC_ENV(env variable)`

HPOM を起動したユーザーの環境変数の値を返します。

出力例：

PATH, NLS_LANG, EDITOR, SHELL, HOME, TERM.

`$OPC_EXACT_SELECTED_NODE_LABELS`

ツールの実行時に選択されているすべてのノードとノードグループのラベルを返します。名前はスペースで区切られます。

`$OPC_EXT_NODES`

ツールの実行時に選択されているすべての外部ノードのノードパターンを返します。名前はスペースで区切られます。

\$OPC_GUI_CLIENT

Java ベースの GUI が現在実行されているクライアントで、アクションまたはツールを実行します。GUI クライアントが DNS を使った UNIX ベースのシステム上で実行されているか、MS WINS (Windows Internet Name Service) を使った PC 上で実行されているかによって、この変数の解釈は違います。WINS を使っている場合は、\$OPC_GUI_CLIENT は WINS のホスト名を返します。

\$OPC_GUI_CLIENT_WEB

Java ベースの GUI が現在実行されているクライアント上の Web ブラウザを起動します。GUI クライアントが DNS を使った UNIX ベースのシステム上で実行されているか、MS WINS (Windows Internet Name Service) を使った PC 上で実行されているかによって、この変数の解釈は違います。WINS を使っている場合は、\$OPC_GUI_CLIENT_WEB は WINS のホスト名を返します。

\$OPC_MGMTSV

現在の HPOM 管理サーバーの名前を返します。

出力例：

```
richie.c.com
```

\$OPC_MSG_IDS

開かれたメッセージブラウザで現在選択されているメッセージのメッセージ ID (UUID) を返します。複数のブラウザで同じメッセージが選択されている場合、重複するものは無視されます。最上位のブラウザで現在選択されているメッセージ ID のみが返されます。

出力例：

```
85432efa-ab4a-71d0-14d4-0f887a7c0000  
a9c730b8-ab4b-71d0-1148-0f887a7c0000
```


\$OPC_MSG_GEN_NODES

HPOM エージェントによって送信された、現在選択しているメッセージの発信元となるノードの名前をすべて返します。名前はスペースで区切られます。ノードは登録ノードに入っていないなくてもかまいません。複数のブラウザで同じメッセージが選択されている場合、重複するものは無視されます。最上位のメッセージブラウザで現在選択されているメッセージのノードだけが返されます。

出力例：

```
kernighan.c.com richie.c.com
```

\$OPC_MSG_NODES

現在選択しているメッセージの生成原因となったイベントが発生したすべてのノードの名前を返します。名前はスペースで区切られます。ノードは登録ノードに入っていないなくてもかまいません。複数のブラウザで同じメッセージが選択されている場合、重複するものは無視されます。最上位のメッセージブラウザで現在選択されているメッセージのノードだけが返されます。

出力例：

```
kernighan.c.com richie.c.com
```

\$OPC_MSGIDS_ACT

アクティブメッセージブラウザおよび任意の **HP Operations** メッセージブラウザで現在選択されているメッセージのメッセージ ID (UUID) を返します。複数のブラウザで同じメッセージが選択されている場合、重複するものは無視されます。最上位のブラウザで現在選択されているメッセージ ID のみが返されます。

出力例：

```
85432efa-ab4a-71d0-14d4-0f887a7c0000  
a9c730b8-ab4b-71d0-1148-0f887a7c0000
```

\$OPC_MSGIDS_HIST

履歴メッセージブラウザで現在選択されているメッセージのメッセージ ID (UUID) を返します。最上位のブラウザで現在選択されているメッセージのメッセージ ID のみが返されます。

出力例：

```
edd93828-a6aa-71d0-0360-0f887a7c0000  
ee72729a-a6aa-71d0-0360-0f887a7c0000
```

\$OPC_MSGIDS_PEND

ペンディングメッセージブラウザで現在選択されているメッセージのメッセージ ID (UUID) を返します。最上位のブラウザで現在選択されているメッセージのメッセージ ID のみが返されます。

出力例：

```
edd95828-ac2a-71d0-0360-0f887a7c0000  
ee96729a-ada9-71d0-0360-0f887a7c0000
```

\$OPC_NODES

ツール実行時に選択したすべての通常のノードの名前を返します。名前はスペースで区切られます。ノードは登録ノードに入っていないなくてもかまいません。ノードは IP マップのサブマップで直接選択できます。

出力例：

```
kernighan.c.com richie.c.com
```

\$OPC_NODE_LABELS

ツール実行時に選択されていたノードツリーのすべてのノードのラベルを返します。名前はスペースで区切られます。

\$OPC_USER

現在、管理サーバーにログインしている HPOM ユーザー名を返します。

出力例：

```
opc_adm
```

メッセージ関連の変数

このセクションではメッセージ関連の変数を説明します。

- 587 ページの「メッセージ関連の変数に対するパラメータ」
- 597 ページの「メッセージに関連する変数の例」

メッセージ関連の変数に対するパラメータ

変数の中には、指定したメッセージ属性の有無によって TRUE または FALSE を返すものがあります。たとえば、自動アクションが定義されている場合は TRUE を返し、定義されていない場合は FALSE を返します。

属性が空である場合、空白が返されます。存在しない属性を使った場合、通常の文字列の一部のように扱われます。つまり、評価は行われず、文字列は変更されません。

変数から戻されるデータタイプは、[メッセージのプロパティ] ダイアログボックスに表示されるものとまったく同じです。

文字列からのワード抽出や指定した注釈へのアクセスに使うインデックスは、0 ではなく 1 から開始します。

`$OPC_MSG.ACTIONS.AUTOMATIC`

自動アクションが定義されているかどうかを示します。

出力例：

TRUE

`$OPC_MSG.ACTIONS.AUTOMATIC.ACKNOWLEDGE`

選択したメッセージを受諾するための自動アクションが設定されており、アクションが正常に終了した場合、この変数は yes を返します。それ以外の場合は、no を返します。

出力例：

yes

`$OPC_MSG.ACTIONS.AUTOMATIC.ANNOTATION`

この変数が `yes` を返すと、自動アクションが選択したメッセージに注釈を付けます。アクションが失敗しても注釈は常に記載されるので注意してください。

出力例：

`yes`

`$OPC_MSG.ACTIONS.AUTOMATIC.COMMAND`

スクリプトまたはプログラムを返します。これは、選択したメッセージの自動アクションとして実行されるパラメータを含みます。

出力例：

`dist_del.sh 30 warning`

`$OPC_MSG.ACTIONS.AUTOMATIC.NODE`

選択したメッセージに対して自動アクションが実行されたノードを返します。

出力例：

`kernighan.c.com`

`$OPC_MSG.ACTIONS.AUTOMATIC.STATUS`

メッセージの自動アクションの現在のステータスを返します。この変数は、`running`、`failed`、`successful` のいずれかを返します。

出力例：

`successful`

`$OPC_MSG.ACTIONS.OPERATOR`

オペレータ起動アクションが定義されているかどうかを示します。

出力例：

`TRUE`

`$OPC_MSG.ACTIONS.OPERATOR.ACKNOWLEDGE`

選択したメッセージを受諾するためのオペレータ起動アクションが設定され、アクションが正常に完了した場合、この変数は `yes` を返します。それ以外の場合は、`no` を返します。

出力例：

`yes`

`$OPC_MSG.ACTIONS.OPERATOR.ANNOTATION`

この変数が `yes` を返すと、オペレータ起動アクションが選択したメッセージに注釈を付けます。アクションが失敗しても注釈は常に記載されるので注意してください。

出力例：

`yes`

`$OPC_MSG.ACTIONS.OPERATOR.COMMAND`

スクリプトまたはプログラムを返します。これは、選択したメッセージのオペレータ起動アクションとして実行されるパラメータを含みます。

出力例：

`ps -ef`

`$OPC_MSG.ACTIONS.OPERATOR.COMMAND[n]`

選択したメッセージのオペレータ起動アクションとして実行されたスクリプトまたはプログラムの `n` 番目のパラメータを返します。

出力例：

`-ef`

`$OPC_MSG.ACTIONS.OPERATOR.NODE`

選択したメッセージに対してオペレータ起動アクションが実行されたノードを返します。

出力例：

`kernighan.c.com`

`$OPC_MSG.ACTIONS.OPERATOR.STATUS`

メッセージのオペレータ起動アクションの現在のステータスを返します。この変数は、`running`、`failed`、`successful` のいずれかを返します。

出力例：

`successful`

`$OPC_MSG.ACTIONS.TROUBLE_TICKET.ACKNOWLEDGE`

この変数は、次のいずれかの値を返します。

`yes` - メッセージはトラブルチケットシステムに転送された後、自動的に受諾されました。

`no` - メッセージはトラブルチケットシステムに転送された後、受諾されていません。

出力例：

`yes`

`$OPC_MSG.ACTIONS.TROUBLE_TICKET.STATUS`

この変数は、次のいずれかの値を返します。

`yes` - メッセージはトラブルチケットシステムに転送されました。

`no` - メッセージはトラブルチケットシステムに転送されていません。

出力例：

`yes`

`$OPC_MSG.ANNOTATIONS`

メッセージの注釈が存在するかどうかを示します。メッセージに注釈が少なくとも 1 つ存在する場合は `TRUE` を返します。それ以外の場合は `FALSE` が返されます。

出力例：

`TRUE`

`$OPC_MSG.ANNOTATIONS[n]`

n 番目の注釈を返します。

出力例:

```
Performed Message Correlation;
```

Message Key Relation:

```
Message 59d06840-ac4f-71d5-1f67-0f887e320000  
with condition id  
fe00fa34-9e34-71d5-143e-0f887e320000 ackn'ed  
0 messages.
```

`$OPC_MSG.APPLICATION`

選択したメッセージに関連付けられたツール名を返します。

出力例:

```
/usr/bin/su(1) Switch User
```

`$OPC_MSG.ATTRIBUTES`

この変数は、次のいずれかの値を返します。

`unmatched` メッセージはどのメッセージ条件とも一致していませんでした。

`log only` - メッセージは元々メッセージブラウザには表示されませんでした。

出力例:

```
unmatched
```

`$OPC_MSG.CREATED`

管理対象ノードでメッセージが作成された日付と時刻を返します。

出力例:

```
09/18/01 18:08:08
```

`$OPC_MSG.DUPLICATES`

重複して抑制されているメッセージの数を返します。

出力例:

17

`$OPC_MSG.GROUP`

選択したメッセージが所属するメッセージグループを返します。

出力例:

Security

`$OPC_MSG.INSTRUCTIONS`

指示テキストを返します。

出力例:

Available space on the device holding the /
(root) filesystem is less than the configured
threshold. This may lead to ...

`$OPC_MSG.LAST_RECEIVED`

最新の重複メッセージを管理サーバーで受信した日付と時刻を返します。

出力例:

09/16/09 03:17:23

`$OPC_MSG.MSG_KEY`

メッセージに関連付けられたメッセージキーを返します。

出力例:

my_appl_down:kernighan.c.com

`$OPC_MSG.MSG_ID`

選択したメッセージの、一意に定まる ID 番号を返します。

出力例:

217362f4-ac4f-71d5-13f3-0f887e320000

`$OPC_MSG.NO_OF_ANNOTATIONS`

メッセージの注釈の数を返します。

出力例：

3

`$OPC_MSG.NODE`

選択したメッセージを発行した管理対象ノードを返します。

出力例：

kernighan.c.com

`$OPC_MSG.NODES_INCL_DUPS`

選択したメッセージの発行元である管理対象ノードが返されます。同じノードから複数のメッセージが発行された場合は、そのノード名が発行回数分だけ重複して返されます。

出力例：

kernighan.c.com richie.c.com richie.c.com

`$OPC_MSG.OBJECT`

イベントの原因になったオブジェクト、イベントを検出したオブジェクト、またはイベントの影響を受けるオブジェクトを返します。

出力例：

CPU

`$OPC_MSG.ORIG_TEXT`

選択したメッセージのオリジナルテキストを返します。

出力例：

SU 09/18 18:07 + 6 root-spooladm

`$OPC_MSG.ORIG_TEXT[n]`

メッセージのオリジナルテキストの n 番目の語を返します。

出力例:

the

`$OPC_MSG.OWNER`

選択したメッセージの所有者を返します。

出力例:

opc_op

`$OPC_MSG.RECEIVED`

メッセージを管理サーバーで受信した日付と時刻を返します。

出力例:

09/18/01 18:08:10

`$OPC_MSG.SERVICE`

メッセージに関連したサービス名を返します。

出力例:

VP_SM:Agent:ServicesProcesses@@kernighan.c.com

`$OPC_MSG.SERVICE_LABEL`

メッセージに関連したサービスラベルを返します。サービス名 `node3_disk` の場合は、サービスラベル `Disk 3` などが返されます。

出力例:

Disk 3

サービスラベルが設定されていない場合、この変数は空白を返します。

`$OPC_MSG.SERVICE.MAPPED_SVC_COUNT`

このメッセージにマップされているメッセージ内にあるサービス名の数を返します。

出力例:

3

`$OPC_MSG.SERVICE.MAPPED_SVC [n]`

このメッセージ内の n 番目のサービス名を返します。

出力例:

SAP:applsv01

`$OPC_MSG.SERVICE.MAPPED_SVCS`

このメッセージでマップされたメッセージ内のすべてのサービス名を返します。名前はスペースで区切られます。

出力例:

SAP:applsv01 SAP:applsv02

`$OPC_MSG.SEVERITY`

メッセージの重要度を返します。重要度には**認識不能** (Unknown)、**正常域** (Normal)、**注意域** (Warning)、**警戒域** (Minor)、**重要警戒域** (Major)、**危険域** (Critical) があります。

出力例:

Normal

`$OPC_MSG.SOURCE`

メッセージを生成したツールまたはコンポーネントの名前を返します。

出力例:

Message:opcmsg(1|3)

`$OPC_MSG.TEXT`

選択したテキストの全文を返します。

出力例：

次の設定情報は正常に分配されました。

テンプレート (OpC30-814)

`$OPC_MSG.TEXT [n]`

メッセージテキストの *n* 番目の語を返します。

出力例：

following

`$OPC_MSG.TIME_OWNED`

メッセージが受諾された日付と日時を返します。

出力例：

09/18/01 18:11:10

`$OPC_MSG.TYPE`

メッセージのメッセージタイプを返します。

出力例：

ECS

メッセージに関連する変数の例

このセクションでは、日常作業を行う際のメッセージ関連の変数およびパラメータの使用例を示します。

□ メッセージ属性へアクセスする

メッセージ属性へは、次の変数でアクセスします。

\$OPC_MSG.ATTRIBUTES

必要なものは属性名のみです。

たとえば、メッセージのテキストを得るには、以下を使用します。

\$OPC_MSG.TEXT

また、文字列を表す属性で作業している場合は、特定の単語にアクセスできます。

たとえば、メッセージテキストの 4 番目の語を取得するには、以下を使用します。

\$OPC_MSG.TEXT [4]

注釈はこのルールの例外です。注釈では、返される注釈をインデックスで指定します。

たとえば、現在選択されているメッセージの 7 番目の注釈へは、次のようにしてアクセスします。

\$OPC_MSG.ANNOTATIONS [7]

□ 重複メッセージを検索する

ツールに対する重複メッセージ数の情報を得るには、次のようにします。

\$OPC_MSG.DUPLICATES

□ 作成時間と重要度を抽出する

統計的な計算をする場合は、次のようにメッセージ作成時間と重要度を指定します。

\$OPC_MSG.CREATED

\$OPC_MSG.SEVERITY

□ メッセージテキストを抽出する

3 番目の語にステータス情報をもつメッセージテキストを作成するテンプレート条件を定義したと仮定します。このステータスを簡単に抽出し、`evaluate_status` というツールに転送する場合には、次のようにします。

```
evaluate_status $OPC_MSG.TEXT[3].
```

□ アクション属性を評価する

アクション属性を使って評価する場合は、自動およびオペレータ起動アクションをチェックし、注釈がある場合、ステータスの詳細な情報を得るシェルスクリプトを書くことができます。

```
script_name $OPC_MSG.ACTIONS.AUTOMATIC
```

```
script_name $OPC_MSG.ACTIONS.AUTOMATIC.STATUS
```

```
script_name $OPC_MSG.ACTIONS.AUTOMATIC.ANNOTATION
```

メッセージに対して自動アクションが定義されている場合、最初のパラメータは `TRUE` となります。このスクリプトは以降にたくさんの属性を使う場合には便利ですが、空文字の場合は、どの属性もチェックしません。

□ 注釈にアクセスする

ツールの中の選択したメッセージの 2 番目の注釈にアクセスするには、次のようにします。

```
$OPC_MSG.ANNOTATIONS[2]
```

□ 重複した重要度を更新する

重複メッセージを抑制または計算する場合、最初にブラウザに表示されるメッセージの重要度およびテキストが保持されます。新たに受信したメッセージの重要度およびメッセージテキストが異なる場合は、前のデータの代わりにこれらの新しい値が表示されます。

オリジナルのメッセージの重要度を更新するには、次のように入力します。

```
ovconfchg -ovrg server -ns opc -set \  
OPC_UPDATE_DUPLICATED_SEVERITY LAST_MESSAGE
```

□ 重複したメッセージテキストを更新する

オリジナルのメッセージのテキストを更新するには、次のように入力します。

```
ovconfchg -ovrg server -ns opc -set \  
OPC_UPDATE_DUPLICATED_MSGTEXT LAST_MESSAGE
```

itooopbrw ファイル

HPOM 管理者は itooopbrw ファイルを使って、現在のメッセージブラウザの属性をカスタマイズできます。

注記

メッセージ表示フィルターがメッセージブラウザに適用されている場合にブラウザレイアウトを保存すると、メッセージ表示フィルターの定義も itooopbrw ファイルに保存されます。メッセージ表示フィルターで使用される構文の詳細については 205 ページの「メッセージ表示フィルターの構文」を参照してください。

このセクションでは次の項目を説明します。

□ 構文

itooopbrw ファイルで使う構文です。詳細は 601 ページの「itooopbrw ファイルの構文」を参照してください。

□ パラメータ

itooopbrw ファイルで使うパラメータの説明です。詳細は 601 ページの「itooopbrw ファイルのパラメータ」を参照してください。

注意

この方法は、経験のある HPOM 管理者だけにお勧めします。

itooibrw ファイルの構文

itooibrw ファイルで使う構文は次のとおりです。

```
VERSION "VERSION STRING"

[ACTIVE | HISTORY | PENDING | NAME: "<NAME>"
  {"<COLUMN_NAME>" <WIDTH> ["COLUMN_LABEL"]}
  {[ALIGN "<COLUMN_NAME>" LEFT | RIGHT | CENTER]}
  {[FILTER
  [SORT "<COLUMN_NAME>" ASCEND | DESCEND]
  [WIN_WIDTH <WINW>]
  [WIN_HEIGHT <WINH>]
]
```

itooibrw ファイルのパラメータ

itooibrw ファイルで使うパラメータは次のとおりです。

ACTIVE

アクティブメッセージブラウザフィルターの値です。

ALIGN

指定したカラムの配置情報を特定するためのキーワード。

ASCEND

ソート方向です。先頭から最後に向かって(上から下へ)ソートされます。

CENTER

配置指定 - 中央。

COLUMN_LABEL

メッセージブラウザカラムのラベル。

<COLUMN_NAME>

メッセージ属性 ID キーまたはメッセージカラム ID キーです。カスタムメッセージ属性カラムに対して、正しいカスタムメッセージ属性 ID を使用してください。空白文字を含むカラム名は引用符 (“”) で囲みます。

注記

以下のメッセージ属性には、一致しうる ID を複数持つものがあります。これにより、HPOM の旧バージョンで使用する itooibrw ファイルと互換性が保てるようになります。

一般的なメッセージ属性に対する予約語は、次のとおりです。

Acknowledged by

メッセージを受諾したオペレータの名前。

Application | APPLICATION_COL

メッセージに関連付けられたアプリケーション (ツール) 名。

Flags | FLAGS_COL

メッセージに関連付けられたメッセージフラグ (SUIAONE)。

Message Group | MSG_GRP_COL

メッセージが所属するメッセージグループ。

Message Key

メッセージに関連付けられたメッセージキー。

Message No.

メッセージの一意に定まる ID 番号 (メッセージ ID)。この番号は、オープン HPOM API を用いてプログラミングアクセスを行う場合に便利です。

Message Text | MSG_TEXT_COL

選択したメッセージのテキスト全文。

Message Type

HPOM メッセージを管理可能なサブグループに分割する際に使用する属性。メッセージタイプは、HPOM 管理者が定義します。

No. of Duplicates | DUPLICATED_COL

重複するメッセージの数。

Node | ODE_COL

メッセージを発行する管理対象ノード。

Object | OBJECT_COL

イベントの原因になったオブジェクト、イベントを検出したオブジェクト、またはイベントの影響を受けるオブジェクト。

Owned By

メッセージの現在の所有者。

Service Name

メッセージに関連付けられたサービスの名称。

Service Label

メッセージに関連付けられたサービスのラベル。

Severity | SEVERITY_COL

メッセージの重要度。

Source

選択したメッセージのもとになるアプリケーション(ツール)の一部。たとえば、メッセージのソースには、ログファイル名、コンソール、SNMP トラップ、しきい値モニターがあります。

Time Acknowledged

メッセージを受諾した日付と時刻。

Time Created

管理対象ノードでメッセージが作成された日付と時刻。

Time Last Received

最新の重複メッセージを管理サーバーで受信した日付と時刻。

Time Owned

選択したメッセージの所有者が所有権を得た日付と時刻。

Time Received | TIME_COL | DATE_COL

選択したメッセージを管理対象サーバーで受信した日付と時刻。

Time Unbuffered

メッセージをバッファ解除する(フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザからアクティブメッセージブラウザに移動する)日付と時刻。デフォルトでは、この時刻はメッセージに関連付けられたサービスの、サービス時間として定義された次の期間の開始時刻になります。

DESCEND

ソート方向です。最後から先頭に向かって(下から上へ)ソートします。

HISTORY

履歴メッセージブラウザフィルターの値です。

LEFT

配置指定 - 左。

NAME

キーワードです。

<NAME>

フィルター名です。引用符 (") と円記号 (¥) をエスケープするには円記号 (¥) を使ってください。引用符をエスケープする場合は ¢、円記号をエスケープする場合は ¥¥ となります。

PENDING

ペンディングメッセージブラウザフィルターの値です。

RIGHT

配置指定 - 右。

SORT

指定したカラムのソート情報を識別するキーワードです。

VERSION

itooopbrw 構文のバージョンを示すキーワード。

VERSION_STRING

itooopbrw 構文のバージョン番号。

<WIDTH>

カラム幅を表す整数値 (ピクセル単位)。

WIN_HEIGHT

メッセージブラウザウィンドウの縦方向のサイズ (高さ)。

WIN_WIDTH

メッセージブラウザウィンドウの横方向のサイズ (幅)。

リファレンス

itopbrw ファイル

<WINH>

メッセージブラウザウィンドウの高さを表す整数値 (ピクセル単位)。

<WINW>

メッセージブラウザウィンドウの幅を表す整数値 (ピクセル単位)。

ito_op 起動オプション

ここでは、ito_op 起動スクリプトで起動した Java GUI で評価される起動オプションについて説明します。

Java GUI を ito_op スクリプトで起動するには、次のように入力します。

```
/opt/OV/www/htdocs/ito_op/ito_op &
```

Java GUI を起動すると、次の評価シーケンスが実行されます。

1. 最初に内部システムデフォルト値が評価、認識されます。
2. itooprc リソースファイル内の起動パラメータが評価されます。これらの値は、デフォルトオプションに代わるものとして認識されます。
3. 環境変数が評価されます。これらの値は、本リストの上記パラメータセットに代わるものとして認識されます。
4. ito_op (Windows では ito_op.bat) 起動スクリプトにより渡されたコマンド行オプションが評価されます。これらの値は、本リストの上記パラメータセットに代わるものとして認識されます。

表 B-3 には、起動スクリプトで Java GUI が評価するオプションを示します。

表 B-3 Java GUI が評価する起動スクリプトのオプション

オプション	書式	デフォルト	説明
apisid	<string>	OV_JGUI_API	起動時に特定の Java GUI インスタンスにセッション ID を設定する。
bbc.http:proxy	<string>	""	HTTPS ベースの通信用のプロキシサーバーを設定する。
colored_message_lines	yes no	no	メッセージブラウザで、メッセージ行全体をカラー表示するか、重要度カラムだけカラー表示するかを決める。
def_browser	<filename>	""	ローカルホスト上の Web ブラウザへのパス。

表 B-3 Java GUI が評価する起動スクリプトのオプション (続き)

オプション	書式	デフォルト	説明
def_look_and_feel	<string>	Windows: com.sun.java. swing.plaf.mot if.Motif LookAndFeel	Java GUI のルック & フィールを決める。
initial_node	<string>	<localhost>	Java GUI が接続する HPOM 管理サーバーのホスト名。
locale	<lang_territory>		ロケール名を事前に設定する。
maxheap	<number>	256MB	Java 仮想マシンの最大ヒープメモリサイズの指定に使用する。このヒープメモリはリテラル文字列およびクラスローダーに使用される。 環境のニーズに応じてより大きな値を指定できる。
maxperm	<number>	128MB	Java 仮想マシンの最大永久メモリサイズを指定する。この種のメモリは動的に作成されたオブジェクトに使用される。
max_limited_messages	<int>	50	ブラウザ内に表示されるメッセージの最大数。
nosec	true false	false	SSL 機能なしで、SSL Secure Java GUI を標準モードで起動する。
passwd	<string>	""	HPOM オペレータのログインパスワード。
refresh_interval	<int> (秒)	30	メッセージブラウザが再表示されるまでの周期。
server	<string>	<localhost>	Java GUI が接続する HPOM 管理サーバーのホスト名。
title_suffix	<string>	""	メインウィンドウのタイトルの隣に文字列を表示する。

表 B-3 Java GUI が評価する起動スクリプトのオプション (続き)

オプション	書式	デフォルト	説明
trace	true false	false	トレースメッセージを端末に表示する。
user	<string>	""	HPOM オペレータのログイン名。

クライアント検証用の Java コンソールのバージョン

次のコマンドを実行することで Java コンソールのバージョンを確認することができます。

- UNIX 環境の場合

```
ito_op -version
```

- Windows 環境の場合

```
ito_op.bat -version
```

ito_op.bat オプション

タイムゾーンの指定

Java GUI では、時間に関する情報がクライアントの現地時間で表示されます。Java GUI と HP Operations 管理サーバーがタイムゾーンの異なる場所に存在する場合、ito_op.bat ファイルのタイムゾーンに適切なテキストを追加することで、管理サーバーのタイムゾーンを Java GUI で使うことができます。

たとえば、タイムゾーン Australia/Sydney を使うには、ito_op.bat ファイルに -Duser.timezone=Australia/Sydney を追加します (次の例を参照)。

```
:: Starting JavaGUI
for %%p in (true TRUE on ON yes YES) do if "%%p"=="%TRACE%" echo on
for %%p in (true TRUE on ON yes YES) do if "%%p"=="%PLUGIN%" goto
:PLUGIN
%START% .\j2re1.4.2\bin\%JAVA% -Duser.timezone=Australia/Sydney
-Xmx128m com.hp.ov.it.ui.OvEmbApplet initial_node=%ITOSERVER%
user=%USER% passwd=%PASSWD% trace=%TRACE% display=%DISPLAY%
```

リファレンス

ito_op 起動オプション

```
locale=%LOCALE% max_limited_messages=%MAX_LIMITED_MESSAGES%  
refresh_interval=%REFRESH_INTERVAL% apiport=%APIPORT%  
apisid=%APISID% https=%HTTPS% %BBCPARM%  
goto END
```

有効なタイムゾーンは、<JRE_HOME>\lib\zi ディレクトリにリストされています (GMT、Asia/Singapore、または Europe/Warsaw)。無効なタイムゾーンを指定した場合は、GMT が使われます。

Java GUI レイアウト設定

次の例のように、Java GUI レイアウトのロードおよび保存のためのファイル名と場所をコマンド行オプションで指定できます。

```
ito_op.bat -config=<path/filename>
```

クライアント検証用の Java コンソールのバージョン

次を実行することで Java コンソールのバージョンを確認することができます。

```
ito_op.bat -version
```

itoopec リソースファイル

Java GUI のリソースファイル itoopec は、オペレータの表示設定を保存します。

itoopec ファイルは、Java GUI を実行したユーザーのホームディレクトリに自動的に作成され、[表示設定] ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックするたびに更新されます。

オペレータの表示設定オプションは、itoopec ファイルに記載されています。定義されているオプションは、別々の行に記述し、その後にパラメータを続けなければなりません。

注記

itoopec ファイルの編集は、経験を積んだ管理者かオペレータのみが行うようにしてください。

611 ページの表 B-4 には、itoopec ファイルに追加できるオプションとそのパラメータを示しています。

表 B-4 itoopec のオプションとパラメータ

オプション	書式	説明
apisid	<string>	起動時に特定の Java GUI インスタンスにセッション ID を設定する。
bbc.http:proxy	<string>	HTTPS ベースの通信用のプロキシサーバーを設定する。
colored_message_lines	on off true false yes no	メッセージブラウザのメッセージ行に、メッセージの重要度に応じた色を付けるチェックボックス。
def_help_url	<url>	管理サーバーのヘルプページへのパス。

表 B-4 itoopec のオプションとパラメータ (続き)

オプション	書式	説明
def_look_and_feel	<look_and_feel>	Java GUI のルック & フィールを決める (Metal、Motif、HP One Voice、Windows、Aqua)。
default_browser	<path_to_browser>	ローカルホスト上の Web ブラウザへのパス。
global_settings_poll_interval	<number>	Java GUI でグローバルプロパティファイルへの変更を確認する頻度を指定する。デフォルトは 5 分。
initial_node	<hostname/ip>	Java GUI が接続する HPOM 管理サーバーのホスト名。
install_dir	<path>	HP 内部使用のみ。
https_fallback	<to_socket/to_bbc/none>	セキュアな通信で使用される Java GUI クライアントおよび HPOM 管理サーバー接続を担当するフォールバックメカニズムを設定する。 この設定はグローバル設定として設定できない。
locale	<locale_setting>	ロケール名を事前に設定する。
max_limited_messages	<number>	メッセージブラウザに表示するメッセージの数を決める。
message_notification_dlg	on off true false yes no	メッセージイベントが発生した時に警告ダイアログを表示する。

表 B-4 itoopec のオプションとパラメータ (続き)

オプション	書式	説明
message_notification_dlg_app	on off true false yes no	メッセージイベントが発生した時に実行されるローカルアプリケーションを起動する。
message_notification_dlg_app_path	<path>	メッセージイベントが発生した時に起動されるローカルアプリケーションへのパス。
message_notification_show_all	on off true false yes no	最初のメッセージ受信時のみ、またはメッセージ受信のたびにイベントを通知する。
nosec	on off true false yes no	SSL 機能なしで、SSL Secure Java GUI を標準モードで起動する。
passwd	<password>	HPOM オペレータのログインパスワード。
port	<number>	管理サーバーに接続するために Java GUI が使用するポート番号。
prompt_for_activate	on off true false yes no	HP 内部使用のみ。
reconnect_interval	<number>	Java GUI が管理サーバーへの再接続に設定した時間 (秒) 。
reconnect_timeout	<number>	Java GUI が、接続できない管理サーバーへの再接続を中止するまでの時間 (秒) 。
refresh_interval	<number>	Java GUI が自動的に再表示を行う周期を決める。デフォルトは 30 秒。

表 B-4 itoprc のオプションとパラメータ (続き)

オプション	書式	説明
secure_port	<number>	Secure Java GUI が管理サーバーへの接続に使用するポート番号。
severity_label	text both icon	メッセージブラウザが重要度のカラムにアイコン、テキスト、またはその両方を表示するかどうかを決める。
shortcut_tree_icon_width	<number>	アイコンのサイズを決める (ピクセル)。デフォルトは 32 ピクセル。
show_at_severity	0 1 2 3 4 5	イベント通知のためのメッセージの重要度を定義する。 0 = 認識不能 1 = 正常域 2 = 注意域 3 = 警戒域 4 = 重要警戒域 5 = 危険域
show_svc_label_in_msgs	on off true false yes no	メッセージブラウザのサービスラベルのカラムを有効にする。手動で更新する場合、起動前に実行する。

表 B-4 itooipc のオプションとパラメータ (続き)

オプション	書式	説明
show_comm_status_dlg	yes no	<p>Java GUI クライアントで、共有の場所にあるグローバルプロパティファイルへの変更をチェックする。変更が検出されると、オペレータに変更を通知し、Java GUI の再起動を要求するメッセージが [HPOM 通信ステータス] ダイアログボックスに表示される。</p> <p>このパラメータでは、[HPOM 通信ステータス] ダイアログの表示 / 非表示を設定する (デフォルトでは表示)。デフォルト値は yes。</p> <p>多数のクライアントが同時に同じユーザー名でログインしている環境でこのダイアログを非表示にするには、このパラメータが便利である。クライアントの 1 人が Java GUI 設定を再ロードしても、[HPOM 通信ステータス] ダイアログボックスによって他の全クライアントが煩わされないで済む。</p>
socket_fallback	<to_bbc none>	<p>セキュアでない通信で使用される Java GUI クライアントおよび HPOM 管理サーバー接続を担当するフォールバックメカニズムを設定する。</p> <p>この設定はグローバル設定として設定できない。</p>

表 B-4 itoprc のオプションとパラメータ (続き)

オプション	書式	説明
sort_owned_severity	on off true false yes no	メッセージブラウザの所有メッセージを重要度ごとにフィルター処理する。デフォルト値は no。
stay_on_top	on off true false yes no	Java UI ウィンドウ (メインおよび取り外したもの) を画面の最前面に表示する。デフォルト値は no。
subproduct	<subproduct_string>	HP 内部使用のみ。
tailored_applications_start	on off true false yes no	選択したメッセージに関連するツールだけを、ポップアップメニューに表示する。
title_suffix	<title>	メインウィンドウのタイトルの隣に文字列を表示する。
trace	on off true false yes no	トレースメッセージを端末に表示する。
user	<username>	HPOM オペレータのログイン名。

表 B-4 itoprc のオプションとパラメータ (続き)

オプション	書式	説明
web_browser_type	external auto manual	<p>ワークスペースペインで使用する Web ブラウザの種類。</p> <ul style="list-style-type: none"> External ワークスペースペインの ActiveX 対応でないタブで、Java GUI の外部にある Web ブラウザを選択する。 ワークスペースペインの ActiveX タブで、Microsoft Internet Explorer ActiveX コントロールを選択する。 Auto Java GUI によって提供された内部 Web ブラウザを選択する。 Manual Web ブラウザのカスタム選択。 which_browser オプションを参照。
web_browser_html_appl_result	true false	<p><i>内部</i></p> <p>true= アプリケーションの HTML 出力を有効にする。</p> <p>false= アプリケーションの HTML 出力を無効にする。</p>

表 B-4 itoprc のオプションとパラメータ (続き)

オプション	書式	説明
which_browser	1 2	使用する Web ブラウザの種類。 1 = ActiveX Internet Explorer 2 = 内部 Web ブラウザ

用語集

E

EC

メッセージ属性を参照

F

follow-the-sun

タイムゾーンによって複数の管理サーバーに担当を分散すること。管理対象ノードは、管理者によって定義された時間属性に従って、設定された管理サーバーにメッセージを送信します。 [フレキシブル管理](#)を参照。

G

GUI

Java GUI を参照

H

HPOM アプリケーション

HPOM プラットフォームに統合されているアプリケーション。 [アプリケーション](#)、[HPOM 内部アプリケーション](#)を参照。

HPOM インストールマネージャ

管理サーバー。HP Operations エージェントソフトウェアは、ここから管理対象ノードにインストールされます。デフォルトでは、この管理サーバーはエージェントのハートビートをモニターし、ライセンスをカウントします。 [アクション許容マネージャ](#)、[一次マネージャ](#)を参照。

HPOM オペレータ

オペレータを参照

HPOM 管理者

管理者は、HPOM ソフトウェアのインストールと設定、運用方針の設定と維持、HPOM 以外のソフトウェアの保守、およびオペレータのワークスペースとスクリプトの設定を担当します。管理者は、HPOM オペレータインタフェースの機能すべてにアクセスできます。各オペレータの管理作業と作業範囲に応じて、オペレータ単位で作業環境をカスタマイズできます。 [opc_adm](#)、[オペレータ](#)、[ユーザープロファイル](#)を参照。

用語集

HPOM 内部アプリケーション

HPOM 内部アプリケーション

ブロードキャストタイプまたは仮想ターミナルタイプのアプリケーション。 *アプリケーション*、*HPOM アプリケーション*を参照。

HPOM パスワード

パスワードを参照

HTTPS ベースの Java GUI

Java GUI と HP Operations 管理サーバーとの間に、セキュアソケットレイヤー (SSL) 暗号化方式で暗号化された HTTPS プロトコルによる安全な通信を提供するインタフェース。 *Java GUI* を参照。

J

Java GUI

Java グラフィックユーザーインタフェース。 *オブジェクトペイン*を参照。

M

MoM (manager-of manager)

*フレキシブル管理*を参照

MoM

manager-of manager の略。 *フレキシブル管理*を参照。

N

NNM

ネットワークノードマネージャの略称。幅広い機能を備えたネットワーク管理製品です。

O

opc_adm

HPOM 管理者。3つの定義済 HPOM ユーザーの1つ。HPOM のデフォルトの管理者です。

opc_op、*HPOM 管理者*、*ユーザー名*を参照。

OPC_NODES

予約されている変数。オペレータ管理ノードまたは管理者登録ノード/ノードグループから選択したノードのリストを取り出すときに使用されます。取り出したノードのホスト名は、HPOM アプリケーションに渡されます。

opc_op

HPOM オペレータ。3 つの定義済 HPOM ユーザーの 1 つ。システム管理機能だけを担当します。オペレータはネットワークアクティビティを管理しません。このオペレータは、プロセス、ディスク容量、印刷状況など、UNIX の一部の機能を利用できます。 *opc_adm*、**オペレータ**、**ユーザー名**を参照。

opcacta

アクションエージェントを参照

opcactm

アクションマネージャを参照

opcbbcdist

設定管理アダプターを参照

opcctla

コントロールエージェントを参照

opcle

ログファイルエンキャプスレータを参照

opcmon (1|3)

モニター対象の値を HPOM のモニターエージェント (opcmona) に渡すために、アプリケーションやスクリプトが使用するコマンドおよび API。

opcmona

モニターエージェントを参照

opcmsga

メッセージエージェントを参照

opcmsgi

メッセージインターセプタを参照

opcmsgm

メッセージマネージャを参照

opcmsg (113)

HPOM が生成したメッセージの文字列や属性を HPOM メッセージインターセプタ (opcmsgi) に渡すために、アプリケーションやスクリプトが使用するコマンドおよび API。

opcuiwww

Java ベースのオペレータ用 GUI とディスプレイマネージャとの間で、通信要求のやり取りを行うプロセス。Java ベースの GUI ごとに、少なくとも 1 つ起動する必要があります。

ovcd

OV コントロールを参照

ovoareqsdr

リクエストセNDERを参照

OV コントロール

管理サーバー上のプロセス。他のすべてのマネージャプロセスを開始、終了し、すべてのマネージャプロセスが実行中であることを確認します。ovcd とも呼ばれます。

S

SNMP

簡易ネットワーク管理プロトコル (Simple Network Management Protocol)。ネットワーク管理情報を交換する TCP/IP の上位プロトコルです。SNMPv2C は従来の SNMP に比べ、機能が拡張されています。

SNMP トラップ

HPOM のメッセージソースの 1 つ。HPOM イベントインターセプタは、ネットワーク上のノードからトラップを収集してフィルター処理し、フィルター処理済メッセージをメッセージエージェントに転送します。管理者は、トラップ用テンプレートを設定できます。トラップ用テンプレートは、メッセージのデフォルトとパターンマッチのデフォルト、メッセージ条件、および除外条件からなります。

あ行

アクション

メッセージへの応答。メッセージソースのテンプレートや条件に基づいて割り当てられます。自動的に起動されるアクションと、オペレータが起動するアクションがあります。 **自動アクション**、**オペレータ起動アクション**を参照。

アクションエージェント

管理対象ノード上でアクションを起動し、制御するスクリプト、プログラム、またはアプリケーション。 **opcacta** とも呼ばれます。 **エージェント**を参照。

アクションマネージャ

管理サーバー上にあり、管理対象ノード上のアクションエージェントを制御する要素。 **opcactm** とも呼ばれます。アクションマネージャは、オペレータ起動アクションやアプリケーションを実行するためにディスプレイマネージャから呼び出されます。また、メッセージを送信した管理対象ノード以外のシステム上で自動アクションを実行する場合には、メッセージマネージャから呼び出されます。

アクション許容マネージャ

特定の管理対象ノードに対してアクションの実行を許可されている管理サーバー。該当する管理サーバーは、デフォルトではインストールマネージャだけです。複数の管理サーバーが共有の管理対象ノード上でアクションを実行するように設定することもできます。 **HPOM インストールマネージャ**を参照。

アクティブメッセージブラウザ

メッセージブラウザを参照

1. 簡単なスクリプト、プロセス、またはコマンド。2. たくさんのプログラムや設定ファイルを含む複雑な製品。 *オペレーションビュー*、*HPOM アプリケーション*、*HPOM 内部アプリケーション*を参照。

アプリケーションデフォルト

色やフォントなど、アプリケーションがデフォルトで使用する設定。アプリケーションデフォルトは、*X Window* アプリケーションのデフォルトファイルを編集して変更できます。 *opc(1)* の *マンページ*を参照。

暗号化

メッセージの盗聴や、改変を防止するセキュリティオプション。正当に認証された受信者だけがメッセージを読み取れることを保証します。 *認証*を参照。

一次収集ステーション

この条件には、イベントとの比較に使う文字列パターンが入っています。 *二次収集ステーション*を参照。

一次マネージャ

現在、*HP Operations* エージェントの実行を管理している管理サーバー。エージェントの起動と停止、新しいソフトウェアのインストール、およびエージェントへの設定情報の配布は、このサーバーだけに許可されます。一次マネージャに関する情報は *primmgr* ファイルに保存されます。このファイルが存在しない場合は、*HPOM* のインストールマネージャが *HP Operations* エージェントのサーバーとして機能します。*HPOM* は、*HTTPS* ベースの管理対象ノードの *ovconfchg* 設定ツールを使用してファイル名を抽出します。 *バックアップマネージャ*、*HPOM インストールマネージャ*を参照。

イベント

コンピューティング環境で発生し、メッセージ生成の原因になる事象。通常、イベントには、ステータスの変更やしきい値の超過などがあります。たとえば、用紙トレイが空になるとプリンターのステータスが変化し、メッセージが生成されます。

イベント属性

メッセージ属性を参照

イベント相関処理

イベントストリームのリアルタイム処理を通じて、イベント間の関係を認識する処理。可能な場合には、便利で管理しやすい情報で小さいストリームを新しく生成します。

エージェント

マネージャプログラムから要求を受信し、情報の収集、処理の実行、および応答の生成を行うプログラム。 **アクションエージェント**、**コントロールエージェント**、**メッセージエージェント**を参照。

オブジェクト

HPOM で管理されるリソースと関連機能。ノードやアプリケーション、オペレータなど。

オブジェクトペイン

Java GUI の上部にある 2 番目のペイン。管理対象環境内の別の要素へのアクセスに使用されます。 *Java GUI* を参照。

オペレーションビュー

オペレーションビューでは、管理対象環境のノードとアプリケーション、およびオペレータに割り当てられたメッセージグループを階層ツリーで表示します。 **アプリケーション**、**メッセージグループ**、**ノード**を参照。

オペレータ

HPOM 管理者によって割り当てられたノードやメッセージグループから着信するメッセージをモニターし、応答する HPOM ユーザー。オペレータは、**Java GUI** ではメッセージブラウザとオブジェクトペインを使って作業を実行します。opc_op は 3 つの定義済オペレータの 1 つです。 *opc_op*、*ユーザープロファイル*を参照。

オペレータ起動アクション

メッセージに応じて、オペレータが起動する修正アクションまたは予防アクション。自動アクションと違って、オペレータがボタンをクリックすると起動します。管理者もオペレータのブラウザを使用できるので、オペレータ起動アクションを管理者が起動することもできます。 **アクション**、**自動アクション**を参照。

か行

外部ノード

HPOM ドメイン外に存在するノード。IP ノードだけでなく、さまざまな種類のノードが外部ノードになります。しかし、外部ノードは、通常の HPOM ノードの機能の一部しか持っていません。外部ノード上では、HP Operations エージェントは動作しません。 [ノードグループ](#)を参照。

仮想コンソール

仮想ターミナルを参照

仮想ターミナル

物理的接続ではなく、ネットワーク経由でリモートマシン上に開かれたターミナルウィンドウ。HPOM では、仮想ターミナルとの接続に、定義済のユーザー名とパスワード、またはカスタマイズしたユーザー名とパスワードを使用します。 [リモートログオン](#)、[物理ターミナル](#)を参照。

簡易ネットワーク管理プロトコル (Simple Network Management Protocol)

SNMP を参照

監査エントリー

オペレータの活動（たとえば、アクションの実行、アプリケーションの起動、ログオン、ログオフ）や、管理者の活動（設定作業など）を定義するデータベースエントリー。監査エントリーはレポートとして印刷できます。

完全性

認可されたソースによって生成されてからメッセージが変更されていないことを、メッセージの受信者に保証するセキュリティ機能。

管理サーバー

ドメインの中心となるコンピュータシステム。管理サーバーには、ドメイン内のすべての管理対象ノードから HPOM メッセージが転送されます。

管理対象ノード

HPOM によってモニターまたは制御されるコンピュータシステムやインテリジェントデバイス (ネットワークプリンター、ルーターなど) の総称。HP Operations のエージェントは、各ノードから情報を収集し、フィルター処理やその他の処理を施して管理サーバーに送信します。 **デフォルトターゲットノード**、**メッセージソース**、**ノード**、**ノードグループ**、**リモートノード**を参照。

起動属性 あるアプリケーションのターゲットノード、アプリケーション呼出、およびそのアプリケーションのアプリケーション呼出を実行するユーザー。HPOM 管理者が、起動属性をアプリケーションにあらかじめ設定します。

グラフィックユーザーインターフェース

Java GUI を参照

計画休止

コンピューティング環境のサービスとシステムを利用できないように、あらかじめ計画した期間。この期間中に、利用できないサービスやシステムから着信したメッセージは除外されるか、履歴データベースに直接、移動されます。 **ペンディングメッセージ**、**サービス時間**、**メッセージのバッファ解除**を参照。

コントロールエージェント

各管理対象ノード上のエージェント。他のすべてのエージェントの起動と停止、および管理サーバーから送信された要求の処理を担当します。 **opctl**とも呼ばれます。コントロールエージェントは、起動中や、分配要求を受信したときに分配エージェントを起動し、管理サーバーから新しい設定データを収集します。 **エージェント**を参照。

コントロールの切り替え

メッセージの担当サーバーを、ソース管理サーバーからターゲット管理サーバーに切り替えること。オリジナルメッセージに関連付けられたアクションと操作のセットすべてを、ターゲット管理サーバーに与えます。ソース管理サーバーには、メッセージの読み取り専用コピーだけが残ります。 **メッセージの転送**、**通知メッセージ**を参照。

さ行

サービス時間

1. ヘルプデスクの営業時間として取り決められた時間帯。顧客とのサービスレベル契約でこの時間帯を定義します。2. HPOM ノードからのメッセージを HPOM オペレータに渡す時間帯を定義します。この時間帯の前後に生成されたメッセージはバッファーに入れられ、次の時間帯になってから転送されます。3. サービスプロバイダがサービス（たとえば、電子メール、印刷、SAP R/3、アウトソーシング）をサポートする時間帯を定義します。 **ペンディングメッセージ、ペンディングメッセージブラウザ、オブジェクトペイン、メッセージのバッファー解除**を参照。

サービスレポート

指定した時間帯または任意の時点について、HPOM 環境のサービスのステータスの概要を示すレポート。HP Service Reporter が生成します。

時間ポリシー

時間を管理するルールの設定。時間ポリシーはメッセージターゲット条件の一部です。HPOM で送信するメッセージ、送信タイミング、および送信先の管理サーバーを決定する基準として使用されます。システム管理者が時間に関する条件を定義し、ポリシーに保存します。

ポリシーを参照。

しきい値のモニター

障害を初期段階で検出するために、オブジェクトのしきい値をモニターすること。指定した期間、オブジェクトの値がしきい値を超過した場合に、オペレータへメッセージを送信できます。このメッセージによって、システムの機能やエンドユーザーの作業に影響を与える前に、障害を解決できます。 **モニターエージェント**を参照。

指示文インタフェース

選択したユーザーに指示を示すときに使用する外部プログラムを、管理者が定義するためのインタフェース。使用する外部プログラムによっては、メッセージごとに違う指示を示すことができます。 **ヘルプ指示文テキスト**を参照。

システムリソースファイル

opc_op ユーザーの設定ファイル (/etc/passwd や /etc/group など)、システムの起動またはシャットダウン時に自動実行されるファイルの総称。これらの設定ファイルは手動で編集できるほか、自動的に変更される場合もあります。

自動アクション

着信したイベントやメッセージによって起動されるアクション。オペレータは関与しません。
メッセージの受諾、*オペレータ起動アクション*を参照。

重要度

あるオペレータ環境での重要性に従って、HPOM 管理者がメッセージに割り当てたレベル。ノード、ノードグループ、またはメッセージグループを表すシンボルには、該当するノード、ノードグループ、またはメッセージグループから送信される最も重要度の高いメッセージの重要度が反映されます。 *ステータス伝達*を参照。

受諾

*メッセージの受諾*を参照

受諾解除

*メッセージの受諾解除*を参照

使用ライセンス (LTU)

顧客が入手したライセンス。LTU は、ライセンスングを必要とする製品コンポーネントで使用されます。

除外条件

特定のソースから着信するメッセージを選別するために、HPOM 管理者が設定する条件の 1 つ。除外条件を設定すると、条件に一致するメッセージはメッセージブラウザに渡されません。除外メッセージは、管理対象ノードのローカルログに記録できます。 *フィルター*、*メッセージ条件*、*メッセージのグループ替え条件*を参照。

所有権

*メッセージの所有権*を参照

所有権表示モード

所有済またはマーク済のメッセージを表示するか、または除外するかを指定するモード。メッセージステータスの生成に、このモードを使います。有効なモードは、*ステータス伝達あり*と*ステータス伝達なし*の 2 つです。 *ステータス伝達*を参照。

所有状態

メッセージの所有権、*所有権表示モード*を参照

ステータス伝達

指定した管理対象ノードやメッセージグループのステータスを重要度レベルによって決定すること。管理対象ノードやメッセージグループから送信される最も重要度の高いメッセージのステータスを、その管理対象ノードやメッセージグループのステータスにします。 *所有権表示モード*、*重要度*を参照。

制御対象ノード

リモートログオンなど、HPOM の管理 / モニター機能すべての対象となる管理対象ノード。このノード上で、アクションを実行したり、アプリケーションを起動したりします。

セッション

HPOM にログオンしている時間。HPOM にログオンまたはログアウトすると、HPOM セッションが開始または終了します。

設定管理アダプター

既存のアクション、コマンド、モニターからインスツルメンテーションを作成し、nodeinfo の設定を HTTPS ノードで使用される XPL 形式に変更する HTTPS エージェントと HP Operations 管理サーバーの間の設定管理アダプター。opcbbcdist とも呼ばれます。

専門技術センター

データベースやオペレーティングシステムなど、管理システムの特定の領域に関する専門情報を集めるように指定されたところ。専門技術センターが階層構造であるときは、特定の障害に関連するメッセージを、定義済の管理サーバーに送信するように管理対象ノードを設定します。送信先のサーバーには、その障害を解決するための情報があります。 *フレキシブル管理*を参照。

た行

注釈

メッセージの注釈を参照

通知サービス イベントの発生をオペレータに警告するサービス。HPOM の Java GUI メッセージブラウザに表示される情報の色や重要度レベルも、このサービスの一部です。HPOM は、ブザーやポケットベルなど、外部のサービスへもメッセージを転送できます。

通知メッセージ

HPOM が管理サーバーに転送する読み取り専用メッセージ。通知を目的としていますが、限られた範囲で関連する操作を伴うこともあります。 *コントロールの切り替え*、*メッセージの転送*を参照。

データ保存サービス

分散環境での情報の保存に使う記憶メカニズムの総称。たとえば、メタデータ、固定のオブジェクト情報、履歴情報、およびトポロジ情報を格納するデータベースなどがあります。

デフォルトオブジェクト

オブジェクトを参照

デフォルトターゲットノード

アプリケーションの起動やコマンドのブロードキャストの対象となるノードのリスト。このリストは、管理者が定義します。カスタマイズした起動権限を管理者がオペレータに割り当てた場合は、オペレータは Java GUI からリストを変更できます。 **管理対象ノード**、**ノード**を参照。

な行

二次収集ステーション

オブジェクトをモニターする収集ステーションのうち、オブジェクトの一次収集ステーションとして指定されていないステーション。 **一次収集ステーション**を参照。

二次マネージャ

二次管理サーバー。一次管理サーバーから二次管理サーバーへ管理担当範囲を移すことができます。二次管理サーバーへ管理担当範囲を移すと、二次管理サーバーが一次管理サーバーになります。 **opcragt(IM) コマンドのマンページ**を参照。

認証

接続を確立する前に、双方の妥当性を検証するセキュリティ機能。 **暗号化**を参照。

ノード

ネットワーク上に存在するコンピュータシステムやインテリジェントデバイス（ブリッジ、ルーターなど）の総称。 **デフォルトターゲットノード**、**管理対象ノード**、**オペレーションビュー**を参照。

ノード階層

ノードとノードレイアウトグループの階層構造を視覚的に表現したもの。各ノード階層には HPOM 環境に属する管理対象ノードがすべてあります。各階層の違いはノードの構造だけです。ノード階層は HPOM ユーザーに割り当てられ、ユーザーが担当する管理対象ノードを表示します。HPOM のデフォルト階層は登録ノードです。

オペレータが管理する内部ノードおよび外部ノードの論理的なグループ。管理者は、この論理グループに対して一貫した方針を適用します。1つのノードが複数のノードグループに属することもできます。 **外部ノード**、**管理対象ノード**を参照。

は行

パスワード

HPOM 管理者やオペレータを一意に識別する ID。オペレーティングシステムへのアクセス時に使用するパスワードとは関係ありません。 **ユーザー名**を参照。

パターンマッチ

メッセージの分類に使う条件。この条件には、イベントとの比較に使う文字列パターンが入っています。比較結果によって、HPOM によるメッセージの処理方法が決まります。 **非該当メッセージ**を参照。

バックアップマネージャ

障害の発生時などに、他の管理サーバーを代替する管理サーバー。代替の結果、バックアップマネージャは一次管理サーバーになります。通常、バックアップマネージャの設定は、代替対象の管理サーバーと同じです。 **一次マネージャ**を参照。

非該当メッセージ

メッセージ条件と除外条件のどちらにも該当しないメッセージ。非該当メッセージをローカルにログしたり、管理サーバーに転送したりできます。 **パターンマッチ**を参照。

非管理対象ノード

オペレータの作業環境から一時的に除外されているノード。非管理対象ノードでは、エージェントプロセスは起動されません。また、非管理対象ノードから着信したメッセージは無視されます。

ビュー

特定のデータベースやシステム用に設定した表示。たとえば、メッセージブラウザでのメッセージの表示を、フィルターを使って定義できます。フィルターの条件に一致するメッセージだけが、フィルター処理済アクティブメッセージブラウザに表示されます。

フィルター

ノードの情報や GUI に表示する情報を、メッセージ条件を基に変更、リダイレクト、または除外して選別する機能。管理者はメッセージ条件と除外条件を定義することによって、さまざまなソースからメッセージを選別して収集します。 **メッセージ条件**、**除外条件**を参照。

フィルター処理済メッセージブラウザ

選択したメッセージだけを表示する Java GUI メッセージブラウザ。メッセージブラウザ内ですべてのメッセージを表示するのではなく、特定のメッセージだけを表示できます。 **履歴メッセージブラウザ**、**メッセージブラウザ**、**ペンディングメッセージブラウザ**を参照。

物理コンソール

物理ターミナルを参照

物理ターミナル

管理対象ノードに物理的に接続されているターミナル。通常はシリアルインタフェースを介して接続されます。物理ターミナルを使うと、ネットワーク接続を利用できない管理対象ノードでも、オペレータはリブートやその他の作業を行うことができます。HPOM では、物理ターミナルへの一般的なインタフェースを利用できます。 **リモートログオン**、**仮想ターミナル**を参照。

フレキシブル管理

管理対象ノードの担当を多数の管理サーバーに分散すること。また、メッセージの受信日時、受信場所、内容に応じて、管理対象ノードがさまざまな管理サーバーへレポートできるようにすること。 **専門技術センター**、**follow-the-sun** を参照。

ブロードキャスト

指定された 1 つ以上の管理対象ノードに、同時にコマンドを送信すること。オペレータは、Java GUI のオブジェクトペインにあるツールツリーからコマンドを送信します。

プロセス

プログラムファイルの実行。HPOM で動作するプロセスには、統合されたアプリケーションやスクリプト、管理サーバープロセス、エージェントプロセス、トラブルチケットサービスなどがあります。

プロパティシート

作業手順を示すオプションを含むポップアップウィンドウ。このダイアログボックスのタブをクリックすると、オプションが表示されます。

ペンディングメッセージ

ペンディングメッセージ

定義されたサービス時間外や、計画休止の期間中に **HP Operations** 管理サーバーに着信するメッセージ。このメッセージは、定義済のバッファ解除時刻になるまで **Java GUI** ペンディングメッセージブラウザに表示されます。このメッセージは、自動または手動でバッファから解除されます。メッセージがバッファ解除されない場合は、メッセージブラウザに移動します。メッセージが受諾された場合は、フィルター処理済履歴メッセージブラウザに移動します。 **オブジェクトペイン**、**サービス時間**、**メッセージのバッファ解除**を参照。

ペンディングメッセージブラウザ

定義されたサービス時間外に着信したため、バッファに格納されているメッセージを表示するブラウザ。 **履歴メッセージブラウザ**、**メッセージブラウザ**、**ペンディングメッセージ**、**サービス時間**、**フィルター処理済メッセージブラウザ**を参照。

ポリシー

メッセージ条件と 1 つのメッセージソースの属性 (メッセージの重要度、メッセージの帰属グループなど) を含むルールのセット。テンプレートは、メッセージに新しいメッセージ属性を適用する手段としても使用できます。ログファイル、opcsmsg (1)、opcsmsg (3)、モニター対象オブジェクト、および **SNMP** トラップのルールを定義できます。 **メッセージソースポリシー**、**ポリシーグループ**、**時間ポリシー**を参照。

ポリシーグループ

共通の特徴を持つポリシーの論理的なグループ。管理者はポリシーグループとその階層を作成して、ポリシー管理を簡単にできます。また、管理対象ノードやノードグループへのポリシーの割り当ても簡単になります。 **ポリシー**を参照。

ま行

マップアプリケーション

可能な場合には、便利で管理しやすい情報で小さいストリームを新しく生成します。マップの内容を作成または変更するアプリケーション。マップアプリケーションは、開いているマップを動的に更新してネットワーク上のシステムの状態を反映し、マップ中のオブジェクトに関する情報を表示します。

マーク付け

メッセージの所有権 [を参照](#)

メッセージ

管理対象オブジェクトのステータス、関連するイベント、または障害を構造化した読み取り可能な情報。この情報は、対応するオブジェクトのステータスに基づいて、**Java GUI** アクティブメッセージブラウザ、フィルター処理済アクティブメッセージブラウザ、フィルター処理済履歴メッセージブラウザ、またはフィルター処理済ペンディングメッセージブラウザに表示されます。**メッセージ属性**を参照。

メッセージインターセプタ

メッセージを受信するプロセス。**opcmsgi**とも呼ばれます。メッセージを**HPOM**に転送するには、**opcmsg(1)** コマンドと **opcmsg(3)** API を使用します。条件を設定して、特定の種類のメッセージを統合したり、除外したりできます。

メッセージエージェント

管理対象ノード上のエージェント。メッセージエージェントは **opcmsga** とも呼ばれます。メッセージソースからメッセージを受信し、処理して管理サーバーに送信します。**エージェント**を参照。

メッセージキー

特定のイベントによって発生したメッセージを識別するために使用するメッセージ属性(文字列)。この文字列はイベントの重要な特性を示しています。メッセージによる他のメッセージの受諾手段として使用できます。また、この文字列を使って、重複するメッセージを識別できます。**メッセージ属性**を参照。

メッセージグループ

同じ作業に属す、または何らかの論理的な関係を持つ複数のメッセージの集合。たとえば、バックアップ作業や出力作業からのメッセージ、共通のポリシーを持つメッセージなどです。**オペレーションビュー**を参照。

メッセージ条件

さまざまなソースからメッセージを取り込むために、**HPOM**に設定するフィルター。これらのフィルターはメッセージを生成し、生成されたメッセージは通常、メッセージブラウザに表示されます。メッセージソースのテンプレートは、一連のメッセージ条件と除外条件からなります。**フィルター**、**メッセージのグループ替え条件**、**除外条件**を参照。

HPOM の内部メッセージフローに、外部アプリケーションからアクセスするためのインタフェース。読み取り / 書き込み両用、読み取り専用、または書き込み専用の外部アプリケーションは、メッセージストリームインタフェースにアクセスして、メッセージに追加処理を行います。メッセージストリームインタフェースは、管理サーバーとエージェントで利用できます。インタフェース機能にアクセスするための API のセットがあります。

メッセージソース

HPOM が管理するメッセージのソース (生成源)。HPOM は、ログファイル、SNMP トラップ、しきい値モニター、HPOM メッセージコマンドインタフェースとその API (opcmsg (1|3))、HPOM モニターコマンドインタフェースとその API (opcmon (1|3))、イベント関連処理サービスなど、さまざまなソースから生成されるメッセージを管理します。各ソースから生成されるメッセージを処理するため、HPOM 管理者はメッセージデフォルト、メッセージ条件、および除外条件からなるテンプレートを定義します。 **ログファイルメッセージ**、**管理対象ノード**を参照。

メッセージソースポリシー

HPOM へのメッセージの取り込みを制御するポリシー。 **ポリシー**を参照。

メッセージ属性

1. 管理者が管理サーバーから受信したメッセージの分類に使用する属性。2. OPCDATA_MSG の数値フィールド群。各フィールドの値は、たとえば、EC ノードの **event-type** フィールドなど、文字列形式で参照されます。 **メッセージ**、**メッセージキー**を参照。

メッセージターゲット規則

管理対象ノードに対して、特定のメッセージの送信先となる管理サーバーを指示する条件。この条件では、計画休止中または稼働時間中にメッセージを除外したり、バッファーに格納したりするタイミングも、メッセージ属性や日時を基に調べます。メッセージターゲット規則は、管理対象ノード上の設定ファイル mgrconf で定義されています。

メッセージ対象ノード

エージェントソフトウェアを実行しないノード (メッセージ対象ノードが送信したメッセージは、HPOM に受理されます)。

メッセージタイプ

メッセージ群をサブグループに分類するために使うメッセージ属性。この属性を利用すると、関連処理の規則で参照できるようにメッセージ群を細かくグループ分けできます。メッセージタイプは、HPOM に接続されているイベント関連処理エンジンがあるときは、特に便利です。

メッセージのグループ替え条件

オペレーティング環境用に定義されたメッセージの管理方針内の条件。この条件を使って、管理サーバー上でのメッセージグループを再編成できます。たとえば、HP-UX のメッセージグループを組み合わせ、オペレーティングシステムメッセージの新しいグループを構成できます。

メッセージ条件、除外条件を参照。

メッセージの重要度

重要度を参照

メッセージの受諾

メッセージブラウザから履歴データベースにメッセージを移動すること。履歴データベースに移動したメッセージは、Java GUI フィルター処理済履歴メッセージブラウザで表示できます。メッセージは通常、その生成原因になった障害やイベントがアクションによって解決された後、履歴データベースに移動されます。自動アクション、メッセージの受諾解除を参照。

メッセージの受諾解除

履歴データベースから Java GUI アクティブメッセージブラウザにメッセージを戻すこと。メッセージが受諾前に属していたメッセージブラウザが移動先になります。受諾解除したメッセージは、フィルター処理済履歴メッセージブラウザには表示されなくなりますが、フィルター処理済アクティブメッセージブラウザには表示されます。受諾解除できるのは、履歴メッセージブラウザ内のメッセージだけです。メッセージの受諾を参照。

メッセージの所有権

オペレータまたは管理者が、あるメッセージに関連するアクションを実行するために、そのメッセージを引き受けること。メッセージ所有の概念は、情報モードでのメッセージのマーク付けに相当します。メッセージのマーク付け、メッセージの所有権モードを参照。

メッセージの所有権モード

オペレータや管理者がアクションとのやり取りを行うときに使用するモード。メッセージの所有権を参照。

メッセージの注釈

メッセージに付加された注釈。自動的に付加されるか、オペレータまたは管理者が付加します。障害を解決するために実行するアクションを説明するものです。複数行または複数のページにわたる注釈を付加できます。オペレータ、管理者のどちらも、1つのメッセージに複数の注釈を付加できます。

管理サーバーから他の管理サーバーにメッセージをコピーすること。他のサーバーにメッセージをコピーした後、管理者はコピー先のサーバーにイベントを通知したり、メッセージの制御をコピー先に切り替えたりできます。 **コントロールの切り替え**、**通知メッセージ**を参照。

メッセージのバッファ解除

フィルター処理済ペンディングメッセージブラウザから、フィルター処理済アクティブメッセージブラウザにメッセージを移動すること。移動後、メッセージを編集できます。 **ペンディングメッセージ**、**オブジェクトペイン**、**サービス時間**を参照。

メッセージのマーク付け

オペレータや管理者が、あるメッセージに注意していることを示します。マーク付けは情報モード特有の概念です。強制モードでのメッセージの所有権に相当します。 **メッセージの所有権**を参照。

メッセージブラウザ

ユーザーインタフェースの一部。ユーザーが管理サーバーから受信したメッセージを表示するときに使用されます。ユーザーは、障害の検出、メッセージの確認と受諾、障害管理作業の実行にこのブラウザを使用します。 **履歴メッセージブラウザ**、**ペンディングメッセージブラウザ**、**フィルター処理済メッセージブラウザ**を参照。

メッセージマネージャ

管理サーバーで動作するプロセス。 **opcmsgm** とも呼ばれます。メッセージの優先順位付けと分類、メッセージへの注釈の付加、およびアクションの実行を管理します。 **opcmsgm** とも呼ばれます。

モニターエージェント

システムパラメータ (CPU の負荷、ディスクの使用率、カーネルパラメータ、SNMP MIB など) をモニターするプロセス。 **opcmona** とも呼ばれます。モニターエージェントは、パラメータの実際の値を定義済のしきい値とチェックします。パラメータ値がしきい値を超過している場合には、メッセージを生成し、メッセージエージェントに転送します。 **HPOM** 管理者は、モニター対象オブジェクトの照会周期を調整できます。 **しきい値のモニター**を参照。

モニター対象オブジェクト

HPOM によって周期的に照会されるオブジェクト。システムパラメータ、データベースステータス、スプール情報など。

モニターのためのノード

エージェントプロセスはすべて起動されるが、アクションは実行されないノード。モニターのためのノードを使って、システムのセキュリティ要件を高め、リモートログオンやリモートアクションを制限するように、システムを設定できます。

や行

ユーザー名

HPOM アプリケーションがユーザーを一意に識別するための名前。オペレーティングシステムのユーザー名とは無関係です。HPOM の GUI には、ユーザー名とパスワードを正しく入力する必要があります。HPOM は管理者に `opc_adm`、オペレータに `opc_op` という一意のユーザー名を割り当てています。この 2 つのユーザー名は変更できません。他のユーザー名は、8 文字以下の長さでなければなりません。ユーザー名には、オペレーティングシステムの制約がすべて適用されます。 `opc_adm`、`opc_op`、パスワードを参照。

ユーザープロファイル

仮想 HPOM ユーザーの設定を定義するプロファイル。1 つ以上の設定済プロファイルから、実際の HPOM ユーザーの設定を取り込むことができます。 *オペレータ*、*HPOM 管理者*を参照。

ら行

ライセンスパスワード

ライセンスされたオブジェクトの 1 つまたは複数のライセンスに関する情報を持つ一意の文字列。ライセンス (LTU) をインストールするためのパスワードは、ライセンスパスワードリポジトリに追加されます。

ライセンスキー

ライセンスキーには、ライセンスされるオブジェクトに関する情報と、ライセンス (LTU) の数が含まれます。たとえば、HP Operations 管理サーバーと HP Operations エージェントはライセンスされるオブジェクトです。

リクエストセンター

管理サーバーから管理対象ノードに、エージェントの起動や停止、定期ポーリングの設定などの要求を送信するプロセス。 `ovoareqsdr` とも呼ばれます。

通信リンクを使用するシステム。 [管理対象ノード](#)を参照。

リモートログオン

管理対象ノードに、そのノード以外からアクセスすること。仮想ターミナルや物理ターミナルから、定義済またはカスタマイズされたユーザー名とパスワードを使って、管理対象ノードの1つにアクセスできます。 [物理ターミナル](#)、[仮想ターミナル](#)を参照。

履歴メッセージブラウザ

受諾したメッセージをすべて表示する Java GUI ブラウザ。受諾したメッセージを調べると、これまで使用された障害解決の手法を確認できます。 [メッセージブラウザ](#)、[ペンディングメッセージブラウザ](#)、[フィルター処理済メッセージブラウザ](#)を参照。

レポート

設定情報の要約。HPOM 管理者は、HPOM のレポートを出力したり、HPOM に含まれていない要素のレポートを統合したりできます。

ログのみのメッセージ

管理サーバーに記録され、履歴データベースに送信されるメッセージ(設定によっては、管理サーバーではなくローカルに記録されます)。このメッセージが表示されるのは、履歴メッセージブラウザだけです。`log-on-management-server-only` 属性はメッセージ条件ごとに設定できます。この属性を設定している条件には、他のアクションを設定できません。

ログファイルエンキャプスレータ

管理対象ノードで動作するプロセス。1つ以上のアプリケーションやシステムのログファイル内を、ログファイルのテンプレートを使って走査し、管理者が指定したパターンに一致するメッセージを検索します。このプロセスは `opcle` とも呼ばれます。一致の検出時にメッセージを生成する場合、そのメッセージをメッセージエージェントに転送します。

ログファイルメッセージ

アプリケーションやサービスのログファイルから生成されるメッセージ。管理者はログファイルのテンプレートを設定します。テンプレートは、モニターオプション(ポーリング周期、処理ツール、文字セットなど)、メッセージ条件、および除外条件からなり、ログファイルエンキャプスレータによるログファイルの読み取り方法を決定します。ログファイルエンキャプスレータは、生成されたメッセージをメッセージエージェントに転送します。 [メッセージソース](#)を参照。

わ行

ワークスペース

ワークスペースペインの各タブの内容。オペレータが特定の作業用に定義します。通常のワークスペースには、メッセージブラウザ、グラフ、傾向グラフ、アプリケーション出力、サービスグラフ、および **ActiveX** 対応でない **Web** ブラウザを表示できます。**ActiveX** 対応の **Web** ブラウザを使用するには、**ActiveX** ワークスペースを定義します。**ActiveX** ワークスペースに表示できるのは、**Web** ブラウザだけです。 **ワークスペースペイン**を参照。

ワークスペースペイン

ツールバーとペインコントロールの右下に表示されるペイン。このペインには、オペレータ定義のワークスペースが表示されます。各ワークスペースには、メッセージブラウザ、アプリケーション出力ウィンドウ、グラフ、または **Web** ブラウザを表示できます。 **Java GUI**、**ワークスペース**を参照。

A

ActiveX, 35
Adobe Portable Document Format - 参照
PDF ドキュメント
API
Java GUI
操作, 157 - 158
apisid オプション
ito_op, 607
itoopec, 611

B

bbc.http
proxy オプション
ito_op, 607
itoopec, 611

C

Cockpit View
起動, 112
起動オプションのカスタマイズ, 113 - 115
状態ゲージ
概要, 110
図, 107
セキュリティプロセス, 115
説明, 106
フリーテキスト領域, 111
メッセージ
フィルター, 107
フィルターグループ, 109
Cockpit View 起動オプションのカスタマイズ
, 113 - 115
Cockpit View の起動, 112
colored_message_lines オプション
ito_op, 607
itoopec, 611

D

default_browser オプション, 612
def_browser オプション, 607
def_help_url オプション, 611
def_look_and_feel オプション
ito_op, 608
itoopec, 612

F

fastlink、サービス, 406

G

"global_settings_poll_interval" オプション
itoopec, 612
GUI
- 参照 Java GUI;
Service Navigator, 372 - 377
影響を受けるサービスの検索, 346
カスタムサービスマップ, 372
サービスサブマップ, 372
障害原因を検索, 346 - 347
ドキュメント
Java, 29 - 30
メインウィンドウ, 372

H

HP Service Navigator, 343 - 344
HPOM
アクションが完了しない, 423
印刷, 266 - 269
オペレータへの通知, 273
解決方法のドキュメント化, 264
カスタマイズ, 274
カラー表示されない, 424
起動しないときのトラブルシューティング
GUI, 421
アプリケーション, 422
起動メッセージ、作成, 94
サービスの障害, 426
受諾, 167
障害の解決, 247
障害の検出, 226 - 237
障害の調査, 238 - 246
情報メッセージの送信, 273
デフォルト、管理者, 173 - 176
変数, 159
概要, 583 - 599
標準, 583
メッセージ関連, 587 - 599
モニター, 119, 227 - 230
ワークスペースでの障害, 425
HPOM Java GUI - 参照 Java GUI
HP_OV_consoleSettings ファイル, 179
HTTPS ベース Java GUI
アーキテクチャ, 219
コア機能のインストール, 329
証明書, 223
準備, 331
セキュアな通信の確立, 220

設定, 326 - 339
 ito_op によるプロキシ, 336
 itooprc ファイルによるプロキシ, 336
 Java GUI アプレット用のプロキシ, 338
 クライアント上のセキュアな通信, 327
 コア機能によるプロキシ, 339
 ファイアウォールを経由するセキュアな通信, 334
 [ログイン] ダイアログボックスによるプロキシ, 337
 使う, 218 - 223
 トラブルシューティング, 427
 認証プロセス, 221

I

initial_node オプション, 608, 612
 install_dir オプション, 612
 ito_op 起動スクリプト, 607 - 609
 プロキシ設定, 336
 itoopbrw ファイル
 概要, 600 - 606
 構文, 601
 パラメータ, 601 - 606
 itooprc ファイル
 プロキシ設定, 336

J

Java GUI

 -参照 GUI;
 HTTPS ベース
 アーキテクチャ, 219
 コア機能のインストール, 329
 証明書, 223
 証明書の準備, 331
 セキュアな通信の確立, 220
 設定, 326 - 339
 使う, 218 - 223
 トラブルシューティング, 427
 認証プロセス, 221
 ito_op 起動スクリプト, 607 - 609
 itooprc ファイル, 611 - 618
 Remote API, 157 - 158
 Web ブラウザ, 80 - 81
 Web ブラウザの選択, 186
 アクションが完了しない, 423
 アプリケーション起動 - カスタマイズ, 569
 - 571
 オブジェクトペイン, 48 - 58

オペレータへの通知, 273
 カスタマイズ
 HPOM, 274
 Service Navigator, 413
 概要, 168
 ショートカットバー, 186
 進捗状況ダイアログボックス, 281
 フォントサイズ, 191
 ポップアップメニュー, 187 - 189
 メッセージイベント通知, 190
 メッセージブラウザのカラム, 213
 ルック & フィール, 281
 カラー表示されない, 424
 キーアクセラレータ, 433
 キーボードショートカット, 432
 起動, 35
 起動オプション, 607 - 609
 起動障害
 HPOM, 421
 アプリケーション, 422
 行全体のメッセージの色の切り替え, 213
 クイックフィルターにアクセス, 197
 グローバル設定の使用, 217
 サービスの障害, 426
 再表示, 277 - 278
 終了, 438
 情報メッセージの送信, 273
 ショートカットバー, 45 - 47
 新機能, 34 - 36
 進捗状況ダイアログボックスのカスタマイズ, 180
 図, 42
 ステータスバー, 82
 セキュリティプロセス, 115
 説明, 106
 ダイアログボックス, 504 - 568
 タイムゾーンが異なるシステムで実行, 193
 ツアー, 42 - 44
 ツールバー, 84
 アイコン, 459 - 463
 デフォルト設定のロード, 170 - 176
 ドラッグ, 96
 ドラッグアンドドロップ, 95 - 101
 他のアプリケーション, 102
 ドロップ, 97 - 101
 非表示
 ペインとエリア, 183 - 185
 ポジションコントロール, 181
 メッセージブラウザのカラム, 215

索引

表示

- ペインとエリア, 183 - 185
- ポジションコントロール, 181
- メッセージブラウザのカラム, 215
- フィルター処理
 - メッセージ, 73
- フィルター処理済メッセージブラウザの設定, 192 - 194
- ブラウザペイン, 68 - 79
- ブラウザペインへのタブの追加, 213
- ペインとエリアの移動, 182

変更

- オペレータのパスワード, 169
- 再表示周期, 177
- ロック & フィールド, 179
- ポジションコントロール, 85
- 保存
 - コンソール設定, 177 - 179
 - メッセージブラウザフィルター, 195 - 196
 - メッセージブラウザレイアウト, 216
- ポップアップメニュー, 86 - 91
 - 種類, 464 - 503
- メッセージフィルターの設定, 192 - 194
- メニューバー, 83
- 項目, 435 - 458
- ログオフ, 437
- ワークスペースでの障害, 425
- ワークスペースペイン, 59 - 67

Java GUI アプレット

- プロキシ設定, 338
- Java GUI からのログオフ, 437
- Java GUI のグローバル設定, 217
- Java GUI の再表示, 277 - 278
- Java GUI の終了, 438
- Java GUI の同期, 34

L

- listguis ツール, 36
- locale オプション, 608, 612

M

- max_limited_messages オプション, 608, 612
- message_notification_dlg オプション, 612
- message_notification_dlg_app オプション, 613
- message_notification_dlg_app_path オプション, 613

- message_notification_show_all オプション, 613

N

- nosec オプション, 608, 613

O

- \$OPC_CUSTOM[name] 変数, 583
- \$OPC_ENV(env variable) 変数, 583
- \$OPC_EXACT_SELECTED_NODE_LABEL S 変数, 583
- \$OPC_EXT_NODES 変数, 583
- \$OPC_GUI_CLIENT 変数, 584
- \$OPC_GUI_CLIENT_WEB 変数, 584
- \$OPC_MGMTSV 変数, 584
- \$OPC_MSG.ACTIONS.AUTOMATIC 変数, 587
- \$OPC_MSG.ACTIONS.AUTOMATIC.ACKNOWLEDGE 変数, 587
- \$OPC_MSG.ACTIONS.AUTOMATIC.ANNOTATION 変数, 588
- \$OPC_MSG.ACTIONS.AUTOMATIC.COMMAND 変数, 588
- \$OPC_MSG.ACTIONS.AUTOMATIC.NODE 変数, 588
- \$OPC_MSG.ACTIONS.AUTOMATIC.STATUS 変数, 588
- \$OPC_MSG.ACTIONS.OPERATOR 変数, 588
- \$OPC_MSG.ACTIONS.OPERATOR.ACKNOWLEDGE 変数, 589
- \$OPC_MSG.ACTIONS.OPERATOR.ANNOTATION 変数, 589
- \$OPC_MSG.ACTIONS.OPERATOR.COMMAND 変数, 589
- \$OPC_MSG.ACTIONS.OPERATOR.COMMAND[n] 変数, 589
- \$OPC_MSG.ACTIONS.OPERATOR.NODE 変数, 589
- \$OPC_MSG.ACTIONS.OPERATOR.STATUS 変数, 590
- \$OPC_MSG.ACTIONS.TROUBLE_TICKET.ACKNOWLEDGE 変数, 590
- \$OPC_MSG.ACTIONS.TROUBLE_TICKET.STATUS 変数, 590
- \$OPC_MSG.ANNOTATIONS 変数, 590
- \$OPC_MSG.ANNOTATIONS[n] 変数, 591
- \$OPC_MSG.APPLICATION 変数, 591

\$OPC_MSG.ATTRIBUTES 変数, 591
 \$OPC_MSG.CREATED 変数, 591
 \$OPC_MSG.DUPLICATES 変数, 592
 \$OPC_MSG.GROUP 変数, 592
 \$OPC_MSG.INSTRUCTIONS 変数, 592
 \$OPC_MSG.LAST_RECEIVED 変数, 592
 \$OPC_MSG.MSG_ID 変数, 592
 \$OPC_MSG.MSG_KEY 変数, 592
 \$OPC_MSG.NODE 変数, 593
 \$OPC_MSG.NODE_INCL_DUPS 変数, 593
 \$OPC_MSG.NO_OF_ANNOTATIONS 変数, 593
 \$OPC_MSG.OBJECT 変数, 593
 \$OPC_MSG.ORIG_TEXT 変数, 593
 \$OPC_MSG.ORIG_TEXT[n] 変数, 594
 \$OPC_MSG.OWNER 変数, 594
 \$OPC_MSG.RECEIVED 変数, 594
 \$OPC_MSG.SERVICE 変数, 594
 \$OPC_MSG.SERVICE.MAPPED_SVC_COUNT 変数, 595
 \$OPC_MSG.SERVICE.MAPPED_SVC[n] 変数, 595
 \$OPC_MSG.SERVICE.MAPPED_SVCS 変数, 595
 \$OPC_MSG.SEVERITY 変数, 595
 \$OPC_MSG.SOURCE 変数, 595
 \$OPC_MSG.TEXT 変数, 596
 \$OPC_MSG.TEXT[n] 変数, 596
 \$OPC_MSG.TIME_OWNED 変数, 596
 \$OPC_MSG.TYPE 変数, 596
 \$OPC_MSG_GEN_NODES 変数, 585
 \$OPC_MSG_IDS 変数, 584
 \$OPC_MSGIDS_ACT 変数, 585
 \$OPC_MSGIDS_HIST 変数, 586
 \$OPC_MSGIDS_PEND 変数, 586
 \$OPC_MSG_NODES 変数, 585
 \$OPC_NODE_LABELS 変数, 586
 \$OPC_NODES 変数, 586
 \$OPC_USER 変数, 586

P

passwd オプション, 608, 613
 PDF ドキュメント, 23
 port オプション, 613
 Portable Document Format - 参照 PDF ドキュメント
 prompt_for_activate オプション, 613

R

reconnect_interval オプション, 613
 reconnect_timeout オプション, 613
 refresh_interval オプション, 608, 613


S

secure_port オプション, 614
 server オプション, 608
 Service Navigator
 GUI, 343, 372 - 377
 影響を受けるサービスの検索, 141
 解決方法のドキュメント化, 412
 カスタマイズ, 413
 サービスグラフとマップ, 373
 障害の解決, 409 - 411
 障害の管理, 398 - 399
 障害の検出, 400 - 405
 障害の調査, 406 - 408
 説明, 343 - 344
 Service Navigator で障害を管理する, 398 - 399
 severity_label オプション, 614
 shortcut_tree_icon_width オプション, 614
 show_at_severity オプション, 614
 stderr アクション, 149
 stdout アクション, 149
 subproduct オプション, 616

T

tailored_applications_start オプション, 616
 title_suffix オプション
 ito_op, 608
 itopr, 616
 trace オプション
 ito_op, 609
 itopr, 616

U

[URL ショートカットの変更] ダイアログボックス, 546
 [URL ショートカット] フォルダー
 概要, 58
 
 アプリケーションの起動, 66
 アプリケーションの更新, 67
 オブジェクトツリー, 58
 user オプション

索引

ito_op, 609
itoooprc, 616

V

View、Cockpit - 参照 Cockpit View

W

Web ブラウザ, 35

Cockpit View の起動

詳細, 112

概要, 80 - 81

サポートした, 112

選択, 186

統合を変更, 289 - 290

Web ブラウザの選択, 186

[Web ブラウザのプロパティ] ダイアログボックス, 566

Web ベースのインタフェース, 34, 106

web_browser_type オプション, 617

WebStart, 35

which_browser オプション, 618

あ

アイコン

状態ゲージ, 110

メッセージフィルター, 107

メッセージフィルターグループ, 109

ラベル付け, 378

アイコン、ツールバー, 459 - 463

アクション

stderr, 149

stdout, 149

確認

オペレータ起動, 151 - 152

自動, 150 - 151

サービス, 409

自動、確認, 249

トラブルシューティング, 423

評価結果, 149

アクション結果の評価, 149

アクションポリシー, 122

[アクション] メニュー, 446 - 456

アクセス

アプリケーション, 141

オペレータ指示, 254

クイックフィルター, 197

ターミナル, 162

フィルター処理済メッセージブラウザ, 301

履歴データベースをすばやく, 244

アクティブメッセージブラウザ

- 参照 フィルター処理済メッセージブラウザ;
履歴メッセージブラウザ;
ペンディングメッセージブラウザ

概要, 75 - 76

図, 71

すべてのメッセージを表示, 232

アクティブメッセージ、フィルターの表示,
109

アプリケーション

アクセス, 141

オペレータ割り当ての表示, 254 - 255

カスタマイズ, 156

起動属性, 260 - 263

カスタムセット, 189

起動, 154 - 155

オブジェクトペイン, 257

概要, 255

メッセージブラウザ, 259

メニューバー, 256

サービスから開始する, 411

出力の印刷, 269

障害の解決, 154 - 156

診断ダッシュボードワークスペースでモニター, 243

ブロードキャスト, 149

[アプリケーション起動 - カスタマイズ] ウィザード

項目, 569 - 571

図

ステップ 2/3, 156

ステップ 3/3, 159

ブロードキャストコマンド, 161

アプリケーションのカスタムセット, 189

[アプリケーション] フォルダー

概要, 54

図, 54

アプリケーション、アクセス, 141

アプレット、Cockpit View, 113

い

移動

オブジェクトペイン, 283

ショートカットバー, 283

フィルター処理済メッセージブラウザ, 303

ペインとエリア, 182

ワークスペースペイン, 283

移動可能ペイン、カスタマイズ, 282 - 284

イメージ

概要, 111

印刷

アプリケーションの出力, 269

概要, 266 - 269

ダイアログボックス, 269

メッセージ, 267

メッセージ詳細, 268

印刷ドキュメント, 25

インストール

コア機能, 329

インタフェース - 参照 Java GUI; Web ベース

インタフェース

う

ウィンドウ

Service Navigator, 343

[ウィンドウ]メニュー, 457

上のメッセージバー, 108

ウォーターマーク

設定, 368

非表示, 369

表示, 369

[ウォーターマークの詳細設定]ダイアログ

ボックス, 564

え

影響を受ける Service Navigator サービスの検索, 141

影響を受けるサービスを強調表示する, 406

影響を受けるサービス、識別する

手順, 408

エラーメッセージのチェック, 417

エラーメッセージ、チェック, 417

演算子

メッセージ表示フィルター, 208

お

オブジェクトステータス、確認, 149

オブジェクトツリーの検索

概要, 120

手順, 228

オブジェクトツリー、検索

概要, 120

- 参照 オブジェクトペイン

手順, 228

オブジェクトペイン

アプリケーションの起動, 257

移動, 182, 283

概要, 48 - 58

- 参照 オブジェクトツリー、検索

ショートカットバーに項目追加, 284

図

表示, 183

ポップアップメニュー, 88

メインウィンドウ, 48

非表示, 283

表示, 183, 283

サービス, 401

サービス詳細, 402

フォルダー

URL ショートカット, 58

[アプリケーション], 54

ノード, 50 - 51

[フィルター設定], 55 - 57

メッセージグループ, 52 - 53

ポップアップメニュー, 88

URL ショートカット, 484

アプリケーション, 478

項目, 475

サービス, 479 - 480

ノードグループ, 477

フィルター設定, 481

メッセージグループ, 478

メニュー項目, 474 - 484

メッセージブラウザの保存, 197

オプション、Cockpit View 起動, 113 - 115

オペレータ

情報メッセージの送信, 273

デフォルト

システム, 171

デフォルト設定の再ロード, 277

デフォルト設定のロード, 277

変更

パスワード, 276

オペレータ起動アクション

確認, 151 - 152

[メッセージのプロパティ]ダイアログ

ボックス, 253 - 254

メッセージブラウザ, 252

起動, 151

注釈, 152

トラブルシューティング, 423

オペレータ指示

アクセス, 254

読む, 153 - 154

索引

オペレータ指示を読む, 153 - 154

[オペレータにメッセージを送信...] ダイアログボックス
項目, 557

オペレータに割り当てられたアプリケーション、表示, 254 - 255

[オペレータのパスワードの変更] ダイアログボックス

項目, 512

図, 169

重み付け, 358 - 363

オリジナル ID, 404, 405

オリジナルメッセージテキスト、確認, 134

オンデマンドによるサービスのロード, 389 - 393

オンラインによる同期, 34

オンラインヘルプ

図, 64

説明, 27

オンラインヘルプワークスペース, 64

か

解決方法、ドキュメント化, 163 - 167

解決方法のドキュメント化

HPOM, 264

Service Navigator, 412

印刷, 165

概要, 163 - 167

メッセージの受諾, 166 - 167

メッセージの注釈付け, 163 - 165

解決方法、ドキュメント化

HPOM, 264

Service Navigator, 412

外部ブラウザ, 35

拡張サービスサブマップ, 372

確認

オブジェクトステータス, 149

オペレータ起動アクション, 151 - 152

概要, 151

注釈, 152

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックス, 253 - 254

メッセージブラウザ, 252

自動アクション, 150 - 151

[メッセージのプロパティ] ダイアログボックス, 250 - 251

メッセージブラウザ, 250

受諾, 167

注釈

アクション, 149

メッセージ, 165

メッセージ

詳細, 72 - 73

属性, 132

カスタマイズ

Java GUI, 168

HPOM, 274

Service Navigator, 413

進捗状況ダイアログボックス, 281

ロック & フィール, 281

アプリケーション, 156

アプリケーションの起動属性, 260 - 263

一般的なフォントサイズ, 294

移動可能ペイン, 282 - 284

オペレータ環境, 168

コンソール設定, 279

再表示周期, 278

ショートカットバー, 186, 284 - 287

ショートカットバー上のアイコンサイズ, 287

進捗状況ダイアログボックス, 180

通信ステータスのダイアログボックス, 295

ツールバー, 187, 292

フォントサイズ, 191

ポップアップメニュー, 187 - 189, 290

メッセージイベント通知, 190

メッセージブラウザからブラウザのレイアウト, 214

メッセージブラウザでの色の表示設定, 325

メッセージブラウザのカラム, 321

属性, 124

レイアウト, 213

ワークスペースペイン, 287 - 289

カスタムサービスマップ, 377

カスタムメッセージ属性

概要, 135

表示, 136

活字体の表記法 - 参照 ドキュメントの表記法
カラー

重要度レベル, 575

図

オブジェクトペイン, 129

ショートカットバー, 128

メッセージブラウザ, 72

ノードフォルダー, 51

背景

状態ゲージ, 110

メッセージフィルター, 108
 メッセージフィルターグループ, 109
 表示されない, 424
 表示設定, 325
 メッセージ
 説明, 575
 場所, 127 - 129
 変更, 71
 メッセージグループフォルダー, 53
 メッセージブラウザ, 213
 カラム、メッセージブラウザ
 カスタマイズ, 213, 321
 簡単な簡単なメッセージ表示フィルターの作成, 305
 順序変更, 321
 詳細なメッセージ表示フィルターの作成, 307
 属性の変更, 321
 テキスト表示タブでのメッセージ表示フィルターの作成, 310
 内容の調整, 321
 非表示, 215
 表示, 215
 メッセージ表示フィルターの削除, 316
 メッセージ表示フィルターの適用, 314
 メッセージ表示フィルターの編集, 315
 メッセージ表示フィルターの保存, 312
 環境
 オペレータ GUI のカスタマイズ, 168
 デフォルト設定のロード, 170 - 176
 関係
 共有, 348
 専有, 348
 簡単なメッセージ表示フィルター
 メッセージブラウザのカラム, 201
 管理者指定のデフォルト, 173 - 176
 関連したドキュメント
 PDF, 23
 印刷, 25
 オンライン, 27, 28 - 30

 き
 キーアクセラレータ, 433
 キーボードショートカット, 432
 起動
 アプリケーション, 154 - 155
 オブジェクトペイン, 257
 概要, 255

サービスから, 411
 メッセージブラウザ, 259
 メニューバー, 256
 オペレータ起動アクション, 151
 起動オプション、Java GUI, 607 - 609
 機能
 Java GUI, 34 - 36
 強制所有権モード, 147
 行全体のメッセージカラーの切り替え, 213
 共有、関係, 348

く

クイックフィルターの適用
 メッセージ表示フィルター, 304
 クイックフィルター、アクセス, 197
 クイック メッセージ表示フィルター
 メッセージブラウザのカラム, 200
 グラフ
 サービス, 373
 グラフィックユーザーインタフェース - 参照
 Java GUI
 [グループの変更] ダイアログボックス, 543
 グループ、メッセージフィルター, 109
 クローズ
 Java GUI, 438
 メッセージ, 163 - 167
 グローバルメッセージフィルター, 110

け

傾向グラフ
 概要, 140 - 141
 図
 時間外の重要度変更, 140
 ポップアップメニュー, 141
 計算
 ステータスルール, 356 - 358
 ゲージ、状態
 概要, 110
 結果、アクション, 149
 原因、サービスの障害, 407
 現況グラフ
 概要, 138
 図
 円グラフ, 139
 棒グラフ, 138
 [現在の表示間隔の入力] ダイアログボックス, 515
 [検索] ダイアログボックス

索引

- 項目, 525 - 528
- 図
 - 基本検索, 120
 - 詳細検索, 120
- こ
- コア機能
 - プロキシ設定, 339
- 更新
 - 現在のワークスペース, 64 - 67
- 構文
 - メッセージ表示フィルター, 205
- 個人用フィルター, 57
- コマンド
 - stderr, 149
 - stdout, 149
 - ブロードキャスト, 160 - 161
 - 手順, 263
- コンソール設定
 - カスタマイズ, 279
 - 保存, 177 - 179
- さ
- サーバー証明書, 115
- サービス
 - アクション, 409
 - アプリケーションを開始する, 411
 - 影響を受ける, 345 - 346
 - 影響を受けるサービスを識別する
 - 手順, 408
 - オンデマンドによるロード, 389 - 393
 - 下位サービスとの関係, 348
 - カスタムサービスマップ, 377
 - 強調表示する, 406
 - グラフ, 373
 - グラフとマップ, 373
 - サービスビューの検索, 404 - 405
 - サブマップ, 374 - 377
 - 拡張, 376
 - 重要度のステータス, 351 - 363
 - 障害, 426
 - 障害原因を識別するには, 407
 - 動的な更新, 379
 - 表示, 401
 - サービスに関連したメッセージ, 403
 - 詳細, 402
 - 複数ステータス計算
 - ビュー, 364 - 367
 - ラベル付け, 378 - 379
 - レポート, 394 - 395
 - ログ, 394 - 395
- サービス階層
 - 定義, 348 - 350
 - 例, 349
- サービスグラフ
 - ウォーターマーク
 - 設定, 368
 - 非表示, 369
 - 表示, 369
- サービスサブマップ
 - ウォーターマーク
 - 設定, 368
 - 非表示, 369
 - 表示, 369
- サービス時間, 79
- サービスに移動
 - ツールバー, 84
- サービスビュー
 - サービスの検索, 404 - 405
 - [サービスビュー] ダイアログボックス, 563
 - サービスビューでのサービス検索, 404 - 405
 - [サービスプロパティ] ダイアログボックス, 559 - 562
- サービスマップテーブルビュー, 34
- サービス名
 - 定義, 371
 - メッセージのマップ用, 370
- サービスワークスペース
 - 影響を受ける Service Navigator サービスの検索, 141
 - 概要, 62
 - サービスを表示する, 401
- 再表示周期
 - カスタマイズ, 278
 - 変更, 177
- 再表示周期、カスタマイズ, 113
- 再ロード
 - デフォルト設定, 277
 - フィルター処理済メッセージブラウザのレイアウト, 321
- 削除
 - ショートカットバーからショートカットグループを, 286, 287
 - ショートカットバーからショートカットを, 286
 - メッセージ表示フィルター, 316
 - ワークスペース, 289

作成

HPOM GUI 起動メッセージ, 94
 選択したメッセージの新しい履歴フィルター, 78

フィルター処理済メッセージブラウザ, 299
 ワークスペース, 288

サブマップ

サービス, 374 - 377

し

識別

影響を受けるサービス
 手順, 408

障害原因, 407

指示

アクセス, 254

読む, 153 - 154

下のメッセージバー, 108

失敗ポリシー, 123

自動アクション

確認, 150

[メッセージのプロパティ] ダイアログ
 ボックス, 250 - 251

メッセージブラウザ, 250

再実行, 150

トラブルシューティング, 423

自動アクションの再実行, 150

周期、再表示, 177

修復アクションワークスペース

アクション結果の評価, 149

説明, 63

重要度

メッセージダッシュボードでの表示, 137 - 141

手順, 243

メッセージの色付け, 127 - 129

メッセージフィルターグループ, 109

重要度ポリシー, 122

受諾

—参照 メッセージの受諾; メッセージ

HPOM, 167

確認, 167

管理者, 167

自動, 151

説明, 166

種類

メッセージ表示フィルター, 200

障害

HPOM 起動, 421

HTTPS ベース Java GUI の終了, 427

アクションの完了, 423

アプリケーションの起動, 422

解決, 145 - 162

HPOM, 247

Service Navigator, 398 - 399, 409 - 411

プロセス, 116 - 117

カラー表示, 424

検出, 118 - 129

HPOM, 226 - 237

Service Navigator, 400 - 405

サービスの定義, 426

識別

影響を受けるサービス, 408

原因, 407

調査, 130 - 144

HPOM, 238 - 246

Service Navigator, 406 - 408

ワークスペースペイン, 242 - 243

ワークスペースのアプレット, 425

障害原因、サービスの障害, 407

障害の解決

HPOM, 247

HPOM 変数の追加, 159

Service Navigator, 398 - 399, 409 - 411

アクション結果の評価, 149

アプリケーション, 154 - 156

オペレータ指示を読む, 153 - 154

概要, 145 - 162

確認

オペレータ起動アクション, 151 - 152

自動アクション, 150 - 151

ターミナルアクセス, 162

ブロードキャストコマンド, 160 - 161

プロセス, 116 - 117

メッセージの所有, 147 - 148

障害の検出

HPOM のモニター, 119

Service Navigator, 400 - 405

オブジェクトツリーの検索, 120

概要, 118 - 129

メッセージ

イベント通知, 121

重要度による色付け, 127 - 129

メッセージの効果的なブラウズ, 122 - 126

メッセージブラウザにメッセージを表示する, 121

障害の調査

索引

- HPOM, 238 - 246
- Service Navigator, 406 - 408
 - アプリケーションへのアクセス, 141
 - 影響を受ける Service Navigator サービスの検索, 141
 - オリジナルメッセージテキストの確認, 134
 - 概要, 130 - 144
 - 表示
 - カスタムメッセージ属性, 135
 - メッセージの重要度, 137 - 141
 - ペンディングメッセージブラウザ, 144
 - 手順, 245
 - メッセージ
 - 重要度, 243
 - ブラウザ, 131
 - 履歴, 142 - 143
 - メッセージ属性の調査, 132
 - メッセージ属性の変更, 133
 - 履歴メッセージブラウザ, 244 - 245
 - ワークスペースペイン, 137
 - 詳細なメッセージ表示フィルター
 - メッセージブラウザのカラム, 204
 - 詳細なメッセージフィルターの指定, 245
 - 症状の分析, 418
 - 症状、分析, 418
 - 状態ゲージ
 - 概要, 110
 - 情報所有権モード, 148
 - 情報メッセージの送信
 - Java GUI
 - HPOM, 273
 - 証明書、サーバー, 115
 - [ショートカットの変更] ダイアログボックス, 545
 - ショートカットバー
 - 移動, 182
 - 手順, 283
 - 概要, 45 - 47
 - カスタマイズ, 186
 - アイコンサイズ, 287
 - 手順, 284 - 287
 - 削除
 - ショートカット, 286
 - ショートカットグループ, 286, 287
 - ショートカットの変更, 285
 - ☒
 - 非表示, 184
 - 表示, 183
 - ポップアップメニュー, 87
 - メインウィンドウ, 45
 - 追加
 - オブジェクトペイン項目, 284
 - ショートカットグループ, 286
 - 新規ショートカット, 284
 - 非表示, 183
 - 手順, 283
 - 表示, 183
 - 手順, 283
 - ポップアップメニュー, 87
 - URL ショートカット, 473
 - サービス, 470 - 471
 - ショートカットグループメニュー, 468
 - ノードグループ, 469
 - フィルター設定, 472 - 473
 - メニュー項目, 466 - 473
 - ショートカット、HPOM システム管理者が割り当て, 174
 - ショートカット、キーボード, 432

所有権

 - 表示モード, 148
 - メッセージ, 147 - 148
 - モード, 147 - 148

所有権ポリシー, 123

[新規 URL ショートカットの追加] ダイアログボックス, 509

[新規グループの追加] ダイアログボックス, 508

新機能

 - Java GUI, 34 - 36
 - 診断ダッシュボードワークスペース
 - アプリケーションのモニター, 243
 - アプリケーションへのアクセス, 141
 - 概要, 62
 - 進捗状況ダイアログボックス
 - カスタマイズ, 180

す

☒

 - Cockpit View, 107
 - イメージ, 111
 - カスタムメッセージの値パターンフィルター, 194
 - 状態ゲージ
 - 表示, 110
 - フリーテキスト領域, 111
 - メッセージフィルター, 108
 - メッセージフィルターグループ, 109

[ズーム間隔の入力] ダイアログボックス,
517

ステータス

サービス, 351 - 363

メッセージフィルター, 107

メッセージフィルターグループ, 109

ルール

計算, 356 - 358

伝達, 353 - 355

ステータス計算のしきい値, 356

「ステータス伝達なし」表示モード, 148

「ステータス伝達」表示モード, 148

ステータスバー

概要, 82

図, 82

せ

セキュアな Java GUI

アーキテクチャ, 219

コア機能のインストール, 329

証明書, 223

準備, 331

セキュアな通信の確立, 220

設定, 326 - 339

ito_op によるプロキシ, 336

itoprc ファイルによるプロキシ, 336

Java GUI アプレット用のプロキシ, 338

クライアント上のセキュアな通信, 327

コア機能によるプロキシ, 339

ファイアウォールを経由するセキュアな通
信, 334

[ログイン] ダイアログボックスによるプ
ロキシ, 337

使う, 218 - 223

トラブルシューティング, 427

認証プロセス, 221

セキュリティプロセス, 115

設定

HTTPS ベース Java GUI, 326 - 339

ito_op によるプロキシ, 336

Java GUI アプレット用のプロキシ, 338

クライアント上のセキュアな通信, 327

コア機能によるプロキシ, 339

ファイアウォールを経由するセキュアな通
信, 334

プロキシ itoprc ファイル, 336

[ログイン] ダイアログボックスによるプ
ロキシ, 337

Java GUI のメッセージフィルター, 192 -
194

ウォーターマーク, 368

再ロード, 277

自動受諾, 151

デフォルトのロード, 170 - 176

手順, 277

ファイアウォール, 115

フィルター処理済メッセージブラウザ, 192
- 194

複数ステータス計算ビュー, 366

プロキシサーバー, 115

メッセージイベント通知, 293

設定、コンソール, 177 - 179

専有の関係, 348

そ

操作

ドラッグアンドドロップ, 95 - 105

ドラッグ、標準, 96

送信

メッセージブラウザのメッセージ, 240

属性

アプリケーションのカスタマイズ, 260 -
263

カスタムメッセージ

概要, 135

表示, 136

メッセージ, 574 - 582

調査, 132

変更, 133, 242

メッセージブラウザカラム, 321

た

ターゲットとドロップ関連のアクション, 97
- 101

ターミナルアクセス, 162

ダイアログボックス

URL ショートカットの変更, 546

Web ブラウザのプロパティ, 566

ウォーターマークの詳細設定, 564

オペレータのパスワードの変更, 512

グループの変更, 543

現在の表示間隔の入力, 515

検索, 525 - 528

サービスビュー, 563

サービスプロパティ, 559 - 562

種類, 504 - 568

索引

ショートカットの変更, 545
新規 URL ショートカットの追加, 509
新規グループの追加, 508
ズーム間隔の入力, 517
注釈の追加, 508
注釈の変更, 542
データ保存期間, 517
日付および時刻, 515
表示設定, 547 - 554
[ブラウザ設定] ダイアログボックス, 511
ブラウザ設定の名称変更, 555
ブラウザのフィルター設定の保存, 556, 557
ブラウザペインのタブプロパティ, 510
フラグ, 529
メッセージ属性の変更, 543
メッセージのフィルター処理, 518 - 524
メッセージのプロパティ, 531 - 537
メッセージ表示フィルター, 538 - 542
メッセージ表示フィルターの保存, 556 - 557
メッセージ表示フィルターの名称変更, 555
メッセージ表示フィルターのロード, 530
メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ, 513 - 515
ワークスペースのプロパティ, 567
タグ
重み, 358 - 363
タブ、ブラウザペインへの追加, 213

ち

チャート
現況, 138
履歴, 140 - 141
注釈
概要, 163 - 165
確認, 149 - 151, 165
[注釈の追加] ダイアログボックス, 508
[注釈の変更] ダイアログボックス, 542
調整
メッセージブラウザのカラムの内容, 321

つ

ツアー、Java GUI, 42 - 44
追加
HPOM 変数, 159
オブジェクトペイン項目をショートカット
バーに, 284

ショートカットバーにショートカットグルー
プを, 286
ショートカットをショートカットバーに,
284
タブをブラウザペインに, 213
注釈, 164
通信ステータスのダイアログボックス
表示 / 非表示, 295
通知、メッセージイベント, 121
ツール
listguis, 36
ツールバー
アイコン, 459 - 463
概要, 84
カスタマイズ, 187, 292
コンポーネント, 84
サービスに移動, 84
図, 84
ポップアップメニュー
メニュー項目, 465
ツールバー、カスタマイズ, 113

て

[データ保存期間の入力] ダイアログボックス
, 517
テキスト、オリジナルメッセージの確認, 134
テキスト、フリー, 111
適用
メッセージ表示フィルター, 314
デフォルト
HPOM で指定した, 171
指定した
管理者, 173 - 176
設定のロード, 170 - 176
デフォルト設定のロード, 170 - 176, 277
伝達
ステータスルール, 353 - 355

と

統合 Web ブラウザ - 参照 Web ブラウザ
ドキュメントの表記法, 21
ドキュメント、関連した
Java GUI, 29 - 30
PDF, 23
印刷, 25
オンライン, 27, 28 - 30
ドラッグアンドドロップ
Java GUI, 95 - 101

他のアプリケーション, 102
 操作, 95 - 105
 ドラッグモード, 103 - 105
 トラブルシューティング
 HTTPS ベース Java GUI, 427
 アクションが完了しない, 423
 一般的な, 416 - 419
 カラー表示されない, 424
 起動障害
 HPOM, 421
 アプリケーション, 422
 具体的な, 420 - 427
 サービスの障害, 426
 ワークスペースでの障害, 425
 取り付け
 ウィンドウ, 296
 ウィンドウ、概要, 92
 取り外し
 ウィンドウ, 296
 ウィンドウ、概要, 92

な

名前
 状態ゲージ, 110
 メッセージフィルター, 108
 メッセージフィルターグループ, 109
 名前付きメッセージ表示フィルター, 211
 名前付きメッセージフィルター, 110

に

任意所有権モード, 147
 認証プロセス, 115

の

ノードフォルダー
 概要, 50 - 51
 カラー, 51
 グループ, 50
 図, 50
 レイアウトグループ, 50

は

背景カラー
 状態ゲージ, 110
 メッセージフィルター, 108
 メッセージフィルターグループ, 109
 パスワード

変更, 169
 手順, 276

ひ

[日付および時刻] ダイアログボックス
 項目, 515
 非表示
 ウォーターマーク, 369
 オブジェクトペイン, 283
 ショートカットバー, 283
 水平スクロールバー, 296
 通信ステータスのダイアログボックス, 295
 ブラウザステータスの概要, 296
 ペインとエリア, 183 - 185
 ポジションコントロール, 181, 283
 メッセージブラウザのカラム, 215
 ビュー
 複数ステータス計算, 364 - 367
 設定, 366
 表記法、ドキュメント, 21
 表示
 ウォーターマーク, 369
 影響を受けるサービス, 346
 オブジェクトペイン, 283
 オペレータに割り当てられたアプリケーション, 254 - 255
 カスタムサービスマップ, 372
 サービス, 401
 関連したメッセージ, 403
 詳細, 402
 サービスサブマップ, 372
 障害原因, 346 - 347
 ショートカットバー, 283
 水平スクロールバー, 296
 通信ステータスのダイアログボックス, 295
 ブラウザステータスの概要, 296
 ペインとエリア, 183 - 185
 ポジションコントロール, 181, 283
 メッセージ
 アクティブメッセージ, 233
 概要, 231
 最近のメッセージだけ, 323
 すべてのアクティブメッセージ, 232
 すべてのメッセージ, 323
 選択したメッセージ, 232
 古いメッセージ, 234
 ペンディングメッセージ, 236
 メッセージブラウザに, 121

索引

- 履歴メッセージ, 233
- メッセージイベント通知, 230
- メッセージダッシュボードでのメッセージの重要度
 - 概要, 137 - 141
 - 手順, 243
- メッセージノード
 - 自動, 228
 - 手動で, 227
- メッセージの詳細情報, 241
- メッセージブラウザのカラム, 215
- メッセージブラウザのメッセージ, 240
- [表示設定] ダイアログボックス
- itoopec ファイル, 611 - 618
- [Web ブラウザ] タブ, 550
- [一般] タブ, 548 - 549
- [イベント] タブ, 551
- 項目, 547 - 554
- [サービス] タブ, 552 - 554
- 図
 - [Web ブラウザ] タブ, 80
 - [一般] タブ, 188
 - [イベント] タブ, 190
- 表示設定、メッセージブラウザでの色のカスタマイズ, 325
- [表示] メニュー, 440 - 446
- 表示モード、所有権, 148
- ふ
- ファイアウォール、設定, 115
- ファイル
 - HP_OV_consoleSettings, 179
 - itoopec, 611 - 618
- [ファイル] メニュー, 436 - 438
- フィールド、メッセージ, 576 - 580
- フィルター
 - メッセージフィルター, 107
 - メッセージフィルターグループ, 109
- フィルター処理
 - メッセージ, 73
 - メッセージ表示フィルター
 - 演算子, 208
 - 簡単なフィルター, 201
 - 簡単なフィルターの作成, 305
 - クイックフィルター, 200
 - クイックフィルターの適用, 304
 - 構文, 205
 - 種類, 200
 - 詳細なフィルター, 204
 - 詳細なフィルターの作成, 307
 - 定義済みの値, 209
 - テキスト表示タブでの作成, 310
 - 名前付きフィルター, 211
 - フィルターの削除, 316
 - フィルターの適用, 314
 - フィルターの編集, 315
 - フィルターの保存, 312
 - フィルターのロード, 315
 - ルール, 198
 - 例, 198
- フィルター処理済メッセージブラウザ
 - 参照 アクティブメッセージブラウザ; 履歴メッセージブラウザ; メッセージブラウザ; ペンディングメッセージブラウザ
- アクセス, 301
- アクティブ
 - 概要, 75 - 76
 - 図, 76
 - メッセージの表示, 233
- 移動, 303
- 現在の表示変更, 245
- 作成, 299
- 詳細フィルターの指定, 245
- 設定, 192 - 194
- 設定の保存, 195 - 196
 - 手順, 300 - 301
- 古い
 - メッセージの表示, 234
- ペンディング
 - 概要, 79
 - 障害の調査, 144
 - メッセージの表示, 236
- 履歴
 - 概要, 77
 - 障害の調査, 142 - 143
 - 図, 77
 - メッセージの表示, 233
- レイアウトの再ロード, 321
- [フィルター設定] フォルダー
 - 概要, 55 - 57
 - 図, 55
- 複数ステータス計算
 - ビュー, 364 - 367
 - 設定, 366
- [ブラウザ設定] ダイアログボックス
 - 項目, 511
 - 図, 196

- [ブラウザ設定の名称変更] ダイアログボックス, 555
- [ブラウザのカラムのカスタマイズ] ダイアログボックス
 - ☒
 - [一般] タブ, 125
 - [カスタム] タブ, 126
- [ブラウザのフィルター設定の保存] ダイアログボックス
 - 項目, 556
 - ☒, 196
- ブラウザペイン
 - 概要, 68 - 79
 - ☒
 - 非表示, 185
 - ポップアップメニュー, 91
 - メインウィンドウ, 68
 - メッセージブラウザ, 69
 - タブの追加, 213
 - 非表示, 185
 - ポップアップメニュー, 91
 - グラフ, 502 - 503
 - タブ, 494
 - ヘッダーメニュー, 36, 499 - 501
 - メッセージブラウザ, 495 - 498
 - メニュー項目, 493 - 503
- [ブラウザペインのタブプロパティ] ダイアログボックス, 510
- ブラウザ、Web
 - Cockpit View の起動
 - 詳細, 112
 - サポートした, 112
- [フラグ] ダイアログボックス
 - 項目, 529
- フラグ、メッセージ, 581 - 582
- フリーテキスト
 - 領域, 111
- 古いメッセージのブラウザ
 - メッセージの表示, 234
- ブロードキャストアプリケーション, 149
- ブロードキャストコマンド
 - 概要, 160 - 161
 - 手順, 263
- プロキシサーバー、設定, 115
- プロキシ設定
 - HTTPS ベース Java GUI
 - ito_op 起動スクリプト内, 336
 - itoopec ファイル内, 336
 - Java GUI アプレット用, 338
 - コア機能付き, 339
 - [ログイン] ダイアログボックス内, 337
 - プロシージャポリシー, 123
 - プロセス、セキュリティ, 115
 - 分析
 - 影響を受けるサービス, 345 - 346
 - 障害原因, 346 - 347
- へ
- ペインとエリア
 - 移動, 182
 - 表示と非表示, 183 - 185
- ヘッダー、メッセージブラウザ
 - 項目, 572 - 573
 - ☒, 71
- [ヘルプ] メニュー, 458
- 変更
 - Java GUI のルック & フィール, 179
 - オペレータのパスワード
 - 概要, 169
 - 手順, 276
 - 再表示周期, 177
 - ショートカットバーのショートカット, 285
 - 統合 Web ブラウザ, 289 - 290, 289 - 290
 - フィルター処理済メッセージブラウザ内の現在表示, 245
 - メッセージ属性, 242
 - メッセージ表示フィルター, 315
 - メッセージブラウザ内のメッセージ数, 323 - 324
 - メッセージブラウザの属性カラム, 321
 - メッセージブラウザのレイアウト, 321
 - ワークスペース, 288
- [編集] メニュー, 439
- 変数
 - HPOM の追加, 159
 - 概要, 583 - 599
 - 標準, 583
 - メッセージ関連, 587 - 599
- ペンディングメッセージのバッファ解除, 79
 - 手順, 249
- ペンディングメッセージブラウザ
 - －参照 アクティブメッセージブラウザ; フィルター処理済メッセージブラウザ; 履歴メッセージブラウザ; メッセージブラウザ
 - 概要, 79

索引

障害の調査, 144
メッセージのバッファ解除, 79
手順, 249
メッセージの表示, 236

ほ

ポジションコントロール
概要, 85
図
表示, 181
メインウィンドウ, 85
非表示, 181
手順, 283
表示, 181
手順, 283
保存
カスタマイズしたメッセージブラウザレイアウト, 216
コンソール設定
概要, 177 - 179
図, 177
物理レイアウト
フィルター処理していないメッセージブラウザ, 318
フィルター処理済メッセージブラウザ, 319
ブラウザのフィルター設定, 300 - 301
メッセージ表示フィルター, 312
メッセージブラウザフィルター
オブジェクトペイン, 197
設定, 195 - 196
メッセージブラウザレイアウト, 318 - 321
メッセージ表示フィルター, 211
ポップアップメニュー
オブジェクトペイン, 88
URL ショートカット, 484
アプリケーション, 478
項目, 475
サービス, 479 - 480
ノードグループ, 477
フィルター設定, 481
メッセージグループ, 478
メニュー項目, 474 - 484
階層レベルの展開表示, 391 - 393
概要, 86 - 91
カスタマイズ, 187 - 189
種類, 464 - 503
ショートカットバー, 87

URL ショートカット, 473
サービス, 470 - 471
ショートカットグループメニュー, 468
ノードグループ, 469
フィルター設定, 472 - 473
メニュー項目, 466 - 473
ツールバー
メニュー項目, 465
表示 / 非表示, 290
ブラウザペイン, 91
グラフ, 502 - 503
タブ, 494
ヘッダーメニュー, 36, 499 - 501
メッセージブラウザ, 495 - 498
メニュー項目, 493 - 503
ワークスペースペイン, 89
URL, 492
グラフ, 487 - 488
項目, 486
サービス, 489 - 491
メニュー項目, 485 - 492
ポップアップメニューによる階層レベルの展開表示, 391 - 393
ポップアップメニューを使用可能にする, 290
ポップアップメニューを使用不可にする, 290
ポリシー
メッセージ, 122

ま

マップ
メッセージをサービスに, 370

め

メッセージ
新しい履歴フィルターの作成, 78
印刷, 165, 267
エラーメッセージのチェック, 417
概要, 72 - 73
確認
オリジナルテキスト, 134
詳細, 72 - 73
数を変更, 324
カラー
概要, 71
切り替え, 213
説明, 575
カラムのカスタマイズ, 124
クローズ, 163 - 167

- 検索, 122
- 効果的なブラウズ, 122 - 126
- 重要度
 - 色付け, 127 - 129
 - メッセージダッシュボードでの表示, 137 - 141
- 受諾
 - 概要, 166 - 167, 270 - 272
 - 現在表示しているすべてのメッセージ, 271
 - 自動, 151
 - 選択したメッセージ, 271
- 受諾解除, 272
- 詳細, 132
- 所有, 147 - 148, 248
- 所有解除, 248
- ソート, 321
- 属性, 574 - 582
- 属性の調査, 132
- 属性の変更, 133, 242
- 注釈付け, 163 - 165
 - 手順, 265
- 調査
 - ペンディングメッセージ, 144
 - メッセージ履歴, 142 - 143
- デフォルト数の制限, 75
- ハイパーリンク, 35
- バッファ解除, 79
 - 手順, 249
- 表示
 - アクティブメッセージ, 233
 - 概要, 231
 - サービスに関連したメッセージ, 403
 - すべてのアクティブメッセージ, 232
 - 選択したメッセージ, 232
 - 古いメッセージ, 234
 - ペンディングメッセージ, 236
 - メッセージブラウザに, 121
 - 履歴メッセージ, 233
 - フィールド, 576 - 580
 - フラグ, 581 - 582
 - ポリシー, 122 - 126
 - メッセージブラウザから送信する, 240
 - メッセージブラウザに表示, 240
- メッセージイベント通知
 - 概要, 121
 - カスタマイズ, 190
 - 設定, 293
 - 表示, 230
- メッセージイベントの警告, 121
- メッセージグループフォルダー
 - 色, 53
 - 概要, 52 - 53
 - 構成, 53
 - 図, 52
- メッセージグループフォルダーの構成, 53
- メッセージ詳細、印刷, 268
- [メッセージ属性の変更] ダイアログボックス
 - 項目, 543
 - 図, 133
- メッセージダッシュボードワークスペース
 - 概要, 61
 - 傾向グラフ, 140 - 141
 - 現況グラフ, 138
 - メッセージの重要度表示, 137 - 141
 - 手順, 243
- メッセージノード、表示
 - 自動, 228
 - 手動で, 227
- メッセージの検索, 122
- メッセージの効果的なブラウズ, 122 - 126
- メッセージ
 - メッセージの受諾
 - 概要, 270 - 272
 - 現在表示しているすべてのメッセージ, 271
 - 選択したメッセージ, 271
 - メッセージの受諾解除, 272
 - メッセージの詳細情報、表示, 241
 - メッセージの所有, 248
 - メッセージの所有解除, 248
 - メッセージのソート, 321
 - メッセージの注釈付け, 265
- [メッセージのフィルター処理] ダイアログボックス
 - 項目, 518 - 524
 - 図, 143
- [メッセージのプロパティ] ダイアログボックス
 - アクションの確認
 - オペレータ起動, 253 - 254
 - 自動, 250 - 251
 - 項目, 531 - 537
- [メッセージのプロパティ] ダイアログボックス
 - 図
 - [一般] タブ, 73
 - [オリジナルメッセージ] タブ, 134
 - [カスタム属性] タブ, 136

索引

- [指示] タブ, 153
- [注釈] タブ, 164
- メッセージのマップ, 370
 - 管理サーバーでの, 370 - 371
 - 管理対象ノードでの, 370 - 371
- メッセージの受諾
 - 参照受諾
- メッセージ表示フィルター
 - 簡単なフィルター, 201
 - 簡単なフィルターの作成, 305
 - クイックフィルター, 200
 - クイックフィルターの適用, 304
 - 構文, 205
 - 種類, 200
 - 詳細なフィルター, 204
 - 詳細なフィルターの作成, 307
 - 使用方法, 303
 - 設定, 198
 - 定義済みの値, 209
 - テキスト表示タブでの作成, 310
 - 名前付きフィルター, 211
 - フィルターの演算子, 208
 - フィルターの削除, 316
 - フィルターの適用, 314
 - フィルターの編集, 315
 - フィルターの保存, 312
 - ルール, 198
 - 例, 198
- [メッセージ表示フィルター] ダイアログボックス
 - 項目, 538 - 542
- [メッセージ表示フィルター] ダイアログボックス、[簡単な表示] タブ
 - 図, 203
- [メッセージ表示フィルター] ダイアログボックス、[詳細な表示] タブ
 - 図, 205
- [メッセージ表示フィルターの保存] ダイアログボックス
 - 項目, 556 - 557
- [メッセージ表示フィルターの名称変更] ダイアログボックス
 - 項目, 555
- [メッセージ表示フィルターのロード] ダイアログボックス
 - 項目, 530
- メッセージ表示、カスタマイズ, 113
- メッセージフィルター
 - インジケータパネル, 106
 - 概要, 107
 - 要件, 109
- メッセージフィルターグループ
 - インジケータパネル, 106
- 説明, 109
- [メッセージフィルター] ダイアログボックス, 193
- メッセージフィルターの表示
 - 状態ゲージ, 110
 - ステータス, 107
- メッセージフィルターブラウザ, 34
- メッセージブラウザ
 - 参照 アクティブメッセージブラウザ;
フィルター処理済メッセージブラウザ;
履歴メッセージブラウザ; ペンディング
メッセージブラウザ
 - アプリケーションの起動, 259
 - 色の表示設定のカスタマイズ, 325
 - 概要, 70 - 71
 - 確認
 - オペレータ起動アクション, 252
 - 自動アクション, 250
 - カラムのカスタマイズ
 - 物理レイアウト, 213
 - メッセージ属性, 124
 - カラムの非表示, 215
 - カラムの表示, 215
 - 行全体のカラーの切り替え, 213
 - クイックフィルターにアクセス, 197
 - 効果的なブラウズ, 122 - 126
 - 障害の調査, 131, 238
- 図
 - カスタムメッセージ属性, 136
 - ブラウザペイン, 69
 - ワークスペースペイン, 69
- 水平スクロールバーの非表示, 296
- 水平スクロールバーの表示, 296
- ステータスの概要の非表示, 296
- ステータスの概要の表示, 296
- 送信
 - メッセージ, 240
- 取り付け, 296
- 取り外し, 296
- 表示
 - カスタムメッセージ属性, 136
 - 詳細情報, 241
 - 選択したメッセージ, 232
 - メッセージ, 121, 240
- フィルターの再利用, 195 - 196

- フィルターの設定
 - アクティブ, 75 - 76
 - 概要, 192 - 194
 - ペンディング, 79
 - 履歴, 77
- ヘッダー要素, 572 - 573
- 変更
 - 表示するメッセージ数, 323 - 324
 - レイアウト, 321
- 保存
 - オブジェクトペインのフィルター, 197
 - カスタマイズしたレイアウト, 216
 - 物理レイアウト, 318 - 321
- メッセージ表示フィルター
 - 簡単なフィルターの作成, 305
 - クイックフィルターの適用, 304
 - 削除, 316
 - 詳細なフィルターの作成, 307
 - テキスト表示タブでの作成, 310
 - 適用, 314
 - 変更, 315
 - 保存, 312
 - ロード, 315
- メッセージブラウザカラムの順序変更, 321
- [メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ]ダイアログボックス
 - 項目, 513 - 515
- メッセージ履歴、調査, 244 - 245
- メニュー項目
 - ポップアップメニュー
 - オブジェクトペイン, 474 - 484
 - 概要, 464 - 503
 - ショートカットバー, 466 - 473
 - ツールバー, 465
 - ブラウザペイン, 493 - 503
 - ワークスペースペイン, 485 - 492
 - メニューバー
 - [アクション]メニュー, 446 - 456
 - [ウィンドウ]メニュー, 457
 - 概要, 435 - 458
 - [表示]メニュー, 440 - 446
 - [ファイル]メニュー, 436 - 438
 - [ヘルプ]メニュー, 458
 - [編集]メニュー, 439
- メニューバー
 - アプリケーションの起動, 256
 - 概要, 83
 - 図, 83
 - メニュー項目
 - [アクション]メニュー, 446 - 456
 - [ウィンドウ]メニュー, 457
 - 概要, 435 - 458
 - [表示]メニュー, 440 - 446
 - [ファイル]メニュー, 436 - 438
 - [ヘルプ]メニュー, 458
 - [編集]メニュー, 439
 - メニューバー、カスタマイズ, 113
- も
- モード
 - 所有権, 147 - 148
 - 所有権表示, 148
 - ドラッグ, 103 - 105
 - 特殊, 103 - 105
- モニター
 - HPOM, 227 - 230
 - アプリケーション, 243
 - 環境, 119
- ゆ
- ユーザーインタフェース—参照 Java GUI; Web ベースインタフェース
- よ
- 要件
 - メッセージフィルター, 109
- ら
- ラベル
 - サービス, 378 - 379
 - 状態ゲージ, 110
 - メッセージフィルター, 108
 - メッセージフィルターグループ, 109
 - ラベル、メッセージフィルター, 110
- り
- 領域、フリーテキスト, 111
- 履歴データベースにすばやくアクセス, 244
- 履歴メッセージブラウザ
 - 参照 アクティブメッセージブラウザ; フィルター処理済メッセージブラウザ; メッセージブラウザ; ペンディングメッセージブラウザ
 - 概要, 77
 - 障害の調査, 142 - 143
 - メッセージの表示, 233

索引

履歴メッセージ、フィルターの表示, 109

る

ルール

メッセージ表示フィルター, 198

れ

例

計算, 357

サービス階層, 349

メッセージ表示フィルター, 198

レイアウト、メッセージブラウザの保存, 318
- 321

レポート

HP Reporter, 343, 394 - 395

ろ

ロード

メッセージ表示フィルター, 315

ログ

サービス, 394 - 395

[ログイン]ダイアログボックス, 115

プロキシ設定, 337

わ

[ワークスペースのプロパティ]ダイアログ
ボックス

項目, 567

図, 81

ワークスペースペイン

アクション結果の評価, 149

アプリケーションへのアクセス, 141

アプレットの障害, 425

移動, 283

影響を受ける Service Navigator サービスの
検索, 141

概要, 59 - 67

カスタマイズ, 287 - 289

サービスを表示する, 401

障害の調査, 137, 242 - 243

図

移動(後), 182

移動(前), 182

グラフとチャート, 61

タブ上のポップアップメニュー, 89

ペインのポップアップメニュー, 90

メインウィンドウ, 59

メッセージブラウザ, 69

ポップアップメニュー, 89

URL, 492

グラフ, 487 - 488

項目, 486

サービス, 489 - 491

メニュー項目, 485 - 492

ワークスペース

オンラインヘルプ, 64

現在の~の更新, 64 - 67

サービス, 62

修復アクション, 63

診断ダッシュボード, 62

メッセージダッシュボード, 61

ワークスペースの削除, 289

ワークスペースの作成, 288

ワークスペースの変更, 288

ワークスペース、HPOM システム管理者が割
り当て, 175